中小河川大束川改修事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

川津一ノ又遺跡

1997. 3

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター

正誤表

	誤	正
序文　4行	埋文化財調査事業	埋蔵文化財調査事業
53頁　20行	287は土師質　　である。	287は土師質土釜である。
66頁　27行	466～468は流文岩製で,	466～468は流紋岩製で,
134頁　12行	1544・1445・1547～1551は	1544・1545・1547～1551は
198頁　13行	土坑２基，土壙墓３基，	土坑３基，土壙墓３基，
198頁　26行	竪穴住居１棟，溝５条	竪穴住居１棟，土坑１基，溝３条
報告書抄録 調査期間	1991.8.19～199.9.4	1991.8.19～1991.9.4

中小河川大束川改修事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

川津一ノ又遺跡

1997. 3

香　川　県　教　育　委　員　会
財団法人 香川県埋蔵文化財調査センター

(1) 調査区遠景（青ノ山山頂より）

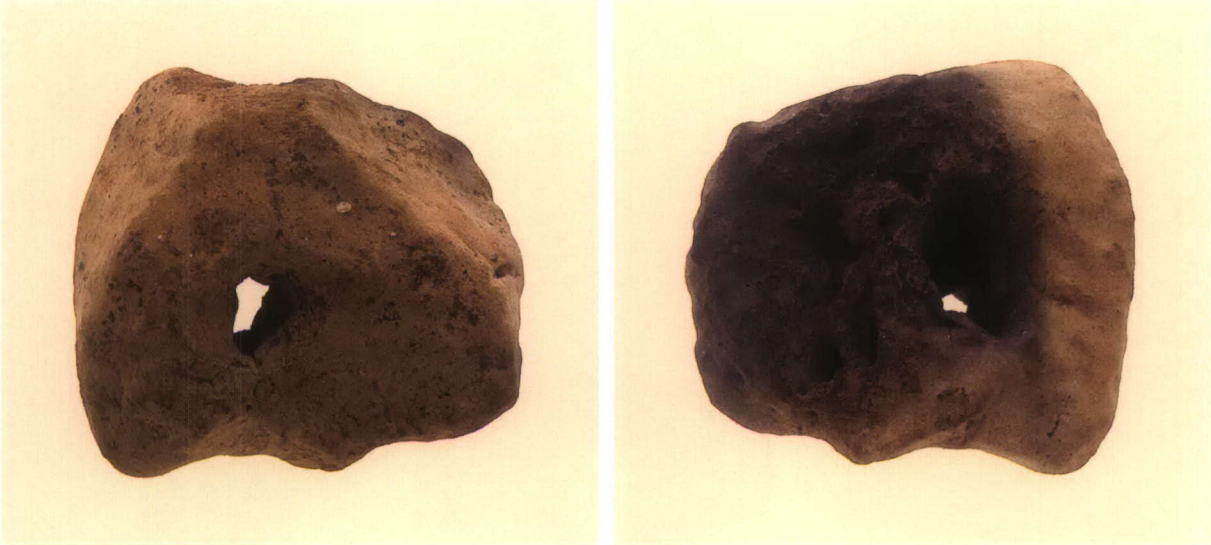
(2) 調査区遠景（東空中より）

巻頭図版2

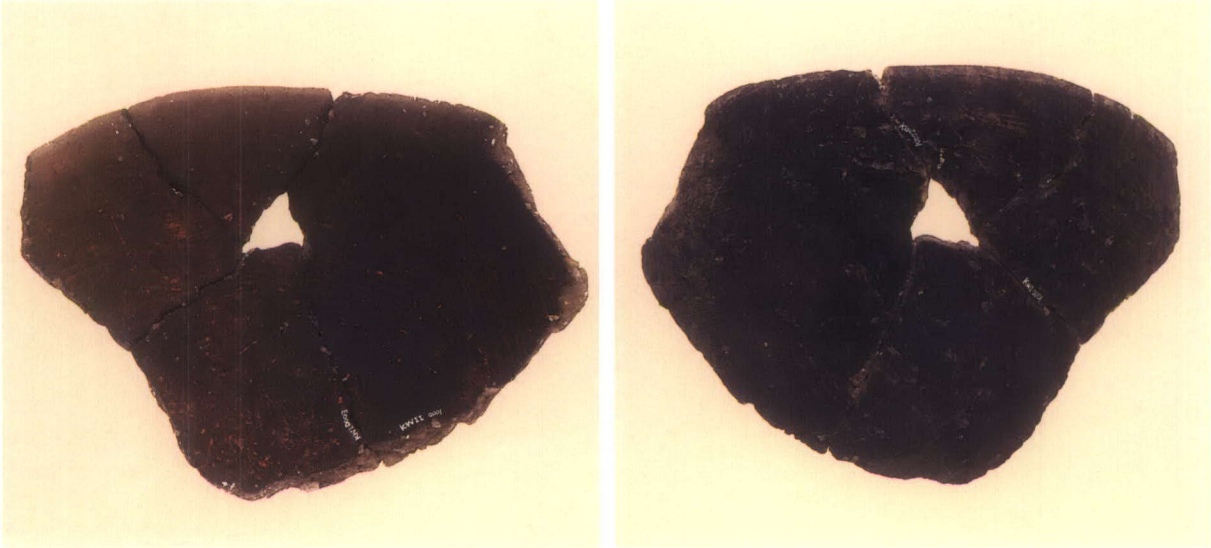
(1) 調査区北部遺構検出状況（南より）

(2) ＳＨ04平面検出状況（南より）

(1) ＳＤ21出土把手状粘土塊



(2) ＳＤ24出土粘土塊



(3) 南部自然河道出土鉢

巻頭図版4

(1) ＳＤ15出土土器

(2) ＳＤ11出土土器

序　　文

香川県教育委員会では，四国横断自動車道や国道高松東道路の建設，高松空港跡地の整備など，大規模開発に伴う埋文化財調査事業を財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施いたしております。

このたび，「大束川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川津一ノ又遺跡」として刊行いたしますのは，丸亀平野東部を流れる大束川の改修に伴い，平成4年度に調査した坂出市川津町の川津一ノ又遺跡についてであります。

この遺跡の調査では，弥生時代から中世にかけて，多くの遺構・遺物が出土しております。なかでも古代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡が確認でき，また日常生活に欠くことのできない土器が大量に出土したことにより，当時の生活・文化を理解することができました。

本報告書が，本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに，埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが，発掘調査から出土品の整理・報告書の刊行に至るまでの間，香川県土木部河川課及び地元関係各位には多大な御指導と御協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに，今後ともよろしく御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成9年3月

香川県教育委員会

教育長　田中　壮一郎

例　　言

1．本報告書は大束川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業報告書で，香川県坂出市川津町一ノ又5254－1番地外に所在する川津一ノ又遺跡（かわついちのまたいせき）の報告を収録した。

2．発掘調査は，香川県教育委員会が香川県土木部河川課からの依頼を受け，香川県教育委員会が調査主体となり，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査は，調査対象面積（2850m²）の試掘調査を平成3年3月25・26日に実施した。
本調査は四国横断自動車道建設工事区域と接する部分（310m²）を平成3年8月19日から9月4日に，その他（2540m²）を平成4年4月1日から9月30日まで実施した。
発掘調査の担当は以下のとおりである。
（試掘調査及び一部本調査　文化行政課　岩橋　孝）
本調査　片桐孝浩・清水　渉・森澤千尋

4．調査にあたっては，次の機関や方々の協力を得た。記して謝辞を表したい。
（順不同，敬称略）
香川県土木部河川課，坂出土木事務所，川津連合自治会（西又自治会），西又水利組合，矢野幸平

5．報告書の作成は，財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施した。
本報告書の執筆は第1章第1節を廣瀬が担当し，それ以外を片桐が担当した。また，編集は片桐が担当した。

6．報告書の作成にあたっては，下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。
（順不同，敬称略）
奈良国立文化財研究所　工楽善通，西口壽生
奈良県立橿原考古学研究所　河上邦彦，中井一夫，今津節生
奈良県立橿原考古学研究所付属博物館　久野邦雄，近江俊秀
シルクロード学研究センター　寺沢薫
田原本町教育委員会　藤田三郎
財団法人大阪府文化財調査研究センター　三好孝一

7．本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
(1)　挿図の縮尺は，掲載の図面内にスケールで示した。
(2)　方位は，国土座標第Ⅳ座標系の北を示す。
(3)　水平基準線の数値は，海抜高を示している。

8．本書に用いている遺構記号は次のとおりである。

ＳＡ…柵列　ＳＢ…掘立柱建物　ＳＤ…溝　ＳＨ…竪穴住居
ＳＫ…土坑　ＳＴ…土壙墓　ＳＰ…柱穴　ＳＸ…不明遺構

9．挿図の一部は，国土地理院地形図　丸亀（１／25,000）を使用した。

目　　次

第１章　調査の経緯
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過 …… 1

第２章　立地と環境
　第１節　地理的環境 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5

第３章　調査の成果
　第１節　調査の概要 …… 8
　第２節　土　層　序 …… 11
　第３節　遺構・遺物 …… 12
　　１．竪穴住居 …… 12
　　２．掘立柱建物 …… 20
　　３．土　　坑 …… 34
　　４．土壙墓・土器棺墓 …… 47
　　５．溝状遺構 …… 52
　　６．不明遺構 …… 141
　　７．畦畔状遺構 …… 152
　　８．自然河道 …… 155
　　９．柱穴出土遺物 …… 166
　　10．包含層出土遺物 …… 183
　第４節　まとめ …… 192
　　１．遺構の変遷について …… 192
　　２．弥生時代中期中葉の土器について …… 198
　　３．ＳＤ24出土の粘土塊について …… 202
　　４．赤色顔料付着土器について …… 203

挿図目次

第 1 図　川津一ノ又遺跡地区割図 …… 2
第 2 図　遺跡位置図 …… 5
第 3 図　周辺遺跡位置図 …… 7
第 4 図　土層柱状図 …… 9～10
第 5 図　ＳＨ01平・断面図 …… 12
第 6 図　ＳＨ01出土遺物実測図 …… 12
第 7 図　ＳＨ02平・断面図 …… 13
第 8 図　ＳＨ02出土遺物実測図① …… 13
第 9 図　ＳＨ02出土遺物実測図② …… 14
第10図　ＳＨ03平・断面図 …… 15
第11図　ＳＨ03出土遺物実測図 …… 16
第12図　ＳＨ04平・断面図 …… 17
第13図　ＳＨ04出土遺物実測図 …… 18
第14図　ＳＨ05平・断面図 …… 19
第15図　ＳＨ05出土遺物実測図 …… 20
第16図　ＳＢ01平・断面図 …… 21
第17図　ＳＢ02平・断面図 …… 21
第18図　ＳＢ03平・断面図 …… 22
第19図　ＳＢ03出土遺物実測図 …… 23
第20図　ＳＢ04出土遺物実測図 …… 23
第21図　ＳＢ04平・断面図 …… 23
第22図　ＳＢ06出土遺物実測図 …… 23
第23図　ＳＢ05平・断面図 …… 24
第24図　ＳＢ06平・断面図 …… 24
第25図　ＳＢ07出土遺物実測図 …… 25
第26図　ＳＢ07平・断面図 …… 25
第27図　ＳＢ08平・断面図 …… 25
第28図　ＳＢ09出土遺物実測図 …… 26
第29図　ＳＢ09平・断面図 …… 26
第30図　ＳＢ10出土遺物実測図 …… 27
第31図　ＳＢ10平・断面図 …… 27
第32図　ＳＢ11出土遺物実測図 …… 27
第33図　ＳＢ11平・断面図 …… 27
第34図　ＳＢ12出土遺物実測図 …… 28
第35図　ＳＢ12平・断面図 …… 28
第36図　ＳＢ13平・断面図 …… 29
第37図　ＳＢ14出土遺物実測図 …… 29
第38図　ＳＢ14平・断面図 …… 30
第39図　ＳＢ15出土遺物実測図 …… 31
第40図　ＳＢ15平・断面図 …… 31
第41図　ＳＢ16平・断面図 …… 32
第42図　ＳＢ19出土遺物実測図 …… 32
第43図　ＳＢ17平・断面図 …… 33
第44図　ＳＢ18平・断面図 …… 33
第45図　ＳＢ19平・断面図 …… 34
第46図　ＳＫ01平・断面図 …… 34
第47図　ＳＫ02出土遺物実測図 …… 35
第48図　ＳＫ02平・断面図 …… 35
第49図　ＳＫ03平・断面図 …… 36
第50図　ＳＫ03出土遺物実測図① …… 37
第51図　ＳＫ03出土遺物実測図② …… 38
第52図　ＳＫ04出土遺物実測図 …… 40
第53図　ＳＫ04平・断面図 …… 40
第54図　ＳＫ05平・断面図 …… 41
第55図　ＳＫ05出土遺物実測図 …… 41
第56図　ＳＫ06出土遺物実測図 …… 41
第57図　ＳＫ06平・断面図 …… 42
第58図　ＳＫ07平・断面図 …… 42
第59図　ＳＫ08平・断面図 …… 42
第60図　ＳＫ09平・断面図 …… 42
第61図　ＳＫ10平・断面図 …… 42
第62図　ＳＫ07出土遺物実測図 …… 43
第63図　ＳＫ08出土遺物実測図 …… 43
第64図　ＳＫ09出土遺物実測図 …… 44
第65図　ＳＫ10出土遺物実測図 …… 44
第66図　ＳＫ11出土遺物実測図 …… 44
第67図　ＳＫ12出土遺物実測図 …… 44
第68図　ＳＫ11平・断面図 …… 45
第69図　ＳＫ12平・断面図 …… 45
第70図　ＳＫ13平・断面図 …… 45
第71図　ＳＫ14出土遺物実測図 …… 46
第72図　ＳＫ14平・断面図 …… 46
第73図　ＳＫ15平面図 …… 47
第74図　ＳＴ01出土遺物実測図 …… 47
第75図　ＳＴ01平・断面図 …… 47
第76図　ＳＴ02出土遺物実測図 …… 48
第77図　ＳＴ02平・断面図 …… 48
第78図　ＳＴ03出土遺物実測図 …… 49
第79図　ＳＴ03平・断面図 …… 49
第80図　ＳＴ04出土遺物実測図 …… 49
第81図　ＳＴ04平・断面図 …… 50
第82図　ＳＴ05平・断面図 …… 50
第83図　ＳＴ05出土遺物実測図 …… 51
第84図　ＳＴ06出土遺物実測図 …… 51
第85図　ＳＴ06平・断面図 …… 52
第86図　ＳＤ01～03出土遺物実測図 … 53
第87図　ＳＤ06・08出土遺物実測図 … 54
第88図　ＳＤ07土層断面図 …… 55
第89図　ＳＤ07出土遺物実測図 …… 55
第90図　ＳＤ11礫集中平面図 …… 56
第91図　ＳＤ11土層断面図 …… 57
第92図　ＳＤ11上層出土遺物実測図① … 58
第93図　ＳＤ11上層出土遺物実測図② … 59
第94図　ＳＤ11上層出土遺物実測図③ … 60
第95図　ＳＤ11上層出土遺物実測図④ … 61
第96図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑤ … 62

第97図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑥ … 63
第98図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑦ … 64
第99図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑧ … 65
第100図　ＳＤ11第１層（上）出土遺物実測図 …… 67
第101図　ＳＤ11第１層（中）出土遺物実測図 …… 68
第102図　ＳＤ11第１層（下）出土遺物実測図① …… 69
第103図　ＳＤ11第１層（下）出土遺物実測図② …… 70
第104図　ＳＤ11下層（第２層）出土遺物実測図① …… 71
第105図　ＳＤ11下層（第２層）出土遺物実測図② …… 72
第106図　ＳＤ11下層（第２層）出土遺物実測図③ …… 73
第107図　ＳＤ11下層（第２層）出土遺物実測図④ …… 74
第108図　ＳＤ12土層断面図 …… 76
第109図　ＳＤ12出土遺物実測図 …… 76
第110図　ＳＤ14出土遺物実測図 …… 76
第111図　ＳＤ15土層断面図 …… 77
第112図　ＳＤ15上層出土遺物実測図① … 78
第113図　ＳＤ15上層出土遺物実測図② … 79
第114図　ＳＤ15上層出土遺物実測図③ … 80
第115図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図① … 82
第116図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図② … 83
第117図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図③ … 84
第118図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図④ … 85
第119図　ＳＤ15中層(中)出土遺物実測図① … 86
第120図　ＳＤ15中層(中)出土遺物実測図② … 87
第121図　ＳＤ15中層(下)出土遺物実測図① … 88
第122図　ＳＤ15中層(下)出土遺物実測図② … 89
第123図　ＳＤ15下層出土遺物実測図① … 90
第124図　ＳＤ15下層出土遺物実測図② … 91
第125図　ＳＤ15下層出土遺物実測図③ … 92
第126図　ＳＤ15下層出土遺物実測図④ … 93
第127図　ＳＤ15下層出土遺物実測図⑤ … 94
第128図　ＳＤ15最下層出土遺物実測図 … 95
第129図　ＳＤ16出土遺物実測図 …… 96
第130図　ＳＤ17出土遺物実測図 …… 97
第131図　ＳＤ18出土遺物実測図 …… 98
第132図　ＳＤ18～20土層断面図 …… 99
第133図　ＳＤ19・20出土遺物実測図 … 99
第134図　ＳＤ21土層断面図 …… 100
第135図　ＳＤ21出土遺物実測図① …… 101
第136図　ＳＤ21出土遺物実測図② …… 102
第137図　ＳＤ21出土遺物実測図③ …… 103
第138図　ＳＤ21・22土層断面図 …… 103
第139図　ＳＤ22出土遺物実測図 …… 104
第140図　ＳＤ23出土遺物実測図 …… 106
第141図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図① … 108
第142図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図② … 109
第143図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図③ … 110
第144図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図④ … 111
第145図　ＳＤ24上層下位出土遺物実測図① … 112
第146図　ＳＤ24上層下位出土遺物実測図② … 113
第147図　ＳＤ24上層最下位出土遺物実測図① …114
第148図　ＳＤ24上層最下位出土遺物実測図② …115
第149図　ＳＤ24下層出土遺物実測図① … 117
第150図　ＳＤ24下層出土遺物実測図② … 118
第151図　ＳＤ24下層出土遺物実測図③ … 119
第152図　ＳＤ24下層出土遺物実測図④ … 120
第153図　ＳＤ24下層出土遺物実測図⑤ … 121
第154図　ＳＤ25～28出土遺物実測図 … 122
第155図　ＳＤ31・32・35出土遺物実測図 … 123
第156図　ＳＤ38土層断面図 …… 125
第157図　ＳＤ33・38出土遺物実測図 … 125
第158図　ＳＤ38遺物出土状況平面図 … 126
第159図　ＳＤ39・40出土遺物実測図 … 127
第160図　ＳＤ40土層断面図 …… 127
第161図　ＳＤ41出土遺物実測図① …… 128
第162図　ＳＤ41出土遺物実測図② …… 129
第163図　ＳＤ42出土遺物実測図 …… 130
第164図　ＳＤ43出土遺物実測図① …… 131
第165図　ＳＤ43出土遺物実測図② …… 132
第166図　ＳＤ43出土遺物実測図③ …… 133
第167図　ＳＤ43出土遺物実測図④ …… 134
第168図　ＳＤ43出土遺物実測図⑤ …… 135
第169図　ＳＤ41・42・44土層断面図 … 136
第170図　ＳＤ41～45遺物出土状況平面図 …… 137～138
第171図　ＳＤ45土層断面図 …… 139
第172図　ＳＤ44・45出土遺物実測図 … 140
第173図　ＳＸ01平面図 …… 142
第174図　ＳＸ01土層断面図 …… 143～144
第175図　ＳＸ01第１層・第１～５層出土遺物実測図① …… 146
第176図　ＳＸ01第１～５層出土遺物実測図② …… 147
第177図　ＳＸ01第５層・第６層出土遺物実測図 …… 148
第178図　ＳＸ01第７層出土遺物実測図① …… 149
第179図　ＳＸ01第７層出土遺物実測図② …… 150
第180図　ＳＸ01第７層出土遺物実測図③ …… 151
第181図　大畦平・断面図…… 153～154

第182図　南部自然河道出土遺物実測図① …… 157
第183図　南部自然河道出土遺物実測図② …… 158
第184図　南部自然河道出土遺物実測図③ …… 159
第185図　南部自然河道出土遺物実測図④ …… 160
第186図　南部自然河道出土遺物実測図⑤ …… 161
第187図　南部自然河道出土遺物実測図⑥ …… 162
第188図　南部自然河道出土遺物実測図⑦ …… 163
第189図　南部自然河道出土遺物実測図⑧ …… 164
第190図　北部自然河道出土遺物実測図 … 165
第191図　ＳＰ201土層断面図 …… 166
第192図　ＳＰ599土層断面図 …… 166
第193図　柱穴出土遺物実測図① …… 168
第194図　柱穴出土遺物実測図② …… 169
第195図　柱穴出土遺物実測図③ …… 170
第196図　柱穴出土遺物実測図④ …… 171
第197図　柱穴出土遺物実測図⑤ …… 172
第198図　柱穴出土遺物実測図⑥ …… 173
第199図　包含層出土遺物実測図① …… 184
第200図　包含層出土遺物実測図② …… 185
第201図　包含層出土遺物実測図③ …… 186
第202図　中央部包含層第１・２層
出土遺物実測図 …… 187
第203図　中央部包含層第３・４層
出土遺物実測図 …… 188
第204図　南部包含層第１層
出土遺物実測図① …… 189
第205図　南部包含層第１層
出土遺物実測図② …… 190
第206図　南部包含層第２・３層
出土遺物実測図 …… 191
第207図　川津一ノ又遺跡遺構変遷図① …193～194
第208図　川津一ノ又遺跡遺構変遷図② …195～196
第209図　土器の分類 …… 199
第210図　蛍光Ｘ線分析側点 …… 204

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表 …… 6
第２表　柱穴一覧表…… 174～182
第３表　出土遺物観察表…… 205～266

巻頭図版目次

図版１　(1)調査区遠景（青ノ山山頂より）
(2)調査区遠景（東空中より）
図版２　(1)調査区北部遺構検出状況(南より)
(2)ＳＨ04平面検出状況（南より）
図版３　(1)ＳＤ21出土把手状粘土塊
(2)ＳＤ24出土粘土塊
(3)南部自然河道出土鉢
図版４　(1)ＳＤ15出土土器
(2)ＳＤ11出土土器

図 版 目 次

図版１　調査区遠景（真上より）
図版２　調査区遠景（真上より）①
図版３　調査区遠景（真上より）②
図版４　調査区遠景（真上より）③
図版５　調査区遠景（真上より）④
図版６　調査区遠景（真上より）⑤
図版７　調査区遠景（真上より）⑥
図版８　調査区遠景（真上より）⑦
図版９　調査区遠景（真上より）⑧
図版10　調査区遠景（真上より）⑨
図版11　調査区遠景（真上より）
図版12　調査区遠景（真上より）①
図版13　調査区遠景（真上より）②
図版14　(1)調査区遠景（北空中より）
(2)調査区遠景（南空中より）
図版15　(1)調査区遠景（西空中より）
(2)調査区遠景（東空中より）
図版16　(1)調査前風景①
(2)調査前風景②
図版17　(1)発掘調査風景①
(2)発掘調査風景②
図版18　(1)調査区最北端遺構検出状況(南より)
(2)調査区最北端完掘状況(南より)
図版19　(1)調査区北部遺構検出状況(南より)
(2)調査区北部遺構検出状況(南より)
図版20　(1)調査区北部遺構検出状況(南より)
(2)調査区中央部遺構検出状況(北より)
図版21　(1)調査区中央部遺構検出状況(北より)

(2)調査区中央部遺構検出状況(北より)
図版22 (1)調査区南部遺構検出状況(北より)
(2)調査区最南端遺構検出状況(北より)
図版23 (1)ＳＨ01完掘状況(北より)
(2)ＳＨ02検出状況(北より)
図版24 (1)ＳＨ03土層断面(東より)
(2)ＳＨ03遺物出土状況(北より)
図版25 (1)ＳＨ03遺物出土状況(北より)
(2)ＳＨ03完掘状況(北より)
図版26 (1)ＳＨ04平面検出状況(南より)
(2)ＳＨ04検出状況(南より)
図版27 (1)ＳＨ04遺物出土状況(北東より)
(2)ＳＨ04遺物出土状況(南東より)
図版28 (1)ＳＨ04竈断ち割り状況(南西より)
(2)ＳＨ04竈検出状況(南より)
図版29 (1)ＳＨ05完掘状況(南より)
(2)ＳＨ05竈検出状況(南西より)
図版30 (1)ＳＢ07検出状況(北東より)
(2)ＳＢ07柱穴土層断面(西より)ＳＰ882
(3)ＳＢ07柱穴土層断面(西より)ＳＰ869
(4)発掘調査風景
図版31 (1)ＳＫ02平面検出状況(西より)
(2)ＳＫ02検出状況(東より)
図版32 (1)ＳＫ04土層断面(東より)
(2)ＳＫ08遺物出土状況(北東より)
図版33 (1)ＳＫ05遺物出土状況(北より)
(2)ＳＫ05遺物出土状況(東より)
図版34 (1)ＳＴ01検出状況(東より)
(2)ＳＴ01遺物出土状況(南より)
図版35 ＳＴ05検出状況
図版36 (1)ＳＴ06土層断面(南東より)
(2)ＳＴ06遺物出土状況(西より)
図版37 (1)ＳＴ06遺物出土状況拡大(南より)
(2)ＳＴ06遺物出土状況拡大(西より)
図版38 (1)ＳＴ06歯出土状況(東より)
(2)ＳＴ06歯出土状況拡大(東より)
図版39 (1)ＳＤ01～04平面検出状況(西より)
(2)ＳＤ05・15平面検出状況(北より)
図版40 (1)ＳＤ05・15検出状況(北より)
(2)ＳＤ15土層断面(北より)
図版41 (1)ＳＤ11土層断面Ａ′－Ａ(北より)
(2)ＳＤ11土層断面Ｂ′－Ｂ(北より)
図版42 (1)ＳＤ15土層断面Ａ′－Ａ(北より)
(2)ＳＤ15土層断面Ｂ′－Ｂ(北より)
図版43 (1)ＳＤ15遺物出土状況(北より)
(2)ＳＤ15遺物出土状況(北より)
図版44 (1)ＳＤ15遺物出土状況拡大
(2)ＳＤ15遺物（獣骨）出土状況拡大
図版45 (1)ＳＤ15遺物出土状況(北より)
(2)ＳＤ15遺物出土状況拡大(東より)
図版46 (1)ＳＤ18土層断面Ａ－Ａ′(東より)
(2)ＳＤ19・20土層断面Ｂ－Ｂ′(東より)
図版47 (1)ＳＤ21土層断面Ｂ－Ｂ′(東より)
(2)ＳＤ22土層断面Ａ－Ａ′(東より)
図版48 (1)ＳＤ22土層断面Ｃ－Ｃ′(東より)
(2)ＳＤ40土層断面Ａ′－Ａ(西より)
図版49 (1)ＳＤ38検出状況(北より)
(2)ＳＤ38遺物出土状況(西より)
図版50 (1)ＳＤ41～45検出状況(北より)
(2)ＳＤ41遺物出土状況(東より)
図版51 (1)ＳＤ41遺物出土状況(北より)
(2)ＳＤ41土層断面Ａ－Ａ′(東より)
図版52 (1)ＳＤ44土層断面Ｂ′－Ｂ(北西より)
(2)ＳＤ45土層断面Ｃ－Ｃ′(東より)
図版53 (1)ＳＤ45土層断面Ｄ－Ｄ′(南より)
(2)ＳＤ45土層断面Ｅ－Ｅ′(東より)
図版54 (1)ＳＤ45土層断面Ｆ－Ｆ′(南より)
(2)ＳＤ45土層断面Ｇ－Ｇ′(南より)
図版55 (1)ＳＸ01検出状況(北より)
(2)ＳＸ01土層断面(南西より)
図版56 (1)ＳＰ165遺物出土状況
(2)ＳＰ599断面
図版57 (1)ＳＰ201遺物出土状況
(2)ＳＰ201断面
図版58 (1)ＳＰ618遺物出土状況
(2)ＳＰ749断面
図版59 (1)北部自然河川遺物出土状況(南より)
(2)調査区最北端西壁土層断面(東より)
図版60 (1)調査区最北端西壁土層断面(東より)
(2)調査区中央部西壁土層断面(東より)
図版61 (1)ＳＨ01出土遺物
(2)ＳＨ02出土遺物
図版62 ＳＨ03出土遺物①
図版63 ＳＨ03出土遺物②
図版64 ＳＨ04出土遺物
図版65 (1)ＳＨ05出土遺物
(2)ＳＢ15出土遺物
(3)ＳＫ03出土遺物①
図版66 ＳＫ03出土遺物②
図版67 ＳＫ03出土遺物③
図版68 ＳＫ03出土遺物④
図版69 (1)ＳＫ03出土遺物⑤
(2)ＳＫ05出土遺物①
図版70 (1)ＳＫ05出土遺物②
(2)ＳＫ08出土遺物①
図版71 (1)ＳＫ08出土遺物②
(2)ＳＫ14出土遺物
図版72 (1)ＳＴ01出土遺物
(2)ＳＴ05出土遺物
(3)ＳＴ06出土遺物

図版73 (1)ＳＤ01出土遺物
(2)ＳＤ02出土遺物
図版74 (1)ＳＤ07出土遺物
(2)ＳＤ11上層出土遺物①
図版75 ＳＤ11上層出土遺物②
図版76 ＳＤ11上層出土遺物③
図版77 ＳＤ11上層出土遺物④
図版78 ＳＤ11上層出土遺物⑤
図版79 ＳＤ11上層出土遺物⑥
図版80 ＳＤ11第１層（上）出土遺物
図版81 ＳＤ11第１層（下）出土遺物
図版82 ＳＤ11下層（第２層）出土遺物①
図版83 ＳＤ11下層（第２層）出土遺物②
図版84 ＳＤ11下層（第２層）出土遺物③
図版85 ＳＤ11下層（第２層）出土遺物④
図版86 (1)ＳＤ14出土遺物
(2)ＳＤ15上層出土遺物①
図版87 ＳＤ15上層出土遺物②
図版88 ＳＤ15上層出土遺物③
図版89 ＳＤ15上層出土遺物④
図版90 ＳＤ15上層出土遺物⑤
図版91 ＳＤ15中層（上）出土遺物①
図版92 ＳＤ15中層（上）出土遺物②
図版93 ＳＤ15中層（上）出土遺物③
図版94 (1)ＳＤ15中層（上）出土遺物④
(2)ＳＤ15中層（中）出土遺物
図版95 ＳＤ15中層（下）出土遺物①
図版96 ＳＤ15中層（下）出土遺物②
図版97 ＳＤ15下層出土遺物①
図版98 ＳＤ15下層出土遺物②
図版99 ＳＤ15下層出土遺物③
図版100 ＳＤ17出土遺物
図版101 (1)ＳＤ18出土遺物
(2)ＳＤ20出土遺物
図版102 ＳＤ21出土遺物①
図版103 ＳＤ21出土遺物②
図版104 ＳＤ22出土遺物
図版105 ＳＤ23出土遺物
図版106 ＳＤ24上層上位出土遺物①
図版107 (1)ＳＤ24上層上位出土遺物②
(2)ＳＤ24上層下位出土遺物
図版108 (1)ＳＤ24上層最下位出土遺物
(2)ＳＤ24下層出土遺物①
図版109 ＳＤ24下層出土遺物②
図版110 ＳＤ24下層出土遺物③
図版111 (1)ＳＤ38出土遺物
(2)ＳＤ41出土遺物①
図版112 (1)ＳＤ41出土遺物②
(2)ＳＤ42出土遺物
図版113 ＳＤ43出土遺物①
図版114 ＳＤ43出土遺物②
図版115 (1)ＳＤ43出土遺物③
(2)ＳＤ44出土遺物
図版116 (1)ＳＤ45出土遺物
(2)ＳＸ01第１層・第１～５層出土遺物
図版117 (1)ＳＸ01第５層出土遺物
(2)ＳＸ01第７層出土遺物
図版118 南部自然河道出土遺物①
図版119 南部自然河道出土遺物②
図版120 南部自然河道出土遺物③
図版121 南部自然河道出土遺物④
図版122 南部自然河道出土遺物⑤
図版123 南部自然河道出土遺物⑥
図版124 北部自然河道出土遺物①
図版125 北部自然河道出土遺物②
図版126 柱穴出土遺物①
図版127 柱穴出土遺物②
図版128 (1)柱穴出土遺物③
(2)包含層出土遺物①
図版129 包含層出土遺物②
図版130 包含層出土遺物③
図版131 包含層出土遺物④
図版132 中央部包含層第１・２層出土遺物
図版133 (1)中央部包含層第３層出土遺物
(2)中央部包含層第４層出土遺物
図版134 南部包含層第１層出土遺物
図版135 ＳＤ15出土獣骨①
図版136 ＳＤ15出土獣骨②
図版137 ＳＤ15出土獣骨③
図版138 ＳＤ15出土獣骨④
図版139 ＳＤ15出土獣骨⑤
図版140 (1)７世紀前半器種構成
(2)８世紀前半丹塗り土師器
図版141 (1)ＳＴ06出土歯
(2)ＳＴ06完掘状況
図版142 (1)調査区遠景（青ノ山山頂より）①
(2)調査区遠景（青ノ山山頂より）②
図版143 調査区周辺航空写真
図版144 (1)整理作業風景①
(2)整理作業風景②

付図目次

付図１ 川津一ノ又遺跡遺構平面図①
付図２ 川津一ノ又遺跡遺構平面図②

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

広義の川津一ノ又遺跡は丸亀平野東部の飯野山北部に広がる集落である。この遺跡の発掘調査には四国横断自動車道建設に伴い実施された川津一ノ又遺跡Ⅲ区・Ⅳ区と中小河川大束川改修に伴い実施した川津一ノ又遺跡がある。

今回報告する川津一ノ又遺跡は香川県による「中小河川大束川改修事業」に先立ち，発掘調査を実施した遺跡である（以下使用する「川津一ノ又遺跡」は中小河川大束川改修に伴い調査した遺跡のことである。）。中小河川大束川改修事業は香川県土木部河川課によって大束川下流より，順次実施されている。

丸亀平野東部を流れる大束川周辺には，瀬戸大橋建設や四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が実施された下川津遺跡，川津一ノ又遺跡Ⅲ区・Ⅳ区などの大集落が確認されている。そのため香川県教育委員会事務局文化行政課は改修工事対象地内について，昭和63年度以来分布調査を実施し，埋蔵文化財の有無等を確認し，適切な措置が執られてきた。

中小河川大束川改修事業に伴い発掘調査が実施された川津一ノ又遺跡は，平成元年度に㈶香川県埋蔵文化財調査センターによって調査が実施された川津元結木遺跡に続くものである。

川津一ノ又遺跡については，平成２年度末（平成３年３月25・26日）の文化行政課による試掘調査で，2,850㎡の包蔵地の所在が確認され，香川県土木部河川課と協議の結果，四国横断自動車道建設工事区域と接する部分の310㎡について文化行政課が担当し，平成３年度（平成３年８月19日から９月４日）に発掘調査を実施し，残りの2,540㎡を平成４年度（平成４年４月１日から９月30日）に香川県教育委員会が調査主体となり，（財）香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として発掘調査を実施した。

第２節　調査の経過

発掘調査は平成４年４月１日に開始し，平成４年９月30日に終了した。

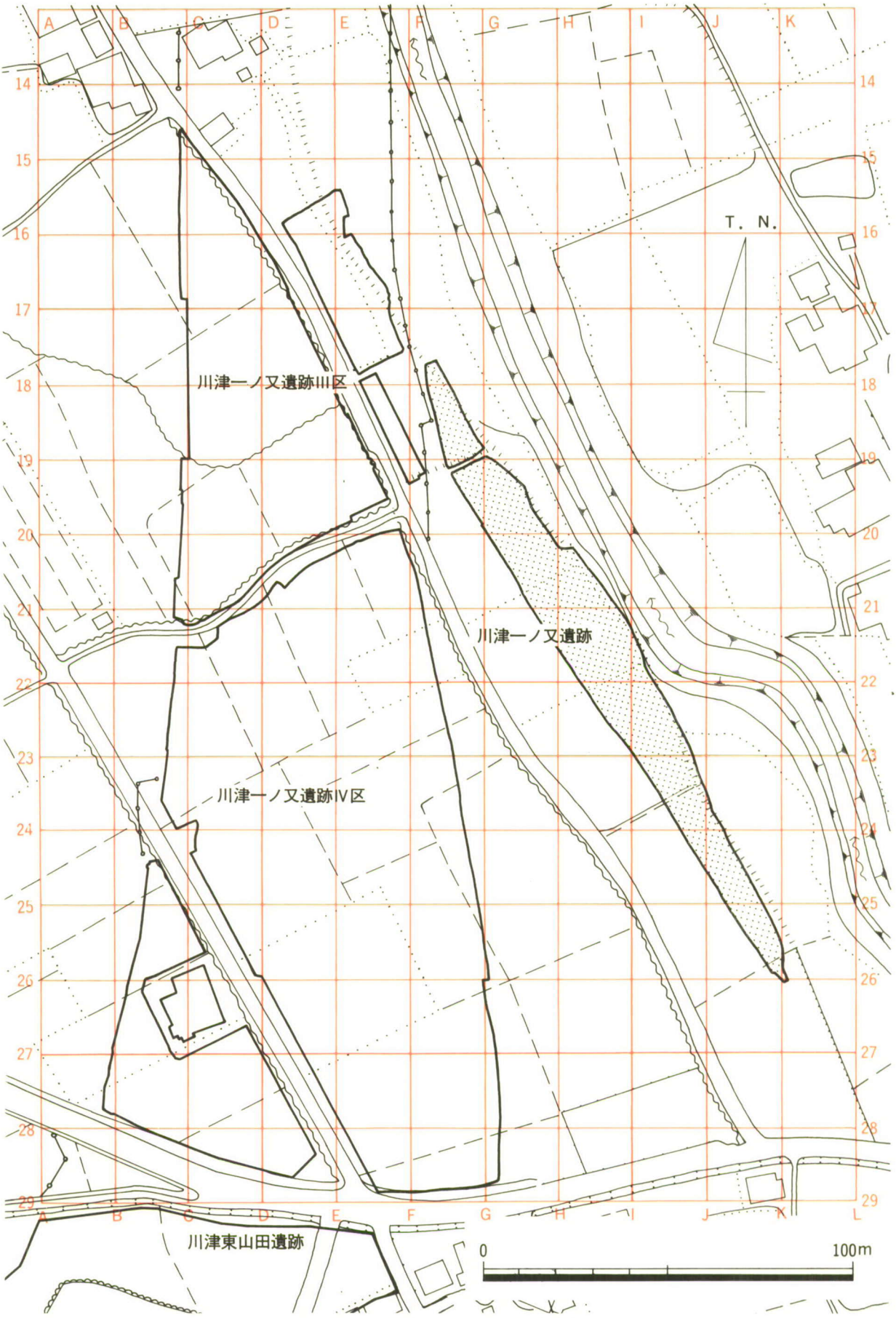
調査の方法は直営方式で，調査グリッドは四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が実施された川津一ノ又遺跡Ⅲ区・Ⅳ区の調査グリッドに準拠し，第１図のように調査区を設定した。したがって当調査区は東西がＦ～Ｋで，南北が17～26の範囲に位置する。

川津一ノ又遺跡の発掘調査を調査日誌抄を基に概略すると，以下の様になる。

平成４年４月２日から現地において事前準備の打ち合せを行った。その結果事務所用地については調査区内で確保できなかったため，隣接地を借地することで決着した。４月15日から調査区に安全柵を打設し，４月17日から重機による表土掘削を開始する。

まず，調査に先立ち調査区を北から便宜的に第Ⅰ～Ⅲ区に設定した。４月27日から現場作業員の就労を開始し，第Ⅰ調査区から本格的に発掘調査を開始した。

第Ⅰ調査区では耕作土・床土直下で遺構面を検出し，精査後遺構掘削を開始した。第Ⅰ調査区では中世の遺構（特に柱穴）と古代の遺構を多数検出し，時期の異る遺物を多量に含む溝も検出したことから，大きく調査を２回に分けて行った。



第１図　川津一ノ又遺跡地区割図

第II調査区では耕作土・床土下で約50cm程度の包含層を検出し，それぞれの包含層上面で遺構を検出した。そのため第II調査区では遺構面が最終面も含め，3時期の遺構面の調査となった。

第III調査区では第II調査区同様に包含層が確認できたが，最終面以外に遺構はなく，発掘調査はスムーズに進捗した。

現場での発掘作業は平成4年8月28日に終了し，その後残務整理及び調査区埋め戻し・事務所撤去等を行い，9月30日に発掘調査を終了した。

発掘調査体制は下記のとおりである。

平成3年度　文化行政課　調査

総　括	課　長	中村　仁
	主　幹	菅原　良弘
	課長補佐	小原　克己 (6.1～)
	副主幹	野網朝二郎 (～5.31)
総　務	係　長	宮内　憲生
	主任主事	横田　秀幸 (～5.31)
	主　事	櫻木　新士 (6.1～)
	主　事	石川恵三子
埋蔵文化財	係　長	藤好　史郎
	主任技師	岩橋　孝
	技　師	北山健一郎

平成4年度　文化行政課

総　括	課　長	中村　仁
	主　幹	菅原　良弘
	課長補佐	小原　克
総　務	係　長	宮内　憲生 (～5.31)
		源田　和幸 (6.1～)
	主　事	櫻木　新士
	主　事	石川恵三子
埋蔵文化財	係　長	藤好　史郎
	主任技師	國木　健司
	主任技師	北山健一郎

(財)香川県埋蔵文化財調査センター　調査

総　括	所　長	松本　豊胤
	次　長	市原　敏則
総　務	係長（事務）	土井　茂樹
	係長（土木）	今田　修
	主任主事	黒田　晃郎 (～5.31)
	主任主事	大西　健司 (6.1～)
調　査	文化財専門員	西村　尋文
	主任技師	片桐　孝浩
	技　師	清水　渉
	調査技術員	森澤　千尋

整理作業は平成８年４月１日より開始し，平成８年９月30日に終了した。

整理作業は大まかに４・５月で注記・接合を行い，６・７月で実測作業，８月でトレース，９月で編集作業を行い，整理作業を終了した。

整理作業体制は下記のとおりである。

平成８年度　文化行政課

総　括	課　長	藤原　章夫
	課長補佐	高木　一義
総　務	係　長	山崎　隆
	主　査	星加　宏明
	主任主事	高倉　秀子 (～5.31)
	主　事	打越　和美 (6.1～)
埋蔵文化財	副主幹	渡部　明夫

（財）香川県埋蔵文化財調査センター　整理

総　括	所　長	大森　忠彦
	次　長	小野　善範
総　務	係長（事務）	前田　和也
	主　査	西村　厚二 (～5.31)
	主　事	佐々木隆司 (6.1～)
整　理	主任文化財専門員	廣瀬　常雄
	文化財専門員	片桐　孝浩
	整理補助員	岡崎江伊子
		白玖　昇子
		岩井　弘恵
		合田　和子
	整理作業員	岡野　雅子
		前田　好美
		山上　真理
		松尾　優子

第2章　立地と環境

第1節　地理的環境

香川県は四国北東部にあり，面積が全国的にみても小さい県である。北は備讃瀬戸を挟んで岡山県と相対し，南は阿讃山脈で徳島県と隔絶している。河川は地勢上からその流路が短く，しかも急勾配である。そのため常には水の流れがあまりないが，ひとたび洪水が起こると流れが速くなり，荒れる。そのため現在でも現地表面に旧流路（洪水河川）が確認できる水田地割りが見られる。

土地面積に占める平野の割合の高い香川県には，西から三豊平野・丸亀平野・高松平野・志度平野などがある。このなかの丸亀平野には現在西から弘田川，金倉川，土器川，大束川の4河川があり，善通寺市付近と坂出市付近は弘田川，金倉川，大束川の沖積作用によって形成された沖積平野であることが判っている。しかし丸亀市付近は平野の東・西部と異なり，緩扇状地形を呈した洪積台地が大半を占めている。その洪積台地上およびそれぞれの沖積平野には上記各河川の旧河道の痕跡が現地表面においても容易に観察される。瀬戸大橋建設に伴い発掘調査が実施された下川津遺跡では，旧大束川の流路が微高地を挟むように数条確認されていることからこの地が不安定であったことをよく物語っている。

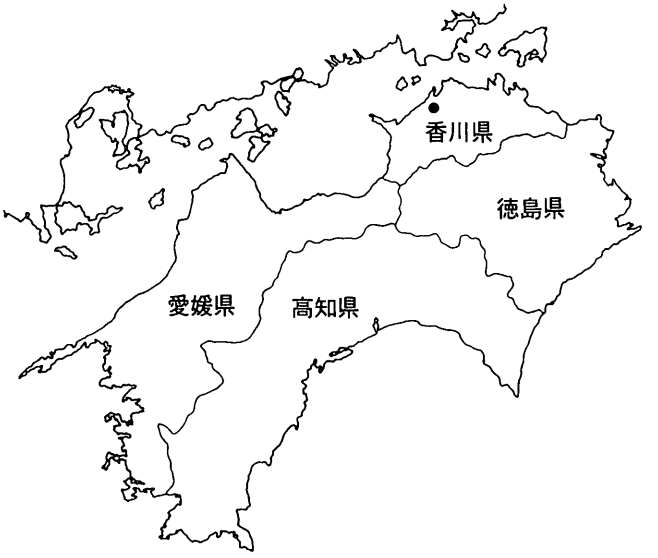
川津一ノ又遺跡は大束川によって形成された沖積平野部分にあり，現在の大束川の西岸際に位置する。南に飯野山，東は常山・金山・城山，北に角山・聖通寺山などがあり，西は丸亀平野部へと開けている。

第2節　歴史的環境

川津一ノ又遺跡周辺の歴史的環境をそれぞれ時代ごとに説明していく。

旧石器時代

旧石器時代の遺構は，当遺跡周辺では確認されていない。しかし，当遺跡の包含層や縄文時代以降の遺構から横長剝片などの未製品が出土していることから，明らかに周辺に旧石器時代の遺構が存在する可能性が推測できる。このように沖積地での遺構の存在は確認できないが，丸亀平野中央部の洪積台地上では，三条来島遺跡・郡家田代遺跡で旧石器時代の剝片散布（ユニット）が確認でき，接合資料が出土している。



第2図　遺跡位置図

また，石器の素材となるサヌカイトの産地である国分台・城山・金山が近くにあることもあり備讃瀬戸の島嶼部や城山，国分台周辺では旧石器が多く確認されている。

縄文時代

縄文時代の遺構は，櫃石島ガンド遺跡・下川津遺跡で突帯文系の土器が出土している程度で，

確実な遺構は検出されていない。

弥生時代

弥生時代の遺構は，縄文時代の遺構に比べると多数確認されている。

弥生時代前期には下川津遺跡で，遺物が多量に出土しており，遺構も上面不定形の竪穴住居跡が検出されている。また，大東川流域には川津下樋遺跡などで生産域（水田跡）としての遺構が検出されていることで，弥生時代前期から集落が形成されていたことは確実に窺える。

弥生時代中期になると青ノ山，飯野山などの比高が高い場所に散布地が見られる。下川津遺跡では遺構が確認されておらず，西又遺跡そして川津一ノ又遺跡では弥生時代中期の遺構が検出されていることから居住域（集落）の変化が窺える。

弥生時代後期になると爆発的に竪穴住居が増え，集落が形成されるようである。坂出市付近では下川津遺跡周辺と飯野山北山麓周辺に単位集落があるのではないかと推定されている。

このように坂出市付近においては弥生時代前期より移動はあるものの大規模な集落が形成されており，川津下樋遺跡で井堰・水田跡が確認されているように，前期の頃から高度な技術による開発が行われていたことが裏付けられている。

古墳時代

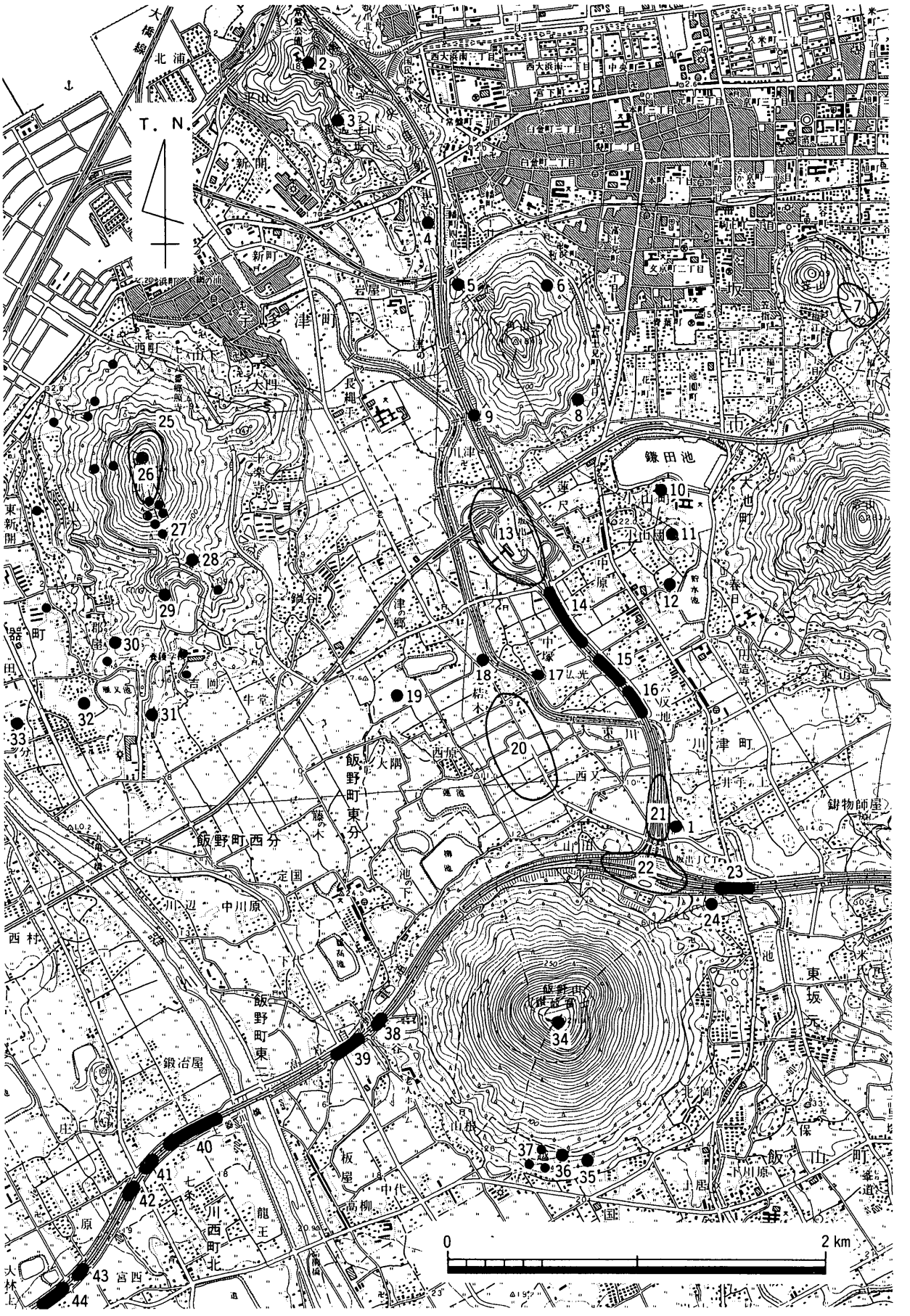
古墳時代前期には爺ケ松古墳，ハカリゴーロ古墳などの前期古墳が見られる。これらの前期古墳は弥生時代終末期（庄内併行期）から集落を形成した集団の首長の古墳であると思われる。古墳時代中期の古墳はあまり確認されていない。古墳時代後期になると青ノ山・飯野山・城山周辺に多数の群集墳が出現するようである。

古代から中世

古代において下川津遺跡は貢納生産物の一時的な集積地と考えられており，「津」としての性格が強い遺跡と推定している。また，中世には港としての「宇多津」もあることから大東川流域は交通の要所で，古代から中世においては讃岐国の窓口の一つであった可能性が考えられる。また，この平野には現在でも確認できる方画地割が残っており，条里制が施行されていたことが窺える。

第１表　周辺遺跡一覧表

1．川津一ノ又遺跡	16．川津二代取遺跡	31．吉岡神社古墳
2．聖通寺山古墳	17．国重塚	32．青ノ山２号窯跡
3．聖通寺城跡	18．川津元結木遺跡	33．青ノ山城跡
4．田尾茶臼山古墳	19．野津古塚	34．飯野山山頂遺跡
5．南田尾古墳	20．川津西又遺跡	35．国持（塚）古墳（伝鷲住王墓）
6．潮見場古墳	21．川津一ノ又遺跡Ⅲ・Ⅳ区	36．坂本神社遺跡
7．笠山遺跡	22．川津東山田遺跡	37．坂本神社西古墳群
8．下川津１号墳	23．川津川西遺跡	38．飯野東分山崎南遺跡
9．岡宮古墳	24．三ノ池古墳	39．飯野東二瓦礫遺跡
10．小山古墳	25．青ノ山山頂遺跡	40．川西北・鍛冶屋遺跡
11．川津茶臼山古墳	26．青ノ山山頂古墳	41．川西北・七条Ⅱ遺跡
12．蓮尺茶臼山古墳	27．青ノ山古墳群	42．川西北・七条Ⅰ遺跡
13．下川津遺跡	28．青ノ山墓地公園古墳	43．川西北原遺跡
14．川津中塚遺跡	29．青ノ山窯跡群	44．郡家田代遺跡
15．川津下樋遺跡	30．竜塚古墳	



第３図　周辺遺跡位置図

第３章　調査の成果

第１節　調査の概要

川津一ノ又遺跡の本調査は，平成４年４月１日から同年９月30日にかけて実施した。調査対象面積が2,540㎡と狭い割りには遺構面が３面ある部分があり，遺構密度も高い遺跡である。

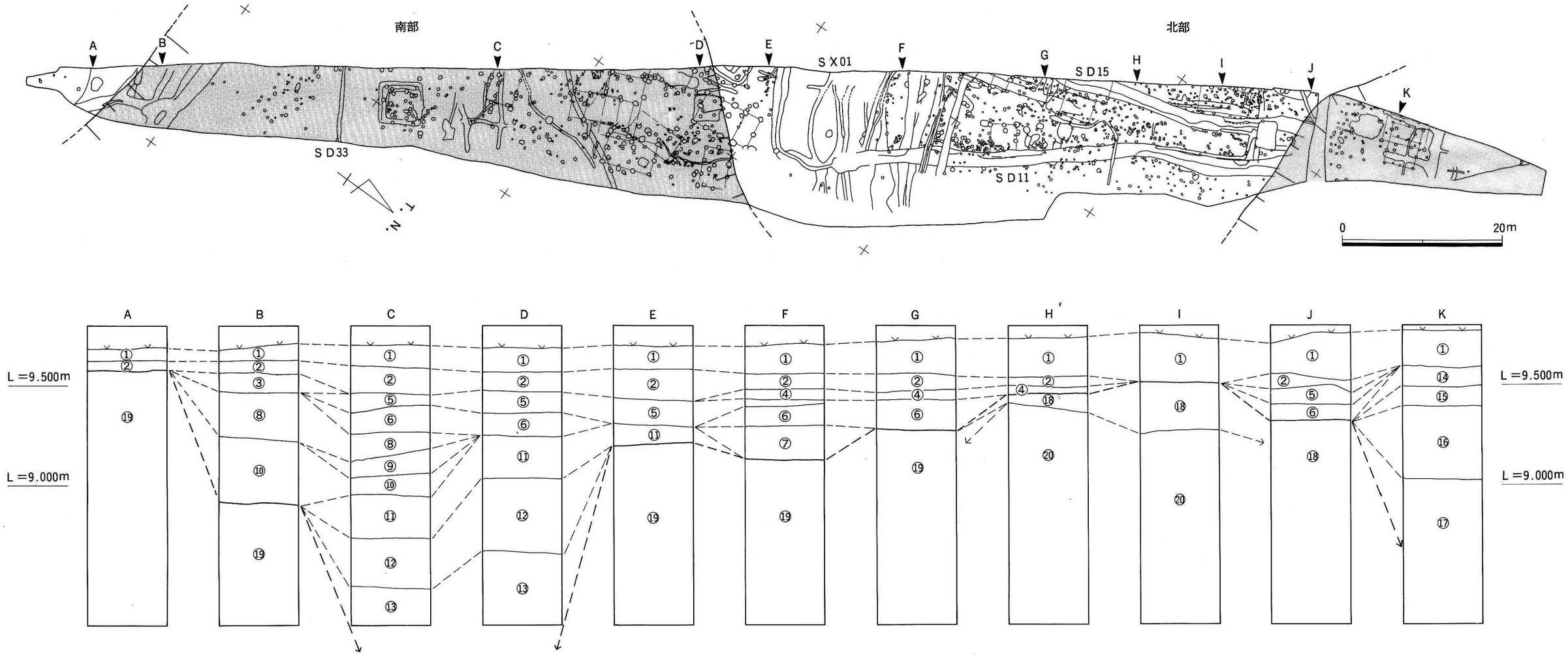
発掘調査に当たっては調査区を便宜的に北からⅠ～Ⅲ区に分け，第Ⅰ調査区から調査を開始した。しかし，調査の結果，調査区ほぼ中央部分で検出したＳＸ01を境にして，北部では古代の溝と中世の柱穴を中心とした遺構を検出し，南部では古代の遺構を中心に検出していることからここでは調査区をＳＸ01を境にして北部と南部に分け，概要を説明したい。

調査区北部では耕作土直下で，明茶黄色粘質土の地山が確認でき，その上面で遺構面を検出した。時期は弥生時代中期後半から中世にかけてのもので，竪穴住居・掘立柱建物・土壙墓・土坑・溝・多数の柱穴などを検出している。弥生時代の遺構は竪穴住居・溝で，特に中期末の溝からは多量の土器及びサヌカイト製品が出土している。古代の遺構は掘立柱建物及び溝・土坑で，ＳＤ11・15からは多量の土器が出土しており，特にＳＤ15は埋土がほぼ単一層に近く，時期も７世紀前半でかなり良好な資料の出土する遺構である。また，多量の土器と共に獣骨片（牛・馬）が出土しており，当時の食生活や宗教儀礼を考えるのに貴重な遺構である。中世の遺構は掘立柱建物・土壙墓・土坑・溝などで，これらの遺構はその主軸（南北主軸）が現在周辺に残る方格地割の主軸（Ｎ－22°－Ｗ）に合致してる。また，掘立柱建物と土壙墓群は溝によって区画されており，居住域と墓域の関係がわかる遺構である。

調査区南部北半では耕作土及び床土直下で第１面が検出され，最大厚約30cm程度の包含層（第４図土層柱状図④～⑥層）下で最終遺構面が確認できた。南部では北部で検出した明茶黄色粘質土の地山が最南端部分以外に無く，白黄色系の粘質土及び砂質土で形成された遺構面を確認した。これらの土層には弥生時代中期末の遺物が少量含まれていることが確認できたが，その下層には遺構は検出できなかった。したがって，この最終遺構面までに大別して２層（④・⑤，⑥）層の間層があり，それぞれの面で遺構を確認したため，計３時期の遺構面を確認したことになる。

第１遺構面及び第２遺構面は古代の遺構で，竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑を検出している。竪穴住居は７世紀のものと８世紀のものを検出しており，８世紀の竪穴住居は香川県内でも珍しい。掘立柱建物は南北主軸によって　グループに分けられ，若干の時期差があるものと考える。第３遺構面は弥生時代の遺構で竪穴住居・溝を検出している。また，南部では中世の遺構は検出しておらず，集落の消長が確認できる。

南部南半ではまた耕作土直下で遺構面となり，ＳＤ33を境としてやや遺構密度も希薄になるようである。最南端では弥生時代中期末・７世紀前半の溝を検出し，特に７世紀前半の溝は幹線水路から西方に２条検出し，これらは引き込み溝と考えられる。また，天幅約6.1m，高さ約0.2mの畦畔を検出した。この畦畔は四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が実施された川津一ノ又遺跡Ⅳ区でも検出されており，当調査区でも同様な畦畔を検出したということは川津一ノ又遺跡と川津一ノ又遺跡Ⅳ区が同一集落として捉えることが可能かと思われる。



① 耕作土
② 床土（濁茶白色粘質土）
③ 暗灰色粘質土
④ 灰色粘質土
⑤ 茶灰色粘質土 ｝古代遺物包含層
⑥ 灰茶色粘質土
⑦ 灰色粘質土に明茶黄色粘質土（地山）を多量に含む
⑧ 白灰茶色砂（礫を含む）
⑨ 灰こげ茶色砂礫 ｝中央部弥生時代遺物包含層
⑩ 灰こげ茶色砂
⑪ 白黄色粘質土
⑫ 濁黄白色粘質土 ｝中央部弥生時代遺物包含層
⑬ 濁こげ茶白色砂質土
⑭ 灰黄褐色砂質土
⑮ 黄色砂質土
⑯ 黄灰褐色砂土 ｝北部弥生時代遺物包含層
⑰ 黄褐色砂質土
⑱ 明茶黄色粘質土
⑲ 白黄色粘質土 ｝地山
⑳ こげ茶色粘質土

第４図　土層柱状図

第２節　土層序

前節でも少し述べたが，調査区ほぼ中央部以外は耕作土及び床土（部分的にはないところもあり）直下で遺構面が検出できる。つまり調査区北部では耕作土及び床土直下で明茶黄色粘質土のベースとなる。南部では中央から北の部分で，弥生時代中期末の包含層が北半部で検出している明茶黄色粘質土（地山）を切り，堆積している。したがって北部と南部では耕作土及び床土直下で遺構面が検出できるが，中央部では遺構面まで包含層が検出でき，第４図土層柱状図のようになる。それを上層からみると耕作土及び床土・茶灰色粘質土（こげ茶褐色粒を含む）・灰茶色粘質土・黄灰色粘質土・白黄色粘質土・濁黄白色砂質土・濁こげ茶白色砂質土の土層序となる。茶灰色粘質土層中からは古代の遺物が多量に出土し，黄灰色粘質土層以下からは弥生時代の遺物が多量に出土している。

遺構面は北部と南部最南端では１面で，弥生時代から中世の遺構が同一面で検出できる。一方包含層の堆積する中央部で検出した遺構面は３面あり，床土直下で第１遺構面を検出し，第２遺構面はこげ茶褐色粒を含まない茶灰色粘質土上面で検出した。次に最大厚約30cm程度の包含層（灰茶色粘質土）下で最終面（第３面）を確認した。

第３節　遺構・遺物

川津一ノ又遺跡で検出した遺構は竪穴住居５棟，掘立柱建物19棟，土壙墓６基，土坑15基，溝45条，不明遺構，自然河道，多数の柱穴である。これらの遺構を大束川西岸の細長い調査区全面で検出した。

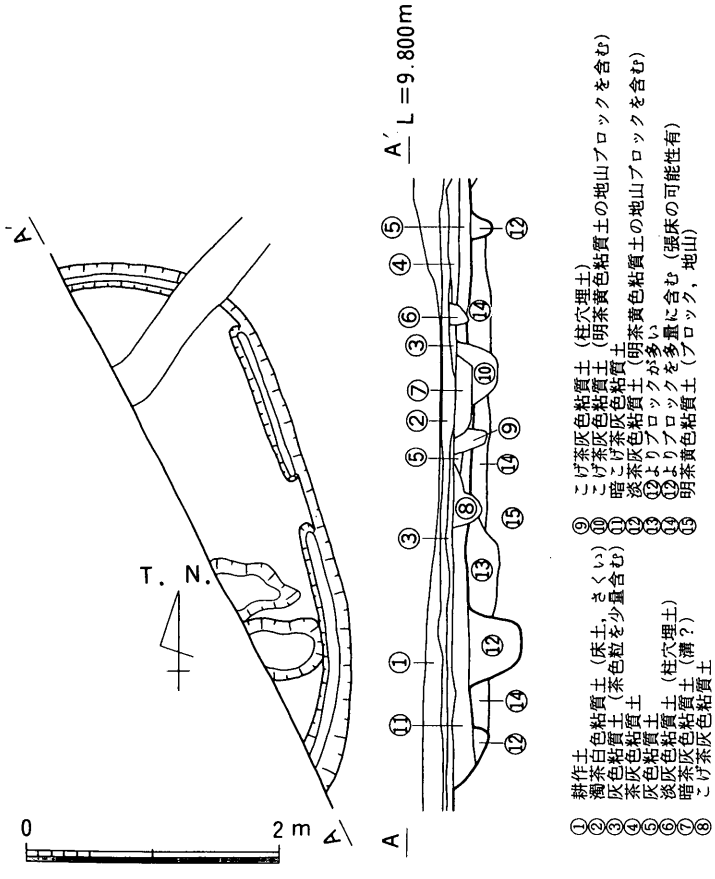
遺構の時期は弥生時代中期末から中世にかけてのもので，弥生時代の遺構はやや希薄である。また，古代（７世紀前半）の溝からは多数の遺物が出土し，中世の遺構は北部に纏まりをみることができる。

１．竪穴住居（ＳＨ01～05）

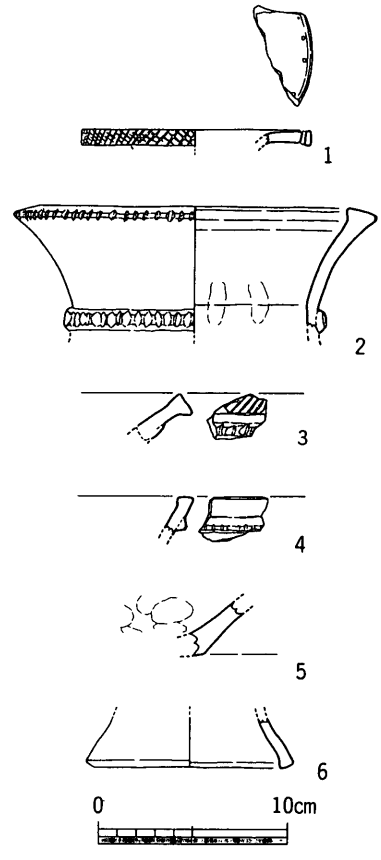
竪穴住居は調査区全域で５棟検出している。完存するものは２棟で，その他のものは検出面からの深さが浅いものや調査区外に延びるもので，そのほとんどは削平を受けていると思われ，残りは悪い。

ＳＨ01（第５図）

ＳＨ01は調査区北端で検出した竪穴住居である。耕作土・床土及び若干の包含層（第５図③～⑤）直下で遺構を検出している。西側が調査区外に延びており，平面形態は推定の域をでないが，調査区内で検出した部分から隅丸方形（円形か）を呈するものと考える。規模は推定で，一辺約4.70m，検出面からの深さ約0.26mを計る。南北主軸は北から約18.0°西偏する。床面では周囲に壁溝が確認でき，南部では深さ10～20cm程度の土坑状の落ち込みがみられる。平面形態については不明な部分が多く，円形の可能性も考えられる。



第５図　ＳＨ01平・断面図



第６図　ＳＨ01出土遺物実測図

埋土は上下２層に分層でき，上層は暗こげ茶灰色粘質土で，下層は淡茶灰色粘質土に明茶黄色粘質土（地山）のブロックを含む。竪穴住居内での遺構の検出状況からみると壁溝と南部で検出した土坑状の落ち込みは下層上面から掘り込まれていることが解る。また，下層下面で遺構を検出していないことから，床面は下層上面で，下層は竪穴住居構築時の張り床の可能性が考えられる。

竪穴住居からは弥生土器が出土している（第６図１～６）。

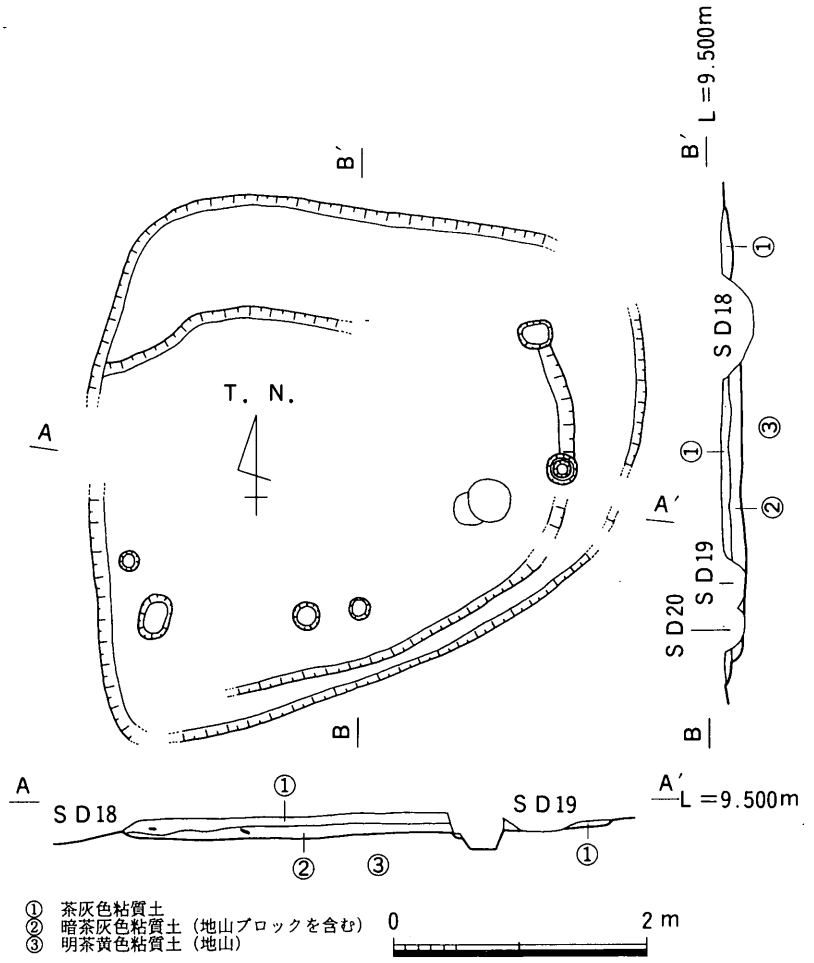
１～５は壺である。１は口縁がほぼ水平に延び，端部外面に斜格子文を刻む。また，口縁部には上下方向で，不規則に穿孔がみられる。２は頸部下端には押捺凸帯を貼り付ける壺である。頸部は外反しながら上方に延び，上面にやや拡張した水平面を持つ。口縁端部外面には刻み目を施す。３は頸部が「く」の字に屈曲し，直線的に短く延びるものである。頸部には押捺凸帯を貼り付け，端部外面には斜線文を施す。４は直行する頸部外面に断面三角形の刻み目凸帯を貼り付ける壺である。５は壺の底部である。６は「ハ」の字に開く高坏の脚である。

図化できなかったがサヌカイト片や甕が出土しており，甕は器厚が２～３㎜前後と薄く，体部外面に３㎜前後の縦方向のヘラ磨きあるいは細かい刷毛目を持つ。

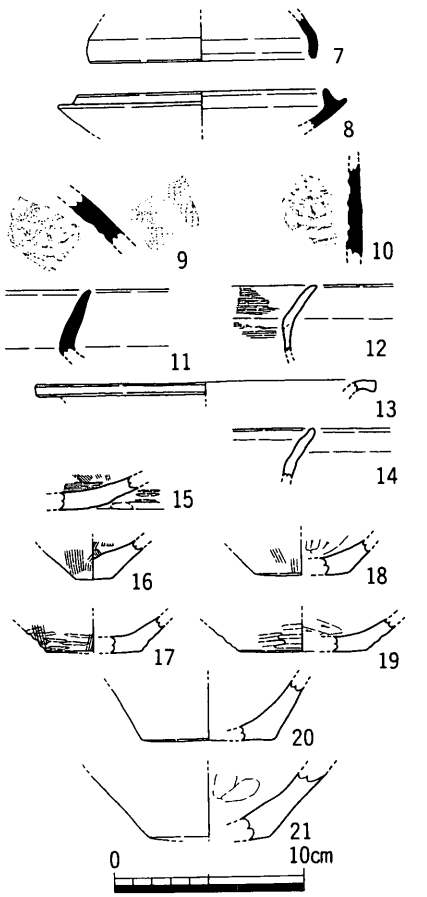
時期は，甕の特徴及び壺の口縁端部に凹線文がみられないことから弥生時代中期中葉と思われる。

ＳＨ02（第７図）

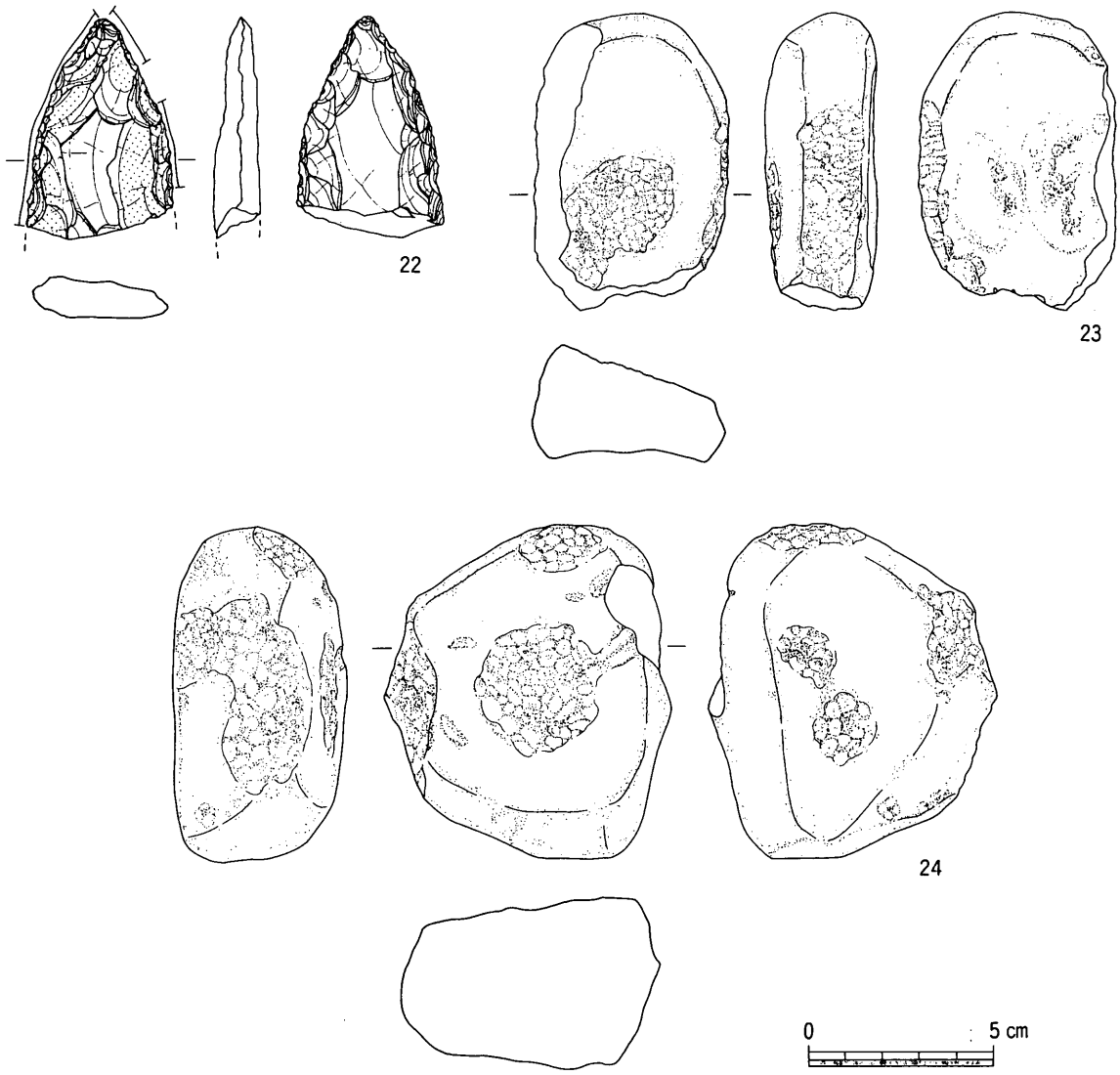
ＳＨ02は調査区北部で検出した竪穴住居である。かなり削平を受けており，南東隅が確認で



第７図　ＳＨ02平・断面図



第８図　ＳＨ02出土遺物実測図①



第９図　ＳＨ02出土遺物実測図②

きなかった。しかし，残存部から平面形態は隅丸方形を呈するものと思われ，規模は推定で一辺約4.30mで，残りのいい部分で検出面からの深さ約0.16mを計る。南北主軸はほぼ真北を取る。周囲（北・東・南側）にベッド状遺構らしきものが残る。検出床面に柱穴を検出したが，不規則で，竪穴住居の主柱穴は確認できなかった。

埋土は検出面からの掘込みが浅いため部分的に単層になるが，やや深い部分では上下２層からなる。上層は茶灰色粘質土で，下層は暗茶灰色粘質土に明茶黄色粘質土（地山）のブロックを含む。

竪穴住居からは須恵器・土師質土器・弥生土器・サヌカイトが出土している（第８・９図７～24）。

７～12は上層出土遺物である。７は須恵器坏蓋，８は須恵器坏身である。図化していないが須恵器坏の底部には，ヘラ切り未調整のものがみられる。９・10は須恵器の甕体部で，内面当具痕の中心部が「花びら状」を呈している。11は須恵器平瓶，12は土師質甕である。

13～24は下層出土遺物である。13は甕の口縁部と思われる。甕には体部外面に叩き痕，内面のヘラ削りを施すものがみられる。14は高坏である。22はサヌカイト製の石槍である。23・24

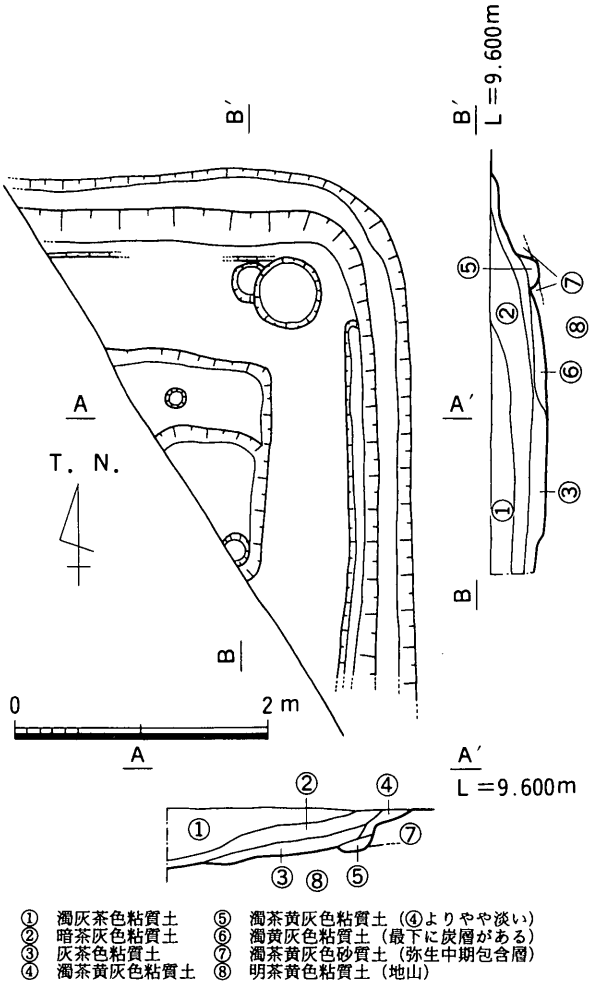
は砂岩製の凹み石である。両者とも側辺に敲打痕が認められることから，敲き石としても使用していた可能性が考えられる。

時期は弥生時代の甕の特徴及び竪穴住居の平面形態並びに南北主軸がＳＨ03と同方向であることから弥生時代後期中葉とした。７世紀前半の上層出土遺物は後述するが，ＳＨ03と同様に最終埋没時の遺物としたい。しかし，かなり削平を受けていたため，この竪穴住居の時期については参考程度に止めたい。

ＳＨ03（第10図）

ＳＨ03は調査区中央部で検出した竪穴住居である。調査区内で竪穴住居の北東部を検出した。平面形態は隅丸方形を呈するものと思われ，規模は推定で一辺約４ｍ以上のもので，検出面からの深さ約0.44ｍを計るかなり残りのいいものである。南北主軸はほぼ真北を取る。掘り方は二段になっており，上段部は幅約20cmで周囲を巡り，深さは検出面から約0.07ｍを計る。北壁際及び西壁際に壁溝が確認でき，北東隅に柱穴，中央部に二段になった方形の土坑を検出した。土坑上段部では0.5cm程度の炭化材が確認でき，周囲に炭層が広がっていることからこの方形の土坑は炉の可能性が考えられる。

埋土は大別して４層に分層でき，第①～③層はレンズ状に堆積している。第②～④層からは弥生時代の遺物が出土しており，第①層の濁灰茶色粘質土からは７世紀前半の遺物が出土している。このことから竪穴住居が徐々に埋没し，７世紀前半に完全埋没したもので，埋没時期に至まで凹地であったものと考えられる。



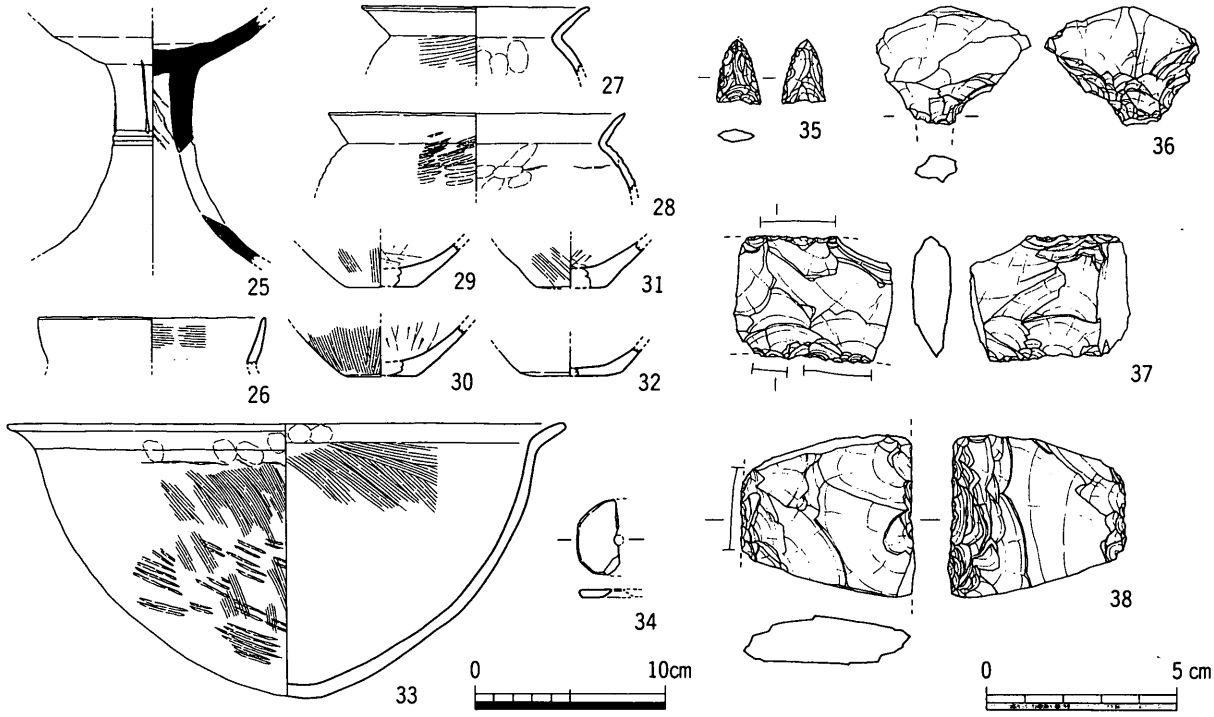
第10図　ＳＨ03平・断面図

竪穴住居からは須恵器・土師質土器・弥生土器・サヌカイトが出土している（第11図25～38）。

25・26は第１層出土の遺物である。25は須恵器高坏で，長脚二段透かしを持つ。透かしは２条の沈線を挟み，上段で対角線状に２箇所，下段で直行するように１箇所みられる。上段のものは内面まで達しておらず，脚体部を完全に切り抜くものではなく，箆により細い透かし状の刻みを入れたものである。26は土師質の甕である。

27・28は炉内出土の遺物である。27・28とも甕で，頸部を「く」の字に屈曲させ，内面にシャープな稜を持つ。体部外面には叩き痕や板なで状の刷毛目が施されている。内面は指頭痕がみられる。

33は床面直上出土遺物である。大型の鉢で，体部外面には叩き痕ののち刷毛目が，内面は上部のみ刷毛目が施されている。



第11図　ＳＨ03出土遺物実測図

29～32・34～38は第２～４層出土の遺物である。29～32は壺あるいは甕の底部である。34は甕体部を転用した紡錘車である。35はサヌカイト製の石鏃，36はサヌカイト製の石錐，37はサヌカイト製の石鎌，38はサヌカイト製の打製石斧である。

時期はレンズ状に堆積した第１層から７世紀前半（II型式６段階）の遺物が出土していることと炉内部出土遺物（27・28）及び床面直上遺物（33）から，竪穴住居は弥生時代後期中葉頃のもので，最終埋没が７世紀前半頃と考えられる。

こうした例は近接して発掘調査が実施された川津元結木遺跡でも確認されている。川津元結木遺跡では弥生時代後期後半の竪穴住居ＳＨ06上面で土坑ＳＫ03が検出されているという報告がある。しかし，土層の堆積状況は川津一ノ又遺跡竪穴住居ＳＨ03と同様であり，またレンズ状堆積から土坑ＳＫ03が７世紀前半に掘削されたものではなく自然堆積したものと考えられる。このことから当遺跡周辺の弥生時代後期の竪穴住居は，完全に埋没するまでに約400年ほどの期間を要したことが推定できる。

ＳＨ04（第12図）

ＳＨ04は調査区中央部で検出した竪穴住居である。平面形態は方形を呈し，北辺に造り付けの竈を持つ。規模は東西約3.25m，南北約3.20mで，検出面からの深さ約0.28mを計る。南北主軸は真北から約35.0°西偏する。竈は燃焼部が円形で，その前部に焼成部の焼土面がみられる。煙突部は削平され，溝状に延びる。焼成部前面に炭層が広がっている。また，焼成部両端は土手状に丸く延び，焼成部前面は焼成部右側隅も含めて約８cmほど高くなっている。南辺中央部は階段状になっており，その前面に小範囲ではあるが炭層が広がる。主柱穴は４本で，コーナーで確認されている。

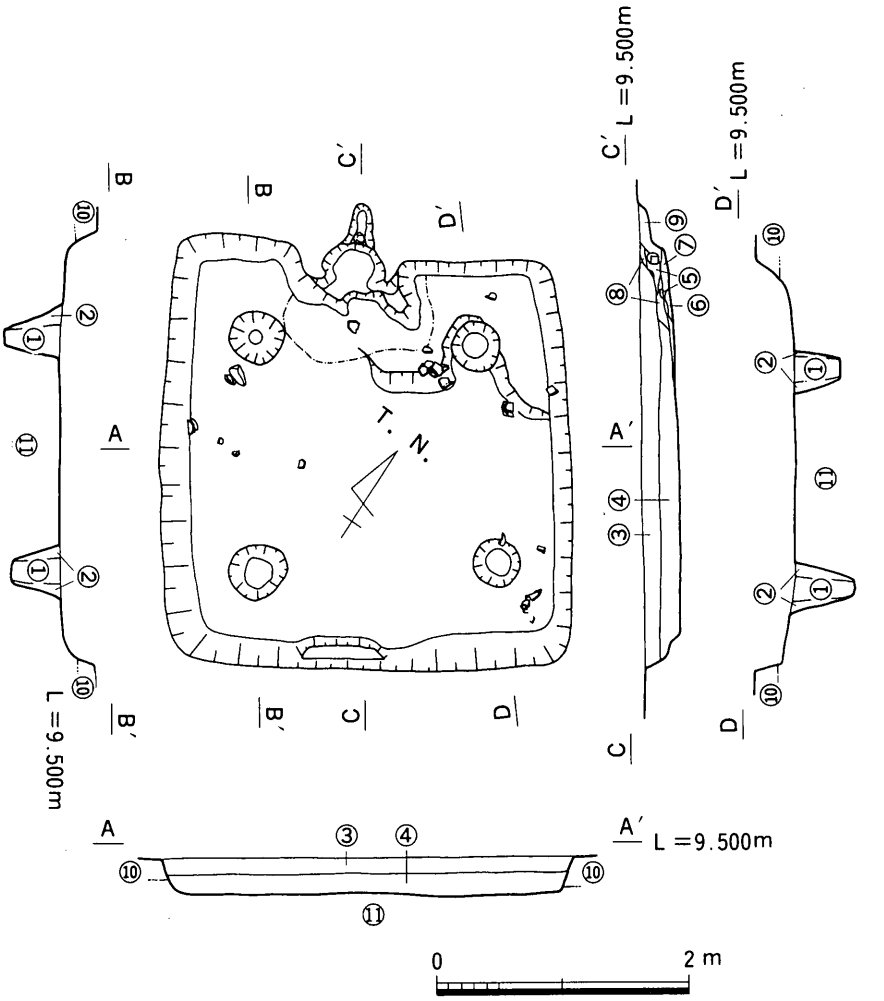
埋土は住居内は大別して２層に分層でき，ほぼ水平堆積を呈する。焼成部および煙突部は焼土面（焼土層）がみられ，燃焼部も含めて炭層が堆積している。上部には燃焼部天井と思われ

る焼土層が堆積する。また，上部焼土層と炭層間には二次的に加熱された焼成台と思われる10cm程度の砂岩が確認された。主柱穴埋土は柱痕層と埋戻し層の２層に分かれ，柱痕層から約18cm程度の柱材を使用していたと思われる。

竪穴住居内からは須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第13図39～73）。

遺物は上層・下層・竈内・床面直上遺物に分けて取り上げた。

39～55は上層出土遺物で，須恵器高台付坏身・坏蓋，高坏脚や回転台土師器坏蓋，回転台土師器坏（52），土師質の甕がある。39～41は須恵器蓋で，口縁端部の屈曲が小さく，短い。42～45は須恵器坏身で，底部縁辺部に断面方形の高台が付く。46～49は須恵器高坏の脚部と思われる。50は須恵器甕の体部で，内面の当具痕が同心円状を呈する。51・52は回転台土師器の蓋と坏である。53～55は土師質甕である。



① 淡茶色粘質土（柱痕）
② 淡茶色粘質土（地山ブロックを含む）
③ 茶灰色粘質土
④ 灰茶色粘質土（濁白黄色粘質土のブロックを含む）
⑤ 茶灰色粘質土
⑥ 焼土
⑦ 炭層
⑧ 濁茶黄色粘質土
⑨ 茶黄色粘質土
⑩ 茶灰色粘質土
⑪ 明茶黄色粘質土（地山）

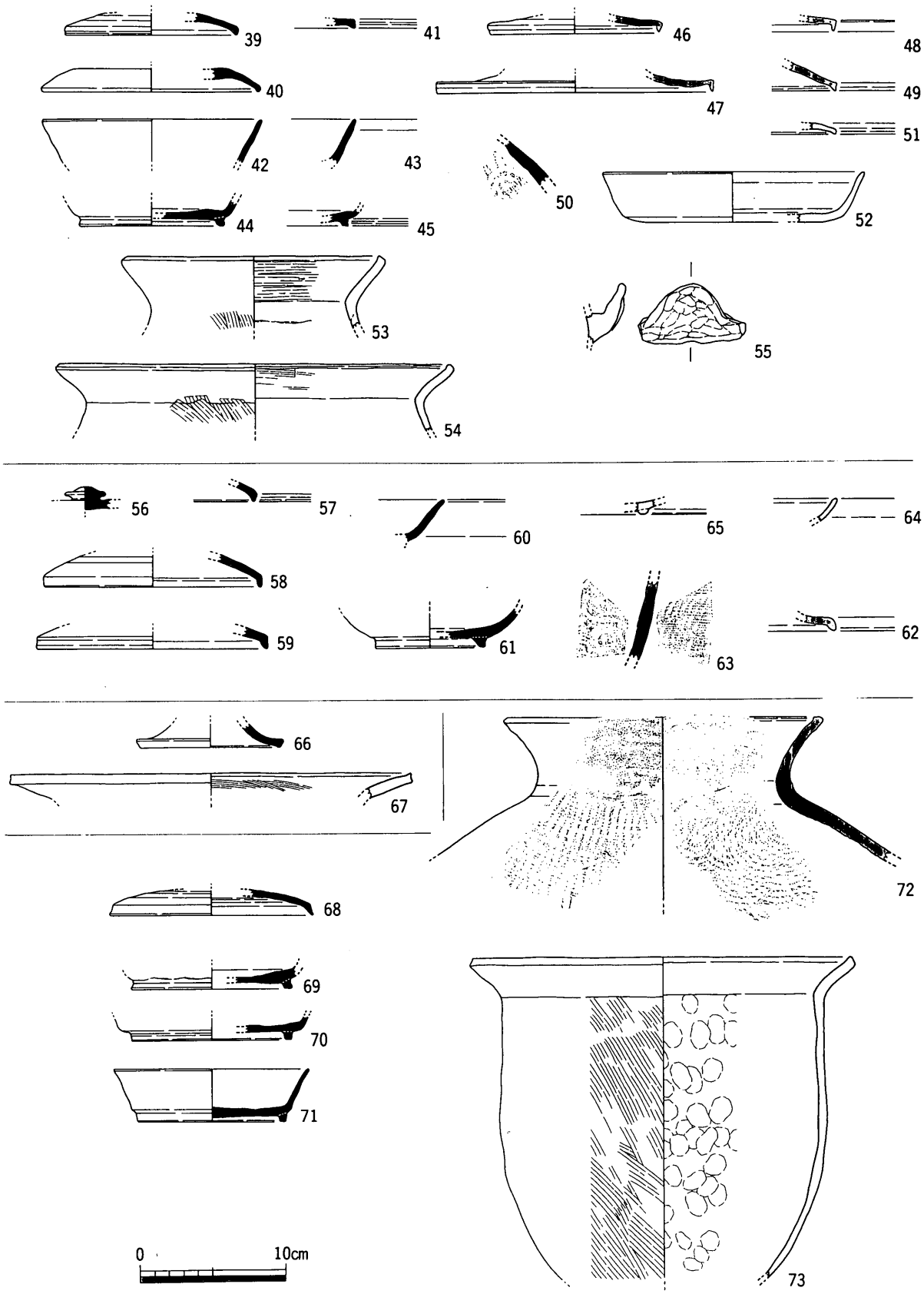
第12図　ＳＨ04平・断面図

56～65は下層出土遺物で，土師器の坏（64）を除くとほぼ上層と同様な器種が出土している。須恵器坏蓋は口縁端部の屈曲がしっかりしており，天上部につまみが付く。61は須恵器高台付坏としたが，底部と体部の境が明瞭ではなく，椀に近い。62は須恵器高坏脚，63は須恵器甕の体部で，50と同様に内面の当具痕が同心円状を呈する。64は土師器坏で，口縁端部をやや丸く肥厚させる。65は回転台土師器の高台付坏である。

66・67は竈内出土遺物である。66は須恵器高坏の脚で，67は土師質甕である。

68～73は床面直上の遺物である。68は須恵器蓋で，69～71は須恵器高台付坏である。71は底部縁辺部に断面方形の高台が付き，体部は直線的に外上方に延び，口縁部近くでやや外反する。口縁端部はシャープに作られている。72は須恵器甕である。73は土師質長胴甕である。

時期は上層及び下層出土遺物が７世紀後半から８世紀前半の時期で，竈出土遺物は７世紀，床面直上遺物は７世紀末から８世紀前半頃と思われる。



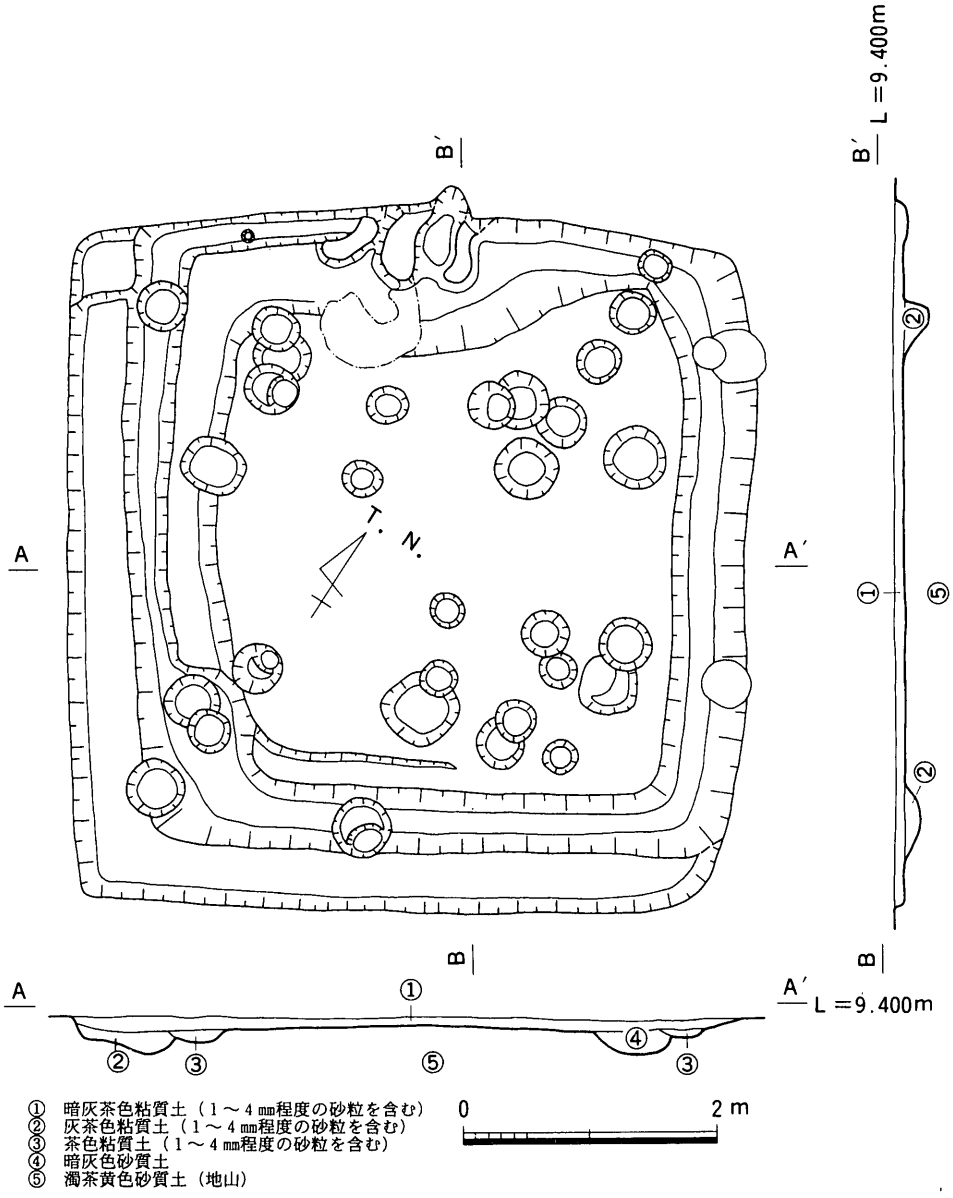
第13図　ＳＨ04出土遺物実測図

したがってこの竪穴住居の時期は7世紀末から8世紀前半頃と考える。

ＳＨ05（第14図）

ＳＨ05は調査区南部で検出した竪穴住居である。平面形態は方形を呈し，北辺に造り付けの竈を持つ。規模は東西約5.40m，南北約5.60mで，検出面からの深さ約0.08mを計る。南北主軸は真北から約33.0°西偏する。竈は燃焼部が楕円形で，その前部に焼成部の焼土面がみられる。煙突部はかなり削平されており，溝状に短く延びる。焼成部左側に焼土層が広がっている。また，焼成部両端は燃焼部から土手状に短く延びる。周囲に25～50cm程の溝を巡らせ，西辺部及び南辺部はその溝が二段になっており，上段幅は約120cmで，深さは検出面から約0.15mを計る。主柱穴はコーナーに4本と考えられるが，床面で多数柱穴を検出していることと溝内部コーナーに柱穴が確認できることから，数回の建替えがあった可能性がある。また建替えについては土層断面に溝状の落ち込みがみられることから当初前述した規模のものを，西辺及び南辺を縮小し一辺約4.90mの竪穴住居にしたかあるいは柱間のみを縮小した可能性が考えられる。

埋土は検出面からの掘込みが浅いため単層である。



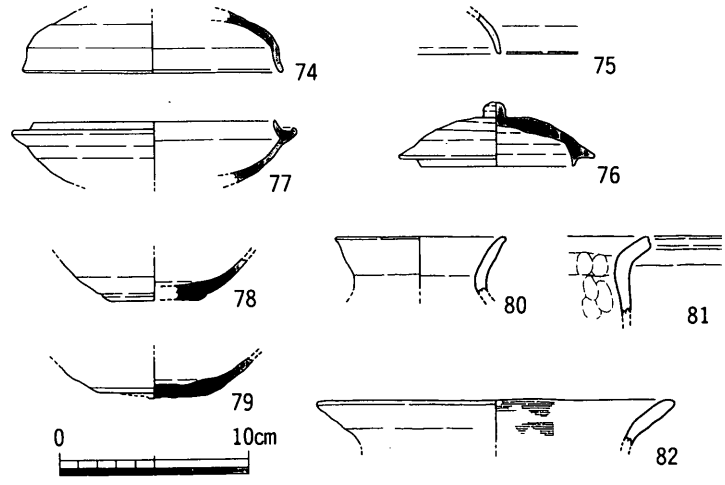
第14図　ＳＨ05平・断面図

竪穴住居からは須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第15図74～82）。

76は北辺壁溝からの出土で，それ以外は埋土からである。

74～79は須恵器坏身・坏蓋で，74・77のように口径がやや大振のものもみられる。78・79は須恵器坏身の底部で，ヘラ切り未調整である。80は土師質土器の壺である。81・82は土師質甕である。

時期は７世紀前半頃と思われる。



第15図　ＳＨ05出土遺物実測図

２．掘立柱建物（ＳＢ01～19）

掘立柱建物は調査区中央部及び北部で，19棟検出した。それらの検出状況は大別して調査区北部と中央部の２群に分けられる。調査区北部においては弥生時代から中世にかけての柱穴を多数検出しているが，それに比べ掘立柱建物はあまり確認できていない。これは全て調査担当者の不徳のかぎりである。一方，調査区中央部は弥生時代と古代を中心とする柱穴が検出され，古代の掘立柱建物が多数検出している。また，柱穴の形状からみると北部は直径20～30cm程度の円形の柱穴を主とし，中央部は一辺70～80cmの方形の柱穴を主として検出している。

時期は北部が中世を主とし，中央部が古代（７世紀から８世紀前半）を主としている。

掘立柱建物においても遺構番号を北部から付けており，その順に説明したい。

ＳＢ01（第16図）

ＳＢ01は調査区最北端で検出した掘立柱建物で，すぐ北側には併行して流路を取るＳＤ01がある。この溝ＳＤ01からはＳＤ02とＳＤ03が南に延びており，ＳＢ01の検出状況から，そのＳＤ02が西を区切る溝であることがわかる。規模は梁間２間×桁行３間（3.88×5.04m）である。西部１間には棟持ち柱がある。柱穴形は円形を呈し，直径約0.25m前後で，検出面からの深さは約0.14m前後を計る。ほぼ東西棟のもので，主軸（南北軸）は真北から18.0°西偏する。

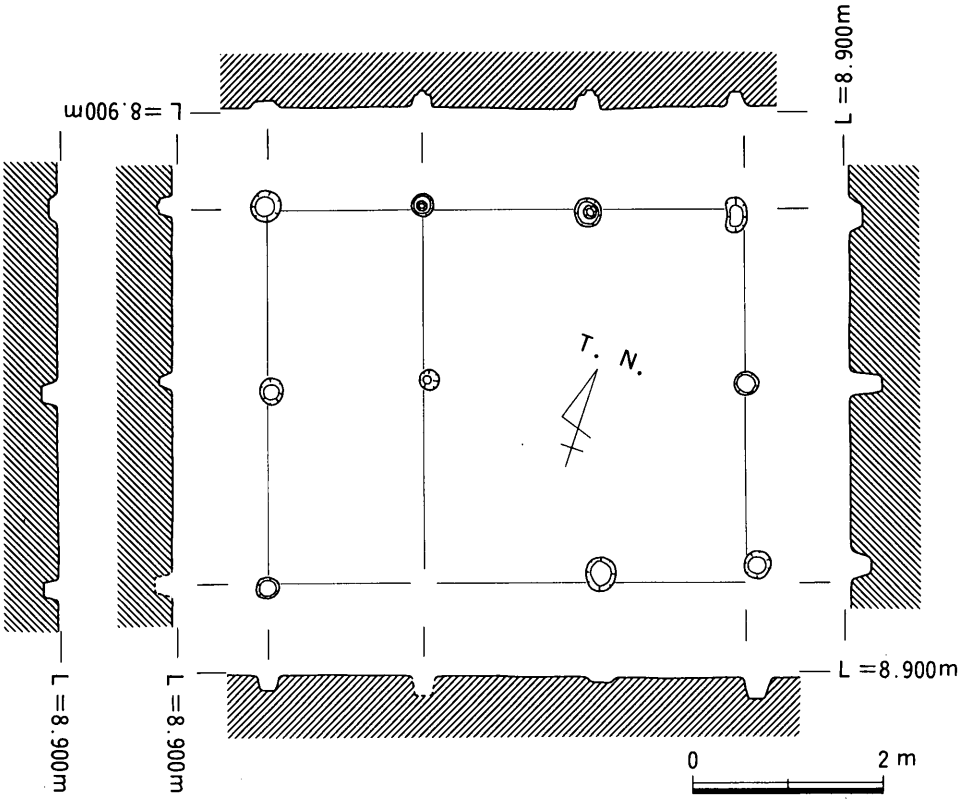
時期は柱穴から出土する細片遺物と柱穴埋土が暗灰白色を呈していることとＳＤ01・02が13世紀であることから，ＳＤ01・02と同時期と考えＳＢ01の時期を13世紀前半とする。

ＳＢ02（第17図）

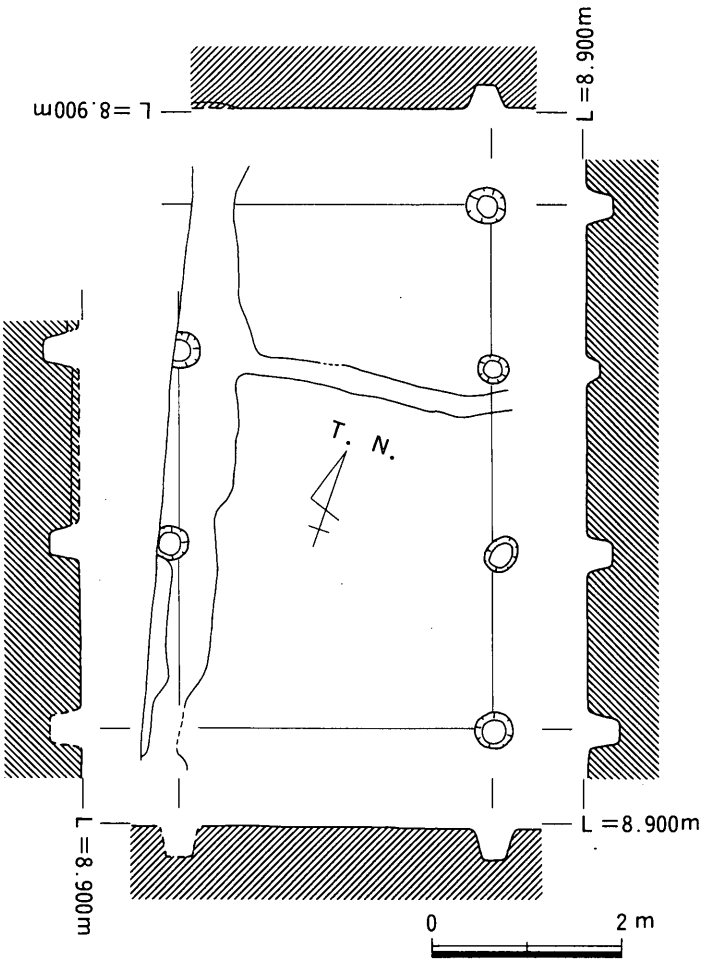
ＳＢ02は調査区最北端で検出した掘立柱建物で，すぐ北側には併行して流路を取るＳＤ01がある。この溝ＳＤ01からはＳＤ02とＳＤ03が南に延びており，ＳＢ02の検出状況から，そのＳＤ03が東を区切る溝であることがわかる。規模は梁間１間×桁行３間（3.30×5.49m）である。柱穴形は円形を呈し，直径約0.37m前後で，検出面からの深さは約0.21m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から19.5°西偏する。

時期は柱穴から出土する細片遺物と柱穴埋土が暗灰白色を呈していることとＳＤ01・03が13世紀であることから，ＳＤ01・03と同時期と考えＳＢ02の時期を13世紀前半とする。

以上のＳＢ01とＳＢ02は遺物においては同時期と考えられるが，検出状況が重複していることからそれぞれは前後関係があるものと考える。また，ＳＢ02の西側列の柱穴がＳＤ02によっ



第16図　ＳＢ01平・断面図



第17図　ＳＢ02平・断面図

て削平を受けており，明らかにＳＢ02とＳＤ03の組合せとＳＢ01とＳＤ02の組合せにおいても前後関係がみられる。このことから判断するとＳＤ01を北限に，ＳＤ03を東限にもつＳＢ02が古く，ＳＤ01を北限に，ＳＤ02を西限にもつＳＢ01が新しいことがわかる。しかし，その時期差は出土遺物の示すとおり短時間で，13世紀前半代に限られる。

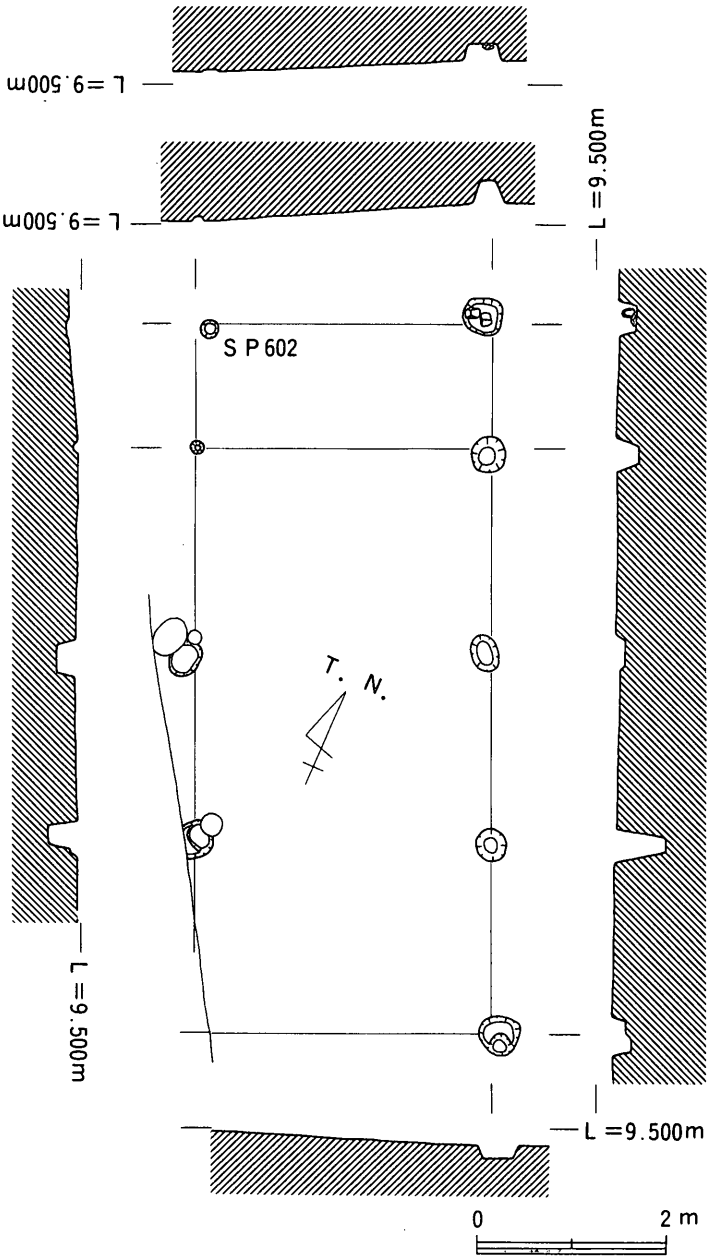
ＳＢ03（第18図）

ＳＢ03は調査区北部で検出した掘立柱建物である。建物西にはほぼ同方向の溝ＳＤ12やＳＤ11があるがその関係は不明である。規模は梁間１間×桁行４間（3.12×6.1m）で，北側に柱穴間1.30mの庇が付く。柱穴形は円形を呈し，直径約0.32m前後，検出面からの深さは約0.18m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から24.0°西偏する。

柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第19図83・84）。

83は須恵器坏蓋で，返りがある小振のもので，84は回転台土師器坏蓋で口縁端部を小さく屈曲させるものである。これらの遺物が出土している柱穴はＳＰ602で，ＳＢ03の庇とした柱穴である。

時期は柱穴出土遺物から７世紀後半頃と考えられる。



第18図　ＳＢ03平・断面図

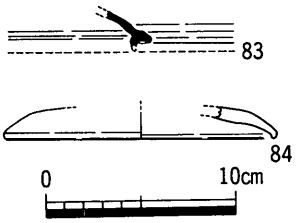
ＳＢ04（第21図）

ＳＢ04は調査区北部で検出した掘立柱建物である。南をＳＤ16に，東をＳＤ17によって区画されている掘立柱建物である。規模は梁間（２）間×桁行４間（（2.80）×5.47m）である。柱穴形は円形を呈し，直径約0.27m前後で，検出面からの深さは約0.18m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から18.0°西偏する。

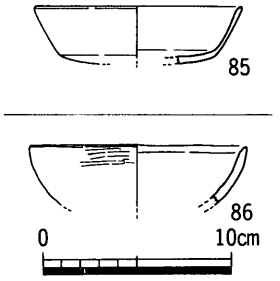
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第20図85・86）。

85はＳＰ343から出土した土師器坏である。底部はヘラ切りである。86はＳＰ335から出土した土師器椀である。口縁部外面にヘラ磨きが認められる。

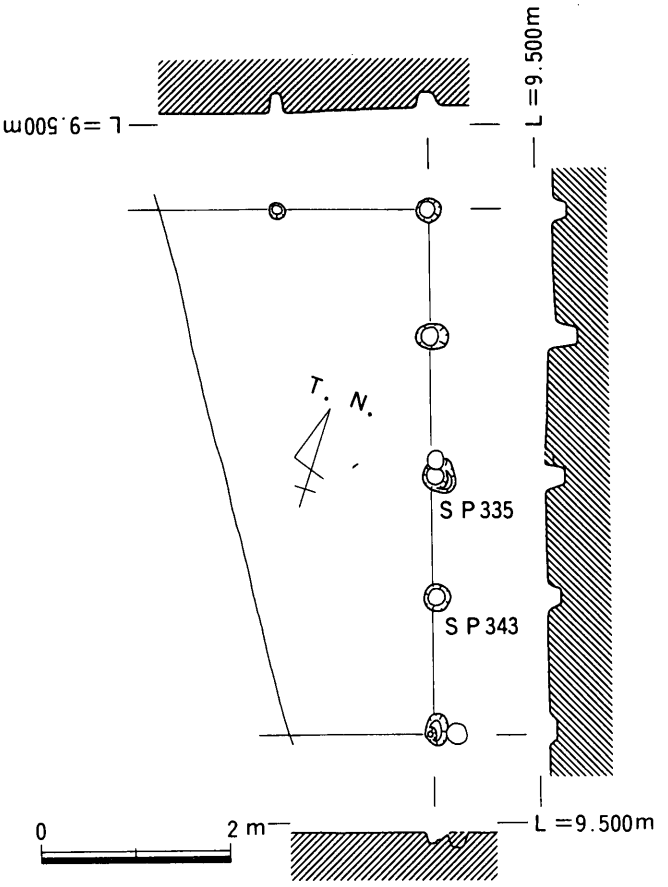
時期は柱穴出土遺物から12世紀末～13世紀前半と考えられる。



第19図　ＳＢ03出土遺物実測図



第20図　ＳＢ04出土遺物実測図



第21図　ＳＢ04平・断面図

ＳＢ05（第23図）

ＳＢ05は調査区北部で検出した掘立柱建物である。南東角の柱穴がＳＤ17の埋没後に掘削されていることからＳＤ17より後出することがわかる。東側部分にＳＤ14がＳＢ05を避けるように確認されている。このＳＤ14は東側に展開する墓域を画する溝でもあり，同時期の墓域と居住域との関係やこの掘立柱建物の性格まで言及できる資料である。規模は梁間１間×桁行２間（2.97×3.81m）である。柱穴形は円形を呈し，直径約0.28m前後，検出面からの深さは約0.20m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から15.0°西偏する。

時期は柱穴から出土する細片遺物と柱穴埋土及び溝ＳＤ14と同時期と考えられ，柱穴埋土が暗灰色を呈していることから中世と考える。

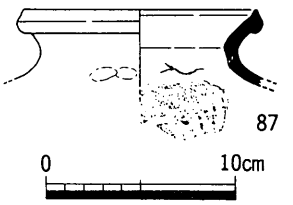
ＳＢ06（第24図）

ＳＢ06は調査区北部で検出した掘立柱建物である。東側を古代の溝ＳＤ11に切られており，全容については不明である。規模は梁間２間×桁行（２）間（3.0×（3.4）m）である。柱穴形はほぼ円形を呈し，直径約0.50m前後，検出面からの深さは約0.20m前後を計る。ほぼ東西棟のもので，主軸（南北軸）は真北から35.0°西偏する。

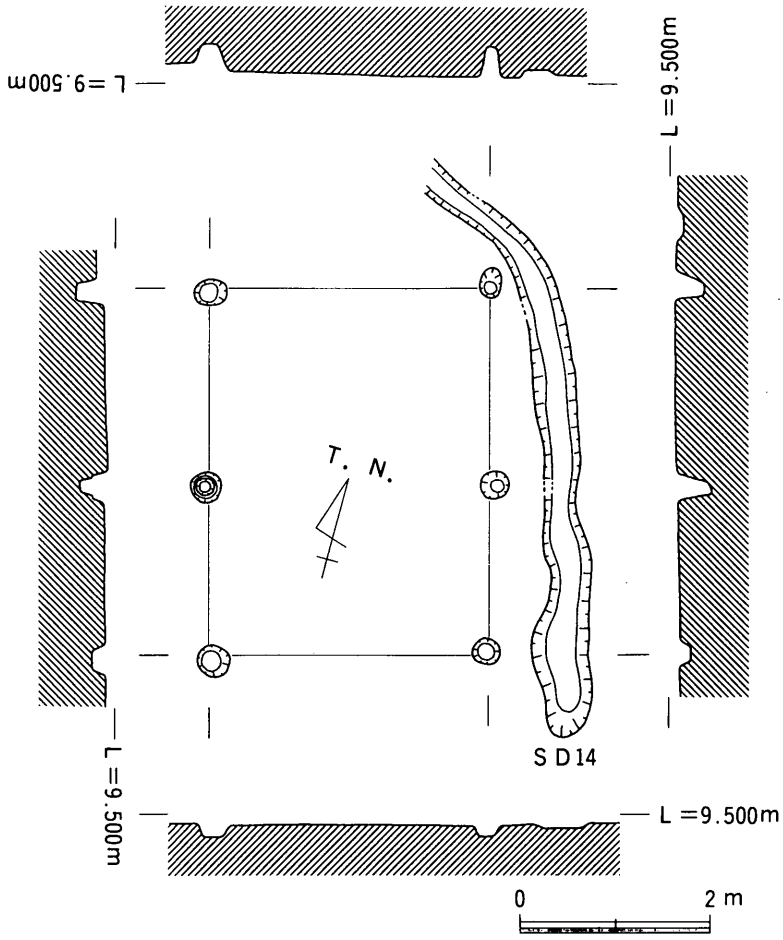
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第22図）。

87はＳＰ836から出土した須恵器甕である。

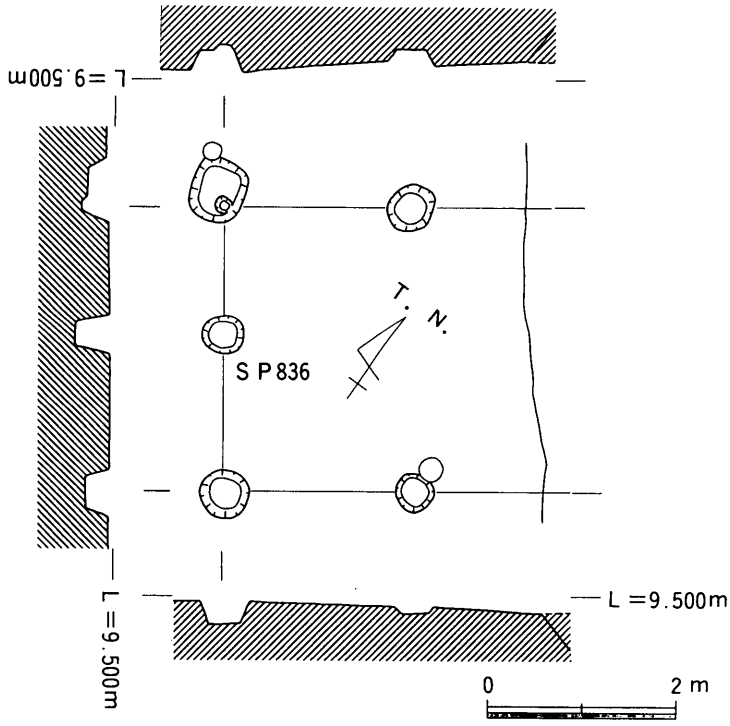
時期は柱穴出土遺物から古代（７世紀頃）と思われる。



第22図　ＳＢ06出土遺物実測図



第23図　ＳＢ05平・断面図



第24図　ＳＢ06平・断面図

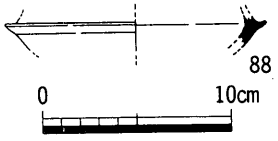
ＳＢ07（第26図）

ＳＢ07は第Ｉ調査区で検出した掘立柱建物で，西部は調査区外に延びており，全容は不明である。調査区内にある柱穴は，ＳＤ17・18によって削平されており，古いことがわかる。規模は梁間（２）間×桁行（３）間（(1.80)×(5.70)m）である。柱穴形は隅丸方形を呈し，一辺約0.53m前後で，検出面からの深さは約0.30m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸(南北軸)は真北から15.0°西偏する。

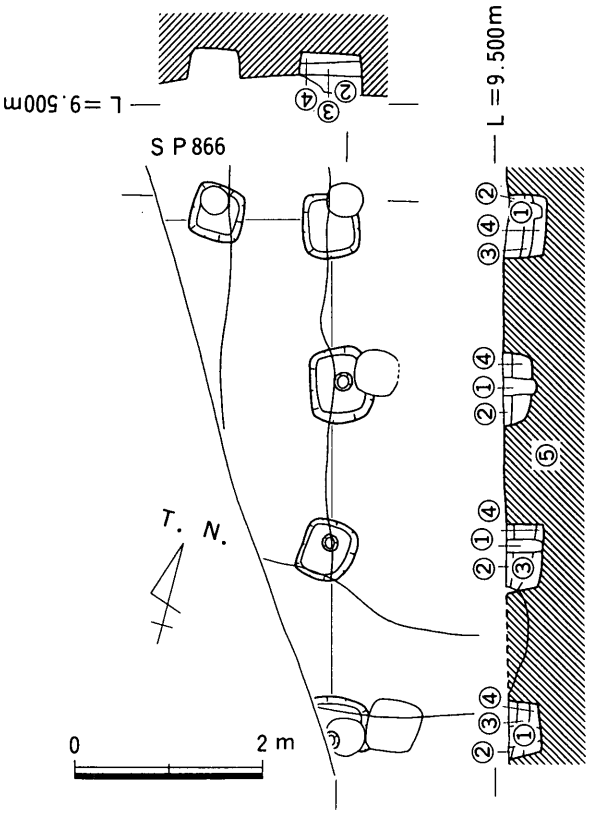
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第25図88）。

88はＳＰ866から出土した須恵器坏身である。

時期は柱穴出土遺物から７世紀前半と考えられる。



第25図　ＳＢ07出土遺物実測図



第26図　ＳＢ07平・断面図

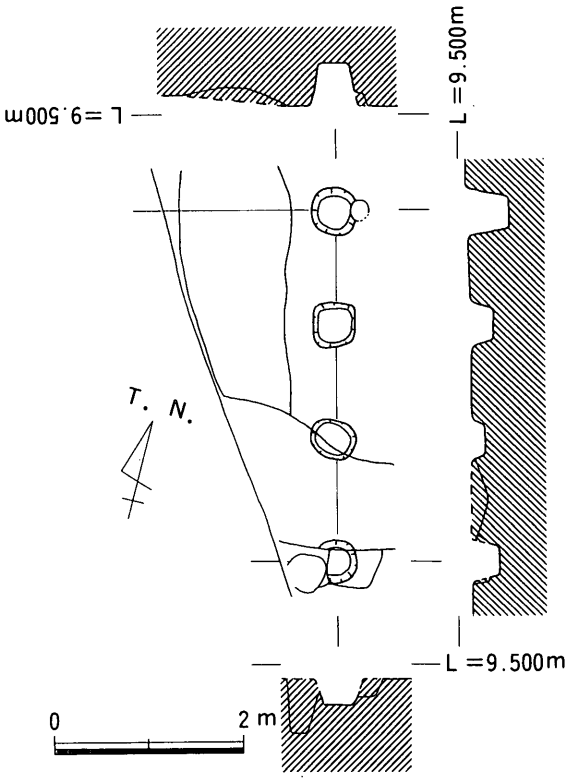
ＳＢ08（第27図）

ＳＢ08は第Ｉ調査区で検出した掘立柱建物で，西部は調査区外に延びており，全容は不明である。調査区内にある柱穴は，ＳＤ18に削平され，ＳＢ07を構成する柱穴を切っている。規模は梁間（１）間×桁行（３）間（(1.80)×(3.70)m）である。柱穴形は隅丸方形を呈し，一辺約0.45m前後で，検出面からの深さは約0.27m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸(南北軸)は真北から15.0°西偏する。

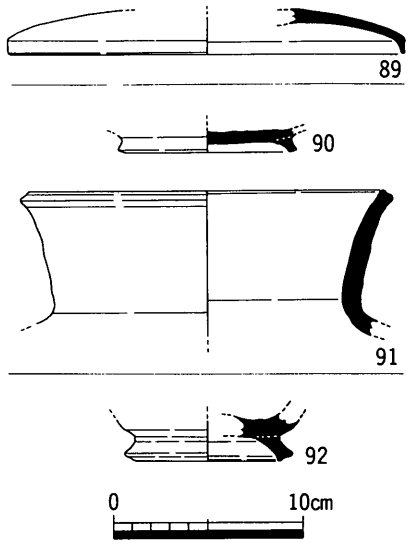
時期は柱穴から出土する細片遺物と柱穴埋土が暗灰黒色を呈していることから古代と考える。また，遺構の切り合い関係から７世紀前半より後出し，14世紀前半より古い。

ＳＢ09（第29図）

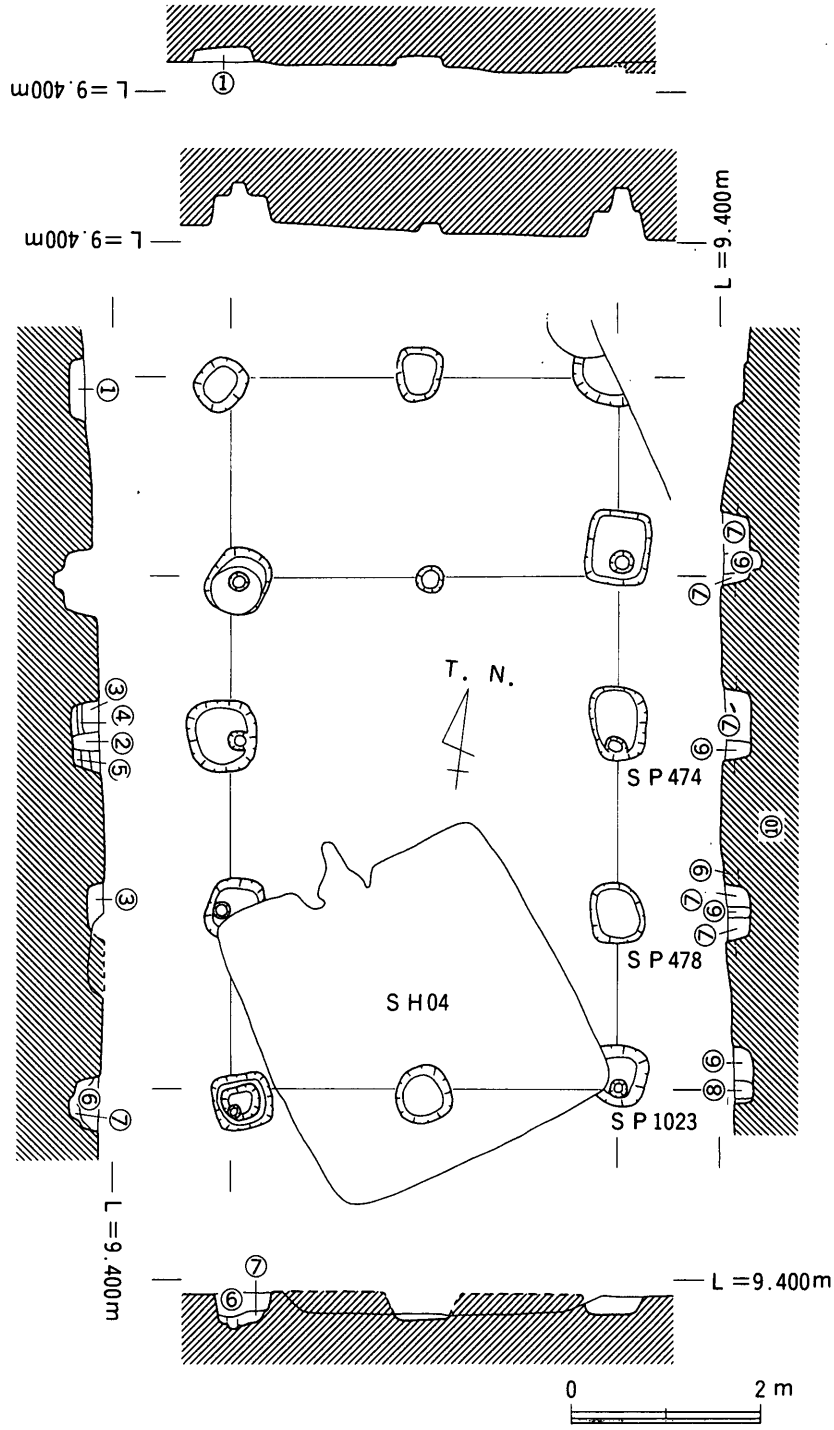
ＳＢ09は調査区中央部で検出した掘立柱建物である。ＳＨ04によって南側の柱穴が切られており，確実にＳＨ04より古いことが解る。また北側ではやや規模の小さい棟持ち柱と思われる柱穴が検出されている。規模は梁間２間×桁行



第27図　ＳＢ08平・断面図



第28図　ＳＢ09出土遺物実測図



① 明茶黄色粘質土（地山）と灰色粘質土の混った土
② 暗灰茶色粘質土（地山ブロックを含む）
③ 灰茶色粘質土（地山ブロックを含む）
④ 灰茶色粘質土（③より地山ブロックが多い）
⑤ 灰茶色粘質土（④より地山ブロックがやや少ない）
⑥ 灰茶色粘質土
⑦ 灰茶色粘質土（地山ブロックを含む）
⑧ 茶色粘質土（柱痕）
⑨ 茶灰色粘質土
⑩ 明茶黄色粘質土（地山）

第29図　ＳＢ09平・断面図

4間（4.08×7.38m）である。柱穴形は隅丸方形を呈し，一辺約0.60m前後で，検出面からの深さは約0.26m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から7.0°西偏する。土層断面から柱痕径が解り，約0.20mの柱であったことが解る。

柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第28図89～92）。

89はＳＰ478から出土した須恵器蓋である。やや低い天井部から口縁端部がほぼ真下に屈曲する。90・91はＳＰ474から出土したもので，90は須恵器高台付坏である。高台は断面方形で，やや外方に踏張る。91は須恵器甕である。92はＳＰ1023から出土した須恵器高台付壺（坏）である。高台は断面方形で外方に強く踏張る。

時期は柱穴出土遺物から7世紀後半頃と考えられる。また，この7世紀後半という時期はＳＢ09を切っている竪穴住居ＳＨ04の時期が，7世紀末から8世紀初頭であることとも矛盾しない。

ＳＢ10（第31図）

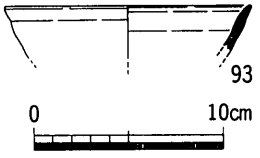
ＳＢ10は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，規模は梁間2間×桁行3間（3.20×4.86m）である。柱穴形はほぼ隅丸方形を呈し，一辺約0.40m前後，検出面からの深さは約0.27m前後

を計る。ほぼ東西棟のもので，主軸（南北軸）は真北から26.0°西偏する。

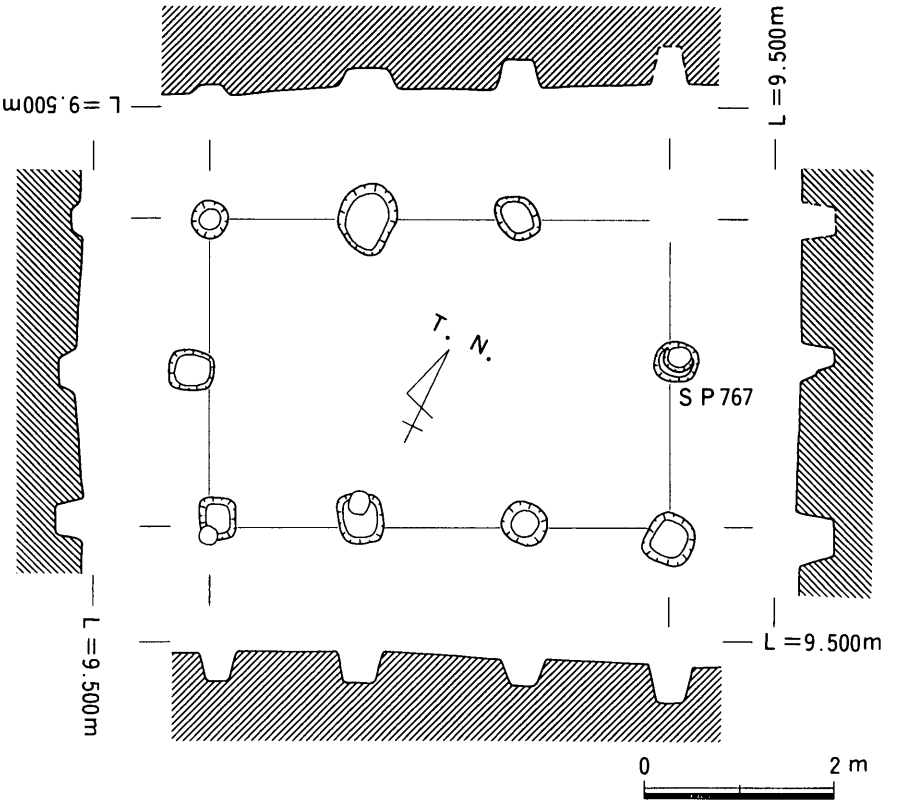
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第30図93）。

93はＳＰ767出土の須恵器坏である。

時期は柱穴出土遺物から古代と考える。



第30図　ＳＢ10出土遺物実測図



第31図　ＳＢ10平・断面図

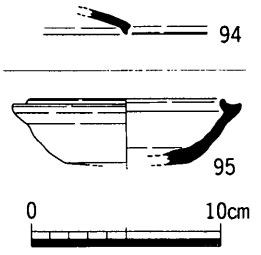
ＳＢ11（第33図）

ＳＢ11は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，西側が調査区外に延びており，全容は不明である。また，ＳＨ03と切り合いがあり，ＳＢ11がＳＨ03を切っている。規模は梁間（２）間×桁行３間（(2.30)×4.78m）である。柱穴形はややコーナーのある円形で，直径約0.47m前後，検出面からの深さは約0.24m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から30.0°西偏する。

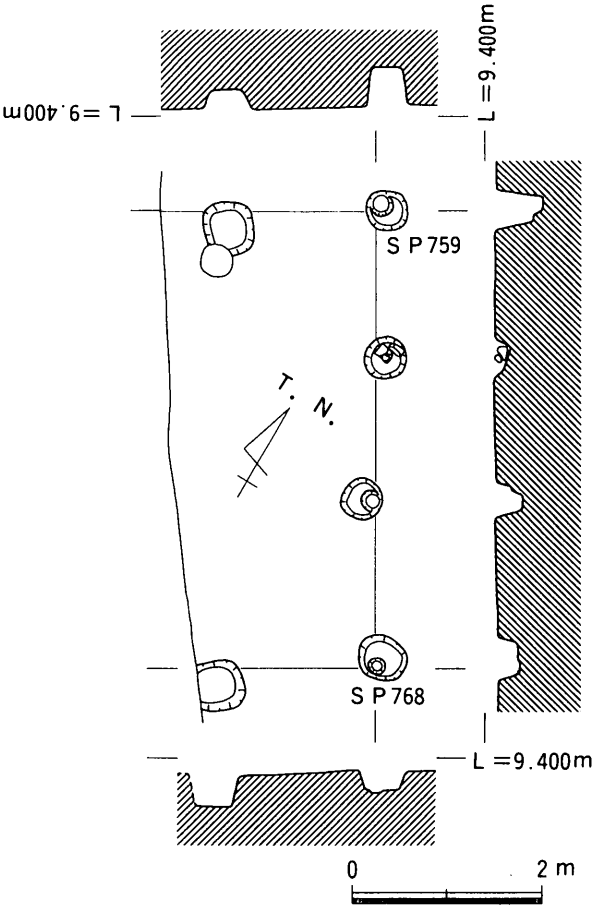
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第32図94・95）。

94はＳＰ759から出土した須恵器坏蓋である。口縁部で短く下方に屈曲する。95はＳＰ768から出土した須恵器坏身である。

時期はＳＨ03の最終埋没時期が６世紀末頃であることからそれより新しく，柱穴出土遺物から７世紀後半頃と考えられる。



第32図　ＳＢ11出土遺物実測図



第33図　ＳＢ11平・断面図

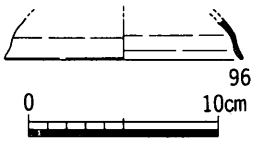
ＳＢ12（第35図）

ＳＢ12は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，南西部が調査区外に延びるため，全容は不明である。規模は梁間１間×桁行（４)間（3.04×（6.00）m）である。柱穴形はほぼ円形を呈し，直径約0.37m前後，検出面からの深さは約0.22m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から9.0°西偏する。

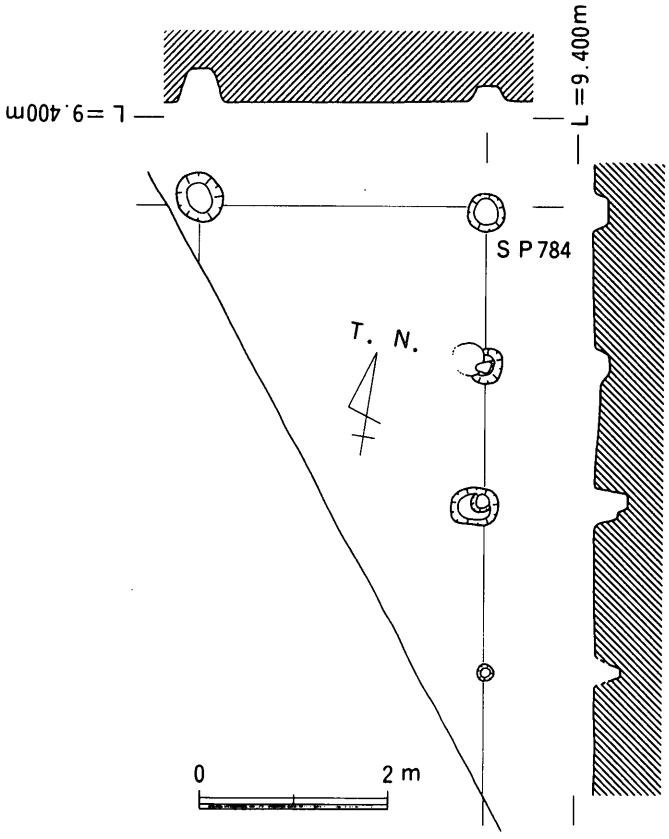
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第34図96)。

96はＳＰ784から出土した須恵器坏蓋である。

時期は柱穴出土遺物から７世紀前半頃と考えられる。



第34図　ＳＢ12出土遺物実測図



第35図　ＳＢ12平・断面図

ＳＢ13（第36図）

ＳＢ13は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，南西隅が試掘トレンチで切られているため，全容は不明である。規模は梁間１間×桁行４間（3.44×6.43m）である。柱穴形は隅丸方形を呈し，直径約0.45m前後，検出面からの深さは約0.24m前後を計る。南北棟のもので，主軸(南北軸）は真北から1.5°東偏する。

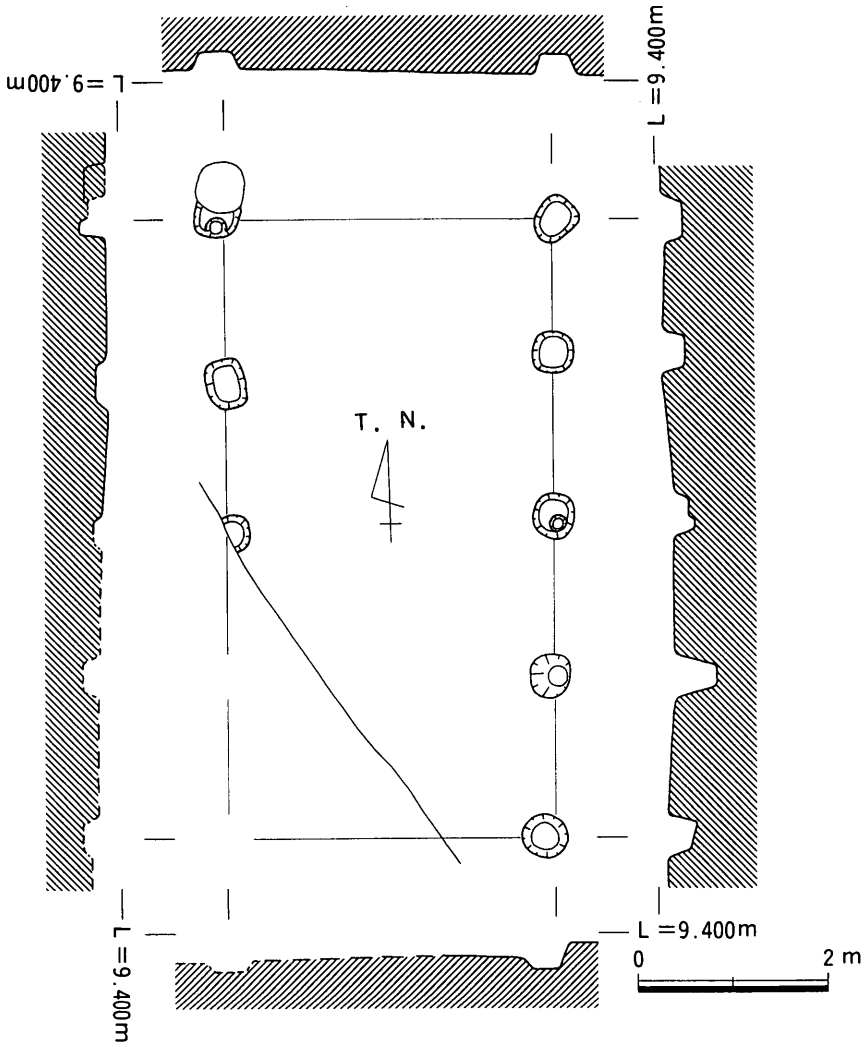
時期は柱穴から出土する細片遺物から古代と考える。

ＳＢ14（第38図）

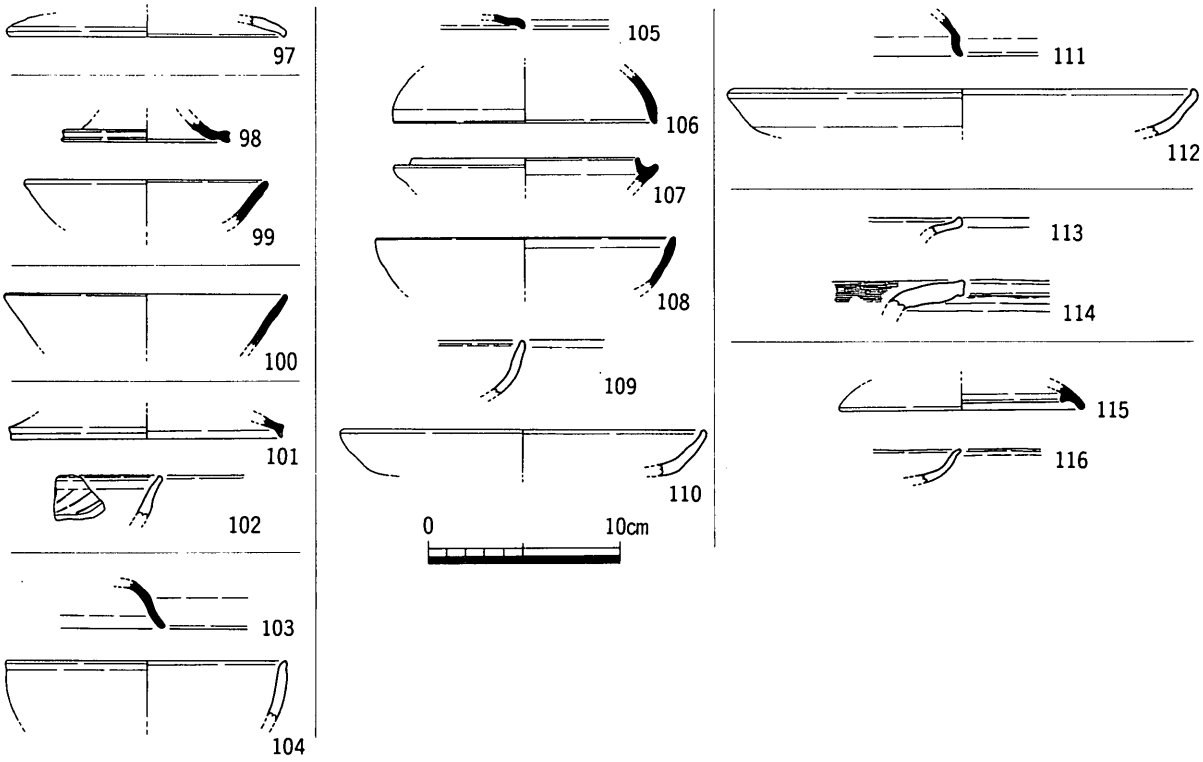
ＳＢ14は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，規模は梁間２間×桁行３間(4.09×6.23m)である。柱穴形は隅丸方形を呈し，一辺約0.56m前後，検出面からの深さは約0.41m前後を計る。土層断面から柱痕径がおおよそ10cm程度であることがわかる。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から19.0°西偏する。

柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第37図97～116)。

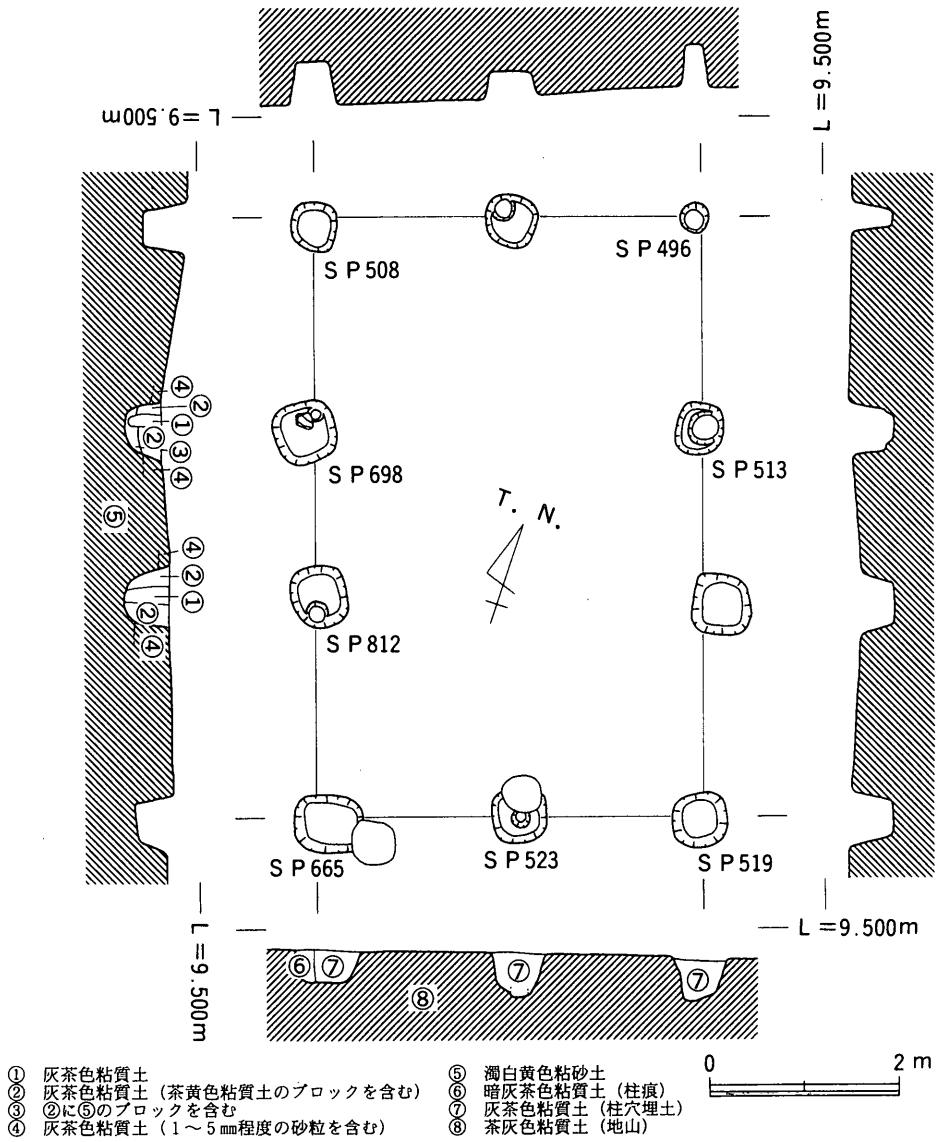
97はＳＰ508から出土した回転台土師器蓋である。口縁端部は小さく丸く折り曲げられている。98・99はＳＰ812から出土したもので，98は須恵器高坏脚である。99は須恵器瓶の口縁である。100はＳＰ496から出土した須恵器高台付坏である。体部は直線的に外上方に延び，口縁端部内面に僅かに凹線が認められる。101・102はＳＰ513から出土したもので，101が須恵器蓋で，口縁端部が稜を持ち，屈曲する。102が土師器坏である。体部内面に右上がりのヘラ磨きが認められる。103・104はＳＰ519から出土したもので，103が須恵器坏蓋で，104が土師器坏である。105～110はＳＰ523から出土したもので，105・106は須恵器坏蓋，107・108は須恵器坏身である。坏蓋には器高の高いものと低いものがあるようで，対応するように坏身にも立ち



第36図　ＳＢ13平・断面図



第37図　ＳＢ14出土遺物実測図



第38図　ＳＢ14平・断面図

上がりのないものと立ち上がりのあるものがある。109は土師器坏，110は土師器皿である。土師器皿は口縁端部内面を小さく折り曲げている。111・112はＳＰ665から出土したもので，111は須恵器坏蓋，112は土師器皿である。土師器皿は口縁端部内面を小さく折り曲げている。113・114はＳＰ812から出土したもので，土師質甕である。115・116はＳＰ698から出土したもので115は須恵器坏蓋，116は土師器皿である。須恵器坏蓋は口縁部内面に退化した返りを持つものである。土師器皿は口縁端部を外方に折り曲げている。

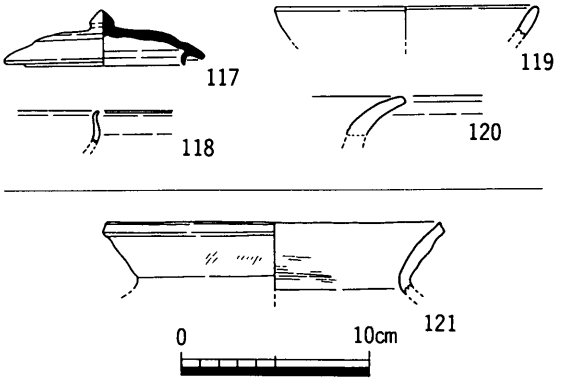
以上柱穴出土遺物をみると大きく須恵器坏蓋・坏身，土師器坏・皿に分けられる。まず須恵器坏蓋は103・106・111のような古墳時代からの系譜を持つものと小さい返りを持つ115，口縁端部を下方に屈曲させるもの97・101までみられる。須恵器坏身では103・106・111とセット関係になる立ち上がりを持つ坏身107もみられるが，多くは高台の付く坏身100・108である。また一方，土師器では坏と皿があり，坏では底部が丸底のもの104，皿では口縁端部を内方に短く屈曲させ，体部内面にはヘラ磨きが施されているもの102などがみられる。

時期は柱穴出土遺物から７世紀後半～８世紀初頭頃と思われる。

ＳＢ15（第40図）

ＳＢ15は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，ほぼ中央を試掘トレンチで削平されており，全容は不明である。規模は梁間２間×桁行３間（4.52×7.75m）である。柱穴形は隅丸方形を呈し，直径約0.47m前後，検出面からの深さは約0.23m前後を計る。ほぼ東西棟のもので，主軸（南北軸）は真北から22.0°西偏する。

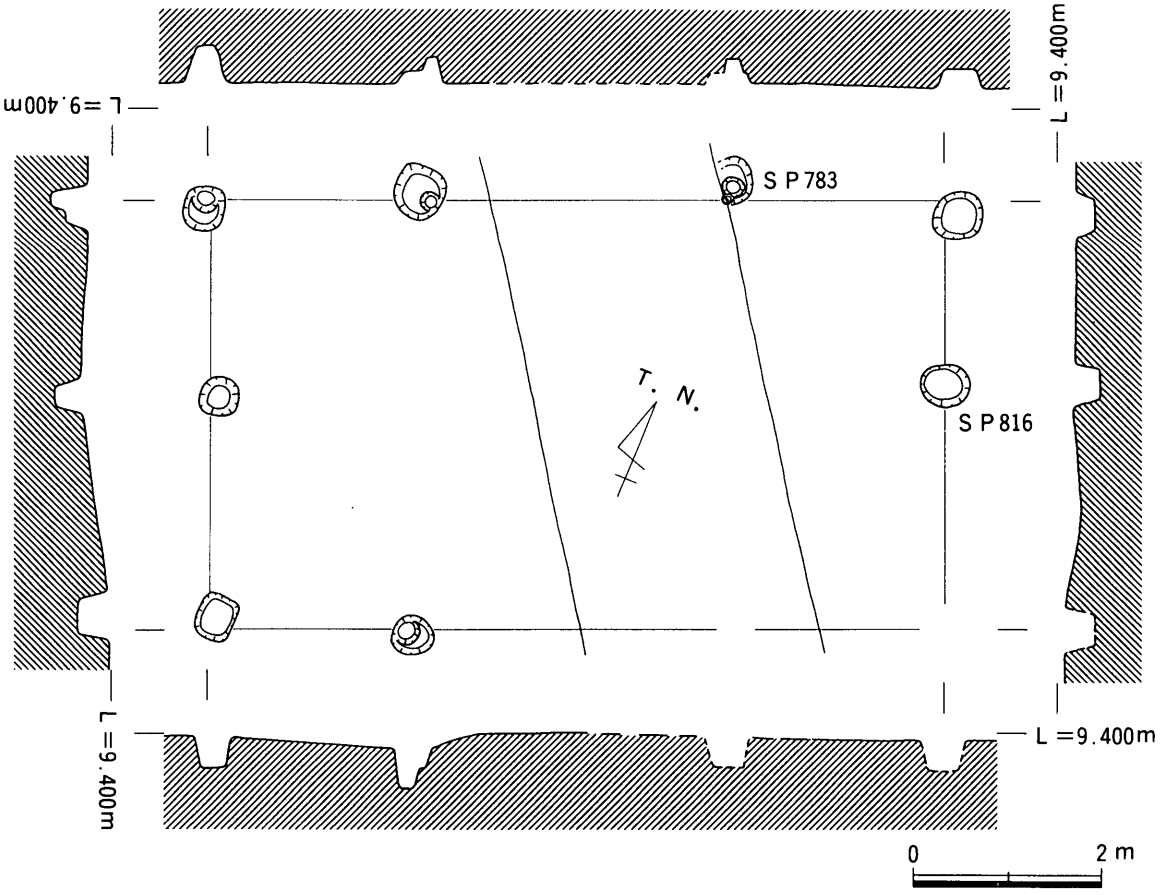
柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第39図117～121）。



第39図　ＳＢ15出土遺物実測図

117～120はＳＰ783から出土したもので，117は須恵器坏蓋，118・119は土師器坏，120は土師器高坏，121はＳＰ816から出土した土師質甕である。

時期は柱穴出土遺物の須恵器坏蓋と土師器坏から７世紀前半頃と思われる。

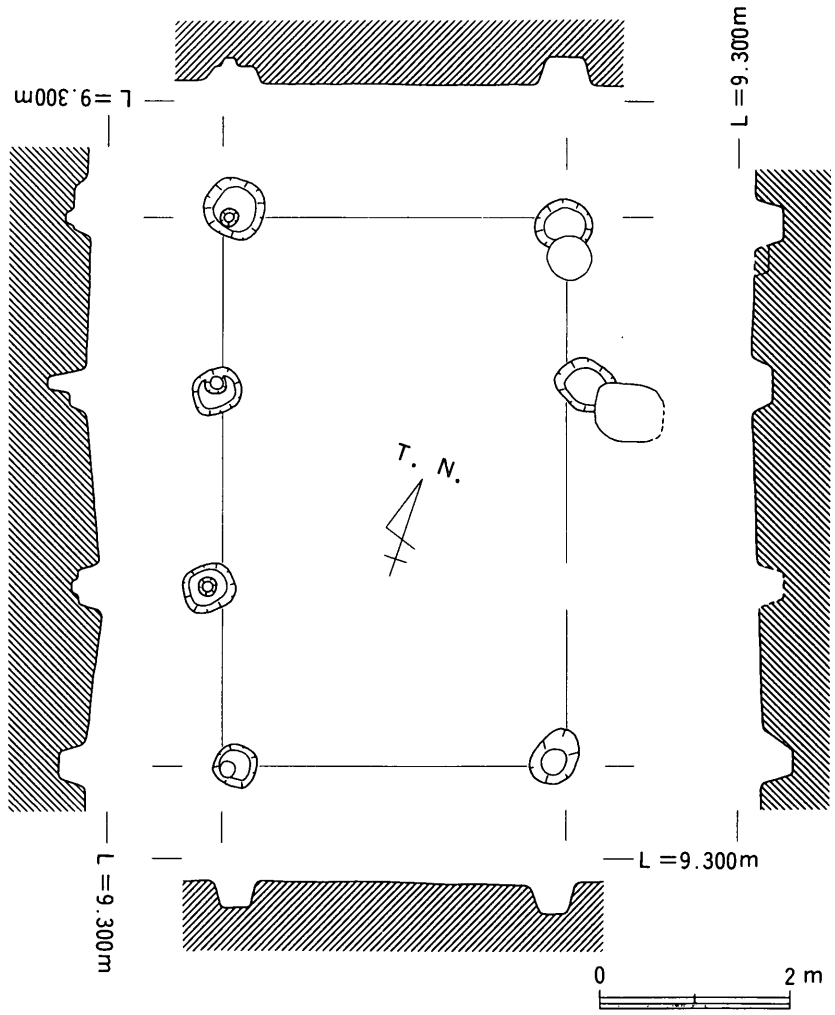


第40図　ＳＢ15平・断面図

ＳＢ16（第41図）

ＳＢ16は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，規模は梁間１間×桁行３間（3.63×5.70m）である。柱穴形は円形を呈し，直径約0.53m前後で，検出面からの深さは約0.24m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から18.5°西偏する。

時期は古代（７世紀）と考えているが，柱穴から出土する細片遺物をみると弥生土器が出土していることから弥生時代の掘立柱建物の可能性も考えられる。



第41図　ＳＢ16平・断面図

ＳＢ17（第43図）

ＳＢ17は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，ほぼ中央を試掘トレンチによって削平されている。規模は梁間１間×桁行３間(3.52×5.60m）である。柱穴形は円形を呈し，直径約0.51m前後で，検出面からの深さは約0.18m前後を計る。ほぼ南北棟のもので，主軸（南北軸）は真北から24.5°西偏する。

時期は柱穴から出土する細片遺物と柱穴埋土が暗灰色を呈していることから古代（７世紀前半）と考える。

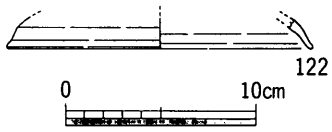
ＳＢ18（第44図）

ＳＢ18は調査区中央部で検出した掘立柱建物で，南西部が調査区外に延びる。規模は梁間１間×桁行３間(2.90×4.97m)である。柱穴は直径約0.40m前後で，検出面からの深さは約0.26m前後を計る。ほぼ東西棟のもので，主軸（南北軸）は真北から0.5°東偏する。

時期は柱穴から出土する細片遺物と柱穴埋土が暗灰白色を呈していることから古代（７世紀前半）と考える。

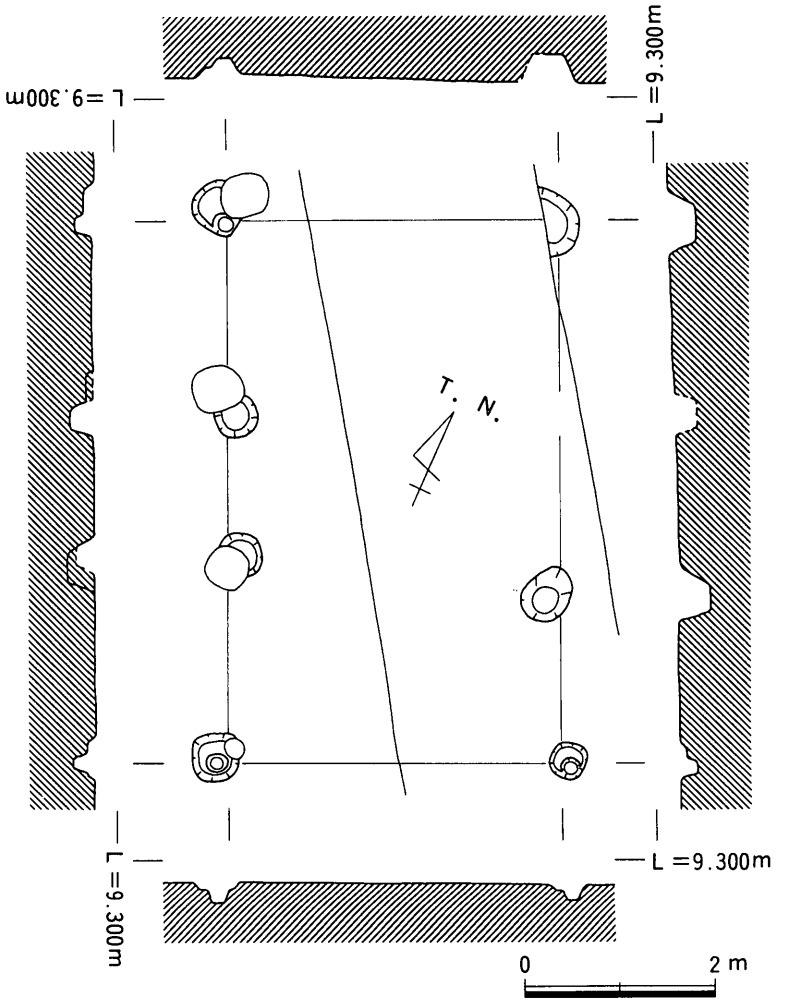
ＳＢ19（第45図）

ＳＢ19は第Ｉ調査区で検出した掘立柱建物で，西部が調査区外に延びており，全容は不明である。規模は梁間１間×桁行（３）間（3.43×（4.70）m）である。柱穴は直径約0.45m前後で，検出面からの深さは約0.21m前後を計る。ほぼ東西棟のもので，主軸(南北軸)は真北から20.0°西偏する。

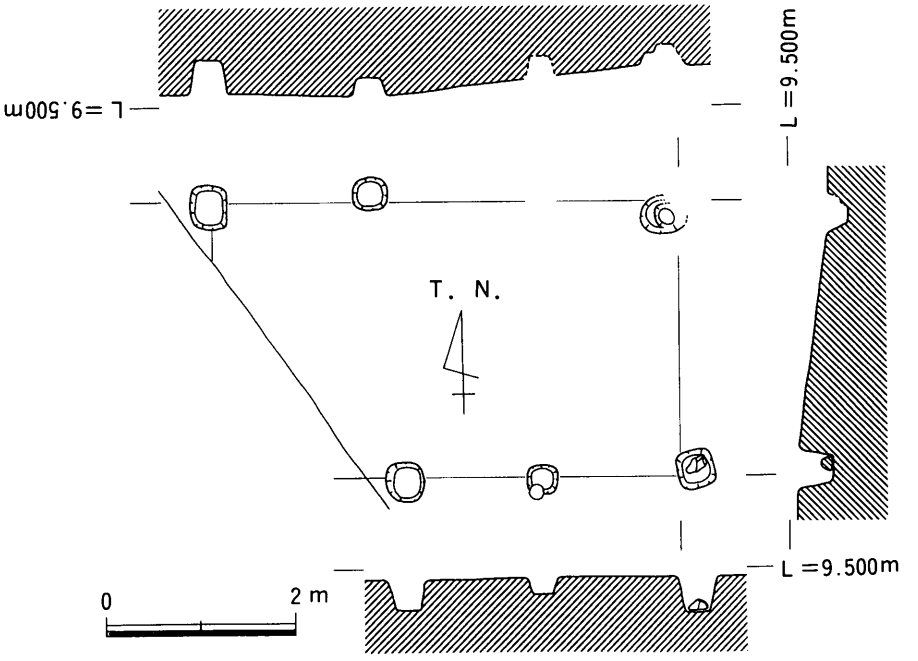


第42図　ＳＢ19出土遺物実測図

柱穴から小片ではあるが遺物が出土している（第42図122)。

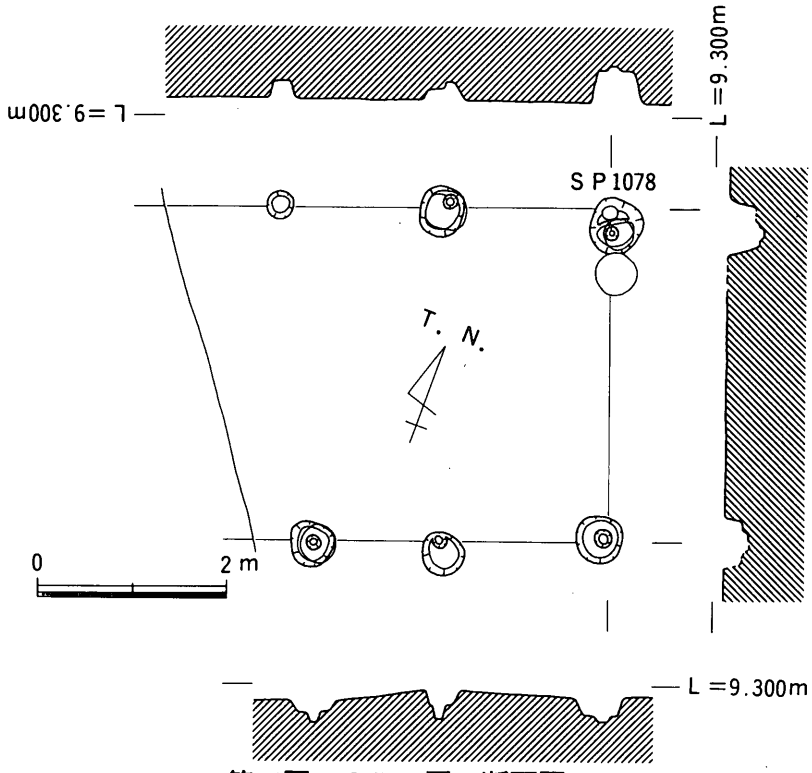


第43図　ＳＢ17平・断面図



第44図　ＳＢ18平・断面図

122はＳＰ1078から出土した須恵器坏蓋である。
時期は柱穴出土遺物から７世紀前半頃と思われる。



第45図　ＳＢ19平・断面図

３．土坑（ＳＫ01～15）

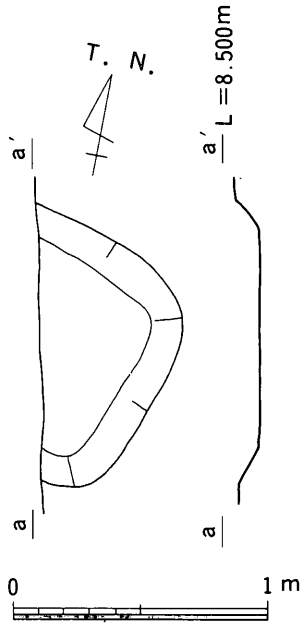
土坑は調査区全域で15基検出している。時期は弥生時代から中世にかけてのもので，中には掘立柱建物に伴うものも検出されている。出土遺物はＳＫ03を除くとあまり出土しておらず，時期を特定できないものもある。

ＳＫ01（第46図）

ＳＫ01は調査区最北端で検出した土坑である。西側が調査区外に延びており，全容は不明である。検出内平面形態から推測すると平面形態は，隅丸方形を呈するものと思われる。規模は一辺約1.15m，深さ約0.09mを計る。

土坑内からは，土師器・土師質土器片が出土している。

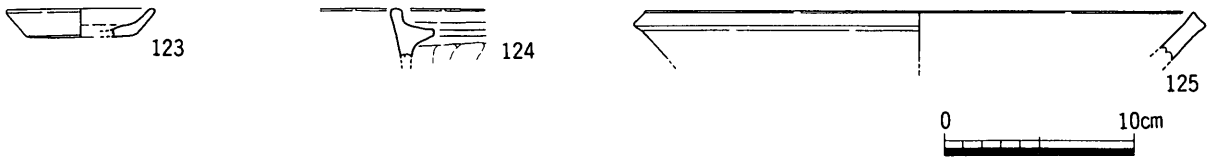
時期は古代と思われる。



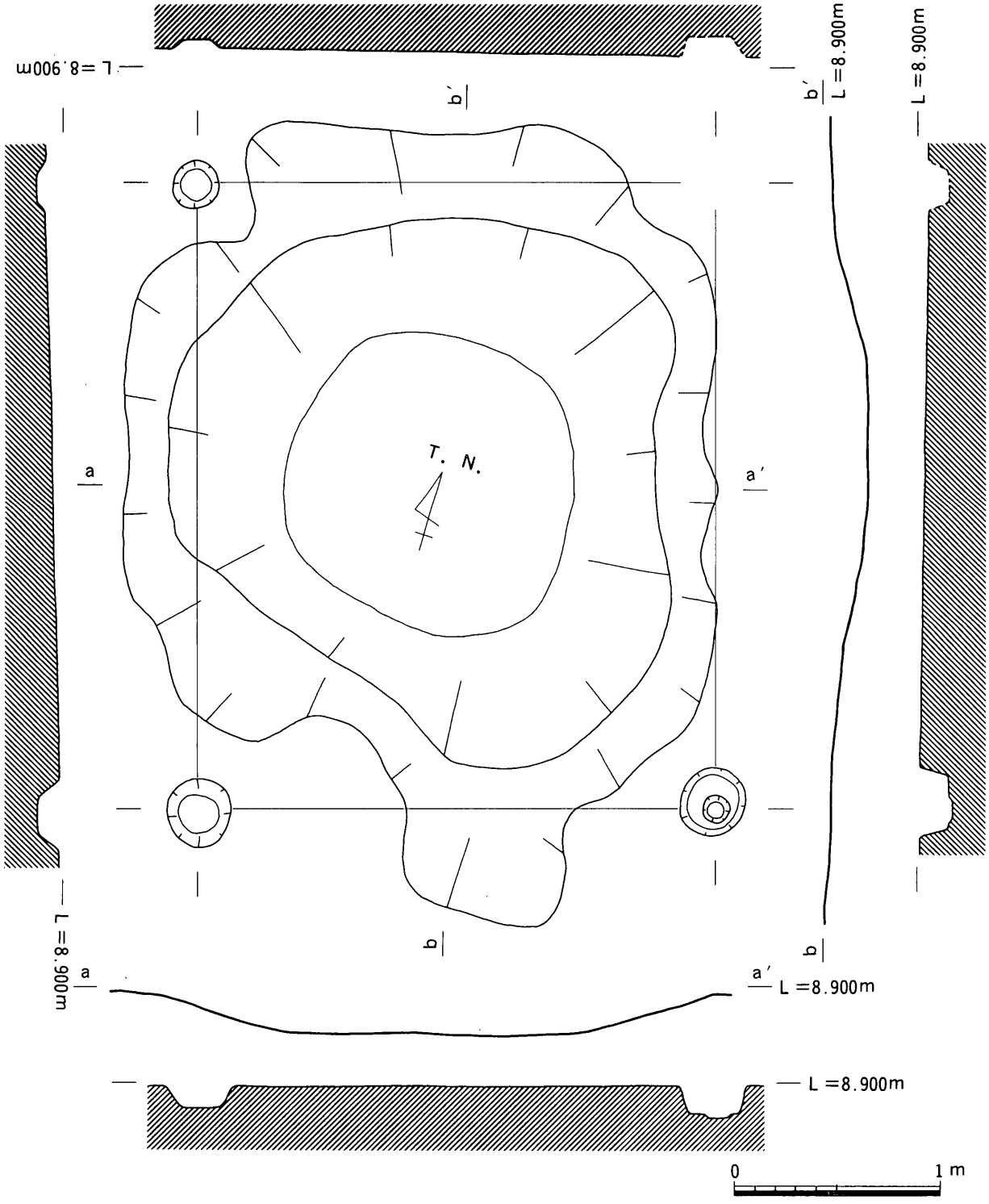
第46図　ＳＫ01平・断面図

ＳＫ02（第48図）

ＳＫ02は調査区最北端で検出した土坑である。平面形態は，やや歪ではあるが方形を呈する。四隅はやや凹み，その部分には柱穴があることから，どうも覆屋的な建物が建っていたと推測できる。すぐ北側にはほぼ方位を同じくする掘立柱建物ＳＢ01・02があり，これら掘立柱建物と同一時期に機能していたものと考えられる。当初井戸の可能性も考えられたが，検出面からの深さがなく，石組みおよび曲げ物等の構造物もないことから，素掘の井戸の可能性が考えられる土坑とした。規模は一辺約2.78m，深さ約0.19mを計る。



第47図　ＳＫ02出土遺物実測図



第48図　ＳＫ02平・断面図

土坑内から土師器小皿・坏，瓦器，瓦質こね鉢，土師質土器，青・白磁片が出土している(第47図123～125)。

123は土師器小皿である。底部はヘラ切りされている。124は土師質土釜である。口縁部の立ち上がりも鍔もやや退化しているものである。125は瓦質こね鉢である。体部外面に僅かに格子目叩き痕が認められる。

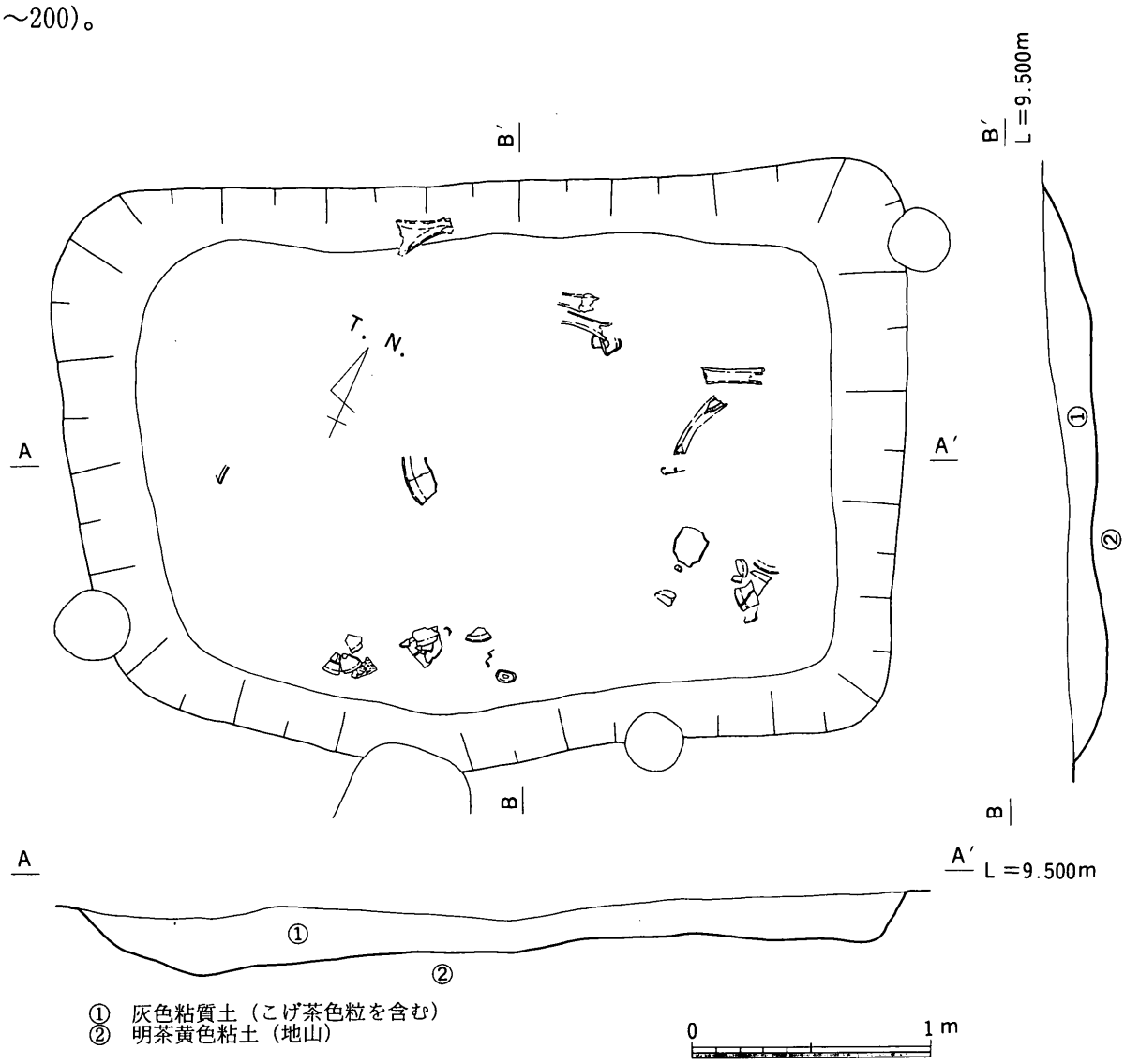
時期は出土遺物から12世紀後半頃と思われる。

ＳＫ03（第49図）

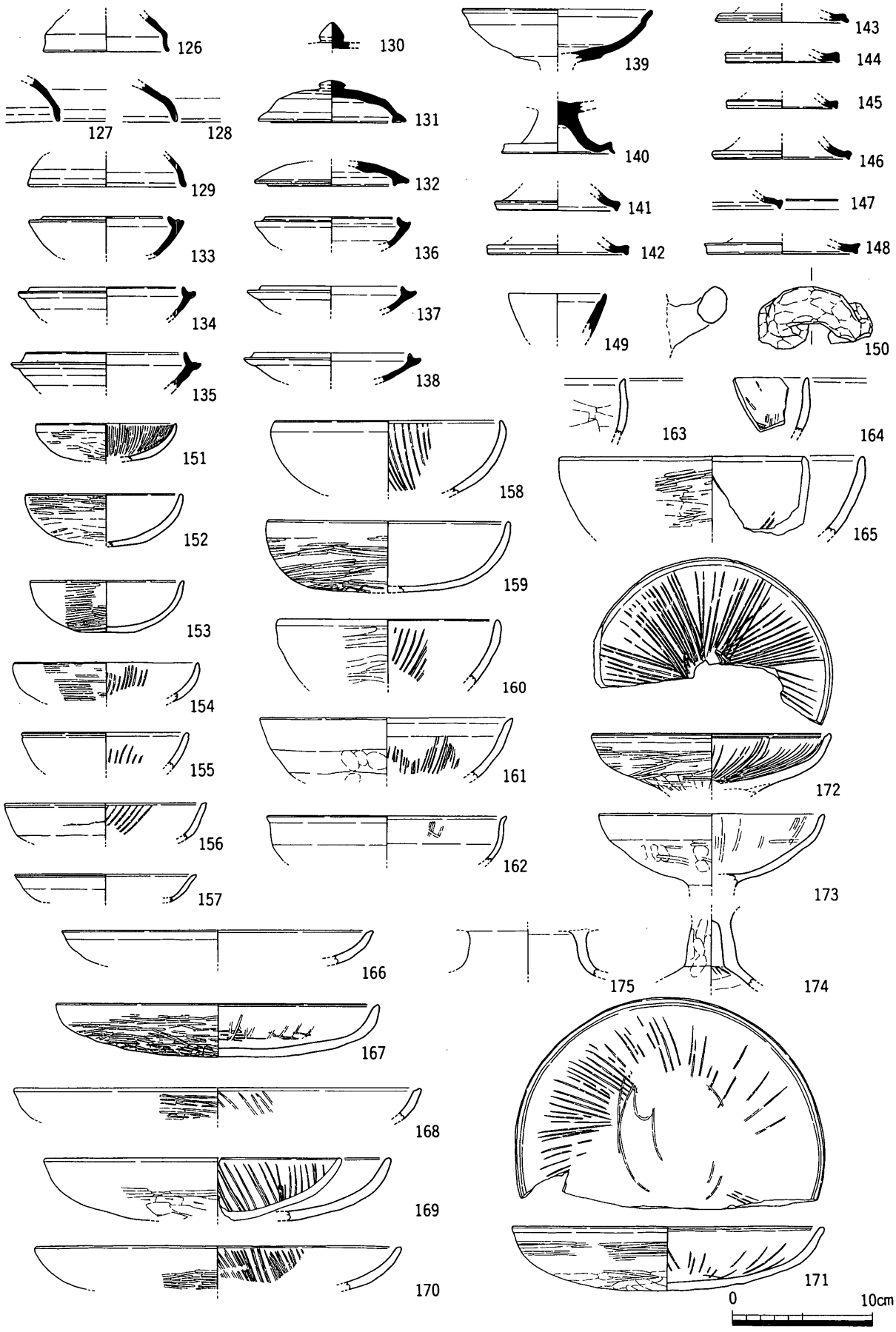
ＳＫ03は調査区北端で検出した土坑である。南西部は中世の溝ＳＤ08よって削平を受けているが，ＳＤ08が浅いためＳＫ03の残りはよい。また，この土坑はＳＤ10・15を削平するように上面で検出されている。平面形態は隅丸長方形で，規模は長辺約3.52m，短辺約2.41m，検出面からの深さ約0.24mを計る。周辺にほぼ同時期の遺構ＳＤ15があるが切り合い関係があるためにＳＤ15が埋没した直後に掘られた土坑であると考える。

埋土は単層で，こげ茶褐色粒を含む灰色粘質土である。

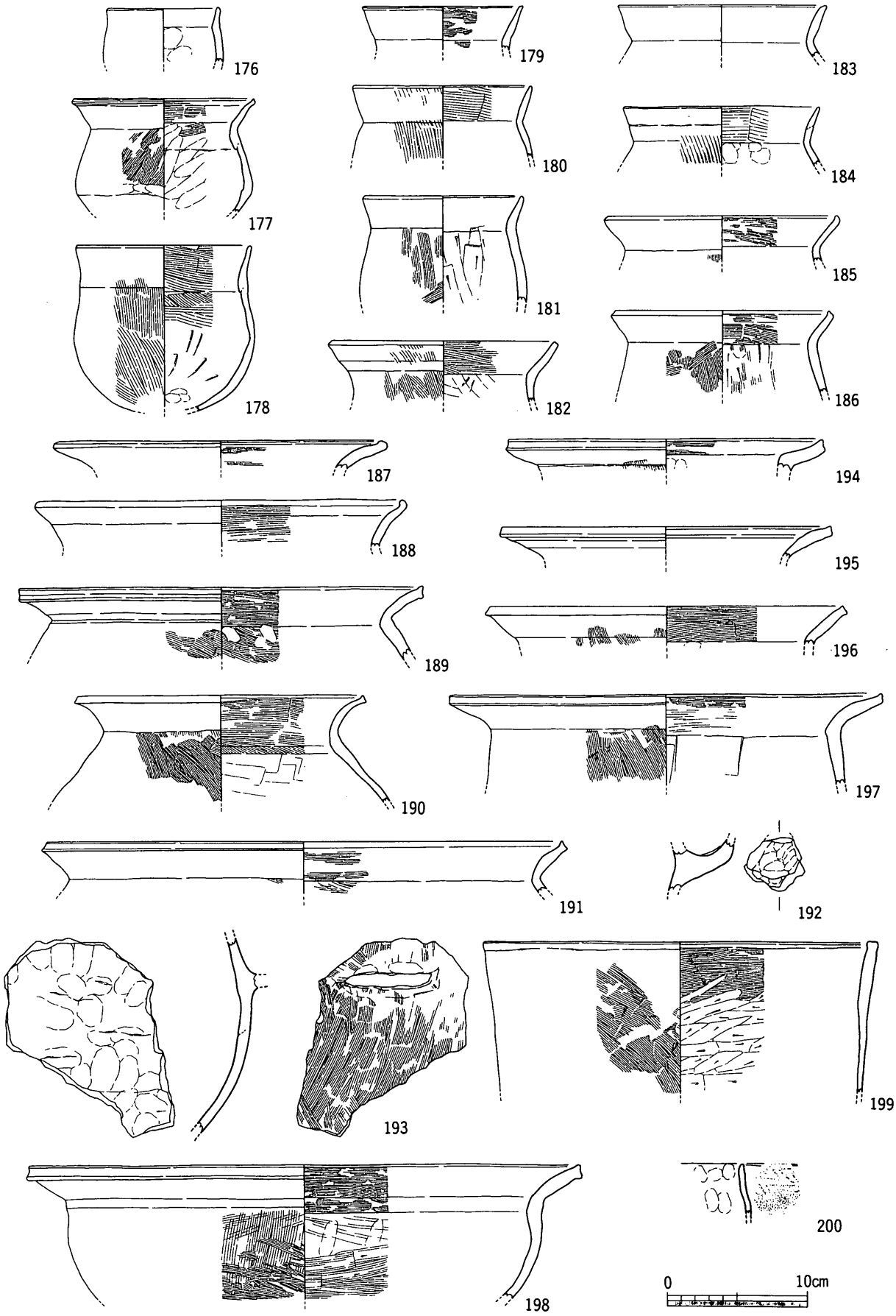
土坑内からは多量の土師器・須恵器に混じりかなりの獣骨片が出土している(第50・51図126～200)。



第49図　ＳＫ03平・断面図



第50図　ＳＫ03出土遺物実測図①



第51図　ＳＫ03出土遺物実測図②

126～138は須恵器坏蓋・坏身である。口径が9cm前後と小型のもので，坏身の立ち上がりも短く退化したものが目立っている。坏身・坏蓋の底部及び天井部外面の調整は，ヘラ切り未調整のみである。130～132は天井部に宝珠つまみが付くもので，器高が低い。139～148は須恵器高坏である。坏部は須恵器坏蓋と同形態で，やや口径は大きい。脚部は短く，脚端部は下方に屈曲させるが，かなりのバリエーションがみられる。149は須恵器平瓶の口縁部である。150は瓦質焼成された大形甕の把手と思われる。下川津遺跡第1低地帯流路2（下川津遺跡第70図－5）に類例がある。それによると体部の張った大型の甕の最大径の部分両端に把手が付くものである。151～165は土師器坏である。底部が丸底で，体部は内彎する坏である。体部外面を指頭痕及びヘラ削りしたのちに横方向のヘラ磨きが施され，内面には放射状のヘラ磨きが施されている。口径に特大・大・中・小の4種類が認められる。特大は約19cmで，大は約17cm前後で，中は約13cm前後，小は10cm前後である。畿内でみられる法量による器種分化がこの遺跡でも顕著に認められる。色調は明茶色を呈し，胎土は精良である。166～171は土師器皿である。底部は丸底気味の平底で，体部はそのまま屈曲しながら外上方に延びる。底部はヘラ削りあるいは指頭痕がみられ，体部外面には横方向のヘラ磨きが施されている。内面は放射状のヘラ磨きが，見込み部分に連結輪状の暗文が施されている。口径はほとんどが大型のもので，皿においては口径による器種分化は認められない。色調および胎土は土師器坏とほぼ同じである。172～174は土師器高坏である。坏部は内彎しながら延び，脚部は中央部で外方に屈曲し延びる。坏部外面には横方向に，脚部との接合部分は放射状にヘラ削りが施されている。また坏部内面に中心から放射状のヘラ磨きがあり，中心には連結輪状のヘラ磨きが施されている。175は土師器盤の脚と思われる。176～197は土師質甕である。法量的に大・中・小がみられ，大型の中には体部が球形になるもの（187～193），体部が下方に長く延びる長胴形の甕（194～197）の2器種に分けられる。中型のものと小型のものには体部がほぼ球形になるものがあり，小型のものだけに下ぶくれになるものがある。体部外面は細かい刷毛目を基本とし，内面はヘラ削りあるいは指なでを基本として施されている。198は土師質鍋である。器高の浅いもので，古代末（12世紀後半）に出現し，中世に普遍的にみられる土師質土鍋とほぼ同形態を呈する。しかし同一系譜にはならず，奈良時代いっぱいでなくなるものである。199は土師質甑である。200は製塩土器である。内彎する体部から口縁部がほぼ直に延びるものである。体部外面に平行叩き痕が認められる。

時期は出土遺物から7世紀前半頃と思われる。

また，土坑内から出土した獣骨類はそのほとんどが「馬」のもので，一部には斧の痕跡が認められることから意図的に解体したものと考えられる。これら獣骨については，章を改めて記述したい。

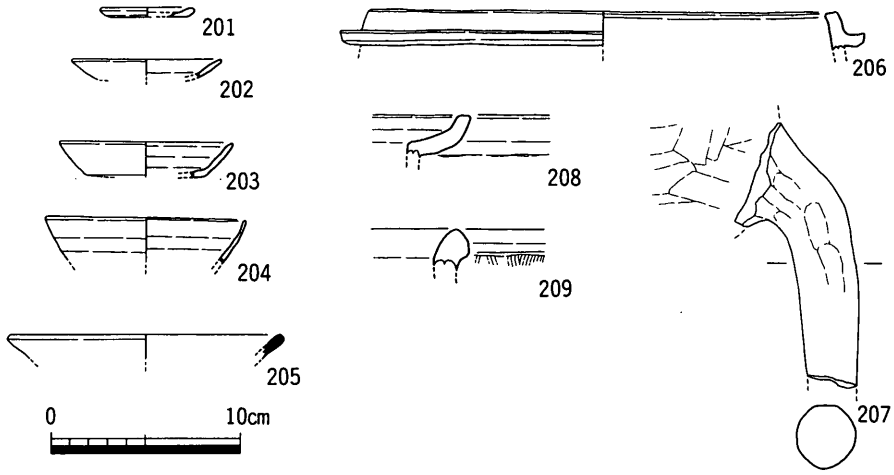
ＳＫ04（第53図）

ＳＫ04は調査区北部で検出した土坑である。西部はＳＤ14によって切られていることから，溝の時期より古いことがわかる。平面形態は隅丸方形で，断面は擂鉢状を呈する。規模は一辺約1.66m，検出面からの深さ約0.42mを計る。

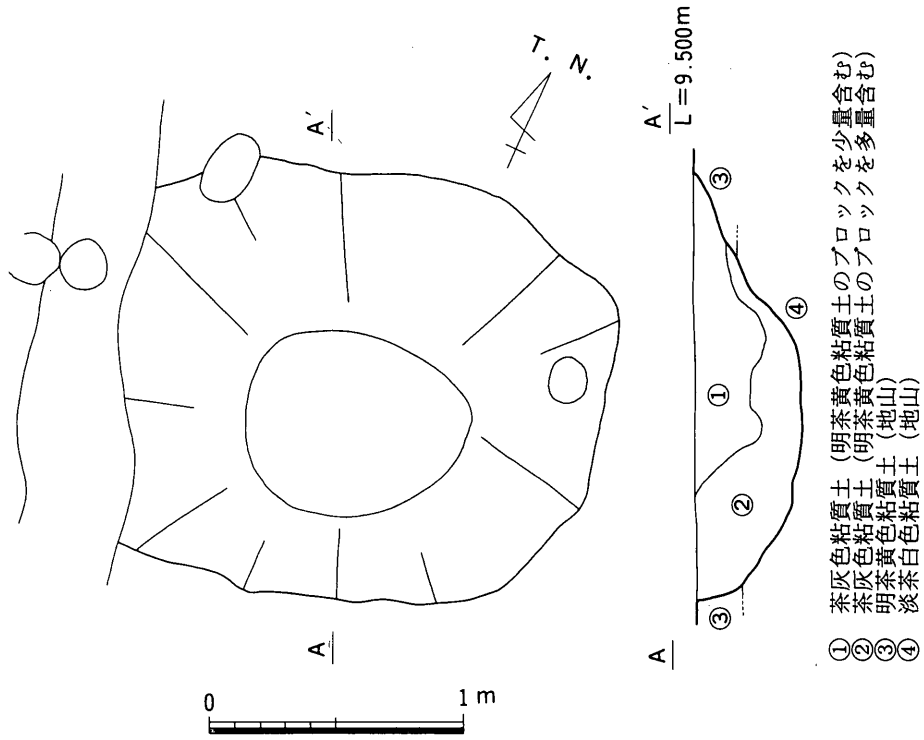
埋土はレンズ状に堆積した上下2層あり，2層とも茶灰色粘質土を基本とし，明茶黄色粘質土（地山）をブロックとして含む。

土坑内からは，小片も含めると土師器小皿・坏，瓦器，土師質土器，須恵器，東播系こね鉢などが出土している（第52図201～209）。

201・202は土師器小皿である。底部はヘラ切りされており，体部は短く外上方に延びる。特に201は特異な形態のもので，ほとんど体部がなく，体部を底部から少しだけ摘み出しているものである。203・204は土師器坏である。204はやや器高の深いものである。205



第52図　ＳＫ04出土遺物実測図



第53図　ＳＫ04平・断面図

は須恵器椀（十瓶山窯系瓦質土器椀）である。206・207は土師質土釜である。鍔はしっかりしており，鍔からの立ち上がりも断面方形で，短いがしっかりしている。208は口縁部が受け口状を呈する土師質土鍋である。209は楠井産の土師質甕である。頸部外面に粗い刷毛目が施されている。

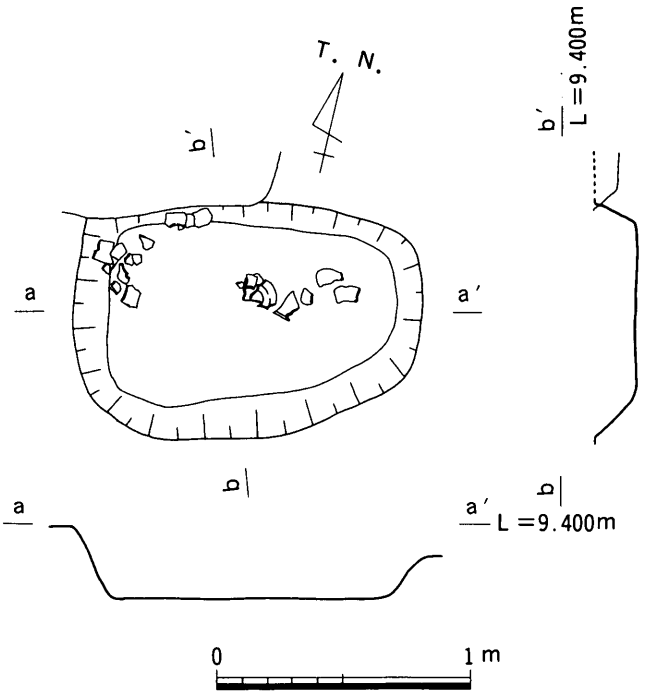
時期は出土遺物から13世紀後半頃と考えられる。また，この時期は，13世紀末から14世紀前半の溝ＳＤ14に切られていることからそれ以前であることが解り，矛盾しない。

ＳＫ05（第54図）

ＳＫ05は調査区北部で検出した土坑である。周囲に同時期の遺構はなく，やや離れて溝が検出されているだけである。北部で土壙墓ＳＴ04と僅かに切り合いがある。平面形態はやや楕円形に近い隅丸長方形で，規模は長辺1.38m，短辺0.90m，検出面からの深さ約0.28mを計る。

土坑内から弥生土器が多数出土している（第55図210～216）。

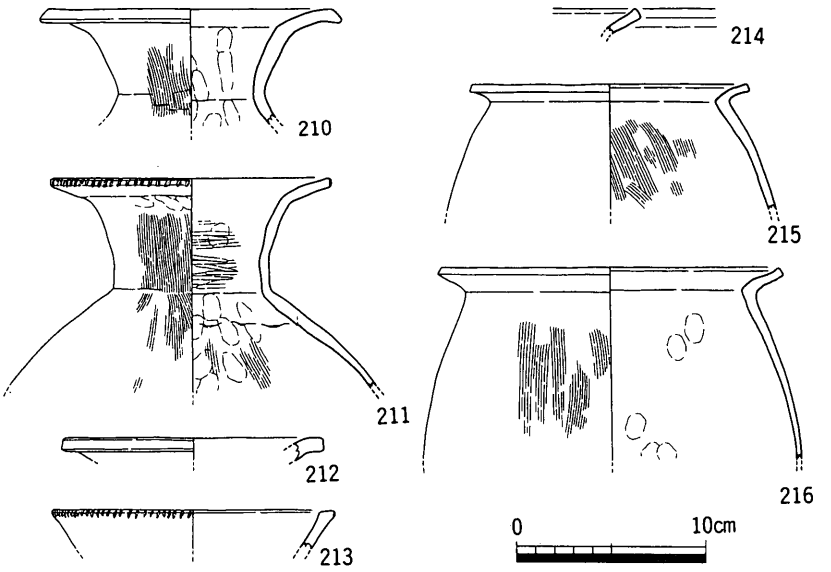
210～213は壺である。210は頸部が直線的に延び，口縁部で屈曲させる。口縁端部は下方に摘み出す。211は頸部上方で僅かに屈曲するが，頸部から口縁部にかけて朝顔型に開くもので，口縁端部に刻み目を持つ。頸部外面及び体部外面に縦方向の刷毛目を，頸部内面には指頭痕ののち横方向のヘラ磨きを，体部外面には指頭痕ののち僅かに刷毛目を施す。213は直行する頸部を持ち，口縁端部上面に面を持ち，外側に刻み目を持つ。214～216は甕である。内彎する体部から頸部が「く」の字に屈曲し，口縁端部は上方に小さく摘み上げる。頸部内面はシャープに作られている。体部内外面には縦方向の細かい刷毛目がみられる。



第54図　ＳＫ05平・断面図

また，弥生土器には底部がしっかりした平底を持つものや甕の体部内面に指なで・ヘラ磨きを持つものがみられる。

時期は出土遺物から弥生時代中期中葉のものと後期初頭頃のものがある。

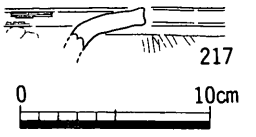


第55図　ＳＫ05出土遺物実測図

ＳＫ06（第57図）

ＳＫ06は調査区北部で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形で，断面は箱型を呈する。規模は長辺0.98m，短辺0.66m，検出面からの深さ約0.19mを計る。

土坑内から図化できなかったが土師質長胴甕・須恵器坏・土師器坏が出土している（第56図）。



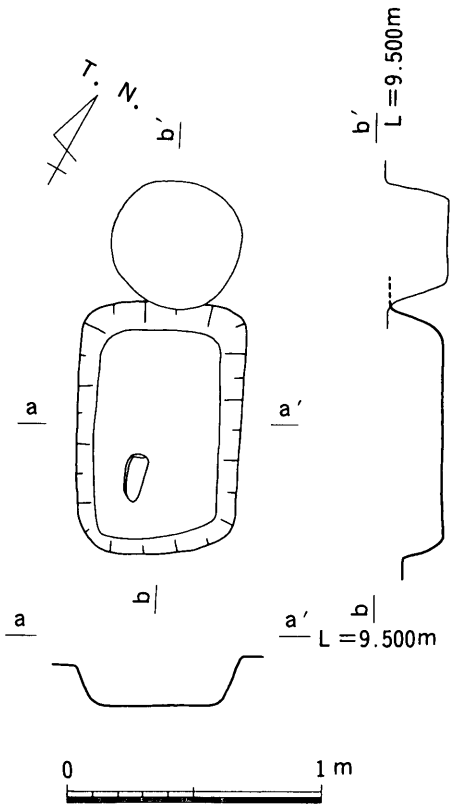
第56図　ＳＫ06出土遺物実測図

217は土師質鍋である。頸部は「く」の字に屈曲し，口縁端部は僅かに摘み上げる。

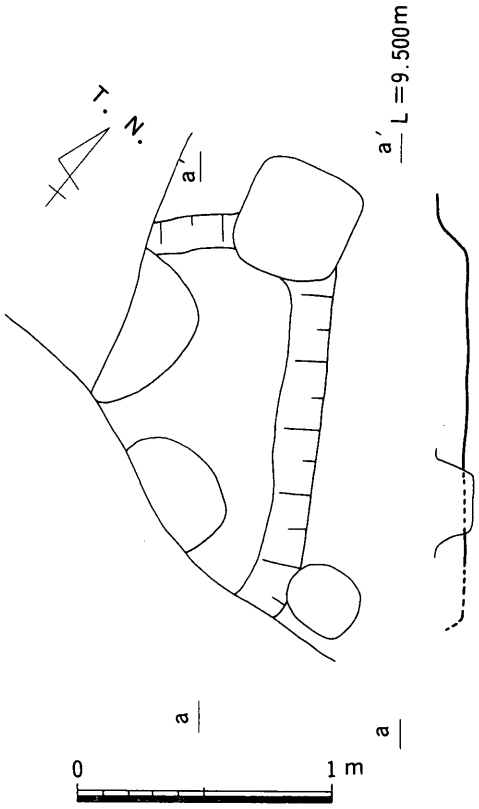
時期は出土遺物から７世紀（古代）と思われる。

ＳＫ07（第58図）

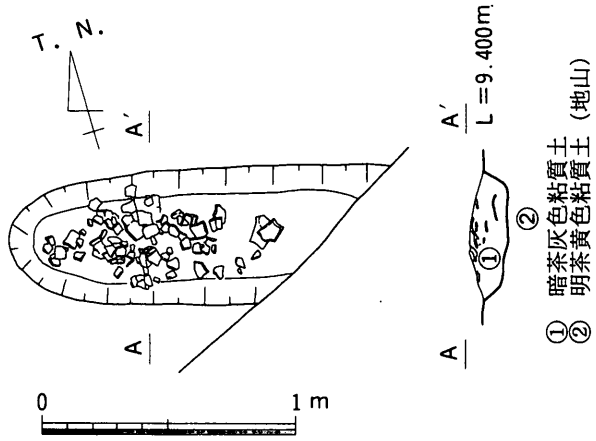
ＳＫ07は調査区北部で検出した土坑である。南部で溝ＳＤ13と切り合いがあり，ＳＢ08を構



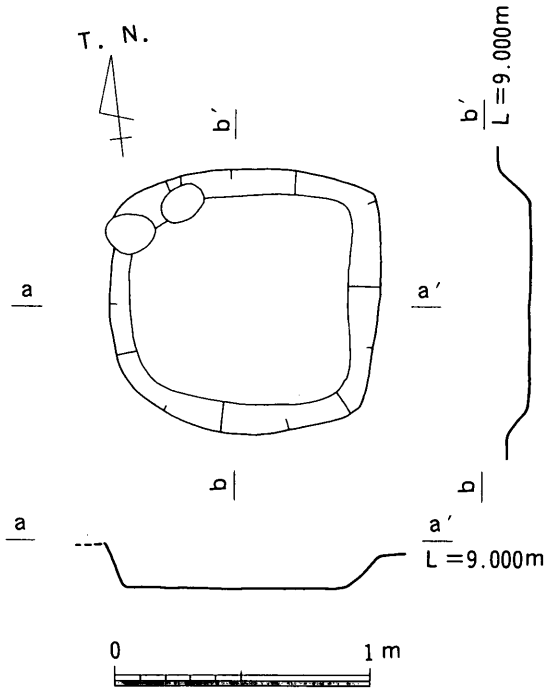
第57図　ＳＫ06平・断面図



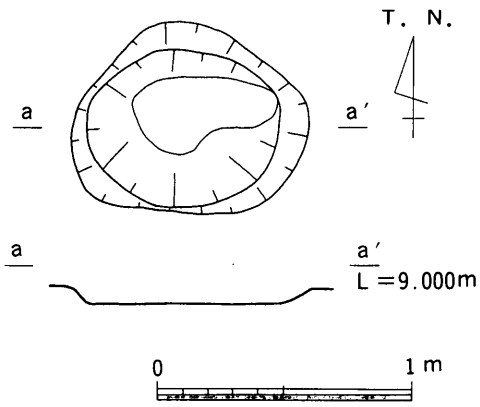
第58図　ＳＫ07平・断面図



第59図　ＳＫ08平・断面図



第60図　ＳＫ09平・断面図



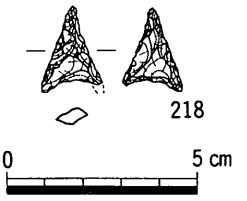
第61図　ＳＫ10平・断面図

成する柱穴にも切られている。かなり切り合いがあるが平面形態は長方形と思われ，規模は一辺約（1.42）m，検出面からの深さ約0.12mを計る。

土坑内から図化できなかったが弥生時代の甕が出土している。

218はサヌカイト製の石鏃である（第62図）。

時期は出土遺物から弥生時代であろうか。



第62図　ＳＫ07出土遺物実測図

ＳＫ08（第59図）

ＳＫ08は調査区中央部で検出した土坑である。北部で弥生時代中期の溝ＳＤ21を切っており，南部はＳＤ22によって切られている。平面形態は楕円形で，溝状を呈している。規模は直径約0.51m，検出面からの深さ約0.15mを計る。

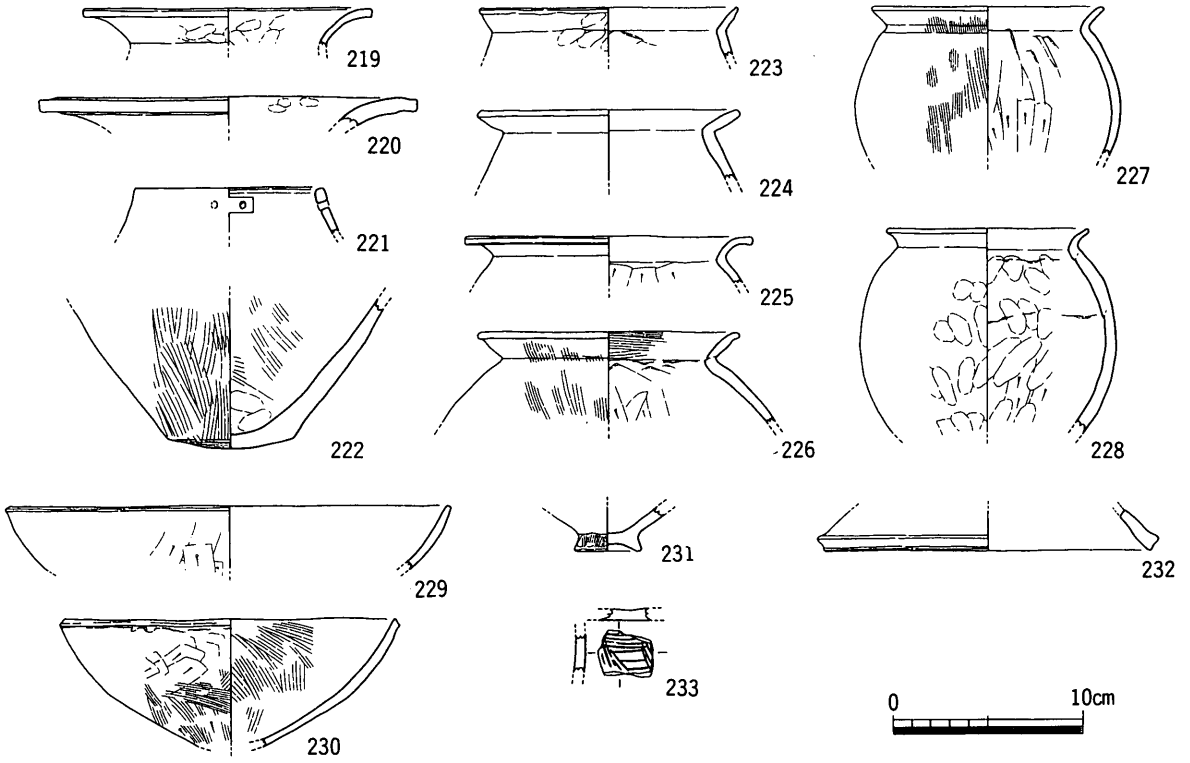
埋土は暗茶灰色粘質土の単層で，多量の土器を含む。

土坑内から弥生土器が多量に出土している（第63図219～233）。

219～222は壺である。頸部が朝顔型に広がるものと内傾し，直行するものがある。直行する壺221は口縁端部直下に２個セットの穿孔がみられる。中期の土器である。222は壺の底部で，内外面に刷毛目が施されている。223～228は甕である。頸部が「く」の字に屈曲し，口縁部が直行するものと外反するものがある。頸部内面はやや丸味を持つものと稜を持つものがある。体部外面は細かい刷毛目が，内面はヘラ削りが施されているものが多い。229～231は鉢である。体部は内彎する。231は底部に高台状の脚を持つ。232は高坏脚である。穿孔が認められる。233は甕あるいは壺の体部で，体部外面に篦による線刻が認められる。

また，図化できなかったが長頸壺の破片も出土している。

時期は出土遺物から弥生時代後期末頃である。

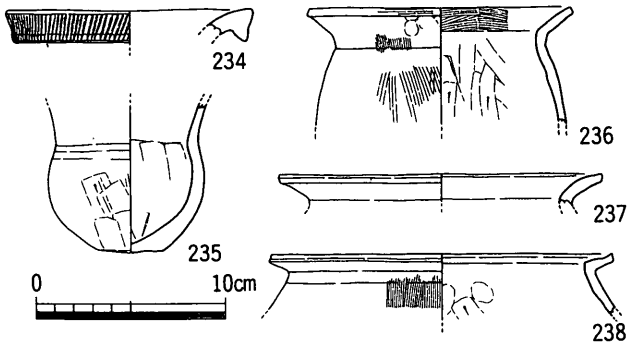


第63図　ＳＫ08出土遺物実測図

ＳＫ09（第60図）

ＳＫ09は調査区中央部で検出した土坑である。ＳＸ01検出後に検出したもので，かなりの削平を受けているものと思われる。平面形態は隅丸方形で，断面は箱型を呈する。規模は一辺約1.07m，検出面からの深さ約0.16mを計る。

土坑内から弥生土器，サヌカイトが出土している（第64図234～238）。



第64図　ＳＫ09出土遺物実測図

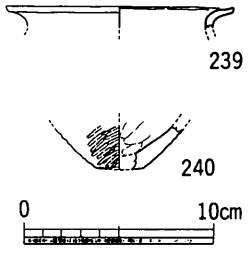
234・235は壺である。234は口縁部を下方に拡張し，外側に刻み目を持つ。235は小型の壺で，頸部が直行する。236～238は甕である。238は角閃石を含む所謂「Ｂ類甕」である。頸部が「く」の字に屈曲し，口縁端部を短く上方に摘み出す。体部外面は刷毛目，内面はヘラ削りが施されている。

時期は出土遺物から弥生時代後期後半である。

ＳＫ10（第61図）

ＳＫ10は調査区中央部で検出した土坑である。ＳＸ01検出後にほぼ中央部で検出したためＳＫ09と同様にかなり削平を受けているものと思われる。平面形態は楕円形で，断面は箱型を呈する。規模は直径約0.94m，検出面からの深さ約0.07mを計る。

土坑内から弥生土器片が出土している（第65図239・240）。甕は体部外面に叩きが，内面にヘラ削りが認められるものである。



第65図　ＳＫ10出土遺物実測図

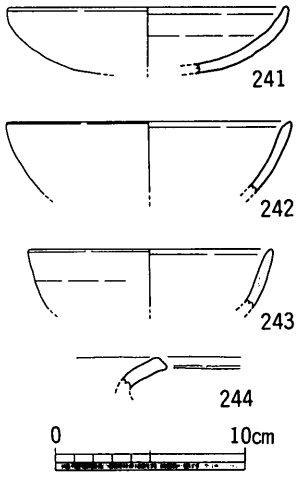
239は甕である。口縁部が外反し，端部を上方に摘み上げる。240は甕あるいは鉢の底部である。外面に叩き痕が，内面に指なでが施されている。

時期は出土遺物から弥生時代後期と思われる。

ＳＫ11（第68図）

ＳＫ11は調査区中央部で検出した土坑である。南部が調査区外に延びるため，平面形態は不定形で，溝状に長く延びる。規模は一辺約1.47m，検出面からの深さ約0.12mを計る。

土坑内から須恵器坏蓋，土師器坏，土師質長胴甕などが出土している（第66図241～244）。



第66図　ＳＫ11出土遺物実測図

241・242は土師器坏である。器高のやや浅いものと深いものがみられる。243は須恵器坏である。須恵器坏は底部がヘラ切り未調整のものである。244は土師質甕である。

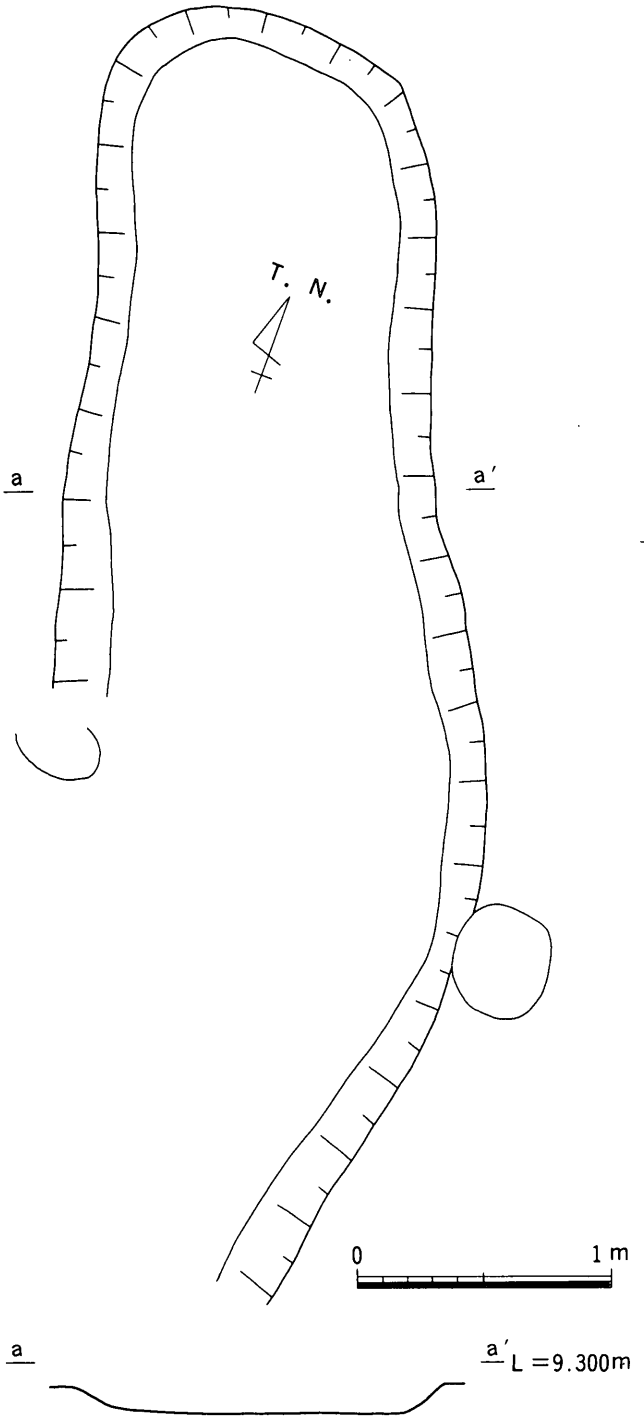
時期は出土遺物から７世紀前半と思われる。

ＳＫ12（第69図）

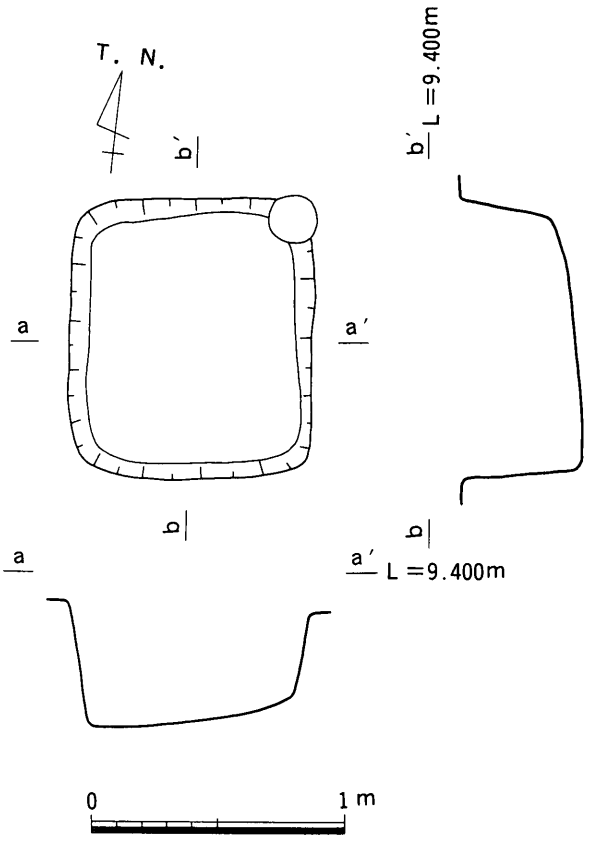
ＳＫ12は調査区中央部で検出した土坑である。平面形態は隅丸長方形で，断面は箱型を呈する。規模は長辺1.10m，短辺0.96m，検出面からの深さ約0.49mを計るかなり深いものである。

土坑内から須恵器坏，土師質長胴甕などが出土している。

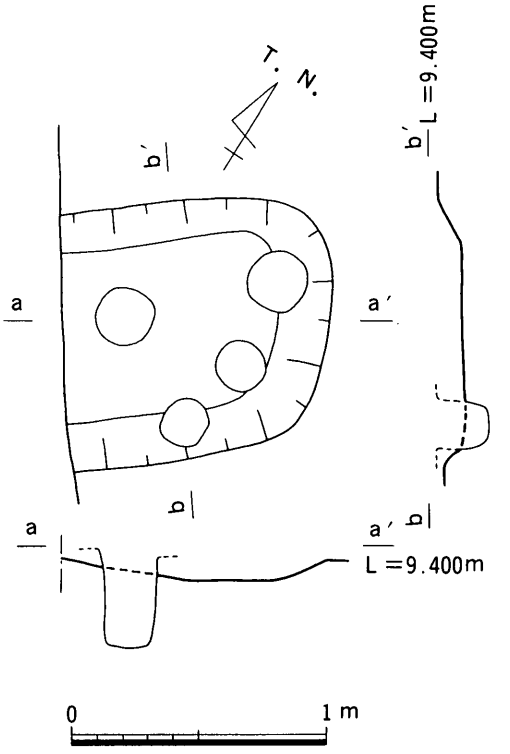
第67図　ＳＫ12出土遺物実測図



第68図　ＳＫ11平・断面図



第69図　ＳＫ12平・断面図



第70図　ＳＫ13平・断面図

245は須恵器皿あるいは坏の底部である（第67図）。底部はヘラ切りされ，体部は外上方に延びる。

時期は出土遺物から９世紀頃と思われる。

ＳＫ13（第70図）

ＳＫ13は調査区中央部で検出した土坑である。南西部が調査区外に延びる。平面形態は隅丸長方形で，規模は長辺（1.06m），短辺1.03m，検出面からの深さ約0.10mを計る。

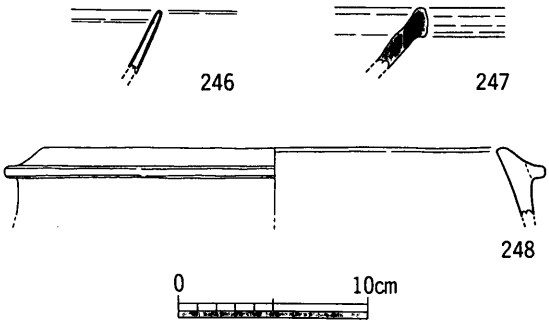
図化できる遺物は出土していないが，土坑内からは須恵器片，土師質土器片が少量出土している。

時期は出土遺物から古代と思われる。

ＳＫ14（第72図）

ＳＫ14は調査区南部で検出した土坑である。東部は調査区外に延び，西部はＳＤ39に繋がるものと思われる。平面形態は不定形で，規模は短辺で1.15m，検出面からの深さ約0.33mを計る。

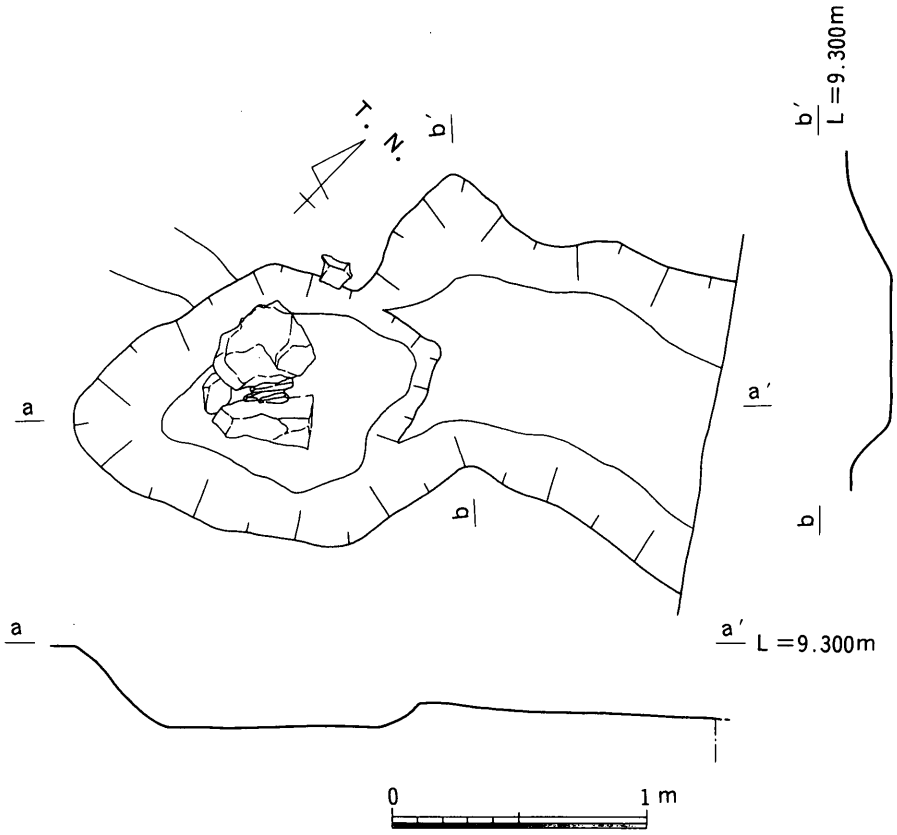
土坑内からは須恵器，土師器，青磁，土師質土器などが出土している（第71図246～248）。



第71図　ＳＫ14出土遺物実測図

246は青磁碗で，口縁端部内面に沈線が認められる。大宰府分類の青磁碗Ｉ類である。247は東播系こね鉢である。口縁端部が上下に拡張するもので体部内外面は横なでされている。248は土師質土釜である。鍔はかなり退化しており，立ち上がりも内傾し，短い。

時期は出土遺物から13世紀後半から14世紀前半頃と思われる。



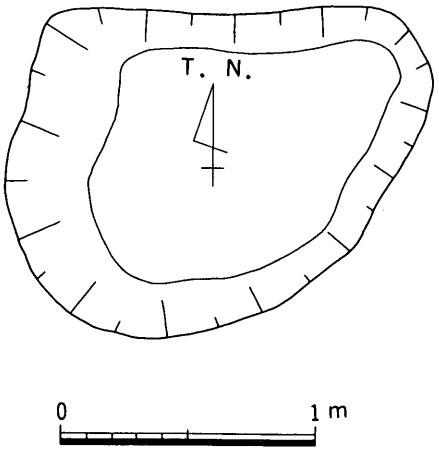
第72図　ＳＫ14平・断面図

ＳＫ15（第73図）

ＳＫ15は調査区南端部で検出した土坑である。平面形態は歪な方形で，規模は長辺約1.57m，短辺約1.23mを計る。

土坑内から土師器坏，瓦質こね鉢などが出土している。

時期は出土遺物から13世紀頃か。



第73図　ＳＫ15平面図

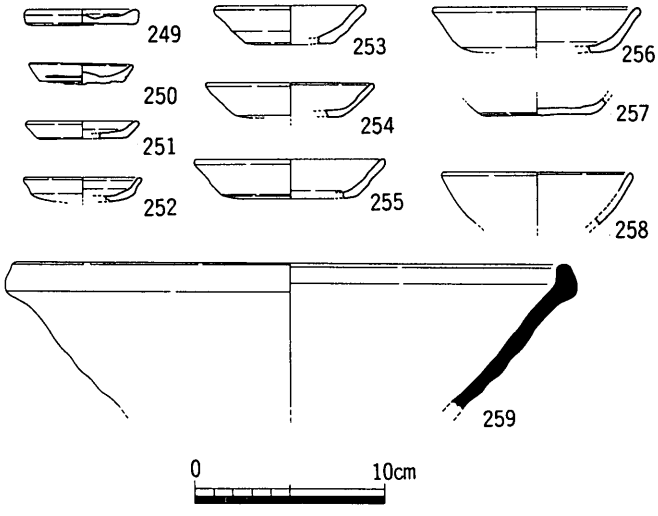
4．土壙墓・土器棺墓（ＳＴ01～06）

当調査区内で検出した土壙墓は６基で，時期は古代及び中世である。古代の土壙墓・土器棺墓は調査区南部で検出しており，調査区幅が狭いこともあるが群集しない。しかし，中世の土壙墓は居住区画に近接して墓域を持ち，群集するようである。

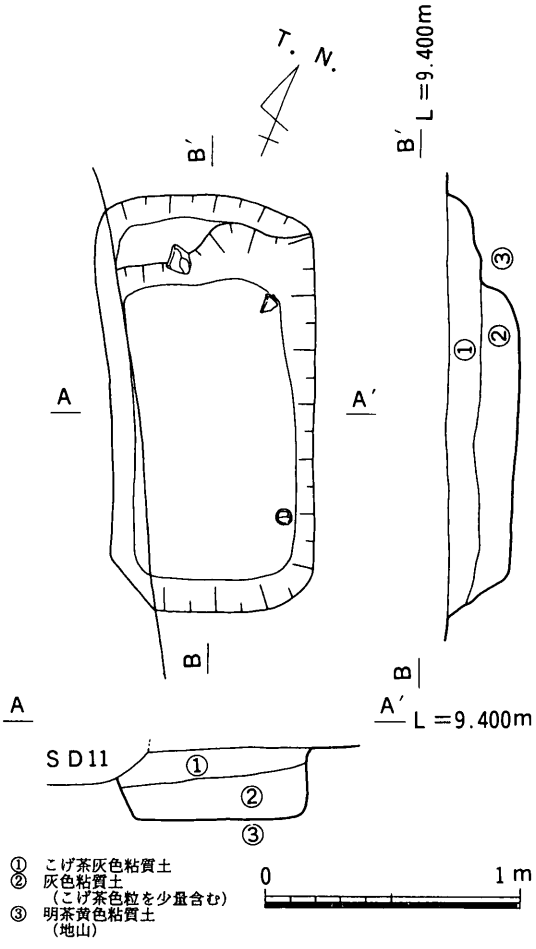
ＳＴ01（第75図）

ＳＴ01は調査区北部で検出した土壙墓である。西側を方格地割に合致する溝ＳＤ08に，北側及び東側を柵列によって区画されており，土壙墓の南北主軸は溝ＳＤ08及び東柵列とほぼ同方向を持つ。この区画内は中世の遺構，特に柱穴が密集する部分から離れており，やや柱穴が希薄になる部分である。この部分で検出された土壙墓が１基のみであることから，墓域とするには確証がない。後述するＳＴ02～04で構成される墓域とはＳＤ14を挟み，すぐ北側に位置する。ＳＴ01とＳＴ02～04は若干の時期差があり，集落の消長に伴い墓を造る場所も変わったものと思われる。

平面形態は隅丸長方形で，北辺側が二段になり，



第74図　ＳＴ01出土遺物実測図



第75図　ＳＴ01平・断面図

断面形態は箱型を呈する。土壙墓内で検出した遺物は，北側段部で10cm程度の角礫が，床面北東隅で10cm程度の平石が，さらに床面南東隅近くで土師器小皿が出土している。頭位方向は若干ではあるが北側が広いので，北方向と思われる。

埋土は上下２層に分かれる。上層はこげ茶灰色粘質土で，下層はこげ茶色粒を含む灰色粘質土である。規模は長辺約1.64m，短辺約0.80mで，検出面からの深さは約0.28mを計る。長辺を南北に取り，長辺の主軸は真北から22.0°西偏している。この主軸方向は溝ＳＤ08及び周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

土壙墓内からは土師器小皿・坏，土師器椀，瓦質土器椀，瓦器椀，土師質土鍋，亀山焼甕，備前焼甕（？），東播系こね鉢，白磁碗片などが出土している（第74図249～259）。

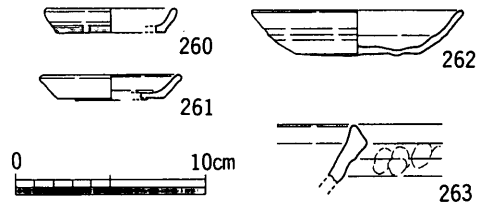
249～252は土師器小皿である。全て底部はヘラ切りされており，体部が短いもの（249）や底部と体部の境が明瞭でないもの（252）もある。253～257は土師器坏である。底部は全てヘラ切りされている。法量には差（口径差）が認められ，一定していない。258は吉備系土師器椀である。259は東播系こね鉢である。口縁部がやや肥厚している。

時期は小型化した吉備系土師器椀や東播系こね鉢から13世紀後半から14世紀前半頃と思われる。

また，土壙墓内出土遺物のなかに白磁片もみられることから，中世土壙墓における磁器埋納の一例と考えている。

ＳＴ02（第77図）

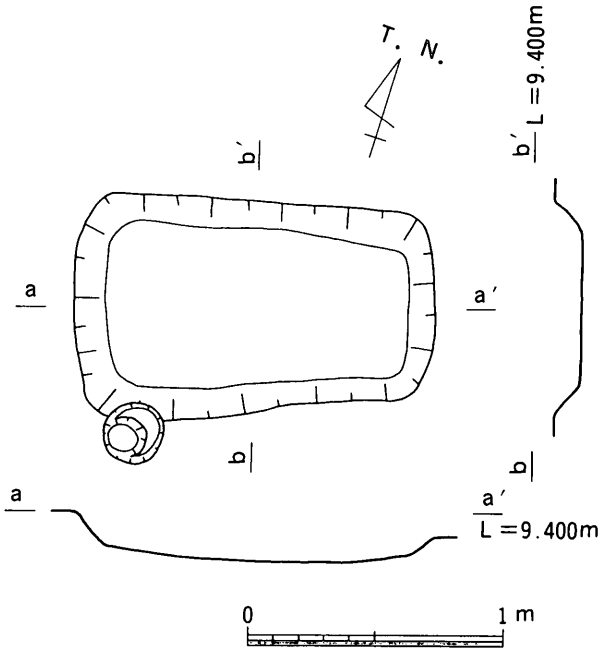
ＳＴ02は調査区北部で検出した土壙墓である。この土壙墓を含むＳＴ03・04は近接しており，３基ではあるが，墓群（墓域）を成すものと考える。これら土壙墓群は現在の地割り方向にのるＳＤ14・08・17・18・19・20によって囲まれており，画されていることが解る。



第76図　ＳＴ02出土遺物実測図

平面形態は隅丸長方形で，やや西側辺が広い。断面形態は箱型を呈する。頭位は西側辺が広いことから西方向と思われる。

規模は長辺約1.42m，短辺約0.84mで，検出面からの深さは約0.10mを計る。長辺を東西に取り，短辺の主軸は真北から17.0°西偏している。この土壙墓の長軸方向はＳＴ01の長軸方向には直行するが，南北主軸は区画溝及び周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。



第77図　ＳＴ02平・断面図

土壙墓内からは土師器小皿・坏，土師質擂鉢などが出土している（第76図260～263）。

260・261は土師器小皿である。底部は全てヘラ切りされている。262は土師器坏である。底部はヘラ切りされており，体部はやや内彎しながら外上方に延びる。263は土師質擂鉢である。口縁端部上端をやや摘み上げ，三角形状に終わらせる。体部外面には指頭痕が顕著に認められる。

時期は出土遺物から13世紀後半から14世紀前半頃と思われる。

ＳＴ03（第79図）

ＳＴ03は調査区北部で検出した土壙墓である。この土壙墓を含むＳＴ02・04は近接しており，３基ではあるが，墓群を成すものと考える。

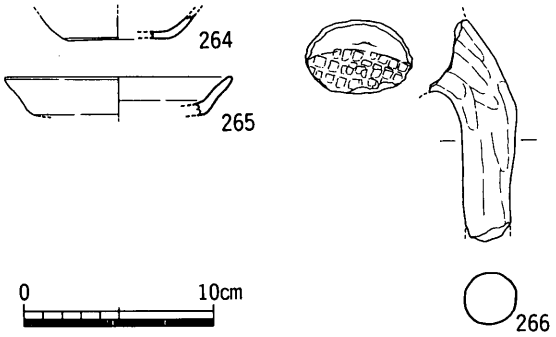
平面形態は隅丸長方形で，断面形態は箱型を呈する。土壙墓内で検出した遺物は南西隅に７cm程度の角礫が，南東隅に30cm程度の角礫が確認されている。頭位は不明。

規模は長辺約1.31m，短辺約0.73mで，検出面からの深さは約0.14mを計る。長辺を南北に取り，長辺の主軸は真北から14.0°西偏している。この南北主軸はＳＴ01とほぼ同方向で，区画溝及び周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

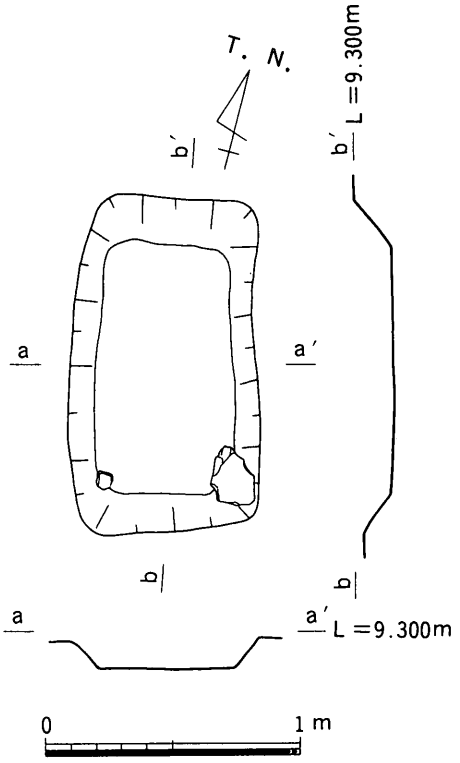
土壙墓内からは土師器坏，土師質土釜などが出土している（第78図264～266）。

264・265は土師器坏である。底部はヘラ切りされており，体部は直線的に外上方に延びる。266は土師質土釜脚である。脚接合部に格子目叩きの痕跡がみられることから土釜体部には格子目叩きが施され，脚の接合は体部整形及び調整後に行われたことが解る。

時期は出土遺物及び埋土からＳＴ01・02と同時期の13世紀後半から14世紀前半頃と思われる。



第78図　ＳＴ03出土遺物実測図



第79図　ＳＴ03平・断面図

ＳＴ04（第81図）

ＳＴ04は調査区北部で検出した土壙墓である。この土壙墓を含むＳＴ02・03は近接しており，３基ではあるが，墓群を成すものと考える。

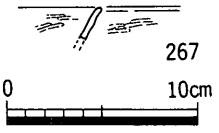
平面形態はかなり削平を受けて判然としないが，おそらく隅丸長方形と思われ，断面形態は箱型を呈する。頭位は不明。

規模は長辺約1.64m，短辺約0.84mで，検出面からの深さは約0.19mを計る。長辺を東西に取り，短辺の主軸は真北から6.0°西偏している。この主軸方向はＳＴ01，区画溝及び周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

土壙墓内からは土師器坏，瓦器椀，土師質土器，須恵器，瓦などが出土している（第80図267）。

267は和泉型瓦器椀である。内外面に横方向のヘラ磨きが認められる。

時期は出土遺物から13世紀前半頃と思われる。近接するＳＴ02・03と時期差があり，集落の存続期間や同一墓域の形成を考えるにあたり貴重な資



第80図　ＳＴ04出土遺物実測図

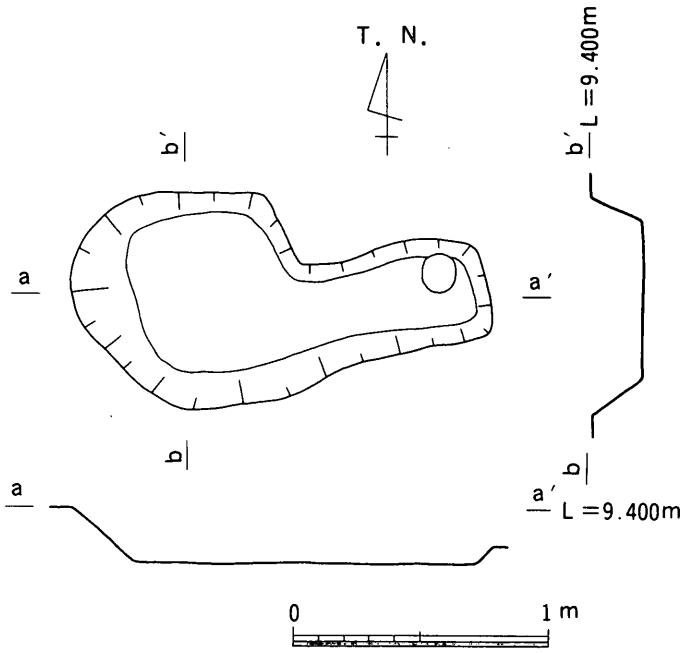
料となる。

ＳＴ05（第82図）

ＳＴ05は調査区中央部で検出した土師質の甕棺墓である。検出状態は平面楕円形で，断面箱型の掘方内に土師質長胴甕をほぼ横方向に水平にし，須恵器横瓶の体部で蓋をしていた。周辺に同時期の掘立柱建物が多数存在することから小児用の土器棺墓あるいは胞衣壺の可能性が指摘できる。

埋土は単層で，茶灰色粘質土である。

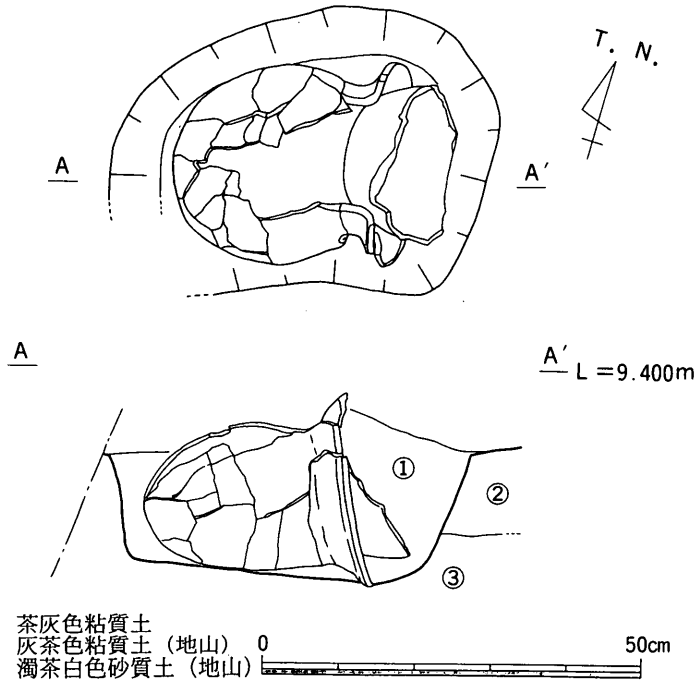
規模は長辺約0.51m，短辺約0.35mで，検出面からの深さは約0.19mを計る。長辺を東西に取り，短辺の主軸は真北から16.0°西偏している。この主軸方向は周辺にある同時期の掘立柱建物及び方格地割の方向とほぼ合致する。



第81図　ＳＴ04平・断面図

268は土師質長胴甕である。卵形をした体部から頸部は「く」の字に屈曲し，口縁端部は僅かに上下に摘み出す。体部外面及び口縁部内面に細かい刷毛目が，体部内面には縦方向のヘラ削りが施されている。269は須恵器横瓶の体部で円盤充塡の痕跡が認められる。体部内面には青海波文の当具痕が，外面には格子目叩きののち描き目が施されている。また焼成は悪く全体に灰白色を呈する。

時期は出土遺物から７世紀頃と思われる。



第82図　ＳＴ05平・断面図

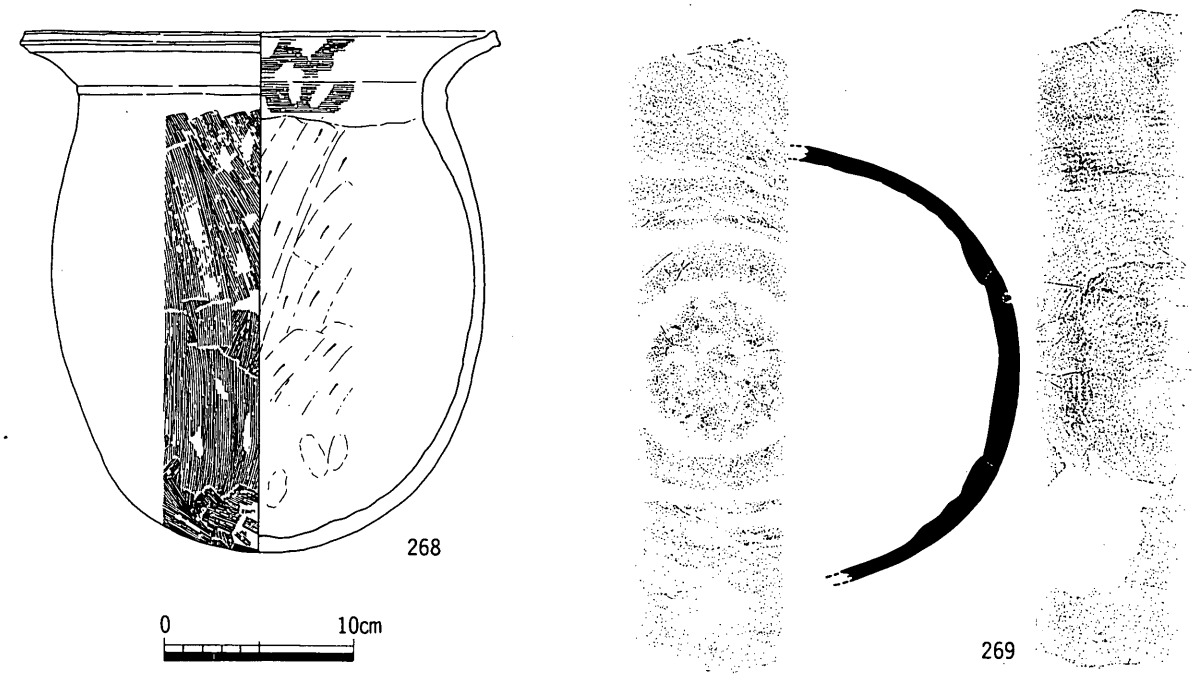
ＳＴ06（第85図）

ＳＴ06は調査区南部で検出した土壙墓である。調査区がかなり狭くなっている位置で検出したために同時期の遺構は確認されておらず，集落との位置関係については不明である。西側は側溝掘削時に削平したために不明であるが，平面形態は推定で隅丸長方形，断面形態は箱型を呈する。

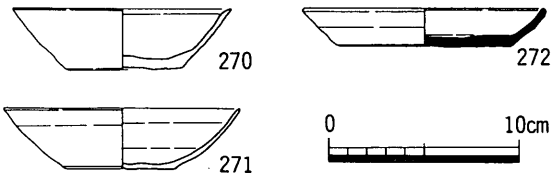
埋土は上下２層で，上層は茶灰色粘質土，下層は暗こげ茶灰色粘質土である。

規模は長辺（1.65m），短辺0.68mで，検出面からの深さは0.28mを計る。長辺長については下顎の検出位置から推定して正値に近い数値であるものと思われる。

頭位方向は下顎の検出状況から西方向と思われる。墓壙掘方は長辺を東西に取り，短辺の主



第83図　ＳＴ05出土遺物実測図



第84図　ＳＴ06出土遺物実測図

軸は真北から22.0°西偏している。この主軸方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

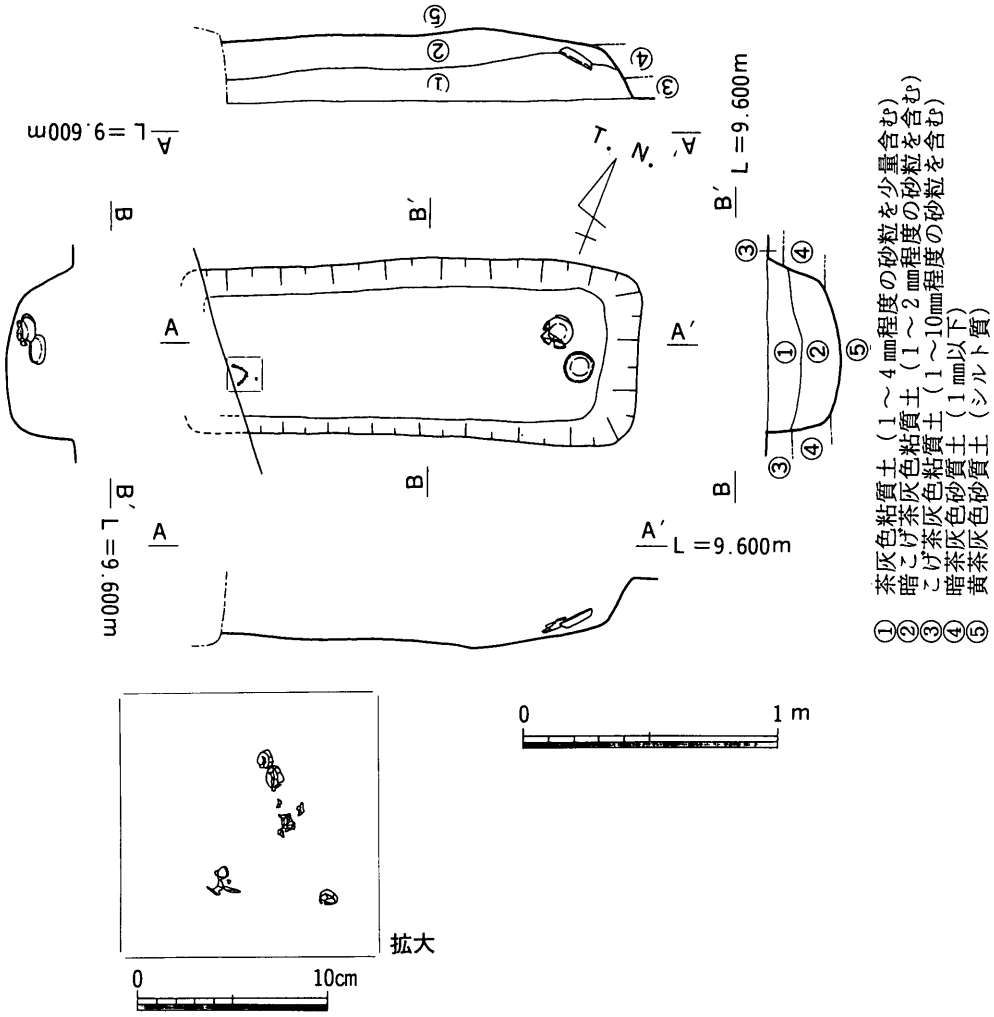
土師器坏２点及び須恵器皿１点は墓壙掘方の東短辺側でまとまって，床面から約３cm浮き，やや中央部に向かい傾斜した状態で出土している。また，下顎は墓壙掘方の西短辺側で床面から約11cm程浮いた状態で検出した。これらは埋葬時の現位置を保っているとみられ，被葬者は頭位を西に向けた状態で埋葬され，足部に副葬品を入れられたものと考える。

土壙墓内から土師器坏，須恵器皿，土師質長胴甕などの土器類と人体一部の下顎が出土している（第84図270～272）。

270・271は土師器坏である。底部はヘラ切りされており，体部は直線的に延びるものとやや内彎するものがある。270は口縁端部内面に僅かに沈線を持つ。272は須恵器皿である。底部はヘラ切りされており，体部は内彎しながら外上方に延びる。

時期は出土遺物から９世紀後半から10世紀前半頃と思われる。

当遺跡で検出された土壙墓は計５基ではあるが，そのなかでＳＴ01～04は同時期の溝の方向に影響されてはいるものの長辺主軸には南北方向及び東西方向を指向している二者がある。また，推定ではあるが頭位方向が北のものはＳＴ01のみであり，一概に頭位方向が北（南北）を指向しているとは言い難い。この点からみるとＳＴ02・06の頭位方向が西を向いている事実は，頭位方向の規制が10世紀頃から中世にかけてなかった可能性を指摘できる。



第85図　ＳＴ06平・断面図

5．溝状遺構

溝状遺構は，全調査区で45条検出している。弥生時代の溝はほぼ調査区を横切っており，底の高底差から西から東に水の流れがあったものと思われる。次に７世紀前半代ではやや屈曲しながら南北方向に流路を取る溝になり，規格性及び方向性は認められない。また，同時期の竪穴住居・掘立柱建物との方向性も認められない。８世紀代では調査区をほぼ南北に流路を取る溝を検出している。この流路方向においても同時期の竪穴住居・掘立柱建物とやや方向を異にしている。しかし，７・８世紀代を通して竪穴住居の主軸方向及び掘立柱建物の主軸方向には，規格性があったようで，ほぼ同方向であることが確認された。13世紀前半になると現在周辺部に残っている方格地割の方向と合致する流路方向を取る溝になる。

以上のことから当調査区で検出した溝状遺構は，周辺に残る方格地割の起源を考えるのに有効な資料といえる。

ＳＤ01

ＳＤ01は調査区最北端で検出した溝である。北端部では調査区が狭くなっており，ちょうどその部分を横切っていることから，検出長は6.5mと短い。断面形態は緩やかなＵ型を呈し，規模は天幅約1.30mで，検出面からの深さは約0.08mを計る。流路方向は真北から67.0°東偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

溝内から土師器小皿・坏，吉備系土師器椀，須恵器椀（瓦質土器椀）などが出土している（第86図273～279）。

273・274は土師器小皿である。底部はヘラ切りされており，体部はやや外反気味に延びる。275・276は吉備系土師器椀である。胎土に石英・長石をやや含む。277・278は須恵器椀（瓦質土器椀）である。高台はかなり退化し，粘土紐を僅かに張り付けているだけのものである。279は土師質土鍋である。

時期は出土遺物から13世紀前半から中葉である。

ＳＤ02

ＳＤ02は調査区最北端で検出した溝である。ＳＤ01からは南側に直行するように２本の溝が延びるが，その内の西側の溝である。ＳＤ01と掘立柱建物との関係から短期間での切り合い関係はあったものと思われるが，ＳＤ01のほぼ同時期に機能していたことが分かる。検出長は6.8ｍと短い。断面形態は緩やかなＵ型を呈し，規模は天幅約0.48ｍで，検出面からの深さは約0.12ｍを計る。流路方向は真北から18.0°西偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

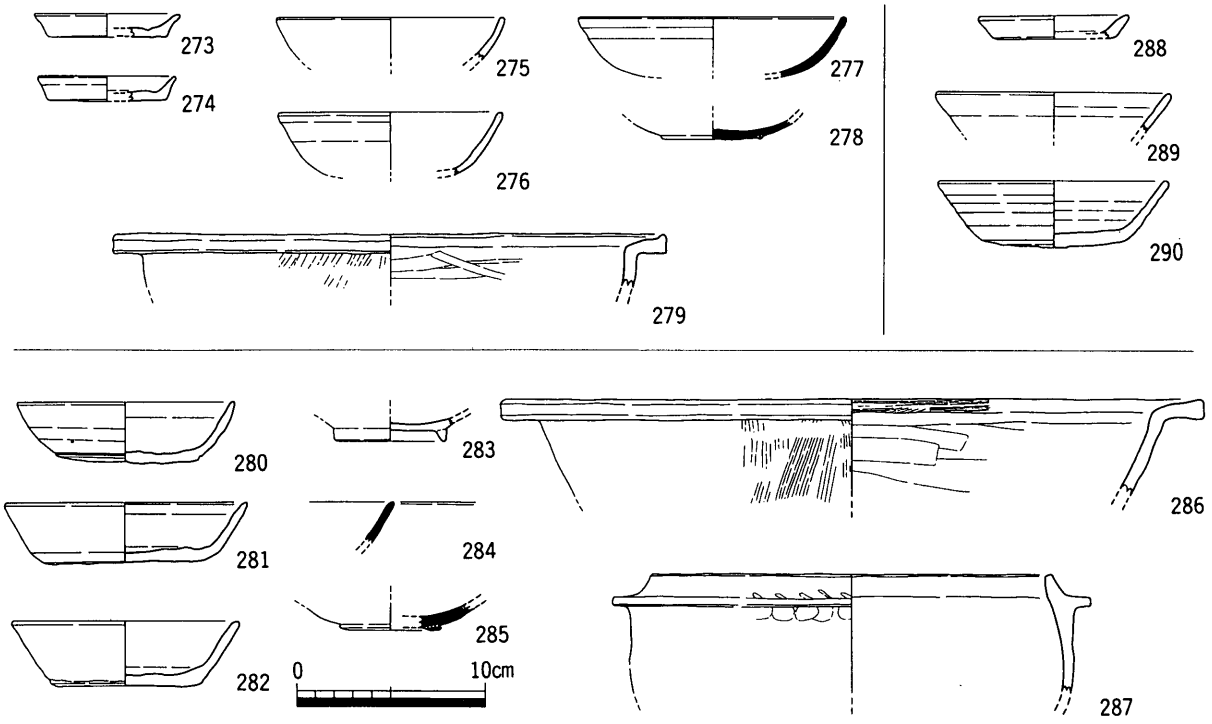
溝内から土師器小皿・坏，吉備系土師器椀，須恵器椀（瓦質土器椀）などが出土している（第86図280～287）。

280～282は土師器坏である。底部は全てヘラ切りで，体部はやや内彎するものと直線的なものがある。283は吉備系土師器椀である。284・285は須恵器椀（瓦質土器椀）である。高台はかなり扁平で太いものが付いている。286は土師質土鍋で，鍔及び立ち上がりがしっかりしている。287は土師質ュ　である。

時期は出土遺物から13世紀前半である。

ＳＤ03

ＳＤ03は調査区最北端で検出した溝である。ＳＤ01からは南側に直行するように２本の溝が



第86図　ＳＤ01～03出土遺物実測図

延びるが，その内の東側の溝である。ＳＤ01との切り合い関係は明確には認められなかったが，短期間での切り合い関係はあったものと考えられる。また，ＳＤ02とは平行に流路を取っており，ＳＤ01から南に約２ｍ部分にはＳＤ02とＳＤ03を繋ぐようにＳＤ04が検出されている。検出長は5.8ｍと短い。断面形態は緩やかなＵ型を呈し，規模は天幅約0.78ｍで，検出面からの深さは約0.07ｍを計る。流路方向は真北から18.0°西偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

溝内から土師器小皿・坏，瓦器椀，須恵器椀（瓦質土器椀）などが出土している（第86図288～290）。

288は土師器小皿，289・290は土師器坏である。底部は全てヘラ切りで，体部は直線的に延びる。

ＳＤ04

ＳＤ04は調査区最北端で検出した溝である。ＳＤ04はＳＤ01から南に約２ｍ部分に平行して流路を取り，ＳＤ02とＳＤ03を繋ぐようにＳＤ04が検出されている。ＳＤ02・03とは切り合い関係がなく，ほぼ同時期に機能していたことが分かる。検出長は6.0ｍと短い。断面形態は緩やかなＵ型を呈し，規模は天幅約0.22ｍで，検出面からの深さは約0.04ｍを計る。流路方向は真北から16.0°西偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

溝内から土師器小皿などが出土している。

時期はＳＤ01～ＳＤ03と切り合い関係がないことから同時期と思われる。

ＳＤ05

ＳＤ05は調査区最北端の第２面として検出した溝である。ＳＤ15と切り合いが認められる。検出長は2.4ｍと短い。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約1.55ｍで，検出面からの深さは約0.10ｍを計る。流路方向は真北から66.0°東偏している。

溝内から弥生土器が出土している。

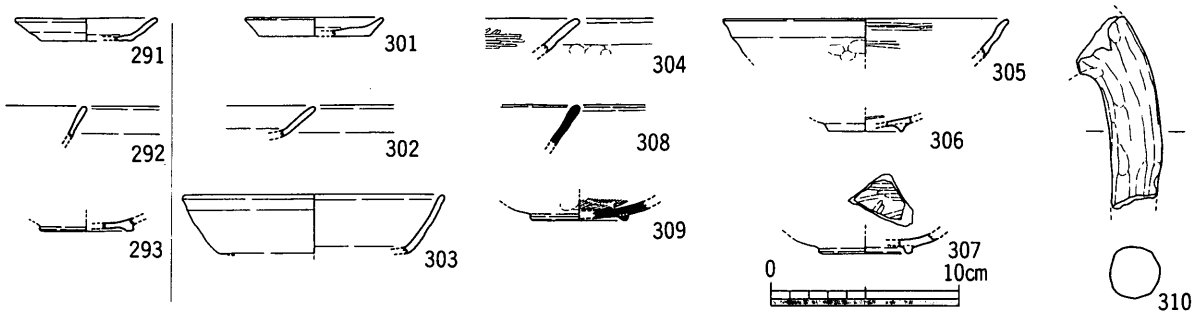
時期は弥生時代と思われる。

ＳＤ06

ＳＤ06は調査区北部で検出した溝である。後世の削平によって残存状態は悪く，部分的に途切れている。また，東側のＳＤ08とほぼ併走する。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約0.58ｍで，検出面からの深さは約0.14ｍを計る。流路方向は真北から27.0°西偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

溝内から土師器小皿・坏，瓦器椀，須恵器などが出土している（第87図291～293）。

291は土師器小皿，292は土師器坏あるいは土師器椀の口縁部で，293は瓦器椀である。瓦器椀の高台はやや外側に踏張るしっかりしたものである。



第87図　ＳＤ06・08出土遺物実測図

時期は出土遺物から12世紀末～13世紀前半と思われる。

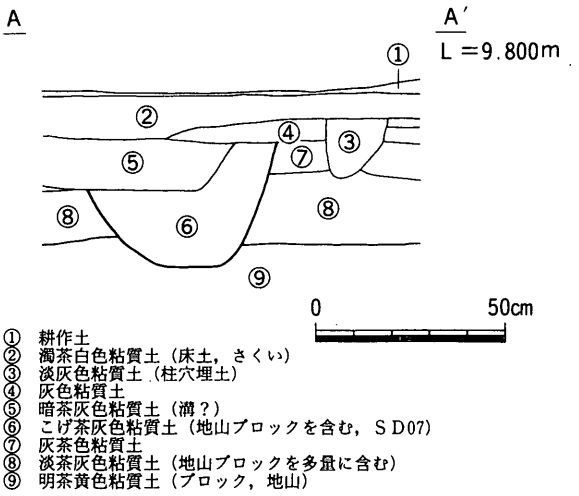
ＳＤ07

ＳＤ07は調査区北部で検出した溝である。後世の削平は受けているものの天幅の割に深さのあるものである。ＳＨ01の竪穴住居と切り合いがあり，平面検出状況及び土層からＳＤ07が新しいことが分かる。断面形態はＵ型を呈している。規模は天幅約0.32mで，検出面からの深さは約0.32mを計る。流路方向は真北から38.0°西偏している。

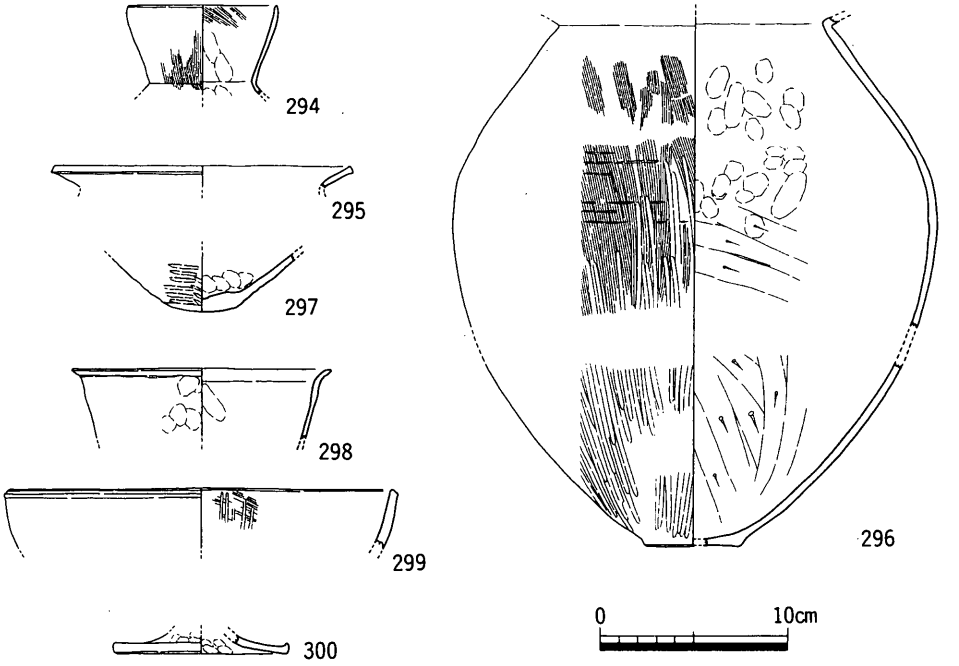
溝内から弥生土器が出土している(第89図294～300)。

294は壺である。口縁部がやや内彎し，短く広がる頸部を持つ壺である。295～297は甕である。296は体部最大径が上半にあるもので，体部外面は叩きののち細かい刷毛目及びヘラ磨きが，内面は最大径より下半がヘラ削り，上半に指頭痕が認められる。297は外面に叩き痕が認められる甕の底部である。298・299は鉢である。298は口縁部を外反させるもので，299はやや内彎させ，終わらせるものである。300は高坏の脚である。

時期は弥生時代後期前半頃である。



第88図　ＳＤ07土層断面図



第89図　ＳＤ07出土遺物実測図

ＳＤ08

ＳＤ08は調査区北部で検出した溝である。後世の削平及び試掘によって残存状態が悪いものである。南部で直行する溝ＳＤ16に切られている。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約1.34mで，検出面からの深さは約0.08mを計る。流路方向は真北から26.5°西偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

溝内から瓦器椀，須恵器椀（瓦質土器椀），黒色土器椀，土師質土釜などが出土している（第87図301～310）。

301は土師器小皿で，底部はヘラ切りされている。302・303は土師器坏である。304～307は和泉型瓦器椀である。口縁部内面及び内面見込み部分にヘラ磨きが残り，外面には認められない。308・309は須恵器椀（瓦質土器椀）である。底部には粘土紐状の高台が付き，内面見込み部分に刷毛目がみられる。310は土師質土釜の脚である。

時期は出土遺物から12世紀末～13世紀前半と思われる。

ＳＤ09

ＳＤ09は調査区北部で検出した溝である。後世の削平によって残存状態が悪く，部分的にしか残存しない。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約0.52mで，検出面からの深さは約0.05mを計る。流路方向は真北から27.0°西偏している。この流路方向は周辺に残る方格地割の方向とほぼ合致する。

溝内から土師器坏，瓦器椀，瓦質甕，青磁，白磁などが出土している。

時期は出土遺物から12世紀末～13世紀前半である。

ＳＤ10

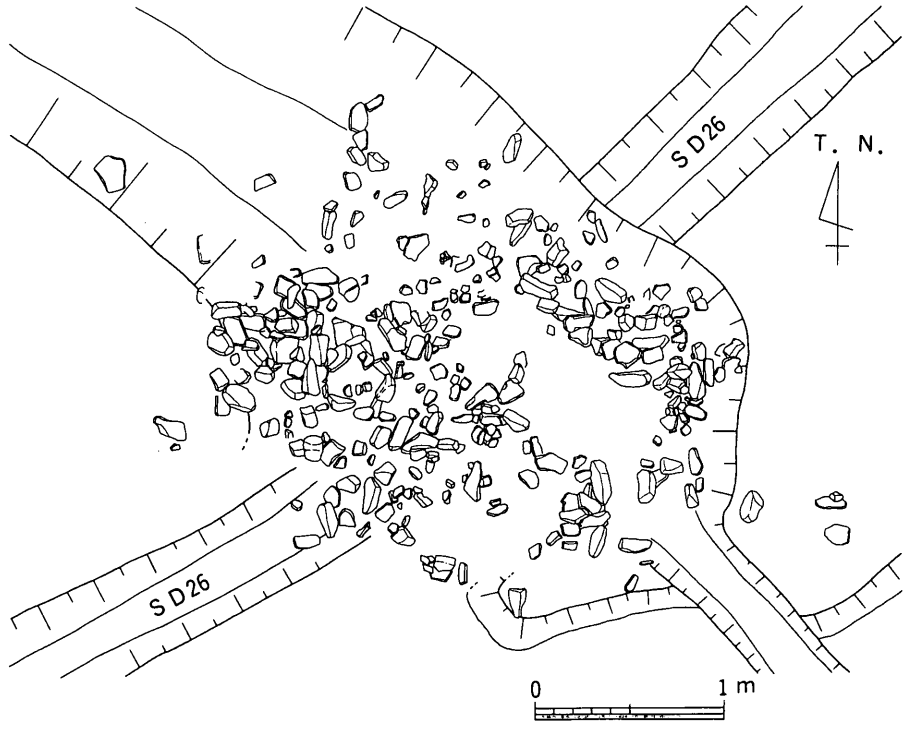
ＳＤ10は調査区北部で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。後世の削平によって残存状態が悪く，部分的にしか残存しない。また，試掘により削平を受けているが，出土遺物からＳＤ08に繋がるもので，ＳＤ08からほぼ直角に西方に延びる溝である。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約0.64mで，検出面からの深さは約0.10mを計る。流路方向は真北から55.0°東偏している。

溝内から土師器坏，瓦器椀などが出土している。

時期は出土遺物から12世紀末～13世紀前半である。

ＳＤ11

ＳＤ11は調査区北半で検出した溝で，調査区とほぼ平行するように検出した。総延長は58.0mで，ほぼ真っ直ぐに流路を取り，規模は天幅約1.53m，深さ約0.39mを計る。北端は調査区外に延びており，南端はＳＸ01に繋がる。ちょうどＳＸ01と繋がる部分には５～15cm程度の礫が集中してたが，その配置には規則性が認められず，その機能及び構造等については不明である。



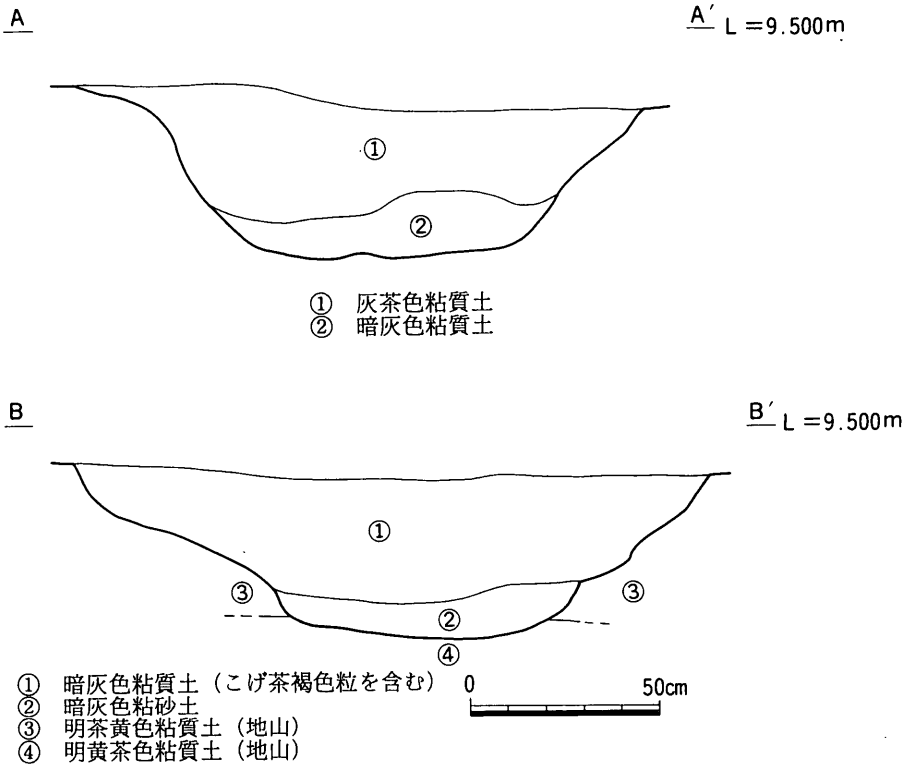
第90図　ＳＤ11礫集中平面図

礫集中部分を取り除くと細い溝になりその溝はＳＸ01の南端部分に繋がる。北端部分にも同様な溝を検出しており，ＳＸ01の内周を巡る溝が礫集中部分を介し，ＳＤ11に流れだしていたものと考えられる。

埋土は上・下の２層に分けられ，上層が厚く堆積している。上層が灰茶色粘質土で，下層は暗灰色粘質土である。

溝内から多数の須恵器，土師器，土師質土器が出土している（第92～107図311～640）。

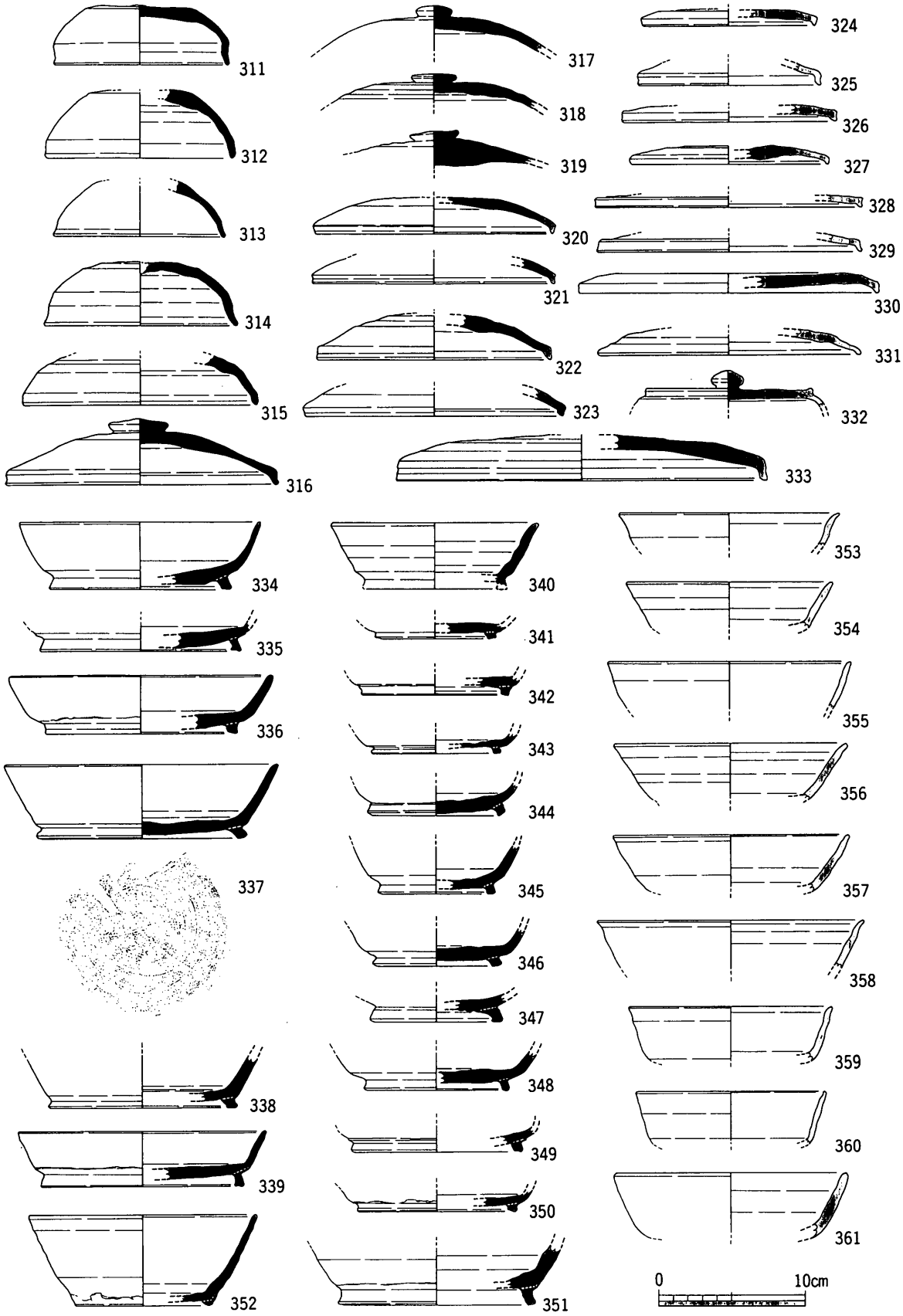
これらの遺物は大別すると上・下層（第１層・第２層）の２つに分けられる。この土層区分を基準として報告するが，前述した上層厚がかなり厚かったため，取り上げ時に便宜的に分けた区ごとで上層と第１層に分け，また更に第１層は上・中・下として取り上げている。しかし，上層と第１層は同じ土層である。そのため，ここでは便宜的に分けた上層，第１層（上・中・下），下層（＝第２層）の５区分に分けて説明する。



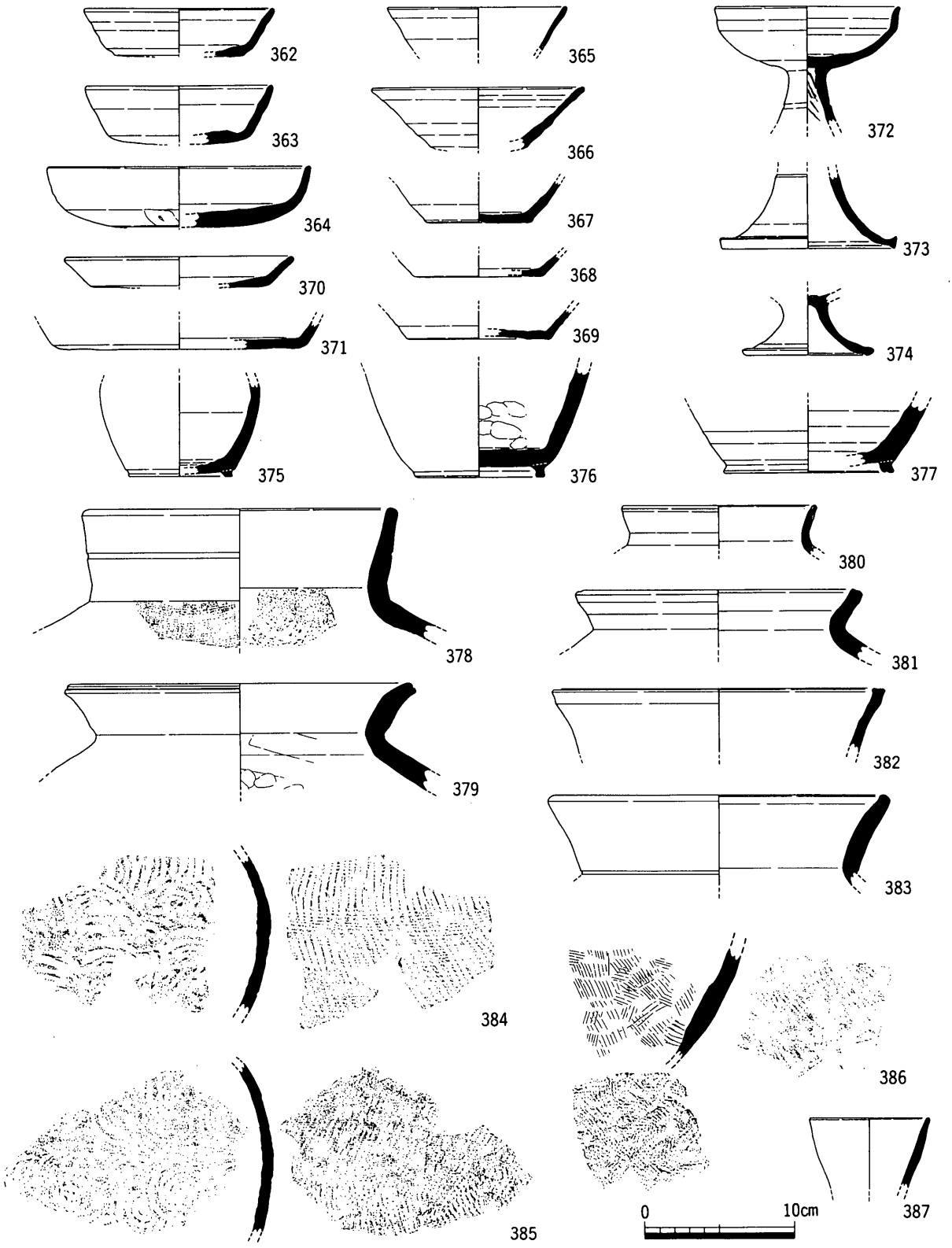
第91図　ＳＤ11土層断面図

311～470は上層出土遺物である（第92～99図）。

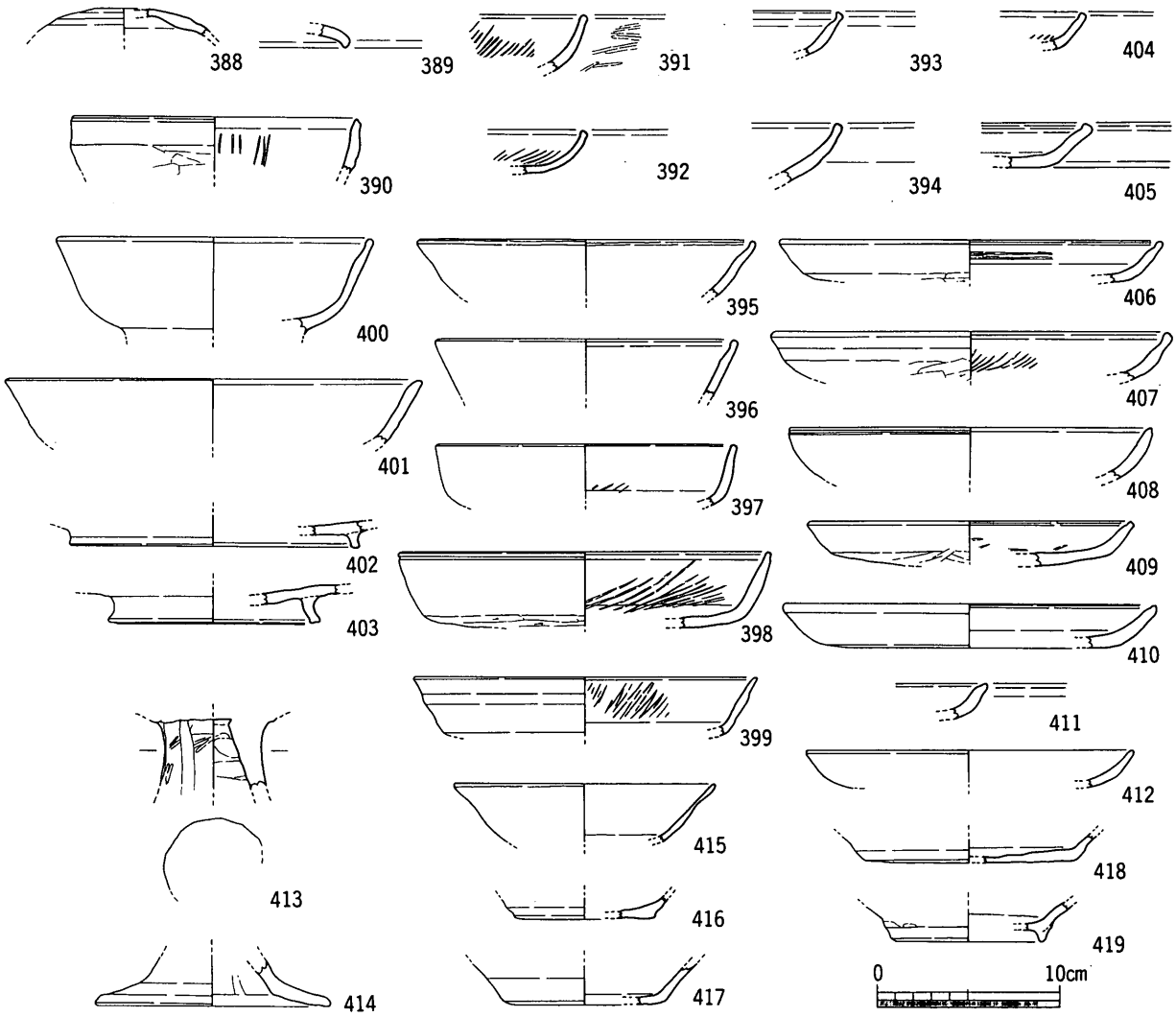
311～333は須恵器坏蓋である。311～315は平らな天井部からやや丸みを持たせ体部になるもので，口縁部は真っ直ぐ終わらせるものとやや外反させるものがある。311～314はやや小振りのもので，天井部はヘラ切りののち指なでされている。315はやや大振のもので，天井部にはへら削りが認められる。316～332は天井部につまみが付くものである。316～323は器高がやや高いもので，天井部に扁平なつまみが付き，口縁端部を下方に屈曲させる。口径はほぼ17cmと一定しており，法量分化は認められない。324～331は器高が低いもので，口縁端部の形態に小さく三角形に終わらせるものや下方に屈曲させるもの，やや屈曲させ丸く終わらせるものなどバリエーションに富む。口径は12cm前後の小振りのものと19cm前後の大振のものがある。口縁端部の形態で小振りのものに屈曲が小さいものがあり，大振のものは屈曲がしっかりしているものがある。332は須恵器坏蓋であるが平たい天井部中央に宝珠形のつまみが付き，天井部縁辺部に断面三角形の凸帯を付ける。焼成は硬質で，天井部には緑味を帯びた自然釉がかかっている。333はかなり大振りの須恵器蓋である。334～352は須恵器高台付坏である。箱形を呈する形態のものと逆台形状を呈するものがある。体部はほとんどが直線的に外上方に延びもので，口縁端部をそのまま終わらせるものとやや外反させるものがみられる。底部には断面方形の高



第92図　ＳＤ11上層出土遺物実測図①

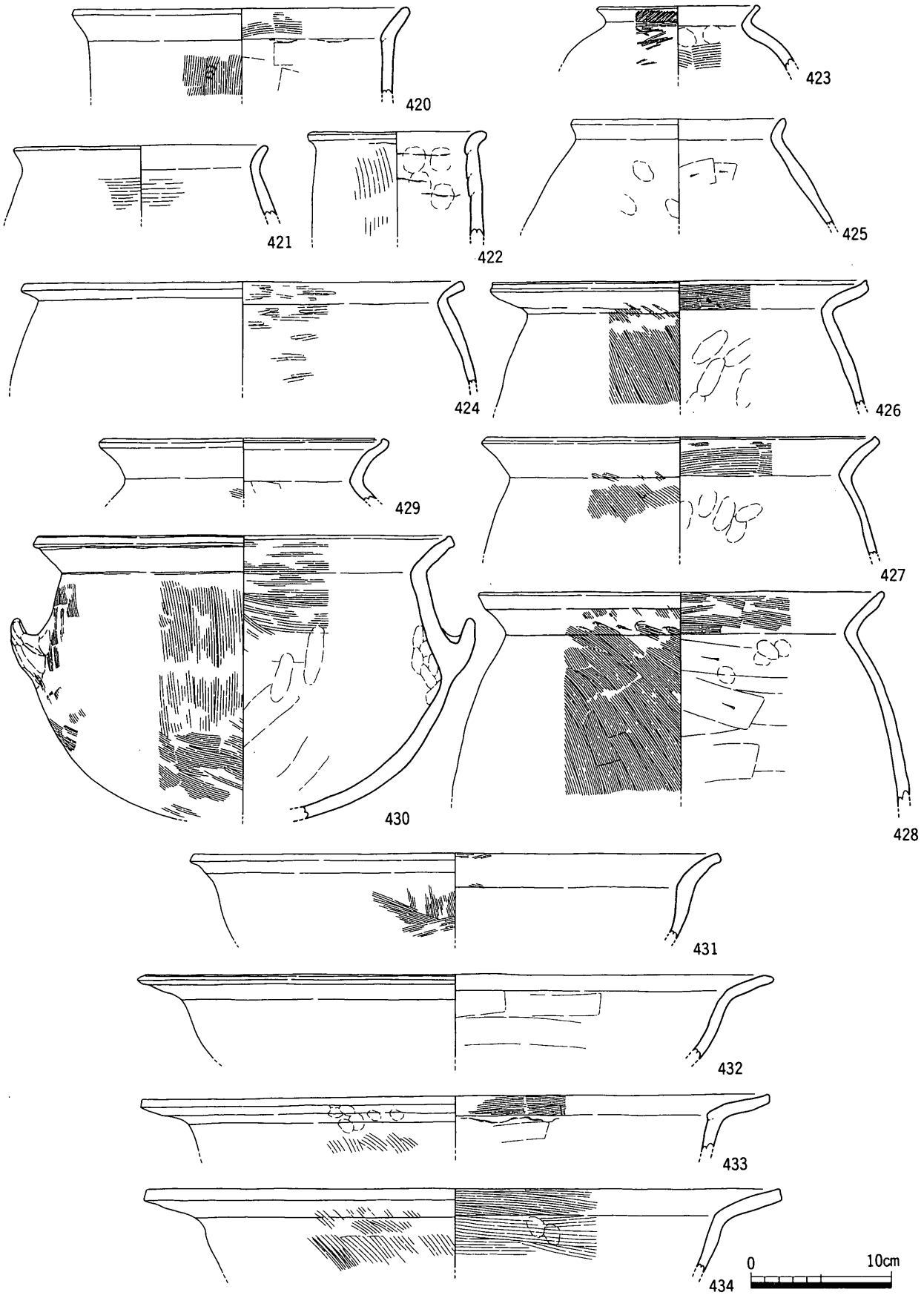


第93図　ＳＤ11上層出土遺物実測図②

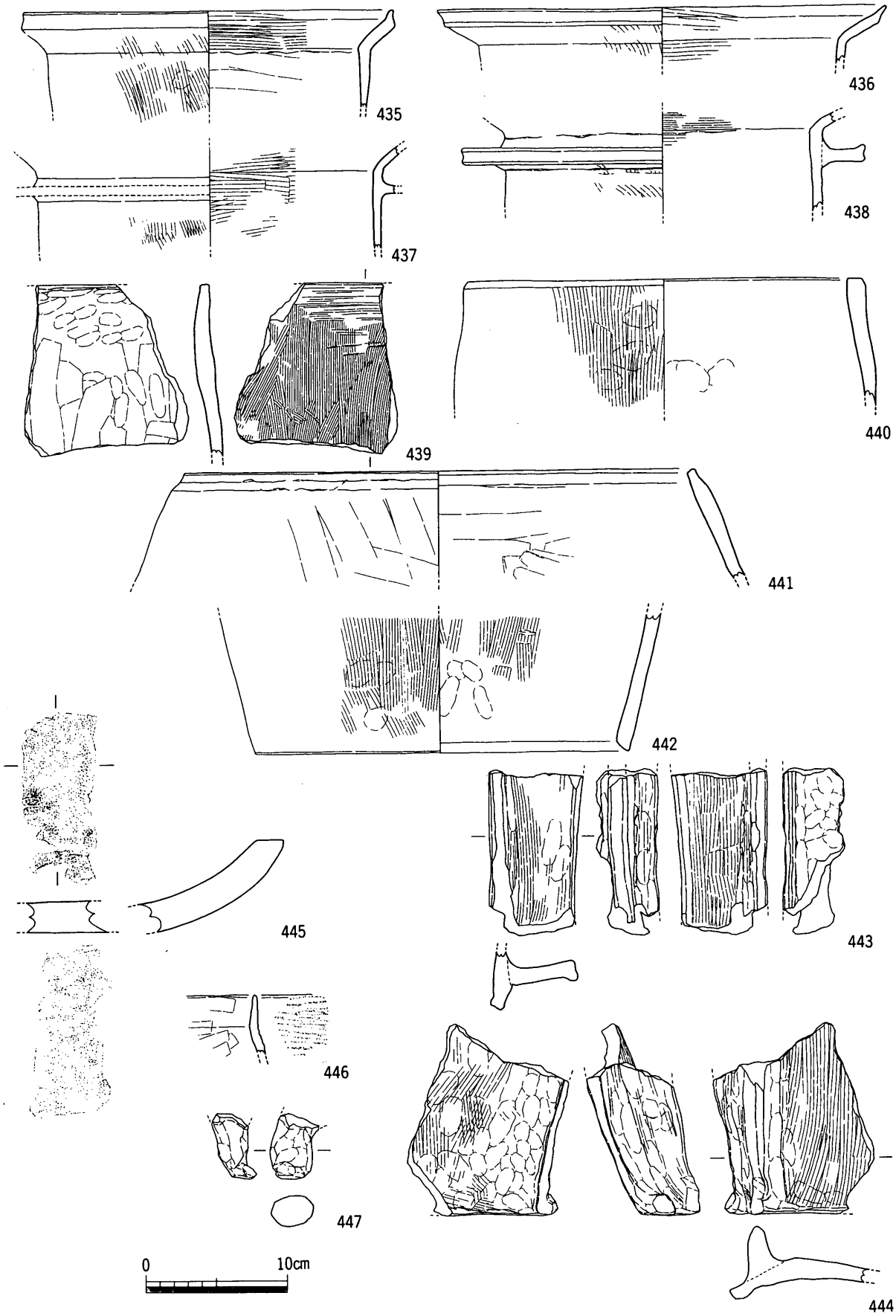


第94図　ＳＤ11上層出土遺物実測図③

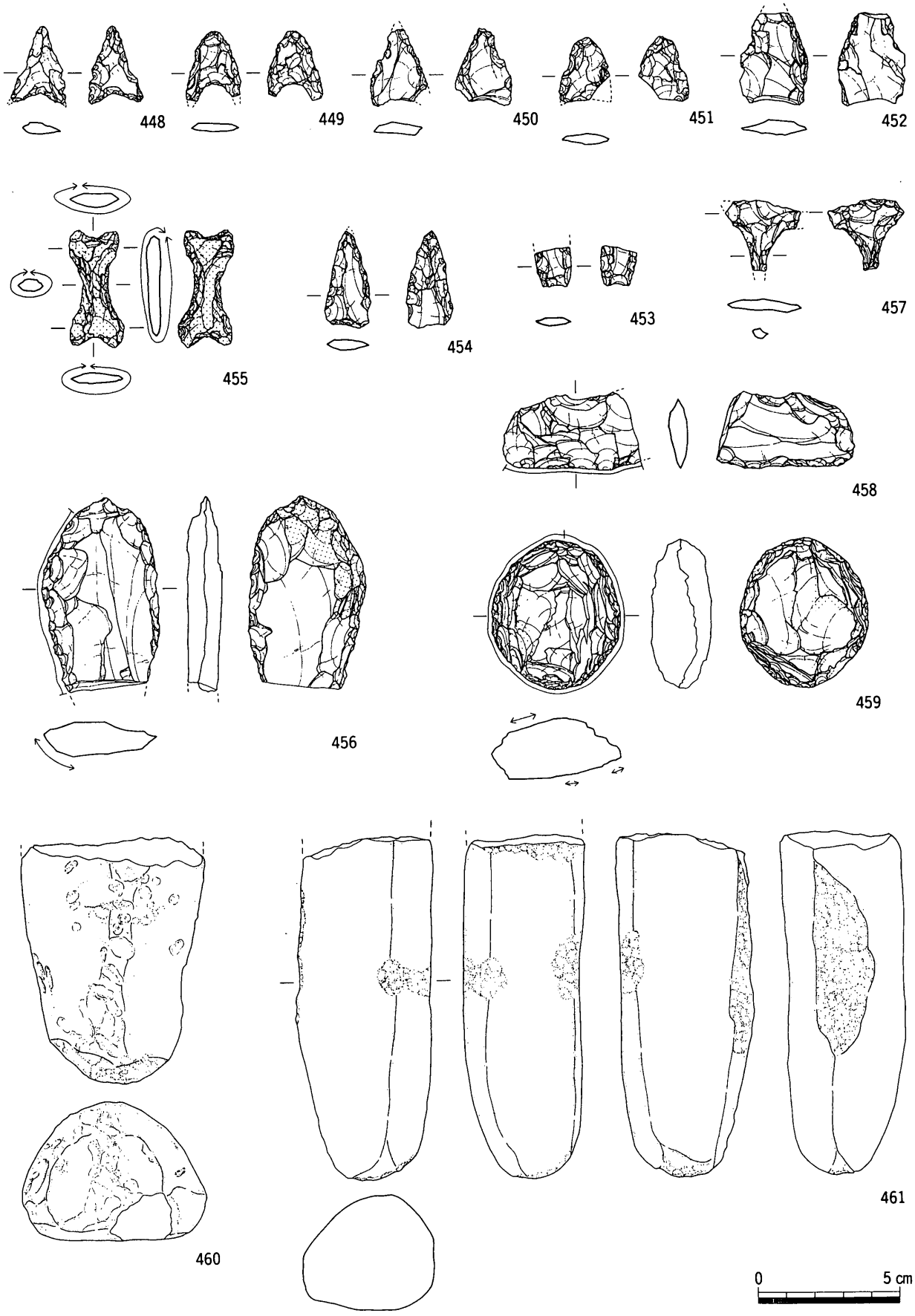
台が真っ直ぐ付くものと外方に踏張るものがあり，高台の付く位置も底部縁辺部に付くものとやや中に入った部分に付くものがある。337の底部には篦による線刻が認められる。352はやや深手のもので，平底の底部の縁辺部に断面蒲鉾状の高台が付き，体部は直線的に外上方に延びるものである。353～369は須恵器坏である。底部と体部の屈曲が丸みを持つものと明瞭な稜を持つものに分かれ，前者は器高が低い傾向を示す。口径は前者が16cm前後，後者が12cm前後とやや前者の方が大きいようである。364は底部から丸みを持ちながら屈曲し，口縁部に至るもので，口径が17.6cmと大きい。365～369は断面が箱型を呈する須恵器坏で，底部がヘラ切りされた平底を呈し，体部が直線的に外上方に延びるものである。370・371は須恵器皿である。372～374は須恵器高坏である。372・373は脚部が長く，ほぼ中央に１条の沈線が認められる。375～377は須恵器高台付壺である。378は頸部が直行する壺で，頸部外面に１条の沈線が認められる。379～383は須恵器甕である。頸部から口縁部の形態をみると外反するもの，やや外反し口縁端部を内方に僅かに屈曲させるもの，ほぼ直線的に延びるものがある。384～386は甕の体部である。384・385は内面に同心円状の当て具痕が，外面に格子目叩きが残る。386は内面に無文の当て具痕ののち粗い刷毛目が施され，外面は格子目叩きが残るものである。387は須恵器平瓶の口縁部である。388・389は回転台土師器（軟質の須恵器）である。388は器形的には７



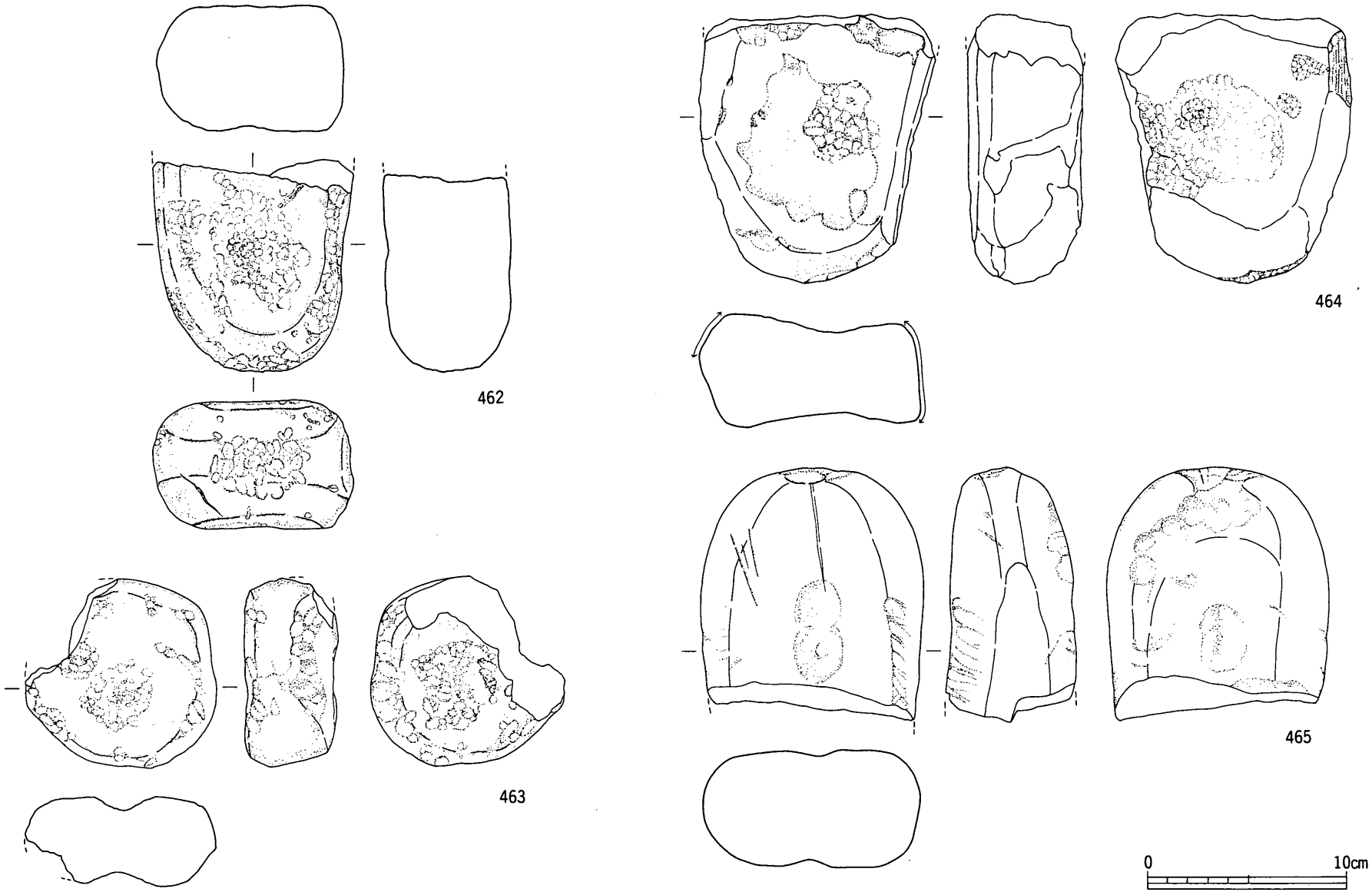
第95図　ＳＤ11上層出土遺物実測図④



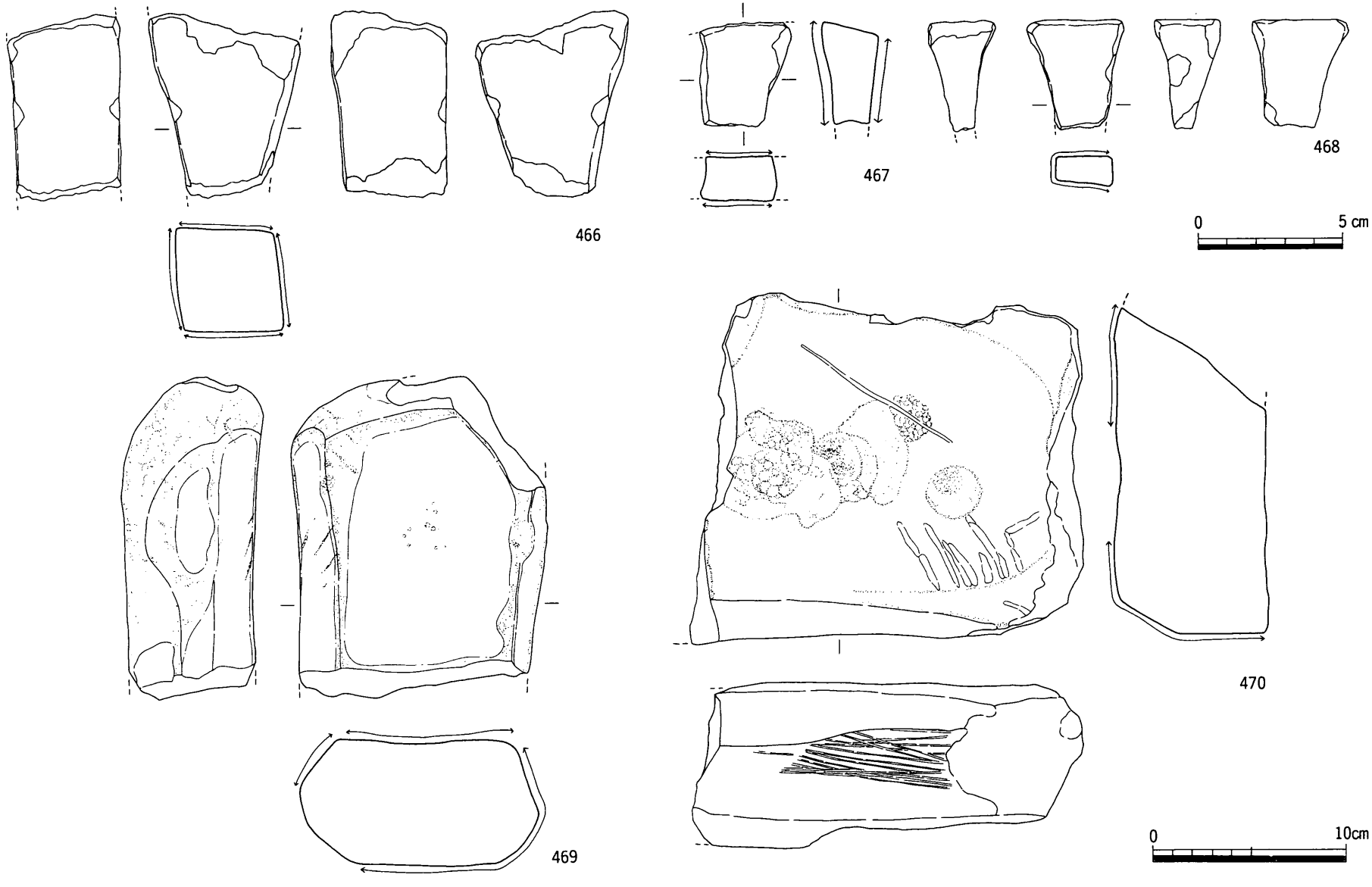
第96図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑤



第97図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑥



第98図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑦



第99図　ＳＤ11上層出土遺物実測図⑧

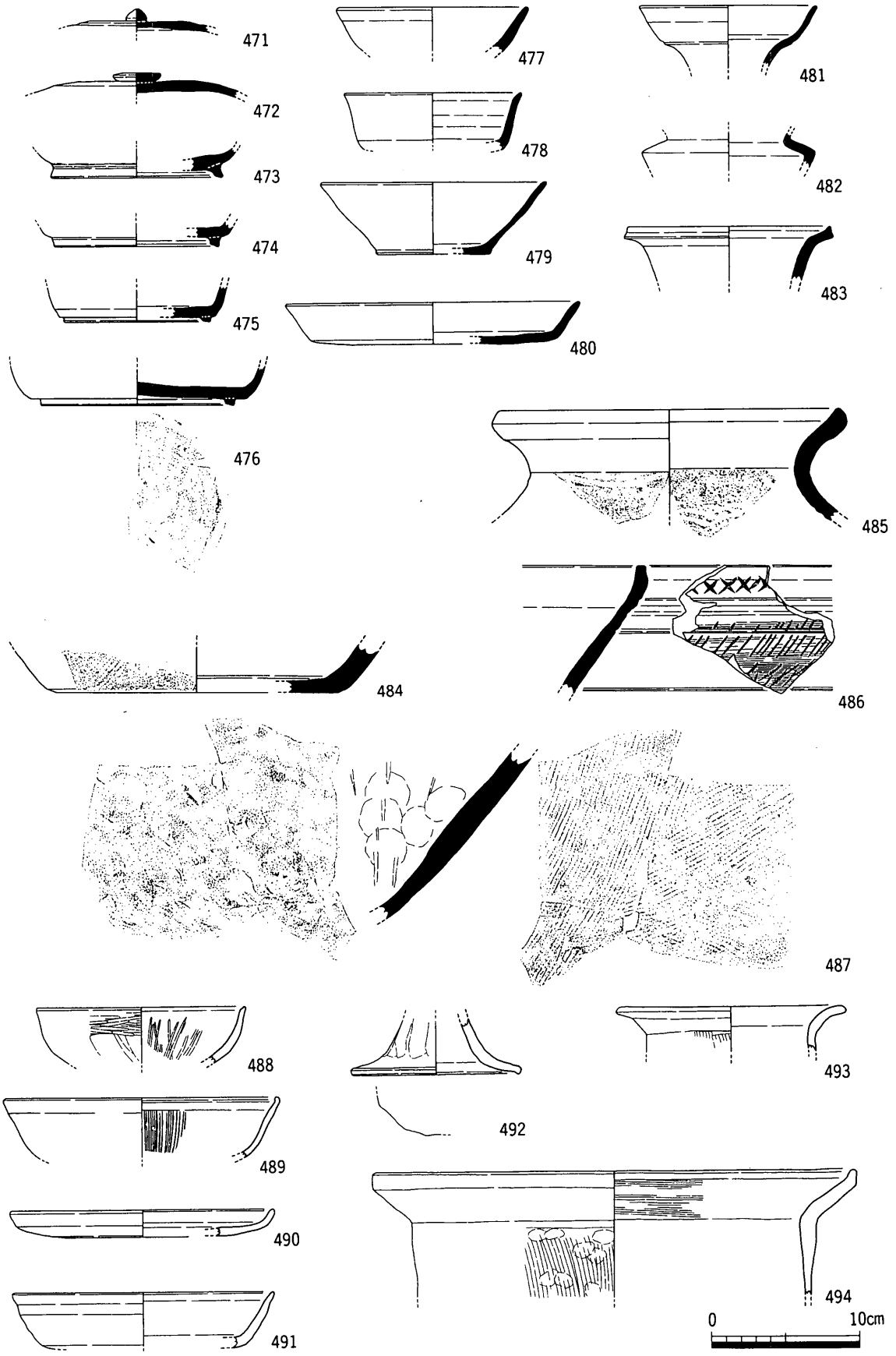
世紀前半の須恵器坏蓋であるが，焼成が土師質（軟質）であることから回転台土師器とした。390～399は土師器坏である。体部と底部の境がないものと屈曲し，稜を持つものがある。後者については口縁端部を僅かに内方に折り曲げている。体部内面には見込み部分から口縁部方向に右上がりの放射状ヘラ磨きが施されている。400～402は土師器高台付坏である。404～412は土師器皿である。口縁端部を僅かに内方に折り曲げたものが多い。土師器坏同様内面に放射状ヘラ磨きが施されている。413・414は土師器高坏である。脚部外面をヘラ削りにより面取りしている。415～417は回転台土師器坏である。底部はヘラ切りされ，体部は直線的に延びる。418は回転台土師器皿である。底部はヘラ切りである。419は回転台土師器坏に高台を付けた椀である。420～430は土師質甕である。形態的に「く」の字に屈曲する頸部から体部がやや外方に膨らむものと直線的に下方に延びるものがある。それぞれには大型のものと小型のものがあり，ほぼ大・小に法量分化が認められる。体部外面は斜め方向の粗い刷毛目が，内面には指頭痕が認められる。429・430は球形の体部両端に把手が付くものである。431～434は土師質鍋である。「く」の字に屈曲する頸部から体部が内彎気味に延び，器高が浅い。体部内外面に粗い刷毛目が施されている。435～438は頸部下部に鍔の付く土師質長胴甕である。「く」の字に屈曲する頸部から体部は直線的に下方に延びる。口縁端部は上方に屈曲させ，摘み上げている。内外面に粗い刷毛目が施されている。439～442は土師質甑と思われる。443・444は土師質竈である。445は須恵質瓦である。上面は指なで調整され，下面はヘラ削りされている。446は製塩土器である。口縁部が直立し，体部が球形を呈するもので，体部外面には平行叩き痕が認められる。447は土師質土馬の脚である。正面からみると「く」の字に屈曲することから右足と考えられる。下端部は前方に僅かに折れ曲がり，下面は平らに作られている。448～455はサヌカイト製の石鏃である。基部の形態により「凹基式」・「平基式」に分けられる。455は糸巻き状を呈したもので，中央部が細く，両端が凹基式の基部状になっている。456はサヌカイト製の石槍である。457はサヌカイト製の石錐である。錐部が欠損している。458・459はサヌカイト製のスクレイパーである。459はラウンドスクレイパーで全側面に刃部を持つものである。460は砂岩製の敲き石である。461は砂岩製の石錘である。中央部やや上部角に抉りを持たせている。462～465は砂岩製の凹み石である。462は側辺に敲打痕があることから敲き石として，また464は砥石としても使用していたものと思われる。466～470は砥石である。466～468は流文岩製で，469は砂岩製で，470は安山岩製である。

多量に出土している上層遺物をみるとかなり時期差があるものと考える。まず須恵器では器高の高い須恵器坏蓋から天井部につまみの付くものまでみられる。時期的には概ね７世紀前半と７世紀末～８世紀初，８世紀末頃と思われる。須恵器坏身もおおよそ同時期のものであるが９世紀後半から10世紀前半頃の須恵器坏も出土している。土師器もほぼ須恵器と同時期である。石製品は砥石等に古代のものも含まれるがそのほとんどは弥生時代のものと考えられる。

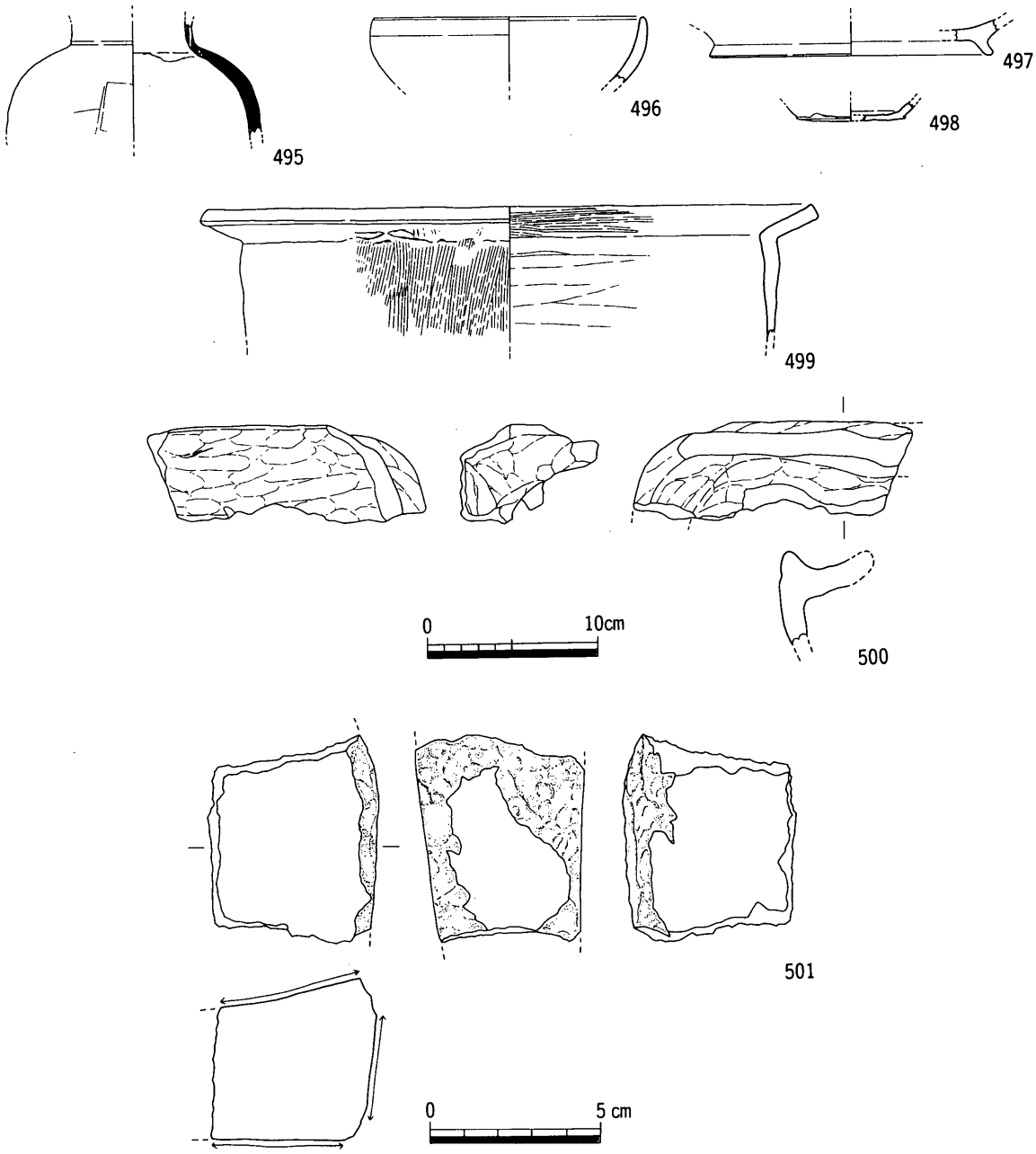
したがってかなり時期幅のある堆積になるが，最終埋没は９世紀後半から10世紀前半にかけてと思われる。

471～494は第１層（上）出土遺物である（第100図）。

471・472は須恵器蓋である。天井部につまみが付くが，その形態に宝珠形のものと扁平なものがみられる。473～476は須恵器高台付坏である。高台はやや外方に踏張るものと断面方形のものが直に付くものがある。476は高台部内面とやや中央寄りの２重に「爪型圧痕」が認められる。477～479は須恵器坏である。478は断面が箱型を呈し，口縁端部がやや外反する。479は

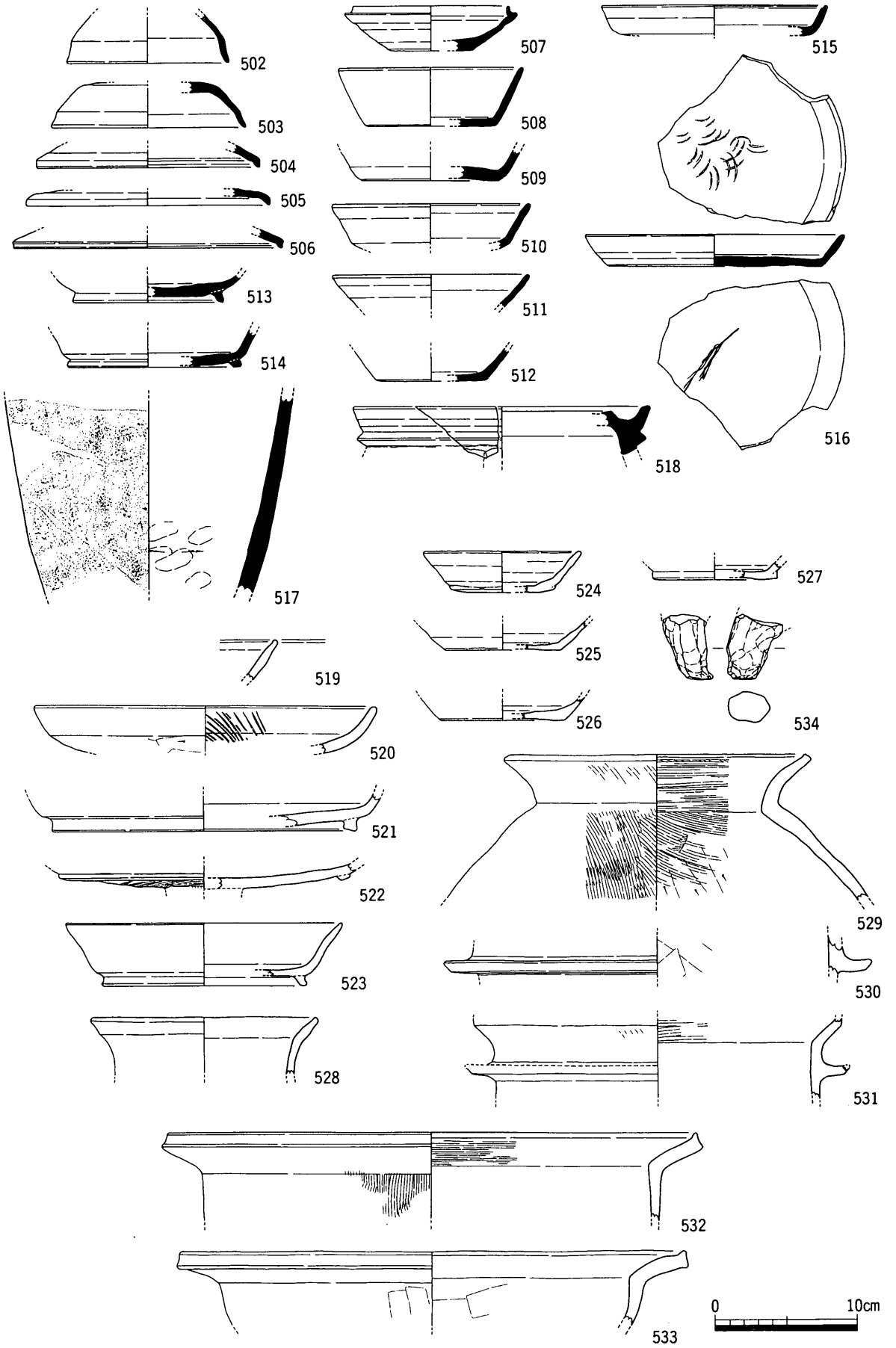


第100図　ＳＤ11第１層(上)出土遺物実測図



第101図　ＳＤ11第１層(中)出土遺物実測図

底部がヘラ切りされ，体部は直線的に外上方に延びるもので，全体に薄く作られている。480は須恵器皿である。底部がヘラ切りされ，体部は直線的に外上方に延び，口縁端部で僅かに外反させる。481は須恵器瑤の口縁である。482は須恵器短頸壺で，483は須恵器壺の口縁である。483は口縁部を外反させ，口縁端部を上方に摘み上げている。485・486は須恵器甕である。486は頸部外面及び口縁部外面に篦状工具による刻みが認められる。487は須恵器甕の体部で，外面には浅い叩き痕が，内面は無文の当て具痕ののち指なでが施されている。488・489は土師器坏である。488は丸底を呈するもので，内面には放射状のヘラ磨きが施されている。489は平底を呈するもので，口縁端部をやや内方に折り曲げる。体部内面には放射状のヘラ磨きが施されている。490は土師器皿である。491は回転台土師器である。焼成は須恵器のやや軟質焼成気味である。492は土師器高坏で，脚部はヘラ削りによる面取りが認められる。493・494は土師質甕である。



第102図　ＳＤ11第１層(下)出土遺物実測図①

第１層（上）出土遺物をみても前述した上層出土遺物とほぼ同時期の遺物が出土している。特に492の土師器高坏は脚部を面取りしていることから８世紀前半代と思われる。

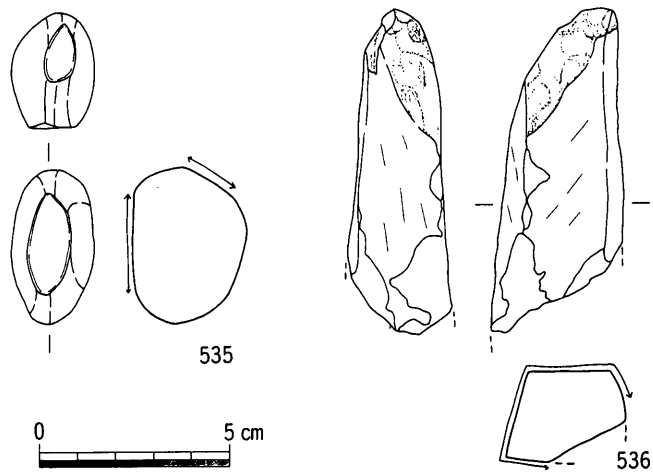
495～501は第１層（中）出土の遺物である（第101図）。

495は須恵器壺である。496は丸底の土師器坏で，体部も内彎する。497・498は回転台土師器である。497は底部に断面方形の外方に踏張る高台が付くものである。498は底部がヘラ切りされたもので，須恵器坏の形態を呈する。499は土師質長胴甕である。500は土師質竈である。501は砂岩製の砥石である。

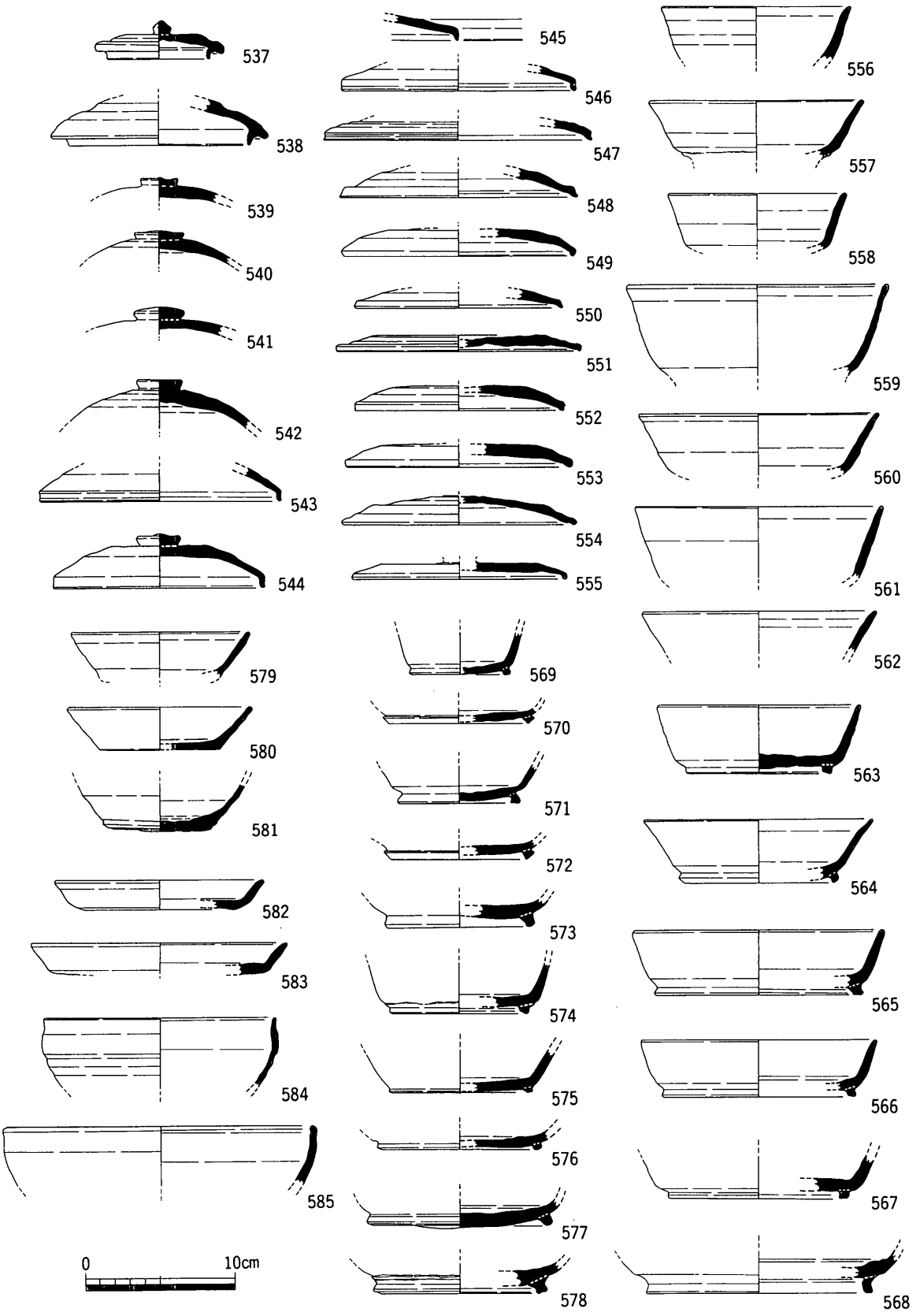
出土遺物からみると上層とほぼ同時期の遺物が出土している。

502～536は第１層（下）出土遺物である（第102・103図）。

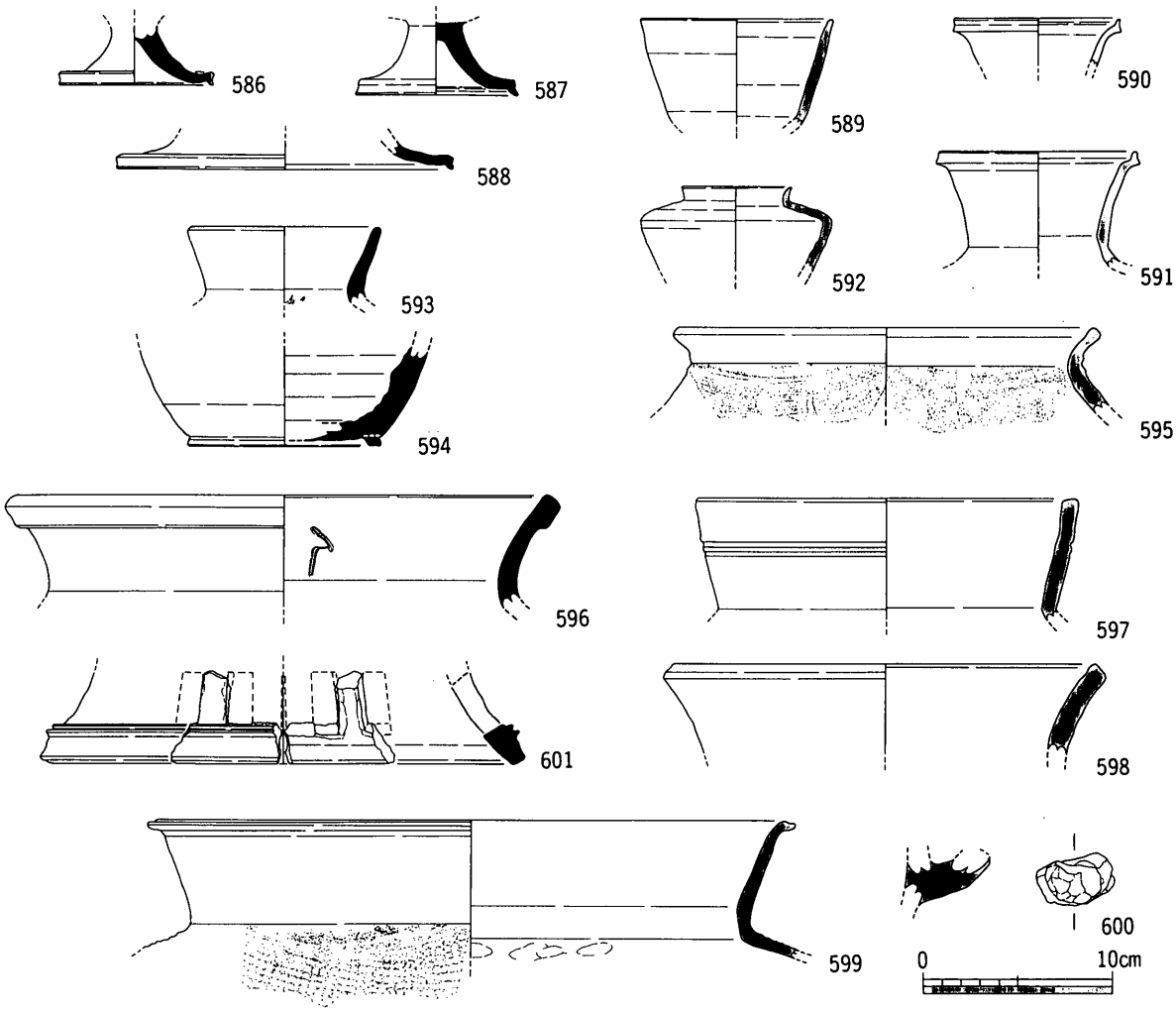
502～506は須恵器坏蓋である。器高の高い７世紀前半代のものと７世紀末から８世紀段階の器高の低いものがある。507～514は須恵器坏である。507は立ち上がりと受け部を持つ須恵器坏身で，器高の高い坏蓋とセットになるものである。また，箱型を呈する坏には底部と体部の境に明瞭な稜を持つものと緩やかに屈曲するものがある。底部はヘラ切りである。513・514は高台付坏で，高台はやや外方に踏張る。515・516は須恵器皿である。516は底部ヘラ切りされ，のち指なでが施されている。特に中央部には指なでののち稲藁の痕跡が意図的に付けられたように認められる。内面見込み部中央には同心円状の当て具痕が認められることから，底部の稲藁の痕跡となんらかの関係があるものと考える。517は須恵器壺の体部である。518は須恵器円面硯である。硯面は高い陸と海があり，外堤は外上方に真っすぐ延びる。脚部付根に断面三角形の凸帯が付き，脚部には隅丸長方形状の透しを持つ。口径は21.0cmとやや大振の硯である。519は土師器坏である。口縁端部を内方に短く摘み出す。520は土師器皿で，内面に左上がりの放射状ヘラ磨きが施されている。521は回転台土師器の高台付坏である。522は土師器高坏である。坏部縁辺部には高台状の凸帯が付くもので，底部ほぼ中央に脚の剝がれた痕跡が確認できる。また，底部外面にはヘラ磨きが施されている。523は土師器高台付坏である。体部が屈曲しながら外上方に延び，口縁端部をやや内方に屈曲させる。524～526は土師器坏である。底部はヘラ切りされ，体部は直線的に外上方に延びる。527は円盤状高台付坏（椀）である。底部はヘラ切りされ，体部は円盤状を呈する底部よりやや上方から延びる。内面見込み部分縁辺部をやや凹ませる。528・529は土師質甕である。大型のものと小型のものがみられ，529は体部に凸帯が付くものと思われる。530・531は鍔の付く長胴甕である。532は鍔の付かない長胴甕である。533は器高の浅い土師質鍋である。534は土師質の獣脚である。外面には指なで痕が顕著に残り，やや粗く作られている。正面からみると「く」の字にやや屈曲することから右足であることがわかる。脚下端部は前方に摘み出し，先端ほぼ中央部に切り目状のものが認められることから「偶蹄目」科の獣の脚と思われる。また，土馬の脚にしては短い。535・536は流紋岩製の砥石である。



第103図　ＳＤ11第１層(下)出土遺物実測図②



第104図　ＳＤ11下層(第２層)出土遺物実測図①

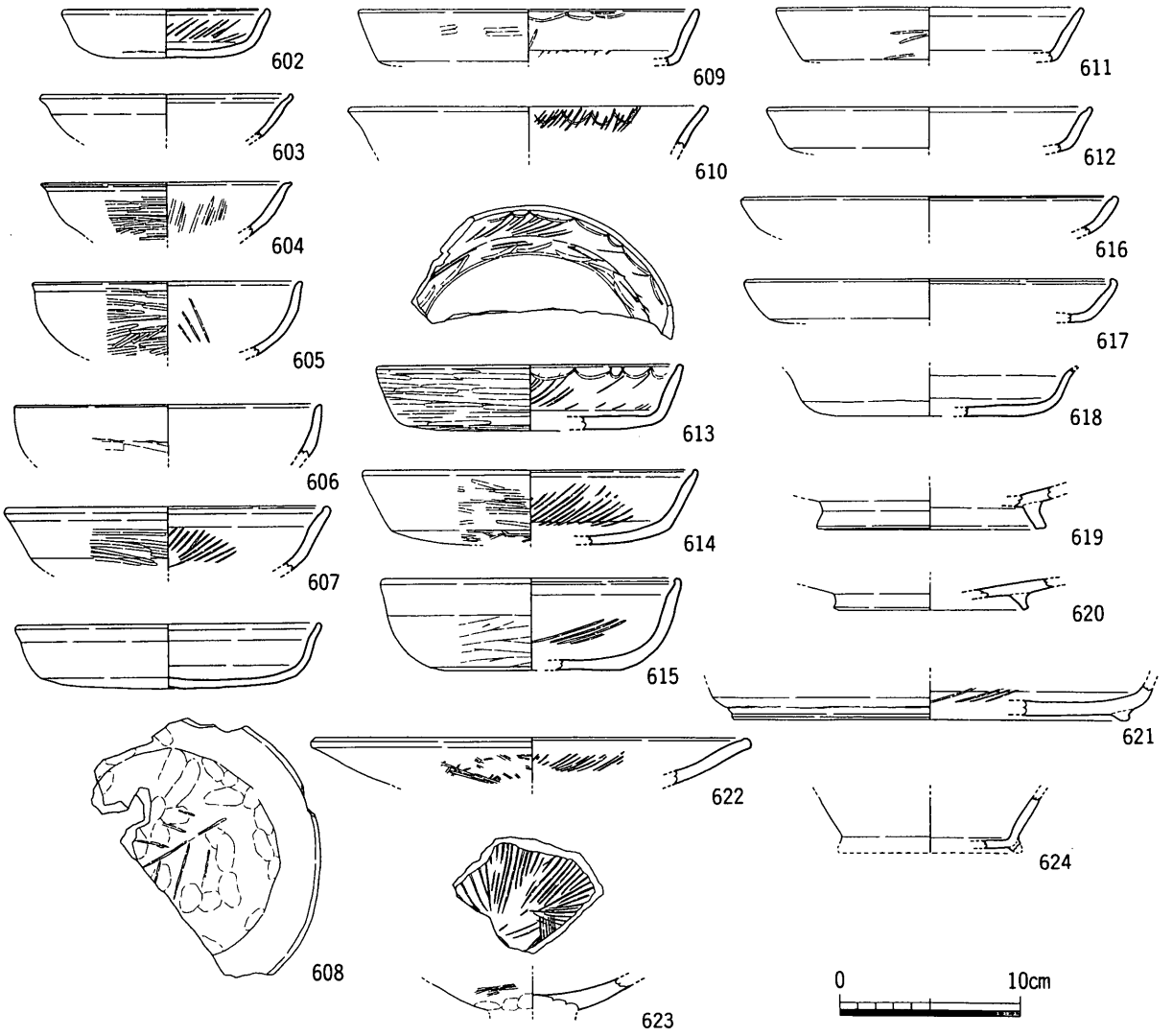


第105図　ＳＤ11下層(第２層)出土遺物実測図②

第１層（下）も上層及び第１層（上・中）と同様で，時期的にも合致する。534の獣脚は上層出土の447の獣脚とセットになるものと思われる。時期的にも７世紀前半から10世紀前半までの遺物を包含している。

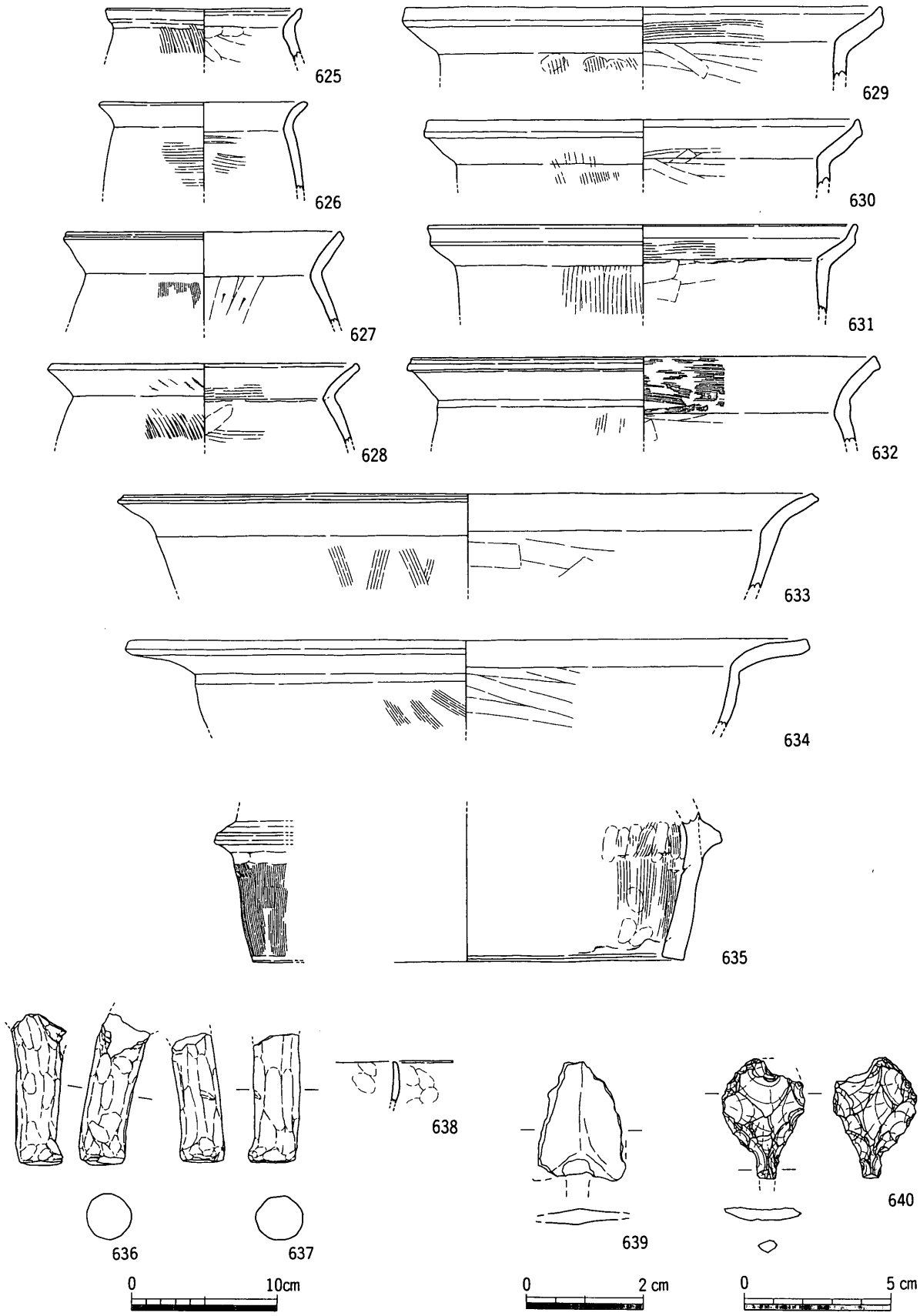
537～640は下層（第２層）出土の遺物である（第104～107図）。

537～555は須恵器坏蓋である。坏蓋は天井部につまみを持つもので，７世紀後半段階から出現する器高の低い，返りを持つ坏蓋が少量認められるが，そのほとんどは扁平なつまみを持つ坏蓋で，７世紀末から９世紀初頭段階の坏蓋である。上層で出土している器高の高い７世紀前半段階の坏蓋がなくやや時期幅が限定されている。556～581は須恵器坏である。556～578は須恵器高台付坏である。底部の形状で断面方形の高台がやや外方に踏張る形態のものとほぼ直に付くものがみられる。体部はやや内彎気味のものと直線的に延びるものがある。579～581は高台の付かない坏で器高の低いものと高いものがみられる。底部はヘラ切りされている。582・583は須恵器皿である。底部はヘラ切りされ，体部は直線的に外上方に延びる。584・585は須恵器鉢（椀）である。585は口縁端部が内方に短く屈曲し，７・８世紀の土師器坏・皿の口縁端部と同様な形態を呈している。586～588は須恵器高坏の脚である。588は脚の長い高坏になると思われるが，その他は脚が短く，脚端部径の小さいものである。589は口径が小さく，器高の深い坏で，底部に高台が付く可能性がある。590～594は須恵器壺である。590・591は広口



第106図　ＳＤ11下層(第２層)出土遺物実測図③

高の深い坏で，底部に高台が付く可能性がある。590～594は須恵器壺である。590・591は広口の壺で直線的に延びる頸部から口縁部が外反し，端部を上方に摘み上げるものである。592は短頸壺で，肩部は張るが，明瞭な稜を持たない。595～599は須恵器甕である。頸部から口縁部の形状にバラエティーがかなりあり，時期差を表している。600は須恵器甑の把手と思われる。601は須恵器円面硯の脚である。「ハ」の字に開く脚で，長方形の透かしを持つ。透かしの数はおおよそ26個と推定できる。602～615は土師器坏である。底部が丸底のものと平底を呈するものがあり，平底のものにもやや稜を持つものと緩やかに丸く底部から体部になるものがある。口縁端部は僅かに外方に屈曲させ，丸く終わらせる。丸底のものは底部外面にヘラ削りが，体部外面にはヘラ磨きが施されている。内面のヘラ磨きは左上がりのものや右上がりのものがみられる。平底のものは体部がほぼ直線的に延びるもので，口縁端部を内方に屈曲させる。底部は指なでされており，体部外面は横方向のヘラ磨きが施されている。体部内面は右上がりのヘラ磨きが施されている。609・610・613は体部内面に放射状のヘラ磨きと上端部に連弧暗文がみられる。特に613は連弧暗文が放射状ヘラ磨きの上下にみられる。この放射状ヘラ磨きと連弧暗文のセットは平城IIの段階に盛行するもので，香川県においても伝統的な土師器の盛行する時期としてとらえることが可能である。成形方法は土師器坏608の底部にみられるように「木



第107図　ＳＤ11下層(第２層)出土遺物実測図④

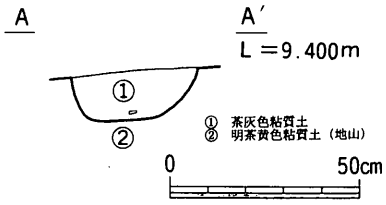
の葉」の痕跡がみられ，またヘラ切り痕などの底部調整がなく，指頭痕及び指なでが明瞭に残ることから田中琢氏の提唱した「左手手法」を香川県においても裏付けられたことになる。今後検討課題となるのは搬入品か在地で製作されたものかの判断である。616～618は土師器皿である。618を除く全てが土師器坏と同様な口縁端部を呈しており，同時期のものと考えられる。619～621は土師器高台付坏である。622・623は土師器高坏である。口縁端部は坏・皿と同様に内方に僅かに屈曲させる。坏部内面には放射状のヘラ磨きが施されている。624は回転台土師器坏である。坏形態の体部と底部の境に高台が付くもので，9世紀後半頃のものと考える。625～632は土師質甕である。「く」の字に屈曲する頸部から体部が内彎気味に延びるもので，法量により大・中・小がみられる。629～631は体部が直線的に下方に延びるもので，長胴甕に分類できる。633・634は土師質鍋である。635は土師質竈と思われる。636・637は土師質獣脚である。脚部は長く延び，先端部で前方に僅かに摘み出す。正面の形状から636が右足，637が左足と考えられる。外面の調整は，636が短い指なでで，637が長い指なでである。638は製塩土器である。639は銅鏃である。茎部を欠損している。640はサヌカイト製の石錐である。錐部を欠損している。

上層遺物と同様に時期差が認められるが，その中心は8世紀第2四半期頃と考えともよいと思われる。

以上ＳＤ11出土遺物を取り上げ土層ごとに列挙したが，かなり出土遺物には時期差があることが判明した。埋土は暗灰色を基調とし，短時期の埋没とは考えられない。したがってＳＤ11の時期は下層（＝第2層）の時期を考慮に入れ，8世紀代2四半期頃に掘削され，最終埋没は9世紀後半から10世紀前半頃としたい。

ＳＤ12

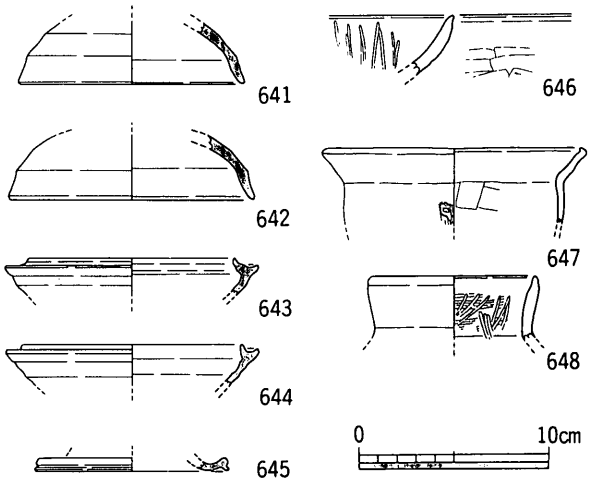
ＳＤ12は調査区北部で検出した溝である。南に開口する「コ」の字状に検出した。東西3.2m幅で，南北検出長が西溝4.0m，東溝10.5mを計り，天幅は約0.34m，深さ約0.13mを計る。流路方向は真北から27.0°西偏している。北部ではＳＫ03を，南部ではＳＤ11に切り合いがみられる。埋土は茶灰色粘質土の単層である。また，区画内で検出した柱穴で掘立柱建物は建たず，他の遺構もないことから機能不明の溝である。



第108図　ＳＤ12土層断面図

溝内からは須恵器坏身・坏蓋，須恵器甕，須恵器高坏，土師器坏，土師質土鍋などが出土している。(第109図641～648)

641・642は須恵器坏蓋である。643・644は須恵器坏身である。坏身は受け部及び立ち上がりがかなり矮小化しており，坏蓋と共に小型化している。645は須恵器高坏の脚である。646は土師器坏である。体部内面には放射状のヘラ磨きが，外面下半には横方向のヘラ削りが施されている。647は土師質甕，648は土師質壺である。



第109図　ＳＤ12出土遺物実測図

時期は出土遺物から７世紀前半が考えられる。

ＳＤ13

ＳＤ13はかなり削平されているが調査区北部で検出した溝である。ＳＤ12と関係があると考えており，そうするとＳＤ12とＳＤ13は長方形に巡る溝であることが分かる。東西3.2m幅で，南北検出長が12.0mを計るもので，天幅は約0.26m，深さ約0.01mを計る。流路方向は真北から64.0°東偏している。

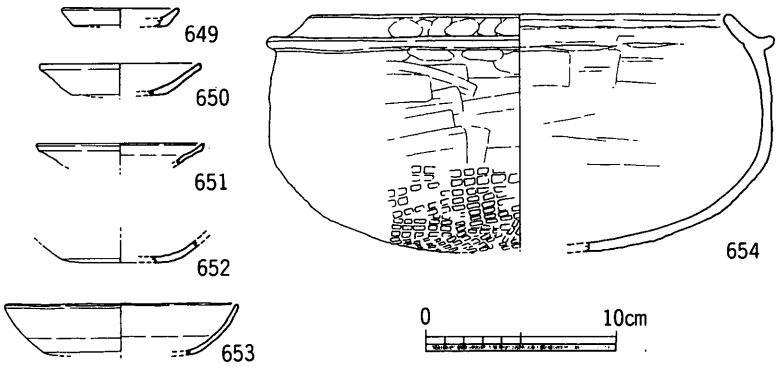
溝内からは土師質土器などが出土している。

時期は古代である。

ＳＤ14

ＳＤ14は調査区北部で検出した溝である。やや蛇行はするもののほぼ直角に屈曲する。この溝によって区画された中には土壙墓が検出されており，したがってこれら土壙墓群の西側と北側を区画するように掘削された溝であることが解る。東西の検出長は約7.0m，南北の検出長は約8.5mを計り，天幅0.36m，深さ0.08mを計る。南北部分の流路方向は真北から18.0°西偏している。

溝内からは土師器小皿・坏，土師質土釜などが出土している（第110図649～654）。



第110図　ＳＤ14出土遺物実測図

649は土師器小皿である。650～653は土師器坏である。口径に大・小があり，小は土師器小皿に近い。土師器小皿・坏共に底部はヘラ切りされている。654は土師質土釜である。体部屈曲部下半（底部）の外面には格子目叩きが，上半は板なでが施されている。

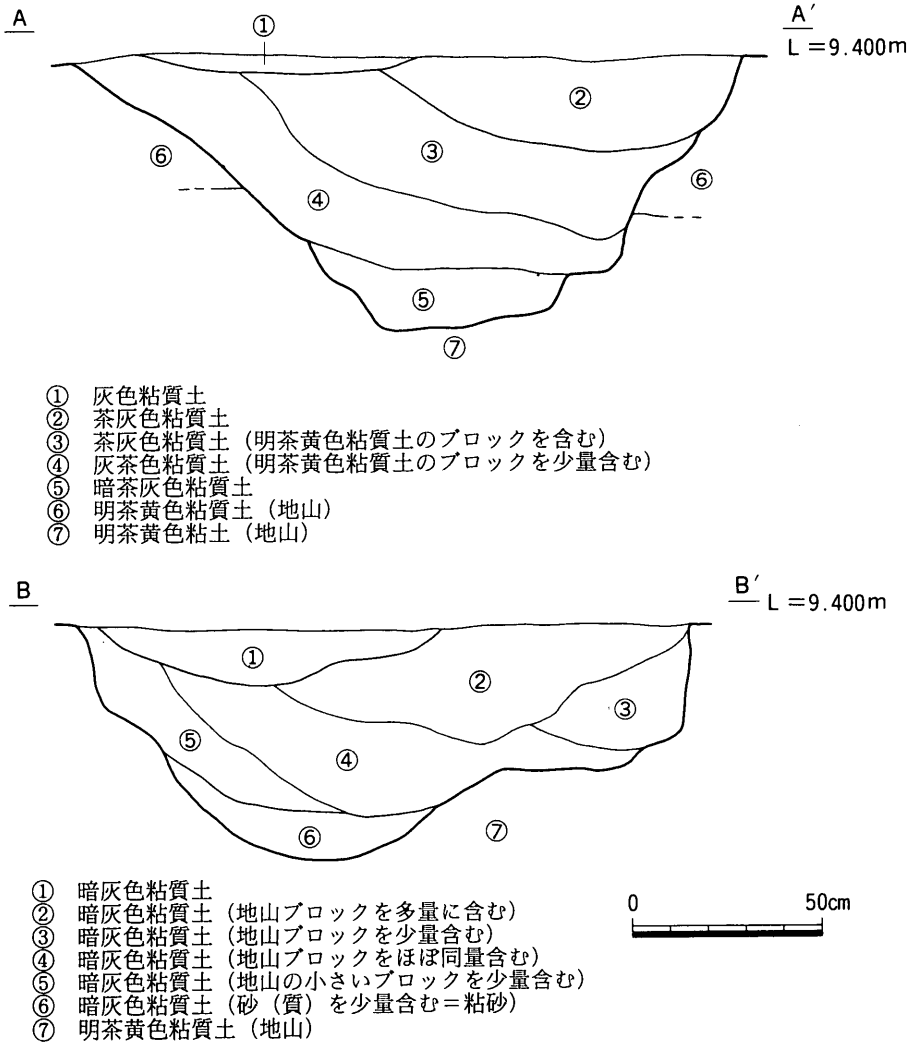
時期は出土遺物から13世紀後半～14世紀である。

ＳＤ15

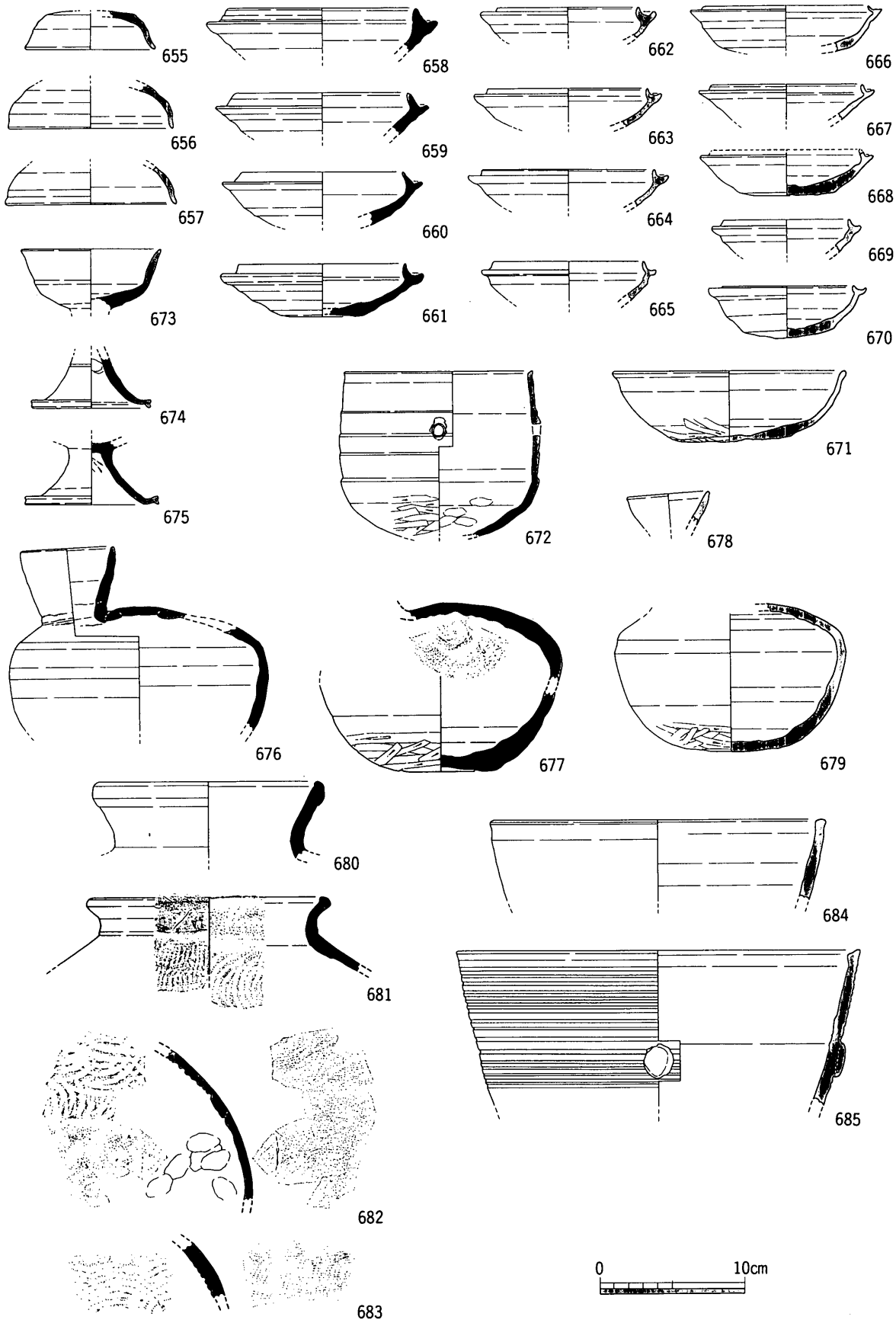
ＳＤ15は調査区北半で検出した溝で，やや蛇行しながらも調査区とほぼ平行するように検出した。総延長は49.0mで，規模は天幅約1.76m，深さ約0.72mを計る。北端は調査区外に延びており，南端は西寄りに流路を取り，調査区外に延びる。埋土は大別して上・中・下の３層に分けられ，中層がかなり厚く堆積している。また，下層には最下層で取り上げた一群があるが，基本的には下層と同じ層である。上・中・下の大別は上層が茶灰色粘質土を基本色とし，中層は茶灰色粘質土に多量の明茶黄色粘質土（地山）を多量に含むことを基本とし，下層は暗茶灰色粘質土を基本とする。

基本的には上・中・下層とも同じ色調・質で，中層に明茶黄色粘質土（地山）を含む量が異なるものである。

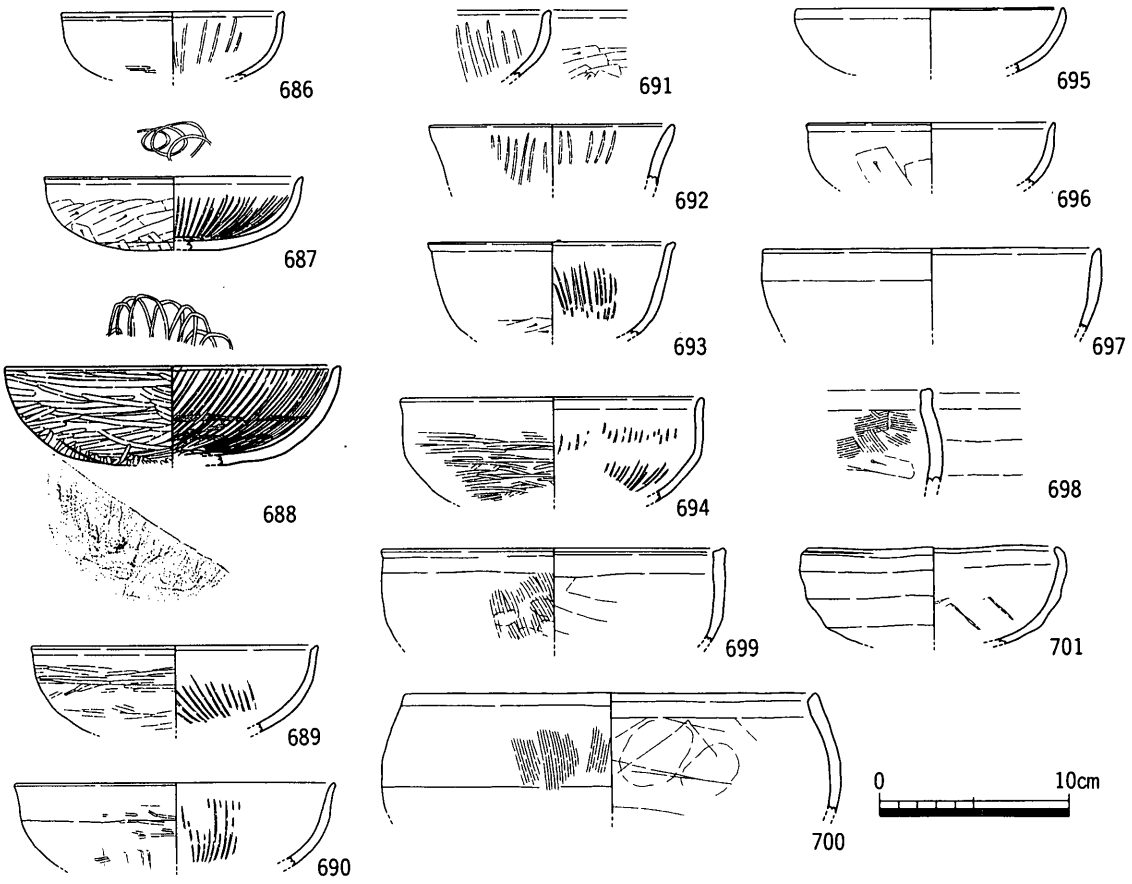
土層観察及び掘削状況からＳＤ15が短期間に埋められた事が考えられ，出土遺物がかなり一



第111図　ＳＤ15土層断面図



第112図　ＳＤ15上層出土遺物実測図①



第113図　ＳＤ15上層出土遺物実測図②

括性の高い遺物であることがわかる。

土層図との対応は北部土層断面（Ａ－Ａ′）では上層が②，中層が③・④，下層が⑤となり，南部土層断面（Ｂ－Ｂ′）では上層が①，中層が②・③・④・⑤，下層が⑥となる。

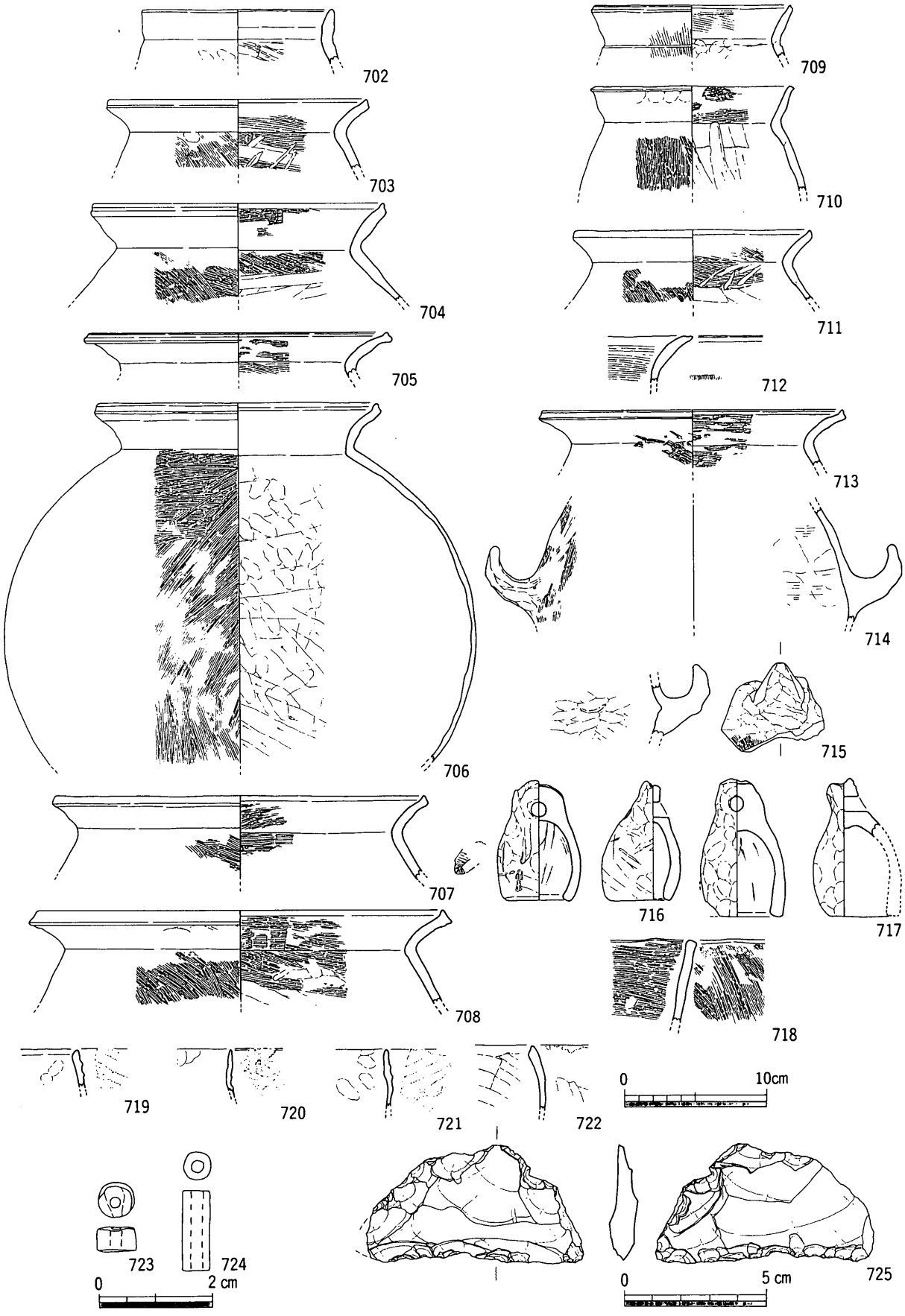
溝内から多数の須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第112～128図655～984）。また，ＳＫ03と同様に多量の獣骨片が出土している。獣骨の多くは牛であるが，稀に馬・鹿なども混じっている。獣骨には斧による打撃痕がみられ，意図的に解体し，食用あるいは何らかの行為に使用したものと考えられる。

以下遺物の説明を行うが，前述したように中層はかなり土層厚があったため，更に細分し上・中・下と分けている。したがって遺物の説明は，上層，中層（上），中層（中），中層（下），下層，最下層の順で行う。

655～724は上層出土遺物である（第112～114図）。

上層は明茶黄色粘質土（地山）のブロックを含む中層をキー層として，それより上位の土層である。

655～657は須恵器坏蓋である。器高が高く，体部は内彎気味に延び，口縁部をやや外反させる。658～670は須恵器坏身である。ほとんどがやや内彎する受け部とかなり矮小化した立ち上がりを持つ。坏蓋と同様にかなり口径が小さい。しかし，658～660のように立ち上がりが長く，受け部もしっかりし，口径も若干大きいものもみられる。671は須恵器椀である。底部は平底で，ヘラ切りののち手持ちヘラ削りが施されている。体部は内彎しながら延び，口縁端部をやや外方の屈曲させる。672は須恵器椀である。丸底の底部から体部は直線的に上方に延び，体



第114図　ＳＤ15上層出土遺物実測図③

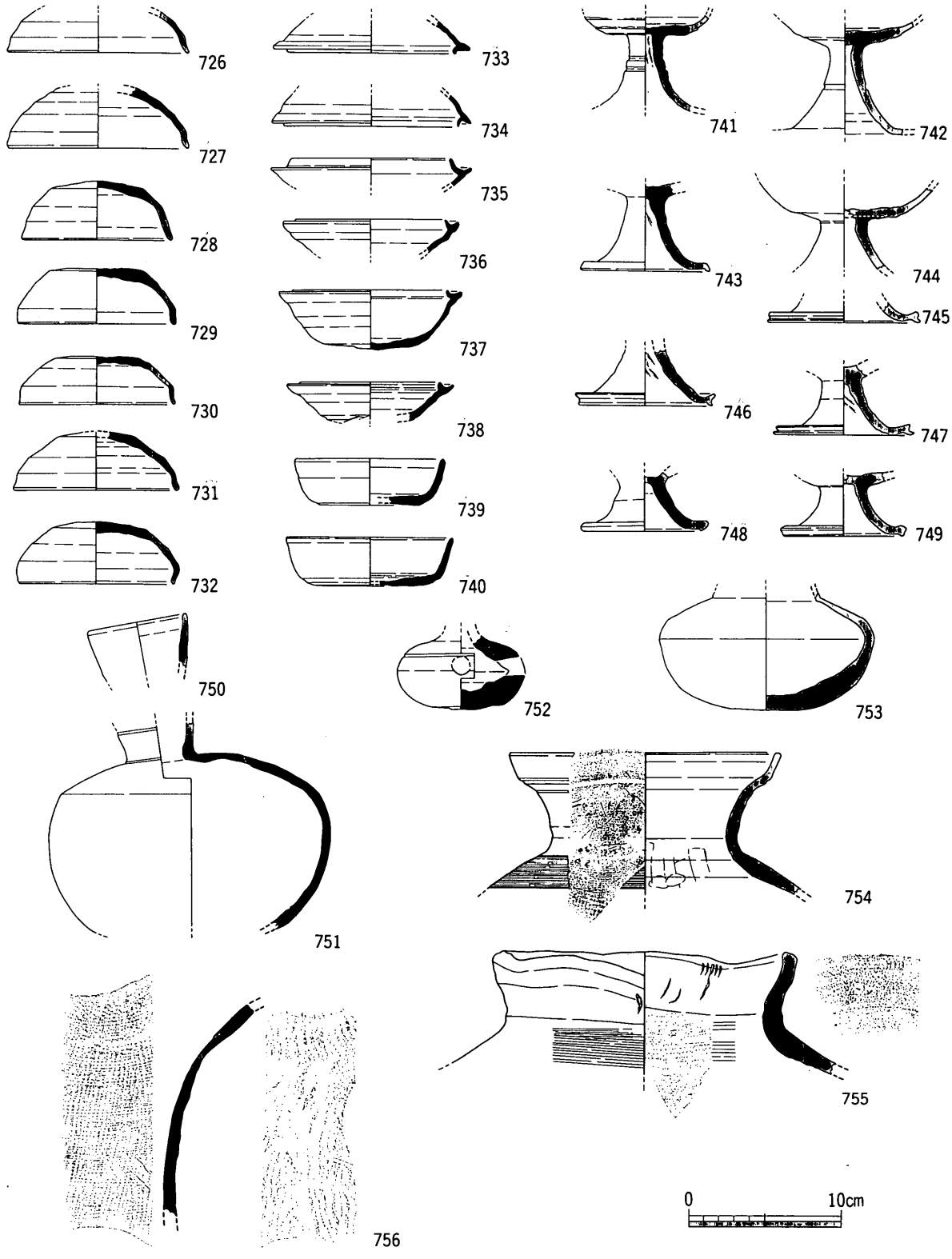
部外面には段状の屈曲が認められる。体部中央に穿孔が認められる。底部は手持ちヘラ削りされ，それ以外は横なで調整されている。673～675は須恵器高坏である。脚が長く中央部に１条の沈線を持つものと脚が短く沈線を持たないものがある。676～679は須恵器平瓶である。丸底状の平底から体部が延び，肩部は緩やかに天井部になる。底部は手持ちヘラ削りが施されている。天井部中央内面には円盤充塡の痕跡が確認できる。680・681は須恵器甕である。682・683は須恵器横瓶の体部である。体部側部に円盤充塡の痕跡が確認できる。684・685は須恵器甑と思われる。686～697は土師器坏である。大きくは断面形態で半球形を呈するものとやや底部と体部の境に屈曲を持ち，箱型を呈するものに分けられる。687・688は半球形を呈するもので，687は丸底の底部から体部が内彎し，口縁端部をやや外反させる。口縁部近くまで手持ちによるヘラ削りが確認できる。内面見込み部分は連結輪状の暗文が，体部内面は放射状ヘラ磨きが施されている。688は外面の底部と体部に手持ちヘラ削りののち横方向のヘラ磨きが密に施されている。694は箱型を呈するものであるが，前者とほぼ同様な調整が施されている。698～701は土師器鉢である。698～700は口縁端部が方形状に終わらせるもので体部外面に細かい刷毛目が施されている。702～715は土師質甕である。法量差により大型のものと小型のものに分けられる。大型のものは体部最大径付近に把手が付き，体部はほぼ球形を呈する。体部外面には細かい刷毛目が，内面は指なでが施されている。小型の甕の内面は縦方向のヘラ削りが施されている。716・717は土師質蛸壺である。716の外面には木の葉の圧痕が認められる。718は土師質甑である。719～722は製塩土器である。体部外面に平行叩き痕が認められ，口縁部には固形塩が付着している。723は滑石製の臼玉である。724は碧玉製の管玉である。725はサヌカイト製のスクレイパーである。

上層出土遺物をみると須恵器では坏身・坏蓋とも口径の縮小したものが主流で，高坏も脚の短いものが伴うことがわかる。したがってやや古相の遺物も混じるが，様相的にほぼ７世紀前半頃と考えられる。また，土師器についても主流を半球形状の丸底の坏が占め，若干箱型の坏があることがわかる。この様相も７世紀前半のもので，須恵器・土師器から時期差のないことがわかり，上層埋没も短期間であることがわかる。

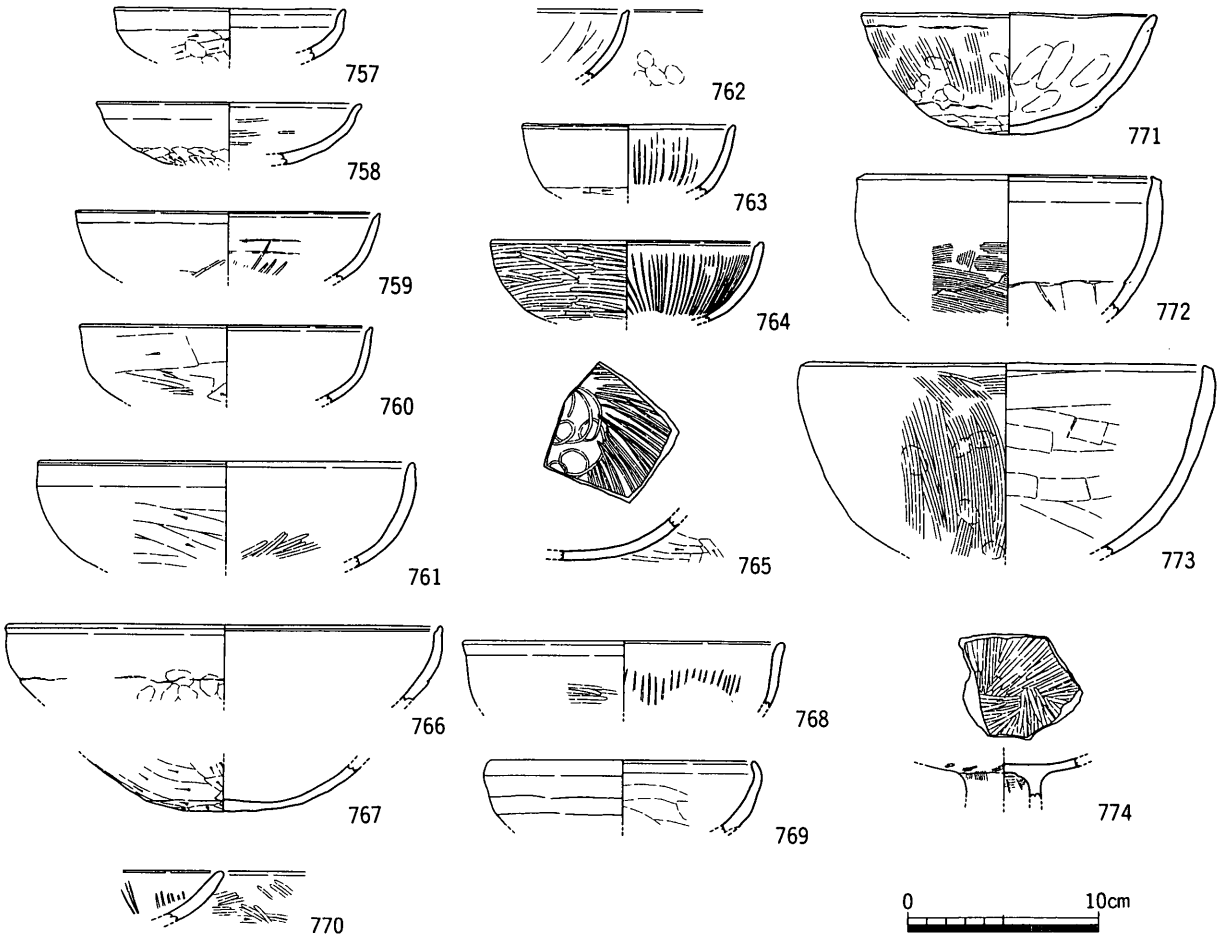
726～805は中層（上）出土遺物である（第115～118図）。

中層は土層厚がかなりあったため，上・中・下に細分しているが，その細分は土層ごとではなく，上位から平均20cm毎に掘削している。しかし，堆積の状況をみると細分したものの同一層としてもおかしくないものである

726～734は須恵器坏蓋である。坏蓋には天井部から内彎しながら体部が延び，口縁端部をやや外反させるものと口縁端部内面に返りを持つものがみられる。735～740は須恵器坏である。坏には坏蓋セットになる受け部と立ち上がりを持つものと断面箱型を呈するものがある。ちょうど坏・坏蓋の逆転したものが共伴している。741～749は須恵器高坏である。高坏には脚部が長く，中央部に１～２条の沈線を持つものと脚部が短く，沈線を持たないものがある。750・751は須恵器平瓶である。肩部は緩やかに体部から天井部になるもので，口縁部は直行し開く。752は須恵器瓿である。753は須恵器短頸壺である。平瓶と同様に肩部に稜を持たず，緩やかに屈曲する。754・755は須恵器甕である。755の口縁部内面には５条の描き目状の刻みがある。756は須恵器横瓶である。内面に円盤充塡の痕跡が確認できる。757～770は土師器坏である。底部丸底の半球形状のものが主流で，僅かに箱型を呈するものがある。体部が内彎しながら上方に延び，口縁端部をやや外反させる。稀に口縁端部内面に沈線を持つものもある。調整は口

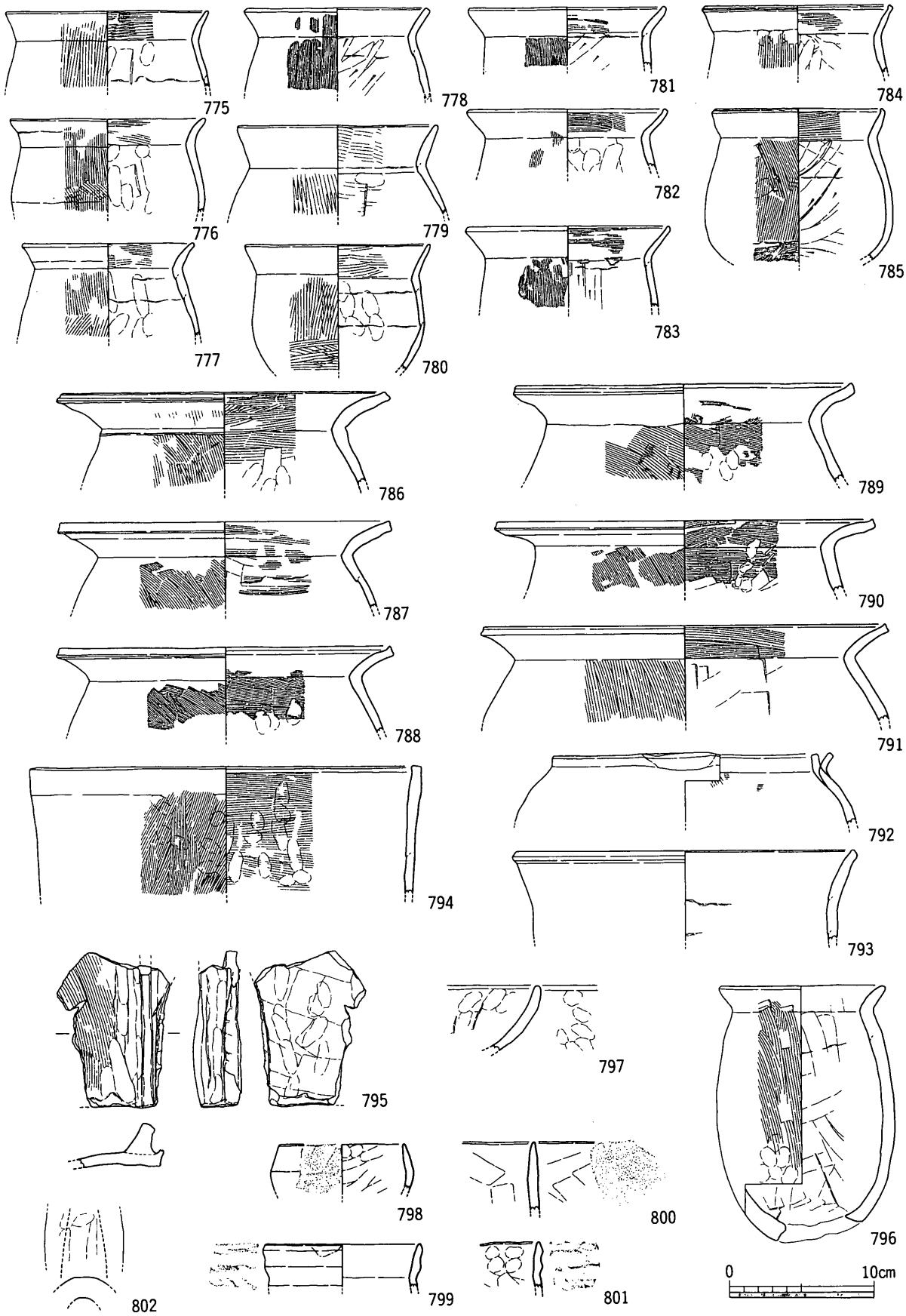


第115図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図①

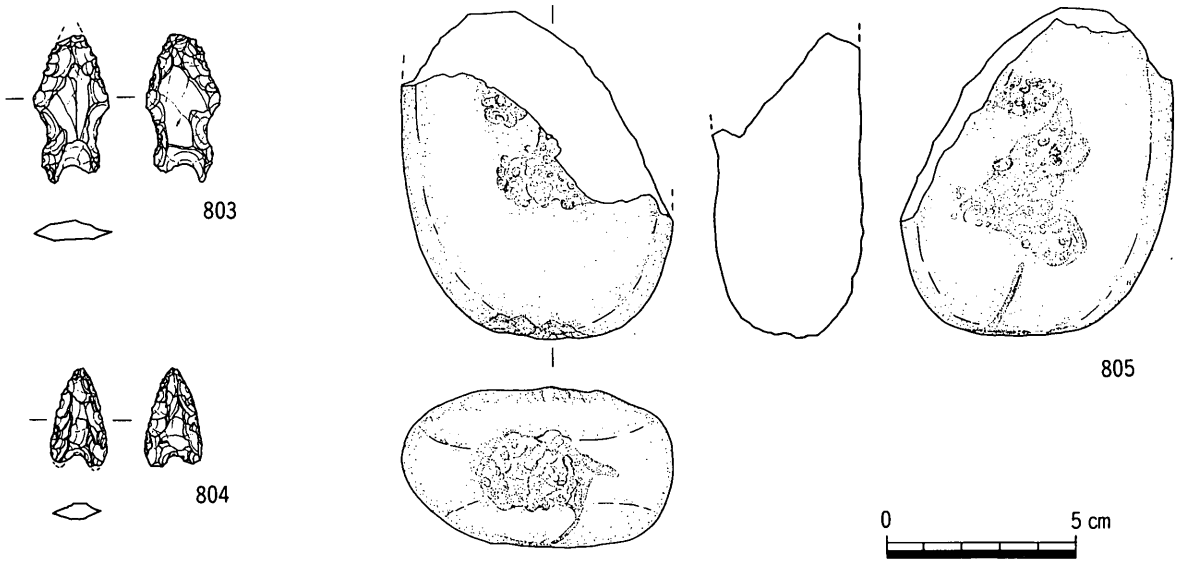


第116図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図②

縁部近くまで手持ちによるヘラ削りが施され，764はそののち横方向のヘラ磨きが施されている。内面は見込み部分に連結輪状の暗文が，体部にはほぼ真上に向かっての放射状ヘラ磨きが施されている。769はやや作りの粗い土師器坏で，内外面指なでが顕著に認められる。770はやや器高の浅い土師器坏である。771～773は土師器鉢である。771は底部を手持ちヘラ削りし，体部外面に粗い刷毛目を施すものである。外面の粗い刷毛目は鉢の外面調整の特徴と思われ，全てに確認できる。774は土師器高坏である。坏部見込み部分に放射状のヘラ磨きが施されている。775～792は土師質甕である。法量により大型のものと小型のものがある。小型のものは口径約13cmで，体部が球形状を呈するものとややしもぶくれ状を呈するものがある。口縁部の形態でもそのまま丸く終わらせるものと口縁端部を小さく上方に摘み上げるものがある。体部外面調整は縦方向の刷毛目を基本とし，体部屈曲部以下は横方向の刷毛目が施されている。成形段階における分割成形に伴う調整の違いをみることができる。780・785は体部の屈曲部を境にして刷毛目の方向が違うことがわかる。内面調整は長い指なであるいはヘラ削りである。大型のものは体部が球形状を呈するもので，口縁端部は上方に小さく摘み上げるものが多いようである。体部内外面には刷毛目が多用されている。792は口縁部が短く上方に延びるもので，一ヶ所に注ぎ口を持つ。793・794は土師質甑である。795は土師質竈である。796は土師質の壺である。体部は卵形を呈し，口縁部を外方に屈曲させる。底部を穿孔したもので，蛸壺として使用したものと考える。797～801は製塩土器である。797は鉢状を呈するものである。799・801は外面に粗い叩き痕が認められる。802は鞴の羽口である。803・804はサヌカイト製の石鏃で



第117図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図③

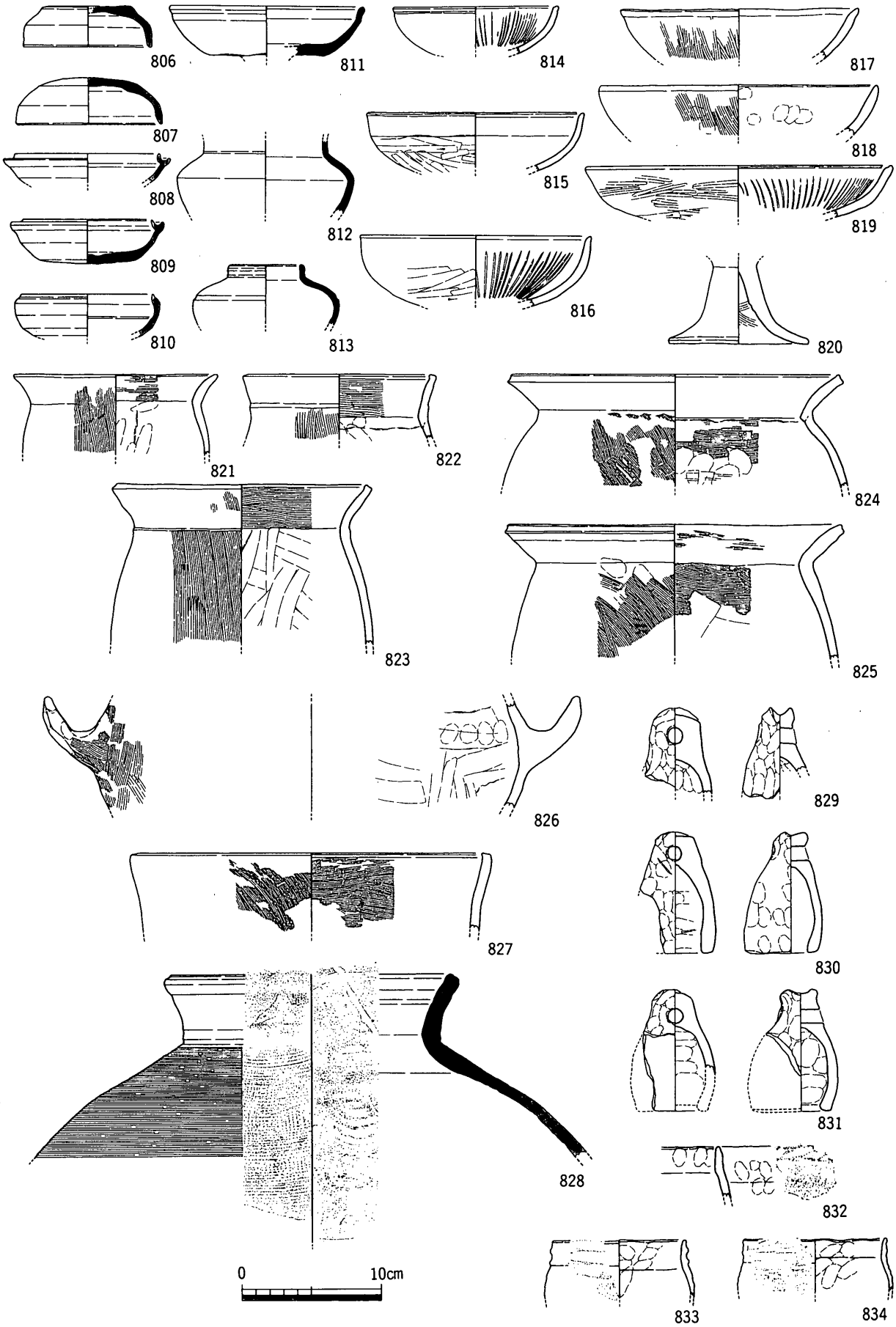


第118図　ＳＤ15中層(上)出土遺物実測図④

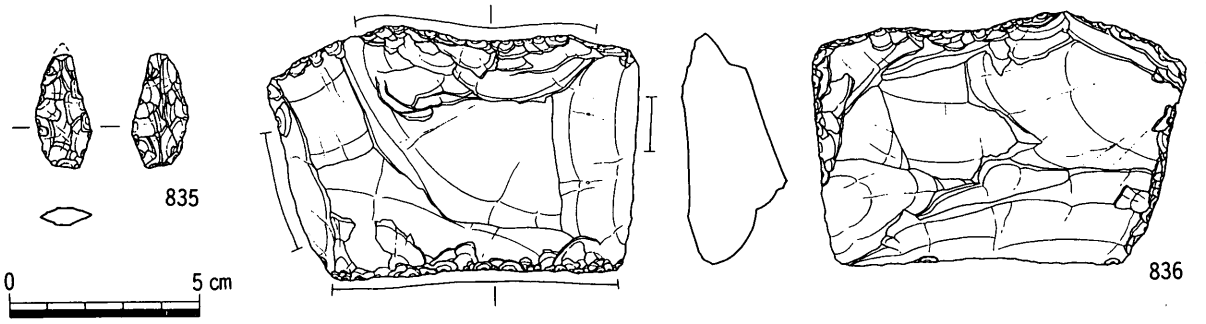
ある。805は花崗岩製の凹石である。側辺に敲打痕が認められることから敲き石としても使用していたものである。

ＳＤ15中層（上）出土遺物をみると須恵器の坏では坏蓋・坏身のセットが逆転前と逆転後のものがみられ，この溝の時期がその共伴時期であることがわかる。また，肩部の屈曲が緩やかな平瓶や短頸壺も矛盾せず，短時間であることがわかる。また，土師器は半球形状の土師器坏が主流を占め，箱型の土師器坏が少量である。前者の坏は法量により大・中・小に法量分化しており，大が口径約16～18cm，中が口径約13～14cm，小が口径約10cmを計る。この傾向は畿内の編年に当てはめるとちょうど飛鳥IIの段階で,「土師器坏Ｃ」が主流を占め，法量分化し,「土師器坏Ａ」が僅かに出現する傾向と合致する。一方土師質甕は法量により大・小に法量分化が認められる。また，小型の甕は体部の形態により，球形を呈する甕としもぶくれを呈する甕に分けられ，調整及び成形から明らかに製作技法の違いを見いだせる。

ＳＤ15中層（上）の時期は，７世紀前半段階である。



第119図　ＳＤ15中層(中)出土遺物実測図①



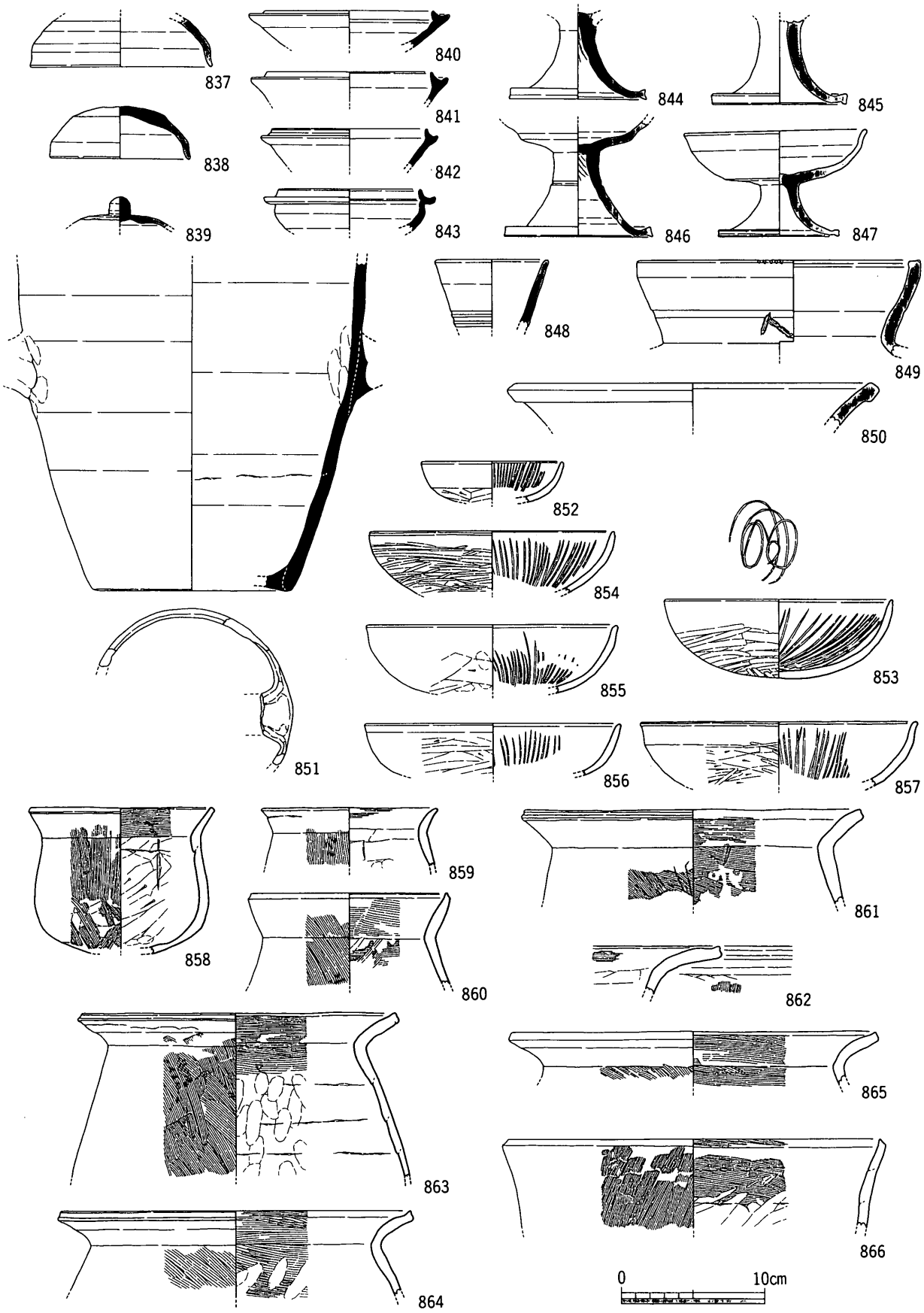
第120図　ＳＤ15中層(中)出土遺物実測図②

806～836は中層（中）出土遺物である（第119・120図）。

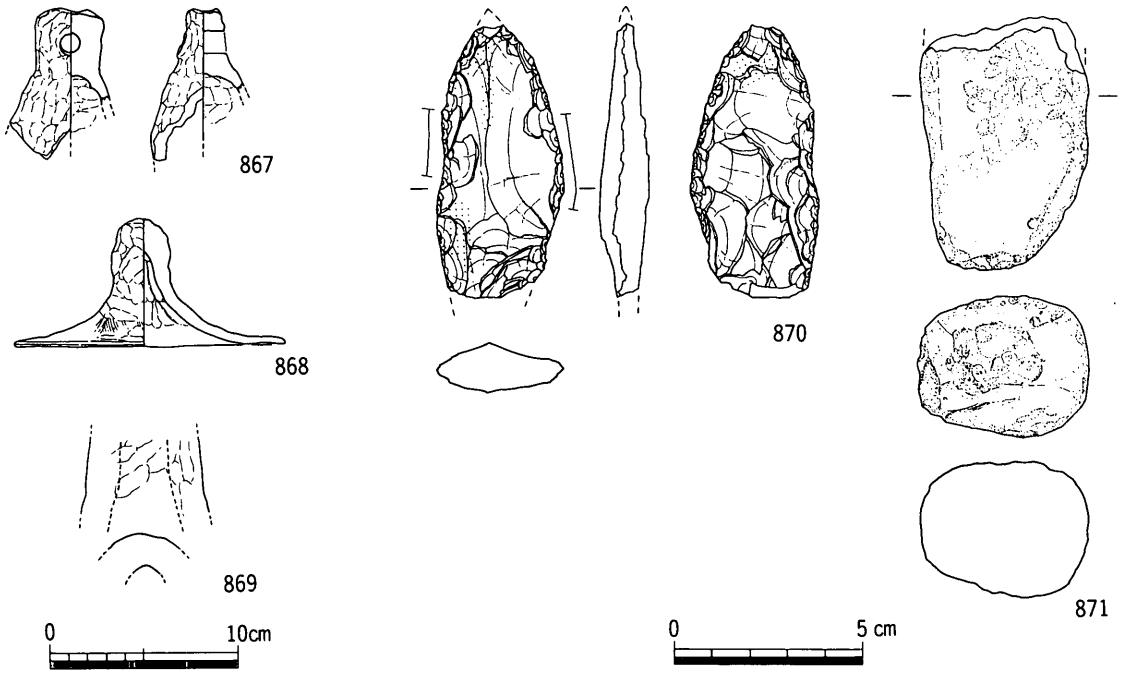
中層（中）は中層の中位に位置する土層である。

806・807は須恵器坏蓋である。808～810は須恵器坏身である。坏身・坏蓋共に小型化したもので，逆転前のものである。天井部及び底部はヘラ切りが残り，未調整のまま終わらせている。811は須恵器高坏である。坏部の口径はやや大きく脚はないが，やや脚の長い高坏と思われる。812・813は須恵器短頸壺である。812の肩部はやや稜を持つが，813は緩やかな屈曲である。814～818は土師器坏である。胎土及び外面調整で，２つに分けられる。814～816は断面が半球形を呈する土師器坏で，胎土が精良，外面の調整に手持ちヘラ削りが施されているものである。内面には放射状のヘラ磨きがみられる。また，法量により大（口径16～18cm）・中（口径12～14cm）・小（口径10cm）の法量分化が認められる。817・818は断面形態は同じであるが，外面に刷毛目調整がみられるもので，胎土に砂粒を多く含むものである。819・820は土師器高坏である。口径がやや大きく口縁端部内面に沈線が認められる。体部外面は横方向のヘラ磨きが，内面は放射状のヘラ磨きが施されている。脚は外反しながら延び，端部は丸く終わらせる。821～826は土師質甕である。法量により大（口径26cm）・中（口径18cm）・小（口径13cm）の３つに分けられる。大型の土師質甕の体部には把手が付くものと思われる。827は土師質甑である。828は須恵器甕で，頸部は直線的に外上方に延び，やや面を持つものの丸く終わらせる。829～831は土師質蛸壺である。832～834は製塩土器である。球形状の体部から頸部が直線的に上方に延びるもので，外面には粗い叩き痕が施されている。835はサヌカイト製の石鏃である。836はサヌカイト製の楔形石器である。

中層（中）出土遺物をみるとかなり纏っており，須恵器・土師器・土師質土器のセット関係は７世紀前半の器種構成を如実に表している。



第121図　ＳＤ15中層(下)出土遺物実測図①



第122図　ＳＤ15中層(下)出土遺物実測図②

837～871は中層（下）出土遺物である（第121・122図）。

中層（下）は中層の下位に位置する土層である。

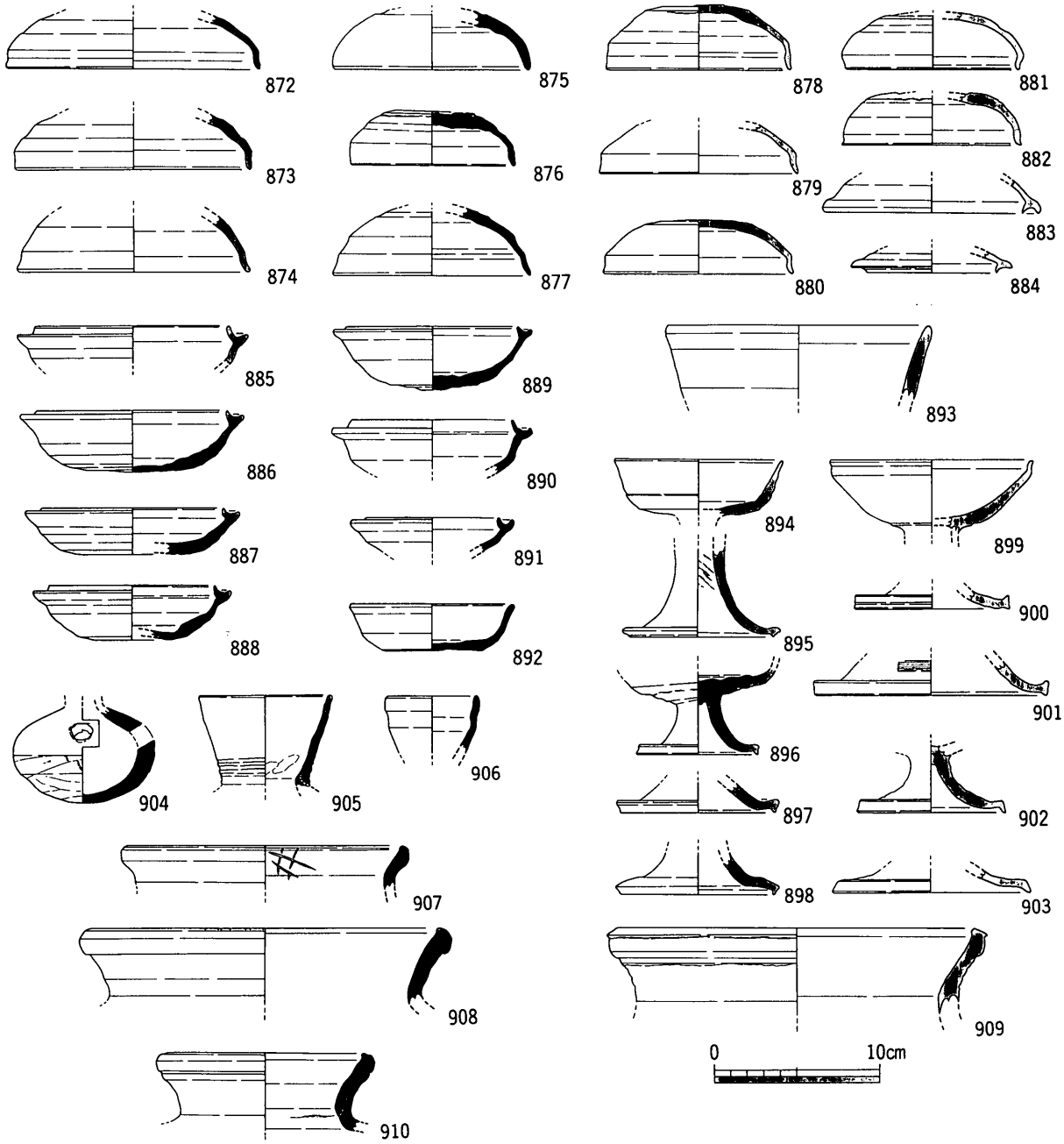
837～839は須恵器坏蓋である。法量に大・小があり，天井部につまみを持つものもある。840～843は須恵器坏身である。口径が小さく，立ち上がりがかなり矮小化したものである。843は断面形態が，その他の坏身と違い，小型の羽釜の形態を持っている。844～847は須恵器高坏である。脚は長いものと短いものがあり，長いもののなかには中央部に沈線を持つものと持たないものがある。須恵器坏蓋837と高坏846などが古相の様相を示している。848は平瓶の口縁部である。849・850は須恵器甕である。頸部がやや内彎するものと朝顔型に開くものがある。851は須恵器甑である。体部は内彎気味に延び，中央部に把手が付く。下部は開口しており，中央部に橋梁状の粘土帯を持つ。852～857は土師器坏である。法量により大（口径16～18cm）・中（口径12～14cm）・小（口径10cm）の法量分化がみられる。法量差に関係なく形態は同じで，内外面調整も同じである。外面は手持ちヘラ削りを多用し，ヘラ磨きを施すものもみられる。また，内面は放射状のヘラ磨きが施され，853の見込み部分には連結輪状の暗文が施されている。858～865は土師質甕である。法量により大（口径26cm）・小（口径13cm）に分かれる。866は土師質甑である。867は土師質の蛸壺である。868は土師質蓋である。口径から小型の土師質甕の蓋になるものと思われる。869は鞴の羽口である。870はサヌカイト製の石槍である。871は砂岩製の敲き石である。

以上中層出土遺物を列挙したが，中層（下）出土遺物も中層（上・中）と同じような器種構成で，時期も同じであることがわかる。このことは土層細分の際に説明したように，中層を細分したもののほとんど同一層であるとしたことを遺物の面から裏付けるものである。

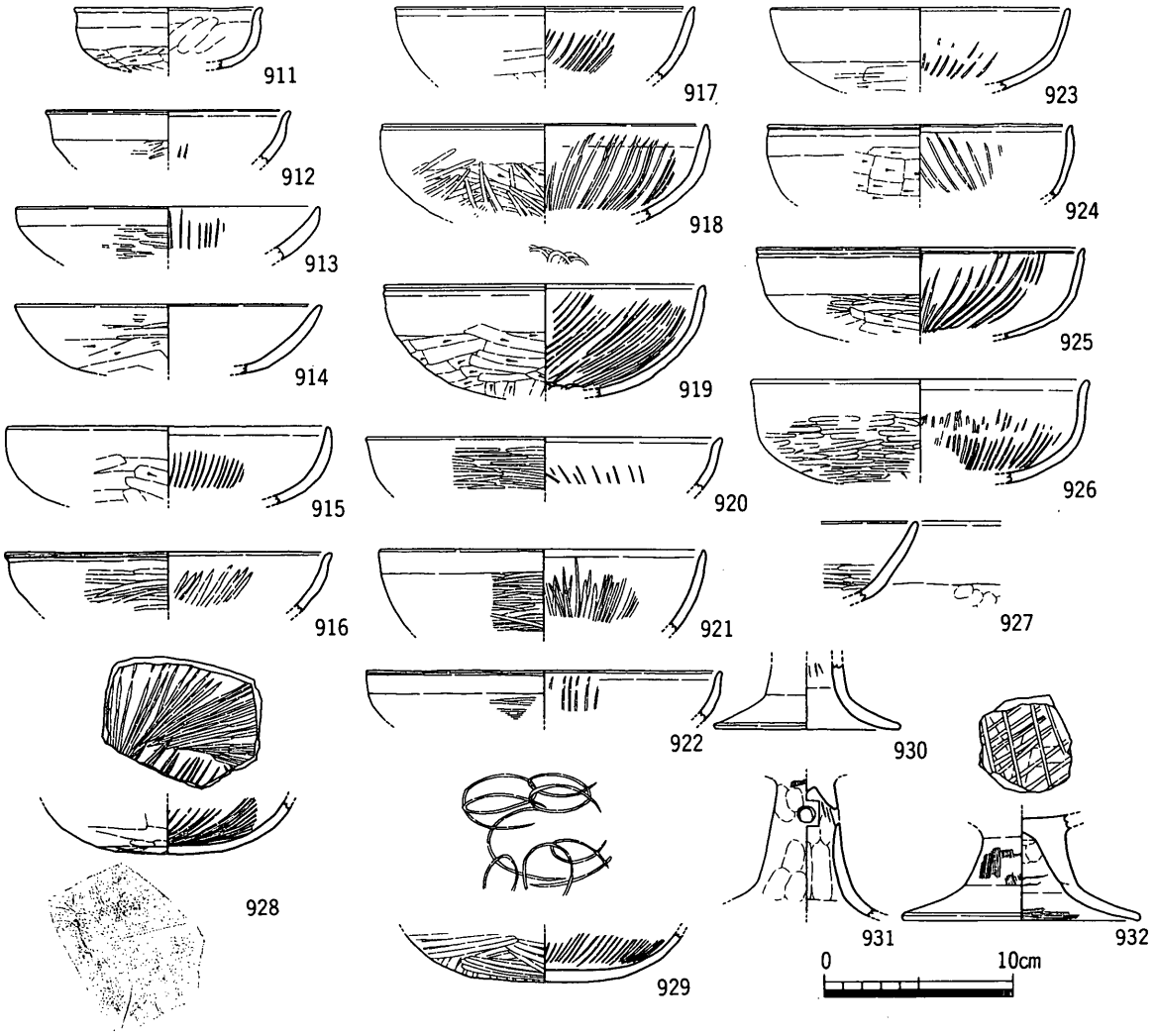
時期はやはりそれぞれで述べたように７世紀前半段階で，飛鳥Ⅱに併行する時期である。また，飛鳥Ⅱの器種構成ともほぼ一致し，畿内の様相が香川県において強く認められる時期である。

872～977は下層出土遺物である（第123～127図）。

872～884は須恵器坏蓋である。形態的に口縁部内面に返りの付かないものが多数を占め，返りの付くものが少量確認できる。返りの付かない坏蓋には口径約14～15cmのものと口径約11～12cmのもの，口径約10cm前後のものがある。885～892は須恵器坏身である。やはり坏蓋と同様にセット関係になるものがみられ，その中でも884と892は従来の須恵器坏身・坏蓋が逆転した後のセット関係として捉えられる。893は須恵器鉢であろうか。894～903は須恵器高坏である。脚の長いものと短いものがあり，上層・中層と同じような状況である。904は須恵器瓶である。905・906は須恵器平瓶の口縁である。頸部から直線的に延びるものとやや内彎するものがある。907～909は須恵器甕である。口縁部の形態にバリエーションが認められる。910は須恵器横瓶の口縁である。911～929は土師器坏である。断面形態が半球形を呈するものと箱型を呈するも

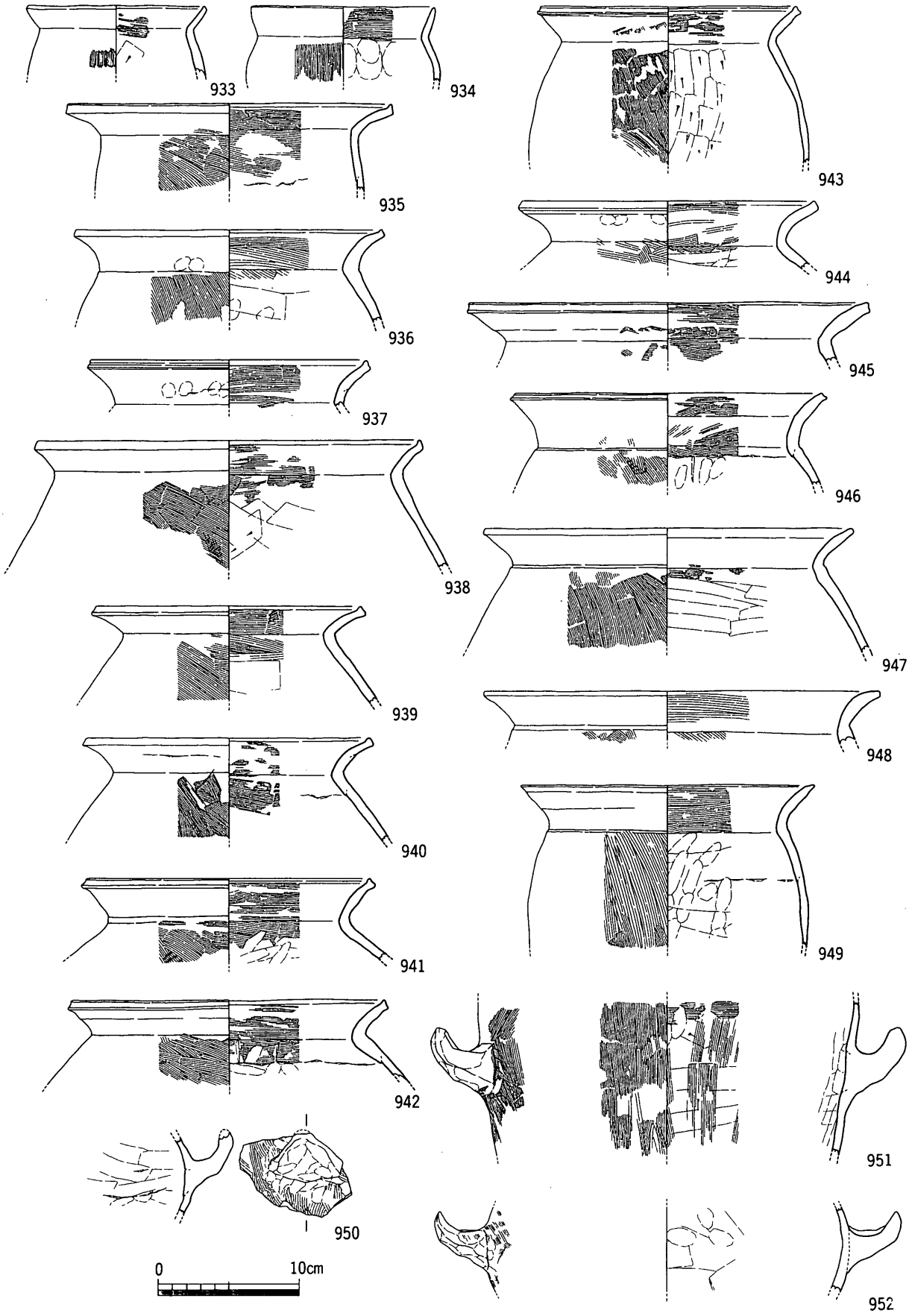


第123図　ＳＤ15下層出土遺物実測図①

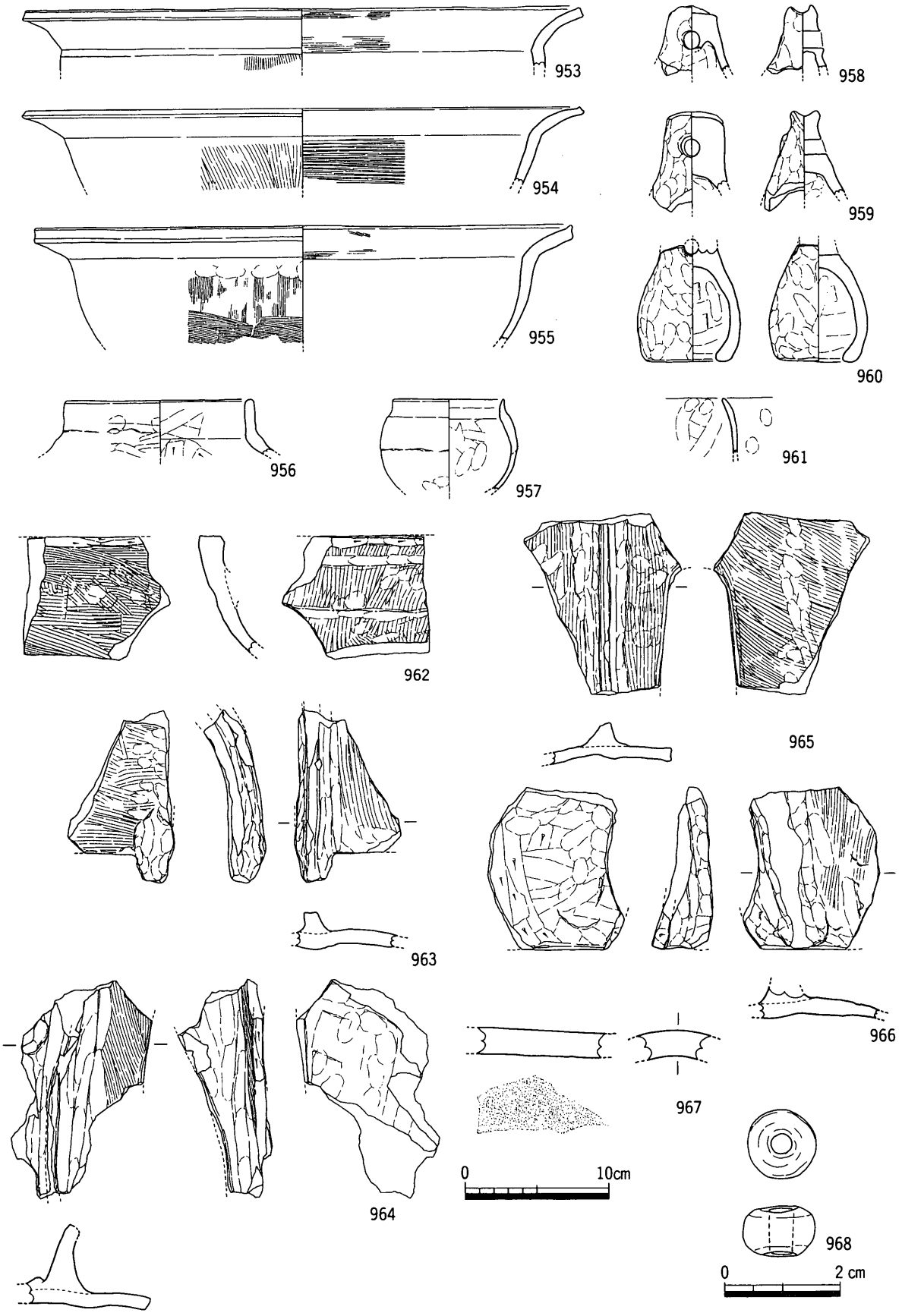


第124図　ＳＤ15下層出土遺物実測図②

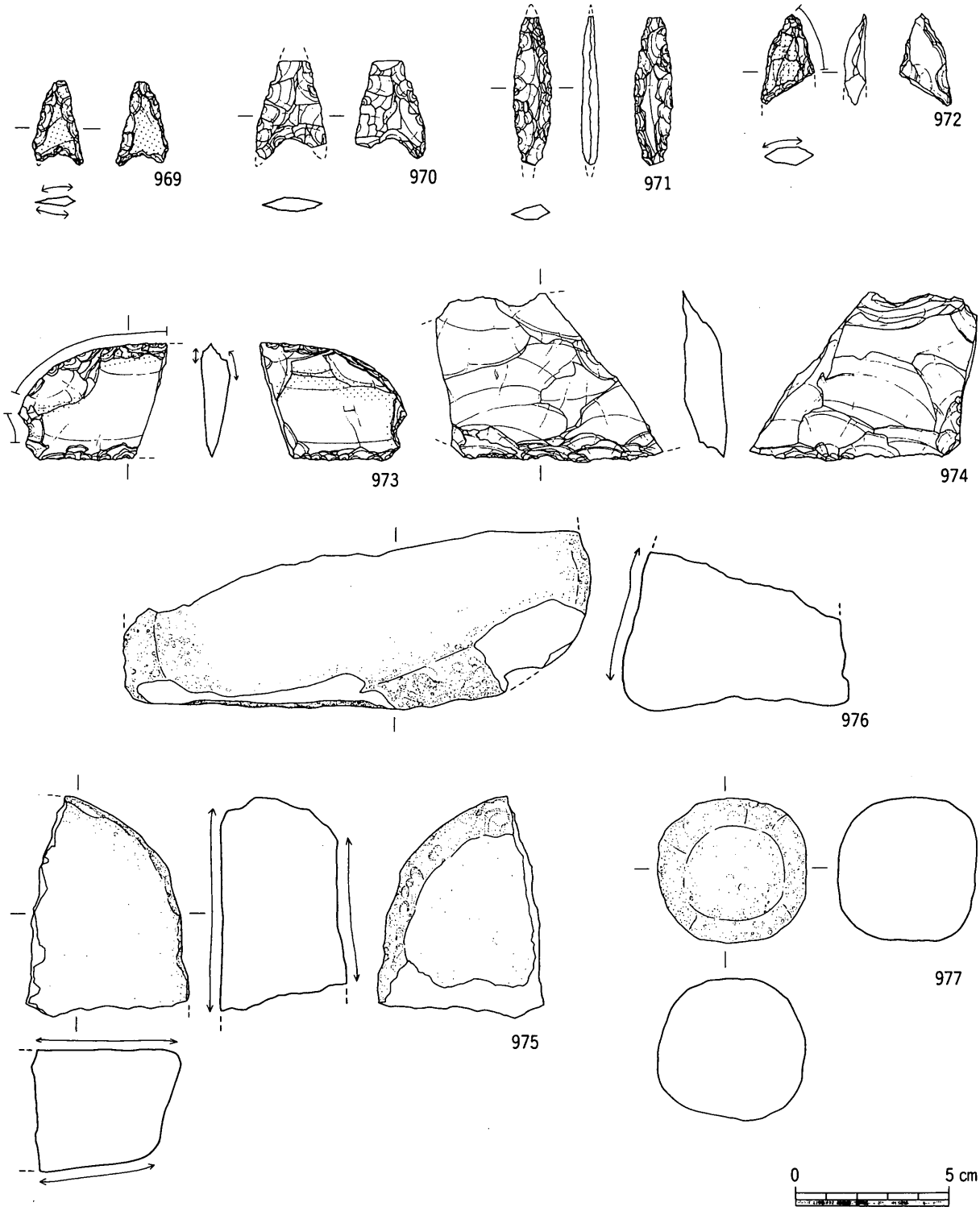
のがある。半球形を呈するものには，法量によりおおまかに大・中・小の法量分化が認められる。大は口径約17cm，中は口径約16cm，小は口径約13cmを計るものである。外面調整はほとんどが同じで，口縁部近くまで手持ちヘラ削りが施され，その後にヘラ磨きが施されているものもある。内面は放射状のヘラ磨きが施され，929は内面見込み部に連結輪状の暗文が施されている。925・926は箱型を呈するもので，底部と体部の境にやや屈曲を持つ。法量は口径約17～18cmと一定している。内外面の調整は半球形を呈するものと同一である。930～932は土師器高坏である。931は脚部に穿孔が認められ，弥生時代の高坏の可能性が考えられる。932の坏部見込み部分には格子状の暗文が施されている。933～952は土師質甕である。法量により，大・中・小に法量分化している。大は口径約27cm前後，中は口径約21cm前後，小は口径約12～13cmを計るものである。口縁端部の形態に上方に摘み上げるもの，そのまま終わらせるものなどのバリエーションがみられ，大型の球形甕には把手が付くものと考えられる。外面調整は刷毛目を多用し，内面は指なであるいはヘラ削りが施されている。953～955は土師質鍋である。口径は37～38cmとほぼ一定している。器高の浅い鍋である。956は口縁部が直行する土師質壺である。957はかなり小型の球形甕である。958～960は土師質蛸壺である。961は製塩土器で，口縁部が内彎する。中層出土の製塩土器とは形態を異にしている。962～966は土師質竈である。口縁部あるいは脚部の部分的にしか出土しておらず，完存形態は不明である。967は須恵質瓦である。



第125図　ＳＤ15下層出土遺物実測図③



第126図　ＳＤ15下層出土遺物実測図④

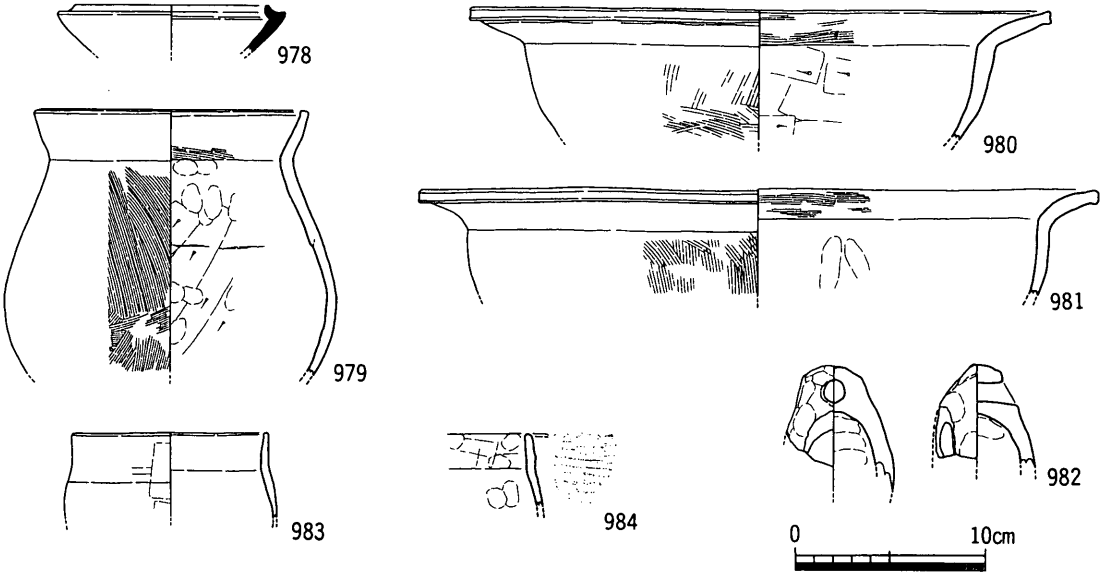


第127図　ＳＤ15下層出土遺物実測図⑤

968はガラス製の丸玉である。969～971はサヌカイト製の石鏃である。972はサヌカイト製の石槍である。973はサヌカイト製の石庖丁で，974はサヌカイト製のスクレイパーである。975・976は砂岩製の砥石である。977は閃緑岩製の投弾と考えられる。上記の石製品は砥石以外は弥生時代のもので，砥石は時期不明である。

下層遺物をみてもあまり上・中層との器種構成及びそれぞれの形態の特徴に違いはなく，ほぼ同時期ものであることがわかる。

時期は上・中層と同時期の７世紀前半である。



第128図　ＳＤ15最下層出土遺物実測図

978～984は最下層出土遺物である（第128図）。

978は須恵器坏身である。979は土師質甕である。体部の形態がしもぶくれタイプで，中層・上層で法量分化したものには当てはまらない大きさである。980・981は土師質鍋である。982は土師質蛸壺である。983・984は製塩土器である。984は体部外面に叩き痕が認められる。

以上ＳＤ15出土遺物を上層・中層（上・中・下）・下層・最下層の６つの土層に細分し，説明したが，それぞれの土器様相は同じで，ほぼ同一時期であることが判明した。また，明茶黄色粘質土（地山）のブロックを含む中層をキー層として大きくは上層・中層・下層に分けられるが，やはり時期については同じである。

したがってＳＤ15の掘削時期は７世紀前半に掘削されたものと考えられ，下層が堆積した後に中層が意図的に埋められ，その後短期間に上層が堆積したものと考えられる。また，中層には多量に獣骨片が廃棄されており，獣骨片に残る解体痕から判断すると中層が意図的に埋められたことと何らかの関係があるものと推測できる。

以上の結果，時期は７世紀前半の短期間で，溝の資料ではあるが一括性の高い資料である。

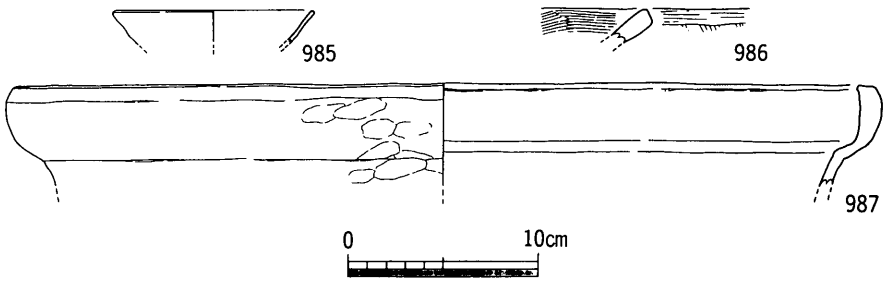
ＳＤ16・17

ＳＤ16・17は調査区北部で検出した溝である。南西調査区外から延びた溝をＳＤ17とし，北部でほぼ直角に屈曲し，調査区外に延びる溝をＳＤ16とした。また，この屈曲部分から北方へはＳＤ17の溝が延びており，試掘調査によって削平されているが，おそらくＳＤ08に繋がるものと考えられる。これらの溝には切り合い関係はなく，埋土も暗灰色の単一土層である。規模はＳＤ16の天幅0.80m，深さ0.21mを計り，ＳＤ17の天幅1.20m，深さ0.13mを計る。流路方向は真北から15.0°西偏している。

ＳＤ17の溝内からは土師器小皿・坏，土師質土鍋・土釜，吉備系土師器椀，瓦器椀，須恵器椀（瓦質土器椀），楠井産擂鉢・甕，東播系こね鉢などが出土している。

ＳＤ16出土遺物が第129図985～987で，ＳＤ17出土遺物が第130図988～1018である。

985は土師器坏である。986・987は土師質土鍋である。986は頸部が「く」の字に屈曲するもので987は口縁部が受け口状になるものである。



第129図　ＳＤ16出土遺物実測図

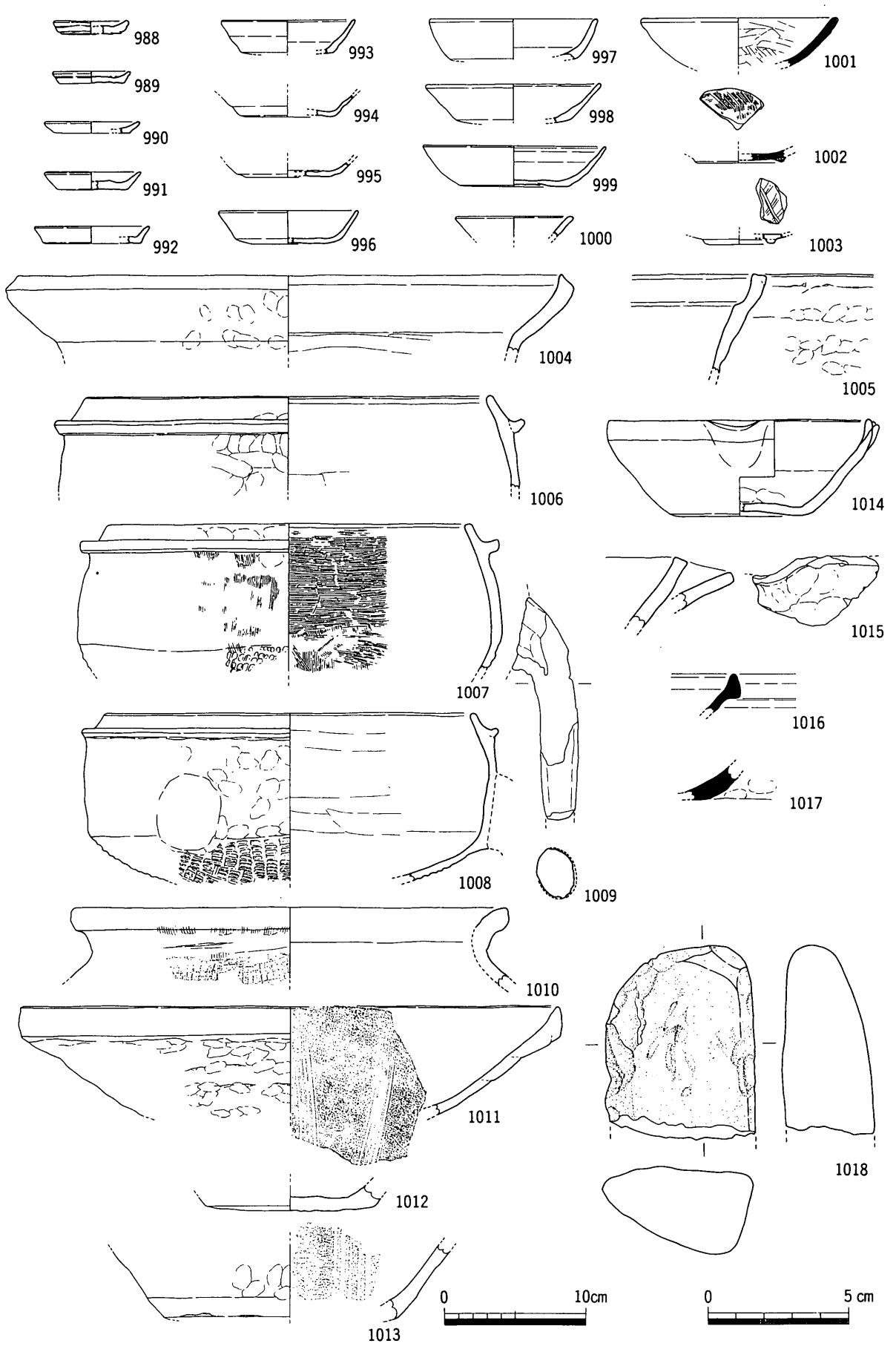
988～992は土師器小皿である。口径約9.5cmのものと口径約12.5cmのものがある。口径の小さいものは13世紀後半以降にみられるものである。全て底部はヘラ切りされ，体部はほとんどが直線的に延びる。993～999は土師器坏である。口径及び器高も小さくなり，器壁の厚さも薄く作られている。13世紀後半以降に一般的になるものである。1000は口禿白磁坏である。1001・1002は須恵器椀（瓦質土器椀）である。高台はかなり退化しており，内面に刷毛目痕が残る。1003は和泉型瓦器椀である。高台はかなり退化しており，内面見込み部に格子ヘラ磨きが認められる。1004・1005は土師質土鍋である。口縁部を受け口状に作る。1006～1009は土師質土釜である。鍔がかなり退化しており立ち上がり口縁端部も丸みを持つ。体部と底部の屈曲部で外面調整が，体部では指なであるいは刷毛目調整から底部では格子目叩き痕に変わっている。1010は楠井産土師質甕である。口縁端部の形状と体部外面格子目叩き痕にその特徴がある。1011～1013は楠井産土師質擂鉢である。口縁部を三角形に作り，内面に間隔のあいた条溝を持つものである。1014は土師質こね鉢である。あまり一般的にみられるものではない。1015は十瓶山窯産瓦質こね鉢である。1016・1017は東播系こね鉢である。1016の口縁部はかなり肥厚し，上下の拡張が顕著である。1018は砂岩製の石錘である。

時期は出土遺物から13世紀後半から14世紀前半である。

ＳＤ18

ＳＤ18は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。西部ではＳＤ17と切り合いが確認でき，ＳＤ17より新しいことがわかる。また，ＳＤ17はほぼ直行するように流路を取る。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約0.81mで，検出面からの深さは約0.26mを計る。流路方向は真北から69.0°東偏している。流路方向は周辺に残る方格地割の方向と合致する。埋土はこげ茶色粒を含む灰色粘質土の単層である。

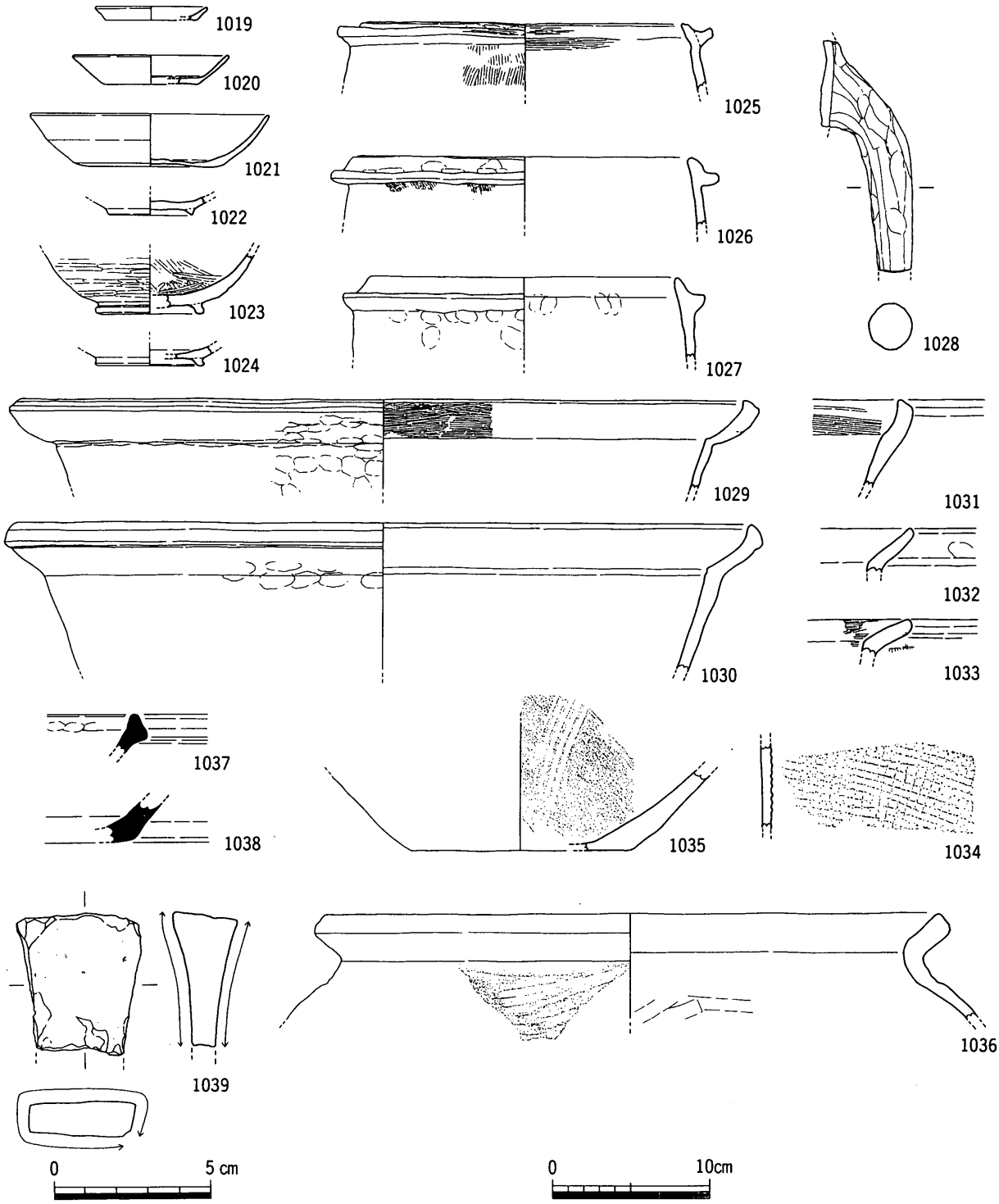
溝内からは土師器小皿・坏，土師質土鍋・土釜，吉備系土師器椀，瓦器椀，須恵器椀（瓦質



第130図　ＳＤ17出土遺物実測図

土器椀)，楠井産擂鉢・甕，東播系こね鉢などが出土している（第131図1019～1039)。

1019は土師器小皿である。底部はヘラ切りされ，体部は直線的に外上方に延びる。1020・1021は土師器坏である。1020はかなり小型で，1021は大型のものである。大型のものは13世紀前半以前に一般的にみられるものである。1022は吉備系土師器椀である。1023は黒色土器A類椀である。体部外面に平行ヘラ磨きが密に，内面には分割ヘラ磨きが密に施されている。12世紀初頃のものである。1024は和泉型瓦器椀である。高台がしっかりしておりやや古手の様相を持つ。1025～1028は土師質土釜である。ＳＤ17出土の土師質土釜と比べるとかなり鍔及び立ち上がり



第131図　ＳＤ18出土遺物実測図

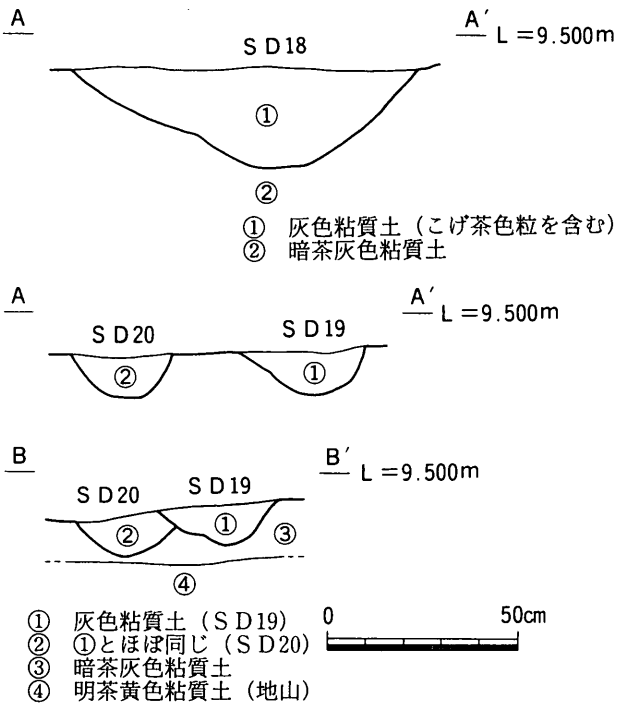
が退化しており，形態差と切り合いによる前後関係が合致する。1029～1033は土師質土鍋である。口縁部が受け口状を呈するものと「く」の字に屈曲するものの２形態がある。1034は亀山焼甕体部である。体部外面に明瞭な格子目叩きが認められる。1035は楠井産擂鉢である。1036は楠井産甕である。1037・1038は東播系こね鉢である。口縁部の拡張が顕著で，やや小振りになっている。1039は流紋岩製の砥石である。

時期は出土遺物から14世紀前半である。

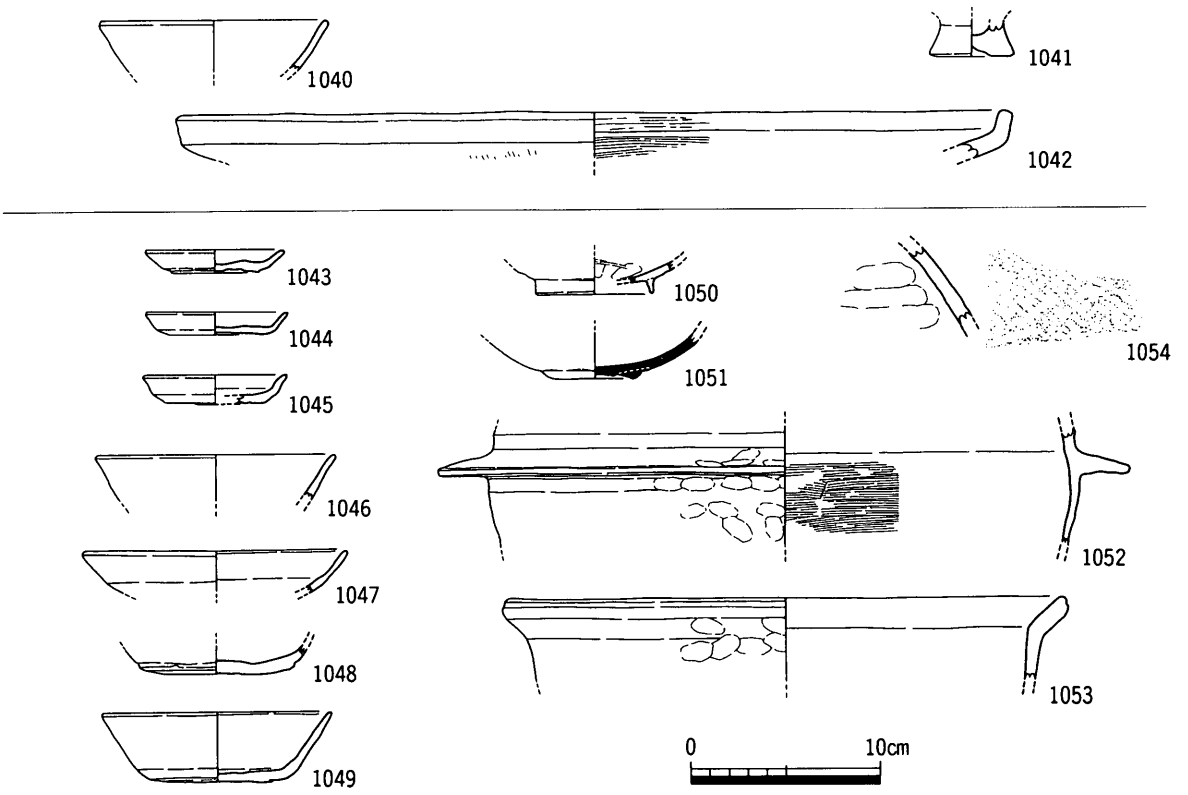
ＳＤ19・20

ＳＤ19・20は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。両溝はやや間隔をあけて併走するもので，一部ではＳＤ19がＳＤ20を切っている。断面形態はどちらもＵ型を呈している。ＳＤ19の規模は天幅約0.32ｍで，検出面からの深さは約0.11ｍを計る。また，ＳＤ20の規模は天幅約0.27ｍで，深さは約0.10ｍを計る。流路方向はどちらも真北から71.0°東偏している。

溝内からは土師器小皿・坏，土師質土鍋・土釜，瓦器椀，須恵器椀（瓦質土器椀），楠井産擂鉢・甕，十瓶山窯産こね鉢，東播系こね鉢，亀山焼甕などが出土している（第133図1040～1054）。



第132図　ＳＤ18～20土層断面図



第133図　ＳＤ19・20出土遺物実測図

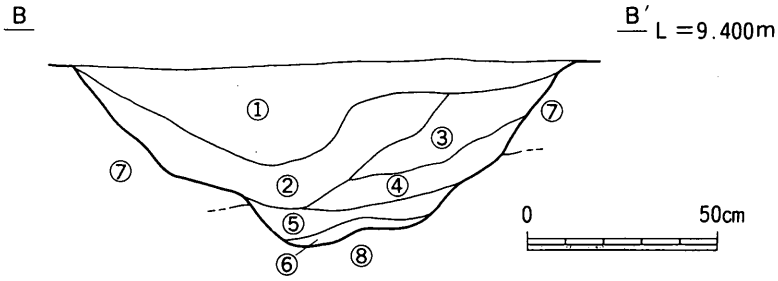
1040～1042はＳＤ19出土遺物で，1043～1054はＳＤ20出土遺物である。

1040は土師器坏である。1041は柱状高台を呈する坏と思われる。1042は土師質土鍋である。口縁部は受け口状を呈する。1043～1045は土師器小皿である。底部はヘラ切りされ，体部はやや外反しながら延びる。1046～1049は土師器坏である。1049は底部をヘラ切りし，体部は直線的に外上方に延びる。器高のやや深いものである。1050は吉備系土師器椀である。高台が細く長い。1051は須恵器椀（瓦質土器椀）である。粘土紐をつぶした様な高台を持つ。1054は亀山焼甕である。体部外面に明瞭な格子目叩きを持つ。1052は土師質土釜である。鍔がやや下方に延びるもので，在地の土釜に比べると形態及び調整に違いが認められることから搬入品と考える。1053は土師質土鍋である。

時期はＳＤ20が出土遺物から13世紀前半で，ＳＤ19がやや新しい時期と考える。

ＳＤ21

ＳＤ21は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。断面形態はＵ型を呈している。埋土は上部では灰白色を呈し，下部では濁茶黄色を呈する。最下部では１㎜以下の砂粒となる。規模は天幅約1.32ｍで，検出面からの深さは約0.47ｍを計る。流路方向は真北から72.0°西偏している。



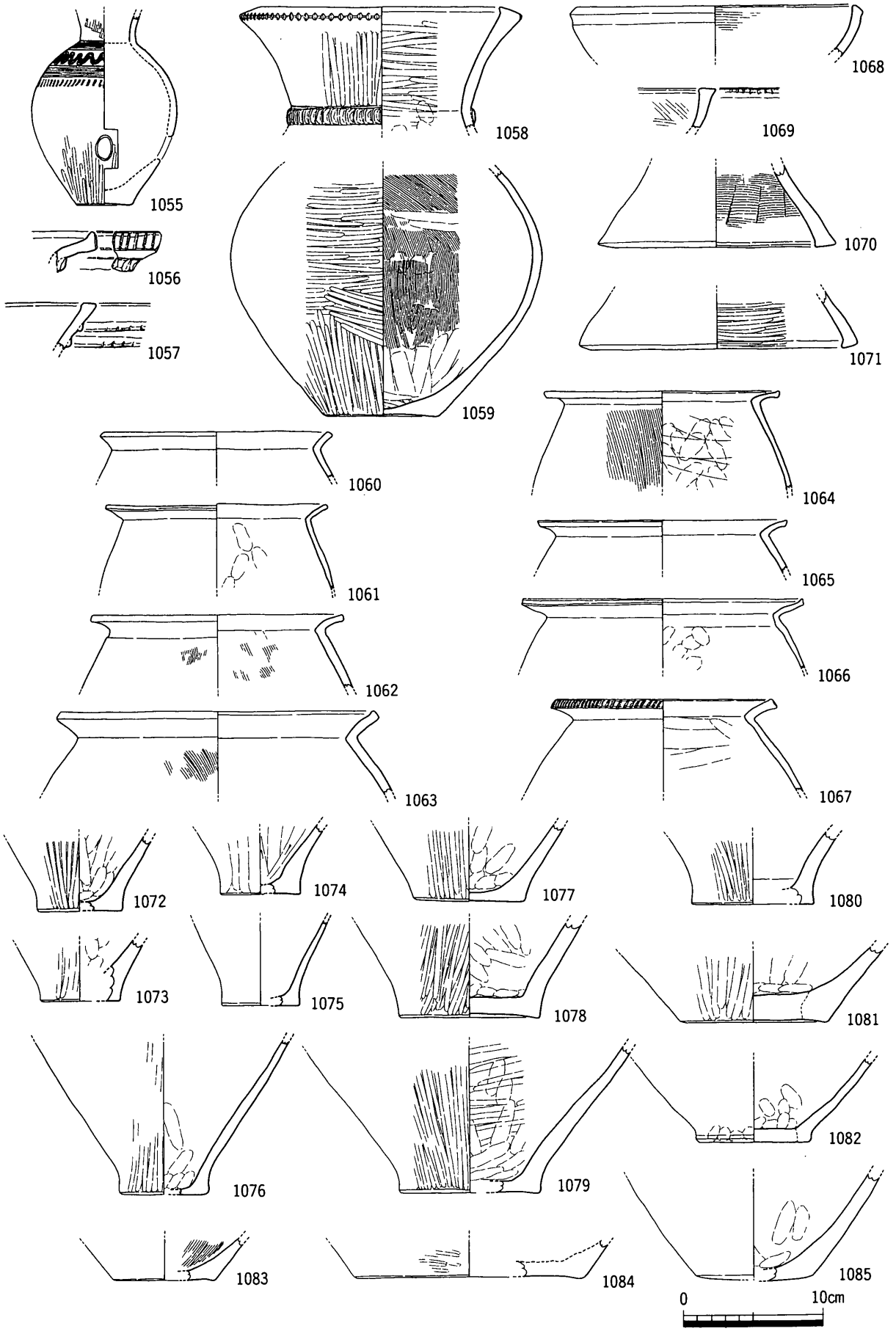
① 濁茶灰白色粘質土
② ①に⑦のブロックを含む
③ 白茶灰色粘質土
④ 暗灰色粘土（５㎜前後の礫を含む）
⑤ 濁茶黄色粘質土
⑥ 濁白灰色砂（１㎜以下の砂粒）
⑦ 濁茶白色粘質土（地山）
⑧ 明茶白色粘質土（地山）

第134図　ＳＤ21土層断面図

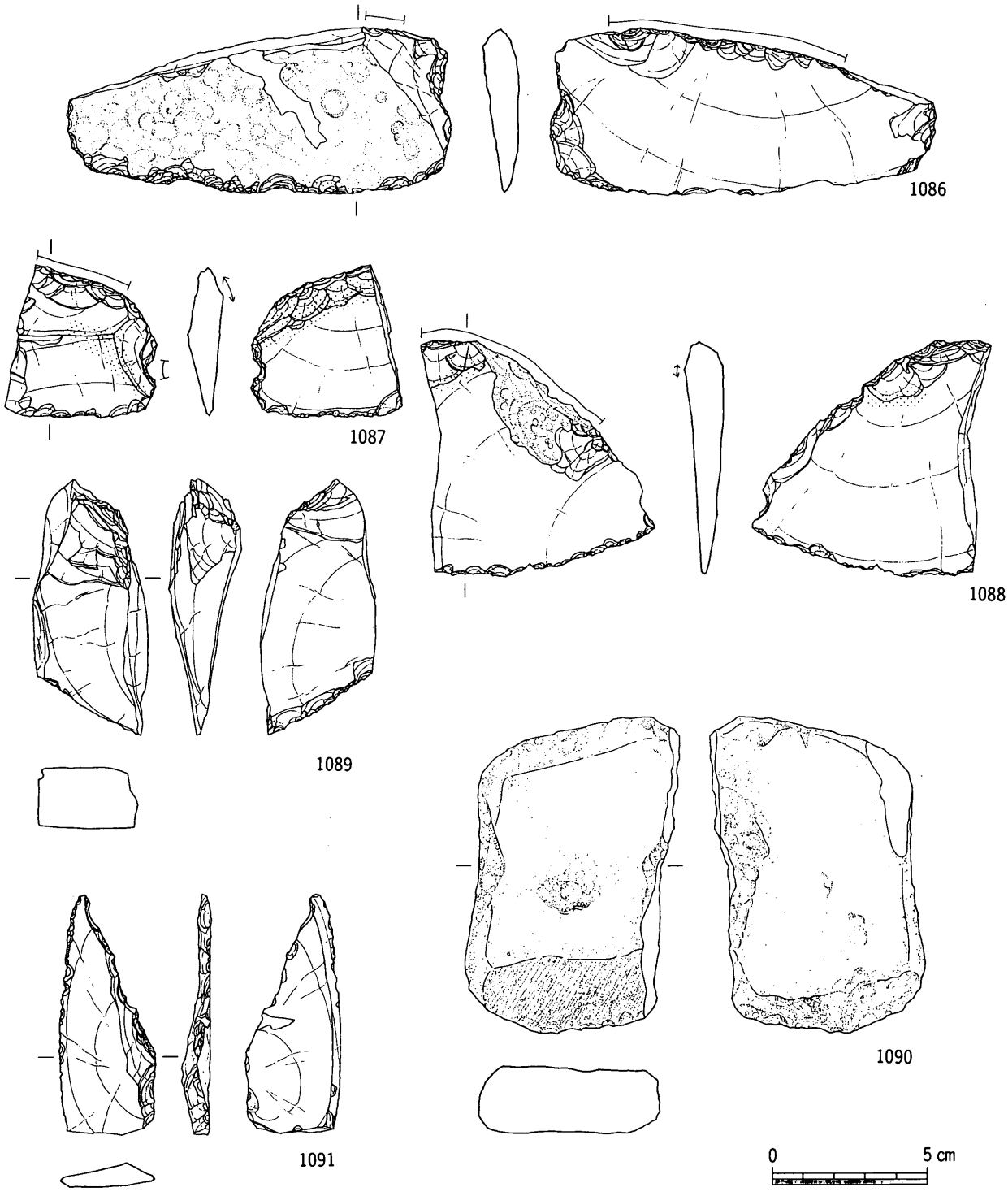
溝内からは弥生時代の壺・甕・高坏，石製品などが出土している。

1055～1092はＳＤ21出土遺物である（第135～137図）。

1055～1059は壺である。1055は卵形の体部から口縁部はやや外反気味に延びる。体部下半には縦方向のヘラ磨きが，上半には10条からなる櫛描沈線・波状文・櫛描沈線・櫛描列点文が施されている。1056は頸部が「く」の字に屈曲し，口縁端部を上方に摘み上げ，外面に刻み目を施すものである。1057は口縁部が直行する壺である。頸部外面に２条の刻み目凸帯をもつ。1058は頸部屈曲部外面に爪型文を施す凸帯があり，口縁端部外面に刻み目が認められる。頸部内外面の調整は，かなり太いヘラ磨きが施されている。1059は平底の底部から体部が内彎しながら延びるものである。体部外面に中央部は横方向のヘラ磨きが，下段には縦方向のヘラ磨きが密に施され，内面には細かい刷毛目が施されている。1060～1067は甕である。頸部が「く」の字に屈曲するもので，口縁端部をあまり拡張させず，僅かに上方に摘み上げるものである。体部外面には細かい刷毛目が施されている。1067は口縁端部外面に刻み目を持つ。1068～1071は高坏である。口縁部の形態で２形態があり，端部内面が三角形状に尖るものと上面に面を持つものがある。上面に面を持つ1069の口縁端部外面には刻み目が認められる。高坏の脚部は「ハ」の字に開くもので，内面に刷毛目あるいはヘラ磨きが施されている。1072～1085は底部である。底部はしっかりした平底を持ち，体部が上方に僅かに延び，それから開くものと直ぐ開くものがある。前者は底径が小さいものに多くみられ，後者は底径が大きいものにみられる。調整はほとんどが外面にヘラ磨きが，内面には指なでが施されている。1086・1087はサヌカイト製の石庖丁で，側辺に抉りが認められるが形態は定型化しておらず，1086のように片側だけに抉り



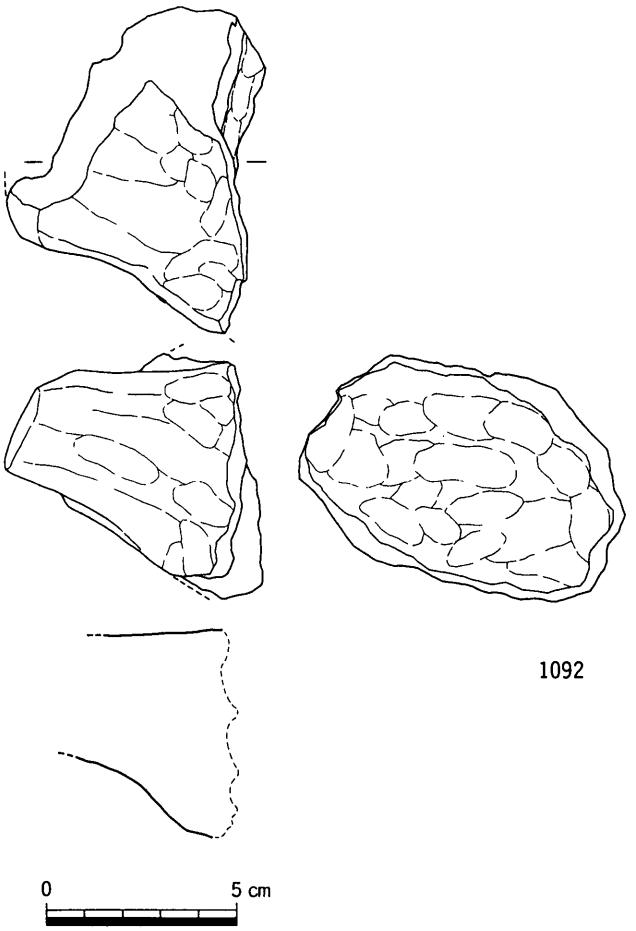
第135図　ＳＤ21出土遺物実測図①



第136図　ＳＤ21出土遺物実測図②

を持つものがある。1088はサヌカイト製のスクレイパーである。1089は楔形石器である。1090は砂岩製の石錘である。側面中央部に抉りが認められる。1091はサヌカイト製の横長剝片である。刃部の調整は認められない。表面はかなり風化している。1092は精良な胎土を持つ粘土塊で，把手状を呈している。把手状を呈する外面は指なでにより調整され，剝離面は指頭痕状の指なでによりかなり凹凸が認められる。

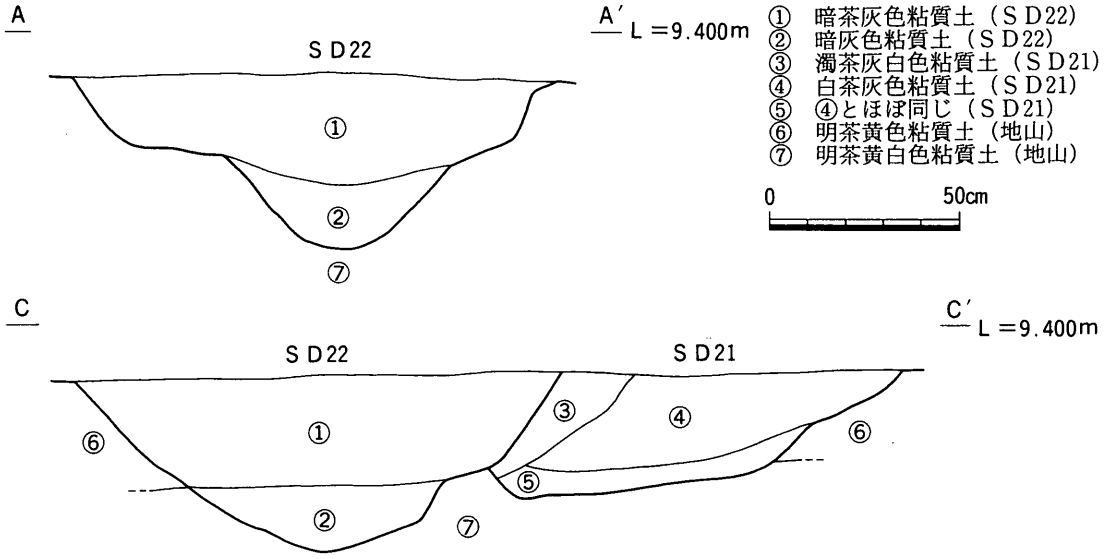
時期は出土遺物から弥生時代中期中葉である。



第137図　ＳＤ21出土遺物実測図③

ＳＤ22

ＳＤ22は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。調査区東部でＳＤ21と切り合いがあり，さらにＳＤ11によって切られている。断面形態はＵ型を呈している。埋土は上下２層に分けられ，上層は暗茶灰色粘質土で，下層は暗灰色粘質土層である。規

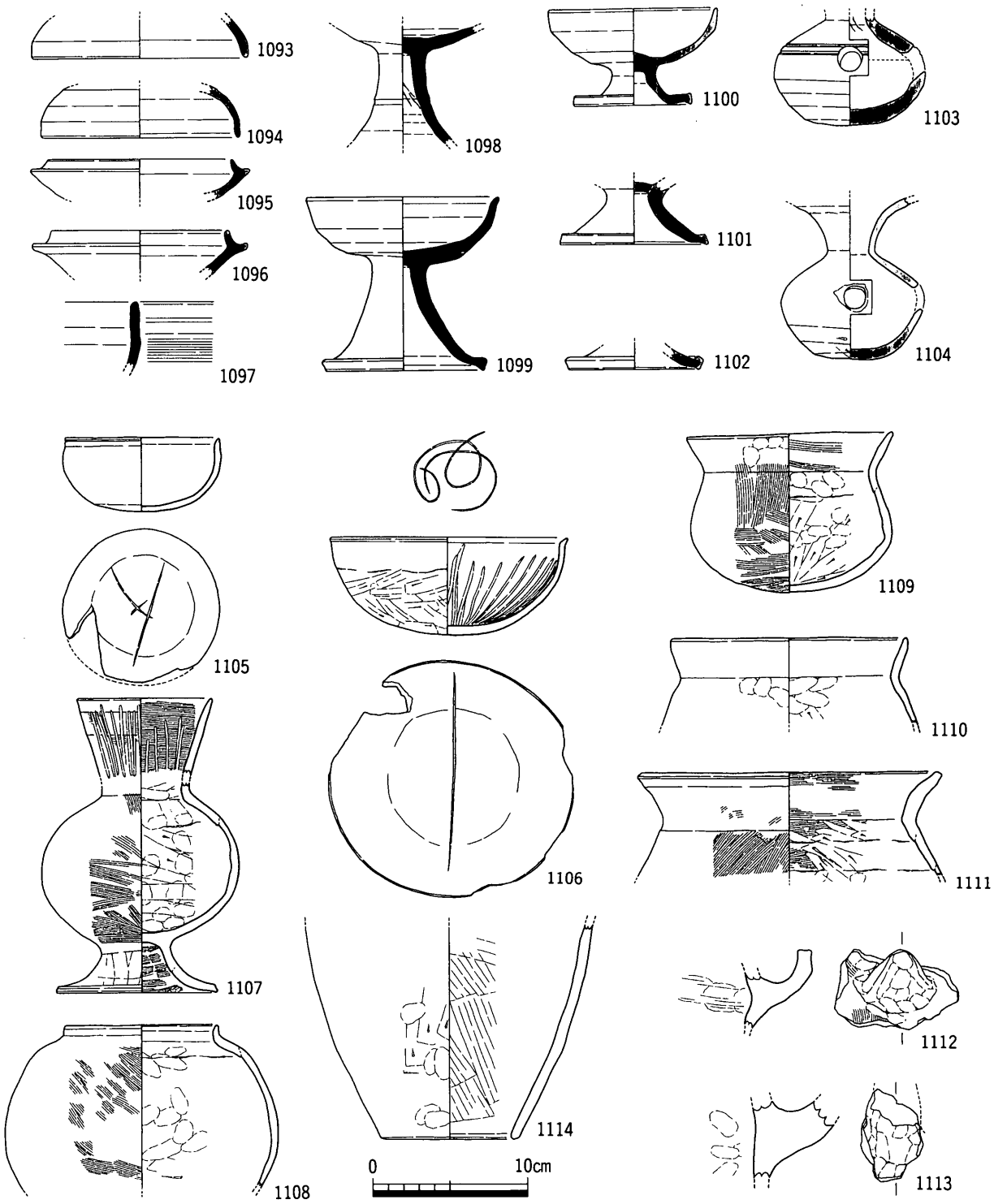


第138図　ＳＤ21・22土層断面図

模は天幅約1.26mで，検出面からの深さは約0.46mを計る。流路方向は真北から61.0°東偏している。

溝内からは須恵器坏身・坏蓋・甕，土師器坏，土師質甕・甑などが出土している（第139図1093～1114）。

1093・1094は須恵器坏蓋である。1095・1096は須恵器坏身である。坏身・坏蓋共にやや口径が大きく，ＳＤ15出土の坏身・坏蓋より若干古相を呈している。1097はやや深目の須恵器椀で



第139図　ＳＤ22出土遺物実測図

あろうか。1098～1102は須恵器高坏である。脚の長いものと短いものがある。長いものは中央部に１条の沈線が認められる。1103・1104は須恵器甕である。肩の張りにやや違いがあり，1104は僅かに稜を持つ。1105・1106は土師器坏である。器高が深く，形態はかなり丸みを持つ。ＳＤ15出土土師器坏にはみられない形態のもので，須恵器坏身・坏蓋同様にやや古相を呈している。調整は口縁部近くまで手持ちヘラ削りが施され，内面にはやや粗い放射状のヘラ磨きが施されている。1105・1106とも底部に線刻がみられることから，同一工人によるものと考える。1107・1108は土師器壺である。1107は底部に脚の付くもので，ほぼ球形の体部から頸部は直線的に延び，口縁部に至る。胎土は精良で，頸部内外面に縦方向のヘラ磨きが施されていることから，かなり丁寧に作られたものである。1108は頸部が短く直に延びるもので，体部は球形を呈する。1109～1113は土師質甕である。1112・1113は体部に付く把手で，1113は細く延びる。1114は土師質甑である。

時期は７世紀初から前半頃である。

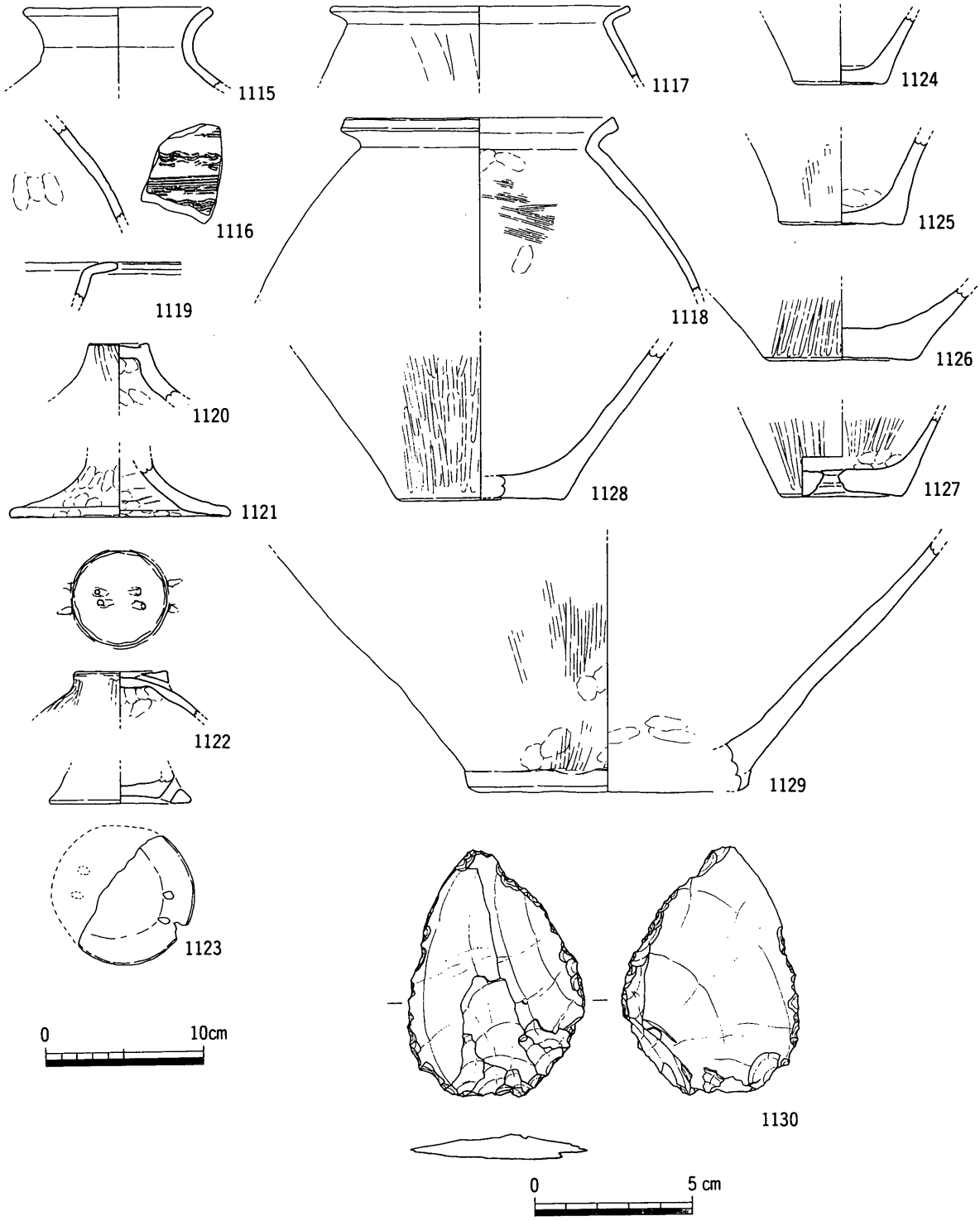
ＳＤ23

ＳＤ23は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るように流路を取る。南側をＳＸ01・ＳＤ24に切られており，僅かに北肩部分を検出しただけである。したがって断面形態及び規模は不明である。しかし，第174図ＳＸ01土層断面図（Ａ－Ａ′）をみるとＳＤ23はＳＸ01の下部で確認でき，ＳＤ24と上下層の関係になることがわかる。つまり，ＳＤ23とＳＤ24第２層は同じことが土層より確認でき，ＳＤ24の第１層は調査区東部では切り合いがあるものの西部ではほぼ同じところに流路を取っていることが確認できた。埋土は濁茶灰色粘質土で，多量の弥生土器・石器が出土している。第174図の土層図でみると断面形態はあまり深さを持たず，緩やかな断面形態を持つ溝であることがわかる。

溝内からは弥生時代の壺・甕・蓋などが出土している（第140図1115～1130）。

1115・1116は壺である。1116は体部外面に櫛描による平行沈線と波状文が交互に施されている。1117・1118は甕である。頸部は「く」の字に屈曲し，内面に明瞭な稜を持つ。1119は高坏である。内彎する体部からほぼ水平に口縁部が屈曲する。1120～1122は蓋である。平らな天井部から外反しながら端部に至る。1122は天井部と側面に２個セットで対角線状に穿孔が認められる。1123はジョッキ型土器である。底部に1122の蓋と同様に穿孔が認められる。1124～1129は底部である。かなりしっかりした底部を持ち，体部は外上方にほぼ直線的に延びる。体部内外面にはヘラ磨きが施されている。1127は底部に穿孔が認められ，甑と思われる。1130は大型のサヌカイト製の石鏃と思われる。

時期は出土遺物から弥生時代中期末と考えられる。



第140図　ＳＤ23出土遺物実測図

ＳＤ24

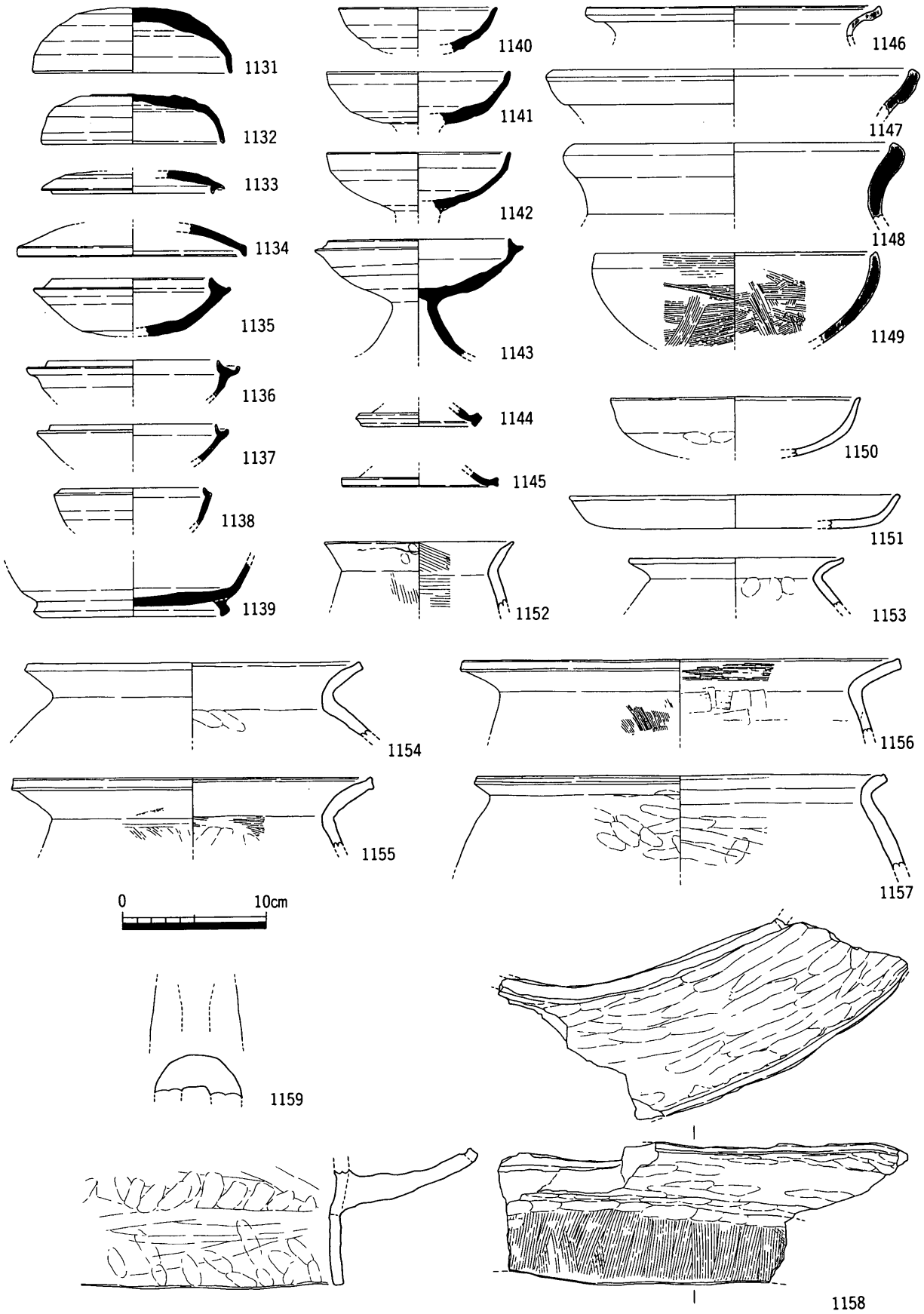
ＳＤ24は調査区中央部で検出した溝である。南部をＳＸ01に，東部ではＳＤ11によって切られており，北肩のみの検出である。したがって断面形態及び規模については不明である。しかし，ＳＤ23部分で説明したようにＳＸ01下部でＳＤ24の流路は確認でき，土層より天幅約8.00m，深さ約0.30mのかなり緩やかな溝であることがわかる。埋土は上・下２層に分けられ，上層が暗茶灰色粘質土で，下層が茶灰色粘質土である。

溝内上層からは須恵器と弥生時代の壺・甕・鉢・高坏が，下層からは弥生時代の壺・甕などが出土している（第141～153図1131～1385）。

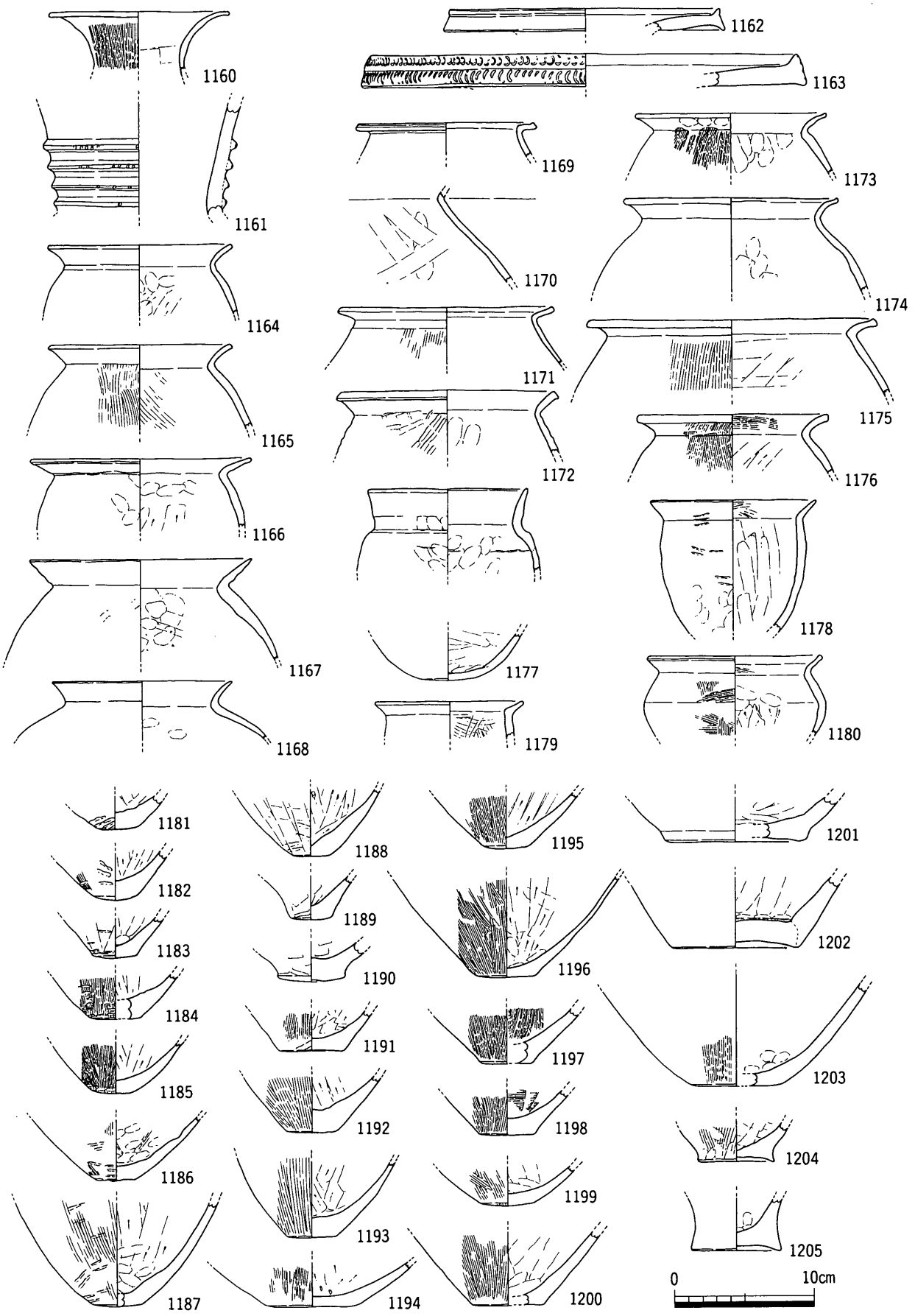
当初ＳＤ23とＳＤ24は切り合いがあり，ＳＤ24によって削平を受けていると考えていたため，調査区西部ではＳＤ23の土層から出土した遺物をＳＤ24の埋土出土遺物として取り上げた結果となった。つまり，ここではＳＤ24出土遺物として扱っているが，後述するＳＤ24の上層上位は第174図（Ｂ－Ｂ′）の土層図番号の⑦で，上層下位（最下位）は土層図番号⑧で，本来のＳＤ24の埋土とし，ＳＤ24の下層は土層図番号⑮・⑯で，ＳＤ23の埋土とし，ＳＤ23出土遺物として扱いたい。

1131～1231はＳＤ24上層上位出土遺物である（第141～144図）。

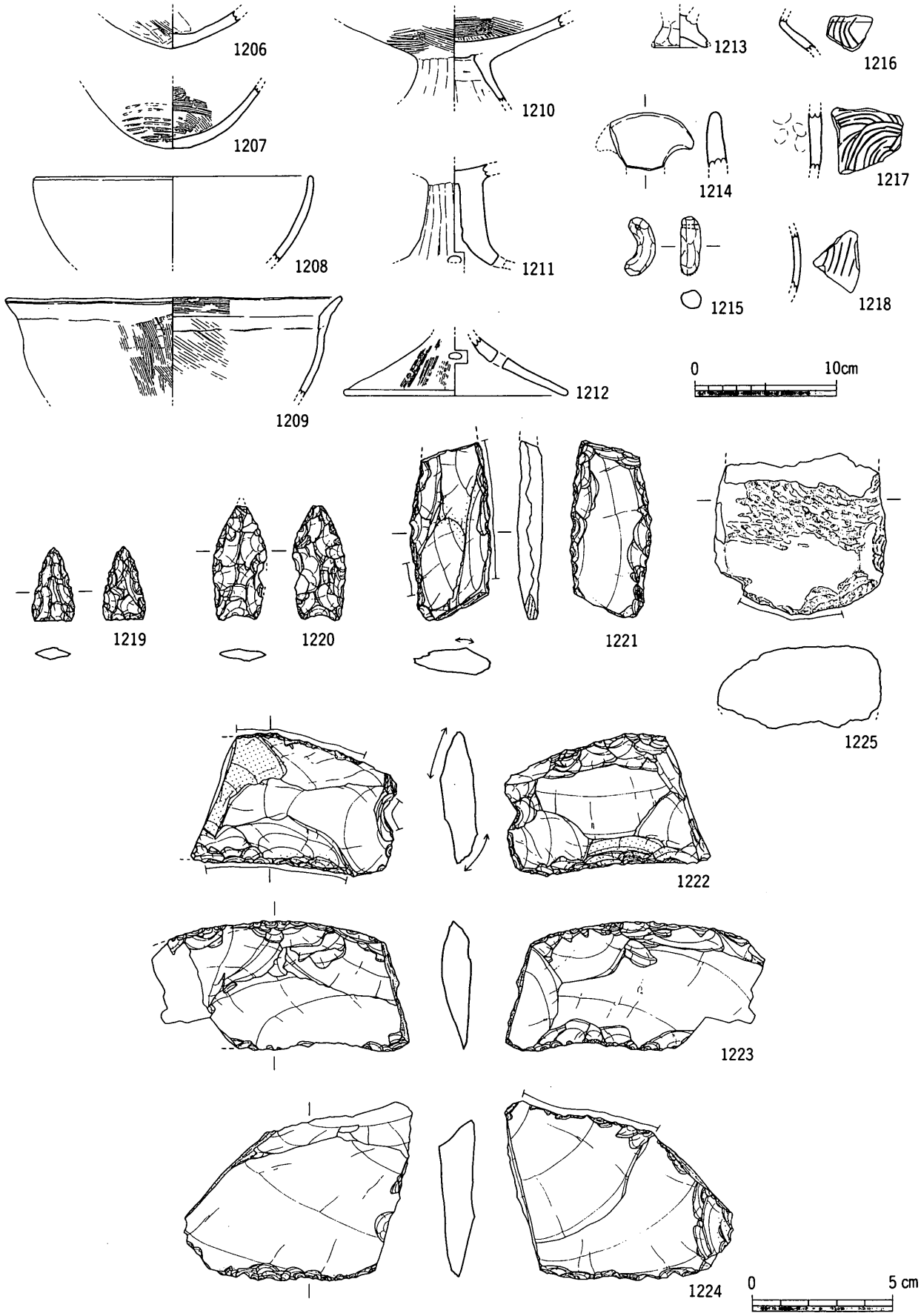
1131～1134は須恵器坏蓋である。器高の高い天井部から体部が内彎しながら延び，口縁部に至るもので，７世紀前半頃の坏蓋である。1133は器高が低く，口縁部内面に短い返りを持つものである。７世紀中葉頃のものである。1134は天井部につまみの付くもので，器高がこの形態では高く，口縁部を下方に短く屈曲させるものである。７世紀後半から末頃のものである。1135～1139は須恵器坏である。1135・1136は坏蓋の1131・1132とセットになり，1139は坏蓋の1134とセットになる。1140～1145は須恵器高坏である。ほとんどが短脚のものである。1143は口縁部に受け部と立ち上がりを持つもので，やや古手の様相を示す。1146～1148は須恵器甕である。口縁部形態にバリエーションがあるが，全て口縁部外面を肥厚させる。1149はやや軟質の須恵器鉢である。体部内外面に刷毛目が密に施されている。1150は土師器坏である。1151は土師器皿である。1152～1157は土師質甕である。法量により大・中・小に法量分化している。1157は頸部から口縁端部までが短いもので，特異な形態を示す。1158は土師質竈である。かなり大型のものである。1159は鞴の羽口である。1160以下は弥生時代の遺物である。1160～1163は壺である。1160は頸部が朝顔型に開くもので，外面に刷毛目が密に施されている。1161は頸部外面に４条の凸帯を持ち，凸帯先端部に刻み目を持つ。1162・1163は口縁部が水平に開くもので，1163は端部外面に２段の半截竹管文を持つ。1164～1180は甕である。1169～1171は頸部を「く」の字に屈曲させ，口縁部は短く延び，端部を上方に小さく摘み上げる。下川津Ｂ類土器である。その他のものは頸部を「く」の字に屈曲させるが，頸部内面に明瞭な稜を持つものやそうでないものまで，口縁端部にかなりのバリエーションがある。1181～1205は底部である。しっかりした平底を呈するものもあるが，そのほとんどはかなり丸底化傾向の強い平底で，体部外面の調整も叩きののち刷毛目が施されているものがある。以上の壺・甕・底部をみると中期末のものも少量含まれるが，そのほとんどは弥生時代後期のものである。1206～1209は鉢で，1210～1212は高坏である。1213は製塩土器である。1214は分銅型土製品である。側辺に抉りを持つ典型的なもので，上部からの穿孔は認められない。1215は土師質の勾玉である。弥生時代では類例はなく，注目される遺物である。1216～1218は体部外面に線刻がみられる土器である。小片のため，全容は不明であるが，1217は同心円状の外側から新たに同心円状の線刻を



第141図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図①

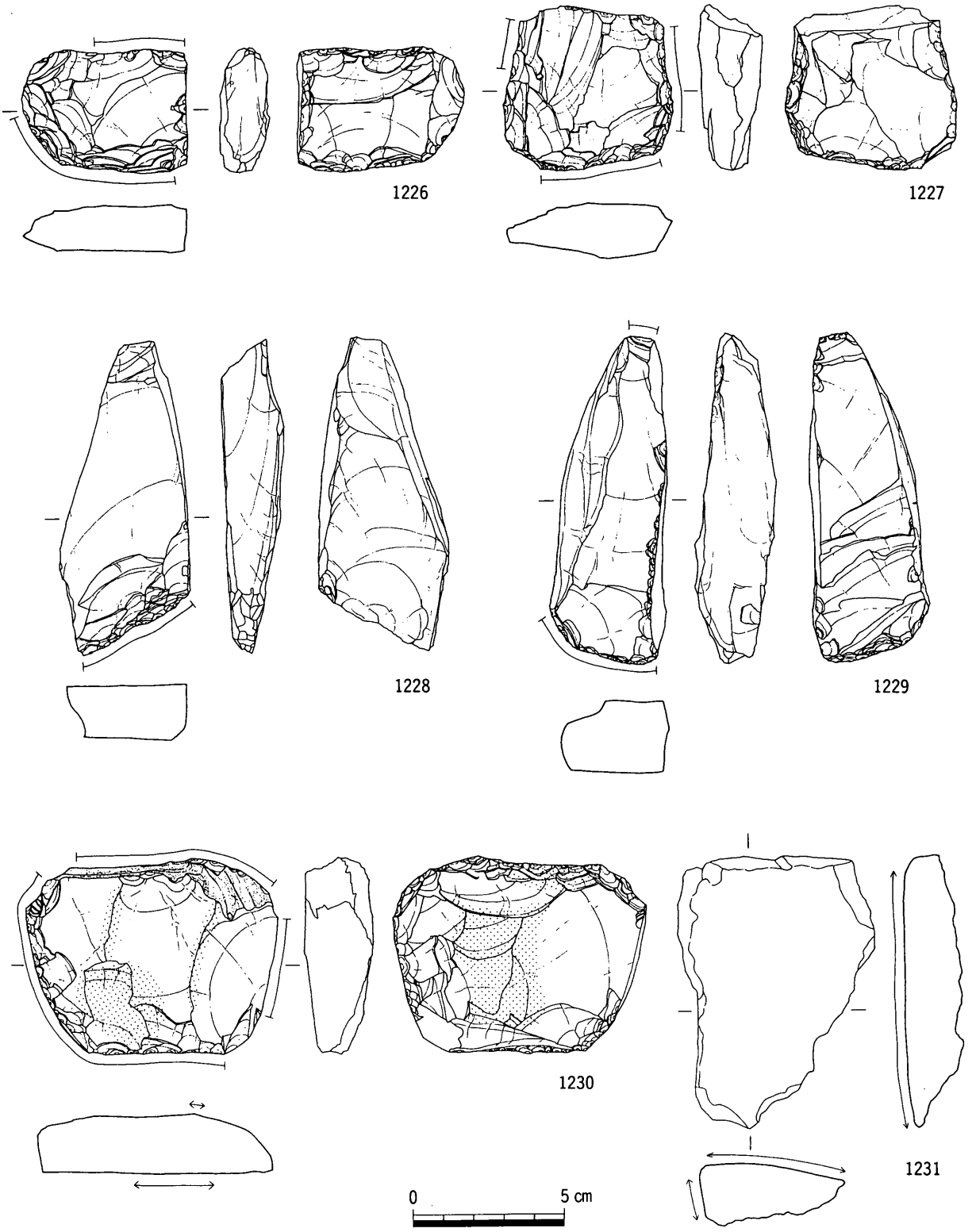


第142図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図②

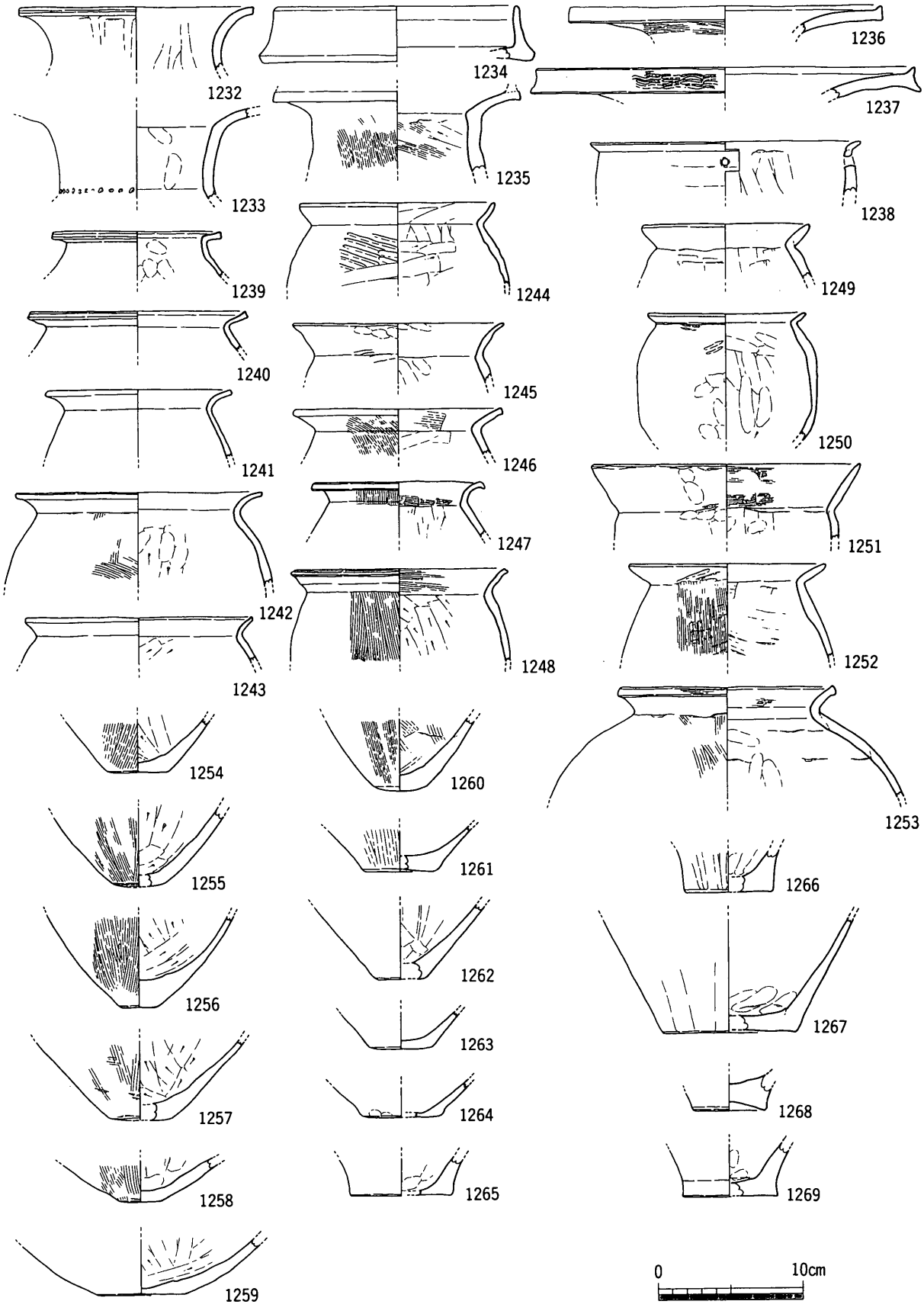


第143図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図③

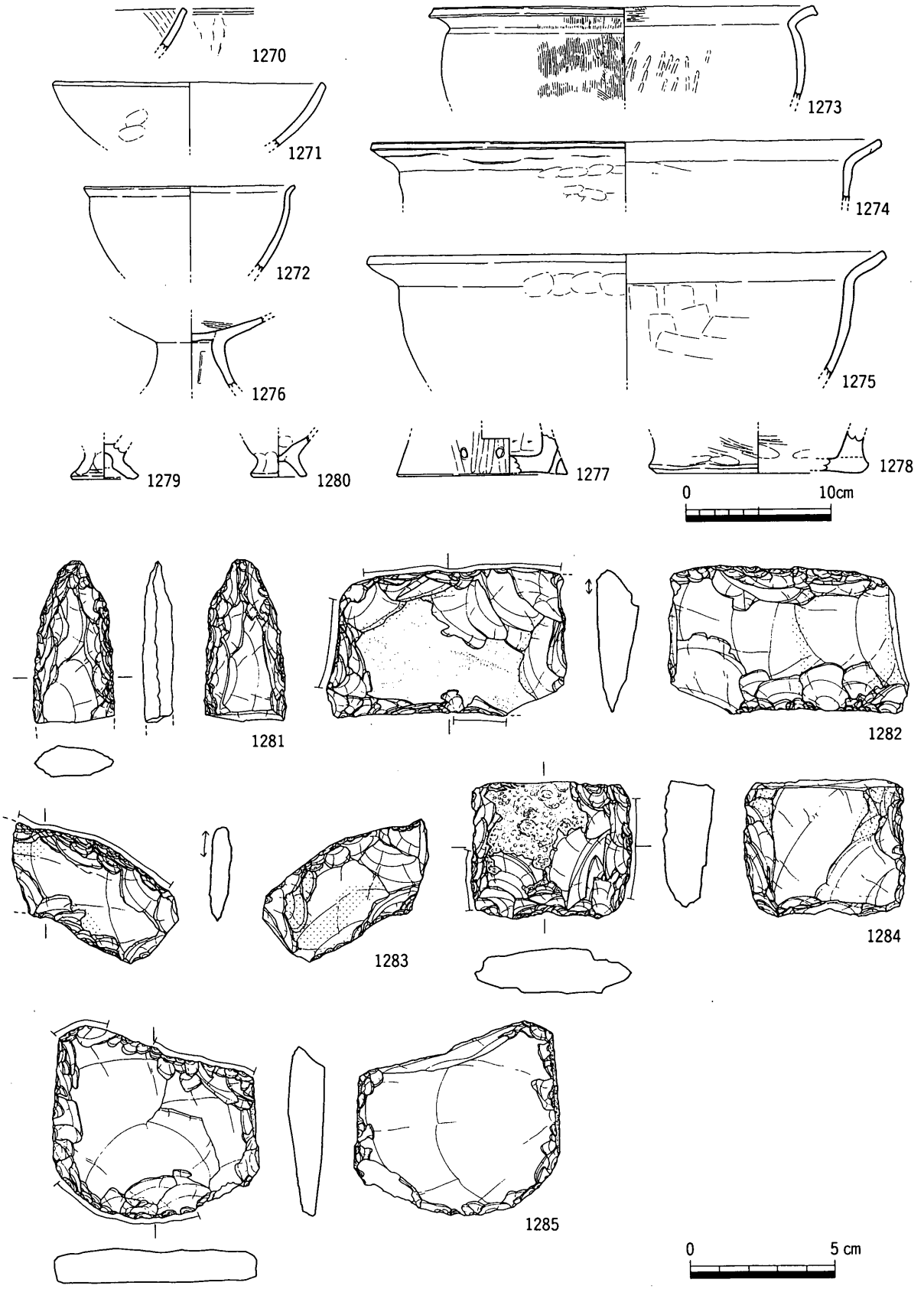
施すものでその他の平行のものとは若干趣が違う。1219・1220はサヌカイト製の石鏃，1221はサヌカイト製の石槍，1222はサヌカイト製の石庖丁，1223・1224はサヌカイト製のスクレイパーである。1225は安山岩（脈岩）製の磨製石斧である。1226～1230は楔形石器である。1231は流紋岩製の砥石である。



第144図　ＳＤ24上層上位出土遺物実測図④



第145図　ＳＤ24上層下位出土遺物実測図①



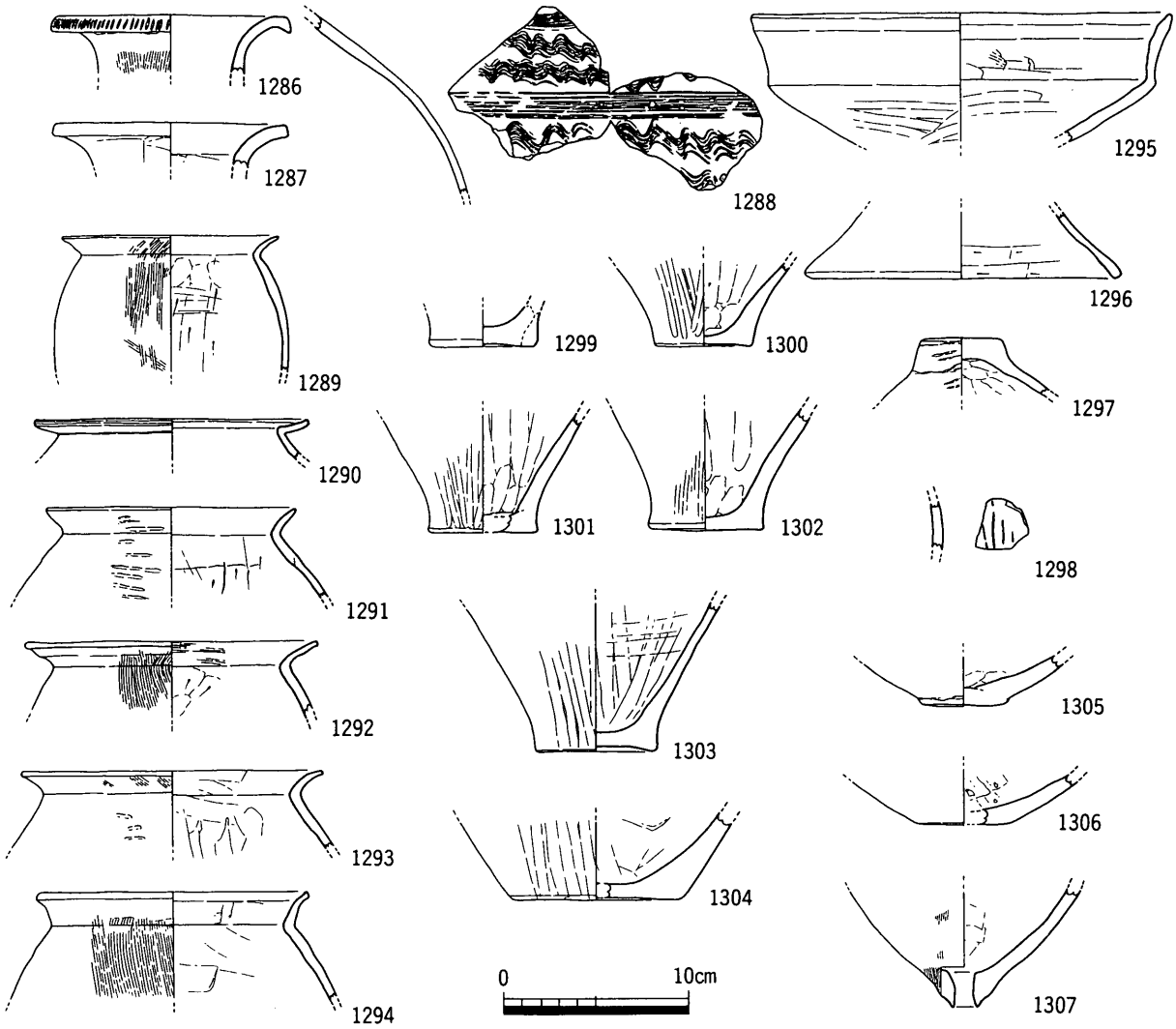
第146図　ＳＤ24上層下位出土遺物実測図②

出土遺物は弥生時代中期末から後期と７世紀前半から７世紀末までと遺物に時期幅がある。

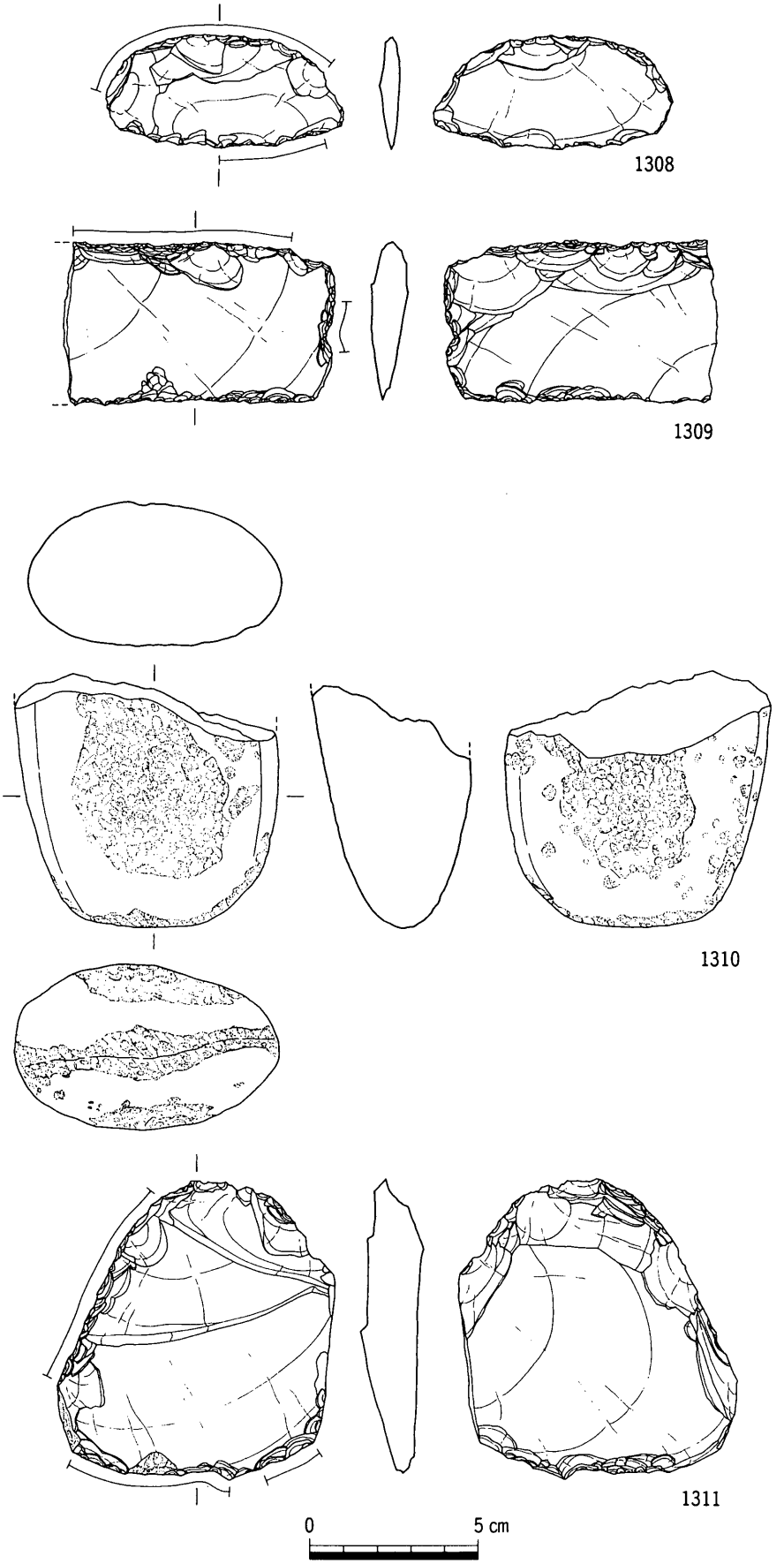
1232～1311はＳＤ24上層下位出土遺物である（第145～148図）。上層下位出土遺物は取り上げ時に上層下位と上層最下位に分けて取り上げた。

1232～1285は上層下位出土遺物である（第145・146図）。

1232～1237は壺で，頸部から口縁部にかけて朝顔型に開くものと二重口縁を呈するもの，水平に口縁部が開くものの３形態がある。口縁端部外面はあまり加飾せず，波状文がみられる程度である。1238～1253は甕で，口縁形態にかなりのバリエーションがある。1238は口縁部が短く延びるもので，頸部下端に穿孔が認められる。1239・1240は下川津Ｂ類土器で，頸部が「く」の字に屈曲し，短く延びるものである。口縁端部は短く摘み上げる。1251は口縁部が長く延びるもので，やや他のものに比べると違和感がある。1254～1269は底部で，しっかりした平底を持つものとかなり小さくなった平底を持つものがある。甕及び底部の調整をみると体部外面はかなり刷毛目を多用し，叩き痕を消しているものがみられる。弥生時代後期後半の時期の特徴である。1270～1275は鉢で，大型のものと小型のものがあり，大型のものは頸部を屈曲させ，小型のものは内彎気味に延びた体部がそのまま終わらせる。1276は高坏である。円盤充塡をきっちり行っているのでやや古相のものである。1277・1278はジョッキ型土器である。1277の底



第147図　ＳＤ24上層最下位出土遺物実測図①



第148図　ＳＤ24上層最下位出土遺物実測図②

部には，体部から底部に抜ける穿孔が2個セットで確認できる。1279・1280は製塩土器の脚である。脚部外面は強い指なで痕が施され，脚もしっかり作られている。1281～1285はサヌカイト製の石槍・石庖丁・石鎌・楔形石器である。

1286～1311は上層最下位出土遺物である（第147・148図）。

1286～1288は壺で，1289～1294は甕である。1286は頸部が朝顔型に開くもので，端部外面に刻み目を施している。1288は2条の波状文を挟むように櫛描沈線が施されている。1295・1296は高坏である。坏部は口縁部がほぼ直上方に延びるもので，内面に僅かに凹線が認められる。1296は高坏の脚で，内面ヘラ削りされ，かなり薄く作られている。1297は蓋である。1298は土器の体部に線刻が認められるものである。1299～1306は底部である。かなりしっかりした底部で，やや古相の状況を示す。甕の口縁部をみるかぎりやや時期差のあることがわかる。1307は甑である。1308・1309はサヌカイト製のスクレイパーと石庖丁である。1310は安山岩（脈岩）製の磨製石斧である。前面及び背面の敲き痕をみると，欠損後敲き石に転用したものと考える。1311はサヌカイト製の楔形石器である。

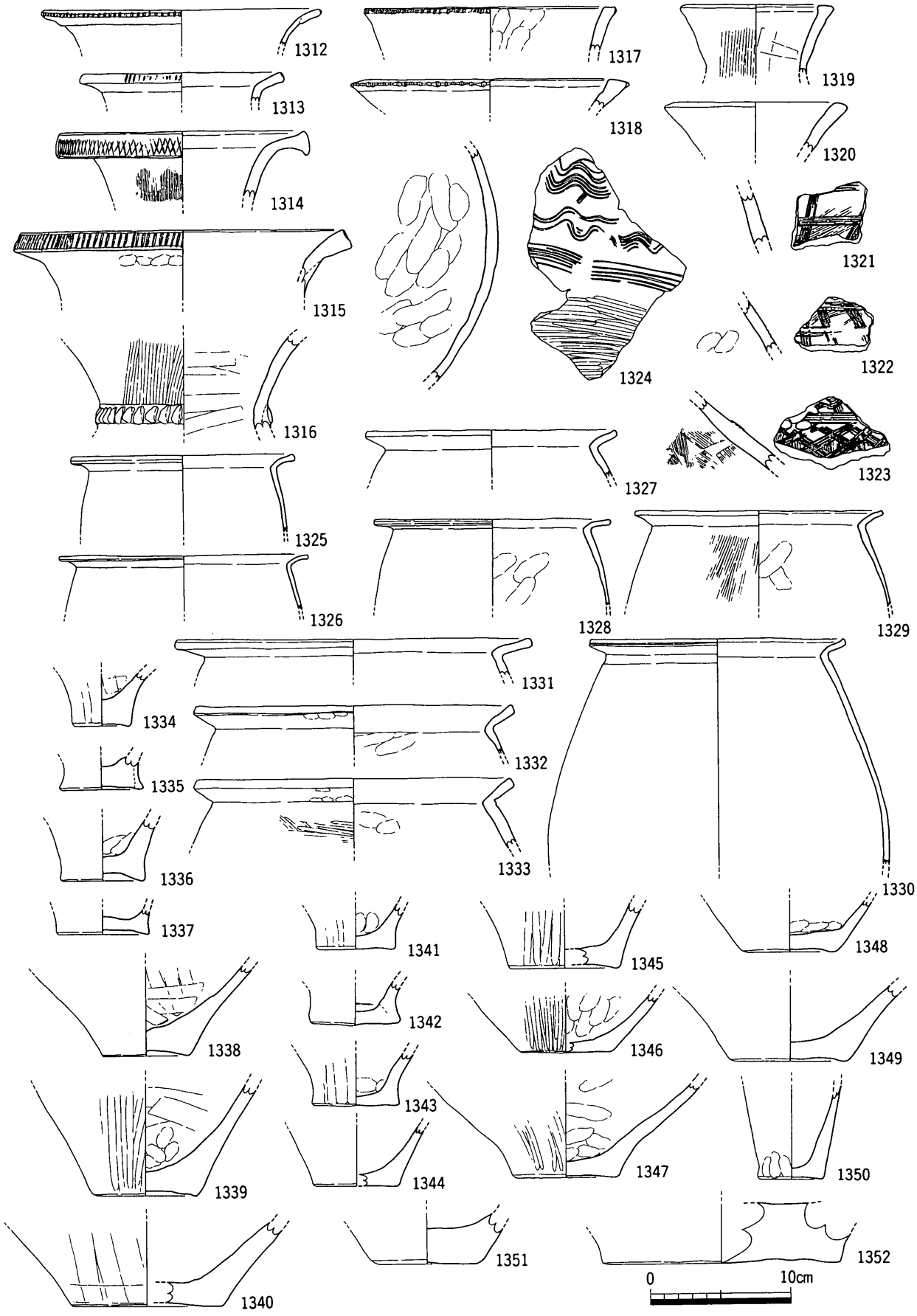
ＳＤ24上層下位及び最下位出土遺物をみると上層上位でみられた須恵器がなく，全てが弥生土器で構成されている。その中でもやや古相の弥生時代中期末と思われるジョッキ型土器や高坏・甕の底部・磨製石斧等が出土しているが，全体に占める割合は低く，そのほとんどが弥生時代後期のものであることがわかる。したがって上層下位出土遺物からＳＤ24は弥生時代後期と考えられる。

1312～1385はＳＤ24下層として取り上げたものである（第149～153図）。これらの出土遺物は前述したように取り上げ時はＳＤ24下層として取り上げたが，ＳＸ01の土層（第174図）及び検出状況から東部でみられたＳＤ23とＳＤ24の切り合い関係が，西部では重なっているだけで，実際はＳＤ23の埋土であることが判明した。ここではＳＤ24の下層として報告するが，ＳＤ23の埋土として扱い，出土遺物もＳＤ23出土遺物として今後扱いたいと考えている。

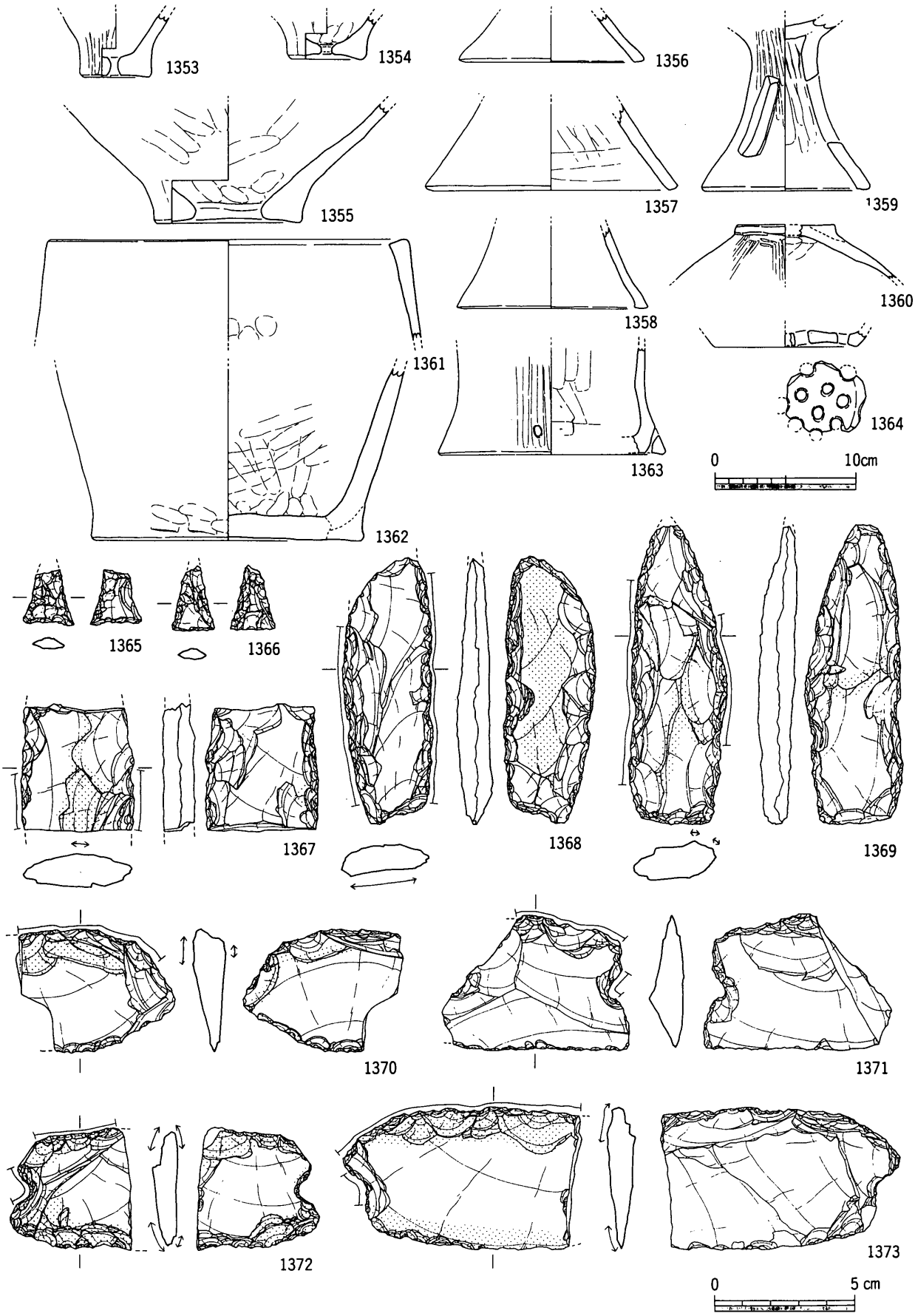
1312～1324は壺で，1325～1333は甕である。頸部から朝顔型に開くものとやや外反気味ではあるが直線的に外上方に延びるものの2形態みられる。前者は口縁端部外面に刻み目を持ち，1314は格子状の刻み目を持つ。1316は頸部に押捺凸帯を持つものである。体部外面には波状文や格子状の櫛描が認められる。また，1323のように円形浮文もある。壺の器種構成及び形態から中期前半の様相を表している。甕は胴があまり張らず，頸部が「く」の字に屈曲し，口縁部の短いもので体部外面には僅かに刷毛目やヘラ磨きが認められる。1334～1352は底部で，しっかりした平底で，体部外面に幅の太いヘラ磨きや板なで状のものが施されている。1353～1355は甑である。1356～1359は高坏である。脚部はほぼ直線的に「ハ」の字に開く。1359は脚部に隅丸長方形の透かしを3箇所に持ち，外面には縦方向のヘラ磨きが施されている。1360は蓋である。1361・1362はかなり大きめの底部から体部はやや内彎しながら口縁部に至るもので，バケツ状を呈する甕である。1363はジョッキ型土器である。底部には体部からの穿孔が認められる。1364は多孔底を持つもので，器種は不明である。1365～1383はサヌカイト製の石鏃・石槍・石庖丁・スクレイパー・打製石斧・楔形石器である。1384は砂岩製の砥石である。1385は人為的に中央部に穴をあけている粘土塊である。この溝ＳＤ24からは多量の弥生土器に混じって，明らかに胎土の精良な粘土塊が28ℓコンテナに約1/3程度出土している。

その粘土塊から特徴として以下の5点が観察できる。

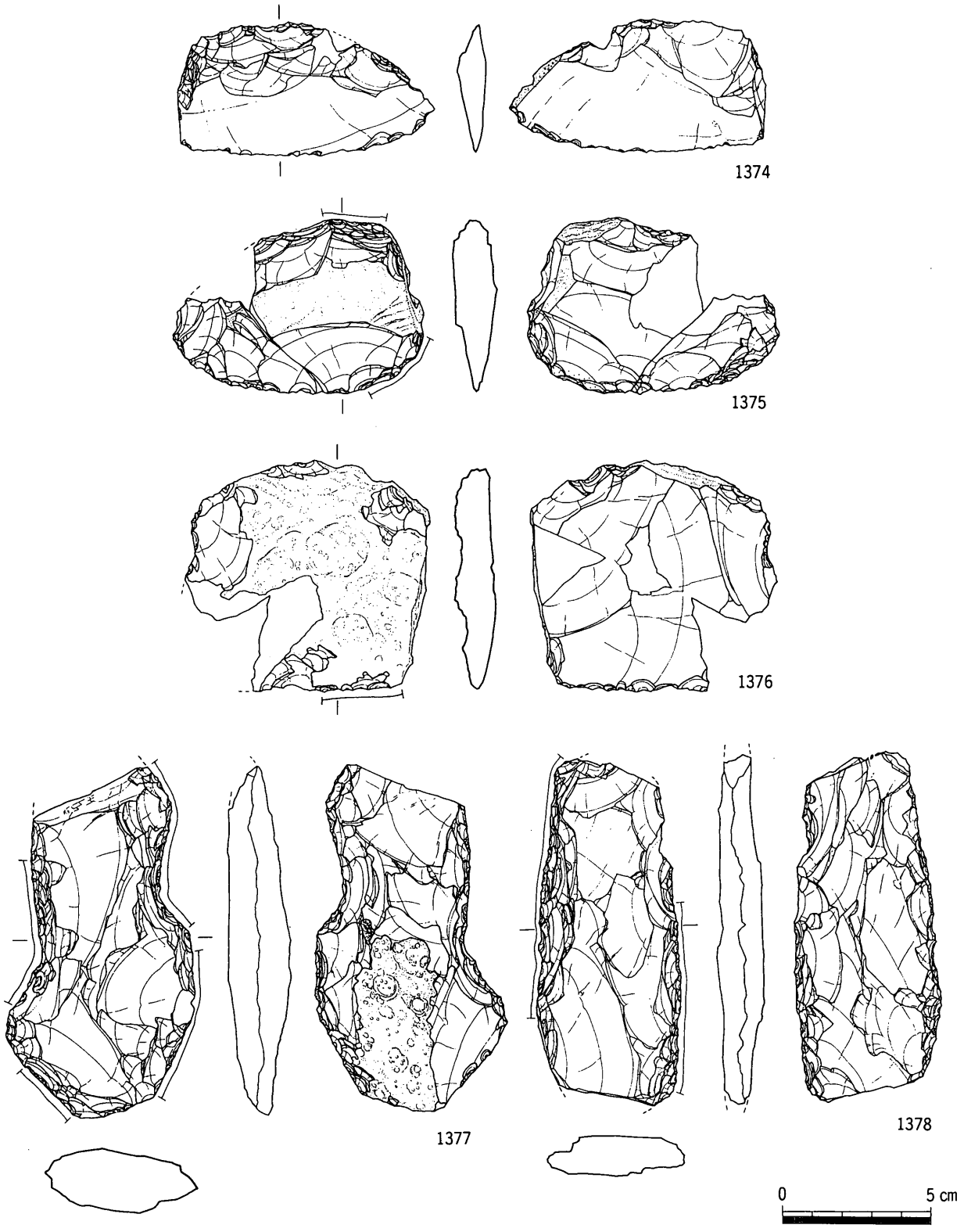
①粘土の塊を接合し，その接合部に2cm程の穴を意図的にあけている。



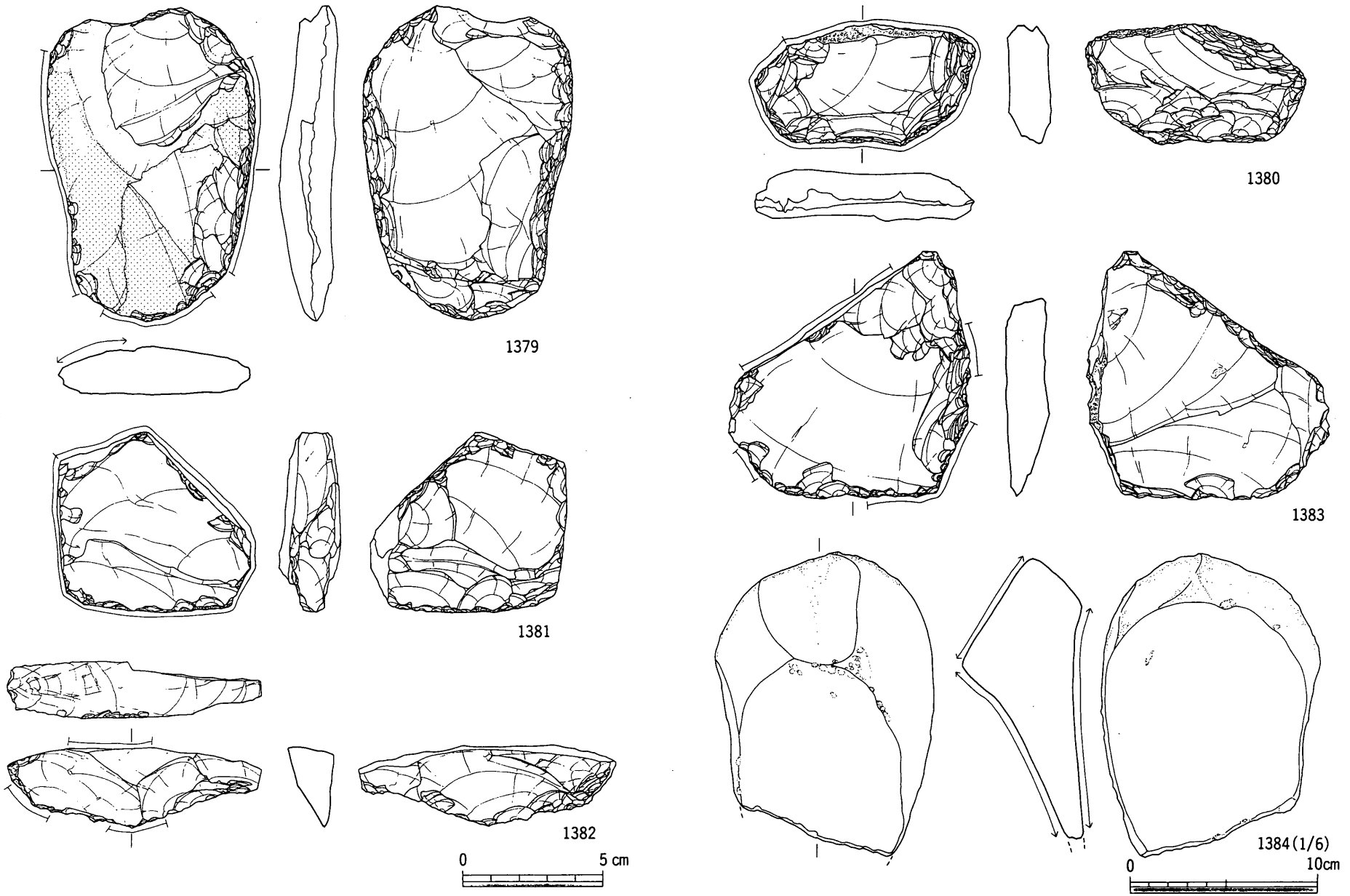
第149図　ＳＤ24下層出土遺物実測図①



第150図　ＳＤ24下層出土遺物実測図②



第151図　ＳＤ24下層出土遺物実測図③



第152図　ＳＤ24下層出土遺物実測図④

②内側と思われる部分および穴内部は二次的な加熱により暗灰色に変色している。

③内側と思われる一部に篦状の工具による刺突がみられる。

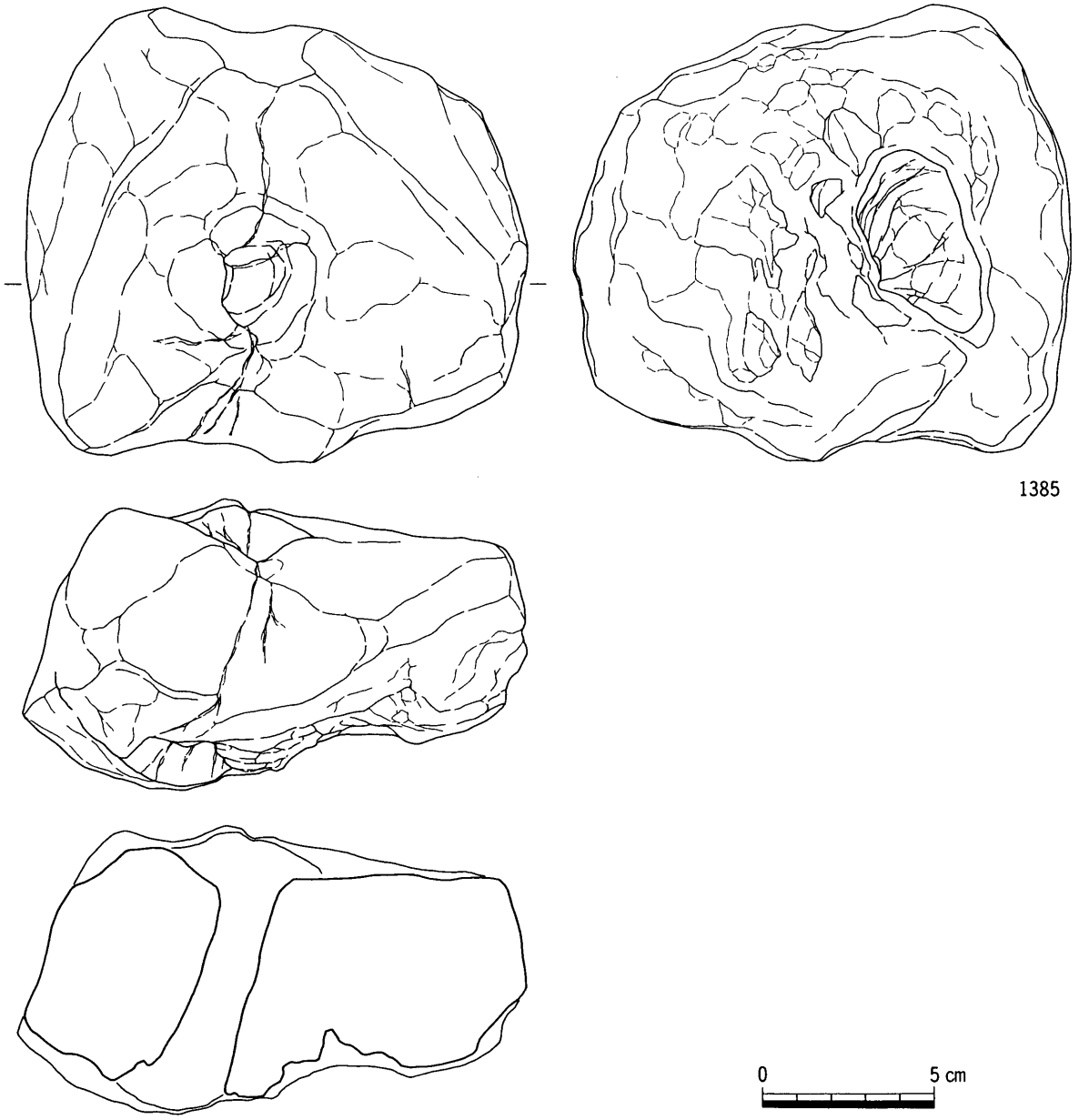
④変色した部分に茶色の付着物がみられる。

⑤精選された胎土である。

また，粘土塊が出土した溝は，平成３年度の四国横断道調査の川津一ノ又遺跡Ⅲ区から延びるものと思われ，集落の中心が川津一ノ又遺跡Ⅲ区とすると当遺跡は推定ではあるが集落の南東縁辺部ということになる。

時期は共伴する遺物から弥生時代中期末から後期初頭頃である。また，同時期の溝からは把手状の粘土塊も出土している。

以上の特徴から弥生時代の鋳造関係資料の可能性があるとしたが，今後も検討していかなければならないものである。



第153図　ＳＤ24下層出土遺物実測図⑤

ＳＤ25

ＳＤ25は調査区中央部で検出した溝である。ＳＸ01の周囲で確認された溝で，凹地状のＳＸ01と何らかの関係にあるものと思われるが，その性格については不明である。流路はＳＸ01周囲で検出されたため大きく弧を描き，西部に延びている。弧を描いた東部ではＳＤ11を切っており，明らかにＳＤ11最終埋没時期より新しいことがわかる。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.30mで，検出面からの深さは約0.10mを計る。

溝内より須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第154図1386～1389）。

1386・1387は須恵器坏身である。1388は須恵器高台付坏で，断面方形の高台が下方に短く付いている。1389は須恵器坏で，やや内彎しながら口縁部は外反する。

時期は出土遺物からみると７～９世紀の須恵器が出土しており，時期幅が広く，また，ＳＤ11を切っていることからＳＤ11の最終埋没時期の９世紀後半から10世紀前半より新しいことがわかる。したがってＳＤ25の時期を９世紀後半から10世紀前半より新しい時期としたい。

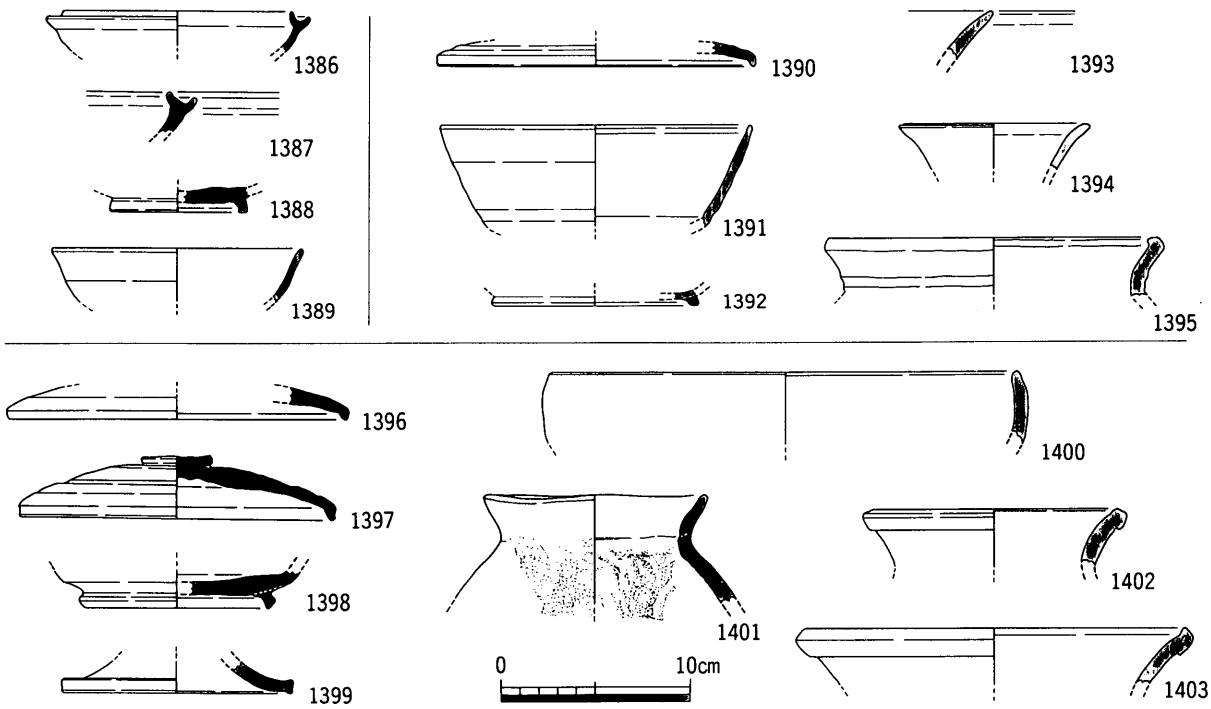
ＳＤ26

ＳＤ26は調査区中央部で検出した溝で，ＳＸ01の掘削後に調査区を横切るように検出した溝である。この溝はＳＸ01の下位で，またＳＤ11によっても切られている。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約0.75mで，検出面からの深さは約0.09mを計る。流路方向は真北から58.0°西偏している。

溝内より須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第154図1390～1395）。

1390は須恵器蓋である。1391・1392は須恵器高台付坏である。器高がかなり深いもので，体部は直線的に延びる。高台はやや外方に踏張る。1393・1394は須恵器壺である。1394は小型のもので，口縁部が朝顔型に開くものである。1395は須恵器甕である。

時期は図化遺物及び溝内出土遺物から７～９世紀頃と考えるが，ＳＸ01の時期とＳＤ11の時期とを考慮に入れ，検討しなければならない。



第154図　ＳＤ25～28出土遺物実測図

ＳＤ27・28

ＳＤ27・28は調査区中央部で検出した溝で，ほぼ調査区を横切るように検出した。ちょうどＳＸ01の掘削後検出したもので，調査区西部で１流路であったものが，おそらくＳＸ01の下（ちょうどＳＸ01の真下）では２流路に分かれ，調査区東部（ＳＸ01の東部分）では，また１流路になるもので，検出状況及び埋土から同一溝であることが分かる。断面形態は両溝ともＵ型を呈し，２流路に別れた部分で，ＳＤ27の規模は天幅約0.70mで，検出面からの深さは約0.24mを計り，ＳＤ28の規模は天幅約0.55mで，検出面からの深さは約0.10mを計る。

溝内より須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第154図1396～1403）。

1396～1398は須恵器蓋・坏である。蓋はやや器高が高いもので，天井部に扁平なつまみが付く。坏は底部にやや外方に踏張る高台が付く。この坏・坏蓋は７世紀末頃のものである。1399は須恵器高坏である。1400は須恵器鉢である。1401～1403は須恵器甕である。1401のように口縁部が直行するやや小型のものがある。その他の甕は口縁部外面を肥厚させ，明瞭な稜を持たせる。

時期は須恵器坏・坏蓋から７世紀末頃と考える。

ＳＤ29

ＳＤ29は調査区中央部で検出した溝で，ＳＸ01に切られ，ＳＤ30を切っている。検出長が短いため性格は不明である。断面形態はＵ型を呈している。規模は天幅0.30mで，検出面からの深さは約0.09mを計る。

溝内から弥生土器が出土している。

時期は出土遺物が少量であるため，時期決定に決定的な根拠が薄いが，後述するＳＤ30の時期が７世紀前半であるために，この時期以降とし，明確に時期決定はさけたい。

ＳＤ30

ＳＤ30は調査区中央部で検出した溝で，調査区外から延び，流路は湾曲する。検出長が短いために全容は不明である。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.20mで，検出面からの深さは約0.03mを計る。

溝内より須恵器・土師器に混じり弥生土器も出土している（第155図1404～1407）。

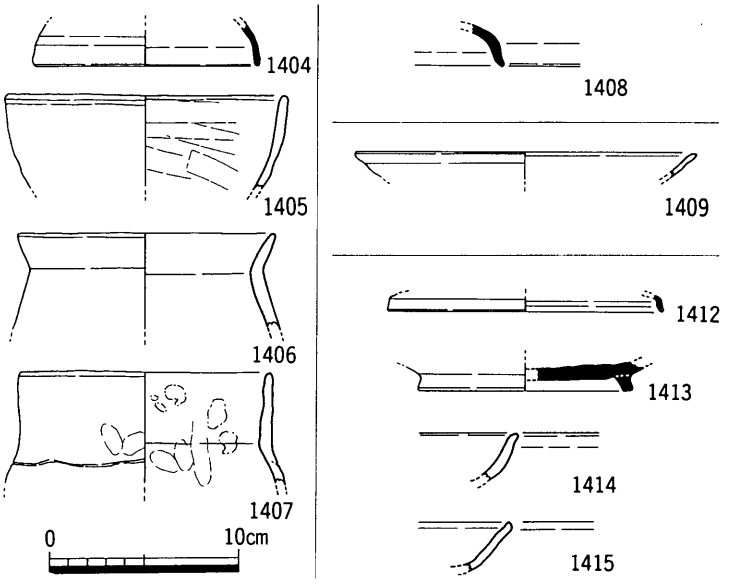
1404は須恵器坏蓋である。1405は土師器鉢で，1406は土師質甕で，1407は製塩土器である。

時期は出土遺物から７世紀前半である。

ＳＤ31

ＳＤ31は調査区中央部で検出した溝で，ＳＨ03の東側で検出された。検出長が短く，性格は不明であるが北部で１流路であるものが南部で２流路に別れている。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.30mで，検出面からの深さは約0.10mを計る。

溝内より須恵器・土師質土器が出



第155図　ＳＤ31・32・35出土遺物実測図

土している（第155図1408）。

時期は溝内から出土した須恵器坏蓋から７世紀前半とする。

ＳＤ32

ＳＤ32は調査区中央部で検出した溝で，ＳＨ04の西側５ｍでやや湾曲するものである。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.22ｍで，検出面からの深さは約0.10ｍを計るかなり細い溝である。一見ＳＨ04を画するように検出されていることから何らかの可能性があるものと考える。

溝内から須恵器・土師器などが出土している（第155図1409）。

1409は土師器坏で，開き気味の体部から口縁端部を外方に僅かに屈曲させる。

時期は溝内出土遺物と1409の土師器坏から８世紀代と思われ，ＳＨ04が８世紀前半頃であるために同時期に存在したことは間違いなく，何らかの関係があったことを時期的に裏付けるものである。

ＳＤ33

ＳＤ33は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るように流路を取る。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.50ｍで，検出面からの深さは約0.12ｍを計る。

溝内より弥生土器が出土している（第157図1410・1411）。

時期は溝内から出土した弥生土器から弥生時代後期である。

ＳＤ34

ＳＤ34は調査区中央部で検出した溝で，ＳＤ33を切っている。検出長が短いために全容は不明である。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.42ｍで，検出面からの深さは約0.04ｍを計る。

溝内より須恵器・土師器が出土している。

時期は溝内から出土した遺物から中世と考えられる。

ＳＤ35

ＳＤ35は調査区中央部で検出した溝で，調査区をやや斜めに横切るものである。西側で調査区外に延びる。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.30ｍで，検出面からの深さは約0.12ｍを計る。

溝内より須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第155図1412～1415）。

1412は須恵器蓋である。1413は須恵器高台付坏である。1414・1415は土師器坏で，1415は口縁端部を内方に短く折り曲げている。

時期は７世紀前半の須恵器坏蓋が混じるが，その他の遺物から８世紀前半と考える。

ＳＤ36

ＳＤ36は調査区中央部で検出した溝で，検出長が短いために全容は不明である。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.30ｍで，検出面からの深さは約0.03ｍとかなり削平されている。

溝内より須恵器・土師器が出土している。

時期は溝内から出土した遺物から古代とする。

ＳＤ37

ＳＤ37は調査区中央部で検出した溝で，調査区を横切るものである。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.55ｍで，検出面からの深さは約0.22ｍを計る。

溝内より土師器・土師質土器が出土している。

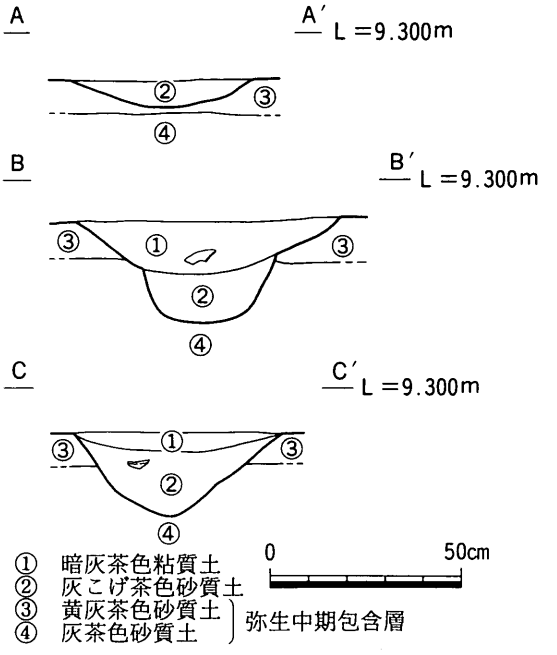
時期は溝内から出土した遺物から中世とする。

ＳＤ38

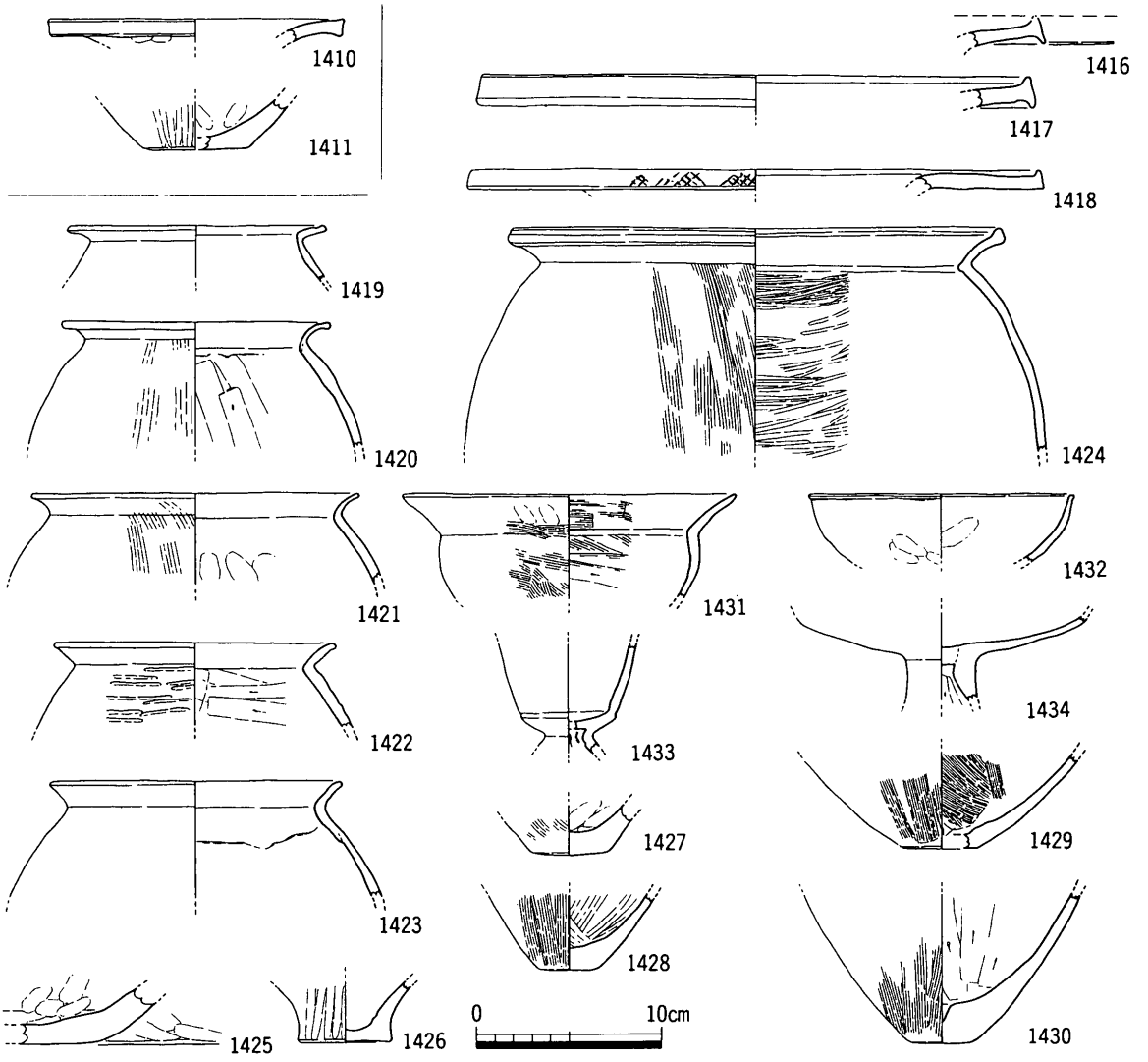
ＳＤ38は調査区中央部で検出した溝で，南北に走る溝に北側と南側で２条の溝が直行する。平面検出時に切り合い関係が確認できなかったため，同一溝とし，ここではＳＤ38のみとした。埋土は深い部分で２層，浅い部分で１層確認されている。上層は暗灰茶色粘質土で，下層は灰こげ茶色砂質土である。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.55mで，検出面からの深さは約0.12mを計る。

溝内より弥生土器が出土している（第157図1416～1434）。

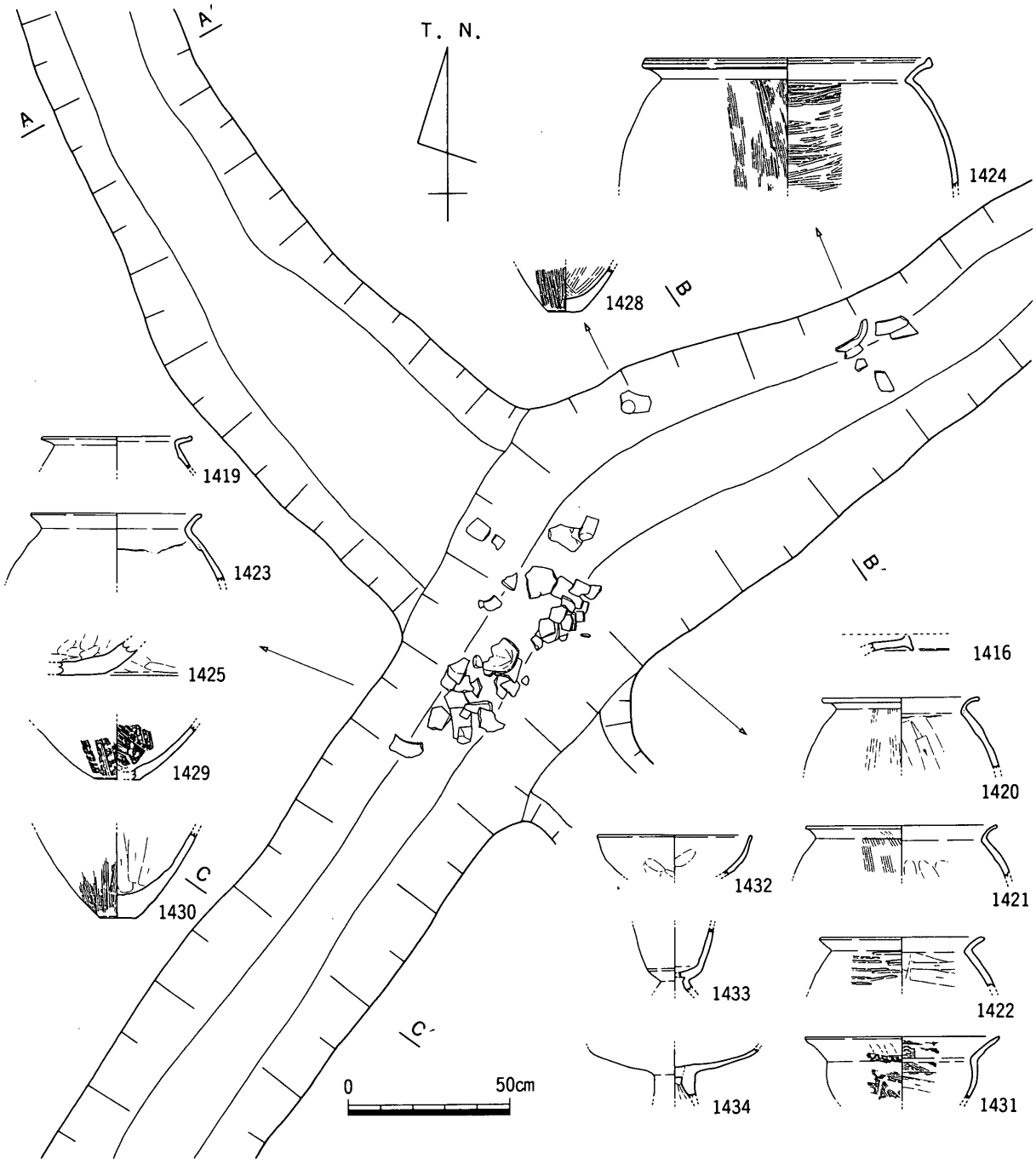
1416～1418は壺である。ほとんどの口縁が水平に延びるもので，口縁端部を上方のみと上下に拡張するものがある。1418は口縁部外面にヘラ描鋸歯文が



第156図　ＳＤ38土層断面図



第157図　ＳＤ33・38出土遺物実測図



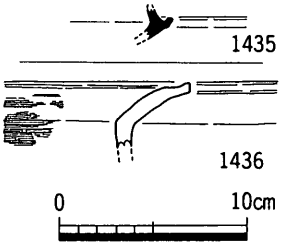
第158図　ＳＤ38遺物出土状況平面図

施されている。1419～1424は甕で，頸部が「く」の字に屈曲し，ほとんどが頸部内面に明瞭な稜を残す。体部外面には叩き痕と刷毛目が施されている。内面はヘラ削りが多用され，稀に1424のようにヘラ磨きが施されているものもある。1425～1430は底部である。底部は径がやや小さくなっているが，まだ平底を呈している。1426の底部はやや古相を呈し，同時期のものではない。1431・1432は鉢で，1433は脚付の小型丸底壺である。1434は高坏である。

時期はやや古相を呈する甕1424，底部1426があるが，そのほとんどは弥生時代後期後半から末のものである。したがってこの溝の時期は後期後半から末である。

ＳＤ39

ＳＤ39は調査区中央部で検出した溝で，ＳＫ14によって切られている。東西方向で検出し，西部は削平されている。検出長が短く，性格は不明であるが，竪穴住居ＳＨ05の南で検出したＳＤ40と同方向で，しかも竪穴住居から等間隔で検出されていることからこの竪穴住居を区画する溝の可能性がある。断面形態はＵ型を呈し，規模は天幅約0.36ｍで，検出面からの深さは約0.12ｍを計る。



第159図　ＳＤ39・40 出土遺物実測図

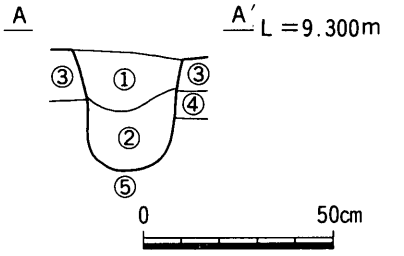
溝内より須恵器・土師質土器が出土している（第159図1435）。

時期は溝内から出土した須恵器坏身から７世紀前半頃とする。

ＳＤ40

ＳＤ40は調査区南部で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。断面形態はＵ型を呈し，天幅の割りには深く，しっかりした溝である。規模は天幅約0.29ｍで，検出面からの深さは約0.31ｍを計る。流路方向は真北から60.0°西偏している。

この溝の北部では同時期の竪穴住居，掘立柱建物などが検出されているが南部ではＳＤ41・44・45などの生産域に関連する溝しか検出されていないことから集落域と生産域を画する溝であることが解る。



① 茶灰色砂質土（粘質土っぽい）
② 暗茶白色砂質土
③ 淡灰茶色砂
④ 淡白灰茶色砂
⑤ 淡白茶色砂
弥生中期包含層

第160図　ＳＤ40土層断面図

溝内より須恵器・土師質土器が出土している（第159図1436）。

時期は溝内から出土した遺物から７世紀前半頃とする。

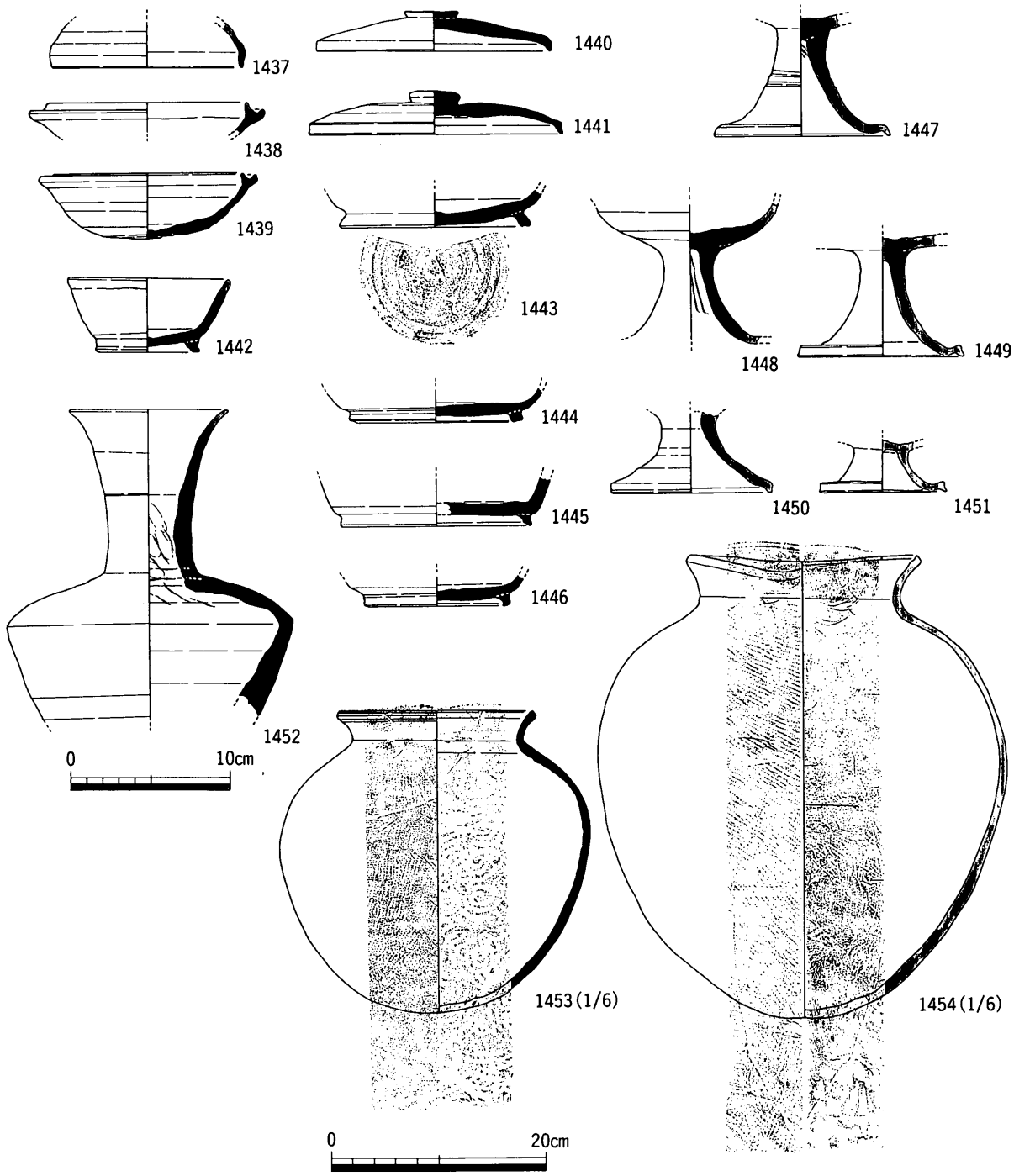
ＳＤ41

ＳＤ41は調査区最南端で検出した溝で，調査区を横切るように検出されている。ほぼ東西に流路を取っており，東半分で中洲を残し，二股に分流するがほぼ中央部でまた合流する。しかし，調査時では同一溝として捉えたが，土層及び出土遺物から切り合い関係があるものと思われ，分流した北側の溝をＳＤ41とし，南側の溝をＳＤ44とする。つまりＳＤ44は分流し瘤状を呈するが，以前の流路はほぼＳＤ41と同じ位置を流れていたものと考えられる。おそらく第169図土層断面図Ａ－Ａ′③・④の流路がＳＤ44の流路で，ＳＤ41の埋土が第169図Ａ－Ａ′上層①・②になり，ＳＤ44の埋土が第169図下層③・④になるものと思われる。したがってＳＤ41はほぼ真っ直ぐに流路を取ることになる。ＳＤ41の最深部の高低差をみると西に比べて東が若干高く，東から西に流路を取っていたことが解る。断面形態は緩やかなＵ型を呈している。規模は天幅約1.62ｍで，検出面からの深さは約0.55ｍを計る。流路方向はほぼ東西である。

溝内上層（第169図土層断面図Ａ－Ａ′①・②）から須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第161・162図1437～1466）。

1437・1440・1441は須恵器坏蓋・蓋である。1437は器高が高く，天井部が丸みを持つもので，1440・1441は口縁端部を屈曲させ，天井部に扁平なつまみを持つものである。1438・1439・1442～1446は須恵器坏身・高台付坏である。1442はやや小型のものである。底部縁辺部に断面方形状の高台が，外方に踏張るように付いている。1443も1442と同様に高台が外方に踏張るもので，高台内面に爪型圧痕が認められる。1447～1451は須恵器高坏である。脚部が長いものと短いものがみられる。長いものは脚部ほぼ中央部に２条の沈線が認められ，やや古手の様相を持つものである。1451は脚部がやや短いもので，中央部に僅かではあるが１条の沈線が認め

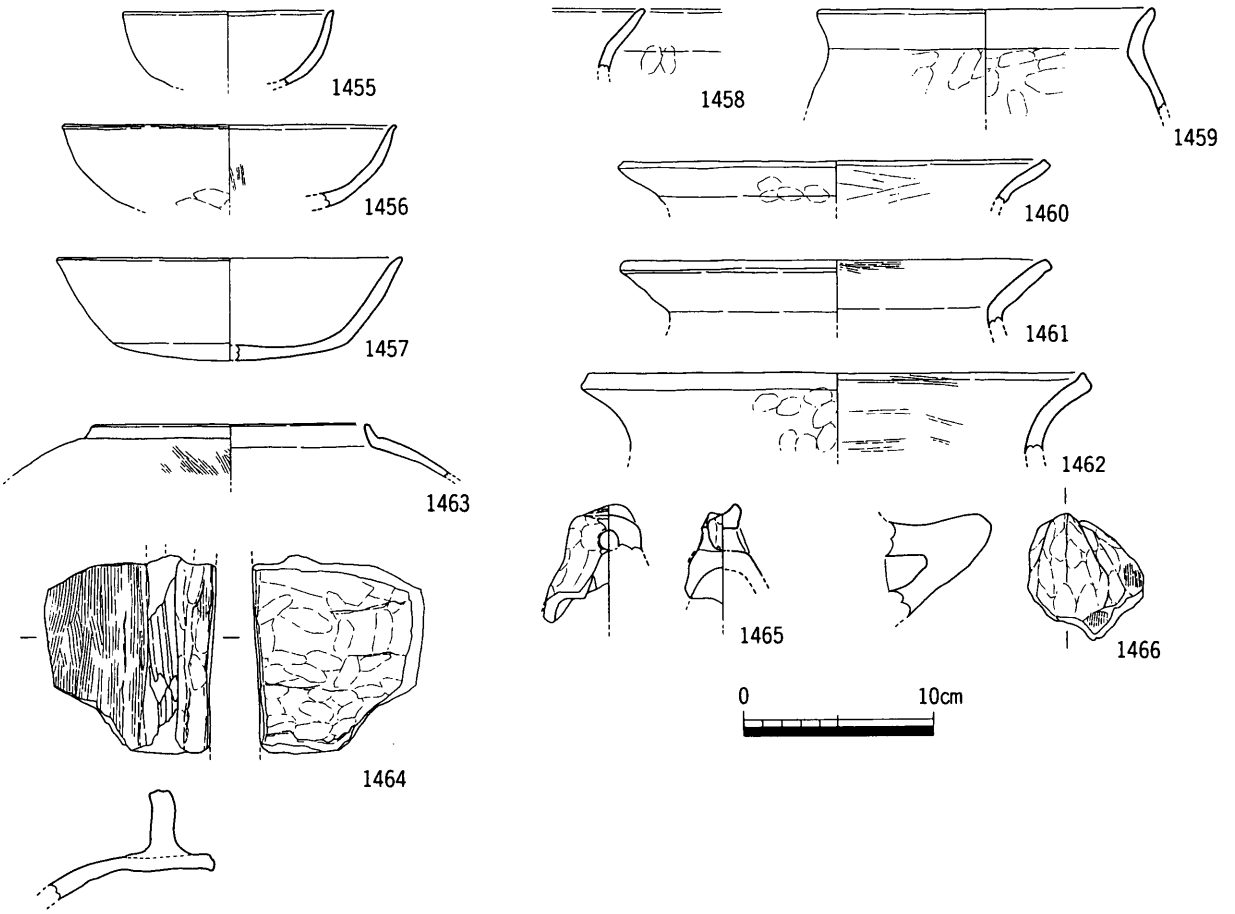
られる。1452は須恵器長頸壺である。肩部が屈曲し，稜を持つ。頸部は細く絞まり，口縁部は緩やかに開く。1453・1454は須恵器甕である。底部は丸底で，体部は卵状に丸く，口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は短く上方に摘み上げている。1453は胴部最大径がやや上位にあり，僅かに肩が張る。体部外面に格子目叩き痕が，内面に同心円状の当て具痕が認められる。1454もやや歪ではあるが胴部最大径は上位にあり，僅かに肩が張る。体部外面に平行叩き痕が，内面はなで消されてはいるものの同心円状の当て具痕が認められる。この２つの甕は口縁部形態もやや外反し，口縁端部を内方に摘み出すという特徴が似ており，同一工人の製作と考えられる。1455～1457は土師器坏である。1455・1456は体部は内彎し，口縁端部が小さく外反する。



第161図　ＳＤ41出土遺物実測図①

1457は底部が平底を呈し，体部がやや内彎気味に外上方に延び，口縁部が僅かに外反する。1458～1462は土師質甕である。口径で大・中・小の３タイプに分かれる。口縁部形態にはかなりのバリエーションが認められる。1463は土師質壺である。内彎する体部から口縁部がやや内傾気味に短く立ち上がる。体部外面に細かい刷毛目がみられる。1464は土師質竈である。1465は蛸壺である。1466は土師質甕体部に付く把手と考えられが，角状を呈していることから甕以外の把手の可能性も考えられる。

溝内より出土した遺物から７世紀前半の遺物と７世紀後半から８世紀初にかけての遺物が出土していることから，この溝が機能していた時期は２時期あると考えられる。このことは前述したＳＤ41の下層がＳＤ44であることを裏付けるものである。



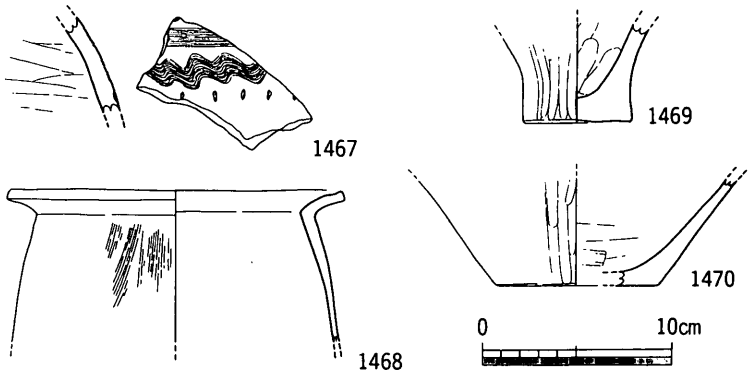
第162図　ＳＤ41出土遺物実測図②

ＳＤ42

ＳＤ42は調査区最南端で検出した溝で，第169図土層断面図及び検出状況からＳＤ41に北側を切られているために部分的に検出したのみである。この溝は後述するがＳＤ41のほぼ真下でＳＤ43を検出しており，そのＳＤ43の肩の可能性が考えられる。それは出土遺物からも言え，ほぼ同時期であることが確認できる。

溝内から弥生土器・サヌカイトが出土している(第163図1467～1470)。

1467は壺で，体部外面に櫛描沈線と波状文及び列点文が認められる。1468は甕で，「く」の字に屈曲する頸部から，あまり張らない体部となる。体部外面には刷毛目が施されている。1469・1470は底部である。しっかりした平底を呈し，体部外面にはやや太いヘラ磨きが施されている。



第163図　ＳＤ42出土遺物実測図

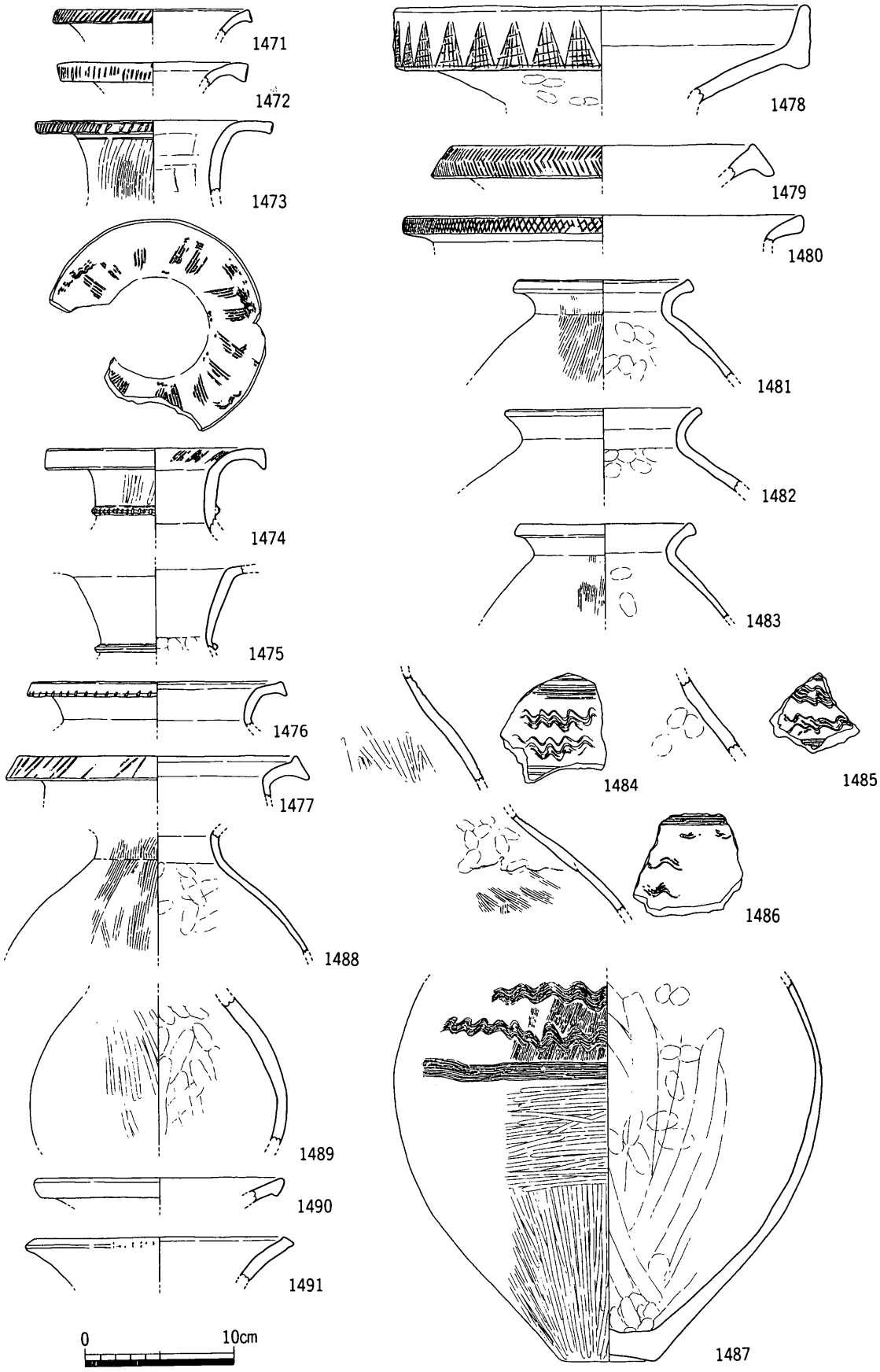
時期は出土遺物から弥生時代中期中葉である。

ＳＤ43

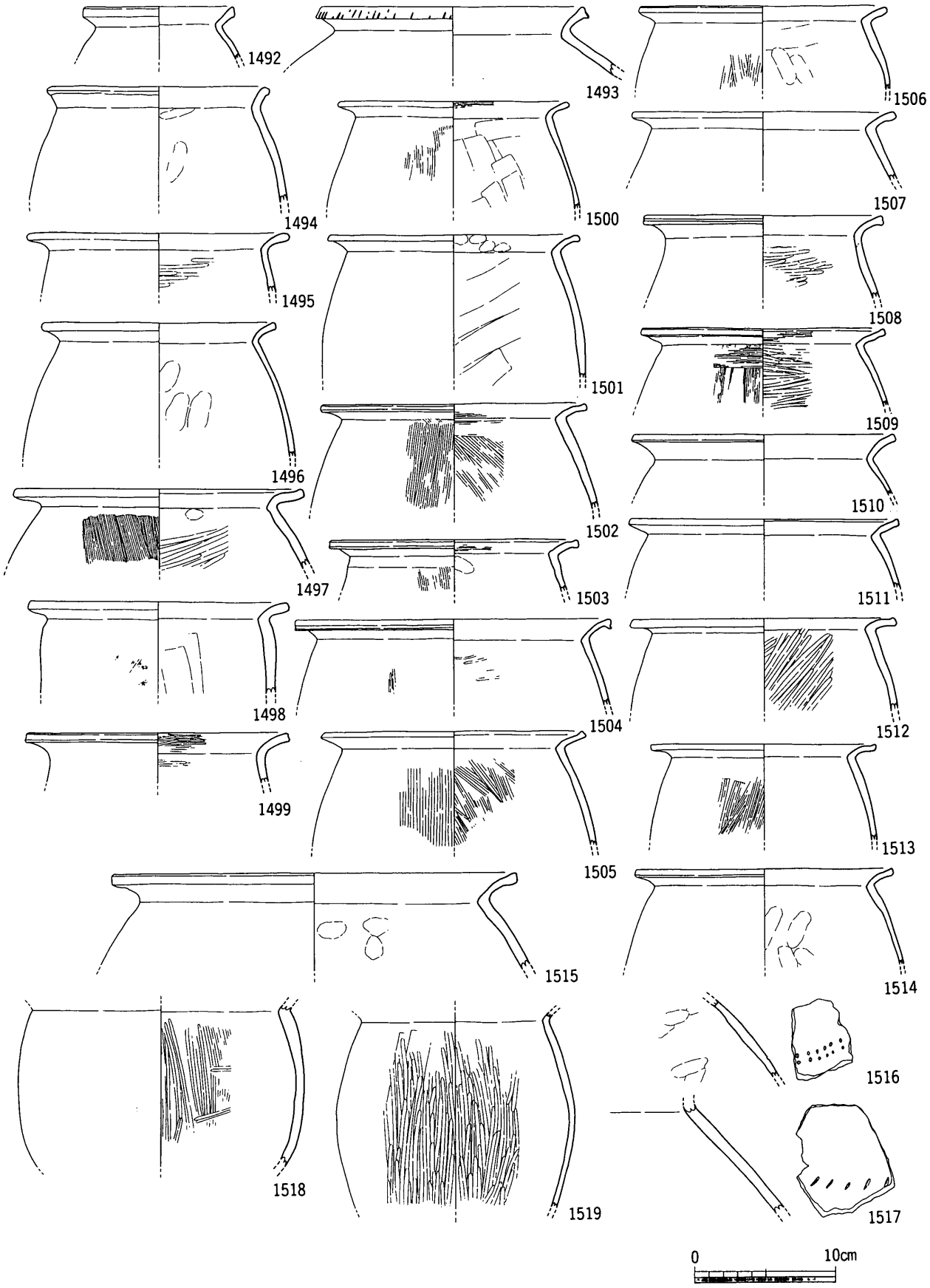
ＳＤ43は調査区最南端で検出した溝で，ほとんどＳＤ41及びＳＤ44が上部を流れているために検出面からの切り込みが確認できなかった。しかし，出土遺物の状況からＳＤ42の南肩がＳＤ43の肩と同一である可能性が考えられる。埋土は５㎜前後の砂粒を含む砂質土で構成されている。そのため出土した遺物にはかなり砂粒が付着し，器壁の調整が観づらい状況であった。

溝内から弥生土器・サヌカイトが多量に出土している（第164～168図1471～1563)。

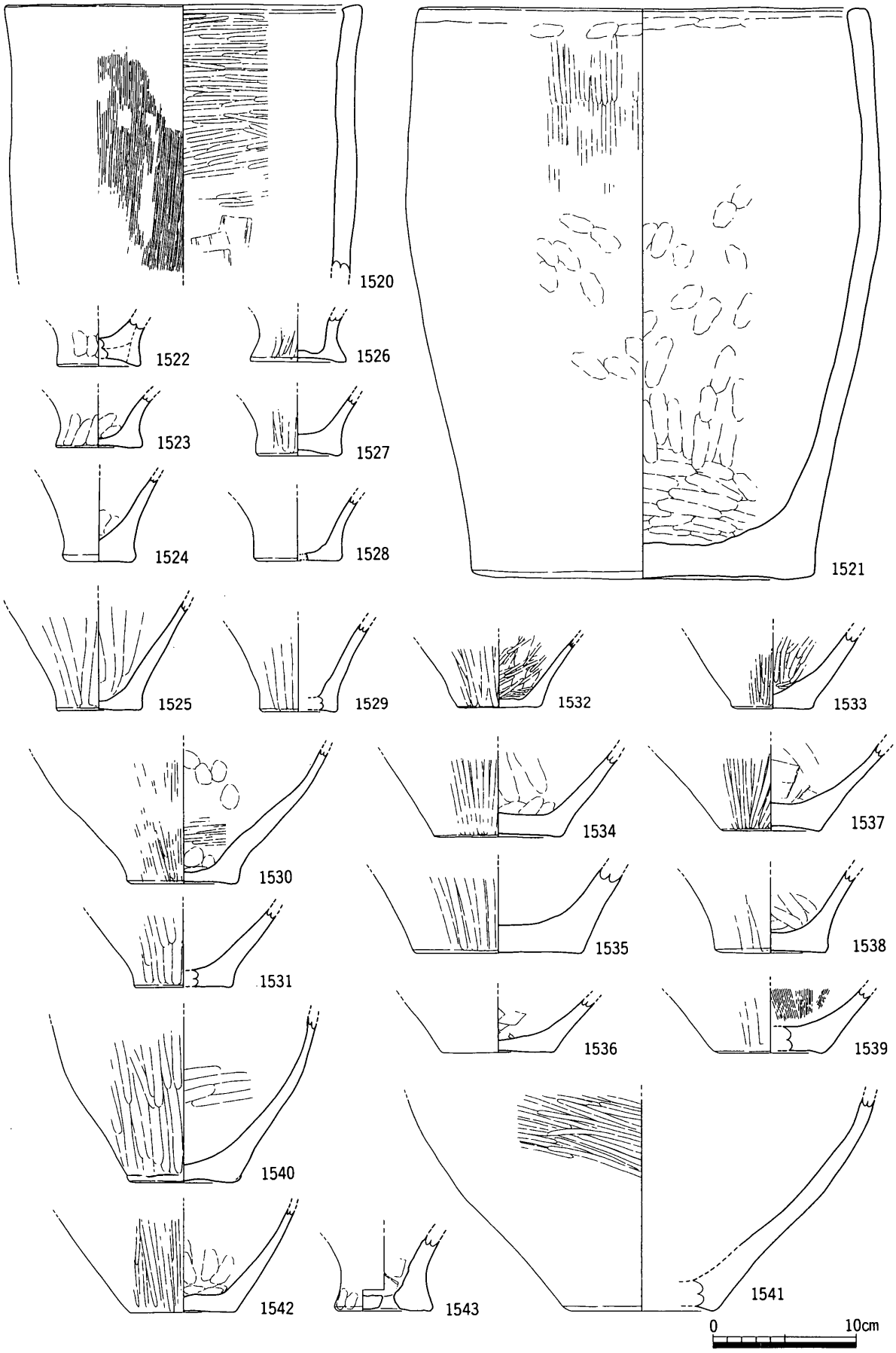
1471～1491は壺である。1471～1474は真っ直ぐ延びる頸部から口縁部がほぼ水平に延び，口縁端部をやや拡張する。拡張した口縁部外面には刻み目を施す。1474は頸部下端に刻み目凸帯を持ち，水平に開いた口縁部内面には櫛描波状文と縦方向の櫛描沈線が認められ，またその櫛描沈線の最下段には櫛先による刺突文が認められる。かなり加飾した土器で，時期決定のメルクマールになる。1475は頸部が直線的に外上方に延びるもので，口縁部は水平に広がる。頸部下端には断面三角形の凸帯を持つ。1476・1477は頸部が短く，口縁も短くほぼ水平に広がるもので口縁端部は拡張する。拡張した外面には刻み目が認められる。1488はその体部と思われ，あまり肩が張らず，なで肩になるものである。1478はかなり上方に拡張するもので，外面に鋸歯文を持つ。1479は口縁部を下方に拡張し，外面に綾杉文を施す。1480は口縁部をあまり拡張しないが，外面に格子状のヘラ描が施されている。1481は1476・1477と形態は同じであるが，口縁部外面に刻み目等の加飾のないものである。1482・1483は頸部が「く」の字に屈曲するもので，口縁端部を僅かな拡張でとどめるものである。1484～1487は体部外面に櫛描波状文及び櫛描沈線を持つものである。1487はやや上げ底状の底部から体部が卵形に延びるもので，体部最大径を境にして，上位は刷毛目ののち櫛描波状文及び櫛描沈線を施し，下半は横方向のヘラ磨きと縦方向のヘラ磨きが施されている。また内面は長い指なでが顕著に施されている。1490・1491は頸部が直線的に外上方に延びるもので，やや形態を異にしている。1492～1519は甕である。頸部を「く」の字に屈曲させ，口縁を短く外反させるもので，口縁端部の形態でかなり



第164図　ＳＤ43出土遺物実測図①



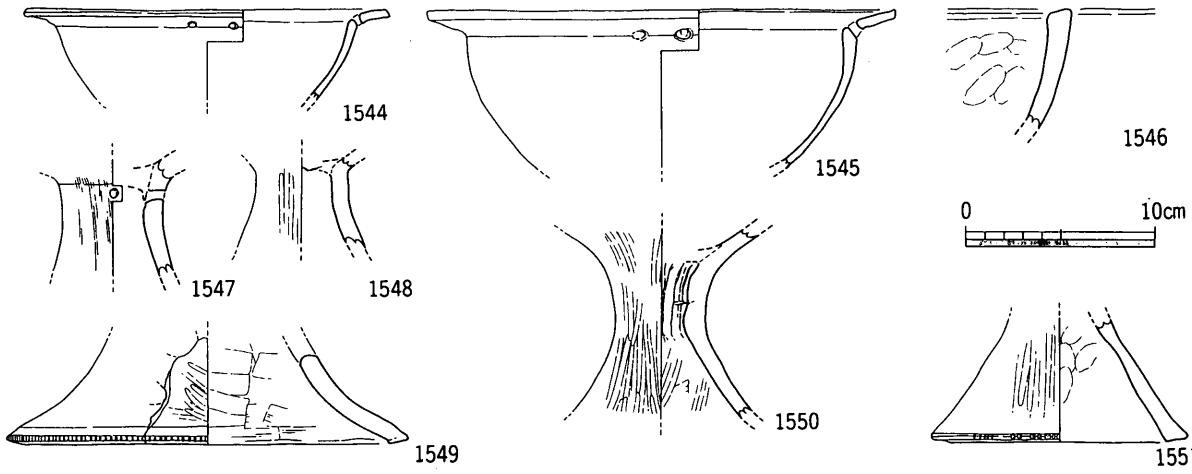
第165図　ＳＤ43出土遺物実測図②



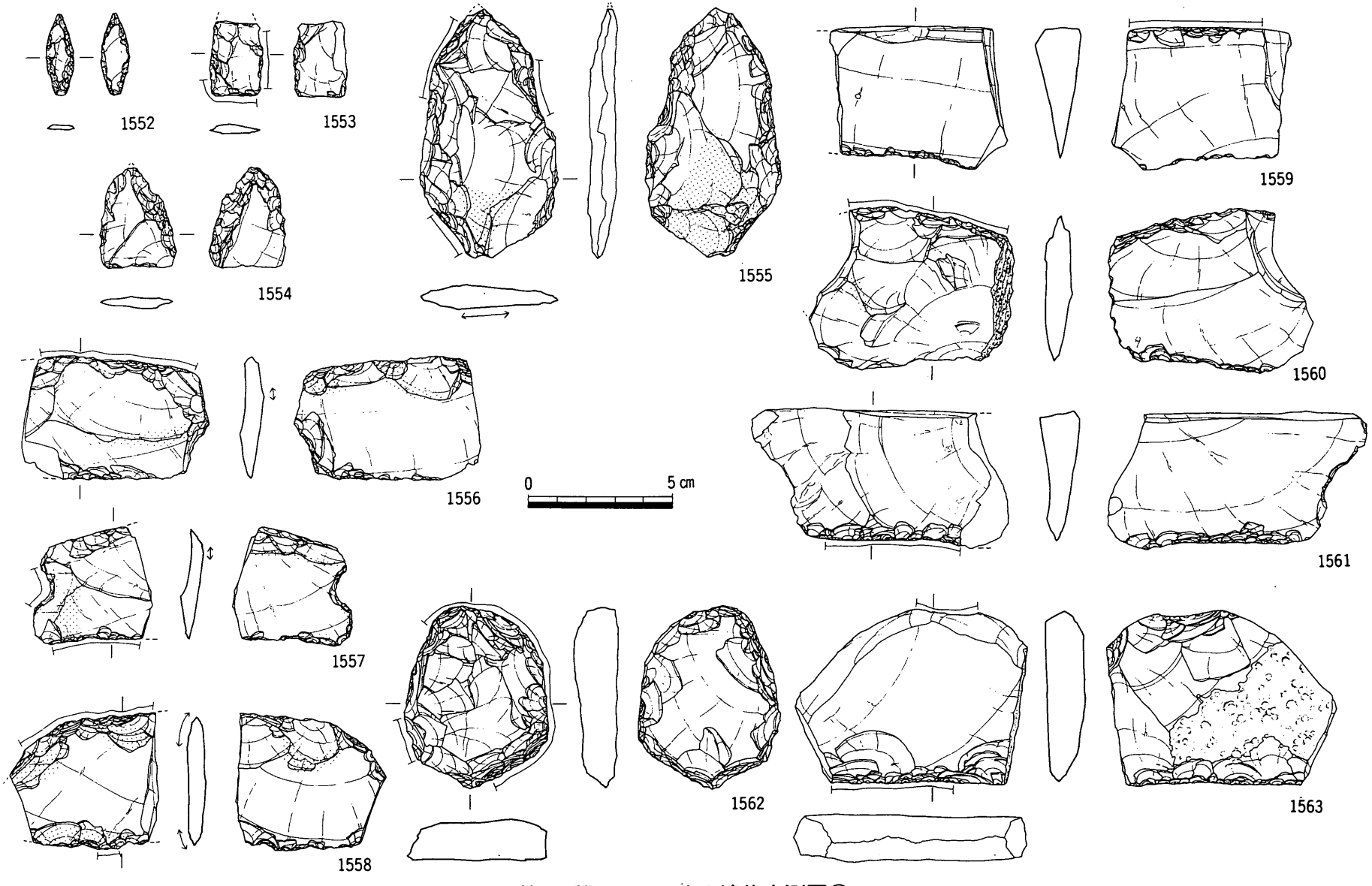
第166図　ＳＤ43出土遺物実測図③

のバリエーションが認められる。頸部屈曲部内面はほとんど明瞭な稜を持ち，体部はあまり肩が張らず下方に延びる。体部外面には篦先による刺突文が認められるものがあるが，そのほとんどは無文である。調整は刷毛目あるいはヘラ磨きを多用し，基本はなでである。内面にヘラ削りは認められない。1520・1521はバケツ状の土器で，大きな平底の底部から内彎気味の体部が上方に延び，口縁部はそのまま終わらせる。浴・長池遺跡等で出土しているジョッキ型土器の大型品の可能性がある。1520は体部外面に刷毛目が，内面に横方向のヘラ磨きが施され，1521は外面にヘラ磨きが施されている。この器形は香川県で類例をみない。1522～1542は底部である。全てしっかりした平底を持つもので，体部はやや上方に延びたのちに外方に延びるものと底部からそのまま外方に延びるものがある。体部外面にやや太いヘラ磨きが，内面にもヘラ磨きが施されているものがある。底部には1522のように底部成形がわかる資料があり，それをみると円盤状の粘土の側面に体部の粘土を貼りつけ，それを補強するために内側に粘土を貼りつけていることがわかる。1543は底部穿孔された甑である。1544・1445・1547～1551は高坏である。半球形を呈する坏部が口縁部でほぼ水平に屈曲するもので，ちょうど屈曲部に２個セットの穿孔が認められる。脚部は「ハ」の字状に広がり，脚端部には刻み目を持つ。1546は台付鉢の口縁部か。1547・1548・1550は円盤充塡の痕跡が確認できる。1549は脚部に透しが認められる。1552～1563はサヌカイト製の石製品である。1555は横広の石槍である。ＳＤ43からは多量のサヌカイトが出土しており，その多くは一部に調整を加えたもので，今回図化したものはその中で製品として認定できるものである。その他の出土したサヌカイトをみると楔形石器が非常に多くみられ，石庖丁・スクレイパー類はあまり出土していない。

時期は弥生時代中期中葉である。溝出土遺物ではあるがかなり一括性の高いもので，基準資料になるものと思われる。この時期のものは彼ノ宗遺跡，矢ノ塚遺跡，浴・長池遺跡で同時期の遺構が検出されている。



第167図　ＳＤ43出土遺物実測図④



第168図　ＳＤ43出土遺物実測図⑤

ＳＤ44

ＳＤ44は調査区最南端で検出した溝で，ＳＤ41に切られており，南側で瘤状に残るものである。ほぼ流路はＳＤ41と同じ流路を取っており，若干の時期差が切り合い関係になってあらわれたものと考える。埋土は茶灰色粘質土層を基本とする。したがってＳＤ41の部分でＳＤ41下層がＳＤ44の埋土と近似することから，ＳＤ41にＳＤ44の流路がある。二股に分流した部分での断面形態は緩やかなＵ型を呈し，規模は天幅約1.69mで，検出面からの深さは約0.25mを計る。

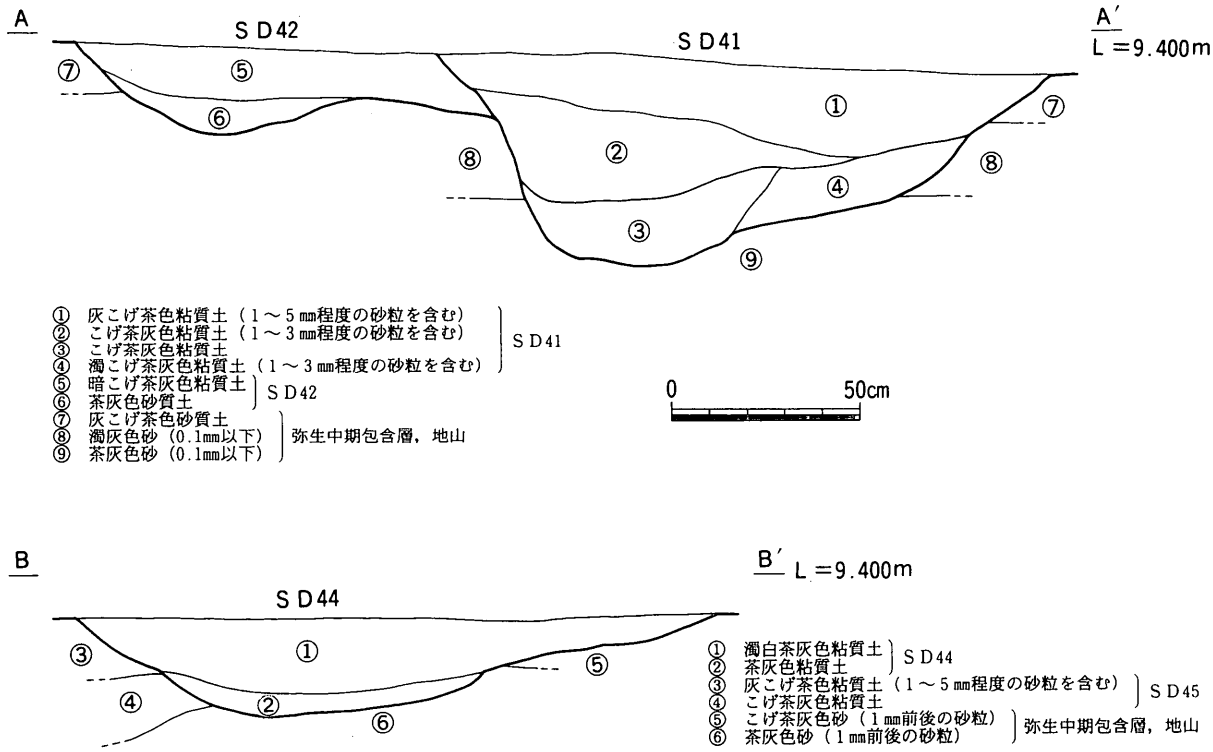
溝内から須恵器・土師質土器が出土している（第172図1564～1576）。

1564～1566は須恵器坏蓋で，やや口径が大きいものがある。1567・1568は須恵器坏身である。立ち上がりが短いことからかなり新相を呈し，1564の坏蓋とセットになるものと考える。1569・1570は須恵器高坏で，やや脚の長いものである。短い脚の高坏は認められない。1571・1572は須恵器瓿である。肩部の張りがややあるものとないものがある。1573は須恵器甕で，直行する口縁部を持つ。1574は土師器坏である。半球形状を呈する形態で，口縁端部をやや外反させる。1575は土師質甕で，1576は土師質竈である。体部は直線的に立ち上がり，下端部はヘラ削りにより面取りしている。体部外面には細かい刷毛目が，内面は板なでが施されている。

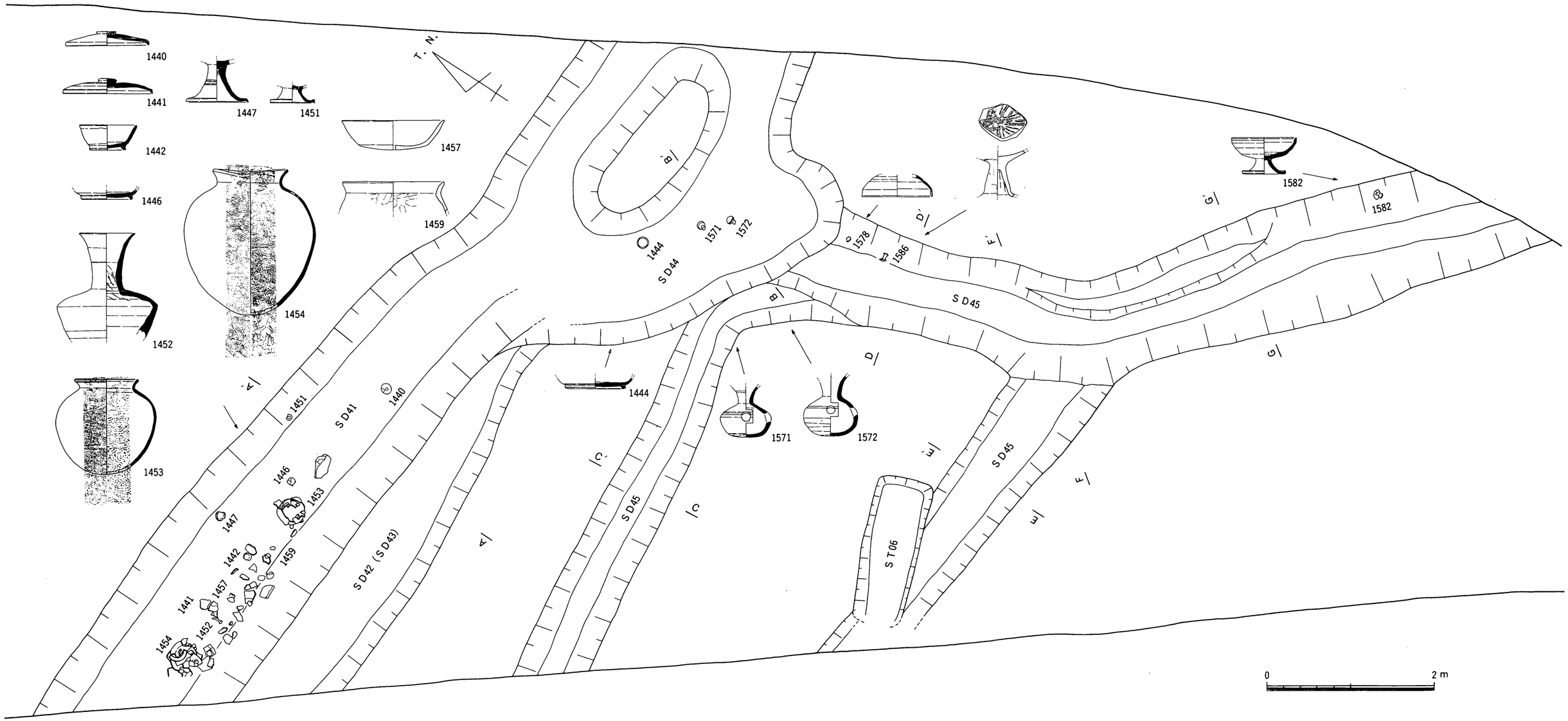
時期は７世紀初から前半である。

ＳＤ45

ＳＤ45は調査区最南端で検出した溝で，調査区南東部から西部に流路を取る。ＳＤ45北端ではＳＤ41とほぼ同じ流路を取っていたと思われる。つまり主要幹線水路はＳＤ45で，ＳＤ41とほぼ同じ流路を取り，西に屈曲し，西側において２本の溝が派生する。川底のレベルから判断すると水は南から北へ流れていたものと考えられ，東にあった流路から西の生産域に水を引き込む流路と考える。ＳＤ45は天幅約1.08m，検出面からの深さ約0.33mで，断面形態が緩やか

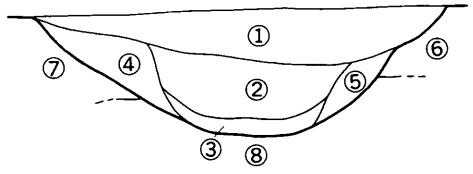


第169図　ＳＤ41・42・44土層断面図



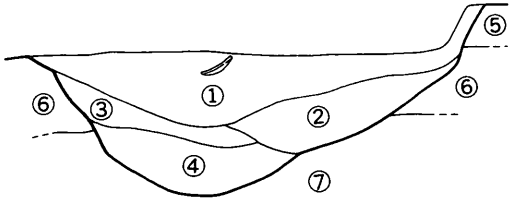
第170図　ＳＤ41～45遺物出土状況平面図

D　　D′ L＝9.500m



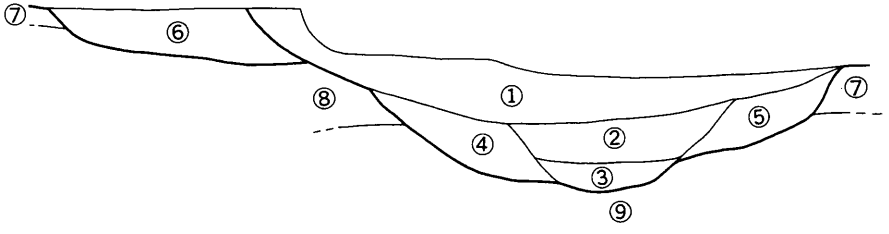
① 灰こげ茶色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を少量含む）
② こげ茶灰色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を少量含む）
③ 灰色砂質土
④ 灰こげ茶色粘質土（1～3㎜程度の砂粒を多量に含む）
⑤ こげ茶灰色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を多量に含む）
⑥ こげ茶灰色砂質土
⑦ 濁白灰こげ茶色砂質土　　地山
⑧ 濁茶白色砂質土（シルト質）

G　　G′ L＝9.500m



① こげ茶灰色粘質土（1～5㎜の砂粒を含む）
② 濁灰色粘質土（1㎜前後の砂粒を含む）
③ 茶灰色砂質土
④ 灰色砂質土
⑤ こげ茶灰色砂質土
⑥ 明茶白黄色砂質土（シルト質）　　地山
⑦ 濁こげ茶白色砂質土（シルト質）

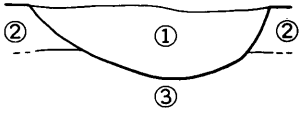
F　　F′ L＝9.500m



① 灰こげ茶色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を含む）
② 茶灰色粘質土
③ 灰色砂質土
④ 茶灰色粘質土（1～2㎜の砂粒を含む）
⑤ こげ茶灰色粘質土（1～4㎜の砂粒を含む）
⑥ 暗こげ茶灰色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を多量に含む）
⑦ こげ茶灰色砂質土
⑧ 明茶白黄色砂質土（シルト質）　　地山
⑨ 濁こげ茶白色砂質土（シルト質）

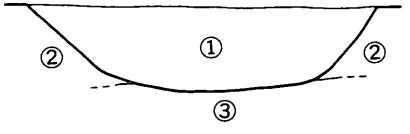
0　　50cm

C　　C′ L＝9.500m



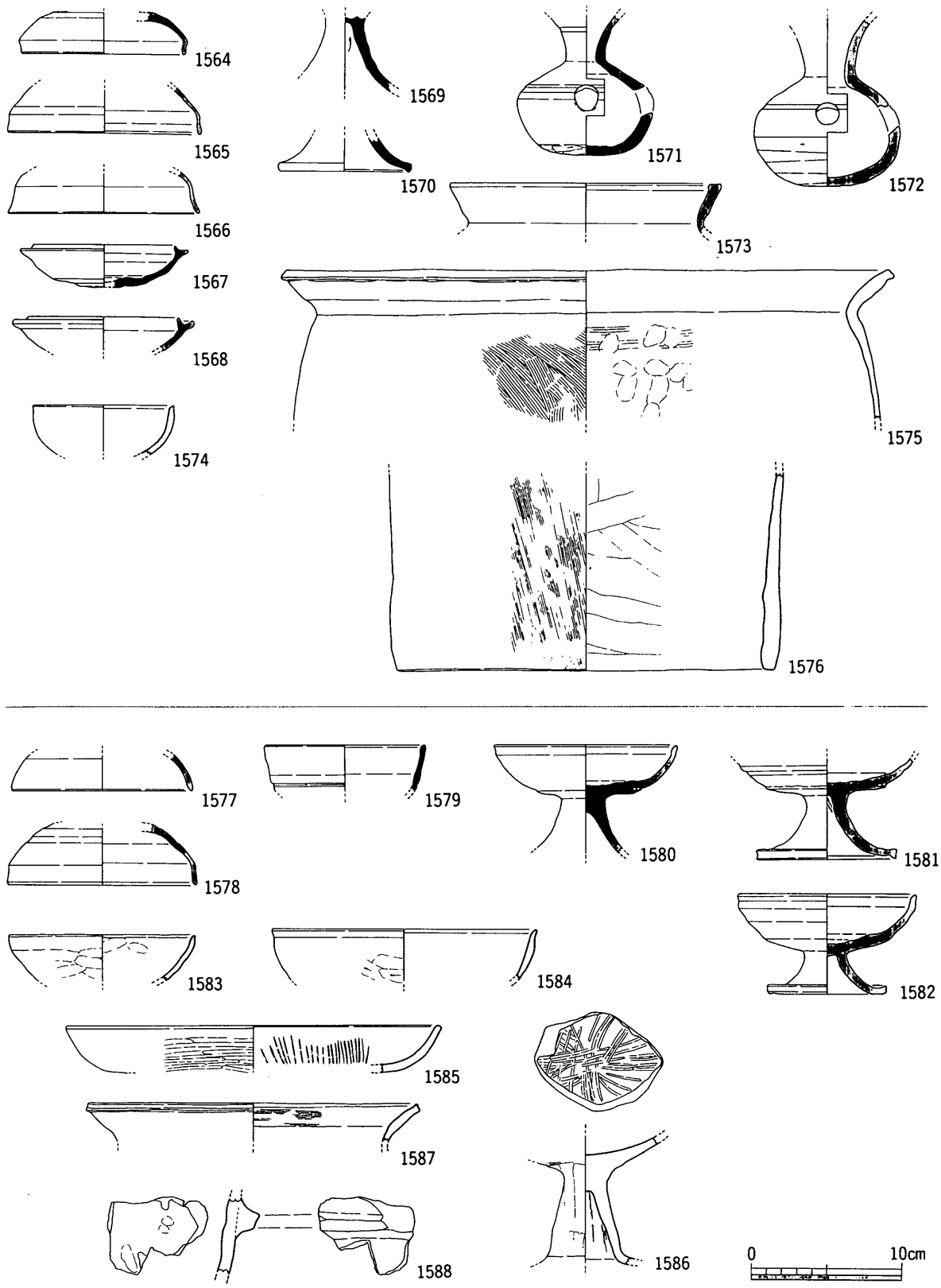
① 暗こげ茶灰色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を含む）
② こげ茶灰色砂質土（1～5㎜程度の砂粒を含む）
③ こげ茶灰色砂（1㎜以下の砂粒）

E　　E′ L＝9.500m



① 暗こげ茶灰色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を多量に含む）
② 濁白灰こげ茶色砂質土
③ 暗茶黄色砂質土（シルト質）　　地山

第171図　ＳＤ45土層断面図



第172図　ＳＤ44・45出土遺物実測図

なU型を呈する溝である。ＳＤ45の最深部と派生した２本の流路とは約0.3mの高低差がある。近接して同時期の遺構が存在しないことから生産域（水田など）への引き込み溝と考えられる。流路方向は南東部から西方向に流路（N－34°－W）を取っており，北部でほぼ西方向に屈曲する。

溝内から須恵器・土師器・土師質土器が出土している（第172図1577～1588）。

1577・1578は須恵器坏蓋である。1579～1582は須恵器高坏である。1579は坏部下端に１条の沈線がみられやや古手の様相を留める。1583・1584は土師器坏である。1585は土師器皿である。体部外面は横方向のヘラ磨きが，内面には放射状のヘラ磨きが施されている。1586は土師器高坏である。坏部見込み部に縦横方向からのヘラ磨きが施されている。1587は土師質甕である。1588は土師質竈である。外面にタガ状の凸帯がみられる。

時期は出土遺物から７世紀前半と考えられる。

ＳＤ45とＳＤ41・44は遺構の検出状況から切り合いがあり，ＳＤ41が新しいことが判明している。また，遺物の面からもＳＤ41が７世紀後半から８世紀初まで機能していた溝であることが判っている。したがって７世紀前半に主要幹線水路としてのＳＤ41の旧流路及びＳＤ45があり，西方に支流が延びていたものが，若干の時期をおいてＳＤ44の旧流路としてほぼ東西方向に流路が変わり，７世紀後半から８世紀初にかけての時期に更に流路を変え，ほぼ東西方向のＳＤ41になったと考えられる。

６．不明遺構

ＳＸ01

ＳＸ01は調査区中央部で検出された遺構である。西側が調査区外に延び，全容は不明であるが，調査区内では半円形状を呈する凹み（池）状遺構である。周囲にＳＤ25が伴い，この遺構が何らかの施設であった可能性が考えられる。また，ＳＤ25が掘削される以前にはＳＸ01の東部でＳＤ11と繋がっており，明らかにＳＤ11が排水に使用されていたと考えられる。埋土は緩やかなレンズ状を呈するもので，中央部は水平堆積が確認できる。調査当初水田の可能性があることもあり，トレンチを南北に入れ，土層確認を行った。その結果，検出面からの深さは約0.50mを計り，その下層ではＳＤ23（第174図Ｂ－Ｂ′⑮・⑯）・24（第174図Ｂ－Ｂ′⑧）の埋土を検出した。ＳＸ01そのものの埋土は，あまり深くないことが確認でき，土層は灰色粘質土層と灰茶色粘質土層を基本とし，この２層がほぼ交互にあることが確認された。灰色粘質土は水田耕土層と考えられ，第174図Ｂ－Ｂ′①・③・⑤層がこれに当たる。また，灰茶色粘質土層は床土と考えられ，鉄分の沈着とややマンガン粒を含んでおり，第174図Ｂ－Ｂ′②・④・⑥層がそれに当たる。この土層断面から水田面が３面確認されたが，土層断面に畦畔の痕跡は確認できず，また，⑤層途中と⑥層上面で畦畔の確認を平面的に行ったが畦畔等の確認はできなかった。そのためここでは，性格不明遺構として扱った。しかし，ＳＤ11の排水溝と思われる溝が東部で確認されていることから区画を持たない水田の可能性は大きい。

土層は大別して７層まで確認できた。

出土遺物は各層で出土している。取り上げは土層堆積状況から１～５層はほぼ同様なものと判断して一括で取り上げたが，部分的に第１層と第５層については各層で取り上げている。第５層以下は各層ごとに掘削し，遺物を取り上げている。

以下各層ごとに説明する。

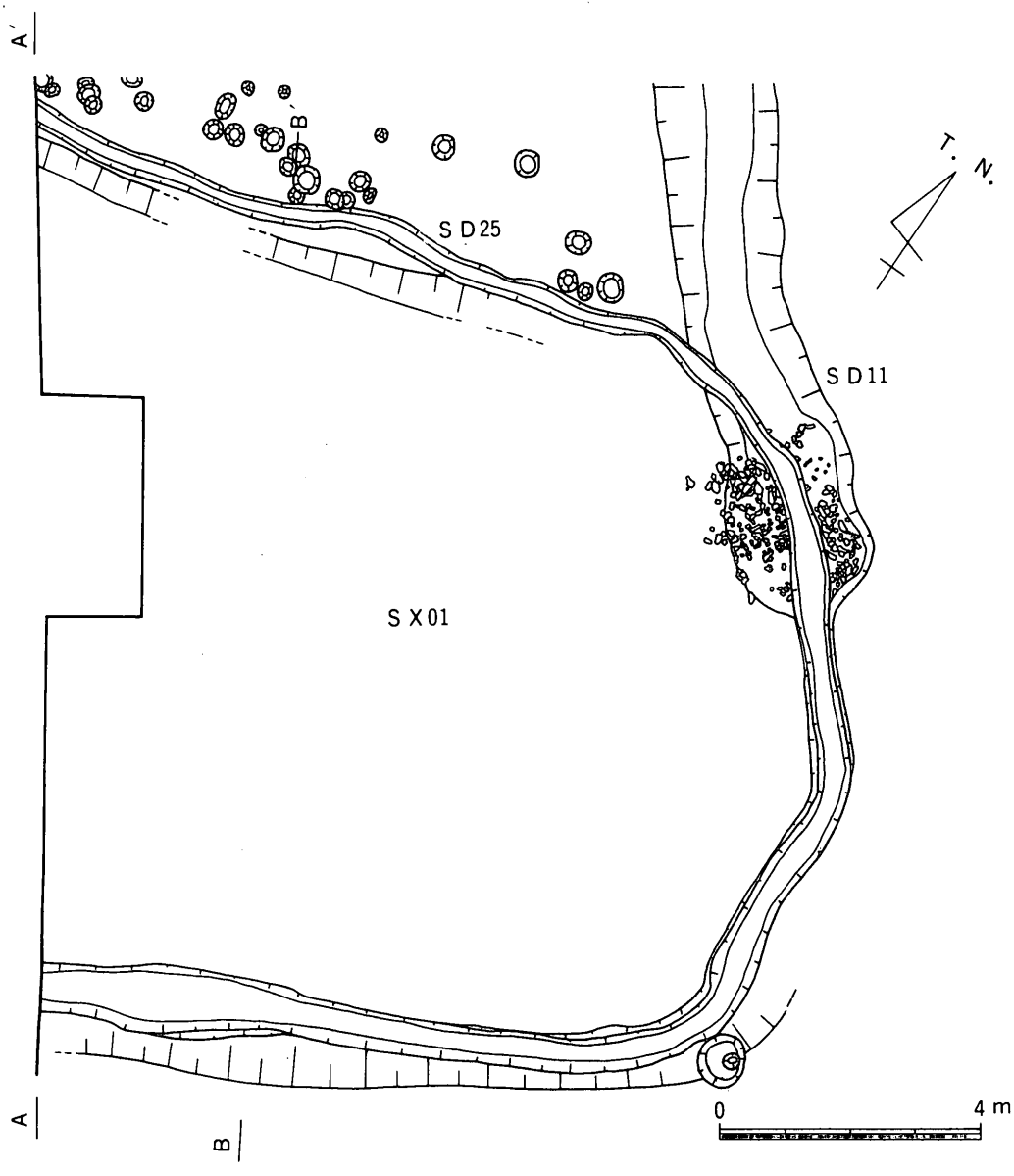
1589～1594は第１層出土遺物で，須恵器・土師器が出土している（第175図）。

1589は土師器皿で，口縁端部を内面に折り曲げ，沈線を持つ。1590は瓦質皿である。1591は土師質甕，1592～1594は須恵器高台付坏である。高台がやや外方に踏張るもので，７世紀末から８世紀前半頃のものである。

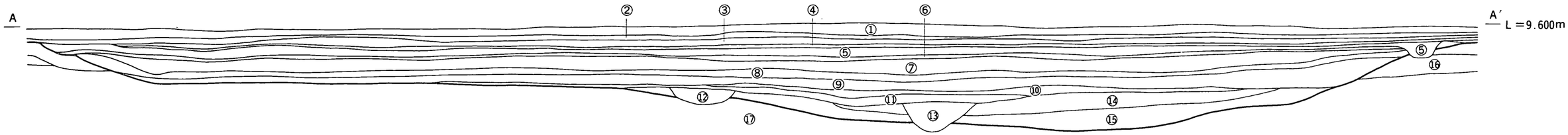
1595～1626は第１～５層を一括で取り上げた遺物で，須恵器・土師器・土師質土器・サヌカイト製品等が出土している（第175・176図）。

土師器は1595・1596などの７～８世紀頃のものもみられるが，1599・1600の土師器円盤状高台椀・黒色土器Ａ類椀のように10世紀段階のものも含まれる。須恵器も７・８世紀段階のものもみられるが，1608～1610の須恵器坏・須恵器壺底部のように10世紀段階のものも含む。サヌカイト製品には石鏃・石鎌・石匙・ラウンドスクレイパー・楔形石器などがあり，1626は砂岩製の凹石である。1602は不明土製品である。断面楕円形で，指状を呈するものである。

したがって第１～５層の時期は10世紀頃とする。

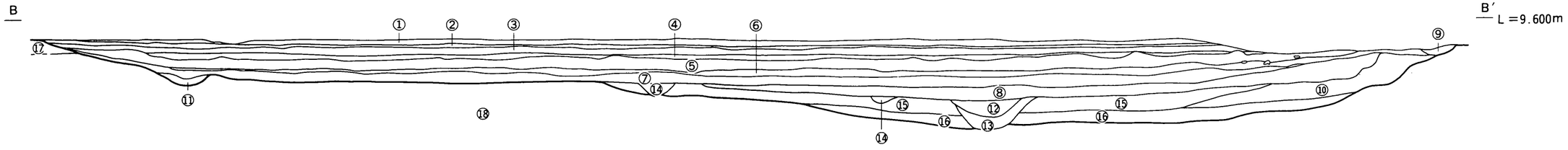


第173図　ＳＸ01平面図



① 耕作土
② 床土
③ 灰色粘質土（こげ茶色粒を少量含む）
④ 灰茶色粘質土
⑤ 灰色粘質土（こげ茶褐色粒を含む，１mm以下の砂粒を含む）
⑥ ④とほぼ同じ（やや淡い，１mm以下の砂粒を含む）
⑦ 灰色粘質土
⑧ 灰黄茶色粘質土
⑨ こげ茶灰色粘質土
⑩ 茶灰色砂質土
⑪ 暗茶灰色粘質土（明茶黄色粘質土のブロックを含む）
⑫ 暗茶灰色粘質土
⑬ 灰黒色粘質土
⑭ 暗黄白色粘質土 ｝弥生中期包含層
⑮ 濁黄白色砂質土
⑯ 明茶黄色粘質土（地山）
⑰ 濁茶白色粘質土（地山）

0　2 m



① 灰色粘質土（こげ茶色粒を少量含む）
② 灰茶色粘質土
③ 灰色粘質土（こげ茶褐色粒を含む，１mm以下の砂粒を含む）
④ ②とほぼ同じ（やや淡い，１mm以下の砂粒を含む）
⑤ 灰色粘質土
⑥ 灰黄茶色粘質土
⑦ こげ茶灰色粘質土
⑧ 茶灰色砂質土
⑨ 淡白茶灰色砂質土
⑩ 暗茶灰色粘質土（明茶黄色粘質土のブロックを含む）
⑪ ⑦とほぼ同じ
⑫ 暗灰色粘砂土
⑬ 灰黒色粘質土
⑭ 暗茶灰色粘質土
⑮ 暗黄白色粘質土 ｝弥生中期包含層
⑯ 濁黄白色砂質土
⑰ 明茶黄色粘質土 ｝地山
⑱ 濁茶白色粘質土

第174図　ＳＸ01土層断面図

1627～1649は第５層出土遺物で，土師器・須恵器・サヌカイト製品などが出土している（第177図）。

1628・1629は土師器円盤状高台椀で，底部はヘラ切りされている。1630～1633は土師器坏で，底部はヘラ切りされている。1638は須恵器皿，1639～1641は須恵器坏である。皿・坏・椀をみると10世紀段階のもので，1627・1642などの８世紀段階のものも含まれるが少量である。土師質甕（1635・1636）も頸部下端に鍔の付くもので，やはり10世紀のものである。1637は越州窯系青磁の鉢と思われる。1645は須恵器円面硯である。小片であるが，脚部上端に断面三角形状の凸帯が付き，脚部に断面長方形の透かしを持つ。

第５層は８世紀の遺物も少量含まれるが，10世紀頃を主とする時期である。

1650～1663は第６層出土遺物で，土師器・須恵器・石製品などが出土している（第177図）。

1650～1655は土師器で，1650・1652は回転台土師器である。1656～1662は須恵器である。

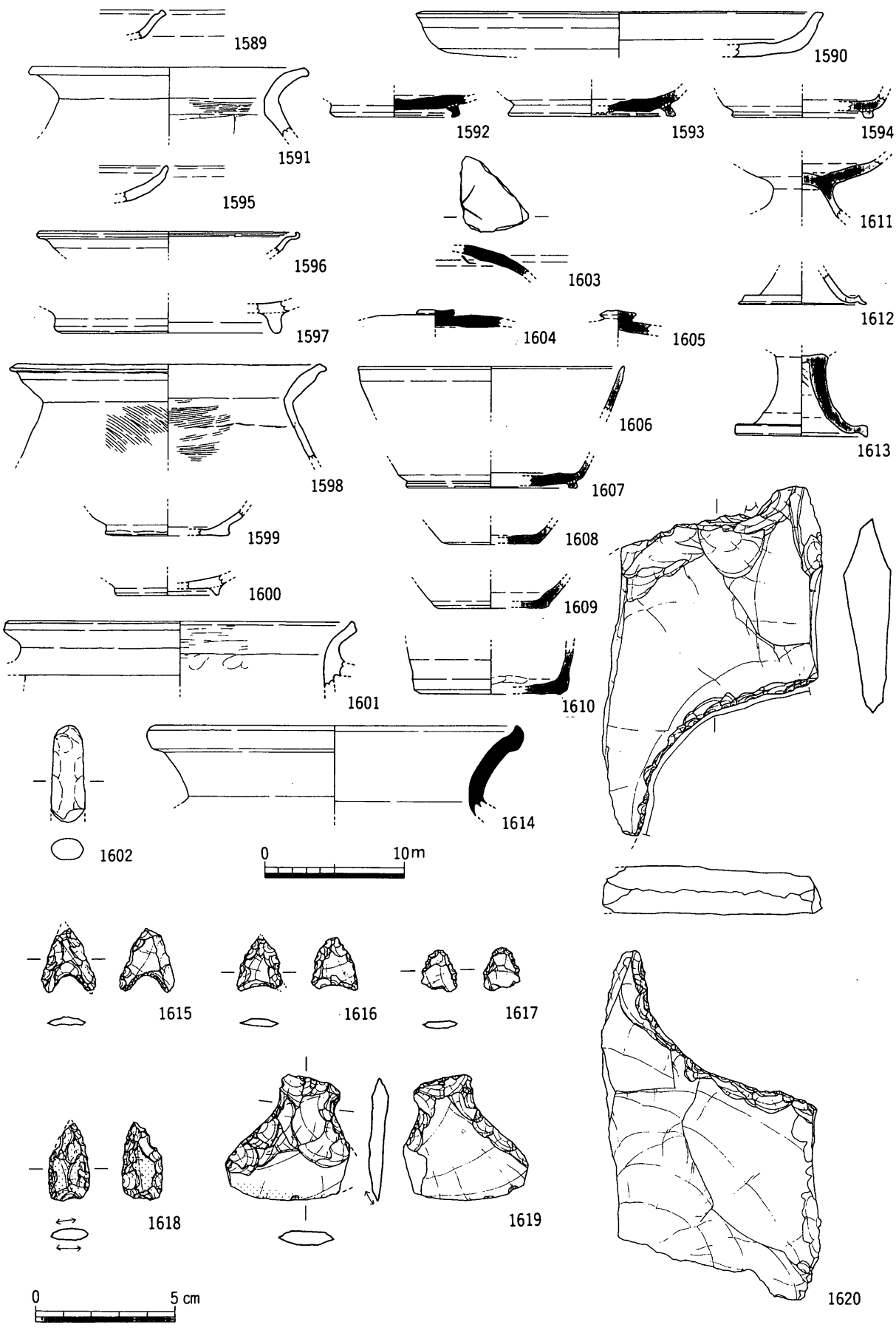
第６層は８世紀の須恵器も含まれるが，９世紀頃を主とする時期である。

1664～1760は第７層出土遺物で，土師器・須恵器・石製品などが出土している（第178～180図）。

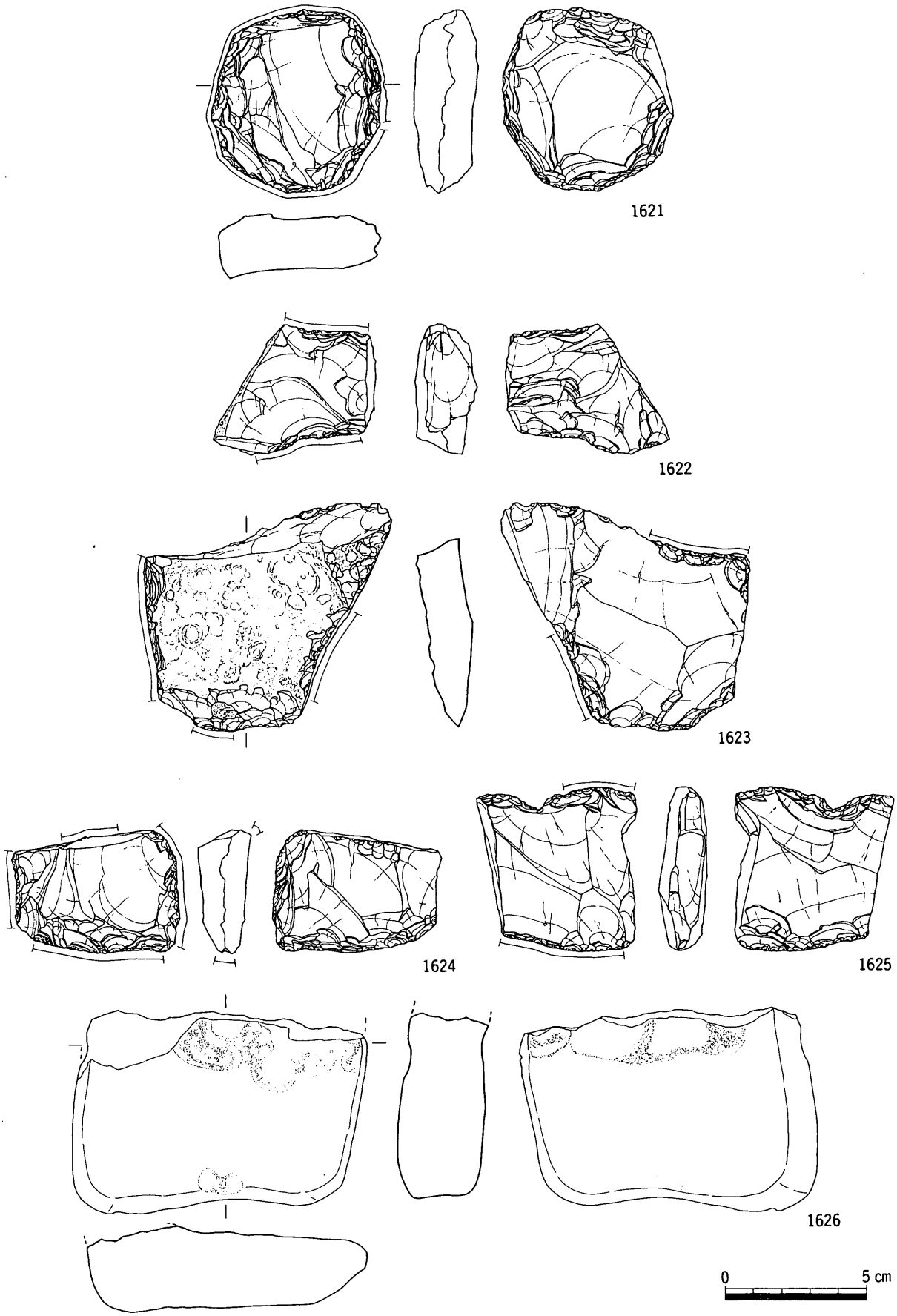
1664～1679は土師器坏である。半球形状の形態を持つもので，体部内面に放射状のヘラ磨きが施されている。1668は口縁端部内面に沈線を持つもので，断面箱型を呈する坏の口縁端部の形状に類似する。1672～1678は箱型を呈する坏で，口縁端部内面に沈線を持つ。1682～1686は７世紀代の土師器である。1686は土師器短頸壺で，口縁端部外面に断面方形状の凸帯が付く。全面赤色塗彩されている。1687～1692は回転台土師器である。８世紀前半のものである。1693～1695は９世紀以降の回転台土師器である。1696～1699は土師質甕である。口径の大きい甕で，体部外面に1698・1699の様な把手が付くものと思われる。1700・1701は土師質鍋である。口縁端部の形状に２形態認められる。1702・1703は土師質甑である。1704～1716は須恵器坏蓋である。1704・1705の天井部から内彎しながら体部が延び，口縁部をやや外反させるものと1706～1708の器高が低く，口縁部内面に返りを持つもの，1709～1716の天井部に扁平なつまみを持ち，口縁部を下方に屈曲させるものの３形態が確認できる。1717～1734は須恵器坏身で，坏蓋の３形態に対応する須恵器坏身が確認できる。1723～1726は坏蓋を伴わないもので，1723・1724は９世紀後半頃のもので，1725・1726は８世紀後半頃のものである。1735・1736は須恵器皿である。1737は須恵器高坏である。1738～1740は須恵器平瓶である。1741は高台付壺である。1742は壺である。1743～1747は須恵器甕である。1749は製塩土器である。1750～1760はサヌカイト製の石製品で，石鏃・石錐・スクレイパー・石庖丁・打製石斧・敲き石・楔形石器などが出土している。

第７層は若干９世紀頃の遺物を含むが，そのほとんどは７～８世紀のもので，ここでは９世紀の遺物を混ざり込みとして８世紀を中心とする時期としたい。

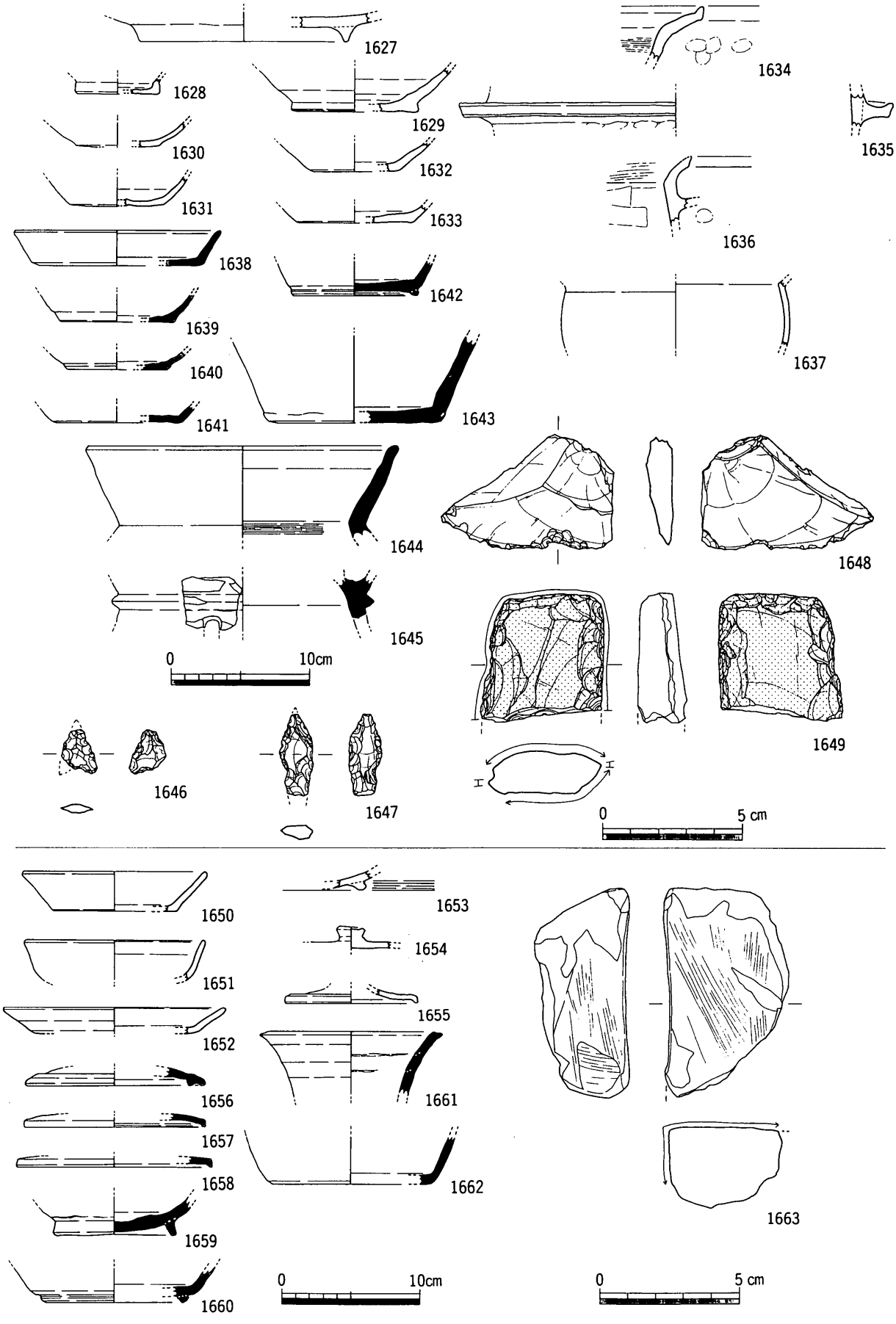
以上各層ごとに出土遺物をみてきたが，ＳＸ01は概ね８～10世紀頃に機能していたことがわかった。



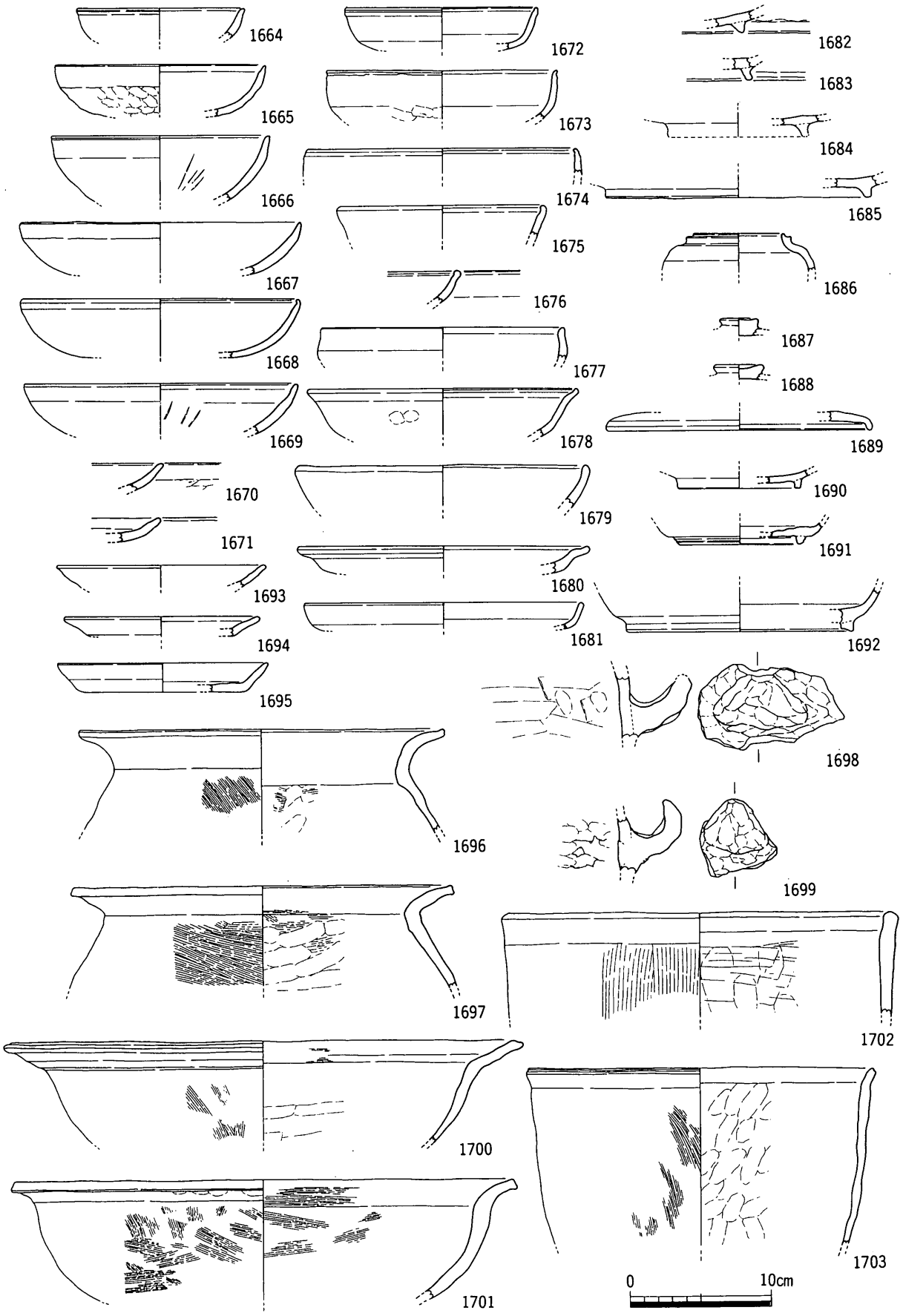
第175図　ＳＸ01第１層・第１～５層出土遺物実測図①



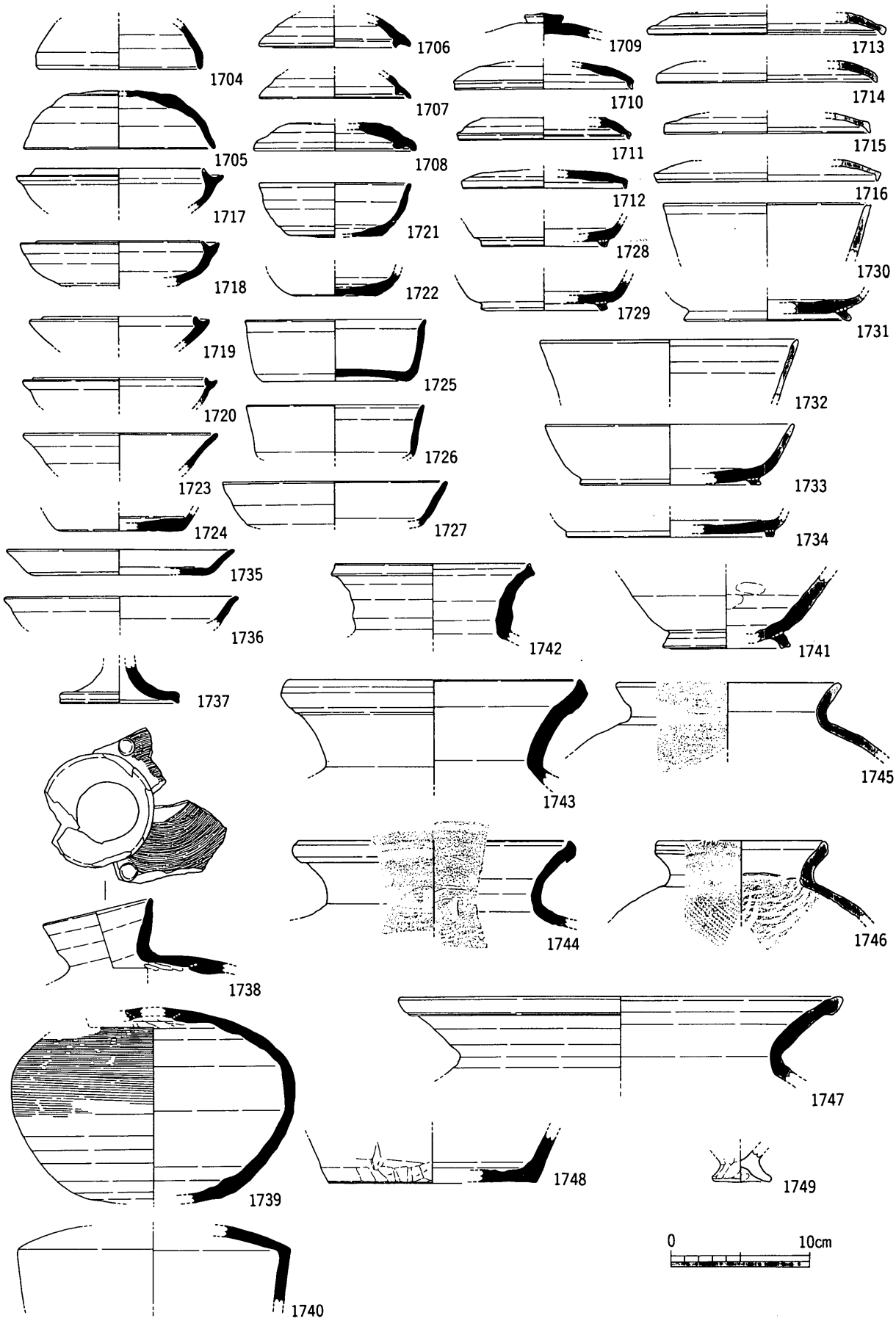
第176図　ＳＸ01第１～５層出土遺物実測図②



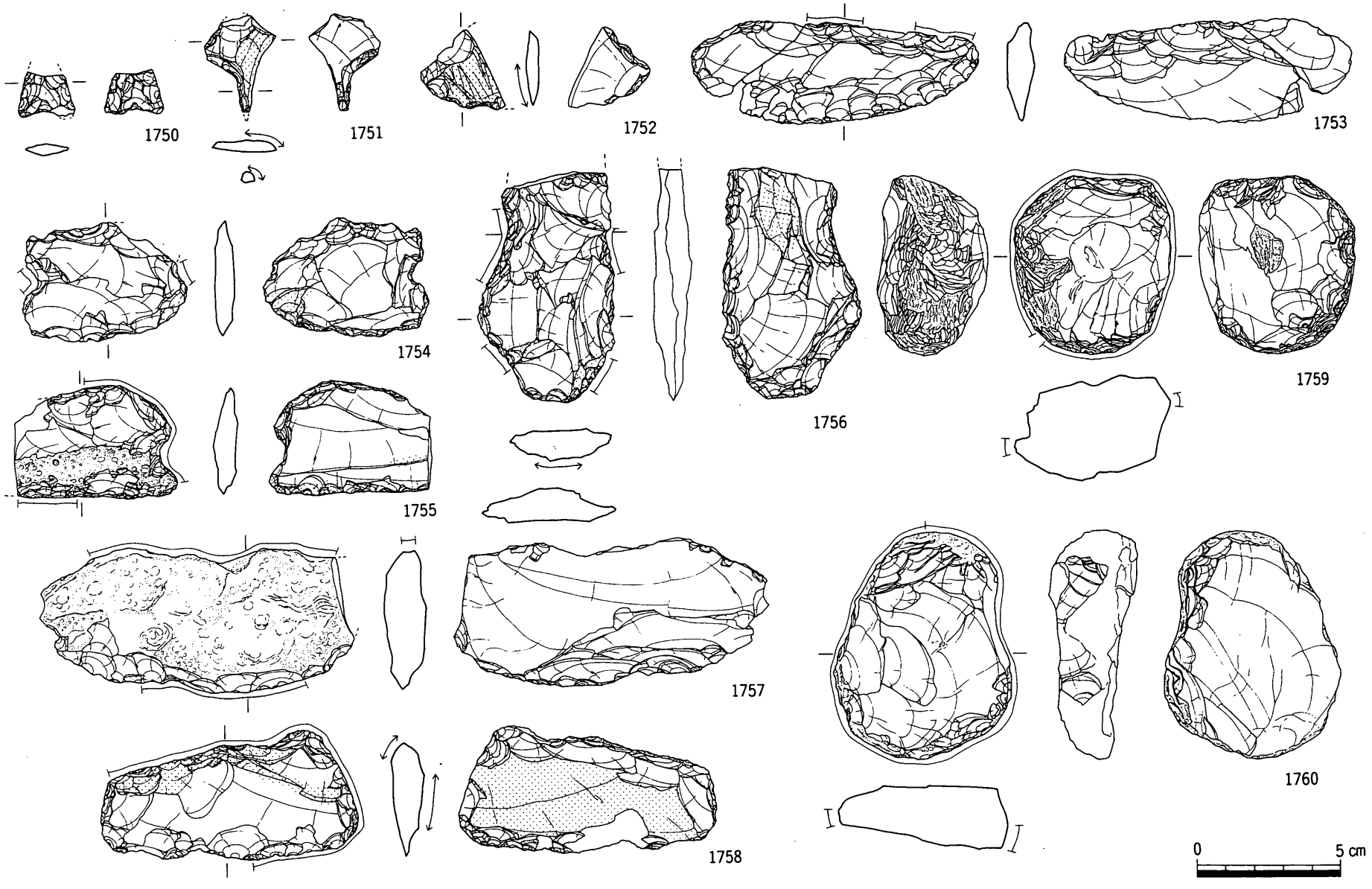
第177図　ＳＸ01第５層・第６層出土遺物実測図



第178図　ＳＸ01第７層出土遺物実測図①



第179図　ＳＸ01第７層出土遺物実測図②



第180図　ＳＸ01第７層出土遺物実測図③

7．畦畔状遺構

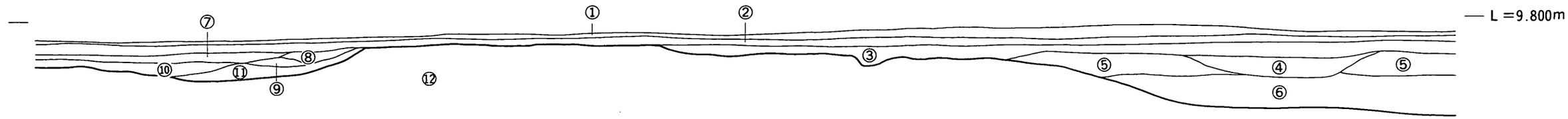
調査区南部で畦畔状遺構を検出した。調査区が狭いため検出長は約6.0mで，ほぼ調査区を横切るように検出している。

この畦畔状遺構は四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が行われた川津一ノ又遺跡Ⅲ区南端及び川津一ノ又遺跡Ⅳ区で検出されているものに類似している。この川津一ノ又遺跡南端部で検出された大畦畔は天幅4.00mを計り，「飯野山の山裾と一ノ又遺跡の微高地部分の間が最も狭い場所に位置していることから，隣接集落へ続く道」であった可能性を担当者は指摘している。この調査区南西部で検出した畦畔は川津一ノ又遺跡Ⅳ区の南部から調査区東に延びていることが確認されている。当調査区は川津一ノ又遺跡Ⅳ区の東部分に最大幅70mあけて隣接している。ちょうど当遺跡で検出された畦畔状遺構は川津一ノ又遺跡Ⅳ区で検出されている大畦畔をそのまま延長した部分で検出されていることから，同じ畦畔であると推測する。この畦畔状遺構の検討については集落の中心部と思われる部分である川津一ノ又遺跡Ⅳ区の考察に譲るとして，ここでは客観的な事実報告に止めたい。

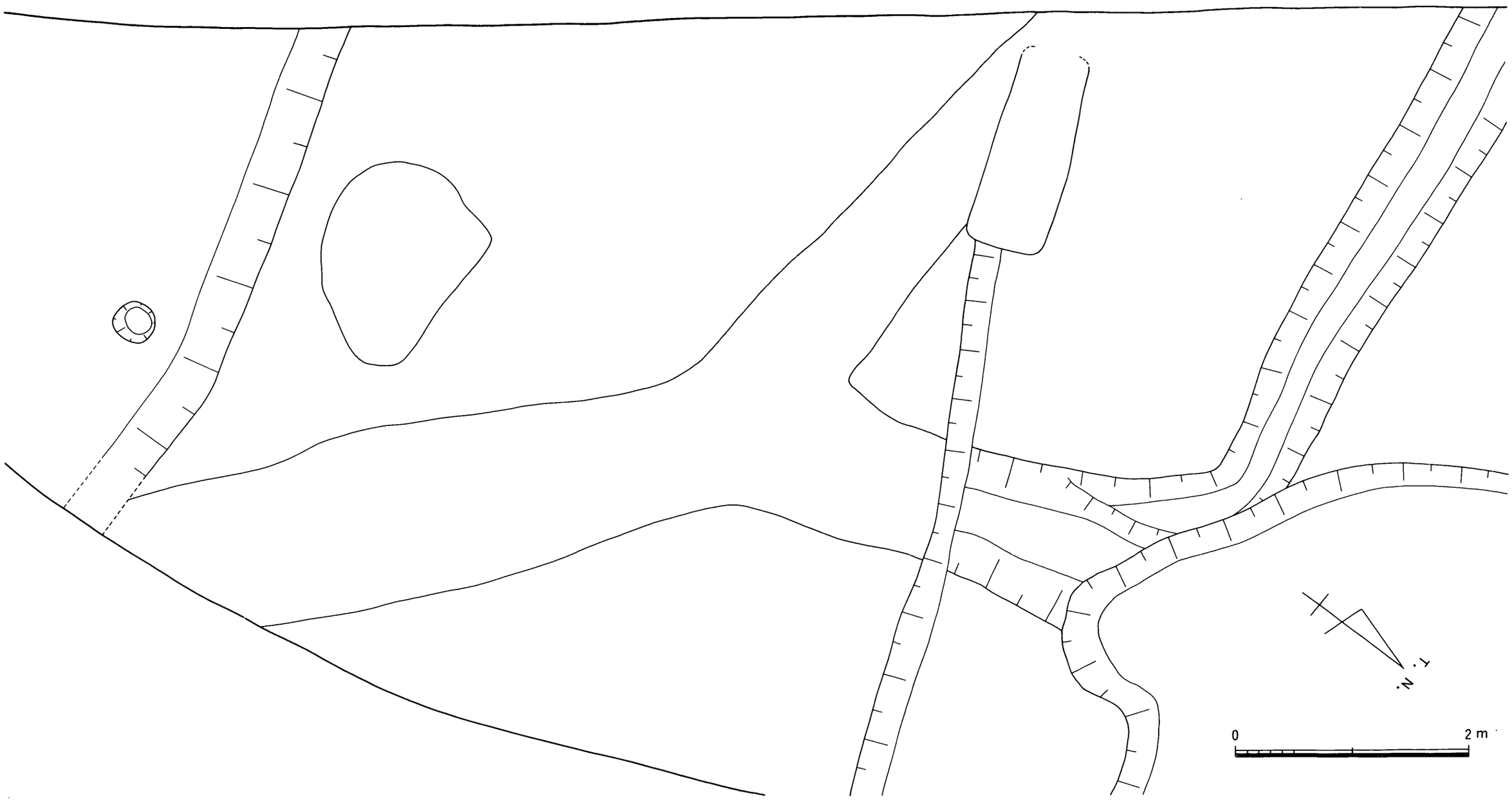
調査区内での規模は，天幅6.10m，高さ0.20mを計る。耕作土・床土・暗灰色粘砂(シルト)層直下で検出されていることもあり，かなり削平を受けているものと思われ，残存状況は悪い。第181図土層断面によると畦畔部分は地山（白黄色粘質土層）削り出しで，成形されている。南側の堆積土は濁茶灰色砂質土層⑦から茶灰色砂層⑪までの砂質土を基本とした土層が確認された。北側では暗白色砂層・濁茶白色砂層が堆積している。この土層から畦畔状遺構が，砂かぶりの状態であることがわかり，上面は削平されているものの畦畔基部は良好な状態で残っているものと考える。

畦畔状遺構を平面的にみるとＳＤ45によって切られていることがわかる。そのことは土層でも確認でき，ＳＤ45の切り込み面が畦畔状遺構を覆う土層（第181図⑤）の上層であることでも確認できる。

したがってこの畦畔状遺構の時期は上限は不明であるが，下限は７世紀前半のＳＤ45が切っていることから，ＳＤ45より古いことがわかる。



① 耕作土
② 灰茶色粘質土（床土）
③ 暗茶灰色粘質土（1～5㎜程度の砂粒を少量含む，こげ茶褐色粒を含む）
④ 暗こげ茶黒灰色粘質土（1～3㎜程度の砂粒を少量含む）
⑤ 灰色砂質土（こげ茶色粒を含む）
⑥ 濁茶白色砂
⑦ 濁茶灰色砂質土
⑧ 濁灰茶色砂質土
⑨ 茶灰色粘質土（1～3㎜程度の砂粒を含む）
⑩ 茶灰色粘質土
⑪ 茶灰色砂（0.1～7㎜程度の砂粒を含む）
⑫ 白黄色粘質土（地山）



第181図　大畦平・断面図

8．自然河道

自然河道は調査区北端部で検出されたもので，第4図でもわかるように南側の肩が調査区を横切っている。北側の肩は確認できず，かなり幅の広いことがわかる。また，検出面からの深さも，約2mを越えたため確認していない。

調査区北端部は四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が実施された川津一ノ又遺跡Ⅲ区に幅約7～8mと近接していることがわかっている。川津一ノ又遺跡Ⅲ区でもやはり調査区北部では居住域はなく，自然河道や低湿地であることがわかっている。当調査区で検出された自然河道はその一部と続くことが，今回の調査で確認されたことになる。

出土遺物はほとんどが弥生土器で，僅かに須恵器を含む。出土遺物は現行の溝を挟み北部と南部で取り上げたため，1761～1957と1958～1972とにわけているが，基本的には同一の自然河道出土遺物である。

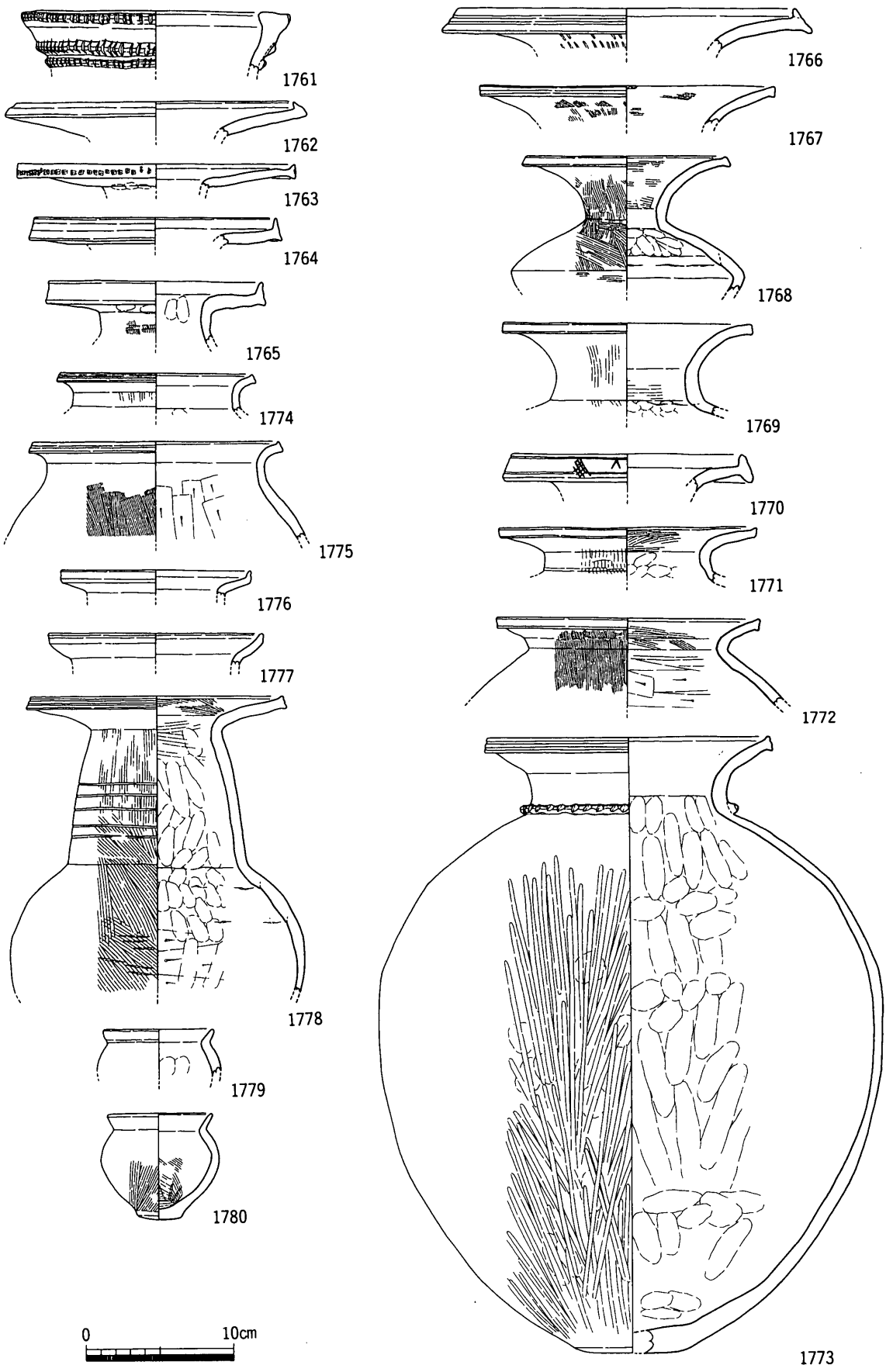
1761～1957が南部の自然河道出土遺物である（第182～189図）。

1761～1786は壺である。1761は頸部が直行するもので，口縁端部は上面に面を持つように内外に拡張する。外面に2条の刻み目凸帯が，口縁端部外面にも刻み目が施されている。時期は弥生時代中期中葉で，これ以外にはほとんど出土していない。1762～1765は頸部が直に延び，口縁部がほぼ水平に開くもので，口縁端部を上下に拡張する。1763は拡張した外面に櫛先端部による刺突文を持つ。1766～1770は頸部から口縁部にかけて朝顔型に開くもので，口縁端部は上下に拡張するものと拡張しないものがある。1766・1767は口縁端部外面に沈線が認められる。1768はやや小型のもので，肩部に明瞭な稜を持つ。1770は拡張された口縁端部外面に上下2条の沈線と鋸歯文が認められる。1771～1773は「く」の字に屈曲した頸部から口縁部が短く開くものである。1774・1775は直に延びる頸部から口縁部が短く水平に延びるもので，口縁端部はあまり拡張しない。1773は平底の底部から体部が球形に延びるもので，体部最大径はやや上位にある。頸部外面には押捺凸帯があり，体部外面は縦方向のヘラ磨きが，内面は指なでが顕著に施されている。1778は長頸壺で，ほぼ球形の体部から頸部がやや内傾しながら延び，口縁部はほぼ水平に近く開く。口縁端部はやや上下に拡張し，外面に2条の沈線を持つ。体部外面は叩きののち刷毛目が施され，頸部外面は刷毛目ののち5条の沈線が施されている。1779・1780は小型の壺である。1781～1786は2重口縁壺である。1784・1785は口縁端部を上下に拡張し，外面に1784はやや太い線描の鋸歯文が，1785は細い線描の鋸歯文が施されている。1786は平底の底部から体部は卵形に延び，頸部は朝顔型に開くもので，口縁部は内傾しながら上方に延びるものである。頸部屈曲部外面に刻み目凸帯を持つ。体部外面には僅かに叩き痕が残り，粗い刷毛目が施されている。1787～1793は壺の底部である。1792は底部に木葉痕が認められる。壺は底部に平底を残し，体部は卵形を呈し，体部最大径はやや上位にある。口縁部の形態にはバリエーションがみられる。1794～1855は甕である。1794は体部が直行し，口縁端部にいたる。口縁端部外面には刻み目が施され，口縁端部下端に穿孔が認められる。この甕以外は頸部が「く」の字に屈曲するもので，頸部から口縁は直線的に延びるものとやや外反するものがあり，口縁端部はそのまま終わらせるかあるいは丸く終わらせるものがある。肩部はあまり張らず，体部最大径も上位ではあるが中央部に近い。底部は平底を残し，丸底化傾向のみられるものも少量ある。体部外面の調整は1795・1804・1806・1811・1812・1815・1824・1825・1853・1855のように叩きのみのものと叩きののち刷毛目を施すものがある。体部内面はヘラ削りが顕著にみられ，頸部付近まで施されている。1826は平底の底部から体部は卵形を呈し，体部最大径が

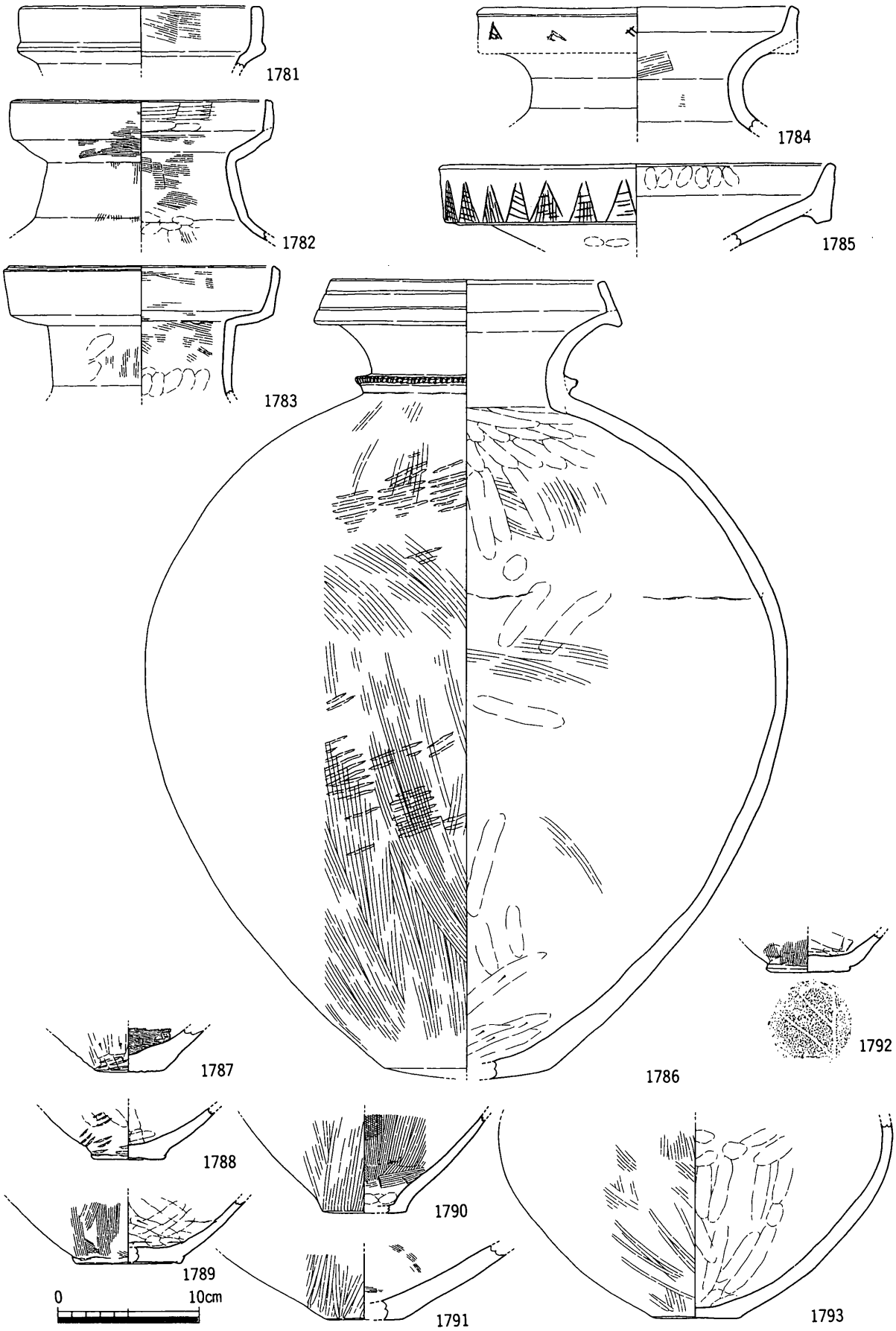
上位にある甕である。頸部は「く」の字に屈曲し，口縁部は外反しながらほぼ水平気味になる。口縁端部は小さく上方に摘み上げる。頸部内面はあまり明瞭な稜を持たない。体部外面は刷毛目が密に施され，内面は体部上半まで下方からのヘラ削りが施されている。1856～1916は鉢である。大きくは口縁部が内彎しながら延びるものと口縁部で外方に屈曲するものがある。それぞれには口径により大・中・小の約3つに分類できる。また，前者のものについては器高によりかなり浅いものやかなり深いものがあり，顕著に形態差があらわれている。体部外面は叩きののち刷毛目が，内面は刷毛目が多用されている。1873・1875～1877・1881は内面にヘラ磨きが施されている。1878は内面にヘラ削りが施されており，甕の体部調整技法に共通する手法が取られている。1882は体部外面に平行叩きを多用し，格子状になっている。1897・1898は底部が小さく突出しており，ほとんどが平底を呈する鉢のなかでは特異なものである。口縁部が屈曲するものはほぼ特大・大・中・小に法量分化している。調整はほぼ前者のものと同様である。1917～1919は甑である。1920～1923は高坏である。1923はやや粗製に作られているもので，脚部外面に叩きののち刷毛目が施されている。1924～1932は製塩土器である。1924～1930のように脚が付き，体部がやや内彎気味に上方に延びるものと1931・1932のように体部がほぼ球形で，口縁部が上方に直線的に延びるものの2形態がある。前者は弥生時代のもので，後者は古墳時代のものと思われる。1933はミニチュアの手ずくね土器である。1934は甕の体部を転用した紡錘車である。1935・1936は須恵器坏身・坏蓋である。1935の天井部はヘラ削りされ，口径も13.8cmを計るもので，また1936の受け部及び立ち上がりはしっかりし，口径も12.1cmと大きいことから，時期は6世紀末から7世紀初頃のものである。製塩土器もこの須恵器と同時期である。この時期が自然河道の最終埋没時期と考える。1937～1941は長頸壺である。1937は頸部が直線的に延びるもので，外面に刷毛目が，内面に粘土紐の接合痕が顕著に認められる。1938～1940は角閃石を胎土に多量に含む「B類土器」である。1938は頸部が僅かに内彎するがほぼ真っ直ぐ延びるもので，内面には粘土紐の接合痕にそって指頭痕が認められる。1939・1941は頸部が内彎気味に上方に延びるもので，外面には刷毛目が，内面には指なで及び指頭痕が顕著に施されている。1940は1939・1941の体部で，卵形を呈するものと考える。1942は小型丸底壺である。胎土に角閃石を含む「B類土器」で，頸部が内彎気味に上方に延びる。1943～1947は胎土に角閃石を含む「B類土器」の甕である。底部は平底で，体部は直線的に外上方に延びる。体部外面にはヘラ磨きが，内面にはヘラ削りが施されている。頸部は口縁部がほぼ水平に近く屈曲し，口縁端部は上方に短く摘み上げる。体部外面には細かい刷毛目が，内面には指頭痕が認められる。1948～1952は高坏である。全て胎土に角閃石を含む「B類土器」である。坏部が小型のものと1952のように大型のものがある。1948は坏部内外面にヘラ磨きが施され，脚部内面をヘラ削りしている。1953～1957はサヌカイト製品である。1953は石庖丁で，両側辺に抉りを持ち，細かい調整により刃部を作り，背面は調整後つぶしを行っている。1954～1956はスクレイパーで，1957は楔形石器である。

1958～1972は北部の自然河道出土遺物である（第190図）。

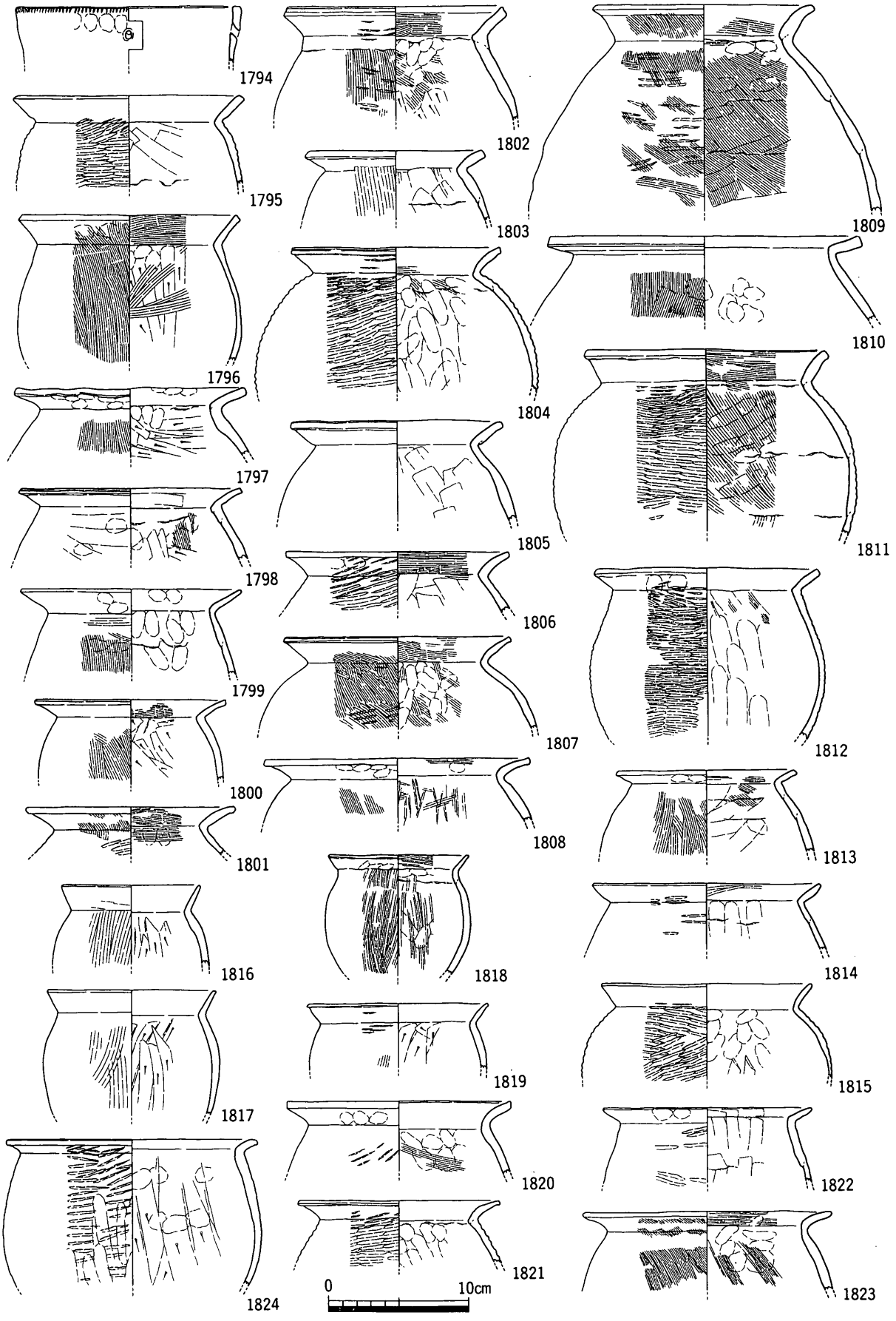
1958～1961は壺である。1958～1961は直に延びる頸部から口縁部がほぼ水平に延びるもので，口縁端部の形態で僅かに摘み出すものと下方に拡張するもの，上方に拡張するものの3形態がある。1960は「B類土器」で，拡張された口縁部外面に鋸歯文が認められる。1962～1965は甕である。1962・1963は「B類土器」で，平底の底部から内彎しながら体部が延び，体部最大径を上位に持つ。頸部は「く」の字に屈曲し，口縁端部を上方に短く摘み上げる。体部外面は体



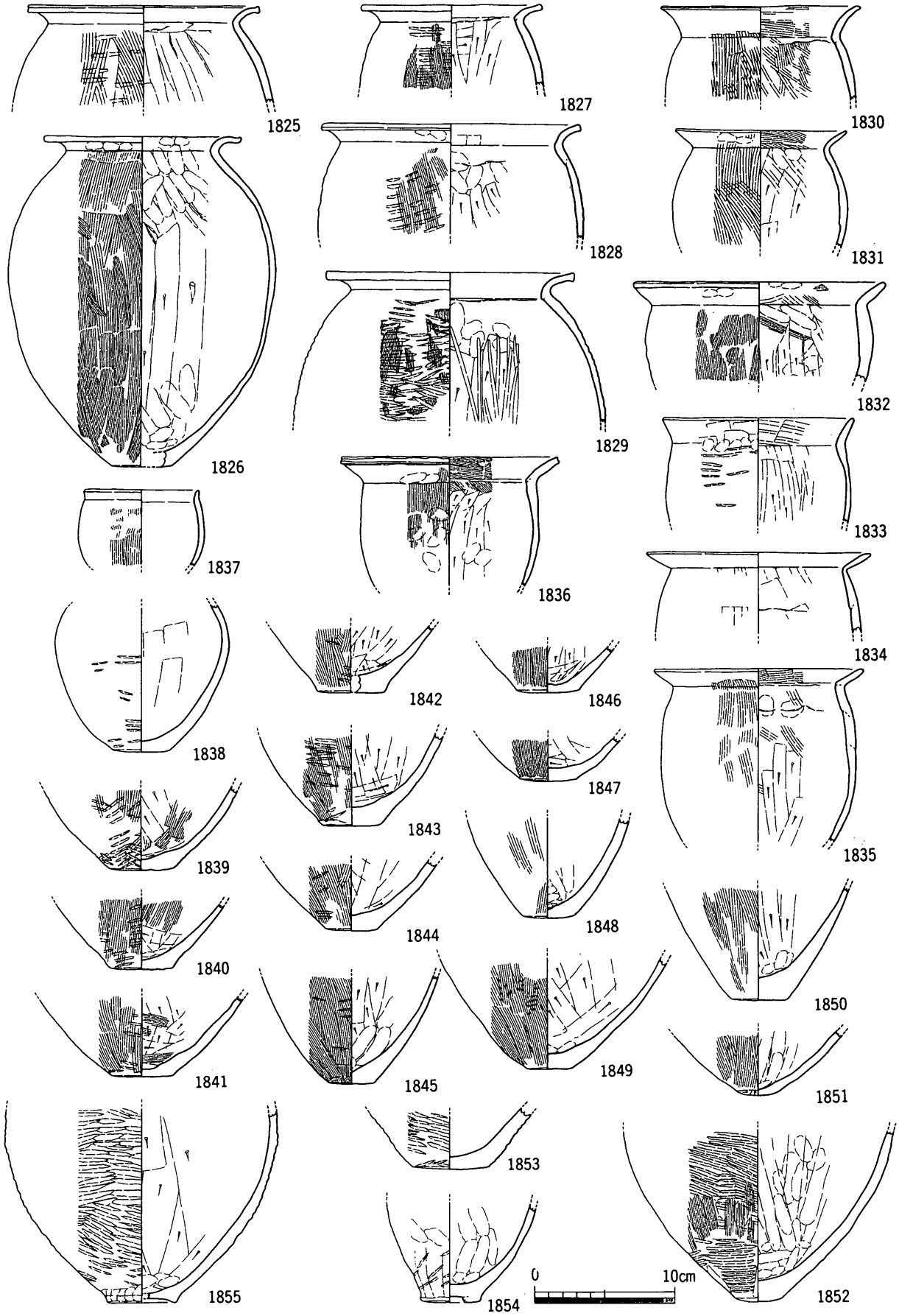
第182図　南部自然河道出土遺物実測図①



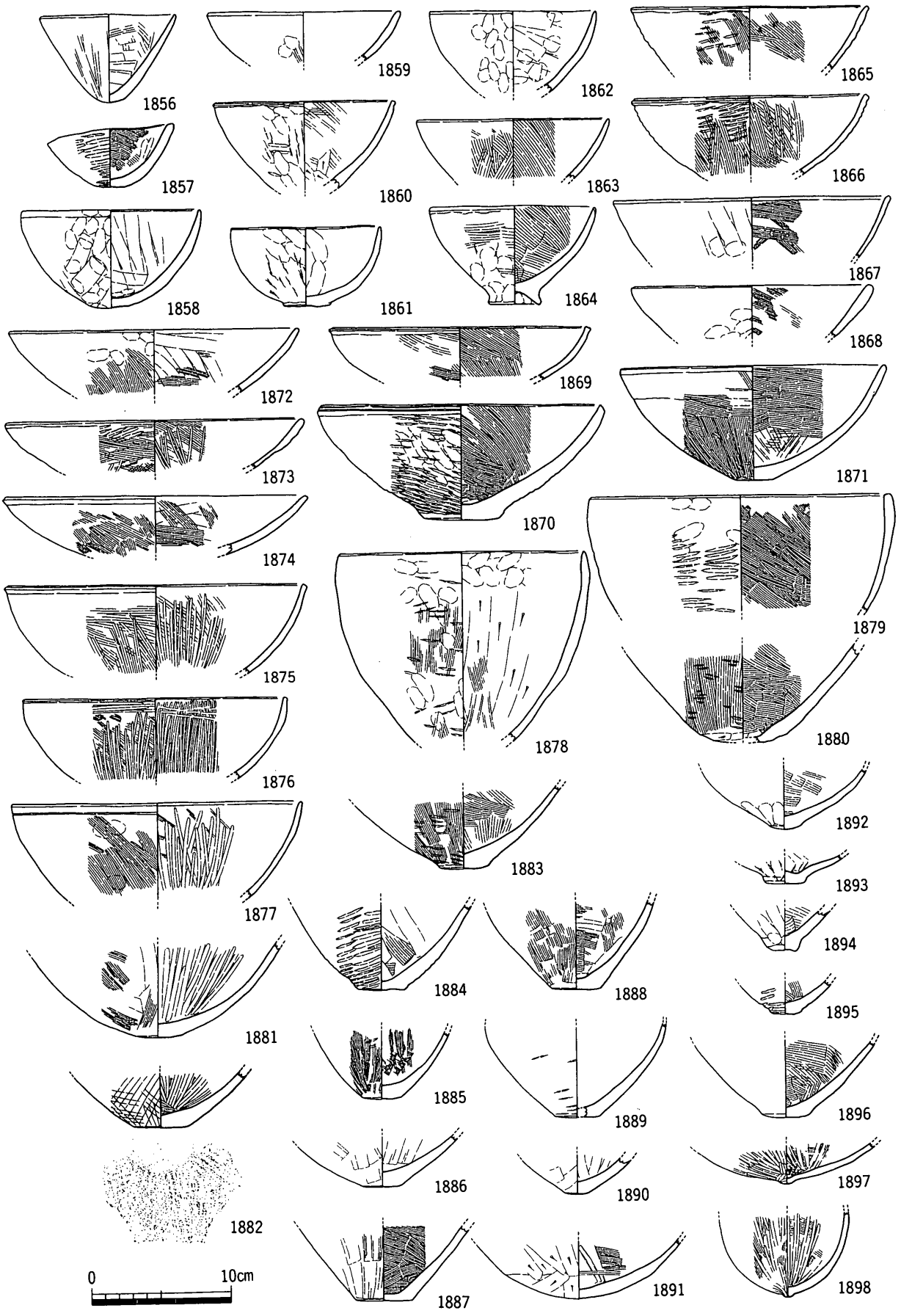
第183図　南部自然河道出土遺物実測図②



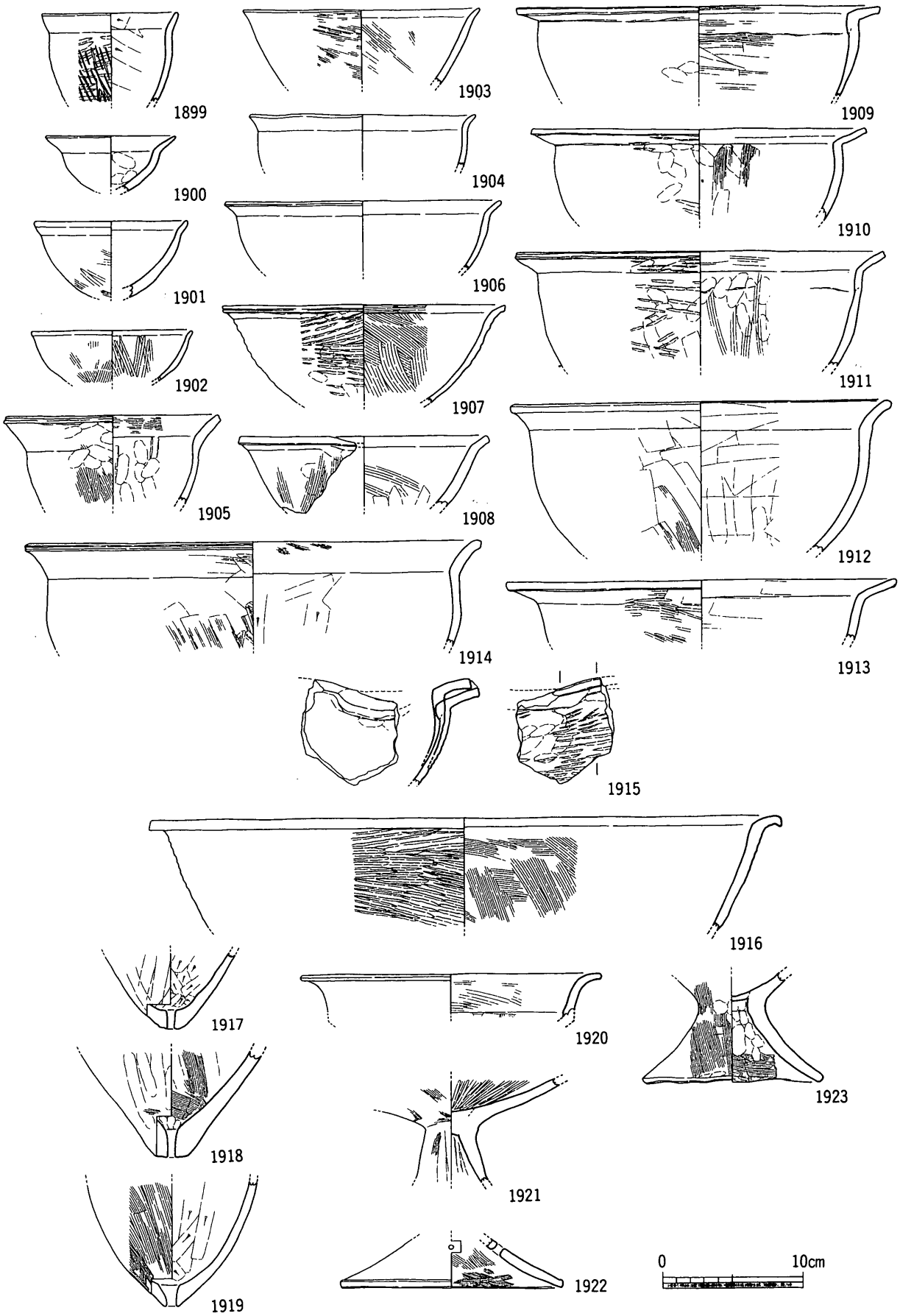
第184図　南部自然河道出土遺物実測図③



第185図　南部自然河道出土遺物実測図④



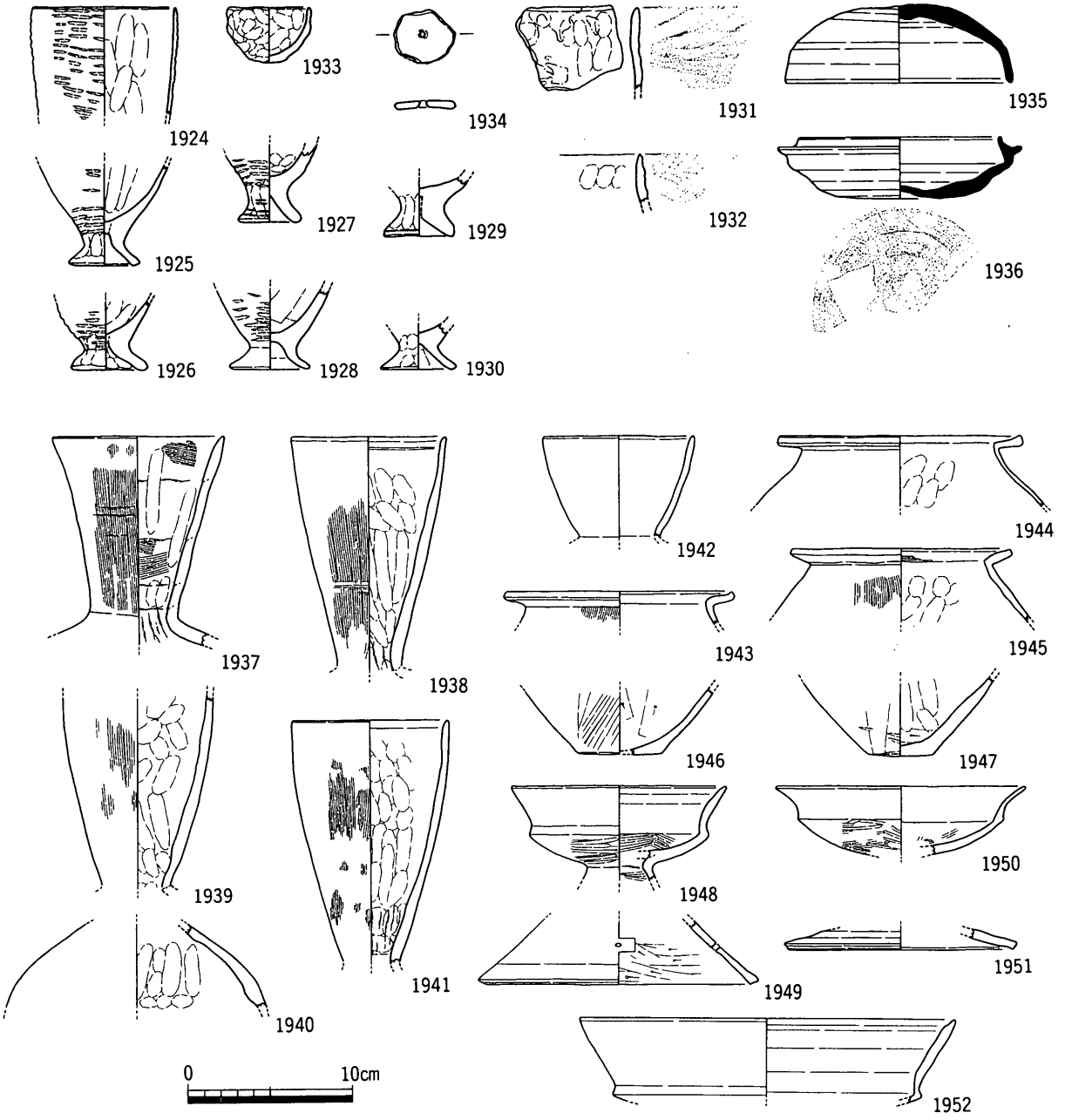
第186図　南部自然河道出土遺物実測図⑤



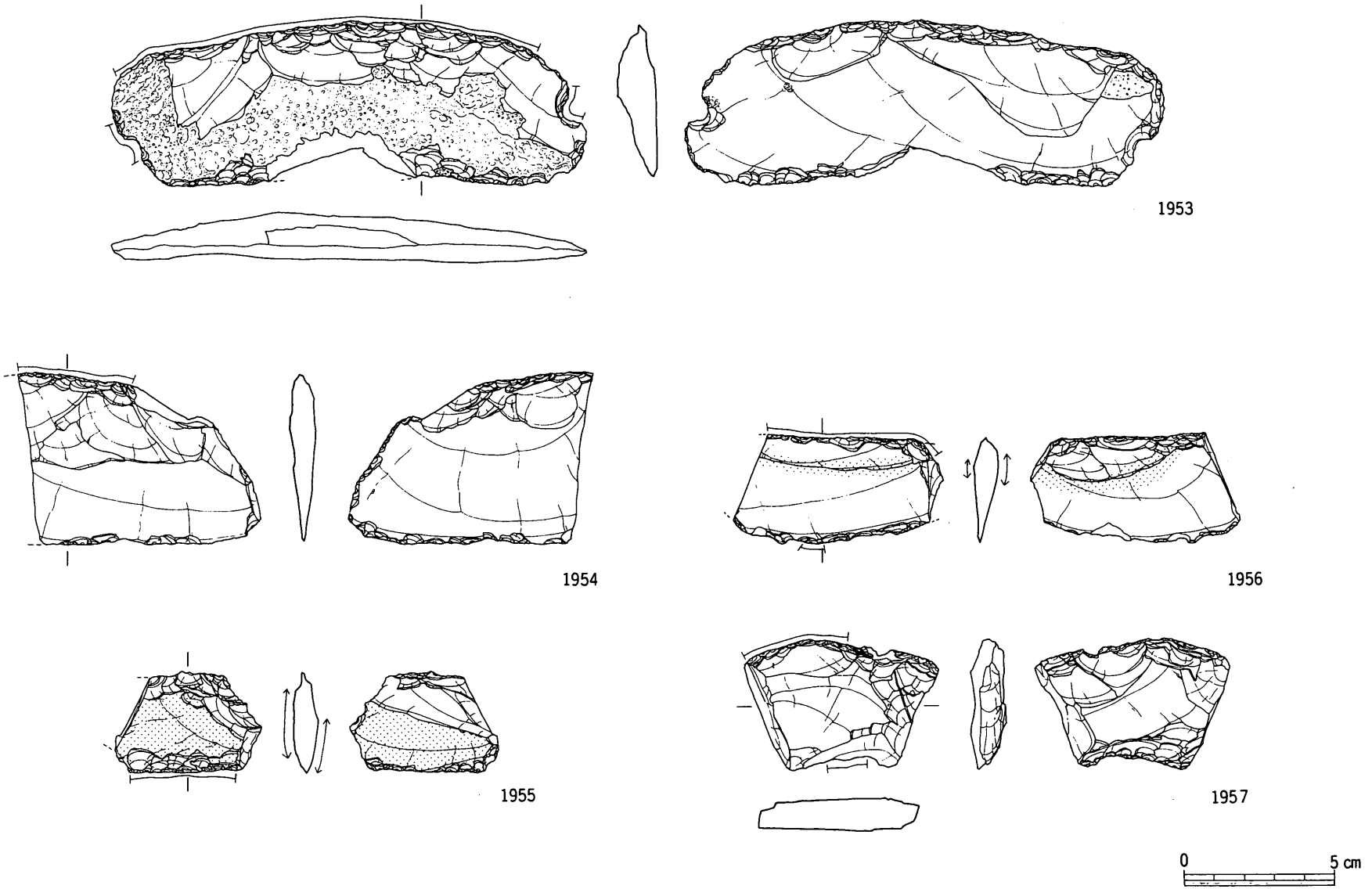
第187図　南部自然河道出土遺物実測図⑥

部最大径部分を境にして上位に細かい刷毛目が，下位にヘラ磨きが施されている。体部内面は外面と同様に体部最大径部分を境にして上位に指頭痕及び指なでが，下位にヘラ削りが施されている。その外の甕は体部外面に叩きののち刷毛目が施され，体部内面には頸部付近までヘラ削りが施されている。1966～1971は鉢である。口縁部をそのまま終わらせるものと頸部で屈曲させるものの2形態があり，法量により特大・大・中・小に細分される。形態により1972は高坏である。坏部中位で屈曲し，口縁部は外反させる。ちょうどその部分で剝離しており接合の痕跡が明瞭に観察できる。

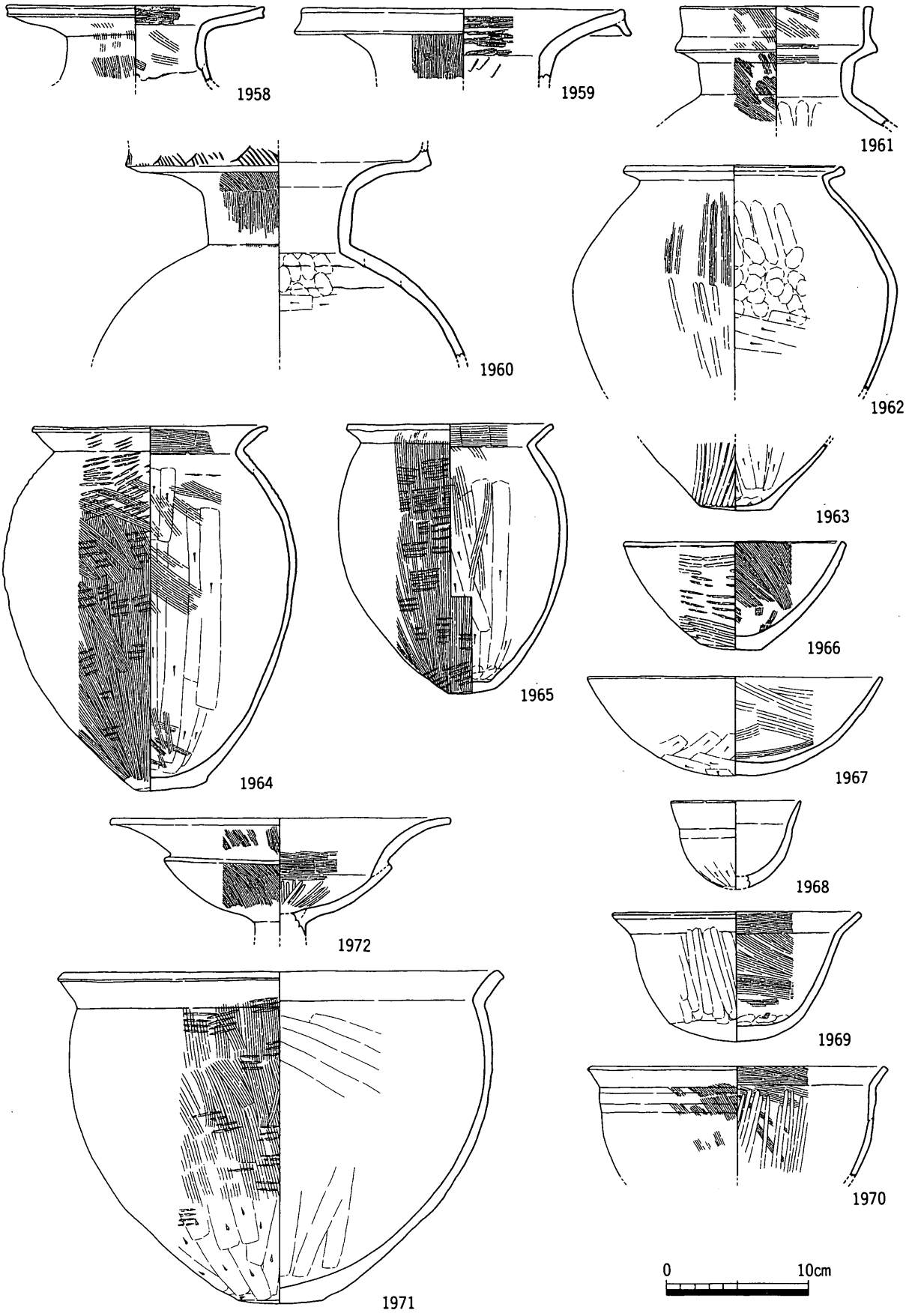
自然河道の時期は少量弥生時代中期のものが出土しているが，そのほとんどは弥生時代後期のもので，弥生時代後期後半から末を中心に少量前半のものも含む。また，最終埋没は6世紀末から7世紀初頃である。サヌカイト製の石製品は非常に少量であった。



第188図　南部自然河道出土遺物実測図⑦



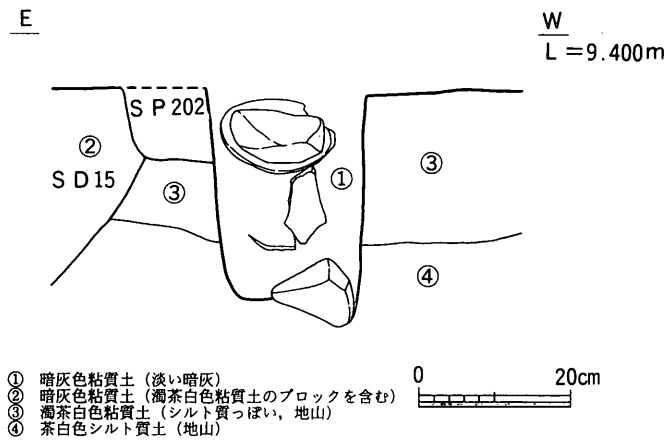
第189図　南部自然河道出土遺物実測図⑧



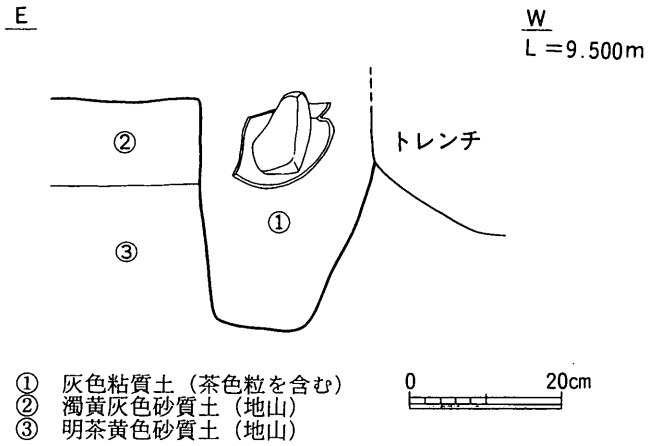
第190図　北部自然河道出土遺物実測図

9．柱穴出土遺物

1973～2184は柱穴出土遺物である（第193～198図）。1984はＳＰ55出土の十瓶山窯系須恵器椀である。底部に断面方形のやや外方に踏張る高台が付き，体部は内彎しながら外上方に延びる。体部外面に間隔の開いた横方向の回転ヘラ磨きが，内面に分割ヘラ磨きが施されている。時期は12世紀初頃である。1999～2002はＳＰ160出土遺物である。1999・2000は土師器坏で，底部はヘラ切りされている。口径9.6cmとやや小振りのものである。2001は土師質土釜である。鍔が短く退化するが，立ち上がりは長く細く延びる。時期は14世紀前半頃である。2004はＳＰ165出土の須恵器壺である。平底の底部から体部は内彎しながら延び，肩が張る。底部には「下駄痕」が確認でき，体部外面には格子目叩きがみられる。時期は９世紀頃のものと考える。2011～2021はＳＰ198出土遺物である。2011～2015は土師器小皿で，底部は全てヘラ切りされている。2016～2018は和泉型瓦器椀である。底部に断面方形状の扁平な高台が付き，体部は内彎しながら延びる。体部外面には指頭痕が，内面にはヘラ磨きがやや粗く施されている。2019・2020は吉備系土師器椀である。2021は瓦質こね鉢で，体部外面に格子目叩き痕が僅かに認められる。時期は13世紀前半～中葉頃である。2022・2023はＳＰ201出土遺物である。ＳＰ201はＳＤ15を切っているＳＰ202を切っており，７世紀前半のＳＤ15，時期不明のＳＰ202より新しいことが切り合い関係よりわかる。柱穴断面をみると柱穴最下部に根石状の自然石があり，中位には裏込めと思われる自然石と土器片があり，さらに上位にはほぼ柱穴掘方いっぱいに土器のなかに自然石を入れた状態で検出された。中位・下位の状態は柱を入れた状態での痕跡と思われるが，上位については柱を抜き取った後に２次的に埋められたものと考える。2022・2023は和泉型瓦器椀である。2023は底部に三角形状の高台を持ち，体部は内彎気味に外上方に延びる。体部外面に指頭痕が，内面の見込み部分に平行ヘラ磨きが，体部には横方向のヘラ磨きがやや密に施されている。また，見込み部分には重ね焼きの痕跡が確認できる。2022はやや器高が浅いものの調整はほぼ同様である。時期は尾上編年のⅢ－２期（12世紀末～13世紀初）である。2031～2033はＳＰ265出土遺物である。全て弥生土器で，甕あるいは鉢の底部である。時期は弥生時代後期前半である。2042はＳＰ312出土遺物である。口縁部を上方に拡張し，外面に綾杉状の刻み目を入れ，その上に円形浮文を貼り付け，また口縁部下には波状文の上に円形浮文を貼り付けている。時期は弥生時



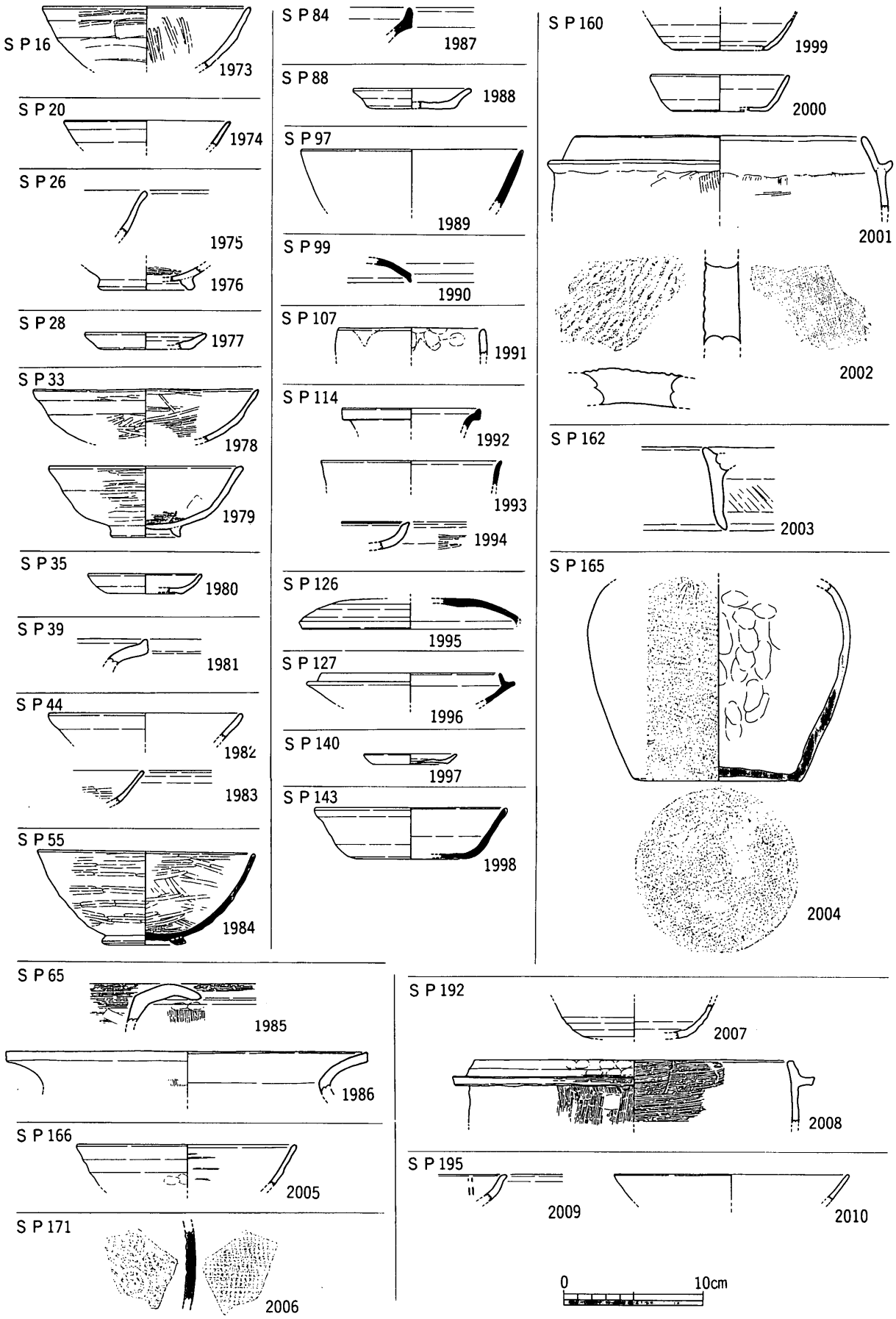
第191図　ＳＰ201土層断面図



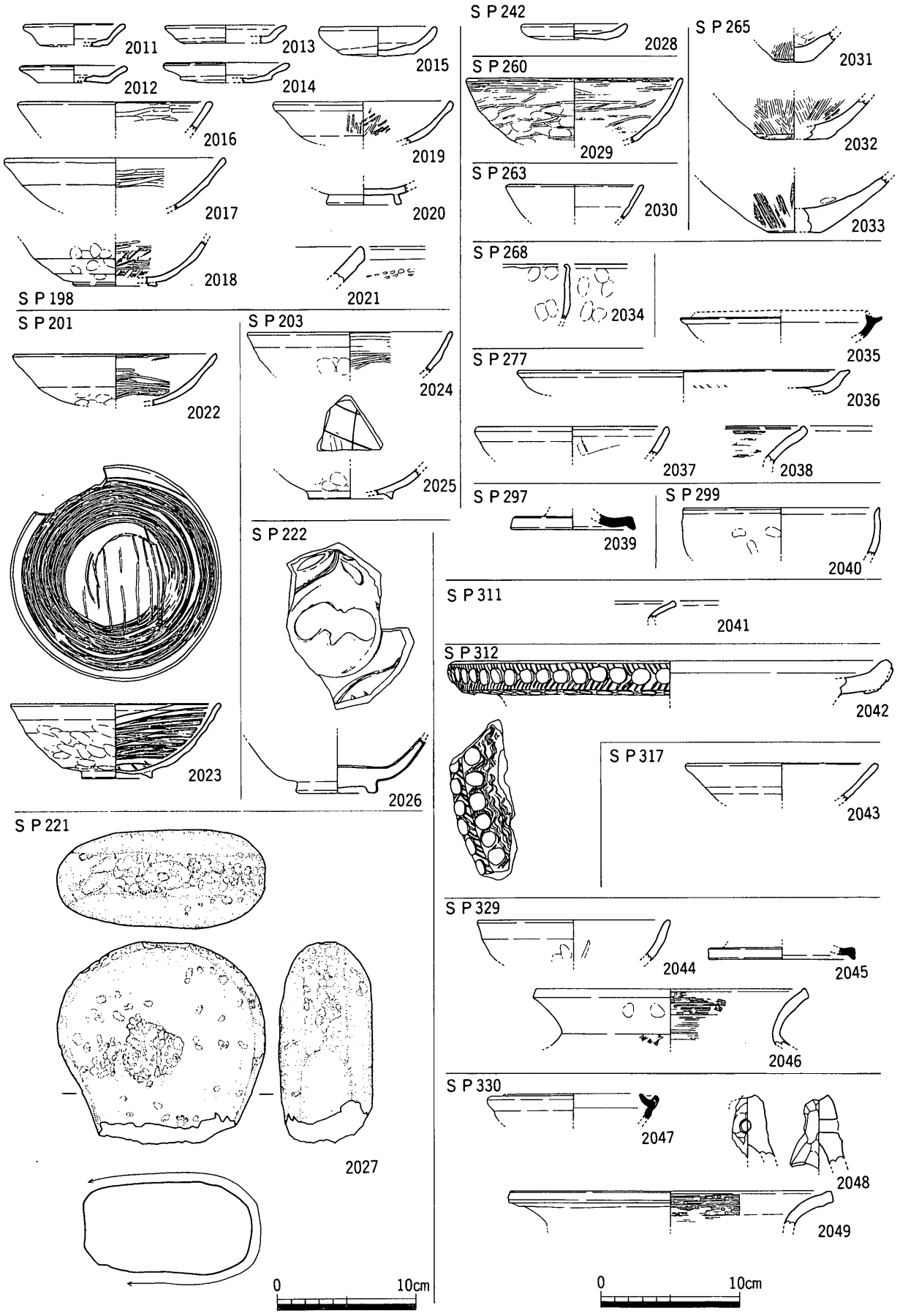
第192図　ＳＰ599土層断面図

代中期後葉（畿内第四様式初頭）である。2060はＳＰ447出土の金環である。銅芯の上に金メッキされたものである。2077～2079はＳＰ599出土遺物である。この柱穴もＳＰ201と同様に上位に土器内に自然石を入れた状態で検出したもので，やはり柱抜き取り後に埋められたことがわかる。2077は和泉型瓦器椀で，底部に断面方形の高台が付き，体部はやや内彎気味に外上方に延びる。体部外面には指頭痕ののち横方向のヘラ磨きがやや粗く，内面には横方向のヘラ磨きがやや密に施されている。2078は土師器椀である。2079は瓦質こね鉢である。十瓶山窯系のものと思われる。時期はＳＰ201よりやや古く，12世紀後半である。2092はＳＰ647出土遺物である。須恵器蓋で，口縁端部を丸く下方に屈曲させる。時期は８世紀である。2119はＳＰ747出土遺物である。「Ｂ類土器」の甕で，時期は弥生時代後期前半である。2120・2121はＳＰ749出土遺物である。2120は土師器坏で，底部はヘラ切りされている。2121は十瓶山窯系須恵器椀で，底部に扁平な紐状の高台が付き，体部内面に細かい刷毛が密に施されている。時期は13世紀前半である。2162～2164はＳＰ1084出土遺物である。2162は須恵器高坏の脚で，2163は須恵器甕の口縁である。2164は土師質甕で，2165は製塩土器である。時期は７世紀前半頃である。

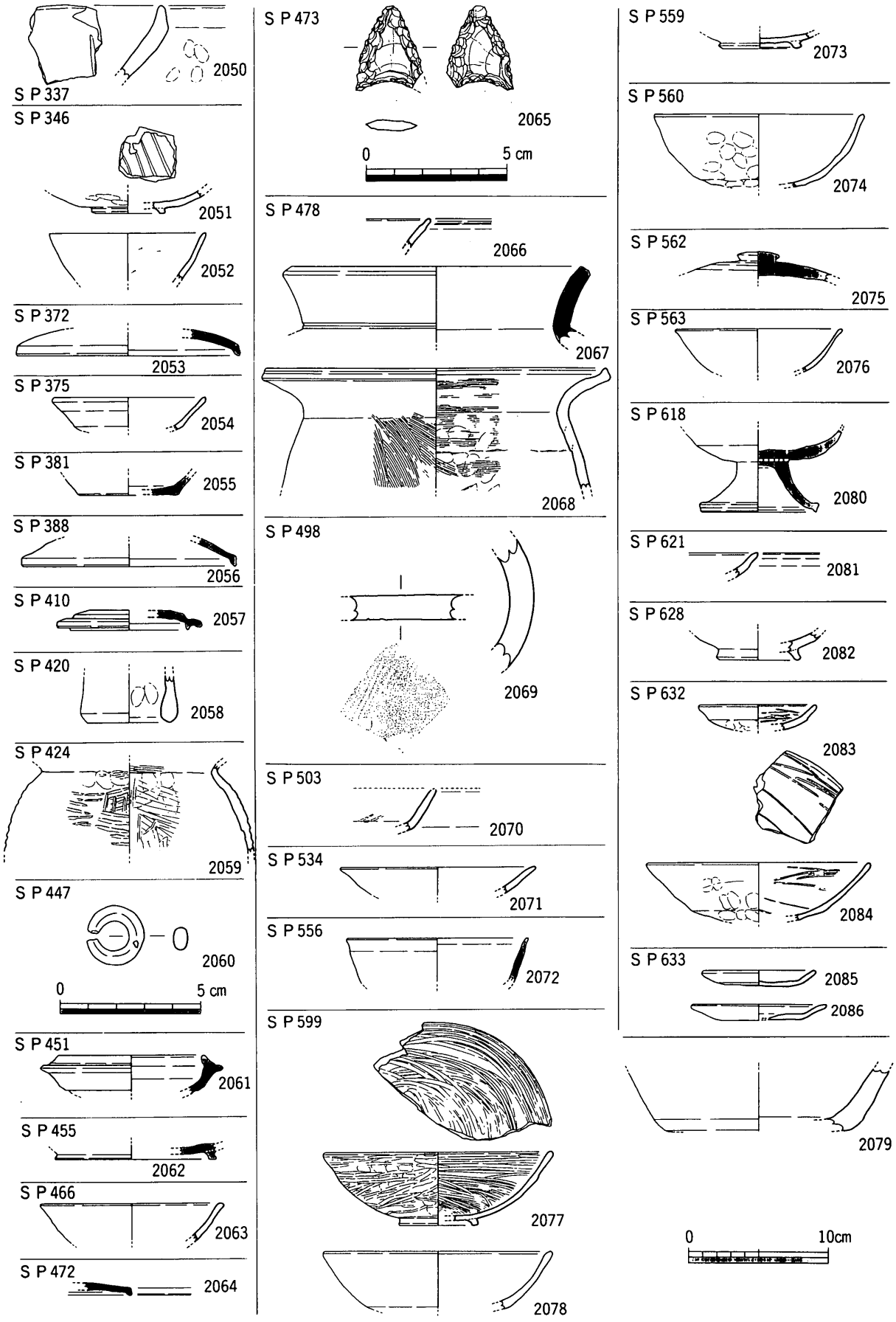
調査区で検出された柱穴は，北部で多数検出され，中央部から南部へと少なくなるという傾向がある。また，時期的に大きくみると古代末から中世（12世紀から14世紀）のものが北部に多く，中央部に古代（７世紀から８世紀）のものが多く検出されている傾向がある。柱穴個別の時期及び出土遺物は柱穴一覧表にあるとおりで，弥生時代中期・後期，７世紀前半・後半，８世紀前半，12世紀前半・後半，12世紀末から13世紀前半，13世紀後半から14世紀前半の９時期程度に細分できそうである。



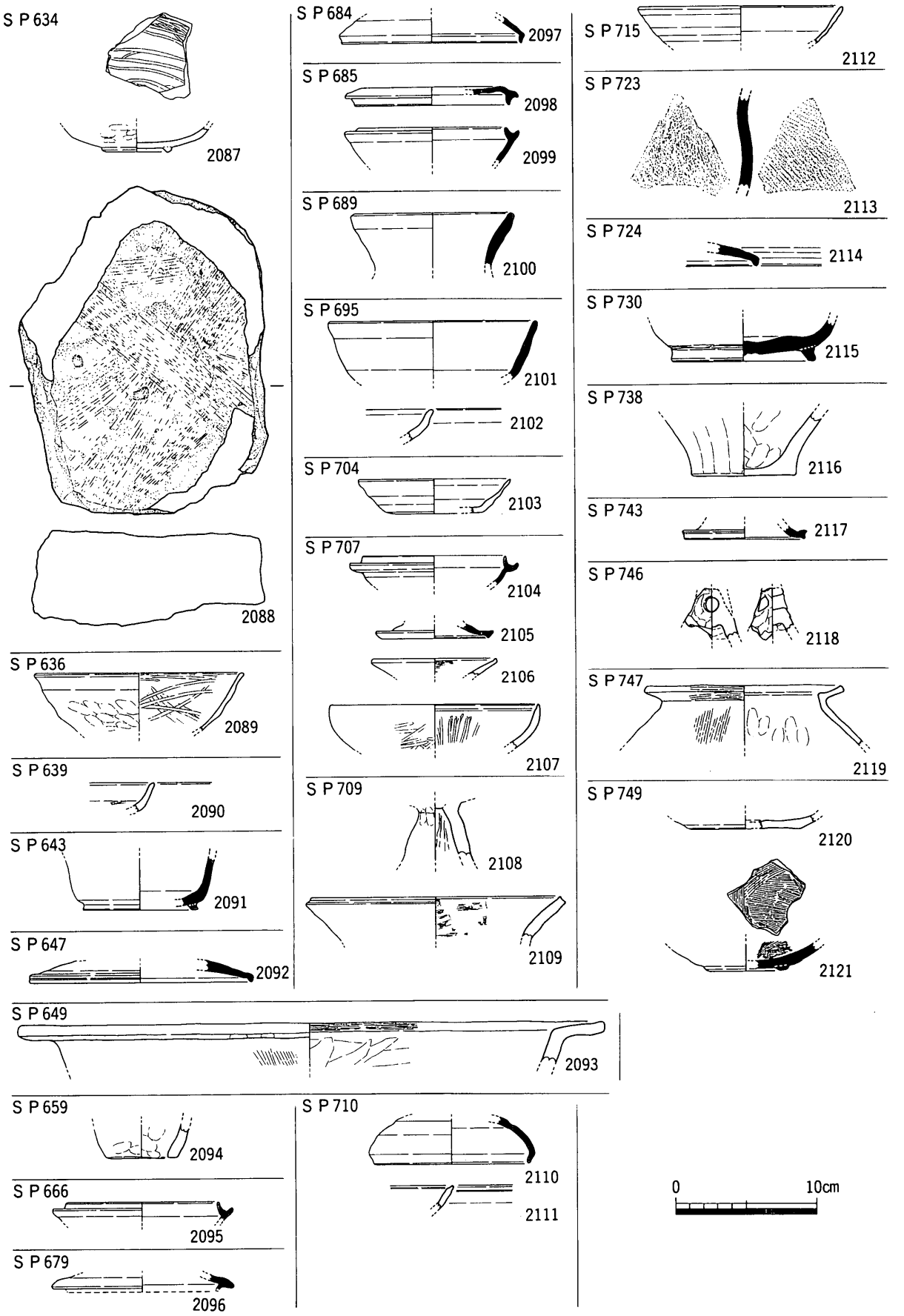
第193図　柱穴出土遺物実測図①



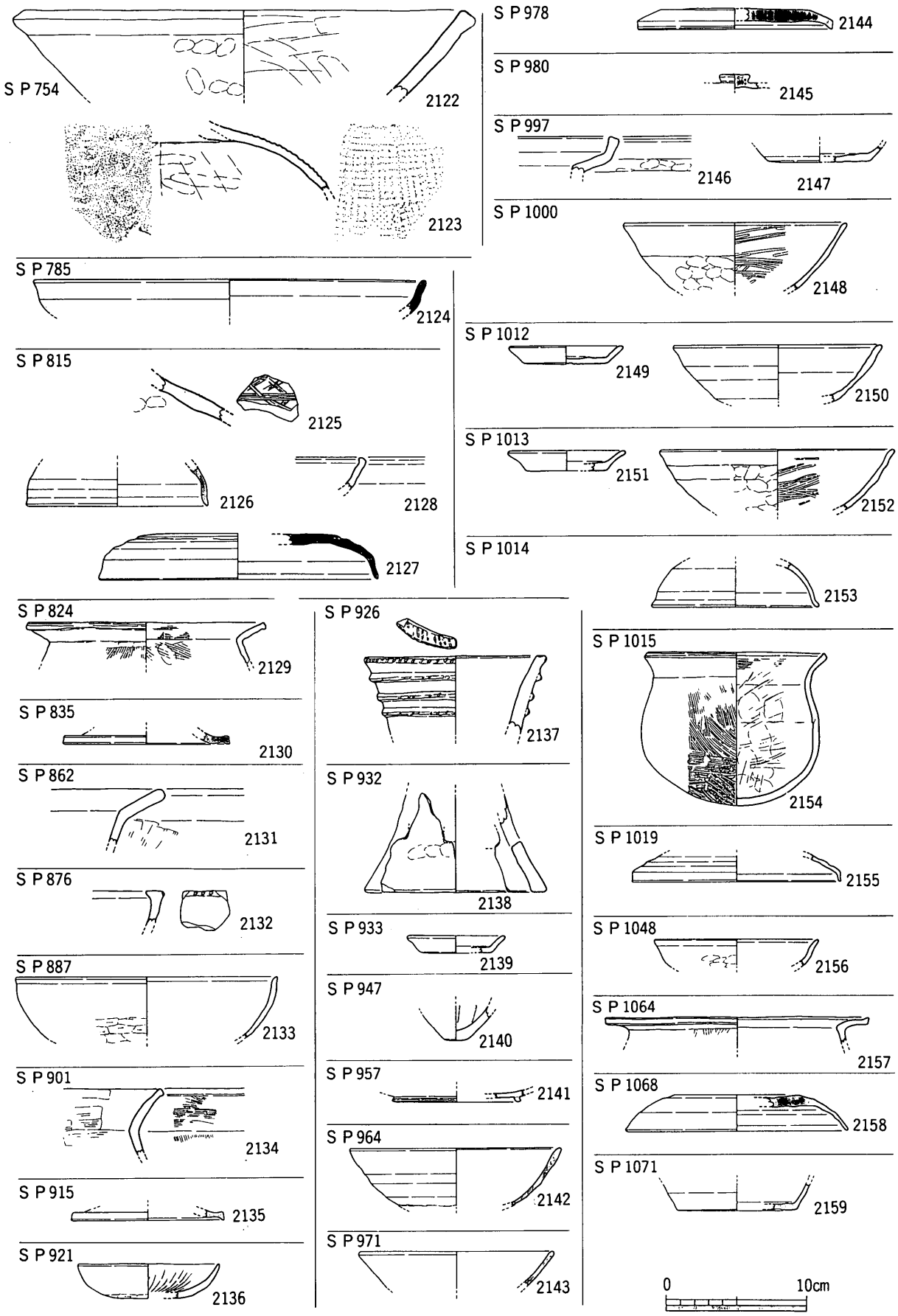
第194図　柱穴出土遺物実測図②



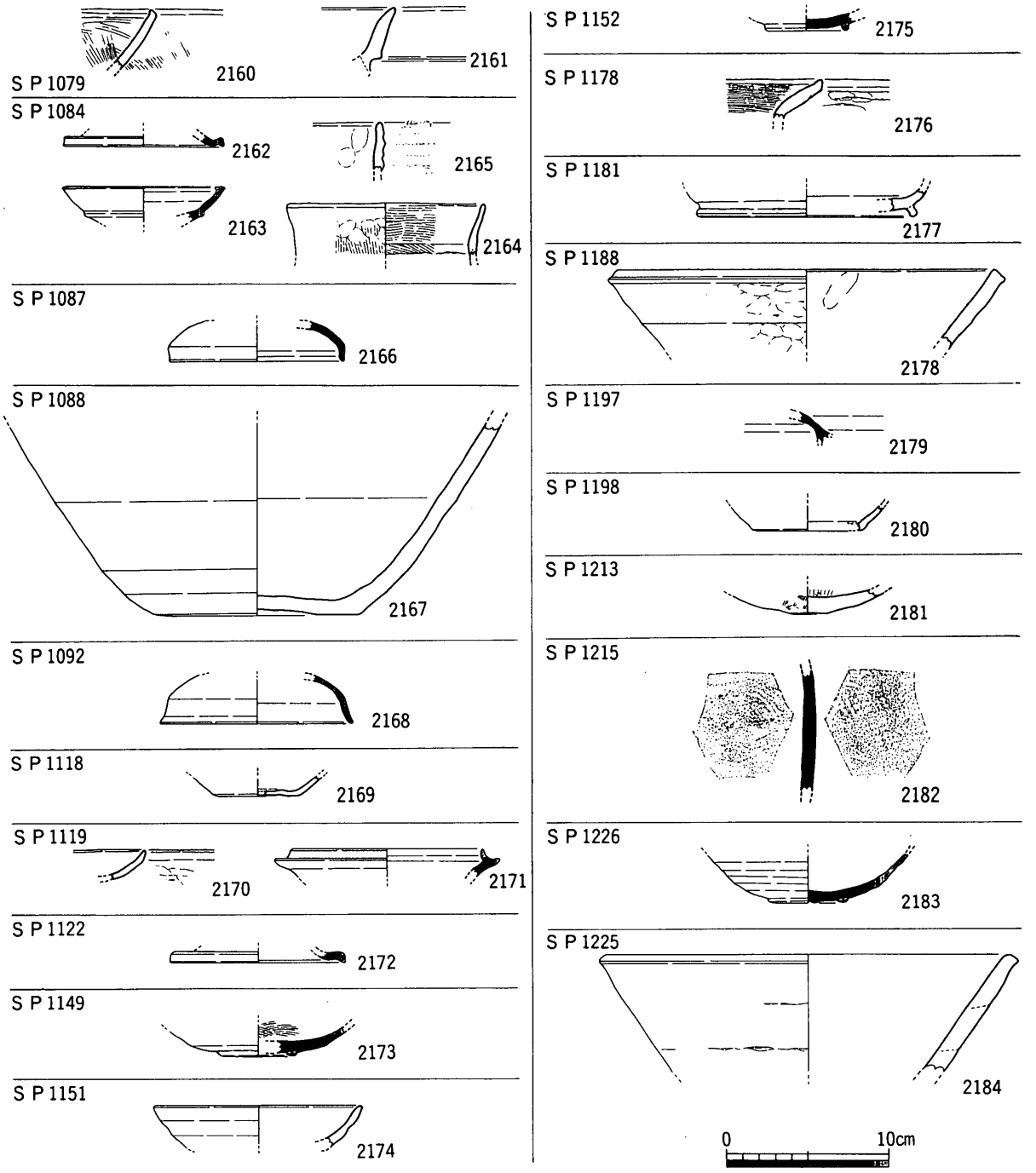
第195図　柱穴出土遺物実測図③



第196図　柱穴出土遺物実測図④



第197図　柱穴出土遺物実測図⑤



第198図　柱穴出土遺物実測図⑥

第２表　柱穴一覧表

遺構番号	出　土　遺　物	時　期	グリット
ＳＰ１			Ｆ－19
2	弥生土器	弥生後期	Ｆ－19
3			Ｆ－19
4			Ｆ－19
5			Ｆ－19
6			Ｆ－19
7	土師器，黒色土器Ａ類	12世紀後半	Ｆ－19
8	須恵器，土師質土器，サヌカイト	不明	Ｆ－19
9	須恵器，土師質土器，瓦質土器	12世紀後半	Ｆ－19
10	須恵器，土師質土器	不明	Ｆ－19
11	土師器	不明	Ｆ－19
12			Ｆ－19
13			Ｆ－19
14			Ｆ－19
15	須恵器，土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
16	土師器，黒色土器Ａ類，土師質土器	12世紀後半	Ｆ－19
17			Ｆ－19
18			Ｆ－19
19			Ｆ－19
20	土師質土器，白磁	不明	Ｆ－19
21	土師器，瓦，土師質土器	12世紀後半	Ｆ－19
22			Ｆ－19
23	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
24			Ｆ－19
25			Ｆ－19
26	土師器，黒色土器Ａ類	12世紀後半	Ｆ－19
27	土師質土器	不明	Ｆ－19
28	土師器	不明	Ｆ－19
29	須恵器，土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
30	土師器椀，黒色土器Ａ類椀，土師質土器	12世紀後半	Ｆ－19
31	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
32	土師器，土師質土器，サヌカイト	不明	Ｆ－19
33	須恵器，土師器小皿，土鍋，瓦器椀，黒色土器Ａ類椀，砂岩，焼土	12世紀後半	Ｆ－19
34	土師質土器	不明	Ｆ－19
35	土師器小皿，土師質土器	不明	Ｆ－19
36	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
37	土師器	不明	Ｆ－19
38	土師器	不明	Ｆ－19
39	土師器，土師質土器，瓦質土器	12世紀後半	Ｆ－19
40	土師器・椀	12世紀後半	Ｆ－19
41	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	７世紀前半	Ｆ－19
42	須恵器，土師器，瓦器椀，土師質土器	12世紀後半	Ｆ－19
43	土師器，土師質土器，瓦質土器，サヌカイト	不明	Ｆ－19
44	須恵器，土師器坏・椀，瓦器椀，土師質土器	12世紀後半	Ｆ－19
45	土師器椀，土師質土器	不明	Ｆ－19
46	瓦器椀，土師質土器	不明	Ｆ－19
47	土師器坏	不明	Ｆ－19
48	土師器，土師質土器，サヌカイト	不明	Ｆ－19
49	土師器，瓦器椀	13世紀前半	Ｆ－19
50	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
51	土師器・坏，土師質土器，瓦質土器甕	不明	Ｆ－19
52	土師器，瓦器椀，土師質土器鍋，焼土	12世紀後半	Ｆ－19
53	土師器，弥生土器	不明	Ｆ－19
54	須恵器，土師器，瓦器椀	12世紀後半	Ｆ－19
55	瓦器椀，黒色土器Ａ類，瓦質土器椀，サヌカイト	12世紀後半	Ｆ－19
56	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
57	土師器・小皿，弥生土器，土師質土器，サヌカイト	不明	Ｆ－19
58	須恵器，土師質土器，瓦質土器	不明	Ｆ－19
59	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
60	土師器坏・椀，瓦器椀，土師質土器	13世紀前半	Ｆ－19
61	サヌカイト	不明	Ｆ－19
62	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
63	土師器	不明	Ｆ－19
64	土師器	不明	Ｆ－19
65	須恵器，土師器，土師質土器鍋	不明	Ｆ－19
66	須恵器，土師器	中世	Ｆ－19
67	瓦器椀，土師質土器甕	13世紀前半	Ｆ－19
68	土師器，瓦器椀	12世紀後半	Ｆ－19
69	土師器椀，瓦器椀，土師質土器	12世紀中葉～後半	Ｆ－19
70	土師器，土師質土器	不明	Ｆ－19
71	土師器，瓦器椀	13世紀前半	Ｆ－19
72	土師器	不明	Ｆ－19
73	弥生土器	不明	Ｆ－19
74	土師器椀，瓦器椀・小皿，黒色土器Ａ類，土師質土器鍋	12世紀後半	Ｆ－19
75	土師器坏	不明	Ｇ－19
76	土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
77	土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
78	土師器坏，土師質土器	不明	Ｇ－19
79	土師器・小椀，土師質土器，瓦質土器	不明	Ｇ－19
80	土師質土器	不明	Ｇ－19
81	土師質土器	不明	Ｇ－19
82	瓦器椀	不明	Ｇ－19
83	土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
84	東播系こね鉢	13世紀前半	Ｇ－19
85	土師質土器	不明	Ｆ－19
86	須恵器，土師器，瓦器，土師質土器，凹石	不明	Ｆ－19
87	須恵器，土師器，瓦器椀・小皿，土師質土器，瓦質土器椀	12世紀後半	Ｇ－19
88	須恵器甕・坏蓋，土師器小皿，瓦器椀	13世紀前半	Ｇ－19
89	須恵器，土師器坏，土師質土器	14世紀	Ｇ－19
90	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	不明	Ｇ－19
91	土師器小皿，土釜	不明	Ｇ－19
92	須恵器，土師器小皿，土師質土器鍋，サヌカイト	12世紀	Ｇ－19
93	土師器	不明	Ｇ－19
94	土師器，土師質土器，瓦質土器甕	不明	Ｇ－19
95	須恵器，土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
96	須恵器，土師質土器	不明	Ｇ－19
97	須恵器坏，土師器，土師質土器	７・８世紀	Ｇ－19
98	土師質土器	不明	Ｇ－19
99	須恵器坏蓋，土師質土器	７世紀	Ｇ－19
100	須恵器，土師質土器	不明	Ｇ－19
101	土師質土器	不明	Ｇ－19
102	土師質土器	不明	Ｇ－19
103	瓦器小皿，土師質土器	不明	Ｇ－19
104	土師器・小皿，黒色土器Ａ類椀，瓦質土器椀，土師質土器釜	12世紀後半	Ｇ－19
105	土師質土器	不明	Ｇ－19
106	須恵器，土師質土器	不明	Ｇ－19
107	弥生土器，製塩土器	弥生後期	Ｇ－19
108	須恵器	不明	Ｇ－19
109	土師質土器	不明	Ｇ－19
110	須恵器，土師器，瓦質土器甕，サヌカイト	不明	Ｇ－19
111	土師質土器	不明	Ｇ－19
112	須恵器，土師質土器	不明	Ｇ－19
113	須恵器，土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
114	須恵器・坏・高坏，土師器・坏，土師質土器，サヌカイト	７世紀	Ｇ－19
115	土師質土器	不明	Ｇ－19
116	須恵器，土師質土器	不明	Ｇ－19
117	土師質土器	不明	Ｇ－19
118	土師質土器，サヌカイト	不明	Ｇ－19
119	須恵器，土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
120	土師器小皿，土師質土器	不明	
121	土師質土器	不明	Ｇ－19
122	須恵器・高坏，土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
123	土師器，土師質土器	不明	Ｇ－19
124	土師質土器	不明	Ｇ－19
125	土師質土器	不明	Ｇ－19
126	須恵器坏蓋，土師器	７世紀	Ｇ－19
127	須恵器・坏蓋，土師器，土師質土器，サヌカイト	７世紀前半	Ｇ－19
128			Ｇ－19
129	土師質土器	不明	Ｇ－19
130	土師器，土師質土器，サヌカイト	不明	Ｇ－19
131	須恵器，土師質土器	不明	Ｇ－19
132	須恵器，土師器，瓦器椀，サヌカイト	13世紀前半	Ｇ－19
133	土師質土器	不明	Ｇ－19
134	土師器	不明	Ｇ－19
135	土師器坏	不明	Ｇ－19
136	土師質土器	不明	Ｇ－19
137	土師器	不明	Ｇ－19
138	土師質土器	不明	Ｇ－19

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
139	土師質土器	不明	G－19
140	須恵器，土師器小皿	不明	G－19
141	土師器坏，土師質土器	不明	G－19
142	須恵器，土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
143	土師器・坏，土師質土器	13世紀前半	G－19
144	土師器，瓦器椀，土師質土器	不明	G－19
145	土師質土器	不明	G－19
146	土師器	不明	G－19
147	土師器，土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
148	土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
149	土師器坏，サヌカイト	不明	G－19
150	土師器	不明	G－19
151	須恵器，土師器	不明	G－19
152	須恵器，土師質土器	不明	G－19
153	須恵器，土師質土器	不明	G－19
154	土師器，土師質土器	不明	G－19
155	瓦器椀，土師質土器	13世紀前半	G－19
156	土師質土器	不明	G－19
157	須恵器，土師器，土師質土器鍋	不明	G－19
158	土師器小皿，土師質土器	不明	G－19
159	土師器坏，土師質土器	不明	G－19
160	土師器坏・小皿・土釜，瓦，黒色土器A類椀，東播系こね鉢，瓦質土器甕・椀，サヌカイト	13世紀後半	G－19
161	土師質土器	不明	G－19
162	須恵器坏身，土師器，黒色土器A類，土師質土器釜A，サヌカイト	10世紀	G－19
163	須恵器，土師器，土師質土器	不明	G－19
164	須恵器，土師器，土師質土器	10世紀	G－19
165	須恵器，土師器，土師質土器	不明	G－19
166	土師器坏・椀，瓦器椀，土師質土器	12世紀後半	G－19
167	土師器，瓦質土器甕	13世紀前半	G－19
168	須恵器，土師器，土師質土器	不明	G－19
169	土師器	不明	G－19
170	土師質土器	不明	G－19
171	須恵器，土師器，瓦器椀，土師質土器	不明	G－19
172	土師器，土師質土器	不明	G－19
173	土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
174	須恵器，土師器，土師質土器	不明	G－19
175	土師器，瓦器椀，土師質土器	不明	G－19
176	土師質土器	不明	G－19
177	－	－	－
178	－	－	－
179	－	－	－
180	－	－	－
181	－	－	－
182	－	－	－
183	－	－	－
184	－	－	－
185	－	－	－
186	－	－	－
187	－	－	－
188	－	－	－
189	－	－	－
190	－	－	－
191	土師器坏・小皿，土師質土器，サヌカイト・石包丁	不明	G－19
192	土師器坏，土釜	13世紀後半	G－19
193	土師器坏，瓦質土器	不明	G－19
194	－	－	－
195	須恵器・坏，土師器・坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
196	土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
197	須恵器，土師器，土師質土器	不明	G－19
198	須恵器，土師器坏・椀・小皿，瓦器椀，瓦質土器甕，土師質土器，白磁碗	13世紀前半	G－19
199	須恵器，土師器坏，土師質土器	不明	G－19
200	須恵器，土師質土器	不明	G－19
201	瓦器椀，土師質土器，石	12世紀末	G－19
202	土師器，土師質土器	不明	G－19
203	須恵器・甕，土師器椀・小皿，瓦器椀，土師質土器，焼土，石	12世紀末	G－19
204	須恵器・坏蓋・高坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
205	土師質土器	不明	G－19
206	土師質土器甕	不明	G－19
207	土師器	不明	G－19
208	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器	不明	G－19
209	土師器	不明	G－19
210	土師質土器	不明	G－19

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
211	土師質土器	不明	G－19
212	土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
213	土師質土器	不明	G－19
214	須恵器，土師質土器，瓦器椀，サヌカイト	不明	G－19
215	須恵器，土師器，土師質土器	不明	G－19
216	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
217	土師質土器，サヌカイト	不明	G－19
218	土師器	不明	G－19
219	土師質土器	不明	G－19
220	土師器，瓦質土器椀，土師質土器	13世紀前半	G－19
221	須恵器，土師器，土師質土器，砥石，石	中世	G－19
222	瓦器椀，土師質土器，青磁碗	13世紀前半	G－19
223	－	－	－
224	－	－	－
225	－	－	－
226	－	－	－
227	－	－	－
228	土師質土器	不明	G－19
229	土師器	不明	G－19
230	－	－	－
231	－	－	－
232	－	－	－
233	－	－	－
234			G－19
235	－	－	－
236	－	－	－
237	－	－	－
238	－	－	－
239	土師質土器	不明	G－19
240	土師器，サヌカイト	不明	G－19
241	瓦質土器椀，サヌカイト	不明	G－19
242	土師器小皿	不明	G－19
243	土師器坏，土師質土器，サヌカイト，焼土	不明	
244	土師質土器	不明	G－19
245	土師器小皿	不明	G－19
246	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
247	瓦器椀，黒色土器A類椀，土師質土器	12世紀	G－19
248	土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
249	須恵器，土師器，土師質土器，瓦質土器，サヌカイト	中世	G－19
250	須恵器，土師器，土師質土器	中世	G－19
251	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
252	土師質土器	古代	G－19
253	土師質土器	中世	G－19
254	土師器，土師質土器，瓦質土器椀	中世	G－19
255	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	G－19
256	須恵器，土師質土器	古代	G－19
257	須恵器，弥生土器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
258			G－19
259	須恵器，土師質土器	古代	G－19
260	瓦器椀，土師質土器	12世紀後半	G－19
261	須恵器，土師器，瓦器椀・小皿	中世	G－19
262	土師質土器	中世	G－20
263	土師器坏，土師質土器	中世	G－20
264	土師質土器	古代	G－20
265	弥生土器甕・鉢	弥生後期	G－20
266			G－20
267	土師器，瓦器	中世	G－20
268	製塩土器	弥生	G－20
269	土師器坏，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20
270	サヌカイト	不明	G－20
271	土師質土器	中世	G－20
272	土師器坏，瓦器椀，土師質土器鍋，サヌカイト	中世	G－20
273	土師質土器	古代	G－20
274	弥生土器，土師質土器	古代	G－20
275	須恵器坏身，土師器坏	中世	G－20
276	土師質土器	古代	G－20
277	須恵器坏蓋，土師器坏・椀，土師質土器・鍋	7世紀・12世紀	G－20
278	土師器，土師質土器	古代	G－20
279	土師質土器	古代	G－20
280	土師質土器	古代	G－20
281	土師器	古代	G－20
282	須恵器，土師質土器，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
283	土師器，弥生土器	中世	G－20
284	土師器	古代	G－20
285	須恵器，瓦器椀，土師質土器，サヌカイト・打製石斧	中世	G－20
286	土師器，土師質土器	中世	G－20
287	土師質土器	中世	G－20
288	土師器，土師質土器	中世	G－20
289	弥生土器	弥生	G－20
290	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
291	黒色土器A類，土師質土器，瓦質土器椀	12世紀後半	G－20
292	須恵器，土師質土器	古代	G－20
293	土師器	中世	G－20
294	土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
295	土師質土器	古代	G－20
296	土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－20
297	須恵器高坏，弥生土器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－20
298	土師質土器	古代	G－20
299	土師器坏，弥生土器，サヌカイト	7世紀	G－20
300	弥生土器	弥生	G－20
301	土師質土器	古代	G－20
302	土師器	古代	G－20
303	土師器小皿，土師質土器	中世	G－20
304	須恵器，土師器	古代	G－20
305	土師器蓋	中世	G－20
306	土師器	古代	G－20
307	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－20
308	土師質土器	古代	G－20
309	弥生土器	弥生	G－20
310	土師器，弥生土器，サヌカイト	古代	G－20
311	弥生土器甕	弥生後期	G－20
312	土師器坏，弥生土器壺	中世	G－20
313	土師器小皿，土師質土器	中世	G－20
314	土師器坏，土師質土器	中世	G－20
315	須恵器，土師器・土釜	中世	G－20
316	須恵器，土師質土器	7世紀	G－20
317	土師器坏，瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
318	弥生土器	弥生	G－20
319	須恵器，土師器，弥生土器，サヌカイト	古代	G－20
320	弥生土器	弥生	G－20
321	弥生土器	弥生	G－20
322	土師器	中世	G－20
323	土師質土器	古代	G－20
324	土師器坏・椀・小皿，瓦器椀，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	G－20
325	土師器坏・小皿，土鍋，瓦質椀，焼土	13世紀前半	G－20
326	土師器椀，小皿	中世	G－20
327	土師質土器	中世	G－20
328	須恵器，土師器坏，土師質土器	中世	G－20
329	須恵器・高坏，土師器坏，土師質土器・甕，サヌカイト・打製石斧	7世紀	G－20
330	須恵器坏蓋，土師質土器，鉢壺	7世紀前半	G－20
331			G－20
332			G－20
333	須恵器，土師器坏・小皿，瓦器椀，土師質土器	13世紀前半	G－20
334	土師器小皿	中世	G－20
335	土師器坏・椀・小皿，瓦質土器椀	中世	G－20
336	弥生土器	弥生	G－20
337	土師器，土師質土器擂鉢	14世紀	G－20
338	土釜脚	中世	G－20
339	土師器坏，土師質土器	中世	G－20
340	瓦器，土師質土器鍋	13世紀	G－20
341	土師器	中世	G－20
342	弥生土器	弥生	G－20
343	土師器坏	中世	G－20
344	土師器坏・椀，土師質土器鍋	13世紀	G－20
345	須恵器，土師器	中世	G－20
346	土師器坏・椀，瓦器椀，土師質土器	12世紀末	G－20
347	土師器坏	13世紀	G－20
348	土師器椀・小皿，石	中世	G－20
349	土師器坏，瓦器椀	中世	G－20
350	須恵器高坏，土師器，土師質土器	7世紀	G－20
351	土師器椀，土師質土器，サヌカイト	13世紀前半	G－20
352	土師質土器	古代	G－20
353	土師器，土師質土器	中世	G－20
354	土師質土器	古代	G－20

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
355	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
356	土師器坏，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
357	土師器小皿	中世	G－20
358	土師質土器	古代	G－20
359	土師質土器	古代	G－20
360	須恵器，土師器	中世	G－20
361	土師器坏	中世	G－20
362	土師器，土師質土器	中世	G－20
363	須恵器，土師質土器甕，サヌカイト	8世紀	G－20
364	土師器	古代	G－20
365	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－20
366	弥生土器	弥生	G－20
367	土師器，土師質土器	中世	G－20
368	弥生土器，土師器	古代	G－20
369	須恵器，土師質土器	古代	G－20
370			G－20
371	弥生土器	弥生	G－20
372	須恵器坏蓋	7世紀	G－20
373	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
374			G－20
375	土師器坏	中世	G－20
376	土師質土器	中世	G－20
377	土師器	古代	G－20
378			G－20
379	土師質土器	古代	G－20
380	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
381	須恵器坏	10世紀	G－20
382	土師器坏・小皿，瓦器椀	13世紀前半	G－20
383	土師器坏，弥生土器	中世	G－20
384	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
385	弥生土器・甕，サヌカイト	弥生	G－20
386	土師器坏，弥生土器，サヌカイト	中世	G－20
387	弥生土器	弥生	G－20
388	須恵器坏蓋，弥生土器，サヌカイト	7世紀	G－20
389	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
390	弥生土器	弥生	G－20
391	土師器，土師質土器	中世	G－20
392	弥生土器	弥生	G－20
393	弥生土器	弥生	G－20
394	弥生土器	弥生	G－20
395	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
396	須恵器，土師器小皿，土師質土器	中世	G－20
397	弥生土器	弥生	G－20
398	土師器坏，土師質土器	中世	G－20
399	土師器	古代	G－20
400	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
401	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
402	須恵器，土師器小皿，土師質土器土釜，サヌカイト	中世	G－20
403	土師器，土師質土器	中世	G－20
404	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
405	土師質土器	中世	G－20
406	須恵器，弥生土器，土師質土器	古代	G－20
407	土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
408	土師質土器	古代	G－20
409	弥生土器	弥生	G－20
410	須恵器・坏蓋，土師器・坏，土師質土器	7世紀後半	G－20
411	須恵器，土師質土器	古代	G－20
412	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－20
413	土師器，土師質土器	古代	G－20
414	弥生土器	弥生	G－20
415	弥生土器	弥生	G－20
416	土師器，弥生土器	古代	G－20
417	土師器坏，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
418	弥生土器	弥生	G－20
419	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	G－20
420	弥生土器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
421	弥生土器	弥生	G－20
422	弥生土器	弥生	G－20
423	弥生土器	弥生	G－20
424	弥生土器甕	弥生後期	G－20
425	弥生土器	弥生	G－20
426	土師器	古代	G－20

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
427	須恵器，弥生土器	古代	G－20
428			G－20
429	土師質土器	古代	G－20
430	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
431	土師器，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20
432	土師器，土師質土器	中世	G－20
433	土師器・土釜，土師質土器	中世	G－20
434	弥生土器	弥生	G－20
435	土師器	中世	G－20
436	土師質土器	古代	G－20
437	弥生土器	弥生	G－20
438	弥生土器	弥生	G－20
439	土師質土器	古代	G－20
440	土師質土器	中世	G－20
441	弥生土器	弥生	G－20
442	須恵器，土師質土器，サヌカイト	中世	H－20
443	須恵器，瓦器椀，土師質土器	中世	H－20
444	土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	H－21
445	須恵器，土師質土器	古代	H－21
446	土師質土器	古代	H－21
447	土師質土器	古代	H－21
448	須恵器，土師質土器	古代	H－21
449	弥生土器	弥生	H－21
450	弥生土器	弥生	H－21
451	須恵器坏身，土師質土器	7世紀初頭	H－21
452	土師質土器	古代	H－21
453	土師器	古代	G－21
454	須恵器，土師質土器	古代	G－21
455	須恵器坏身，土師質土器	8世紀前半	G－21
456	須恵器，土師質土器	古代	G－21
457	土師質土器	古代	G－20
458	弥生土器	弥生	G－20
459	土師質土器	古代	G－20
460	須恵器，土師質土器	古代	G－20
461	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
462	土師質土器	古代	G－20
463	須恵器，土師質土器	古代	G－20
464	土師質土器	古代	G－20
465	土師器，弥生土器	古代	G－20
466	土師器坏・椀，瓦器椀，瓦質土器甕	13世紀前半	G－20
467	土師質土器	古代	G－20
468	土師器	中世	G－20
469	須恵器，土師器小皿	中世	G－20
470	土師質土器	古代	G－20
471	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－22
472	須恵器坏蓋，土師質土器，サヌカイト	7世紀	H－22
473	須恵器，土師質土器，石鏃	古代	H－22
474	須恵器・甕・坏身，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	H－22
475	土師質土器	古代	H－22
476	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－22
477	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－22
478	須恵器・甕・坏蓋・高坏，土師器・甕，土師質土器，サヌカイト	8世紀	H－22
479	弥生土器	弥生	H－22
480	須恵器，土師質土器	古代	H－22
481	土師質土器	古代	H－22
482	弥生土器，サヌカイト	弥生	H－22
483	須恵器坏身，土師器，土師質土器	古代	H－22
484	須恵器・坏身，土師質土器	古代	I－22
485	弥生土器	弥生	I－22
486	須恵器，土師質土器	古代	I－22
487	須恵器，土師質土器	古代	I－22
488	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト，鉄	古代	I－22
489			I－22
490	須恵器，土師質土器	古代	I－22
491	須恵器，土師質土器	古代	I－22
492	須恵器，土師質土器	古代	I－22
493	須恵器，土師質土器	古代	I－22
494	弥生土器	弥生	I－22
495	須恵器，弥生土器	古代	I－22
496	須恵器坏身，土師質土器	古代	I－22
497	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
498	弥生土器	弥生土器	I－22

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
499			I－22
500	土師器，土師質土器	古代	I－22
501	須恵器，土師質土器	古代	I－22
502	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
503	土師器坏	8世紀前半	I－22
504	土師質土器	古代	I－22
505	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
506	須恵器，土師質土器，サヌカイト石庖丁	古代	I－22
507	土師器，土師質土器	古代	I－22
508	土師器・坏蓋，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
509	土師器，土師質土器	古代	I－22
510	須恵器，土師質土器	古代	I－22
511	須恵器坏身・坏蓋，土師器，土師質土器	7世紀前半	I－22
512	須恵器，土師質土器・鍋	古代	I－22
513	須恵器坏蓋，土師器坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀後半	I－22
514	須恵器，土師質土器	古代	I－22
515	須恵器，土師質土器	古代	I－22
516	土師質土器	古代	I－22
517	弥生土器	弥生	I－22
518	弥生土器	弥生	I－22
519	須恵器・坏蓋，土師器・坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	I－22
520	土師器，土師質土器	古代	I－22
521	弥生土器	弥生	I－22
522	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
523	須恵器・坏蓋，土師器坏，土師質土器	古代	I－22
524	須恵器，土師質土器	古代	I－22
525	土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
526	土師器，土師質土器	古代	I－22
527	土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
528	瓦器椀，土師質土器	12世紀	I－22
529	土師質土器	古代	I－22
530	須恵器，土師質土器	古代	I－22
531	土師器，土師質土器	古代	I－22
532	須恵器坏，土師質土器，サヌカイト	9世紀後半	I－22
533	土師質土器	古代	I－22
534	須恵器，土師器坏，土師質土器	中世	I－22
535	土師質土器	古代	I－22
536	土師質土器	古代	I－22
537	土師器，土師質土器	中世	I－22
538	土師質土器	古代	I－22
539	土師質土器	古代	I－22
540	須恵器，土師質土器	古代	I－22
541	土師器，土師質土器	古代	I－22
542	土師器椀，瓦器椀，土師質土器	中世	I－22
543	土師器	古代	I－22
544	須恵器	古代	I－22
545	土師器小皿，土師質土器	中世	I－22
546	土師質土器	古代	I－22
547	土師質土器	古代	I－22
548	土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
549	土師器	中世	I－23
550	土師器	中世	I－23
551	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
552	土師器，土師質土器	古代	I－23
553	土師器	中世	I－23
554	土師質土器	古代	I－23
555	土師器，土師質土器	8世紀前半	I－23
556	須恵器坏身，土師器	8世紀	I－23
557	土師器，土師質土器	古代	I－22
558	土師器，土師質土器，石	中世	I－23
559	須恵器，土師器椀，土師質土器	12世紀	I－23
560	土師器坏，瓦器椀	13世紀初頭	I－23
561	土師器，土師質土器	古代	I－23
562	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	I－23
563	須恵器，土師器坏，土師質土器	古代	I－23
564	須恵器・坏蓋・高坏，土師質土器	7世紀	I－23
565	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－23
566	須恵器，土師質土器	古代	I－23
567	須恵器	古代	I－23
568	土師質土器	古代	I－23
569	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
570	土師器	古代	I－23

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
571	土師器，土師質土器	古代	I－23
572	土師器	古代	I－22
573	土師質土器	古代	I－22
574	土師器，土師質土器	古代	I－22
575	土師器，土師質土器	古代	
576	土師質土器	古代	I－23
577	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	I－23
578	土師器，土師質土器	古代	I－23
579	土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
580	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
581	土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
582	土師器	古代	I－23
583	土師器，サヌカイト	古代	I－23
584			I－23
585	弥生土器	弥生	F－19
586	土師質土器	古代	H－21
587	土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
588	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
589	土師質土器	古代	H－22
590	土師器，土師質土器	古代	H－22
591	土師器	古代	H－22
592	土師器，瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	中世	H－22
593	須恵器	古代	H－22
594	弥生土器	弥生	H－22
595	土師器，土師質土器	古代	H－22
596	須恵器，土師質土器	古代	H－22
597	土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
598	土師器，土師質土器	古代	F－19
599	土師器椀，瓦器椀，土師質土器	12世紀中葉	F－19
600	土師器椀・小皿，瓦器椀，土師質土器，瓦質土器こね鉢	12世紀後半	F－19
601	土師器	中世	F－19
602	須恵器坏蓋，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	F－19
603	土師器，土師質土器	古代	F－19
604	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	F－19
605	土師質土器	古代	F－19
606	土師器，土師質土器	古代	F－19
607	瓦器椀，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	F－19
608	土師質土器	古代	F－19
609	須恵器，土師器坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	F－19
610	弥生土器	弥生	G－20
611	土師質土器	中世	G－20
611	土師質土器	古代	G－20
613	須恵器，土師器，サヌカイト	中世	G－20
614	土師器，土師質土器	古代	G－20
615	土師質土器	古代	G－20
616	土師器	古代	G－20
617	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－19
618	須恵器高坏，土師質土器	7世紀前半	G－19
619	須恵器，土師質土器	7世紀	G－19
620	土師質土器	古代	G－19
621	須恵器，土師器坏，土師質土器，サヌカイト・石鏃	7世紀前半	G－19
622	須恵器，土師器，瓦器椀	12世紀末～13世紀初頭	G－19
623	須恵器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
624	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－19
625	須恵器，土師器，土師質土器	10世紀	G－19
626	須恵器，土師質土器，サヌカイト	中世	G－19
627	土師質土器	古代	G－19
628	土師器小皿，黒色土器A類椀	12世紀後半	G－19
629	土師器	古代	G－19
630	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－19
631	土師器，土師質土器	中世	G－19
632	須恵器，土師器・坏，瓦器椀・小皿，土師質土器，サヌカイト	13世紀前半	G－19
633	土師器坏・小皿，瓦器椀，土師質土器，瓦質土器椀	12世紀後半	G－19
634	瓦器椀，土師質土器，サヌカイト，砥石	12世紀後半	G－19
635	須恵器，土師器・坏，瓦器椀，土師質土器・椀，サヌカイト	12世紀後半	G－20
636	瓦器椀，土師質土器鍋	12世紀末	G－19
637	土師質土器	古代	G－19
638	土師質土器	古代	G－19
639	須恵器，土師器坏，土師質土器	7世紀前半	G－19
640	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
641	土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
642	土師器，土師質土器	古代	G－19

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
643	須恵器坏身，土師質土器	7世紀	G－19
644	土師器	古代	G－19
645	須恵器坏身，土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
646	土師質土器	古代	G－19
647	須恵器坏蓋，土師質土器	8世紀前半	G－19
648	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－19
649	土師質土器・鍋	古代	G－19
650	土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
651	土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
652	土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
653	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
654	土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
655	土師器，土師質土器	古代	G－19
656	須恵器，土師器	古代	G－19
657	須恵器，土師質土器	古代	G－19
658	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
659	土師器，土師質土器小壺	中世	F－19
660	弥生土器	弥生	I－22
661	土師質土器	古代	I－22
662	土師質土器	古代	I－22
663	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－22
664	サヌカイト		I－22
665	須恵器・坏蓋，土師器・坏，土師質土器	7世紀前半	I－22
666	須恵器・坏蓋	7世紀前半	I－22
667	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	I－23
668	土師器，土師質土器	古代	I－23
669	弥生土器，土師器，土師質土器，石	古代	I－23
670	土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
671	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－23
672	土師質土器	古代	I－23
673	土師質土器	古代	I－23
674	須恵器，土師器	古代	I－23
675	土師器坏，土師質土器	7世紀後半	I－23
676	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	I－23
677	弥生土器	弥生	I－22
678	土師質土器	古代	I－22
679	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀後半	I－23
680	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	I－23
681	土師質土器	古代	I－23
682	土師質土器	古代	I－23
683	土師器，土師質土器	古代	I－23
684	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀後半	I－23
685	須恵器坏蓋，サヌカイト	7世紀前半	I－22
686	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	I－22
687	土師器，土師質土器	古代	I－22
688	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－22
689	須恵器甕，土師器，土師質土器	7世紀	I－22
690	須恵器，弥生土器，サヌカイト	7世紀	I－22
691	須恵器，土師質土器	古代	I－22
692	土師質土器	古代	I－22
693	土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
694	土師質土器	古代	I－22
695	須恵器坏身・坏蓋，土師質土器，サヌカイト	7世紀	I－22
696	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	I－22
697	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	I－22
698	須恵器・坏蓋，土師器・坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀後半	I－22
699	サヌカイト・スクレイパー・石錐	弥生	I－22
700	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
701	須恵器，土師質土器	古代	H－22
702	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
703	須恵器・坏蓋，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	H－22
704	須恵器，土師器坏，土師質土器	中世	G－20
705	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－19
706	土師質土器	古代	G－19
707	須恵器・坏蓋・高坏，土師器・坏，土師質土器	7世紀前半	G－20
708	土師器，土師質土器	中世	G－20
709	須恵器，土師器高坏，土師質土器・甕	7世紀前半	G－20
710	須恵器・坏蓋，土師器・坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	G－20
711	土師器	中世	G－20
712			G－20
713			G－20
714	土師質土器	古代	G－20

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
715	土師器坏，土師質土器，サヌカイト，焼土	中世	G－20
716	土師器	中世	G－20
717	須恵器，土師器小皿，瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
718	土師質土器，瓦質土器	中世	G－20
719	土師器，土師質土器	中世	G－20
720	土師器小皿，土師質土器	中世	G－20
721	土師質土器	古代	G－20
722	土師器，土師質土器	中世	G－20
723	須恵器甕，土師器，土師質土器	中世	G－20
724	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器	8世紀	G－20
725	瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	12世紀末～13世紀初頭	G－20
726	土師質土器	中世	G－20
727	土師器坏，土師質土器	中世	G－20
728	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	G－20
729	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
730	須恵器・坏身，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－20
731	土師質土器	古代	G－20
732	須恵器，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20
733	土師質土器	中世	G－20
734	土師器坏	中世	G－20
735	須恵器，土師器	中世	G－20
736	土師質土器	古代	G－20
737	土師器坏	中世	G－20
738	弥生土器底部	弥生中期又は後期	G－20
739	土師器	古代	G－20
740	須恵器，土師器坏，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20
741	須恵器，瓦器椀	中世	G－20
742	土師質土器	中世	G－20
743	須恵器高坏，土師質土器	7世紀前半	G－20
744	土師器	中世	G－20
745	土師質土器	古代	G－20
746	須恵器，蛸壺，土師質土器	古代	G－20
747	弥生土器甕	弥生後期初頭	G－20
748	須恵器，土師器	中世	G－20
749	須恵器，土師器坏，瓦器椀，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	G－20
750	土師器，土師質土器	中世	G－20
751	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－19
752	土師質土器	古代	G－20
753	須恵器，土師器，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20
754	須恵器，土師器坏，亀山焼甕，土師質土器擂鉢，サヌカイト	中世	G－20
755	土師質土器	古代	H－22
756	土師質土器	古代	H－22
757	須恵器，土師質土器	古代	H－22
758	弥生土器	弥生	H－22
759	須恵器坏蓋，土師器・坏身，土師質土器	古代	H－22
760	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
761	弥生土器，サヌカイト	弥生	H－22
762	土師器，土師質土器	古代	H－22
763	土師器，土師質土器	古代	H－22
764	須恵器，土師質土器	古代	H－22
765	土師器，サヌカイト	古代	H－22
766	土師質土器	古代	I－21
767	須恵器坏身，土師器，土師質土器	古代	I－21
768	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	H－22
769	－	－	－
770	－	－	－
771	－	－	－
772	－	－	－
773	－	－	－
774	－	－	－
775	－	－	－
776	須恵器，土師質土器	古代	I－22
777	須恵器，土師質土器	古代	I－22
778	土師質土器	古代	I－22
779	須恵器，土師器	古代	I－22
780	弥生土器	弥生	I－22
781	須恵器	古代	I－22
782	－	－	－
783	須恵器坏蓋，土師器・坏・甕，土師質土器・甕	7世紀前半	I－22
784	須恵器坏蓋・土師質土器・サヌカイト	古代	H－22
785	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器	7世紀	H－22
786	土師質土器	古代	H－22

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
787	土師器，土師質土器	古代	H－22
788	須恵器，弥生土器，サヌカイト	古代	H－22
789	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－22
790	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
791	土師器，土師質土器	古代	I－22
792	土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
793	弥生土器	弥生	I－22
794	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
795	須恵器，土師質土器	古代	I－22
796	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
797	須恵器，土師質土器	古代	I－22
798	土師質土器	古代	I－22
799			I－22
800	須恵器	古代	I－22
801	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
802	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－22
803	弥生土器	弥生	I－22
804	弥生土器	弥生	I－22
805	弥生土器	弥生	I－22
806	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器，サヌカイト	6世紀末	I－22
807	土師質土器	古代	I－22
808	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
809	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
810	弥生土器	弥生	I－22
811	土師器，土師質土器	古代	I－22
812	須恵器・坏身・高坏，土師器・坏蓋，土師質土器・甕，サヌカイト	7世紀前半	I－22
813	土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
814	土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
815	須恵器・坏蓋，土師器・坏蓋，弥生土器，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	I－22
816	須恵器，土師器，土師質土器甕，サヌカイト	7世紀前半	I－22
817	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	I－22
818	土師器	7世紀	I－22
819	須恵器，土師質土器	古代	I－22
820	土師器坏，土師質土器	中世	I－23
821	弥生土器	弥生	I－23
822	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
823	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀前半	I－23
824	弥生土器甕	弥生後期	I－23
825	須恵器，土師質土器	古代	I－23
826	弥生土器	弥生	I－23
827	土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	I－23
828	土師質土器	古代	I－23
829	土師質土器	古代	I－23
830	須恵器，土師器	古代	I－23
831	土師器，亀山焼甕，土師質土器土釜，サヌカイト	13世紀前半	G－20
832	須恵器，土師器，亀山焼甕，土師質土器・鍋	13世紀前半	G－20
833	須恵器，土師器坏，亀山焼甕，土師質土器土釜，サヌカイト	13世紀前半	G－20
834	須恵器	古代	G－20
835	須恵器・高坏，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	G－20
836	須恵器・壺，土師質土器	7世紀	G－20
837	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－20
838	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－20
839	土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
840	土師質土器	古代	I－21
841	土師器，土師質土器	古代	G－20
842	土師器坏，土師質土器・土釜	13世紀	G－20
843	土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
844	土師質土器	古代	G－20
845	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
846	土師器，土師質土器	中世	G－20
847	須恵器，土師器，瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
848	瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
849	土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
850	土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
851	須恵器	古代	G－20
852	サヌカイト	弥生	G－20
853	須恵器，土師器	古代	G－20
854	土師質土器	古代	G－20
855	須恵器，土師器，瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
856	弥生土器	弥生	G－20
857	土師器，土師質土器	古代	G－20
858	弥生土器	弥生	G－20

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
859	土師器，土師質土器	古代	G－20
860	土師質土器	古代	G－20
861	土師器，土師質土器	古代	G－20
862	土師器坏，瓦器椀，土師質土器鍋	12世紀後半	G－20
863	土師器坏，瓦器椀，土師質土器	中世	G－20
864	土師器	中世	G－20
865	須恵器坏蓋，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	G－20
866	須恵器坏蓋，土師質土器・甕	7世紀前半	G－20
867	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
868	須恵器，土師質土器	古代	G－20
869	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
870	須恵器，土師器，土師質土器，焼土	7世紀	G－20
871	須恵器，土師器	古代	G－20
872	土師器，サヌカイト	古代	G－20
873	須恵器，土師器，土師質土器甕，サヌカイト	古代	G－20
874	土師質土器	古代	G－20
875	弥生土器	弥生	G－20
876	弥生土器鉢	弥生後期	G－20
877	土師質土器	古代	G－20
878	弥生土器	弥生	G－20
879	弥生土器	弥生	G－20
880	土師器坏，土師質土器	中世	G－20
881	土師器，土師質土器	古代	G－20
882	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－21
883	弥生土器甕，サヌカイト	弥生後期	G－21
884	土師器，土師質土器	古代	G－21
885	土師質土器・甕，サヌカイト	古代	G－21
886	土師器，土師質土器	古代	G－21
887	土師器・坏，土師質土器	7世紀	G－21
888	土師質土器，サヌカイト	古代	G－21
889	弥生土器，土師質土器	古代	G－21
890	土師質土器	古代	G－21
891	土師器，土師質土器	古代	G－21
892	土師器，土師質土器	古代	G－21
893	弥生土器	弥生	G－21
894	土師器，弥生土器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－21
895	土師質土器，サヌカイト	古代	G－21
896	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－21
897	土師器，土師質土器	古代	G－21
898	弥生土器	弥生	G－21
899	須恵器坏蓋，土師器，瓦器椀，土師質土器・甕	中世(古代)	G－21
900	須恵器，土師質土器	古代	H－20
901	土師器・甕，土師質土器	古代	H－20
902	土師質土器	古代	H－20
903	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－20
904	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀	H－20
905	土師質土器	古代	H－20
906	土師質土器	古代	H－20
907	土師質土器	古代	H－20
908	土師器	中世	H－20
909	弥生土器	弥生	H－20
910	土師器，土師質土器	古代	H－20
911	須恵器，土師質土器	古代	H－20
912	土師器，土師質土器	古代	H－20
913	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－20
914	土師質土器	古代	H－20
915	須恵器・高坏，土師器，土師質土器	7世紀	H－20
916	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－20
917	須恵器，土師質土器	7世紀	H－20
918	土師質土器，サヌカイト	古代	H－20
919	弥生土器	弥生	H－20
920	土師器，土師質土器	古代	H－20
921	土師器・坏，土師質土器	7世紀前半	H－20
922	土師質土器	古代	H－20
923	土師質土器	古代	H－21
924	土師質土器	古代	H－21
925	土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
926	弥生土器高坏	弥生中期後半	H－21
927	土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
928	弥生土器，サヌカイト	弥生	H－21
929	須恵器，弥生土器，サヌカイト	古代	H－21
930	土師器	古代	H－21

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
931	弥生土器	弥生	H－21
932	須恵器，弥生土器高坏，土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
933	土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
934	土師器小皿，土師質土器	中世	H－21
935	弥生土器	弥生	H－20
936	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器	7世紀前半	H－20
937	須恵器，土師質土器	古代	H－20
938	土師質土器	古代	H－20
939	土師質土器	古代	H－20
940	土師質土器	古代	H－20
941	土師質土器	古代	H－20
942	弥生土器	弥生	H－20
943	土師器，土師質土器	古代	H－20
944	弥生土器	弥生	H－20
945	土師質土器	古代	H－20
946	弥生土器，サヌカイト	弥生	H－20
947	弥生土器鉢	弥生後期	H－20
948	須恵器，須恵質瓦	古代	H－20
949	サヌカイト	弥生	H－20
950	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－20
951	土師質土器	古代	H－20
952	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	H－20
953	須恵器，土師質土器	古代	H－20
954	土師質土器	中世	H－21
955	須恵器，土師質土器	古代	H－21
956	土師質土器	古代	H－21
957	土師器・坏，土師質土器	8世紀	H－21
958	土師器，土師質土器	古代	H－21
959	土師質土器	古代	H－21
960	土師質土器	古代	H－21
961	須恵器，土師器	古代	H－21
962	土師質土器	古代	H－21
963	土師質土器	古代	H－21
964	土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	H－21
965	土師質土器	古代	H－21
966	土師質土器	古代	H－21
967	須恵器，土師質土器	7世紀	H－21
968	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
969	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
970	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－21
971	土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	H－21
972	土師器，土師質土器	中世	H－21
973	土師質土器	古代	H－21
974	須恵器	古代	H－21
975	土師質土器	古代	H－21
976	土師質土器	古代	H－21
977	土師質土器，サヌカイト	古代	H－21
978	須恵器・坏蓋，土師質土器	8世紀	H－21
979	土師質土器	古代	H－21
980	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀	H－21
981	弥生土器，サヌカイト	弥生	H－21
982	土師質土器	古代	H－21
983	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－21
984	土師質土器	古代	H－21
985	土師器，土師質土器	古代	H－21
986	須恵器，土師質土器	古代	H－21
987	土師器，土師質土器	古代	H－21
988	須恵器	古代	H－21
989	須恵器，土師質土器	古代	H－21
990	土師質土器	古代	H－21
991	弥生土器	弥生	H－21
992	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	H－21
993	須恵器，土師質土器	古代	H－20
994	土師質土器	古代	H－20
995	土師質土器，サヌカイト	古代	H－20
996	土師質土器	古代	G－21
997	土師器坏，土師質土器鍋	13世紀	H－21
998	土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	G－20
999	板石	不明	G－20
1000	土師器，瓦器椀，土師質土器	13世紀前半	G－20
1001	土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	G－20
1002	土師質土器，サヌカイト	中世	G－20

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
1003	土師器椀，瓦器椀	中世	G－21
1004	土師質土器，サヌカイト	中世	G－21
1005	弥生土器	弥生	G－21
1006	土師質土器	中世	G－21
1007	須恵器	古代	H－21
1008	弥生土器	弥生	H－21
1009	弥生土器，石鏃	弥生	H－20
1010	弥生土器	弥生	G－20
1011	土師器，土師質土器	古代	G－21
1012	土師器椀・小皿，瓦器椀，土師質土器	13世紀前半	G－19
1013	土師器小皿，瓦器椀，土師質土器	12世紀後半	G－19
1014	瓦器椀，土師質土器，サヌカイト	13世紀前半	G－19
1015	弥生土器甕，サヌカイト	弥生後期	H－21
1016	須恵器，土師質土器	古代	H－21
1017	弥生土器	弥生	H－22
1018	弥生土器	弥生	H－22
1019	須恵器坏蓋，サヌカイト	8世紀	H－22
1020	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	H－22
1021	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
1022	土師質土器	古代	H－22
1023	須恵器・壺，土師器，土師質土器	7世紀	H－22
1024	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	H－22
1025	須恵器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
1026	土師器，土師質土器	古代	H－22
1027	弥生土器	弥生	H－22
1028	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
1029	土師質土器	古代	H－22
1030	弥生土器	弥生	H－22
1031	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	H－22
1032	土師器，サヌカイト	古代	H－22
1033	須恵器，土師質土器	古代	H－22
1034	土師質土器	古代	H－22
1035	土師質土器	古代	H－22
1036	土師器坏，土師質土器	7世紀	H－22
1037	土師質土器	古代	H－22
1038	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－22
1039	土師質土器	古代	H－22
1040	土師質土器	古代	H－22
1041	土師質土器	古代	H－22
1042	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀	H－22
1043	須恵器，土師質土器	古代	H－22
1044	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	H－22
1045	弥生土器	弥生	I－22
1046	土師質土器	古代	I－22
1047	土師質土器	古代	I－22
1048	土師器・坏，土師質土器	7世紀	I－22
1049	弥生土器	弥生	I－22
1050	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
1051	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
1052	弥生土器・壺，打製石斧	弥生中期後半	I－22
1053	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
1054	弥生土器	弥生	I－22
1055	土師質土器	古代	I－22
1056	弥生土器	弥生	I－22
1057	弥生土器・壺，サヌカイト	弥生後期	I－22
1058	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
1059	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
1060	土師器，弥生土器	古代	I－22
1061	弥生土器	弥生	I－22
1062	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
1063	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－22
1064	弥生甕	弥生後期	I－22
1065	土師器，土師質土器	古代	I－23
1066	弥生土器	弥生	I－23
1067	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
1068	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀	I－23
1069	土師質土器	古代	I－23
1070	須恵器，土師質土器	7世紀前半	I－23
1071	須恵器坏身，土師質土器	8世紀後半	I－23
1072	土師器，土師質土器	古代	I－23
1073	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
1074	弥生土器	弥生中期後半	I－23

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
1075	土師器，サヌカイト	古代	I－23
1076	弥生土器	弥生	I－23
1077	弥生土器	弥生後期	I－23
1078	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀前半	I－23
1079	弥生土器・壺・鉢	弥生後期	I－23
1080	弥生土器，サヌカイト	弥生後期	I－23
1081	弥生土器，サヌカイト	弥生後期	I－23
1082	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀前半	G－19
1083	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀前半	F－19
1084	須恵器・高坏，土師器，甕，土師質土器，製塩土器	7世紀	G－19
1085	土師器	7世紀	G－19
1086	土師器	7世紀	G－19
1087	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器	7世紀前半	G－19
1088	瓦質土器こね鉢	12世紀後半	G－20
1089	土師質土器	古代	J－24
1090	土師質土器	古代	J－23
1091	弥生土器	弥生	J－23
1092	須恵器坏蓋，土師器，土師質土器	7世紀前半	J－23
1093	弥生土器，サヌカイト	弥生	J－23
1094	弥生土器	弥生	I－23
1095	弥生土器	弥生	I－23
1096	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
1097	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
1098	須恵器，土師質土器	古代	I－23
1099	土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
1100	弥生土器	弥生	I－23
1101	弥生土器	弥生	I－23
1102	弥生土器	弥生	I－23
1103	弥生土器	弥生	I－23
1104	土師器	古代	I－23
1105	弥生土器	弥生	I－23
1106	弥生土器	弥生	I－23
1107	須恵器，弥生土器	古代	I－23
1108	土師質土器	古代	I－23
1109	土師器，弥生土器	古代	I－23
1110	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀前半	I－23
1111			I－23
1112	弥生土器	弥生後期	I－23
1113	土師器坏身，土師質土器	中世	I－23
1114	サヌカイト	弥生	I－23
1115	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－23
1116	須恵器，土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
1117	弥生土器	弥生	I－23
1118	土師器坏，弥生土器，サヌカイト	10世紀	I－23
1119	須恵器坏蓋，土師器坏身，土師質土器	7世紀前半	I－23
1120	土師器坏，土師質土器，サヌカイト	中世	I－23
1121	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
1122	須恵器高坏，土師質土器	7世紀前半	I－23
1123	土師質土器	古代	I－23
1124	弥生土器	弥生	I－23
1125	弥生土器	弥生後期	I－23
1126	土師器	中世	I－23
1127	土師器，弥生土器，サヌカイト	古代	I－23
1128	土師質土器	古代	I－23
1129	土師器，土師質土器	中世	I－23
1130	弥生土器	弥生	I－23
1131	弥生土器	弥生	I－23
1132	弥生土器	弥生	
1133	弥生土器	弥生	I－22
1134	土師質土器	古代	I－22
1135	須恵器，土師質土器	古代	I－22
1136	弥生土器	弥生	I－22
1137	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－22
1138	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－23
1139	土師質土器，サヌカイト	古代	I－23
1140	須恵器坏蓋，土師質土器	7世紀前半	I－23
1141	弥生土器	弥生	I－23
1142	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－24
1143	須恵器，土師器，土師質土器	古代	I－24
1144	土師器，サヌカイト	古代	I－24
1145	土師器，サヌカイト	古代	I－24
1146	弥生土器，サヌカイト	弥生	I－24

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
1147	弥生土器	弥生	J－24
1148	弥生土器，サヌカイト	弥生	G－20
1149	土師器坏，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	G－20
1150	土師器，土師質土器，サヌカイト	7世紀	G－20
1151	須恵器，土師器坏，瓦器椀，土師質土器・土釜	13世紀前半	G－20
1152	土師器坏，土師質土器釜，瓦質土器椀	13世紀前半	G－20
1153	土師質土器	中世	G－20
1154	土師質土器	中世	G－20
1155	土師質土器	中世	G－20
1156	土師器	古代	G－20
1157	須恵器高坏，土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
1158	須恵器，土師質土器	古代	G－20
1159	弥生土器	弥生	G－20
1160	土師質土器	古代	G－20
1161	須恵器	古代	G－20
1162	土師質土器	古代	G－20
1163	須恵器，土師質土器	古代	G－20
1164	須恵器，土師質土器	古代	G－20
1165	須恵器，土師器，土師質土器	古代	G－20
1166	土師器，土師質土器，サヌカイト	中世	G－20
1167	土師質土器	中世	G－20
1168	土師質土器	古代	G－20
1169	土師質土器	古代	G－20
1170	土師質土器	古代	G－20
1171	須恵器，土師質土器	古代	G－20
1172	須恵器坏蓋	7世紀前半	G－20
1173	土師質土器，サヌカイト	古代	G－20
1174	土師質土器	古代	G－20
1175	須恵器	古代	G－20
1176	須恵器坏蓋，土師質土器	古代	G－20
1177	土師質土器	古代	G－20
1178	須恵器，土師器，土師質土器甕	古代	G－20
1179	土師質土器	古代	H－20
1180	土師質土器	古代	H－20
1181	須恵器，土師器坏身，土師質土器	8世紀	H－20
1182	須恵器，土師質土器	古代	H－20
1183	弥生土器	弥生	H－20
1184	土師質土器	古代	H－20
1185	土師質土器	古代	H－20
1186	須恵器，土師器，土師質土器	古代	H－20
1187	須恵器，土師質土器	古代	H－21
1188	土師器，土師質土器	中世	H－21
1189	須恵器，土師質土器	古代	H－21
1190	土師器	古代	H－21
1191	土師器，土師質土器，サヌカイト	古代	G－21
1192	弥生土器	弥生	H－21
1193	弥生土器	弥生	H－21
1194	須恵器，土師質土器	古代	H－21
1195	弥生土器	弥生後期	H－21
1196	弥生土器	弥生	
1197	須恵器，土師器，弥生土器	7世紀前半	J－24
1198	土師器	10世紀	J－24
1199	弥生土器	弥生後期初頭	J－24
1200	弥生土器	不明	J－24
1201	弥生土器	不明	J－24
1202	土師器，弥生土器，サヌカイト	不明	J－24
1203	弥生土器，サヌカイト	不明	J－24
1204	弥生土器	弥生後期初頭	J－24
1205	弥生土器，サヌカイト	不明	J－24
1206	サヌカイト	不明	J－24
1207	弥生土器	不明	J－24
1208	土師器	不明	J－24
1209	弥生土器	不明	J－24
1210			J－24
1211	弥生土器	弥生後期	J－24
1212	弥生土器，サヌカイト	不明	J－24
1213	弥生土器	弥生後期	J－24
1214	弥生土器，サヌカイト	弥生後期	J－23
1215	須恵器	不明	J－23
1216	弥生土器，サヌカイト	不明	J－23
1217	土師器	不明	I－23
1218	弥生土器	不明	I－23

遺構番号	出土遺物	時期	グリット
1219	須恵器，土師器，瓦器	13世紀前半	I－23
1220	弥生土器	不明	I－23
1221	弥生土器，サヌカイト	不明	J－25
1222	弥生土器，サヌカイト	不明	K－25
1223	土師質土器	不明	K－25
1224	土師器	不明	J－24
1225	瓦質土器椀・こね鉢	13世紀前半	F－18
1226	土師器，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	F－18
1227	土師質土器	中世	F－18
1228	土師器小皿，土師質土器	13世紀	F－18
1229	土師器坏，土師質土器	13世紀	F－18
1230	土師器	中世	F－18
1231	土師質土器	中世	F－18
1232	土師質土器	中世	F－18
1233	土師質土器	古代	F－18
1234	土師質土器，瓦質土器椀	13世紀	F－18
1235	土師器，土師質土器	13世紀	F－18
1236	土師器，土師質土器	13世紀	F－18
1237	土師器，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀	F－18
1238	土師器・土釜	13世紀後半～14世紀前半	F－18
1239	土師質土器，瓦質土器	13世紀	F－18
1240	須恵器，土師質土器土釜	中世	F－18
1241	土師質土器，サヌカイト	古代	F－18
1242	須恵器，土師器	8世紀	F－18
1243	土師質土器	古代	F－18
1244			F－18
1245			F－18
1246			F－18
1247	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1248	土師質土器	古代	F－18
1249	須恵器，土師器，サヌカイト	古代	F－18
1250	須恵器，土師器，土師質土器	古代	F－18
1251			F－18
1252			F－18
1253	土師器小皿，土師質土器土鍋	13世紀	F－18
1254			F－18
1255	土師器，土師質土器	中世	F－18
1256	土師器坏	中世	F－18
1257	土師器坏，瓦器椀，土師質土器，鉄	13世紀	F－18
1258	土師質土器	中世	F－18
1259	土師器，土師質土器	中世	F－18
1260	土師器，土師質土器	中世	F－18
1261	須恵器，土師器，土師質土器	中世	F－18
1262	土師器	古代	F－19
1263	須恵器，土師器	古代	F－18
1264	サヌカイト	不明	F－18
1265			F－18
1266			F－19
1267	土師器，土師質土器	中世	F－19
1268	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1269	土師器，土師質土器	古代	F－19
1270	土師器椀	中世	F－19
1271			F－18
1272	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1273	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1274	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1275	土師質土器	古代	F－18
1276	須恵器，土師器，土師質土器	中世	F－18
1277	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1278	土師質土器土鍋	中世	F－18
1279	須恵器，土師質土器	中世	F－18
1280			F－18
1281	須恵器，土師器，土師質土器	7世紀	F－19
1282	土師器，瓦器，備前焼，土師質土器	中世	F－18
1283	土師器	中世	F－19
1284	土師器，土師質土器，瓦質土器椀	13世紀	F－18
1285	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1286	土師器，土師質土器	中世	F－18
1287	須恵器，土師質土器	古代	F－18
1288	須恵器，土師器，土師質土器	中世	F－18
1289	土師器，土師質土器	中世	F－18
1290	土師質土器，瓦質土器椀	13世紀前半	F－18
1291	土師器坏，土師質土器	中世	F－19

10. 包含層出土遺物

2185～2302は包含層出土遺物である。その中で2185～2228は調査区全体において機械掘削時及び包含層出土遺物である。2229～2253は調査区中央部で弥生時代後期及び古代の遺構面を形成しているベース層があり，このベース層からの出土遺物である。また，2254～2302も同様に調査区南端部分の弥生時代後期及び古代の遺構面を形成しているベース層があり，このベース層からの出土遺物である。

以下それぞれについて説明したい。

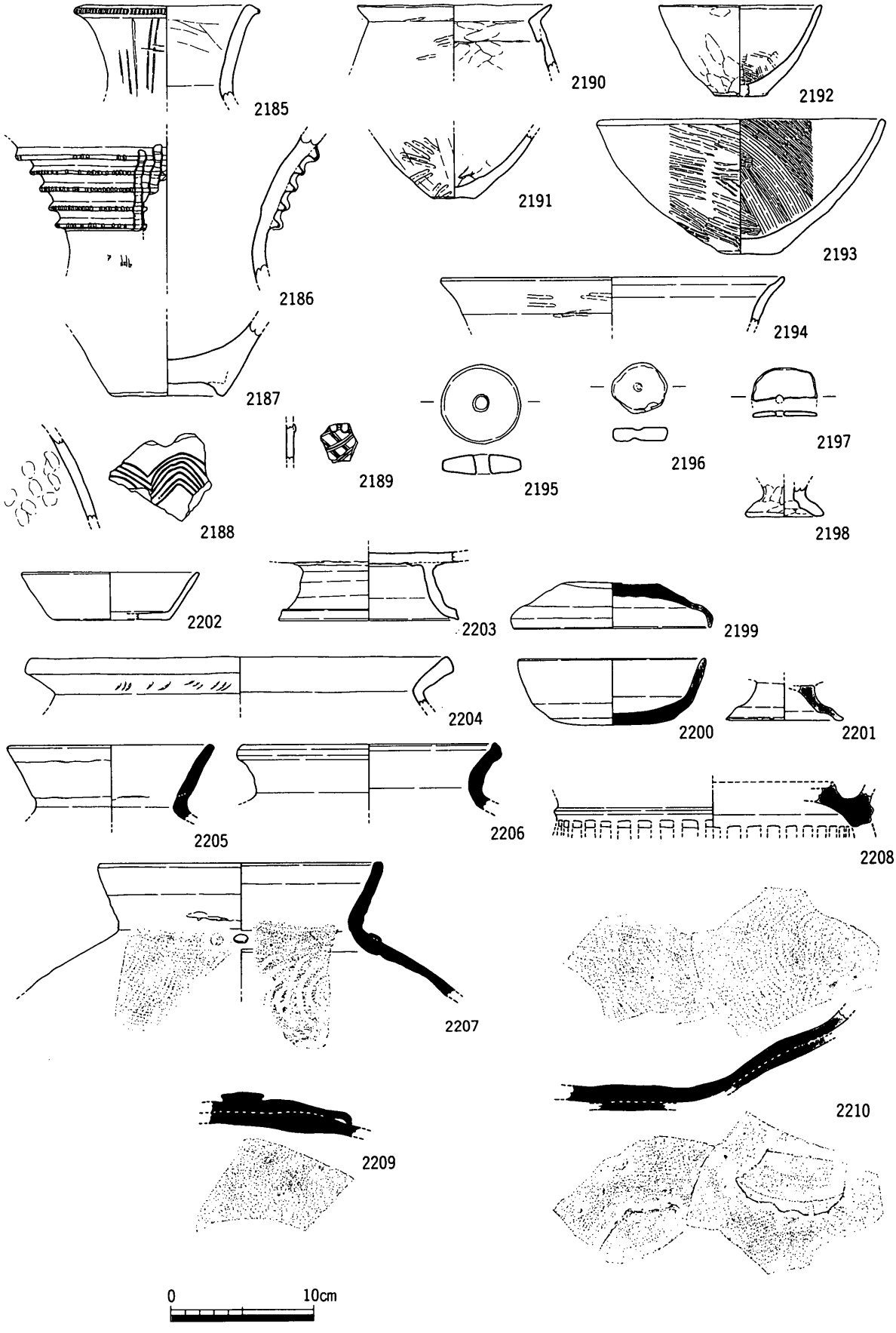
まず，調査区全体から出土した遺物は2185～2228で（第199～201図），時期的に弥生時代中期中葉のものから中世のものまで含まれる。2195は紡錘車で，2196・2197のように体部を転用して作っているものではなく，製作時から紡錘車として作ったものである。2196は紡錘車の未製品である。両面から穿孔の痕跡が確認できるが，貫通していない。2199は須恵器坏蓋で，天井部につまみの付かないものである。天井部はヘラ切り未調整で，口縁部は下方に屈曲し，器高の低いものである。2208は須恵器円面硯である。硯面の陸部周囲に凸帯状の摘み出し（内堤）があり，陸部を形成している。外堤は欠損してどこまで延びるか不明である。脚部の透かしは長方形を呈し，復元個数は約40個である。内堤のあるものは香川県で讃岐国分寺跡で出土しているのみで，県内２例目である。2209・2210は須恵器の溶着遺物である。2209は須恵器甕の体部と須恵器蓋が溶着しているもので，2210は須恵器甕に須恵器坏が溶着しているものである。付近に須恵器窯が存在し，須恵器甕を焼台として使用していた可能性が考えられる。2214は土師質脚である。器種は不明であるが，脚の可能性を考えている。2215は固定式の竈の一部と考える。縁部を中空の断面三角形状に作り，直線的な部分のもので，内外面に刷毛目を多用している。2216は銀環である。銅芯に銀メッキしている。2225は結晶片岩製の石錘である。細長い紡錘形を呈し，側辺及び短辺に１条の刻み目を入れ，溝としている。

調査区中央部から出土した遺物は2229～2253で（第202・203図），時期的に弥生時代中期中葉から後期初のが出土している。包含層は第１～４層まで確認でき，第１・２層出土遺物が2229～2241で，第３層出土遺物が2242～2249で，第４層出土遺物が2250～2253である。2229・2230は弥生時代中期中葉の壺であるが，2231はやや新しい甕の可能性がある。2235はサヌカイト製の石庖丁である。2238はサヌカイト製の石鎌である。2240はサヌカイト製のスクレイパーであったものを石錐に転用したものと考える。両機能兼用石製品の可能性もある。

時期は第１・２層が弥生時代中期中葉から後期初頭で，第３・４層が弥生時代中期中葉と考える。

調査区南部から出土した遺物は2254～2302で（第204～206図），時期的に弥生時代中期中葉のものである。包含層は第１～３層まで確認でき，第１層が2254～2282で，第２層出土遺物が2283～2299で，第３層出土遺物が2300～2302である。

2254～2258は壺で，頸部はやや外反しながら上方に延び，口縁部は上方に面を持つ壺が目立つ。2257は口縁部がほぼ水平に延びる壺で，口縁部外面に斜格子の刻み目を持つ。2258は無頸壺で，口縁部外面に５条の刻み目凸帯を持ち，その下位に櫛描沈線と櫛描波状文を施す。2259～2262は甕である。2260は体部が卵形を呈し，頸部が「く」の字に屈曲し，口縁部をそのまま終わらせる。体部最大径はやや上位にあり，体部外面にはその最大径部分を境にして上位に刷毛目，下位にヘラ磨きが施されている。体部内面は上位に刷毛目を施しその上に横方向のヘラ磨き，さらに下位に縦方向のヘラ磨きが施されている。2270～2282はサヌカイト製品である。



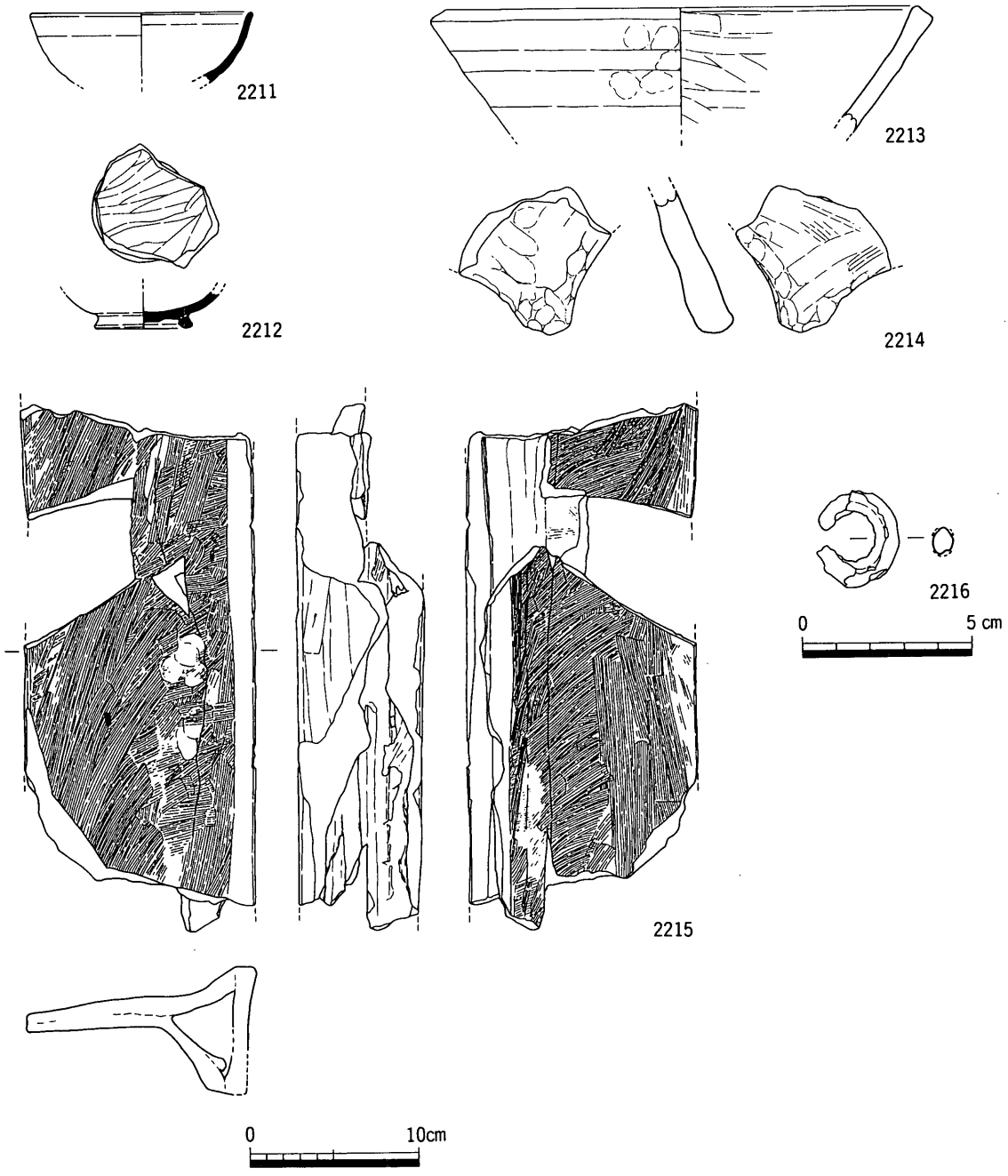
第199図　包含層出土遺物実測図①

第１層の時期は弥生時代中期中葉である。

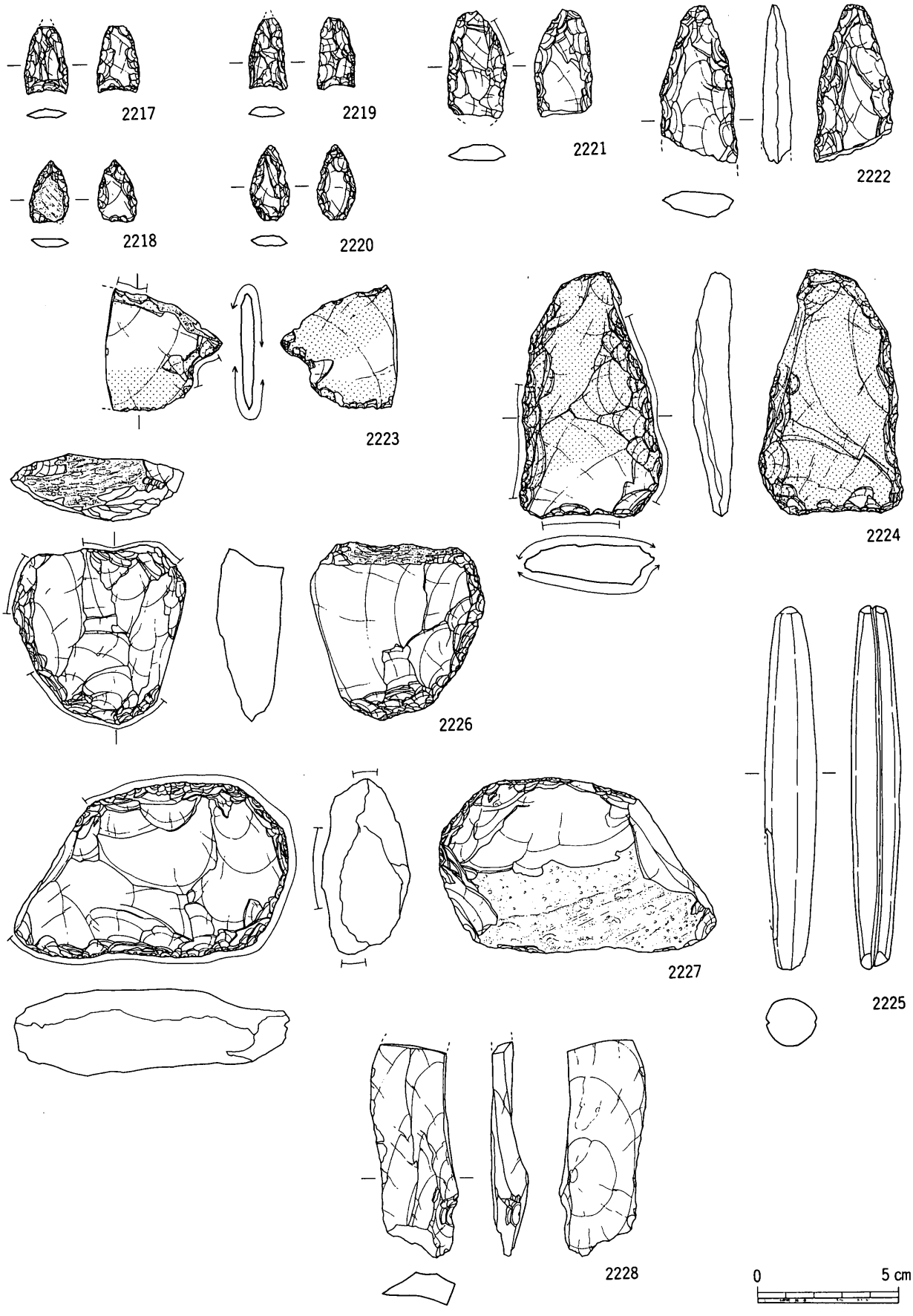
2283は壺で，第１層出土の壺に近似する。2285はバケツ型の甕で，口縁部まで直に延びる。ＳＤ43出土のものと近似する。2292～2299はサヌカイト製品である。

第２層の時期は第１層と同様の弥生時代中期中葉である。

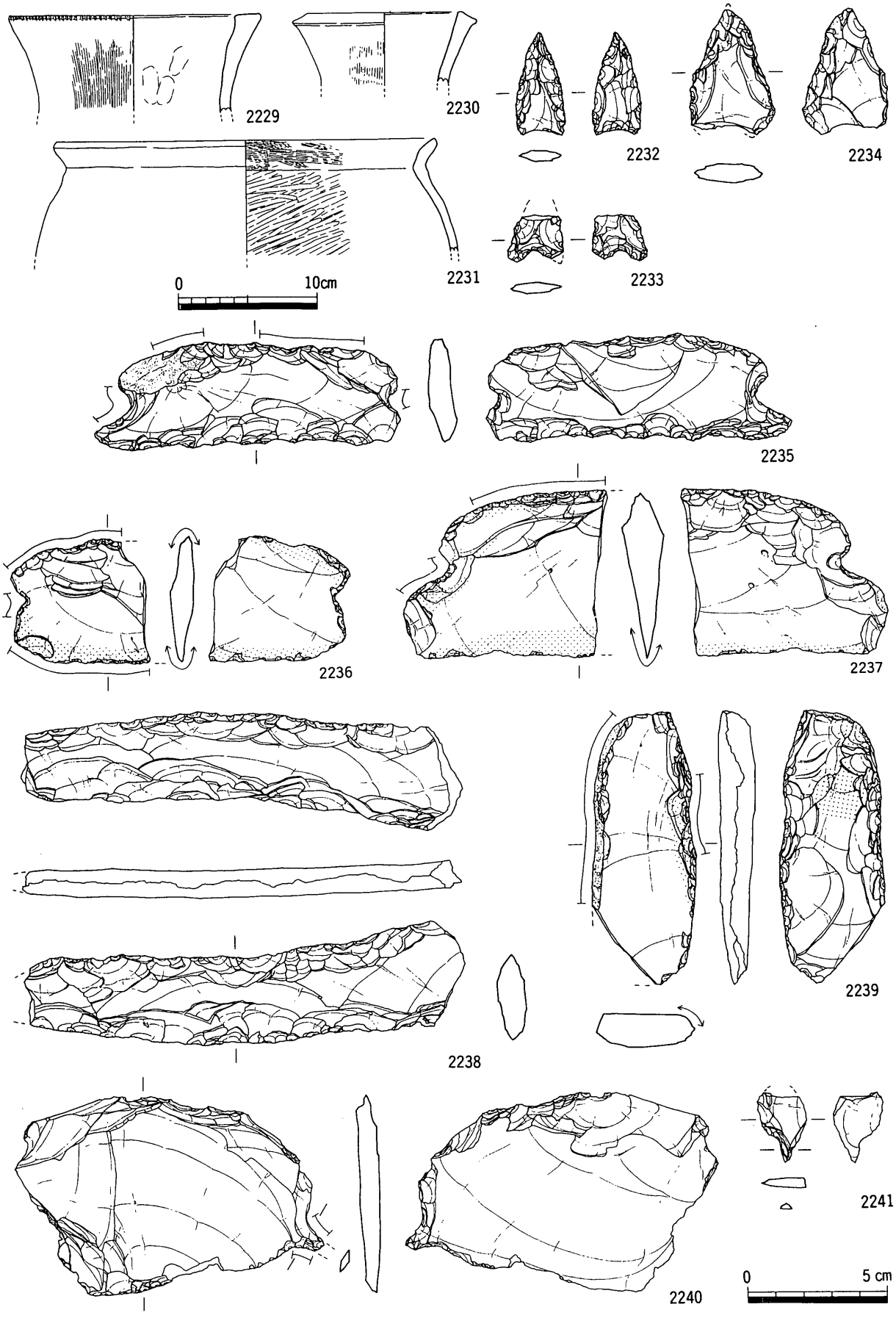
2300～2302は第３層出土のサヌカイト製品である。



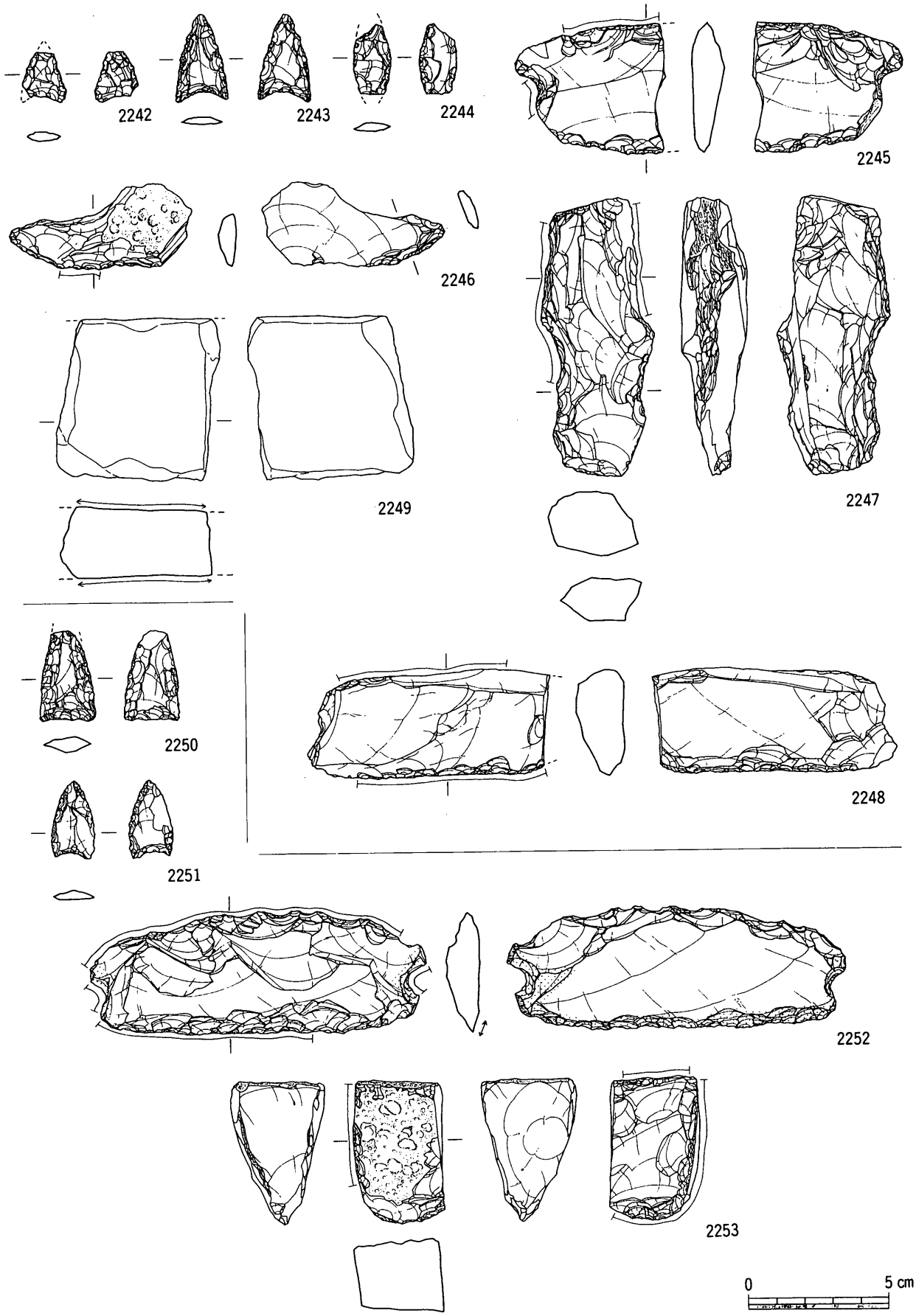
第200図　包含層出土遺物実測図②



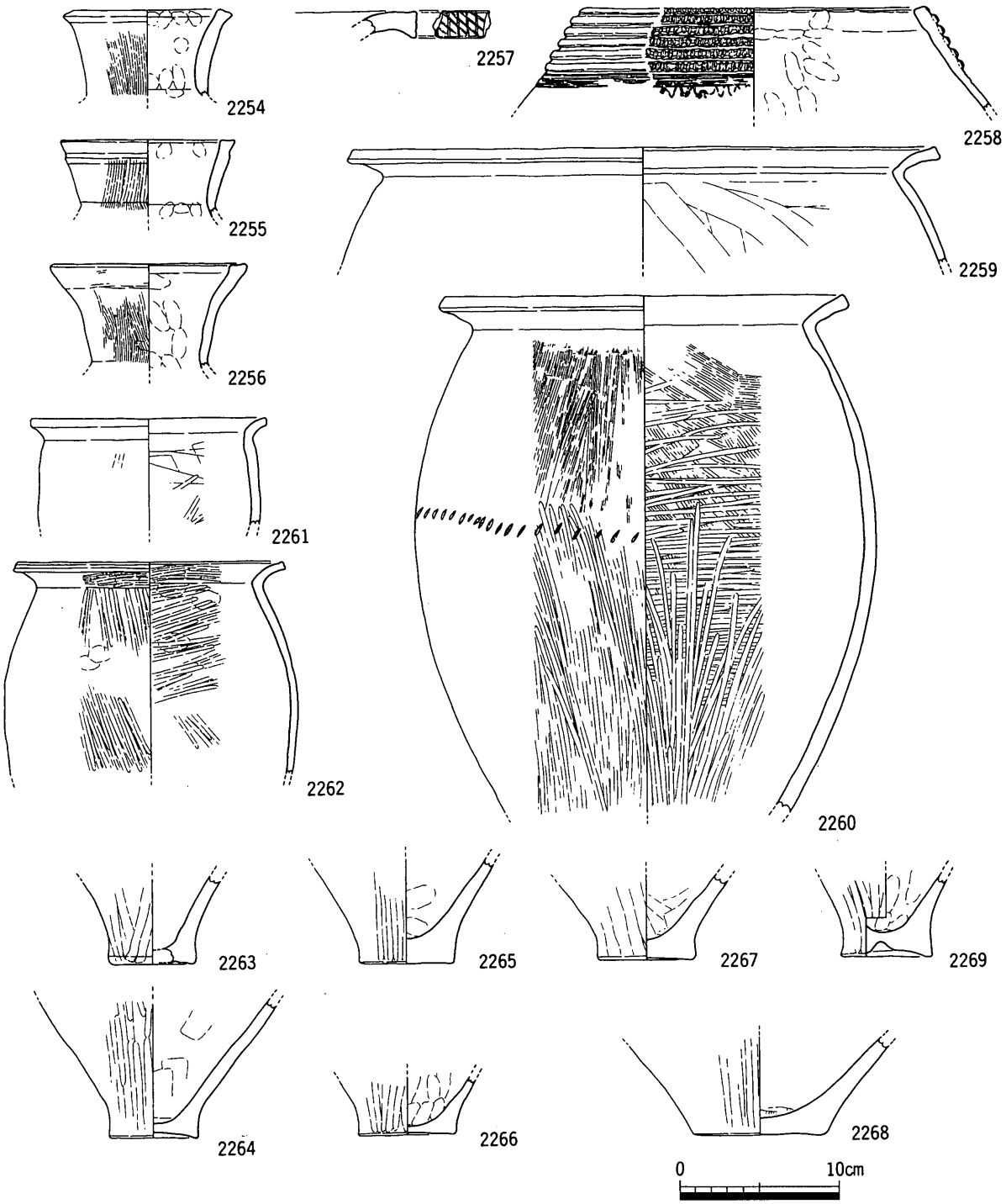
第201図　包含層出土遺物実測図③



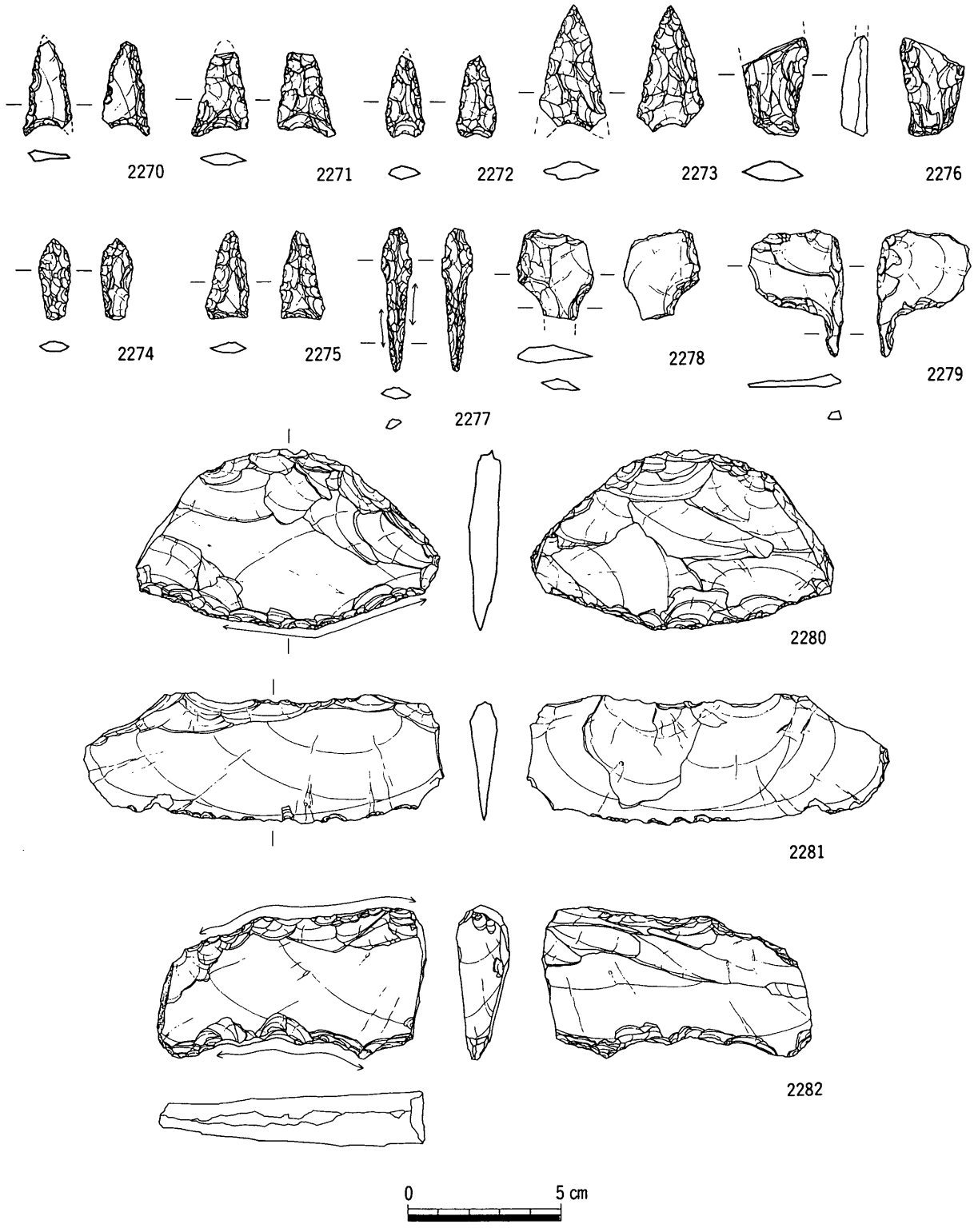
第202図　中央部包含層第１・２層出土遺物実測図



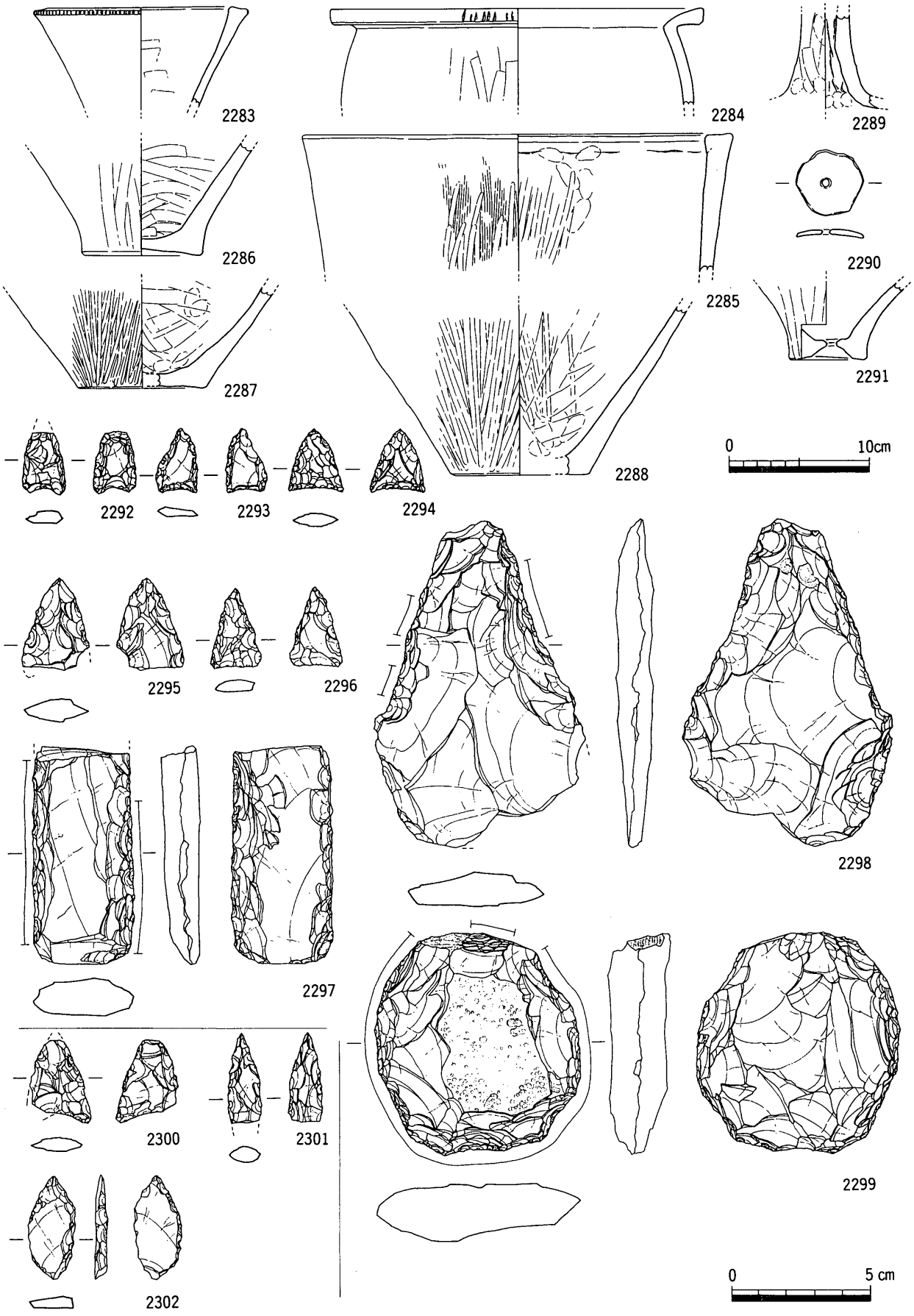
第203図　中央部包含層第３・４層出土遺物実測図



第204図　南部包含層第１層出土遺物実測図①



第205図　南部包含層第１層出土遺物実測図②



第206図　南部包含層第２・３層出土遺物実測図

第4節　まとめ

1．遺構の変遷について

川津一ノ又遺跡で検出した遺構は，竪穴住居5棟，掘立柱建物19棟，土坑15基，土壙墓6基，溝状遺構45条，畦畔状遺構，柱穴1,291個である。時期は弥生時代から中世まであり，継続的に営まれた集落址であることが判明した。

以下それぞれの遺構を出土遺物により時期ごとに大別すると弥生時代・古代・中世の3時期に分けられ，さらに弥生時代を2小期，古代を4小期，中世を3小期に細分し，説明する。

弥生Ⅰ期（弥生時代中期中葉，第207図①）

弥生時代Ⅰ期は弥生時代中期中葉で，畿内第Ⅲ様式の時期である。検出された遺構は，竪穴住居1棟，土坑1基，溝3条が確認されている。この時期の遺構はあまりなく，調査区全域であまり纏まりを持たない。

竪穴住居は北部で検出され，溝は中央部と南部で検出している。この時期の遺構はあまり確認されておらず，集落の縁辺部であることがわかる。溝は調査区をほぼ横切るもので，規格性を持たないが，溝内からは多量の遺物が出土しており，周辺に集落の可能性が推察できる。また，第4図で確認されているように明茶黄色粘質土の地山が確認されていない部分は砂層を基本とした堆積で，当該期の遺物を包含している。この包含層部分は当該期には旧流路であったものと思われ，その部分には遺構は検出されていない。

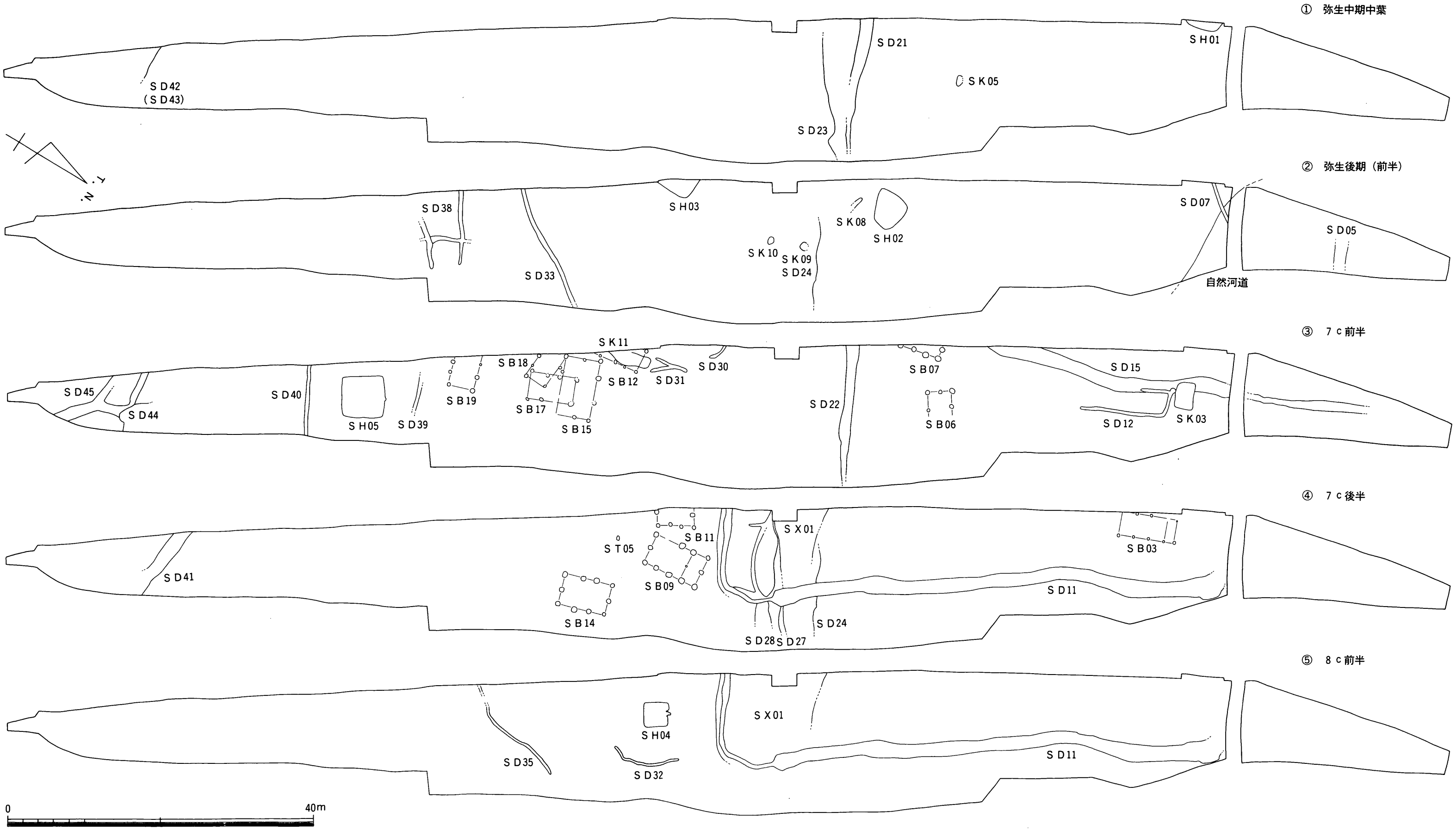
弥生Ⅱ期（弥生時代後期前半，第207図②）

弥生時代Ⅱ期は弥生時代後期前半で，畿内第Ⅴ様式前半の時期である。検出された遺構は，竪穴住居2棟，土坑3基，溝5条が検出されている。竪穴住居2棟は，平面形態が隅丸方形で，その主軸はほぼ南北に持つ。当該期の溝は規則性を持たず，ＳＤ33はやや蛇行しながら南西方向から北東方向に流路を持つもので，竪穴住居との関係は明確ではない。ＳＤ26～28はほぼ調査区中央部のＳＸ01下で検出されたもので，弥生時代中期の溝も同じ部分で検出されていることからこの部分が湿地状を呈し，やや不安定な部分であったことがわかる。当期においてもこれらの遺構以外に検出されておらず，中心部分ではなく縁辺部であることがわかる。

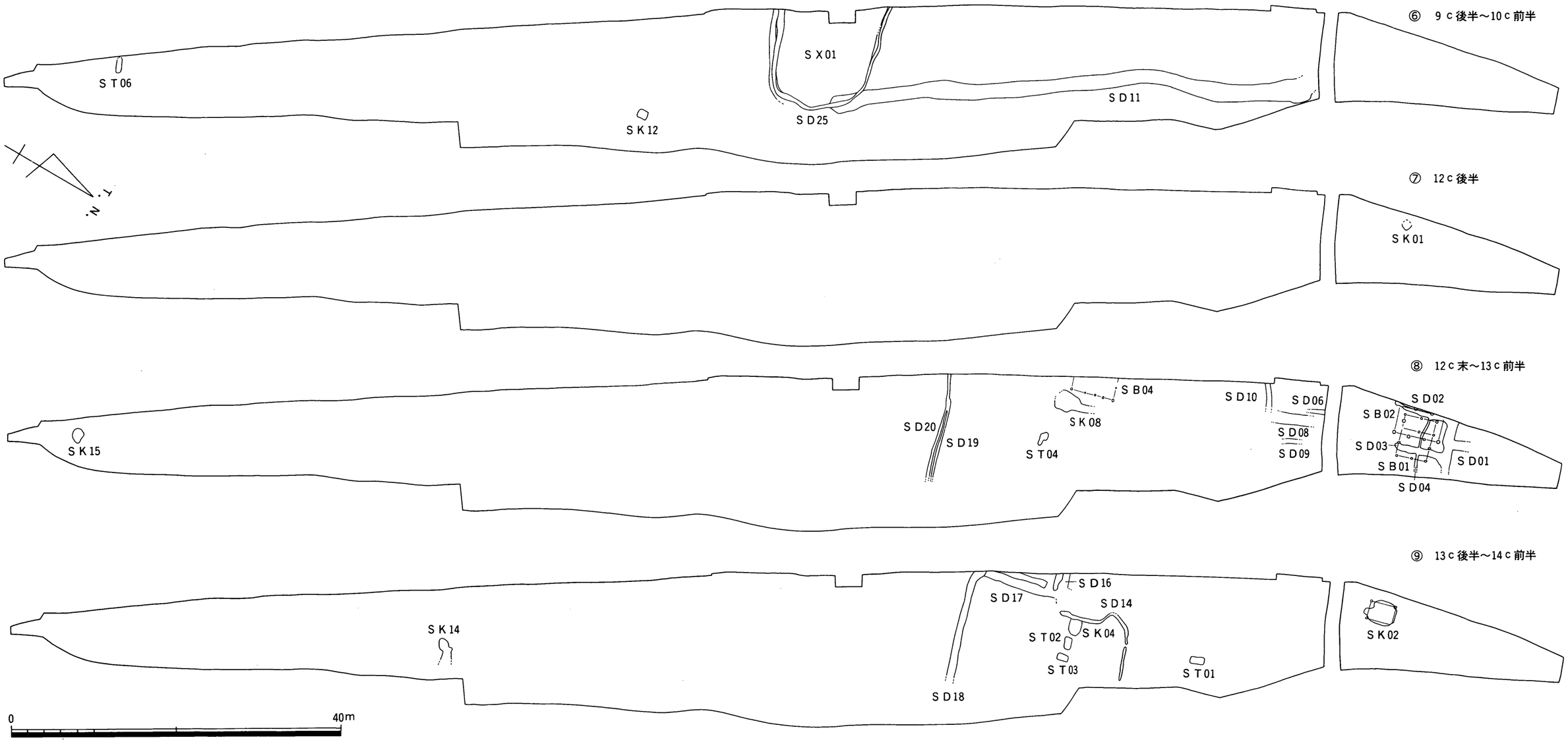
古代Ⅰ期（7世紀前半，第207図③）

弥生時代からやや時期をあけて次に遺構が確認される時期は，古代Ⅰ期（7世紀前半）である。この時期になると調査区全域で多数の遺構が検出されている。検出された遺構は，出土遺物からみると竪穴住居1棟，掘立柱建物7棟，土坑2基，溝9条である。

上記した竪穴住居・掘立柱建物のほとんどは，この溝間で検出されている。遺構の概要は調査区をほぼ東西に横切るＳＤ40を境に南部では支流を持つＳＤ45が南東方向から北西方向に流れており，竪穴住居・掘立柱建物等の遺構は検出されていない。一方北部ではＳＤ40と南北主軸が直行する竪穴住居（ＳＨ05）が検出されている。また調査区中央部では同じ流路を持つ溝ＳＤ22が検出されており，その間隔は約71mを計る。つまり当該期の遺構はこの2条の溝に規制され，ほぼ竪穴住居・溝の主軸（W－33.0°－N）にほぼ合致するものが当該期の遺構であると考える。そうすると柱穴出土遺物から当該期にした掘立柱建物（ＳＢ06・07・12・15・17



第207図　川津一ノ又遺跡遺構変遷図①



第208図　川津一ノ又遺跡遺構変遷図②

18・19）のなかでほぼ33°西偏する主軸を持つ掘立柱建物はＳＢ06のみとなる。また，ＳＤ22から北部では掘立柱建物と土坑・溝が検出されている。特にＳＤ15は埋土に多量の明茶黄色粘質土（地山）のブロックを含んでおり，土層及び掘削状況・出土遺物から意図的にしかも短期間に埋められたことがわかる。このＳＤ15は土坑ＳＫ03に切られているが，出土遺物をみるとほとんど時期差はなく，埋土のなかに多量の獣骨片を含んでいることも同じであることがわかる。

以上のように当該期の遺構は主としてＳＤ22とＳＤ40に挟まれた間に存在し，竪穴住居はほぼ主軸方向を規制されているものと考えられる。しかし，出土遺物から当該期の遺構とした掘立柱建物の主軸方向には溝による規制があまりみられないことがわかった。ここでは掘立柱建物を構成する柱穴の切り合いがあまりないため出土遺物からの時期決定を第一義に当該期の遺構としたが掘立柱建物については問題を残したままである。

古代II期（７世紀後半，第207図④）

古代II期は７世紀後半を中心とする時期である。検出された遺構は出土遺物からみると掘立柱建物４棟，溝５条，土壙墓１基，不明遺構がある。

これらはほとんどが中央部より北部で検出されており，南部では古代Ｉ期の溝が集約され，１条になっている。建物の中心は中央部で，そのすぐ北部では弥生時代から低湿地状の部分にＳＸ01としたおそらく水田と考えられる遺構が検出されている。このＳＸ01からは北部に流路をとる溝が検出されており，その排水施設と考えられる。掘立柱建物は古代Ｉ期と同様に中央部で検出されており，出土遺物からみるとＳＢ03・09・11・14が当該期に当たる。その主軸は７～30°西偏と幅があり，一定しない。

古代III期（８世紀前半，第207図⑤）

古代III期は８世紀前半を中心とする時期である。検出された遺構は出土遺物からみると竪穴住居１棟，溝３条，不明遺構がある。

これらの遺構はほとんどが古代Ｉ期・II期と同様にほぼ同じ部分で検出されており，継続性がみられる。竪穴住居も中央部で検出されており，それに伴う掘立柱建物は出土遺物からはないが，主軸方向からみるとほぼ20～25°西偏するＳＢ10・11・14・17などが考えられる。

不明遺構は古代II期より継続している。８世紀前半の竪穴住居は県内では検出されておらず，掘立柱建物への居住施設の変化を考えるにあたり貴重な資料といえる。

古代IV期（９世紀後半から10世紀前半，第208図⑥）

古代IV期は９世紀後半から10世紀前半を中心とする時期である。検出された遺構は出土遺物からみると土坑１基，土壙墓１基，溝２条，不明遺構である。

土壙墓は南部で１基検出されているだけで，纏まりをみない。また，ＳＸ01は７世紀後半段階から継続してあるもので，この時期も機能していたことがわかる。

集落の縁辺部と思われ，中心部ではない。

中世Ｉ期（12世紀後半，第208図⑦）

中世Ｉ期は12世紀後半を中心とする時期で，検出された遺構は出土遺物からみると土坑１基

のみである。時期設定を行ったが，集落としては確認されていない。

中世II期（12世紀末から13世紀前半，第208図⑧）

中世II期は12世紀後半から13世紀前半を中心とする時期である。検出された遺構は出土遺物からみると掘立柱建物３棟，土坑１基，土壙墓１基，溝10条である。

遺構の中心は，古代では調査区中心部であったものが，北部に移動していることがわかる。溝ＳＤ19・20によって区画されているものと思われ，この溝より南には遺構は検出されていない。北部でもＳＤ01が検出されており，ＳＤ19・20との間隔は約61.2mを計る。これら流路の方向は現在の丸亀平野東部に残る方格地割の方向にほぼ合致し，南北軸が約20°西偏する。

中世III期（13世紀後半から14世紀前半，第208図⑨）

中世III期は13世紀後半から14世紀前半を中心とする時期である。検出された遺構は出土する遺物からみると土坑２基，土壙墓３基，溝４条である。溝及び掘立柱建物の主軸はほぼ中世II期と同様で，継続性が認められる。とくにこの時期では墓域の設定が顕著にみられ，溝による区画が確認できた。

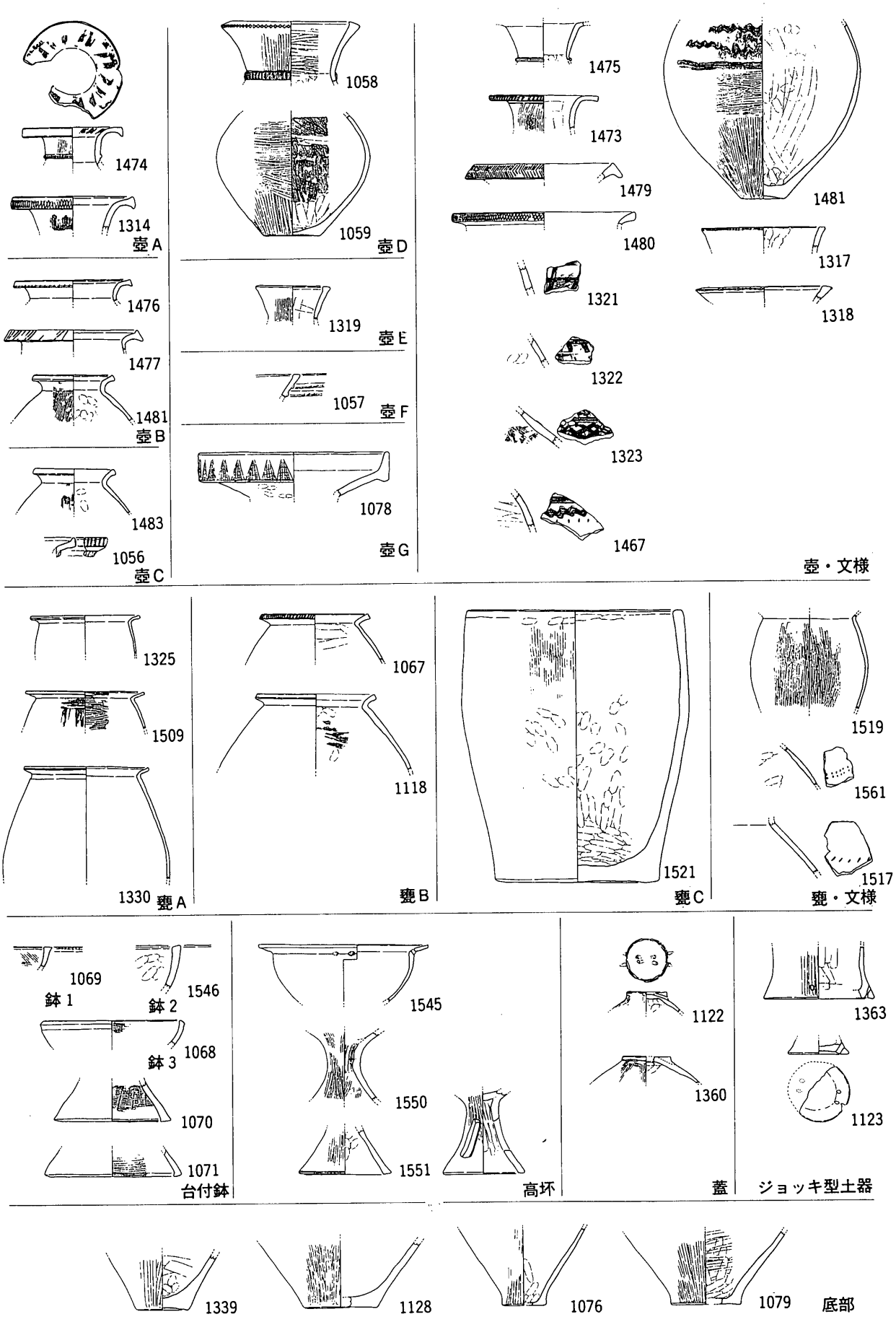
中世の遺構，特に柱穴は多数検出されているが，掘立柱建物を抽出するまでには至っていないことから中世の集落についてはかなりの課題を残している。

以上川津一ノ又遺跡で検出した遺構を時期ごとにその変遷をみたが，大まかに弥生時代から中世にかけての集落の変遷に過ぎず，古代から中世にかけての集落の移動は確認できたが，調査区の幅が狭いこともあり，全体像は捉えられなかった。今後四国横断自動車道建設で調査が行われた川津一ノ又遺跡III区・IV区の調査結果と総合的にみることにより飯野山北部の集落の全体像が見えてくるものと考える。

２．弥生時代中期中葉の土器について

弥生時代中期中葉の遺構は，竪穴住居１棟，溝５条が確認されている。これらの遺構は調査区全域で検出されているが，密度は疎らで当該期の集落としては縁辺部に位置しているものと考えられる。しかし，検出された溝からは多量の弥生土器・サヌカイト製品が出土しており，明らかに周辺に当該期の集落の本体部分があったことを窺わせるものである。この溝出土の遺物は明確に器種構成がわかるもので，時期も弥生時代中期中葉前半（畿内第III様式前半）を中心とし，あまり混ざりのないかなり一括性の高い遺物である。そこでこの溝出土遺物を器種ごとに説明することで，当該期の土器様相を観るものである。

まず，土器様相を述べる前に検出されている溝ＳＤ21・23・24・42・43の状況を説明する。ＳＤ21は調査区中央部で検出された溝で，天幅約1.32m，深さ約0.47mを計る断面緩やかな「U」字型を呈するしっかりした掘方をもつものである。出土遺物は第135～137図（1055～1092）で，壺・甕・鉢・サヌカイト製品などが多量に出土している。時期は弥生時代中期中葉である。次にＳＤ23・24は調査区中央部，ＳＸ01に切られるように検出した溝である。当初２条の溝と考えていたが，ＳＸ01下部の土層及びＳＤ23の土層より同じ溝であることが判明した。かなり緩やかな断面形態を持つもので，現存する天幅は約8.0m，深さ約0.30mを計る。遺物はＳＤ23出土遺物が第140図（1115～1130）で，ＳＤ24下層出土遺物が第149～153図（1312～


1474
1314
壺A
1476
1477
1481
壺B
1483
1056
壺C
1058
1059
壺D
1319
壺E
1057
壺F
1078
壺G
1475
1473
1479
1480
1481
1317
1318
1321
1322
1323
1467
壺・文様
1325
1509
1330
甕A
1067
1118
甕B
1521
甕C
1519
1561
1517
甕・文様
1069
鉢1
1546
鉢2
鉢3
1068
1070
1071
台付鉢
1545
1550
1551
高坏
1122
1360
蓋
1363
1123
ジョッキ型土器
1339
1128
1076
1079
底部

第209図　土器の分類

1385）で，壺・甕・鉢・サヌカイト製品などが多量に出土している。時期は弥生時代中期中葉である。また，ＳＤ42・43もほぼ同様なことが言え，土層断面及び検出状況から同一の溝であることが判明した。遺物はＳＤ42出土遺物が第163図（1467～1470）で，ＳＤ43出土遺物が第164～168図（1471～1563）で，器種的にはほとんど同じである。出土遺物より時期も弥生時代中期中葉であることから，これら５条の溝は同時期で，しかもかなり一括性の高い資料であることがわかる。これらの出土遺物から当該期の土器様相を器種ごとに考えてみたい。

(1) 出土土器の分類

これらの溝から出土した土器には，壺・甕・鉢・高坏・蓋・ジョッキ型土器の６種類に大別でき，さらに形態差によって器種がわかれる。

壺

壺は頸部から口縁部の形態で，Ａ～Ｇの７タイプに分類できる。

壺Ａは頸部が外上方に直線的に延び，口縁部がほぼ水平に開くもので，口縁端部を上下にやや拡張するものである。頸部屈曲部外面に凸帯を持つ。凸帯には断面三角形で，刻み目を施すものと施さないものがある。口縁端部外面には斜格子文（1314）・刻み目文（1473）が施されている。壺Ａ1474は口縁部内面に櫛描による波状文・沈線文・刺突文が施されている。

壺Ｂは頸部が短く外上方に延び，口縁部がほぼ水平に開くもので，壺Ａと同様に口縁端部をやや拡張するものである。口縁部径と頸部径にあまり差がないものである。口縁端部外面には刻み目文（1477），口縁部下端に刻み目（1476）を持つ。

壺Ｃは頸部を「く」の字に屈曲させ，口縁部を短く外反させるもので，口縁端部を僅かに拡張するものである。このタイプには頸部屈曲部外面に押捺凸帯を持つもの（1056）があり，口縁部を上方に拡張し，外面に刻み目文を持つもの（1056）がある。

壺Ｄは頸部がやや外反しながら外上方に延びるもの（1058）で，口縁端部を内方に僅かに拡張する。頸部屈曲部外面には押捺凸帯を持ち，口縁端部下端には刻み目を持つ。

壺Ｅは頸部が直線的に上方あるいはやや外上方に延びるもの（1319）で，口縁端部を内方に僅かに拡張する。

壺Ｆは頸部が直線的に外上方に延びるもの（1057）で，口縁端部を内方に僅かに拡張するものである。頸部外面には断面三角形の刻み目凸帯を持つものである。

壺Ｇは頸部から口縁部が「く」の字に屈曲し，口縁端部を上下に大きく拡張させるもの（1478）で，口縁部が二重口縁を呈する。口縁部外面には山形鋸歯文を持つ。

1483・1056をここでは壺Ｃとして分類したが，頸部が「く」の字に屈曲するもので，後述する甕とほぼ同形態を呈する。ここで壺として分類した根拠は頸部内面の屈曲に差が認められることである。壺Ｃとしたものは頸部内面が体部から上方に短く直立し，さらに外方に屈曲するもので，明瞭な稜を持たない。それに比べ甕としたものは頸部が同様に「く」の字に屈曲し，頸部内面に明瞭な稜を持つ。

器面調整は1059・1481のように外面にヘラ磨きを多用している。口縁部内外面は横なでされており，頸部外面は縦方向の刷毛目・ヘラ磨きが施されている。壺Ｄ（1058）のような頸部径が大きいものに頸部外面にヘラ磨きが，壺Ａ・Ｅなどの頸部径の小さいものに刷毛目が施されている傾向がある。体部外面は体部最大径部分を中心に上半部・中央部・下半部に分割し，調整及び調整の方向が異なっている。上半部は縦方向の刷毛目・ヘラ磨きが，中央部は横方向のヘラ磨きが，下半部は縦方向のヘラ磨きが施されている。頸部内面は壺Ｄ（1058）は横方向の

ヘラ磨きが施されているが，ほとんどは指なであるいは板なでが施されている。体部内面は指頭痕ののち縦方向の指なでが主として施されている。

次に加飾文様には篦・櫛による文様が多用されている。篦による文様には刻み目文（1314）・斜格子文（1480）・刻み目（1476）・刺突文（1467）・綾杉文（1479）・山形鋸歯文（1478）などがある。櫛による文様には波状文（1467・1474・1481）・直線文（1467・1474・1481）・斜格子文（1321～1323）・刺突文（1474）などがある。また，1323の外面には円形浮文も認められる。頸部外面には屈曲部に凸帯（1475）・刻み目凸帯（1475）・押捺凸帯（1056・1058）を持つもの，壺F（1057）の様に外面に刻み目凸帯を持つものもある。

甕

甕は頸部が「く」の字に屈曲するもので，口縁部が外上方に延びるものである。口縁部の形態に直線的に延びるもの，やや外反するもの，また口縁端部をやや拡張するものがあるがあまり明確ではない。ここでは口径や体部の形態で，A～Cの3タイプに分類できる。

甕Aは口径約16cm前後で，体部があまり張らず下方に延びるもの(1325など)で，頸部は「く」の字に屈曲し，内面には明瞭な稜を持つ。口縁部は直線的に延びるもの・やや外反するものがある。口縁端部はあまり拡張せず，小さく上方に摘み上げるもの（1336）が少量認められる。口縁部内外面は横なでが施され，体部外面は指なで・刷毛目が，内面は指頭痕ののち指なで・板なで・刷毛目・ヘラ磨きが施されている。

甕Bはやや大振のもので，甕Aに比べると体部の張りがあるもの（1118など）である。頸部は「く」の字に屈曲し，内面には明瞭な稜を持つ。口縁部の形態はほぼ甕Aと同様である。口縁端部外面に刻み目を持つもの（1067）がある。

甕Cはバケツ状を呈する大型のもの（1521）で，平底の底部からやや内彎気味に上方に延び，口縁端部はそのまま終わらせるものである。体部外面には指なで・ヘラ磨きが多用され，内面は指頭痕・指なでが施されている。

器面調整は口縁部内外面に横なでが，体部内外面は指なでが多用されている。体部外面には指なでの他に刷毛目（1064）・ヘラ磨き（1333）が，体部内面に指頭痕（1118）・指なで（1064）・刷毛目（1118）・ヘラ磨き（1509）・板なで（1064）が施されている。

加飾文様は壺ほどなく，口縁部では甕B（1067）に刻み目が認められる程度で，ほとんど施されていない。また，体部では上半部に櫛（1516）・篦先（1517）による刺突文が認められるが，これについても量的には少ない。

台付鉢

台付鉢は底部に「ハ」の字状に開く脚を持ち，坏部は椀状のものである。口縁端部の形態で，口縁端部が水平なもの鉢1（1069），やや内傾するもの鉢2（1546），やや外傾するもの鉢3（1068）がある。脚部は「ハ」の字状に開くもので，やや内彎する。

器面調整は坏部では口縁端部内外面を横なでし，体部には刷毛目・ヘラ磨き・指なでが施されている。脚部は外面は指なでが，内面は刷毛目・ヘラ磨きが施されている。

加飾文様は口縁端部外唇部に刻み目が認められるだけである。

高坏

脚部が「スカート」状に広がるもので，坏部が内彎しながら上方に延び，口縁部をほぼ水平に屈曲させるものである。坏部と脚部は一気に作られ，円盤充塡している。脚部には脚部上端に穿孔を持つもの（1547）と長方形の透かしを持つもの（1359・1549）がある。口縁部屈曲部

には2個一対の穿孔が認められる。

器面調整は口縁部内外面は横なでされ，坏部内外面は指なでされている。脚部は外面をヘラ磨き（1550）・刷毛目（1548）が施され，内面を指なで（1359）・刷毛目・ヘラ削り（1549）が施されている。

加飾文様はあまりなく，脚部外面に刻み目が施されている程度である。

蓋

蓋はやや突出した天井部を持ち，体部が「ハ」の字状に開くものである。口縁部まで確認されているものがない。その突出した天井部には天井部上面から側面への穿孔が，2個一対で対称に認められる。

器面調整は天井部が指なでされ，体部外面はヘラ磨きが，内面は指なでが施されている。

加飾文様はあまりなく，天井部に穿孔が認められる程度である。

ジョッキ型土器

ジョッキ型土器はやや上げ底気味の平底の底部から体部がほぼ直線的に上方に延びるもので，口縁部まで確認されていないので，その形状については不明である。底部から体部下端側面に向けて2個一対の穿孔が認められる。

器面調整は底部が指なでされ，体部外面はヘラ磨きが，内面は指なでが施されている。

加飾文様はあまりなく，底部に穿孔が認められる程度である。

(2) ＳＤ21・23・24・42・43出土土器の様相

ＳＤ21・23・24・42・43出土遺物を各器種ごとに分類し，説明した。その結果，壺は7器種に，甕は3器種に，台付鉢・高坏・蓋・ジョッキ型土器はそれぞれ1器種に分類できた。壺においてのみ豊富な器種構成を持つことが確認された。また加飾文様についてもそれぞれに観察した結果，壺においてのみ篦・櫛を多用した刻み目文・斜格子文・綾杉文・波状文・直線文・刺突文などがみられ，その豊富さが確認された。一方，甕は壺に比べると加飾文様があまりなく，僅かに体部外面に篦先による刺突文が認められるだけで，施された甕も少量である。

壺では弥生時代前期からの系譜を持ち，頸部を外反しながら外上方に延びるものが，この時期に口縁端部をやや拡張させ，その拡張部に刻み目文・綾杉文などの文様を施すことが盛行する。また，次期に盛行する凹線文は全く認められず，かなり限られた時期であることがわかる。甕においては逆Ｌ口縁は認められず，頸部が「く」の字に屈曲するタイプのもののみが認められるが，弥生時代前期以来みられる体部上端部分の櫛描沈線が認められず，刺突文もほとんど認められない時期で，尚且つ口縁端部外面に凹線文も認められない時期のものである。

以上の特徴からこれら出土遺物は時期的にみると弥生時代中期中葉前半（畿内第Ⅲ様式前半併行）に当たると思われ，溝資料ではあるがかなり一括性遺物に近いものである。

3．ＳＤ24出土の粘土塊について

ＳＤ24は調査区中央でほぼ東西に流路をとる溝で，前述したように粘土塊（1092・1385）が出土した下層はＳＤ23と同一溝であることがわかっている。時期は弥生時代中期中葉前半（畿内第Ⅲ様式前半併行）で，この溝の下層からは多量の弥生土器に混じって明らかに胎土の精良な粘土塊が28ℓコンテナに約1/3程度出土している。その粘土塊のなかに意図的に穴を開けた粘土塊（1385）が出土しているのが確認された。

その粘土塊（1385）の特徴は，以下の８点が観察できる。

①粘土の塊を接合し，その接合部に２cm程の穴を意図的にあけている。

②内側と思われる部分および穴内部は二次的な加熱により暗灰色に変色している。

③内側と思われる一部に篦状の工具による刺突がみられる。

④変色した部分に茶色の付着物がみられる。

⑤精選された胎土である。

⑥粘土塊が出土した溝は，平成３年度の四国横断道調査の川津一ノ又遺跡Ⅲ区から延びるものと思われ，集落の中心が川津一ノ又遺跡Ⅲ区とすると，当遺跡は推定ではあるが，集落の南東縁辺部ということになる。

⑦時期は共伴する遺物から弥生時代中期中葉である。

⑧同時期の溝ＳＤ21からは把手状の粘土塊（1092）も出土している。

この粘土塊から上記８点の特徴があり，このことから弥生時代の鋳造関係資料の可能性があるものとした。

現在鋳造関係資料は全国で５遺跡確認されている。それらと川津一ノ又遺跡出土の上記観察結果と比較すると集落の南東縁辺部と火災による集落への延焼を避ける場所を選地していることは愛知県朝日遺跡，奈良県唐古・鍵遺跡と共通する。胎土的には，愛知県朝日遺跡のものと近似する様である。内面部分の篦状工具による刺突は兵庫県玉津田中遺跡と似ており，何かを貼り付ける様に工夫されたものである。

川津一ノ又遺跡ＳＤ21出土の把手状の粘土塊は鋳造関係資料とすると内面が変色していることから大型の置坩堝の把手と考えられ，またＳＤ24出土の粘土塊は穴内部の変色から鋳型ガス抜き穴の可能性が考えられる。

以上ＳＤ21出土の把手状粘土塊とＳＤ24出土の粘土塊の観察と各地の出土状況及び遺物を考慮に入れ，推測すると鋳造関係資料（溶解炉・坩堝・鋳型関係）が考えられるが，積極的な根拠が得られない結果となった。

以上，鋳造関係資料としての可能性はあるものの，今後検討していく遺物であるということで，今回は終わりたい。

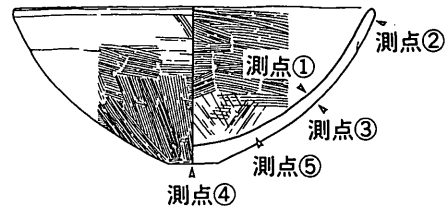
４．赤色顔料付着土器について

当遺跡自然河道出土遺物のなかに内面に赤色顔料の痕跡が確認できる鉢が１点出土している。鉢1871は底部に僅かな平底を残し，体部は内彎しながら外上方に延びるもので，口縁端部は三角形状に丸く終わらせるものである。体部外面にはヘラ削りののち縦・横方向の刷毛目が密に施され，内面は横方向の刷毛目の後見込み部分に板なでが施されている。色調は外面が二次焼成を受けているのか茶黒色を呈し，内面は暗茶色を呈している。胎土は0.5～２mm程度の石英・長石の砂粒を含むが，特別に他の鉢との差は認められない。法量は口径18.9cm，器高8.1cm，底径2.0cmを計る中型の鉢である。自然河道の出土遺物をみると弥生時代後期前半の遺物も少量認められるが，ほとんどは弥生時代後期後半から終末にかけてのもので，この鉢も後期後半のものと考えられる。

次に赤色顔料についてであるが，赤色顔料は肉眼観察によると内面部分に付着しており，僅かに外面に点的に認められるだけである。この鉢の赤色顔料が現在一般的に知られている水銀朱（Ｈｇ）かベンガラ（Ｆｅ）かを判断するために，蛍光Ｘ線分析を行った。測点は第210図

にあるように体部内面1測点（測点①），外面3測点（測点②～④），胎土内1測点（測点⑤）の計5測点の分析を行った。

その結果は以下のとおりである。



第210図　蛍光X線分析側点

測点①は体部内面で，肉眼観察でもわかるように赤色顔料が認められ，分析の結果も水銀朱（Hg）のピークがかなり高いという結果がでた。測点②は口縁部外面で，肉眼観察及びルーペ観察でも確認できなかった部分であるが，分析の結果水銀朱（Hg）のピークがみられ，明らかに水銀朱が付着していることが確認された。測点③は体部外面で，肉眼観察及びルーペ観察でも確認できなかった部分であるが，分析の結果は測点②と同様なことが確認された。次に測点④は底部外面で，肉眼観察及びルーペ観察で確認できなかった部分である。分析の結果は側点②・③と異なり，水銀朱（Hg）のピークは認められないという結果を得た。測点⑤は体部断面ほぼ中央部で，肉眼観察及びルーペ観察で確認できなかった部分である。分析の結果は測点④と同様水銀朱（Hg）のピークは認められなかった。

以上の結果からみると，鉢に付着する赤色顔料は水銀朱であることが確認された。次に外面及び断面の測点②～⑤の結果から体部外面中央部から口縁部にかけて，内面と同様に水銀朱が確認された。このことは当初外面にも内面と同様に肉眼観察でも認められるような水銀朱が付着していたことになる。この鉢の外面は明らかに二次焼成を受けた痕跡が確認できることから推測すると，水銀の沸点以下で加熱したために赤色の発色がなくなり，水銀朱の痕跡だけが残ったため肉眼観察及びルーペ観察では確認されず，蛍光X線分析によってのみ確認できる結果になったものである。また，測点⑤の結果から外面の水銀朱の痕跡が浸透によるものでないことが確認された。

以上のことから次のことが推測できる。

①自然河道出土の鉢1871は当初内面及び外面体部中央部から口縁部にかけては水銀朱が付着し，付着した部分は赤色に発色していたこと。

②水銀朱を用いて何らかの行為のために鉢内部に水銀朱を入れ，外面を水銀の沸点（356.72℃）以下の焼成温度で加熱したこと。

③この鉢は特別に作られたものでなく，同時期に多数認められる器種であること。

以上の結果から水銀朱を用いた行為そのものについては言及できないが，その行為に際しての焼成温度は水銀の沸点以下であることがわかったことが最大の成果といえる。

第3表　出土遺物観察表

石器観察表使用用語凡例

石鏃

凹基式

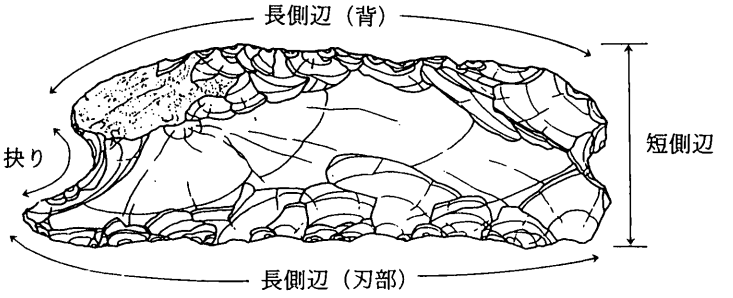
平基式

柳葉式

凸基式

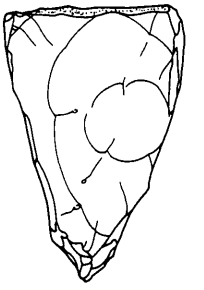
尖基式

石庖丁

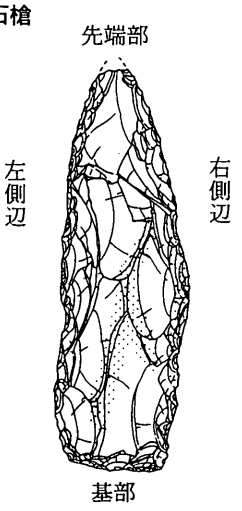


楔形石器

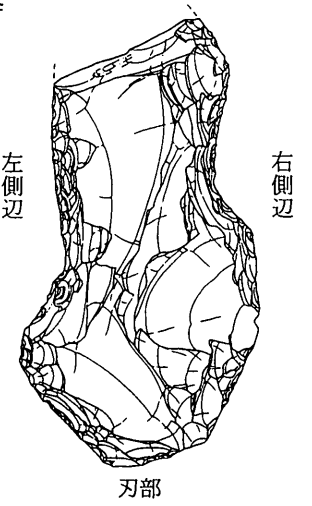
裁断面



石槍



石斧



出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1	6	61	弥生 壺	11.9	−	−	口縁端部外面に斜格子文・摩滅・穿孔摩滅		普通	橙 5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
2	6	61	弥生 壺	16.2	−	−	指なで・刻目・押捺凸帯	指なで	普通	橙 5 YR7/6	0.1～4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
3	6	61	弥生 壺	−	−	−	摩滅・押捺凸帯・斜線文	摩滅	普通	橙 5 YR7/6	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
4	6	61	弥生 壺	−	−	−	摩滅・刻目凸帯	指なで	普通	赤褐2.5YR4/6	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
5	6		弥生 壺底部	−	−	−	摩滅	指頭痕	普通	橙2.5YR6/6	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
6	6		弥生 高坏	−	−	9.9	摩滅・指なで	摩滅・指なで	普通	灰白7.5YR8/2	0.1～5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
7	8		須恵器 坏蓋	11.8	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
8	8		須恵器 坏身	13.0	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白7.5Y7/1	0.1～2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
9	8		須恵器 甕	−	−	−	格子目タタキ後カキ目	⊕状当具痕	普通	灰白 N7/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
10	8		須恵器 甕	−	−	−	剝落	⊕状当具痕	普通	灰白 5 Y8/1	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
11	8		須恵器 平瓶	−	−	−	横なで	自然釉	良好	灰 N5/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	精良 石英含む	破片	
12	8		土師質 甕	−	−	−	摩滅	ハケ目	普通	橙 5 YR6/4	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
13	8		弥生 甕	17.8	−	−	摩滅	摩滅	普通	橙7.5YR6/6	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
14	8		弥生 高坏	−	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
15	8		弥生 底部	−	−	−	タタキ目（摩滅）・手持ちヘラ削り	ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
16	8		弥生 底部	−	−	1.9	ハケ目・指なで	ハケ目	普通	橙 5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	
17	8		弥生 底部	−	−	5.0	タタキ目後ハケ目	摩滅	普通	灰 5 Y4/1	0.1～4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
18	8		弥生 底部	−	−	5.0	ハケ目後指なで	ヘラ削り	普通	橙7.5YR7/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
19	8		弥生 底部	−	−	6.8	タタキ目	ヘラ削り	普通	にぶい黄橙10YR6/3	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
20	8		弥生 底部	−	−	7.1	指なで・摩滅	摩滅	普通	にぶい赤褐 5 YR4/4	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
21	8		弥生 底部	−	−	6.3	摩滅	剝落	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
22	9	61	石槍	5.8	4.0	1.2	29.21	サヌカイト	一部欠損両側辺にツブレあり両面に摩滅あり
23	9	61	凹石兼敲き石	7.9	5.3	3.0	168.30	砂岩	一部欠損
24	9	61	凹石兼敲き石	8.9	7.7	4.5	428.31	砂岩	一部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
25	11	62	須恵器高坏	−	−	−	横なで・沈線2条・透かし上段3方・下段1方	横なで	やや良	灰 N6/1	0.1～2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	5/8	
26	11		土師質 甕	12.0	−	−	横なで	ハケ目・指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
27	11	62	弥生 甕	11.7	−	−	指頭痕・横なで	指頭痕・指なで	やや不良	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
28	11	62	弥生 甕	15.6	−	−	タタキ目	摩滅・指なで	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
29	11		弥生底部	−	−	3.8	ハケ目	板なで後指なで	普通	灰褐 5 YR4/2	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
30	11	62	弥生底部	−	−	4.0	ハケ目	ヘラ削り	普通	褐灰7.5YR5/1	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
31	11	62	弥生 底部	−	−	3.7	ハケ目	ヘラ削り	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
32	11		弥生 底部	−	−	5.4	摩滅	摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/3	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
33	11	63	弥生 鉢	29.5	14.2	−	指頭痕後指なで・タタキ後ハケ目	ハケ目	普通	橙2.5YR6/8	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	8/8	
34	11	62	紡錘車	−	−	重さ(4.80)g	指なで	指なで	普通	にぶい赤褐 5 YR5/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	4/8	甕の体部転用

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
35	11	63	石鏃	1.7	1.1	0.3	0.58	サヌカイト	風化 先端部欠損 平基式
36	11	63	石錐	3.1	4.1	1.0	7.99	サヌカイト	錐部欠損
37	11	63	石鎌	4.2	3.3	1.0	18.71	サヌカイト	一部欠損上端部・刃部にツブレあり
38	11	63	打製石斧	4.2	4.6	1.2	35.78	サヌカイト	一部欠損両側辺にツブレあり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
39	13		須恵器 蓋	11.7	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
40	13		須恵器 蓋	14.6	−	−	横なで・回転ヘラ削り	横なで	良好	灰 N6/	精良	破片	
41	13		須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
42	13		須恵器 高台付坏	15.0	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
43	13		須恵器 高台付坏	−	−	−	横なで	横なで	やや良	白灰 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
44	13		須恵器 高台付坏	−	−	10.0	ヘラ切り後横なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
45	13		須恵器 高台付坏	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
46	13		須恵器 高坏	11.6	−	−	横なで後指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
47	13		須恵器 高坏	−	−	18.9	横なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
48	13		須恵器 高杯	−	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
49	13		須恵器 高杯（?）	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
50	13		須恵器 甕	−	−	−	格子目タタキ	⊕状当具痕	良好	青灰 5 PB6/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
51	13		土師器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
52	13		回転台土師器 坏	18.0	3.4	15.0	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
53	13		土師質 甕	17.4	−	−	横なで・ハケ目	板なで・指なで	普通	にぶい黄橙10YR6/3	0.1〜6㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
54	13		土師質 甕	26.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
55	13		土師質 甕 把手	−	−	−	指なで	−	普通	にぶい褐7.5YR5/3	0.1〜5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
56	13		須恵器 蓋	−	−	−	指なで	指なで	やや良	灰 N6/	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
57	13		須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
58	13		須恵器 蓋	14.8	−	−	ヘラ削り・横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
59	13		須恵器 蓋	15.7	−	−	横なで	横なで	普通	灰7.5Y7/	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
60	13		須恵器 高台付坏	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
61	13		須恵器 高台付坏	−	−	7.6	横なで	横なで後指なで	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径1/8	
62	13		須恵器 高坏	−	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白 N8/	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
63	13	64	須恵器 甕	−	−	−	タタキ目後カキ目後指なで	青海波文	良好	青灰 5 PB6/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
64	13		土師器 坏	−	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
65	13		回転台土師器 高台付坏	−	−	−	摩滅	摩滅	不良	にぶい黄橙10YR6/3	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
66	13		須恵器 高坏	−	−	9.5	横なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径1/8	
67	13		土師質 甕	27.4	−	−	横なで	横なで・ハケ目	普通	明赤褐 5 YR5/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
68	13		須恵器 蓋	14.0	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
69	13		須恵器 高台付坏	−	−	11.0	横なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	4/8	
70	13		須恵器 高台付坏	−	−	11.0	横なで	横なで	不良	灰白7.5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径5/8	
71	13	64	須恵器 高台付坏	13.4	3.6	10.2	横なで・ヘラ切り	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
72	13	64	須恵器 甕	21.2	−	−	横なで・格子目タタキ後カキ目	横なで・青海波文	良好	青灰 5 PB6/1	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径3/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
73	13	64	土師質 長胴甕	26.0	−	−	横なで・ハケ目	横なで・指頭痕	普通	にぶい黄橙10YR6/3	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
74	15	65	須恵器 坏蓋	13.5	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
75	15		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
76	15	65	須恵器 坏蓋	8.0	3.4	−	横なで・ヘラ削り	横なで	良好	灰 N4/	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	8/8	
77	15		須恵器 坏身	12.6	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
78	15		須恵器 坏身	−	−	−	ヘラ切り後指なで・横なで	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
79	15	65	須恵器 坏身	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰 N7/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径7/8	
80	15		土師質 壺	8.8	−	−	指なで	摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
81	15		土師質 甕	−	−	−	指なで	横なで・指頭痕	普通	にぶい黄褐10YR5/3	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
82	15		土師質 甕	18.9	−	−	横なで	摩滅・ハケ目	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
83	19		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	不良	灰白2.5Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
84	19		回転台土師器 坏蓋	14.0	−	−	不明	横なで	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
85	20		土師器 坏	10.8	−	8.3	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	1/8	
86	20		土師器 椀	11.4	−	−	摩滅・ヘラ磨き	横なで	普通	灰白2.5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
87	22		須恵器 甕	12.2	−	−	横なで	横なで・青海波文	やや不良	灰白 5 Y7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
88	25		須恵器 坏身	−	−	−	横なで	横なで	不良	灰白 5 Y7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
89	28		須恵器 蓋	20.7	−	−	横なで	横なで後仕上げなで	やや不良	灰白10Y7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
90	28		須恵器 高台付坏	−	−	8.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	底径5/8	
91	28		須恵器 甕	18.6	−	−	横なで	横なで	やや良	青灰 5 PB6/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
92	28		須恵器 高台付壺	−	−	7.6	横なで	横なで	普通	明青灰 5 PB7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径2/8	
93	30		須恵器 坏	12.9	−	−	横なで	横なで	やや良	青灰 5 PB5/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
94	32		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
95	32		須恵器 坏身	10.2	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	明青灰 5 PB7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
96	34		須恵器 坏蓋	12.4	−	−	横なで	横なで	やや良	明青灰 5 PB7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
97	37		回転台土師器 蓋	14.7	−	−	横なで	横なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
98	37		須恵器 高坏	−	−	9.0	横なで	横なで	やや不良	灰白7.5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
99	37		須恵器 甕	12.8	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
100	37		須恵器 高台付坏	14.8	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
101	37		須恵器 蓋	14.4	−	−	横なで	横なで	やや良	灰白 5 Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
102	37		土師器 坏	−	−	−	横なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/8	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
103	37		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	不良	灰白 5 Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
104	37		土師器 坏	14.8	−	−	摩滅	摩滅	普通	橙 5 YR6/8	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
105	37		須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白 N7/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
106	37		須恵器 坏蓋	13.8	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
107	37		須恵器 坏身	12.0	−	−	横なで	横なで	普通	青灰 5 PB5/1	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
108	37		須恵器 坏（蓋）	15.6	−	−	横なで	横なで	普通	明青灰 5 PB7/1	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
109	37		土師器 坏	−	−	−	横なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
110	37		土師器 皿	19.0	−	−	横なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
111	37		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
112	37		土師器 皿	24.2	−	−	横なで	横なで	普通	橙 5 YR6/8	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
113	37		土師質 甕	−	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
114	37		土師質 甕	−	−	−	横なで	ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
115	37		須恵器 坏蓋	12.7	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白 5 Y7/1	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
116	37		土師器 皿	−	−	−	横なで	横なで	普通	橙 5 YR6/8	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
117	39	65	須恵器 坏蓋	8.3	2.9	−	なで・ヘラ削り後指なで・横なで	横なで・横なで後指なで	やや良	灰 N7/	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	8/8	
118	39		土師器 坏	−	−	−	横なで	横なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
119	39		土師器 坏	13.8	−	−	摩滅・横なで	摩滅・横なで	普通	橙 5 YR6/8	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
120	39		土師器 高坏	−	−	−	横なで	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
121	39		土師質 甕	17.6	−	−	横なで・ハケ目後指なで	摩滅・ハケ目	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
122	42		須恵器 坏蓋	16.0	−	−	横なで・自然釉	横なで	普通	灰 N7/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
123	47		土師器 小皿	7.7	1.5	5.9	横なで・ヘラ削り	横なで	普通	灰白10YR8/2	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
124	47		土師質 土釜	−	−	−	横なで・指頭痕	横なで	普通	灰白10YR8/2	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
125	47		瓦質 こね鉢	28.8	−	−	横なで・格子目タタキ	横なで	普通	灰 N5/	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
126	50		須恵器 坏蓋	8.8	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
127	50		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
128	50		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	普通	灰白 N6/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
129	50		須恵器 坏蓋	11.0	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N5/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
130	50		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N7/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
131	50	65	須恵器 坏蓋	8.7	3.0	−	横なで・ヘラ削り	横なで	普通	灰 N6/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
132	50		須恵器 坏蓋	9.0	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	灰 N6/ 釉：灰白7.5Y8/1	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
133	50		須恵器 坏身	8.9	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	灰 N5/ 釉：青黒 5 PB2/1	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
134	50		須恵器 坏身	10.9	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
135	50		須恵器 坏身	11.2	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
136	50		須恵器 坏身	9.5	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
137	50		須恵器 坏身	10.0	−	−	横なで・指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
138	50		須恵器 坏身	11.0	−	−	横なで後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
139	50	65	須恵器 高坏	13.4	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1～4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
140	50	65	須恵器 高坏	−	−	8.1	横なで	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	脚部8/8	
141	50		須恵器 高坏	−	−	8.5	横なで	横なで	やや不良	灰白 5 Y7/1	0.1～0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
142	50		須恵器 高坏	−	−	10.0	横なで	横なで	良好	暗青灰 5 PB4/1	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
143	50		須恵器 高坏	−	−	9.5	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
144	50		須恵器 高坏	−	−	8.0	横なで	横なで	やや不良	灰白2.5Y7/1	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
145	50		須恵器 高坏	−	−	7.9	横なで	横なで	普通	灰 N5/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
146	50		須恵器 高坏	−	−	9.5	横なで	横なで	やや不良	灰白2.5Y7/1	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
147	50		須恵器 高坏	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
148	50		須恵器 高坏	−	−	10.6	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
149	50		須恵器 平瓶	6.9	−	−	横なで	横なで	良好	暗青灰 5 PB4/1	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
150	50	65	瓦質土器 甕 把手	−	−	−	指なで	−	普通	灰 N5/	0.1～6㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
151	50	66	土師器 坏	9.9	−	−	横なで・ヘラ磨き	ヘラ磨き	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
152	50		土師器 坏	11.0	−	−	ヘラ磨き・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	摩滅	普通	橙 5 YR6/8	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
153	50		土師器 坏	10.8	3.7	−	ヘラ磨き	摩滅	普通	橙5 YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
154	50		土師器 坏	13.0	−	−	ヘラ磨き・横なで	ヘラ磨き・指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
155	50		土師器 坏	11.8	−	−	横なで・摩滅	横なで・ヘラ磨き	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
156	50	66	土師器 坏	14.2	−	−	指なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
157	50		土師器 坏	12.9	−	−	沈線1条・指なで・摩滅	横なで	普通	橙5 YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
158	50	66	土師器 坏	16.0	−	−	指なで	指なで後ヘラ磨き	普通	橙5 YR7/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
159	50	67	土師器 坏	17.0	5.1	−	ヘラ磨き	指なで	普通	にぶい赤褐5/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	5/8	
160	50	66	土師器 坏	15.4	−	−	横なで・指なで後ヘラ磨き	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙5 YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
161	50		土師器 坏	18.0	−	−	指なで・ヘラ磨き	指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
162	50		土師器 坏	17.0	−	−	摩滅	ヘラ磨き・横なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
163	50		土師器 坏	−	−	−	指なで	指なで・板なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
164	50		土師器 坏	−	−	−	横なで・指なで	横なで・ハケ目？・ヘラ磨き？	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
165	50		土師器 坏	21.4	−	−	手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	指なで・ヘラ磨き	普通	橙5 YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
166	50		土師器 皿	22.0	−	−	横なで	横なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
167	50	67	土師器 皿	22.9	3.8	−	横なで・指頭痕後ヘラ磨き	横なで・摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	4/8	
168	50		土師器 皿	28.8	−	−	ヘラ磨き・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	普通	橙5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
169	50	66	土師器 皿	24.6	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで・ヘラ磨き	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
170	50	66	土師器 皿	25.8	−	−	横なで・ヘラ磨き	ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
171	50	67	土師器 皿	22.0	4.6	−	手持ちヘラ磨き・指なで後ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径5/8	
172	50	67	土師器 高坏	16.7	−	−	手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	やや良	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	坏部4/8	
173	50	67	土師器 高坏	16.0	−	−	ヘラ磨き・横なで	ヘラ磨き・横なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
174	50	67	土師器 高坏	−	−	−	指なで	指なで・板なで	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
175	50		土師器 盤	−	−	−	横なで	横なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
176	51		土師質 甕	7.9	−	−	指なで	指なで・指頭痕	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
177	51	68	土師質 甕	12.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
178	51	68	土師質 甕	12.4	−	−	指なで・ハケ目	ハケ目・板なで後指なで・指頭痕後指なで	良好	にぶい橙2.5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
179	51		土師質 甕	11.5	−	−	横なで	ハケ目	普通	橙5 YR7/5	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
180	51		土師質 甕	12.7	−	−	ハケ後指なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
181	51		土師質 甕	11.3	−	−	指なで・ハケ目	指なで・ヘラ削り	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
182	51		土師質 甕	16.0	−	−	横なで・指なで後ハケ目	指なで・ハケ目・板なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
183	51		土師質 甕	15.0	−	−	横なで・指なで	横なで・指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
184	51		土師質 甕	14.0	−	−	指なで・ハケ目	ハケ目・指頭痕	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
185	51		土師質 甕	16.4	−	−	横なで・指なで・ハケ目	ハケ目・摩滅・指なで	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
186	51		土師質 甕	15.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ヘラ削り	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
187	51		土師質 甕	23.2	−	−	横なで	ハケ目後横なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
188	51		土師質 甕	26.0	−	−	なで	なで・ハケ目	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
189	51		土師質 甕	28.9	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ハケ後指なで	良好	橙2.5YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
190	51	68	土師質 甕	20.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・板なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
191	51		土師質 甕	37.0	−	−	横なで・ハケ目？	ハケ目後横なで・ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
192	51		土師質 把手	−	−	−	指なで・指頭痕	指なで	やや不良	橙5 YR7/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
193	51	68	土師質 把手	−	−	−	指頭痕・ハケ目	指頭痕	普通	橙5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
194	51		土師質 長胴甕	22.5	−	−	ハケ目	ハケ目後指なで・指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
195	51		土師質 長胴甕	20.0	−	−	横なで	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
196	51		土師質 長胴甕	26.0	−	−	指なで・指なで後ハケ目	指なで・ハケ目・板なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
197	51	69	土師質 長胴甕	30.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・板なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
198	51	69	土師質 鍋	39.4	−	−	ハケ目・横なで	ハケ目	やや良	橙7.5YR7/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
199	51	69	土師質 甑	28.1	−	−	ハケ目	ハケ目後手持ちヘラ削り	やや良	橙5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
200	51		製塩土器	−	−	−	横なで・タタキ目	横なで	やや良	橙2.5YR6/6	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
201	52		土師器 小皿	4.7	0.5	4.5	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙5 YR7/6	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
202	52		土師器 小皿	7.8	−	−	横なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
203	52		土師器 坏	9.0	−	6.3	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
204	52		土師器 坏	10.5	−	−	横なで	横なで	普通	橙2.5YR6/6	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
205	52		須恵器 椀	14.2	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	精良	破片	十瓶山窯系
206	52		土師質 土釜	24.4	−	−	横なで	横なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
207	52		土師質 土釜脚	−	−	−	指なで	板なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚部7/8	
208	52		土師質 土鍋	−	−	−	横なで	横なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
209	52		土師質 甕	−	−	−	ハケ目・指なで	指なで	やや良	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	楠井産
210	55	69	弥生 壺	15.0	−	−	横なで・ハケ目	摩滅・指なで	普通	にぶい赤褐5 YR4/3	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
211	55	69	弥生 壺	14.5	−	−	刻目・ハケ目・摩滅	摩滅・指なで後ヘラ磨き・ハケ目後指なで	やや不良	褐灰10YR6/1	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	頸部3/8	
212	55		弥生 壺	13.8	−	−	指なで	指なで	やや不良	にぶい黄橙10YR7/3	0.1～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
213	55		弥生 壺	15.0	−	−	指なで・刻目	指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
214	55		弥生 甕	−	−	−	横なで	横なで	普通	にぶい赤褐5 YR5/4	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
215	55	70	弥生 甕	14.5	−	−	横なで・指なで	横なで・ハケ目	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
216	55	70	弥生 甕	17.9	−	−	横なで・ハケ目	横なで・指頭痕後指なで	やや良	にぶい赤褐5 YR4/4	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
217	56		土師質 鍋	−	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
218	62		石鏃	2.2	1.6	0.4	0.77	サヌカイト	風化 凹基式

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
219	63		弥生 壺	15.3	−	−	指なで	指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
220	63		弥生 壺	20.0	−	−	横なで・摩滅	横なで・指頭痕後横なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.1～6㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
221	63	70	弥生 壺	10.0	−	−	摩滅・穿孔2個	摩滅	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
222	63	70	弥生 壺 底部	−	−	6.7	ハケ目	ハケ目・指頭痕・摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径4/8	
223	63		弥生 甕	13.4	−	−	指なで	指なで・板なで後指なで	普通	にぶい黄橙10YR6/3	0.1～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
224	63		弥生 甕	13.5	−	−	指なで・摩滅	摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.1～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
225	63		弥生 甕	14.8	−	−	指なで	指なで・ヘラ削り	普通	橙5 YR6/6	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
226	63	71	弥生 甕	13.8	−	−	指なで・ハケ目	指なで・ハケ目・板なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
227	63	71	弥生 甕	12.4	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ヘラ削り後板なで	普通	橙7.5YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
228	63	71	弥生 甕	10.5	−	−	摩滅・板なで後指なで	摩滅・ヘラ削り後指なで	やや不良	橙7.5YR6/6	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
229	63		弥生 鉢	23.2	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後指なで	摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
230	63	71	弥生 鉢	17.5	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ハケ目	ハケ目・摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
231	63		弥生 台付鉢	−	−	3.5	指頭痕・ハケ目	摩滅	普通	橙7.5YR6/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径7/8	
232	63		弥生 高坏	−	−	17.1	横なで・摩滅・穿孔	摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
233	63	71	弥生	−	−	−	指なで・ヘラ描文	指なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
234	64		弥生 壺	12.9	−	−	横なで・斜線文	横なで	やや良	灰褐7.5YR4/2	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
235	64		弥生 壺	−	−	3.4	横なで・指なで	指なで・板なで	普通	橙2.5YR6/6	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	7/8	
236	64		弥生 甕	13.7	−	−	指なで後ハケ目	ハケ目・指なで・ヘラ削り	やや良	にぶい黄橙10YR6/4	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
237	64		弥生 甕	16.9	−	−	横なで	摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.1～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
238	64		弥生 甕	12.0	−	−	ハケ目	摩滅・指なで	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石・角閃石含む	口径1/8	下川津B類
239	65		弥生 甕	12.0	−	−	指なで	指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
240	65		弥生 底部	−	−	2.5	タタキ目	指なで	普通	褐7.5YR4/3	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
241	66		土師器 坏	14.6	−	−	横なで	横なで	普通	橙5 YR7/8	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
242	66		土師器 坏	14.8	−	−	指なで	指なで・ハケ目	やや不良	浅黄橙7.5YR8/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
243	66		須恵器 高台付坏	12.8	−	−	横なで	横なで	やや良	灰白 N7/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
244	66		土師質 甕	−	−	−	指なで	摩滅	普通	浅黄2.5Y7/3	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
245	67		須恵器 皿	−	−	11.2	横なで・ヘラ切り・火襷	横なで・火襷	普通	灰 N6/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
246	71	71	青磁 碗	−	−	−	施釉	施釉	良好	胎土：灰白2.5Y8/1 釉:オリーブ黄5Y6/3	緻密	破片	龍泉窯系Ⅰ類
247	71	71	須恵器 こね鉢	−	−	−	横なで	横なで	普通	青灰5 B6/1	0.1～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	東播系
248	71		土師質 土釜	24.3	−	−	摩滅	摩滅	やや不良	にぶい黄橙10YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
249	74	72	土師器 小皿	5.8	0.8	6.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	8/8	
250	74	72	土師器 小皿	5.5	1.1	4.5	横なで・ヘラ切り・沈線1条	横なで	やや良	橙5 YR7/6	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径7/8	
251	74		土師器 小皿	6.0	0.9	4.8	横なで・回転ヘラ切り	横なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
252	74		土師器 小皿	6.2	−	5.5	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1～0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
253	74		土師器 坏	7.7	2.0	4.7	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	1/8	
254	74		土師器 坏	9.0	−	−	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
255	74		土師器 坏	10.0	2.1	7.3	横なで・摩滅	横なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
256	74		土師器 坏	10.9	−	8.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
257	74		土師器 坏	−	−	5.7	横なで・ヘラ切り	横なで後指なで	普通	灰白2.5Y8/2	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
258	74		土師器 椀	10.0	−	−	横なで・横なで後指なで	横なで・剝落	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	吉備系
259	74		須恵器 こね鉢	28.8	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白2.5Y7/1	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	東播系
260	76		土師器 小皿	6.8	1.3	5.7	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	1/8	
261	76		土師器 小皿	7.3	1.3	5.6	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
262	76		土師器 坏	11.0	2.4	6.5	横なで・ヘラ切り	横なで	不良	にぶい橙7.5YR6/4	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
263	76		土師質 擂鉢	−	−	−	指頭痕後指なで	横なで	やや不良	灰黄褐10YR5/3	0.1～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
264	78		土師器 坏	−	−	5.4	横なで	ヘラ切り後指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
265	78		土師器 坏（皿）	12.0	−	9.0	横なで	横なで	普通	橙5 YR6/6	0.1～0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
266	78		土師質 土釜 脚	−	−	−	指なで	格子目タタキ	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚部5/8	
267	80		瓦器 椀	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N5/	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	和泉型
268	83	72	土師質 長胴甕	24.9	27.1	−	ハケ目	ハケ目・ヘラ削り・ヘラ削り後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1～6㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	7/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
269	83	72	須恵器 横瓶	−	−	−	格子目タタキ	青海波・指なで・指頭痕	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
270	84	72	回転台土師器 坏	11.5	3.2	6.1	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・指なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	8/8	
271	84	72	回転台土師器 坏	12.6	3.1	5.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・指なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	8/8	
272	84	72	須恵器 皿	12.6	2.0	9.2	横なで・ヘラ切り後指なで・火襷	横なで	やや不良	灰N6/	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	8/8	
273	86		土師器 小皿	7.8	1.2	6.4	横なで・ヘラ削り	横なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
274	86		土師器 小皿	7.3	1.4	6.3	摩滅・横なで	摩滅・横なで・摩滅・ヘラ切り後指なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
275	86		土師器 椀	12.0	−	−	横なで	横なで	普通	褐灰10YR6/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	吉備系
276	86		土師器 椀	11.8	−	−	横なで	横なで	普通	灰白10YR8/2	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	吉備系
277	86	73	須恵器 椀	13.8	−	−	横なで	横なで	普通	灰白5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	十瓶山窯系
278	86	73	須恵器 椀	−	−	5.2	横なで	横なで	普通	灰白5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	十瓶山窯系
279	86		土師質 土鍋	29.1	−	−	横なで・ハケ目後指なで	横なで・板なで	普通	暗褐10YR3/4	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
280	86	73	土師器 坏	11.5	3.2	7.5	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	底径8/8	
281	86		土師器 坏	12.7	3.2	8.5	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・仕上げなで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径7/8	
282	86	73	土師器 坏	12.1	3.5	8.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・仕上げなで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	底径6/8	
283	86	73	土師器 椀	−	−	5.7	摩滅	摩滅	普通	灰白2.5Y8/2	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	吉備系
284	86	73	須恵器 椀	−	−	−	横なで	横なで	普通	灰白5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	十瓶山窯系
285	86	73	須恵器 椀	−	−	5.4	横なで・横なで	横なで	普通	灰白5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径2/8	十瓶山窯系
286	86	73	土師質 土鍋	36.4	−	−	横なで・ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目・板なで	普通	暗褐10YR3/3	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
287	86	73	土師質 土釜	21.0	−	−	工具痕・指頭痕後横なで	横なで・指なで	普通	灰白10YR8/2	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
288	86		土師器 小皿	8.0	1.2	5.9	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
289	86		土師器 坏	12.2	−	−	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	橙7.5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
290	86		土師器 坏	12.0	3.5	7.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・仕上げなで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	
291	87		土師器 小皿	7.5	1.2	4.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
292	87		土師器 坏 or 椀	−	−	−	横なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
293	87		瓦器 椀	−	−	4.9	指なで	指なで	良好	灰N5/	精良	破片	和泉型
294	89		弥生 壺	7.8	−	−	摩滅・ハケ目	ハケ目・摩滅・指なで？	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
295	89		弥生 甕	15.6	−	−	横なで・指なで	指なで	普通	にぶい赤褐5YR5/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
296	89	74	弥生 甕	−	−	5.4	ハケ目・ハケ目後板なで後ヘラ磨き	横なで・指頭痕後指なで・ヘラ削り	やや良	にぶい橙7.5YR6/4	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・角閃石含む	3/8	下川津B類
297	89		弥生 底部	−	−	3.9	タタキ目・指なで	指頭痕・指なで	普通	明赤褐5YR5/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	
298	89		弥生 鉢	13.8	−	−	指頭痕	摩滅・指なで？	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
299	89		弥生 鉢	20.1	−	−	横なで	ハケ目後ヘラ磨き	やや良	橙5YR6/6	0.1〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
300	89		弥生 高坏	−	−	9.3	指頭痕・指なで	指頭痕	普通	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
301	87		土師器 小皿	7.2	1.0	5.9	横なで・ヘラ切り後指なで	不明	普通	橙5YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
302	87		土師器 坏	−	−	−	横なで	横なで	良好	黒褐10YR3/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
303	87		土師器 坏	13.6	3.2	10.0	横なで	横なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜0.3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
304	87		瓦器 椀	−	−	−	横なで・指なで	横なで・ヘラ磨き	良好	灰N4/	精良	破片	和泉型
305	87		瓦器 椀	15.0	−	−	横なで・指頭痕	ヘラ磨き	良好	暗青灰5PB4/1	精良	破片	和泉型
306	87		瓦器 椀	−	−	4.0	横なで	横なで後ヘラ磨き	良好	灰N5/	精良	底径2/8	和泉型
307	87		瓦器 椀	−	−	5.0	横なで	ヘラ磨き	普通	にぶい黄橙10YR7/2	0.1〜0.3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	和泉型
308	87		須恵器 椀	−	−	−	横なで	横なで	やや良	灰白N7/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	十瓶山窯系

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
309	87		須恵器 椀	−	−	5.0	指頭痕？横なで	ハケ目	やや良	灰白 N7/	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	十瓶山窯系
310	87		土師質 土釜 脚	−	−	−	指なで	−	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚4/8	
311	92		須恵器 坏蓋	11.7	4.0	−	横なで・回転ヘラ切り後指なで	横なで	やや不良	灰白 5 Y8/1	0.3～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	5/8	
312	92		須恵器 坏蓋	12.5	4.5	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰 5 B6/1	0.1～0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
313	92		須恵器 坏蓋	11.7	−	−	横なで・指なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
314	92		須恵器 坏蓋	13.1	4.2	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	1/8	
315	92		須恵器 坏蓋	15.8	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで	不良	灰白10YR8/2	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
316	92	74	須恵器 蓋	18.5	4.4	−	横なで・ヘラ削り後指なで	横なで・横なで後指なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.2～2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	6/8	
317	92		須恵器 蓋	−	−	−	横なでヘラ削り	横なで後指なで	良好	灰 5 Y6/1	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
318	92		須恵器 蓋	−	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで	良好	灰 N5/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
319	92		須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
320	92		須恵器 蓋	16.1	−	−	横なで・ヘラ削り後指なで	横なで後指なで	良好	灰 N6/	0.2～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
321	92		須恵器 蓋	16.4	−	−	横なで	横なで後指なで	良好	灰 N6/	0.5～1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
322	92		須恵器 蓋	16.0	−	−	横なで・ヘラ削り後横なで	横なで	やや不良	灰 N8/	0.3～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
323	92		須恵器 蓋	17.5	−	−	横なで	横なで	普通	灰白 5 Y8/1	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
324	92		須恵器 蓋	11.6	−	−	横なで	横なで	良好	灰白 N7/	0.2～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
325	92		須恵器 蓋	12.2	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
326	92		須恵器 蓋	14.5	−	−	横なで	横なで	良好	灰白2.5Y7/1	0.1～2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
327	92		須恵器 蓋	13.3	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
328	92		須恵器 蓋	18.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2～1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
329	92		須恵器 蓋	17.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2～1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
330	92		須恵器 蓋	20.2	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで後指なで	良好	灰 N6/	0.2～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
331	92		須恵器 蓋	17.9	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	やや不良	灰白 5 Y8/1	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
332	92	74	須恵器 蓋	−	−	−	指なで・自然釉	回転なで後指なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
333	92	74	須恵器 蓋	25.2	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	0.1～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
334	92		須恵器 高台付坏	16.4	4.6	12.4	横なで・指なで・ヘラ切り	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	0.1～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
335	92		須恵器 高台付坏	−	−	13.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
336	92		須恵器 高台付坏	17.7	3.9	12.9	横なで・指なで	横なで後指なで	普通	灰 N6/	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
337	92	74	須恵器 高台付坏	18.5	5.0	14.3	横なでヘラ削り	横なで	普通	灰 5 Y6/1	0.1～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径6/8	
338	92		須恵器 高台付坏	−	−	12.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.3～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
339	92	75	須恵器 高台付坏	16.7	3.8	13.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰 N5/	0.3～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	3/8	
340	92		須恵器 高台付坏	14.2	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.3～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
341	92		須恵器 高台付坏	−	−	8.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.2～1㎜の砂粒を含む 石英含む	底径1/8	
342	92		須恵器 高台付坏	−	−	10.0	横なで	横なで	良好	灰白 N7/ 釉：黒 5 Y2/1	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	底径2/8	
343	92		須恵器 高台付坏	−	−	8.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	精良	底径1/8	
344	92		須恵器 高台付坏	−	−	8.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 5 Y8/1	0.2～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
345	92		須恵器 高台付坏	−	−	8.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2～1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
346	92		須恵器 高台付坏	−	−	8.7	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰白 N7/	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径8/8	
347	92		須恵器 高台付坏	−	−	9.0	横なで・指なで	横なで後指なで	良好	灰 N5/	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径2/8	
348	92		須恵器 高台付坏	−	−	9.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで後板なで	やや不良	灰 N6/	0.2～4㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径4/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
349	92		須恵器 高台付坏	−	−	11.7	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
350	92		須恵器 高台付坏	−	−	10.8	横なで・指なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
351	92		須恵器 高台付坏	−	−	13.4	ヘラ削り後指なで・横なで	横なで	良好	灰白 N7/	0.1〜0.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径1/8	
352	92	75	須恵器 高台付坏	15.4	6.2	8.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白2.5Y7/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径3/8	
353	92		須恵器 坏	15.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰白7.5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
354	92		須恵器 坏	14.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
355	92		須恵器 坏	16.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/ 釉：黒 N2/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
356	92		須恵器 坏	16.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
357	92		須恵器 坏	16.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
358	92		須恵器 坏	18.1	−	−	横なで・火襷	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
359	92		須恵器 坏	13.8	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 B5/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
360	92		須恵器 坏	12.7	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
361	92		須恵器 坏	15.7	−	−	横なで・摩滅	横なで・摩滅	不良	黄灰2.5Y4/1	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
362	93		須恵器 坏	12.6	3.2	8.6	横なで・ヘラ切り・自然釉	横なで	良好	灰白N7/ 釉：オリーブ灰2.5GY5/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
363	93	75	須恵器 坏	12.4	3.9	9.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	やや不良	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	2/8	
364	93	75	須恵器 坏	17.6	4.0	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで後指なで	やや不良	灰白2.5Y7/1	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径5/8	
365	93	75	須恵器 坏	12.0	−	−	横なで	横なで・火襷	やや良	灰白 N8/	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
366	93	75	須恵器 坏	14.1	−	−	横なで	横なで	普通	灰白2.5Y8/1	精良	口径1/8	
367	93	75	須恵器 坏	−	−	7.1	横なで・ヘラ切り後指なで・火襷	横なで・火襷	普通	灰白 5 Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
368	93		須恵器 坏	−	−	8.7	横なで・ヘラ切り後指なで・火襷	横なで・火襷	良好	青灰 5 B5/1	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
369	93	75	須恵器 坏	−	−	9.7	横なで・ヘラ切り後指なで・火襷	横なで・火襷	普通	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
370	93		須恵器 皿	15.1	2.0	12.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
371	93		須恵器 皿	−	−	17.1	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白2.5Y8/2	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径1/8	
372	93	75	須恵器 高坏	12.2	−	−	横なで・沈線	横なで後指なで	良好	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
373	93		須恵器 高坏	−	−	11.5	横なで・沈線	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
374	93	75	須恵器 高坏	−	−	8.8	横なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	脚部8/8	
375	93		須恵器 高台付壺	−	−	7.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
376	93	75	須恵器 高台付壺	−	−	8.3	横なで	横なで・指頭痕	良好	灰 N5/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径4/8	
377	93		須恵器 高台付壺	−	−	11.4	横なで・ヘラ削り	横なで	良好	灰 N6/	精良	底径1/8	
378	93		須恵器 壺	20.0	−	−	横なで・沈線1条・カキ目	横なで・青海波文	良好	灰 N6/	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
379	93		須恵器 甕	22.7	−	−	横なで・自然釉	横なで・板なで・指頭痕	良好	灰 N6/ 釉：黒 N2/	0.2〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
380	93		須恵器 甕	12.8	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
381	93		須恵器 甕	18.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
382	93		須恵器 甕	20.8	−	−	横なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
383	93		須恵器 甕	22.0	−	−	横なで・沈線	横なで・指なで・自然釉	良好	灰白5Y8/1 釉：オリーブ灰10Y5/2	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
384	93	76	須恵器 甕	−	−	−	タタキ目・カキ目	青海波文	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
385	93		須恵器 甕	−	−	−	格子目タタキ後ハケ目	青海波文	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
386	93	76	須恵器 甕	−	−	−	タタキ目後指なで	ハケ目	普通	灰白7.5Y7/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
387	93		須恵器 平瓶	7.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
388	94		回転台土師器 坏蓋	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	4/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
389	94		回転台土師器 甕	−	−	−	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	橙5YR6/6	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
390	94	76	土師器 坏	15.7	−	−	横なで・板なで	横なで・板なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.1〜1mmの砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
391	94	76	土師器 坏	−	−	−	ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
392	94		土師器 坏	−	−	−	指なで	横なで・ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.1〜1mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
393	94		土師器 坏	−	−	−	横なで・丹塗り	横なで・丹塗り	普通	橙5YR6/8	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
394	94		土師器 坏	−	−	−	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜0.5mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
395	94		土師器 坏	18.3	−	−	横なで・摩滅	横なで・指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	精良	破片	
396	94		土師器 坏	16.3	−	−	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	橙5YR7/6	0.1〜0.3mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
397	94		土師器 坏	16.2	−	−	摩滅	横なで・ヘラ磨き	普通	橙5YR6/6	0.2〜2mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
398	94	76	土師器 坏	20.1	−	17.8	横なで・手持ちヘラ削り	横なで後ヘラ磨き	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
399	94	76	土師器 坏	18.9	−	15.7	横なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/8	0.2〜1.5mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
400	94		土師器 高台付坏	17.0	−	−	横なで	横なで	普通	橙5YR7/8	0.1〜1mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
401	94		土師器 高台付坏	22.6	−	−	横なで	横なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜1.5mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
402	94		土師器 高台付坏	−	−	15.9	ヘラ切り後指なで	摩滅	普通	橙5YR6/6	0.1〜1.5mmの砂粒を少量含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
403	94		土師器 高台付盤	−	−	11.7	指なで	指なで	普通	橙5YR7/6	0.1〜1mmの砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	底径1/8	
404	94		土師器 皿	−	−	−	指なで	指なで・ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
405	94		土師器 皿	−	−	−	摩滅	摩滅	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜2mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
406	94		土師器 皿	20.6	−	18.5	摩滅・横なで・板なで	横なで	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜0.3mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
407	94	76	土師器 皿	21.6	−	−	横なで・板なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
408	94		土師器 皿	19.8	−	−	横なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.2〜1mmの砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
409	94		土師器 皿	17.5	−	15.4	横なで・板なで・丹塗り	摩滅・ヘラ磨き・丹塗り	普通	明赤褐5YR5/8	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
410	94		土師器 皿	20.3	2.4	16.5	摩滅	摩滅	普通	橙5YR7/6	0.2〜2mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
411	94		土師器 皿	−	−	−	横なで	横なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜3mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
412	94		土師器 皿	17.8	−	−	摩滅	摩滅	普通	橙5YR7/6	0.1〜0.5mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
413	94	76	土師器 高坏	−	−	−	指なで・板なで後ヘラ磨き	指なで	普通	橙5YR7/8	0.1〜1mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
414	94		土師器 高坏	−	−	13.0	指なで・摩滅	指なで・板なで・摩滅	普通	橙2.5YR6/8	精良	口径1/8	
415	94		回転台土師器 坏	14.3	−	−	横なで後指なで	横なで後指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜2mmの砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
416	94		回転台土師器 坏	−	−	7.7	横なで・ヘラ切り後指なで	指なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜1mmの砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
417	94		回転台土師器 坏	−	−	9.0	横なで・ヘラ切り後指なで	指なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英含む	底径2/8	
418	94		回転台土師器 皿	−	−	11.5	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.2〜2mmの砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
419	94		回転台土師器 椀	−	−	7.9	指なで	指なで	普通	橙5YR7/6	0.1〜0.5mmの砂粒を少量含む 石英含む	底径1/8	
420	95		土師質 長胴甕	23.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・板なで	普通	にぶい橙10YR7/4	0.1〜1mmの砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
421	95		土師質 甕	17.8	−	−	横なで・ハケ目	指なで・ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜2mmの砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
422	95		土師質 甕	12.8	−	−	指なで・ハケ目・摩滅	指なで・指頭痕	普通	橙5YR6/6	0.3〜4mmの砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	鉢か？
423	95	76	土師質 甕	11.0	−	−	指なで・ヘラ磨き	指なで・指頭痕・ハケ目	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜0.5mmの砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
424	95		土師質 甕	30.8	−	−	横なで・指なで	ヘラ磨き・摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜2mmの砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
425	95		土師質 甕	15.0	−	−	摩滅・指頭痕	ヘラ削り後指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.3〜4mmの砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
426	95		土師質 甕	26.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜2mmの砂粒を多量に含む 石英・長石含む	頸部2/8	
427	95		土師質 甕	27.5	−	−	横なで・ハケ目・摩滅	ハケ目・指頭痕・指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜7mmの砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
428	95		土師質 甕	28.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指頭痕後ヘラ削り	普通	橙5YR6/6	0.3〜3mmの砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
429	95		土師質 甕	19.9	−	−	横なで・ハケ目	横なで・板なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
430	95	77	土師質 甕	29.0	−	−	横なで・摩滅・ハケ目・指なで	摩滅・ハケ目・板なで・指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	3/8	
431	95		土師質 鍋	37.0	−	−	ハケ目・摩滅	ハケ目・指なで・摩滅	普通	橙 5 YR7/8	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
432	95		土師質 鍋	44.0	−	−	指なで・摩滅	指なで・板なで・摩滅	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
433	95		土師質 鍋	44.4	−	−	指頭痕後横なで・ハケ目	ハケ目・板なで	普通	明赤褐 5 YR5/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
434	95		土師質 鍋	46.2	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
435	96	77	土師質 長胴甕	26.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ・板なで	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
436	96	77	土師質 長胴甕	31.6	−	−	横なで・ハケ目後横なで	ハケ目後横なで・ハケ目後指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.1〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
437	96	77	土師質 長胴甕	−	−	−	指なで・ハケ目	ハケ目・ハケ目後指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
438	96	77	土師質 長胴甕	−	−	−	横なで・ハケ目後指なで	ハケ目・指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	鍔1/8	
439	96	77	土師質 甑	−	−	−	ハケ目	指なで後板なで	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
440	96	77	土師質 甑	27.4	−	−	横なで・ハケ目	指なで・摩滅	普通	橙 5 YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
441	96	77	土師質 甑	35.6	−	−	横なで・板なで	横なで・板なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
442	96	77	土師質 甑	−	−	26.6	指頭痕後ハケ目・横なで	指頭痕後横なで・ハケ目	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
443	96		土師質 竈	−	−	−	ハケ目・指なで	指なで・指頭痕	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
444	96	78	土師質 竈	−	−	−	指頭痕・ハケ目・指なで	指頭痕・ハケ目・指なで	普通	橙7.5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	筒部長(cm)	筒部径(cm)	厚さ(cm)	凸面	凹面	胎土	色調	焼成
445	96		平瓦	5.9	−	−	2.2	ヘラ削り	なで	0.1〜1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	灰 N6/	やや良

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
446	96	78	製塩土器	−	−	−	タタキ目	板なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
447	96	78	土馬	−	−	−	板なで後指なで	横なで	普通	橙7.5YR7/4	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	脚8/8	右足

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
448	97	78	石鏃	2.7	2.0	0.4	1.55	サヌカイト	風化 凹基式
449	97	78	石鏃	2.5	1.4	0.3	1.53	サヌカイト	基部欠損 凹基式
450	97	78	石鏃	2.7	2.0	0.5	3.06	サヌカイト	先端部・基部の一部欠損 凹基式 未製品
451	97	78	石鏃	2.3	1.8	0.4	1.50	サヌカイト	先端部・基部の一部欠損 凹基式
452	97	78	石鏃	3.2	2.4	0.6	5.04	サヌカイト	先端部欠損 凹基式
453	97	78	石鏃	1.4	1.3	0.2	0.67	サヌカイト	先端部欠損 平基式
454	97	78	石鏃	3.4	1.6	0.4	2.17	サヌカイト	先端部欠損 平基式
455	97	78	石鏃	4.1	1.9	0.5	3.68	サヌカイト	全体に摩滅あり 未製品か
456	97	78	石槍	6.9	4.2	1.3	43.58	サヌカイト	基部欠損 左側辺にツブレあり 片面に摩滅あり
457	97	78	石錐	2.5	2.7	0.6	2.56	サヌカイト	基部・錐部の一部欠損 錐部にツブレあり
458	97	78	スクレイパー	4.9	2.7	0.7	11.07	サヌカイト	刃部にツブレと摩滅あり
459	97	78	ラウンドスクレイパー	5.3	4.5	2.1	64.35	サヌカイト	周辺部にツブレあり 両面に摩滅あり
460	97	78	敲き石	8.6	6.5	4.7	339.14	砂岩	一部欠損
461	97		石錘	12.1	4.8	4.3	390.37	砂岩	一部欠損
462	98	79	凹石兼敲き石	10.8	10.3	6.5	1132.83	砂岩	一部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
463	98	79	凹石	9.7	9.7	4.8	528.65	流紋岩	一部欠損
464	98		凹石兼砥石	13.8	11.7	5.8	1446.70	砂岩	一部欠損 二面に摩滅あり
465	98	79	凹石	13.1	11.2	6.0	1407.40	砂岩	一部欠損
466	99	79	砥石	6.3	5.15	3.6	157.21	流紋岩	一部欠損 全面に摩滅あり
467	99	79	砥石	3.6	3.2	2.0	29.94	流紋岩	一部欠損 両面に摩滅あり
468	99	79	砥石	3.8	3.3	2.2	28.77	流紋岩	一部欠損 全面に摩滅あり
469	99	79	砥石	16.7	13.0	7.2	2422.67	砂岩	一部欠損 全体に摩滅あり
470	99	79	砥石	20.2	17.9	7.9	4500.00	安山岩	一部欠損 二面に摩滅あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
471	100		須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
472	100		須恵器 蓋	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで・自然釉	回転なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
473	100		須恵器 高台付坏	−	−	11.7	横なで・指なで・ヘラ切り	横なで後指なで	普通	灰白 N7/	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
474	100		須恵器 高台付坏	−	−	11.2	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
475	100		須恵器 高台付坏	−	−	10.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	精良	底径1/8	
476	100	80	須恵器 高台付坏	−	−	13.0	横なで・ヘラ切り・爪痕	横なで後仕上げなで	良好	灰 N4/	精良	底径3/8	
477	100		須恵器 坏	12.8	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
478	100		須恵器 坏	11.9	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 B5/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
479	100		須恵器 坏	15.3	4.8	7.8	横なで・火襷・ヘラ切り	横なで・火襷	普通	灰白 N8/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	2/8	
480	100		須恵器 皿	19.8	2.8	16.6	横なで・ヘラ切り	横なで	不良	灰白7.5Y7/1	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	2/8	
481	100		須恵器 甕	12.0	−	−	横なで	横なで	普通	にぶい褐7.5YR6/3	0.2〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
482	100		須恵器 短頸壺	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	精良	底径1/8	
483	100		須恵器 壺	13.6	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
484	100		須恵器 甕	−	−	19.0	横なで後タタキ目・手持ちヘラ削り	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
485	100		須恵器 甕	22.7	−	−	横なで・タタキ目後カキ目・摩滅	横なで・青海波文・摩滅	不良	灰白2.5Y7/1	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
486	100	80	須恵器 甕	−	−	−	横なで後ヘラ描き・カキ目後ヘラ描き	横なで	良好	明褐灰7.5YR7/1	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
487	100	80	須恵器 壺 or 甕 体部	−	−	−	平行タタキ目痕	指頭痕	良好	灰 N4/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
488	100	80	土師器 坏	14.2	−	−	ヘラ磨き・板なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/8	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
489	100	80	土師器 坏	18.4	−	−	指なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
490	100		土師器 皿	18.0	1.8	−	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
491	100		回転台土師器 坏	17.6	−	13.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	不良	灰 N7/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
492	100		土師器 高坏	−	−	11.2	板なで・板なで後横なで	横なで	普通	橙2.5Y6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
493	100		土師質 甕	15.6	−	−	横なで・ハケ目（摩滅）	横なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
494	100		土師質 長胴甕	32.3	−	−	横なで・ハケ目後指頭痕	摩滅・ハケ目・指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/3	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
495	101		須恵器 壺	−	−	−	横なで・横なで後板なで	横なで	良好	灰 N5/ 釉：オリーブ黒7.5Y3/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	1/8	
496	101		土師器 坏	15.8	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
497	101		回転台土師器 高台付皿	−	−	16.6	摩滅・丹塗り	摩滅・丹塗り	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
498	101		回転台土師器 坏	−	−	6.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
499	101		土師質 長胴甕	35.2	−	−	横なで・ハケ目・煤付着	ハケ目・板なで	普通	灰褐7.5YR5/2	0.3〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
500	101		土師質 竈	−	−	−	指頭痕・指なで・板なで	指頭痕・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	上部鍔部分	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
501	101		砥石	6.0	5.1	5.0	229.73	砂岩	一部欠損 三面に摩滅あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
502	102		須恵器 坏蓋	11.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
503	102		須恵器 坏蓋	13.7	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
504	102		須恵器 蓋	16.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/ 釉：灰オリーブ7.5Y5/3	精良	口径1/8	
505	102		須恵器 蓋	17.2	−	−	横なで	横なで	不良	灰白 N8/	0.2〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
506	102		須恵器 蓋	19.0	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	灰白 N7/ 釉：オリーブ黒10Y3/2	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
507	102		須恵器 坏身	10.9	3.1	−	横なで・ヘラ切り・自然釉	横なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰10Y5/2	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	1/8	
508	102		須恵器 坏	12.9	4.1	9.2	摩滅	摩滅	やや不良	灰白7.5Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
509	102		須恵器 坏	−	−	9.6	横なで・ヘラ切り後板なで	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	精良	底径3/8	
510	102		須恵器 坏	13.9	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N7/	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
511	102		須恵器 坏	14.0	−	−	横なで	横なで	普通	にぶい黄橙10YR7/2	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
512	102		須恵器 坏	−	−	7.8	横なで・ヘラ切り	横なで	やや不良	灰白 N8/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
513	102		須恵器 高台付坏	−	−	10.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで後指なで	やや良	灰白 N7/	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
514	102		須恵器 高台付坏	−	−	12.3	横なで・ヘラ切り	横なで・横なで後指なで	やや不良	灰7.5Y6/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
515	102		須恵器 皿	16.0	2.1	13.4	横なで	横なで	やや良	灰白 5 Y7/1	0.2〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
516	102	81	須恵器 皿	18.2	2.2	14.8	横なで	横なで・青海波文	良好	青灰 5 B5/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
517	102		須恵器 壺	−	−	−	格子目タタキ後指なで	回転なで後指なで・指頭痕	良好	黄灰2.5Y4/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
518	102	81	須恵器 円面硯	21.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
519	102		土師器 坏	−	−	−	ヘラ磨き・摩滅	指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
520	102		土師器 皿	24.1	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
521	102	81	回転台土師器 高台付坏	−	−	21.7	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	やや良	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
522	102	81	土師器 高坏	−	−	−	ハケ目後ヘラ磨き	摩滅・ヘラ磨き？	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
523	102	81	土師器 高台付坏	19.6	4.4	14.7	指なで・摩滅・ヘラ切り後指なで	指なで・摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	1/8	
524	102		回転台土師器 坏	10.9	2.9	7.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄2.5Y7/3	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径4/8	
525	102		回転台土師器 坏	−	−	8.1	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・横なで後指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
526	102		回転台土師器 坏	−	−	8.8	摩滅	摩滅	普通	橙7.5YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
527	102		円盤状高台 坏（椀）	−	−	8.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
528	102		土師質 甕	15.8	−	−	指なで・摩滅	指なで・摩滅	やや不良	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
529	102	81	土師質 甕	20.8	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目・ヘラ削り後ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	頸部2/8	
530	102		土師質 長胴甕	−	−	−	指なで	板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
531	102		土師質 長胴甕	−	−	−	ハケ目後横なで・指なで	ハケ目後横なで・指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
532	102		土師質 長胴甕	37.0	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
533	102		土師質 鍋	35.4	−	−	横なで・板なで	横なで・板なで	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
534	102		土馬	−	−	−	板なで	−	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚8/8	右足

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
535	103	81	砥石	4.0	2.2	3.0	37.00	流紋岩	二面に摩滅あり
536	103	81	砥石	8.5	2.6	2.7	75.98	流紋岩	四面に摩滅あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
537	104	82	須恵器 坏蓋	6.8	2.5	−	指なで・ヘラ切り後指なで・横なで	横なで・指なで	良好	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	4/8	
538	104		須恵器 坏蓋	12.1	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
539	104	82	須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
540	104	82	須恵器 蓋	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで・指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
541	104	82	須恵器 蓋	−	−	−	横なで	横なで・後仕上げなで	良好	灰黄褐10YR6/2	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
542	104	82	須恵器 蓋	−	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで・指なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
543	104		須恵器 蓋	16.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
544	104	82	須恵器 蓋	14.0	3.6	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/ 釉：灰白2.5Y8/1	0.3〜1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	3/8	
545	104		須恵器 蓋	−	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで後仕上げなで	やや不良	灰白 5 Y7/1	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
546	104		須恵器 蓋	15.6	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
547	104		須恵器 蓋	17.8	−	−	横なで	横なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
548	104		須恵器 蓋	16.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
549	104		須恵器 蓋	15.4	−	−	横なで後指なで	横なで	普通	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径2/8	
550	104		須恵器 蓋	14.0	−	−	横なで	横なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
551	104	82	須恵器 蓋	16.2	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで後指なで	普通	灰10Y6/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
552	104		須恵器 蓋	14.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
553	104	82	須恵器 蓋	15.0	−	−	自然釉	横なで後指なで	良好	灰 N6/ 釉：灰7.5Y4/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径3/8	
554	104	82	須恵器 蓋	15.8	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 N8/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
555	104	82	須恵器 蓋	14.2	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで・自然釉	横なで後仕上げなで	良好	灰 N6/ 釉：淡黄2.5Y8/3	精良	3/8	
556	104		須恵器 高台付坏	12.5	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
557	104		須恵器 高台付坏	14.2	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
558	104		須恵器 高台付坏	12.0	−	−	横なで	横なで	普通	灰白2.5Y7/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
559	104		須恵器 高台付坏	17.4	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 B5/1	0.1〜1.5の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
560	104		須恵器 高台付坏	15.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
561	104		須恵器 高台付坏	16.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
562	104		須恵器 高台付坏	15.6	−	−	横なで	横なで	普通	灰白 N8/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
563	104	83	須恵器 高台付坏	13.4	4.6	9.7	横なで・ヘラ切り	横なで	良好	青灰 5 B6/1	精良	3/8	
564	104		須恵器 高台付坏	15.3	4.2	9.9	横なで・指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
565	104		須恵器 高台付坏	16.5	4.3	13.9	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
566	104		須恵器 高台付坏	15.8	3.8	13.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰白 N7/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	底径1/8	
567	104		須恵器 高台付坏	−	−	12.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
568	104		須恵器 高台付坏	−	−	15.2	横なで	横なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰2.5GY5/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
569	104		須恵器 高台付坏	−	−	6.8	横なで・ヘラ切り	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	底径2/8	
570	104		須恵器 高台付坏	−	−	9.4	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.2〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
571	104		須恵器 高台付坏	−	−	8.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径4/8	
572	104		須恵器 高台付坏	−	−	9.0	横なで・指なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
573	104		須恵器 高台付坏	−	−	10.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	精良	底径3/8	
574	104		須恵器 高台付坏	−	−	9.3	横なで・指なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰 5 B5/1	精良	底径1/8	
575	104		須恵器 高台付坏	−	−	9.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N4/	精良	底径2/8	
576	104		須恵器 高台付坏	−	−	11.0	ヘラ切り後指なで・摩滅	摩滅	やや不良	灰 N6/	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
577	104		須恵器 高台付坏	−	−	12.4	横なで・ヘラ切り・指なで	横なで後指なで	良好	灰 N5/	0.3〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径3/8	
578	104		須恵器 高台付坏	−	−	11.7	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
579	104		須恵器 坏	11.9	−	−	横なで・火襷	横なで	普通	灰白 5 Y8/1	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
580	104		須恵器 坏	12.0	3.0	8.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	やや不良	灰 5 Y6/1	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	2/8	
581	104		須恵器 坏	−	−	7.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
582	104		須恵器 皿	14.0	2.0	11.2	横なで・ヘラ切り後指なで・指なで・火襷	横なで	良好	青灰 5 B5/	精良	口径2/8	
583	104		須恵器 皿	17.0	2.2	14.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.3〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
584	104		須恵器 鉢	15.4	−	−	横なで	横なで	やや良	灰白 N8/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
585	104		須恵器 鉢	20.5	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
586	105		須恵器 高坏	−	−	8.3	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	脚部6/8	
587	105	83	須恵器 高坏	−	−	8.7	横なで	横なで・指なで	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
588	105		須恵器 高坏	−	−	17.7	横なで	横なで・自然釉	良好	灰 5 Y6/1 釉:オリーブ黒10YR3/2	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
589	105		須恵器 高台付坏	10.1	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
590	105	83	須恵器 壺	8.8	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 B5/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
591	105	83	須恵器 壺	10.3	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/ 釉：灰オリーブ7.5Y4/2	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	2/8	
592	105	83	須恵器 短頸壺	5.7	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	灰 N5/ 釉：オリーブ黒10Y3/2	精良	口径2/8	
593	105		須恵器 壺	10.0	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
594	105		須恵器 高台付壺	−	−	10.0	横なで・ヘラ削り後指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
595	105		須恵器 甕	22.0	−	−	横なで・タタキ目後カキ目	横なで・当て具痕	普通	灰白2.5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
596	105	83	須恵器 甕	28.1	−	−	横なで・自然釉	横なで・自然釉	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
597	105		須恵器 甕	20.0	−	−	横なで・自然釉	横なで・自然釉	良好	灰 N5/ 釉：灰7.5Y6/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
598	105		須恵器 甕	22.2	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
599	105	83	須恵器 甕	34.2	−	−	横なで・格子目タタキ	横なで・指頭痕・自然釉	良好	青灰 5 PB6/1 釉：青黒 5 PB2/1	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
600	105		須恵器 甑 把手	−	−	−	指頭痕・指なで	指なで	普通	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
601	105	83	須恵器 円面硯	−	−	24.4	横なで・透かし約26個	横なで	良好	暗灰 N3/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
602	106	83	土師器 坏	11.2	2.6	5.5	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径3/8	
603	106		土師器 坏	13.7	−	−	横なで	横なで	良好	橙2.5YR6/8	0.1〜0.3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
604	106		土師器 坏	13.8	−	−	ヘラ磨き	摩滅・ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	精良	破片	
605	106		土師器 坏	14.7	−	−	横なで・ヘラ削り後ヘラ磨き	横なで・指なで後ヘラ磨き	やや良	浅黄橙7.5YR8/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
606	106		土師器 坏	16.8	−	−	指なで・板なで・粘土紐の接合痕	指なで	良好	にぶい橙 5 YR7/4	精良	口径1/8	
607	106	84	土師器 坏	17.6	−	−	横なで・ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	良好	灰白10YR8/2	0.2〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
608	106	84	土師器 坏	16.4	3.5	13.9	横なで・指頭痕後指なで	横なで・指なで	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	木葉痕
609	106	84	土師器 坏	18.5	−	16.7	指なで・ヘラ磨き・摩滅	指なで・ヘラ磨き・摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	1/8	
610	106	84	土師器 坏	19.5	−	−	横なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
611	106		土師器 坏	16.8	−	14.0	ヘラ磨き・摩滅	横なで	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜0.3㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	1/8	
612	106		土師器 坏	17.7	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR7/6	精良	破片	
613	106	84	土師器 坏	16.5	3.6	15.6	ヘラ磨き	ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	3/8	
614	106	84	土師器 坏	18.5	−	15.2	横なで後ヘラ磨き	摩滅	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	1/8	
615	106	84	土師器 坏	16.2	5.0	11.1	横なで・ヘラ削り	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	浅黄橙10YR8/3	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径3/8	
616	106		土師器 皿	20.3	−	−	横なで・摩滅・丹塗り	横なで・摩滅	普通	明赤褐2.5YR5/8 浅黄橙7.5YR8/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
617	106		土師器 皿	20.2	−	18.0	横なで	横なで	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
618	106		土師器 皿	−	−	12.5	横なで・摩滅	横なで・摩滅	普通	橙7.5YR7/4	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
619	106		土師器 高台付坏	−	−	11.8	横なで	指なで	普通	にぶい橙 5 YR6/4	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
620	106		土師器 高台付坏	−	−	10.2	指なで・ヘラ切り後指なで	摩滅	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
621	106		土師器 高台付坏	−	−	21.6	横なで後ヘラ磨き・摩滅・ヘラ切り・丹塗り	横なで後ヘラ磨き・摩滅・丹塗り	普通	にぶい橙10YR7/3	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
622	106	85	土師器 高坏	23.9	−	−	横なで後ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜1.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
623	106	85	土師器 高坏	−	−	−	指頭痕・指なで・ヘラ磨き	ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜 3 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
624	106		回転台土師器 坏	−	−	−	指なで・ヘラ切り・摩滅	指なで	普通	橙7.5YR7/4	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
625	107		土師質 甕	13.2	−	−	横なで・ハケ目	横なで・指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.3〜 2 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
626	107		土師質 甕	13.8	−	−	指なで・ハケ目	指なで・ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜 2 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
627	107		土師質 甕	18.6	−	−	横なで・ハケ目・摩滅	横なで・ヘラ削り	普通	橙 5 YR6/6	0.3〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
628	107		土師質 甕	20.9	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・指なで・板なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜 4 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
629	107		土師質 長胴甕	32.6	−	−	横なで・指頭痕後ハケ目	横なで・ハケ目・板なで	普通	にぶい橙 5 YR7/4	0.5〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
630	107		土師質 長胴甕	29.3	−	−	横なで・ハケ目	横なでハケ目・板なで	普通	橙2.5YR7/8	0.3〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
631	107		土師質 長胴甕	29.0	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・板なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
632	107		土師質 甕	31.6	−	−	横なで・ハケ目後指なで	ハケ目後指なで・板なで	やや良	橙 5 YR7/8	0.2〜 1 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
633	107		土師質 鍋	46.8	−	−	横なで・ハケ目・摩滅	横なで・板なで	普通	にぶい褐7.5YR5/3	0.3〜 5 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
634	107		土師質 鍋	46.0	−	−	摩滅・横なで・ハケ目	横なで・板なで	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
635	107	85	土師質 竈	−	−	29.3	ハケ目・横なで	ハケ目後指なで・指頭痕	普通	にぶい橙 5 YR7/4	0.1〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
636	107	85	土馬	−	−	−	指なで	−	普通	にぶい橙10YR7/4	0.3〜 4 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚8/8	右足
637	107	85	土馬	−	−	−	指なで	−	普通	橙7.5YR6/6	0.3〜 3 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚8/8	左足
638	107		製塩土器	−	−	−	指頭痕・指なで	指頭痕・指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.3〜 1 ㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
639	107	85	銅鏃	2.0	1.5	0.3	−	銅	茎部欠損
640	107		石錐	4.1	2.8	0.6	5.97	サヌカイト	基部・錐部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
641	109		須恵器 坏蓋	11.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜 1 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
642	109		須恵器 坏蓋	12.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜 2 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
643	109		須恵器 坏身	10.8	−	−	横なで	横なで	良好	緑灰10GY5/1	0.2〜 1 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
644	109		須恵器 坏身	11.5	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白 5 Y7/1	0.2〜 3 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
645	109		須恵器 高坏	−	−	10.1	横なで	横なで	やや良	灰 N4/	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
646	109		土師器 坏	−	−	−	横なで後ヘラ削り	横なで後ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
647	109		土師質 甕	13.4	−	−	摩滅・ハケ目	横なで・板なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜 2 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
648	109		土師質 壺	8.6	−	−	なで	ハケ目後ヘラ磨き	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
649	110		土師器 小皿	6.1	1.0	4.9	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.1〜 1 ㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
650	110		土師器 坏	8.5	−	5.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜 1 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	1/8	
651	110		土師器 坏	8.9	−	−	横なで	指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
652	110		土師器 坏	−	−	6.5	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	やや不良	灰白10YR8/2	0.2〜 2 ㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
653	110		土師器 坏	12.3	−	8.3	横なで・ヘラ切り後指なで	回転なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
654	110	86	土師質 土釜	21.9	−	−	横なで・指頭痕・板なで・格子目タタキ	板なで・（摩滅）	やや不良	にぶい黄橙10YR7/3	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
655	112		須恵器 坏蓋	8.8	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白5Y7/1	0.5〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
656	112		須恵器 坏蓋	11.3	−	−	横なで	横なで	良好	灰白N7/	精良	口径2/8	
657	112		須恵器 坏蓋	11.6	−	−	横なで	横なで	普通	灰白5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
658	112		須恵器 坏身	13.0	−	−	横なで	横なで	普通	灰白5Y7/1	0.3〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
659	112		須恵器 坏身	11.9	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	灰N5/ 釉：緑黒10G2/1	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
660	112		須恵器 坏身	11.2	−	−	横なで	横なで	やや不良	浅黄橙10YR8/3	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	1/8	
661	112	86	須恵器 坏身	11.5	3.5	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白7.5Y7/1	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	2/8	
662	112		須恵器 坏身	9.6	−	−	横なで	横なで	普通	灰N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
663	112		須恵器 坏身	11.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰白N7/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
664	112		須恵器 坏身	11.8	−	−	横なで	横なで	良好	灰N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
665	112		須恵器 坏身	10.3	−	−	横なで	横なで	良好	青灰5B5/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
666	112		須恵器 坏身	11.3	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰N5/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
667	112		須恵器 坏身	10.2	−	−	横なで	横なで	普通	灰N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
668	112		須恵器 坏身	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで・自然釉	横なで	良好	灰N6/ 釉：灰オリーブ7.5Y5/2	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径3/8	
669	112		須恵器 坏身	8.6	−	−	横なで	横なで	良好	灰N4/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
670	112	86	須恵器 坏身	9.0	3.5	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰5PB5/1	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	7/8	
671	112	86	須恵器 椀	15.9	4.9	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで・指なで	普通	灰N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	7/8	
672	112	87	須恵器 椀	13.0	−	−	横なで・横なで後手持ちヘラ削り	横なで・横なで後指なで	良好	灰5Y5/1	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	3/8	
673	112		須恵器 高坏	9.6	−	−	横なで	自然釉	良好	青灰5PB5/1 釉：オリーブ黒10Y3/2	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	3/8	
674	112		須恵器 高坏	−	−	8.0	横なで	指なで・指頭痕・指なで	普通	灰白5Y7/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
675	112	87	須恵器 高坏	−	−	9.1	横なで	横なで	やや良	灰N6/	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	
676	112	87	須恵器 平瓶	6.2	−	−	横なで後指なで・ヘラ削り・横なで	横なで	良好	灰N5/	精良	3/8	
677	112	87	須恵器 平瓶	−	−	−	横なで・手持ちヘラ削り・ヘラ切り後指なで	横なで・絞り痕	良好	灰N5/ 釉：灰白5Y8/1	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	4/8	
678	112		須恵器 平瓶	5.6	−	−	横なで	横なで	良好	灰N5/	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径2/8	
679	112		須恵器 平瓶	−	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで	良好	灰N5/	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	2/8	
680	112		須恵器 甕	15.0	−	−	横なで	横なで	良好	暗灰N3/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
681	112		須恵器 甕	15.6	−	−	横なで・格子目タタキ	横なで・青海波文	普通	灰白2.5Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
682	112	88	須恵器 横瓶	−	−	−	タタキ目後カキ目	青海波文・指頭痕	普通	灰白5Y8/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
683	112	88	須恵器 横瓶	−	−	−	タタキ目後カキ目	指なで後青海波文	良好	灰N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
684	112		須恵器 甑	22.7	−	−	横なで	横なで	普通	灰白7.5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
685	112	88	須恵器 甑	28.0	−	−	横なで・円形浮文	横なで	良好	灰5Y5/1 釉：黒2.5GY2/1	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
686	113		土師器 坏	11.7	−	−	摩滅・ヘラ磨き？	摩滅・ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
687	113	88	土師器 坏	13.6	3.9	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径4/8	
688	113	88	土師器 坏	17.6	−	−	ヘラ磨き・ヘラ記号	ヘラ磨き	良好	橙5YR7/8	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	4/8	
689	113	89	土師器 坏	15.0	−	−	横なで・横なで後ヘラ磨き・手持ちヘラ削り	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/8	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径4/8	
690	113	89	土師器 坏	16.8	−	−	なで・ヘラ磨き・手持ちヘラ削り	ヘラ磨き・指なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
691	113	89	土師器 坏	−	−	−	横なで・指なで・手持ちヘラ削り	横なで・横なで後ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
692	113	89	土師器 坏	12.8	−	−	横なで後ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	やや良	橙5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
693	113	89	土師器 坏	13.0	−	−	指なで・手持ちヘラ削り	横なで後ヘラ磨き	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
694	113	89	土師器 坏	15.8	−	−	横なで・ヘラ磨き	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
695	113		土師器 坏	14.0	−	−	摩滅	なで	やや不良	橙5YR7/6	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
696	113		土師器 坏	13.0	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
697	113		土師器 坏	17.7	−	−	剝落	剝落	不良	橙7.5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
698	113		土師器 鉢	−	−	−	横なで	横なで・手持ちヘラ削り・ハケ目	普通	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
699	113		土師器 鉢	17.9	−	−	横なで・指頭痕後ハケ目	横なで・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
700	113		土師器 鉢	21.6	−	−	横なで・ハケ目	横なで・板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
701	113		土師器 鉢	13.1	−	−	指なで	指なで	普通	橙5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
702	114		土師質 甕	13.3	−	−	横なで・指なで	横なで・板なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
703	114		土師質 甕	18.2	−	−	横なで・ハケ目	横なで後ハケ目・ハケ目後板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径4/8	
704	114		土師質 甕	20.6	−	−	横なで・ハケ目	横なで後板なで・ハケ目・板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
705	114		土師質 甕	21.1	−	−	横なで	ハケ目後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
706	114	89	土師質 甕	19.7	−	−	横なで・ハケ目	摩滅・板なで後指なで・ヘラ削り後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.5〜7㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	2/8	
707	114		土師質 甕	26.0	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
708	114		土師質 甕	28.7	−	−	横なで・指頭痕後横なで・ハケ目	横なで・ハケ目後指なで	やや良	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
709	114		土師質 甕	13.8	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	摩滅・ハケ目・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
710	114	90	土師質 甕	13.8	−	−	指頭痕後横なで	横なで後ハケ目・ヘラ削り	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
711	114		土師質 甕	16.6	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目後板なで・板なで	普通	にぶい橙10YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
712	114		土師質 甕	−	−	−	横なで	横なで・ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
713	114		土師質 甕	21.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
714	114		土師質 甕 把手	−	−	−	ハケ目・指頭痕・指なで	指なで・指頭痕	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
715	114		土師質 甕 把手	−	−	−	指なで・ハケ目	ヘラ削り後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
716	114	90	土師質 蛸壺	4.4	8.4	−	指頭痕後板なで	板なで・指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	8/8	葉圧痕
717	114		土師質 蛸壺	−	9.7	−	指頭痕後指なで	板なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	5/8	
718	114		土師質 甑	−	−	−	ハケ目	ハケ目	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
719	114	90	製塩土器	−	−	−	タタキ目	指頭痕・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
720	114	90	製塩土器	−	−	−	タタキ目	指なで	やや良	橙2.5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
721	114	90	製塩土器	−	−	−	タタキ目・指なで	指なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
722	114	90	製塩土器	−	−	−	指なで後板なで	板なで	普通	橙2.5YR6/8	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
723	114	90	臼玉	0.4	0.7	0.2	0.31	滑石	
724	114	90	管玉	1.4	0.5	0.1	0.63	碧玉	
725	114	90	スクレイパー	7.7	4.2	1.0	32.38	サヌカイト	風化

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
726	115		須恵器 坏蓋	12.0	−	−	横なで後指なで	横なで	良好	灰N5/	0.3〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
727	115		須恵器 坏蓋	12.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰N4/	0.3〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
728	115		須恵器 坏蓋	9.7	3.8	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰N5/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
729	115		須恵器 坏蓋	10.3	3.6	−	横なで・ヘラ切り	横なで	良好	灰 N5/	0.5〜7㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	5/8	
730	115		須恵器 坏蓋	10.2	3.1	−	横なで・ヘラ切り	横なで	良好	灰白2.5Y7/1	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	6/8	
731	115		須恵器 坏蓋	10.8	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰白2.5Y7/1	0.2〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
732	115	91	須恵器 坏蓋	10.1	4.0	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.3〜3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	7/8	
733	115		須恵器 坏蓋	10.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
734	115		須恵器 坏蓋	11.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
735	115		須恵器 坏身	10.4	−	−	横なで	横なで	良好	暗青灰 5 B4/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
736	115		須恵器 坏身	9.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
737	115	91	須恵器 坏身	10.2	3.9	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・指なで	良好	灰 N5/	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径6/8	
738	115		須恵器 坏身	9.1	−	−	横なで	横なで	良好	灰白 5 Y7/1 釉:オリーブ灰10Y4/2	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
739	115		須恵器 坏	9.6	3.0	7.1	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径2/8	
740	115	91	須恵器 坏	11.0	3.2	7.4	横なで・ヘラ削り・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
741	115		須恵器 高坏	−	−	−	横なで・沈線2条	横なで	良好	灰 N4/	0.5〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	4/8	
742	115	91	須恵器 高坏	−	−	−	横なで 沈線1条	横なで	やや良	灰 N6/	0.3〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	5/8	
743	115		須恵器 高坏	−	−	8.4	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
744	115		須恵器 高坏	−	−	−	横なで	横なで・指なで	普通	灰白 N7/	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
745	115		須恵器 高坏	−	−	9.9	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
746	115		須恵器 高坏	−	−	8.7	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径5/8	
747	115	91	須恵器 高坏	−	−	9.2	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	脚部8/8	
748	115		須恵器 高坏	−	−	8.4	横なで	横なで・指なで	やや不良	黄灰2.5Y6/1	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	脚部8/8	
749	115		須恵器 高坏	−	−	7.6	横なで・指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
750	115		須恵器 平瓶	6.3	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
751	115		須恵器 平瓶	−	−	−	横なで・指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
752	115	92	須恵器 甕	−	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで・沈線・穿孔・自然釉	横なで・指なで	良好	灰 N5/ 釉:灰白 5 Y8/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
753	115	92	須恵器 短頸壺	−	−	−	横なで・指なで	横なで	やや良	灰 N5/	0.3〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	5/8	
754	115	92	須恵器 甕	17.4	−	−	横なで・タタキ目後カキ目	横なで・板なで・青海波文	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
755	115	92	須恵器 甕	18.5	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・青海波文	良好	灰 N4/ 釉:黒 N2/ 灰白7.5Y8/1 灰オリーブ7.5Y4/2	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径6/8	
756	115		須恵器 横瓶	−	−	−	タタキ目後カキ目	青海波文後指なで	良好	灰 N5/	0.1〜3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
757	116		土師器 坏	12.0	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後指なで	横なで	普通	橙 5 YR7/8	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
758	116		土師器 坏	14.0	−	−	横なで・指なで・手持ちヘラ削り	摩滅・ヘラ磨き？	普通	橙 5 YR6/8	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
759	116		土師器 坏	15.9	−	−	横なで・指なで後ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	普通	橙2.5YR7/6	0.2〜7㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
760	116		土師器 坏	15.3	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで・指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
761	116		土師器 坏	19.7	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで・ヘラ磨き	普通	浅黄橙10YR8/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
762	116		土師器 坏	−	−	−	横なで・指頭痕	横なで・指なで	普通	橙 5 YR7/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
763	116		土師器 坏	10.9	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	摩滅・ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
764	116	92	土師器 坏	14.1	−	−	指なで・ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
765	116	92	土師器 坏	−	−	−	手持ちヘラ削り	指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
766	116		土師器 坏	22.7	−	−	横なで・指なで	横なで・指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
767	116	92	土師器 坏	−	−	−	手持ちヘラ削り	指なで	普通	橙2.5YR6/8	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径7/8	
768	116		土師器 坏	16.8	−	−	横なで・横なで後指なで・ヘラ磨き	横なで・横なで後指なで後ヘラ磨き	やや不良	浅黄橙10YR8/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
769	116		土師器 坏（鉢）	13.8	−	−	横なで	横なで・板なで	やや良	橙5 YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
770	116		土師器 坏	−	−	−	横なで・横なで後ヘラ磨き・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで・横なで後ヘラ磨き	普通	浅黄橙10YR8/4	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
771	116	93	土師器 鉢	15.2	6.3	−	ハケ目後指なで・ヘラ削り	指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	2/8	
772	116	93	土師器 鉢	15.2	−	−	横なで・ハケ目	横なで・板なで	普通	橙5 YR7/8	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
773	116	93	土師器 鉢	20.8	−	−	横なで・指頭痕後ハケ目	横なで・板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径4/8	
774	116	93	土師器 高坏	−	−	−	ハケ目・指なで	ヘラ磨き・板なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
775	117		土師質 甕	14.0	−	−	ハケ目後指なで・ハケ目	ハケ目・板なで後指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
776	117		土師質 甕	13.4	−	−	横なで後ハケ目・ハケ目	ハケ目後指なで・板なで後指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
777	117		土師質 甕	11.7	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
778	117		土師質 甕	12.5	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ヘラ削り	やや不良	明赤褐2.5YR5/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
779	117		土師質 甕	13.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・板なで後指なで	普通	橙5 YR7/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
780	117		土師質 甕	12.9	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指頭痕・指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
781	117		土師質 甕	13.5	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ヘラ削り	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
782	117		土師質 甕	13.4	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・板なで	やや不良	にぶい赤褐5 YR5/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
783	117		土師質 甕	13.9	−	−	指なで・ハケ目	ハケ目後指なで・ヘラ削り	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
784	117		土師質 甕	12.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・板なで後指なで	普通	灰黄褐10YR5/2	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径2/8	
785	117	93	土師質 甕	11.6	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・ヘラ削り	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
786	117		土師質 甕	22.5	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目・ハケ目後指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
787	117		土師質 甕	23.0	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ハケ目後板なで	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
788	117		土師質 甕	23.1	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ハケ目	普通	橙5 YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
789	117		土師質 甕	23.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ハケ目・指頭痕	普通	橙7.5YR6/6	0.3〜5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
790	117		土師質 甕	26.2	−	−	横なで・ハケ目	指頭痕後ハケ目後板なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
791	117		土師質 甕	27.8	−	−	ハケ目・横なで	ハケ目・板なで	普通	橙2.5YR7/8	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
792	117		土師質 甕	18.3	−	−	指なで	指なで・ハケ目後指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
793	117		土師質 甑	23.5	−	−	指なで	指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
794	117		土師質 甑	26.3	−	−	指頭痕後ハケ目	ハケ目後指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
795	117		土師質 竈	−	−	−	指なで・ハケ目	板なで・指頭痕	普通	浅黄橙10YR8/4	0.3〜5㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
796	117	93	土師質 蛸壺	11.6	17.8	−	横なで・ハケ目・指頭痕	横なで・板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.5〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	6/8	
797	117	94	製塩土器	−	−	−	板なで後指なで	指なで	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
798	117	94	製塩土器	8.6	−	−	タタキ目	指頭痕・板なで	普通	橙5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
799	117	94	製塩土器	10.6	−	−	指なで・タタキ目	指なで	普通	橙5 YR7/8	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
800	117	94	製塩土器	−	−	−	板なで	板なで	普通	橙5 YR6/8	0.5〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
801	117	94	製塩土器	−	−	−	指なで後タタキ目	指頭痕後板なで	普通	橙2.5YR6/8	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
802	117		鞴 羽口	−	厚さ1.5	−	指なで	指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
803	118		石鏃	3.8	2.0	0.5	3.93	サヌカイト	先端部欠損
804	118		石鏃	2.5	1.5	0.5	1.16	サヌカイト	風化 基部欠損 凹基式
805	118		凹石兼敲き石	8.5	7.2	3.8	314.52	花崗岩	一部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
806	119		須恵器 坏蓋	9.0	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	0.2〜3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
807	119	94	須恵器 坏蓋	10.2	3.3	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径2/8	
808	119		須恵器 坏身	10.3	−	−	横なで後指なで	横なで・指なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径2/8	
809	119		須恵器 坏身	9.2	3.1	−	横なで・ヘラ切り	横なで	良好	青灰 5 PB6/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
810	119		須恵器 坏身	9.3	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	精良	口径2/8	
811	119		須恵器 高坏	13.8	−	−	横なで・指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
812	119		須恵器 短頸壺	−	−	−	横なで	横なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
813	119		須恵器 短頸壺	5.0	−	−	横なで・凹線・自然釉	横なで	良好	灰 N5/釉：灰7.5Y5/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
814	119		土師器 坏	11.7	−	−	指なで	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
815	119	94	土師器 坏	15.3	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
816	119	94	土師器 坏	16.5	−	−	指なで・手持ちヘラ削り	指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径2/8	
817	119		土師器 坏	16.8	−	−	ハケ目	指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
818	119		土師器 坏	19.6	−	−	横なで・指頭痕後ハケ目	指頭痕後横なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
819	119		土師器 高杯	21.8	−	−	横なで・ヘラ磨き後横なで・ヘラ削り	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
820	119	94	土師器 高坏	−	−	9.8	指なで	しぼり目・ハケ目・指なで	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
821	119		土師質 甕	14.5	−	−	ハケ目	ハケ目・板なで後指なで	普通	橙 5 YR7/8	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
822	119		土師質 甕	13.0	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	橙7.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
823	119		土師質 甕	17.8	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・板なで	普通	浅黄2.5Y7/3	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
824	119		土師質 甕	23.4	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・板なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
825	119		土師質 甕	23.6	−	−	横なで・ハケ目・指頭痕	ハケ目後横なで・ハケ目・板なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
826	119		土師質 甕 把手	−	−	−	ハケ目・指頭痕・指なで	指頭痕・板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
827	119		土師質 甑	24.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
828	119	94	須恵器 甕	20.0	−	−	横なで・タタキ目後カキ目	横なで後青海波文	良好	灰 N4/	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
829	119		土師質 鉢壺	−	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR7/8	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
830	119	94	土師質 鉢壺	4.3	8.6	−	指頭痕後板なで	指なで	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	5/8	
831	119		土師質 鉢壺	−	−	−	指頭痕・指なで	指頭痕	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
832	119		製塩土器	−	−	−	指頭痕・指なで・タタキ目	指頭痕・指なで	普通	にぶい赤褐 5 YR5/4	0.1〜1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・金雲母含む	破片	
833	119		製塩土器	9.3	−	−	タタキ目後指なで	指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
834	119		製塩土器	9.9	−	−	タタキ目後指頭痕	指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
835	120		石鏃	3.0	1.5	0.5	1.74	サヌカイト	先端部欠損 柳葉式
836	120		楔形石器	9.9	6.5	2.7	207.51	サヌカイト	加・打撃による敲打痕あり 両側辺に敲打痕あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
837	121		須恵器 坏蓋	12.6	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで	良好	青灰 5 B5/1	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
838	121	95	須恵器 坏蓋	9.6	3.6	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	青灰 5 PB5/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	4/8	
839	121		須恵器 坏蓋	−	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
840	121		須恵器 坏身	11.7	−	−	横なで・指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
841	121		須恵器 坏身	11.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
842	121		須恵器 坏身	10.8	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
843	121		須恵器 坏身	9.8	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
844	121		須恵器 高坏	−	−	9.6	横なで	横なで・指なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	脚部6/8	
845	121		須恵器 高坏	−	−	9.2	横なで	横なで・指なで	やや良	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
846	121	95	須恵器 高坏	−	−	10.3	横なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	5/8	
847	121	95	須恵器 高坏	12.4	7.2	8.3	ヘラ削り・横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	7/8	
848	121		須恵器 平瓶	7.7	−	−	横なで・沈線3条	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
849	121	95	須恵器 甕	19.5	−	−	横なで・線刻・刻目	横なで	良好	灰 N6/1 釉：灰黄2.5Y7/2	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
850	121		須恵器 甕	24.8	−	−	横なで・自然釉	横なで・自然釉	良好	灰白 5 Y7/1 釉：灰オリーブ7.5Y 4/2 灰白 5 Y8/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
851	121	95	須恵器 甑	−	−	13.5	横なで後指なで・指なで	指なで	普通	灰 N7/	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径4/8	
852	121		土師器 坏	9.8	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで後ヘラ磨き	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
853	121	95	土師器 坏	16.0	5.5	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	6/8	
854	121		土師器 坏	17.0	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
855	121		土師器 坏	17.4	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後指なで・指頭痕	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	1/8	
856	121		土師器 坏	17.8	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
857	121		土師器 坏	19.1	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR6/8	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
858	121	96	土師質 甕	12.5	−	−	横なで・板なで後ハケ目	ハケ目・ヘラ削り	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	2/8	
859	121		土師質 甕	12.0	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・板なで後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
860	121		土師質 甕	13.7	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
861	121		土師質 甕	23.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ハケ目	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
862	121		土師質 鍋	−	−	−	横なで後ハケ目・板なで	横なで・板なで後ハケ目	普通	橙 5 YR6/6	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
863	121	96	土師質 甕	21.9	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目・指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径7/8	
864	121		土師質 甕	24.5	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ハケ目後指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
865	121		土師質 甕	25.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
866	121		土師質 甑	26.0	−	−	横なで後ハケ目	横なで後ハケ目・板なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
867	122		土師質 蛸壺	−	−	−	指なで	指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	5/8	
868	122	96	土師質 蓋	14.5	6.6	−	板なで後指頭痕・ハケ目後横なで	指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	8/8	
869	122		鞴 羽口	−	厚さ 1.8	−	指なで	指なで	普通	にぶい赤褐 5 YR5/4	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
870	122	96	石槍	7.1	3.2	1.3	27.52	サヌカイト	先端部・基部の欠損 両側辺にツブレあり 両面に摩滅あり
871	122	96	敲き石	6.6	5.0	3.5	139.05	砂岩	一部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
872	123		須恵器 坏蓋	15.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
873	123		須恵器 坏蓋	14.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰白 N7/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
874	123		須恵器 坏蓋	13.7	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
875	123		須恵器 坏蓋	11.8	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
876	123	97	須恵器 坏蓋	10.0	3.2	−	横なで	横なで・ヘラ切り	良好	灰 N5/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	7/8	
877	123		須恵器 坏蓋	12.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
878	123		須恵器 坏蓋	11.0	3.9	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰 N6/	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	4/8	
879	123		須恵器 坏蓋	11.8	−	−	横なで・指なで	横なで	良好	灰 N4/	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
880	123		須恵器 坏蓋	11.3	3.2	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰白 N7/	精良	5/8	
881	123		須恵器 坏蓋	10.2	−	−	横なで・回転ヘラ削り後指なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
882	123		須恵器 坏蓋	10.8	−	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.5〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
883	123		須恵器 坏蓋	11.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/ 釉：暗オリーブ灰 5 GY3/1	0.5〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
884	123		須恵器 坏蓋	7.8	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
885	123		須恵器 坏身	11.6	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
886	123		須恵器 坏身	11.4	3.7	−	横なで・ヘラ削り	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
887	123		須恵器 坏身	10.9	2.8	−	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	灰 N5/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
888	123		須恵器 坏身	10.0	3.2	−	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
889	123	97	須恵器 坏身	10.3	3.8	−	横なで・ヘラ切り・灰かぶり	横なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰10Y4/2	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径3/8	
890	123		須恵器 坏身	9.7	−	−	横なで・横なで後指なで	横なで	良好	青灰 5 B6/	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
891	123		須恵器 坏身	8.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
892	123	97	須恵器 坏身	9.8	2.8	5.9	横なで	横なで・ヘラ切り後指なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
893	123		須恵器 鉢？	15.7	−	−	横なで	横なで	普通	灰 N5/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
894	123		須恵器 高坏	10.1	−	−	横なで・ヘラ削り後指なで	横なで	良好	灰 N6/ 釉：オリーブ灰2.5GY5/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
895	123		須恵器 高坏	−	−	8.7	横なで	横なで	普通	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
896	123		須恵器 高坏	−	−	7.4	横なで	横なで	普通	灰白 N7/	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	6/8	
897	123		須恵器 高坏	−	−	9.3	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
898	123		須恵器 高坏	−	−	9.3	横なで	横なで	やや不良	灰白 5 Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
899	123		須恵器 高坏	12.0	−	−	横なで	横なで	普通	黄灰2.5Y6/1	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
900	123		須恵器 高坏	−	−	9.3	横なで	横なで	良好	灰 N4/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
901	123		須恵器 高坏	−	−	13.8	横なで・カキ目	横なで・自然釉	良好	灰 5 Y6/1 釉：暗オリーブ7.5Y4/3	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
902	123		須恵器 高坏	−	−	8.8	横なで	横なで	やや良	灰10Y5/1	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
903	123		須恵器 高坏	−	−	12.0	横なで	横なで	普通	灰 N5/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
904	123	97	須恵器 甕	−	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで	良好	灰 N6/ 釉：灰白 5 Y8/1	0.3〜2㎜の砂粒を少量含む 石英含む	7/8	
905	123		須恵器 平瓶	7.9	−	−	横なで・沈線3条？	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
906	123		須恵器 平瓶	5.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径3/8	
907	123	97	須恵器 甕	16.5	−	−	横なで・線刻	横なで	普通	灰白 N8/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	ヘラ描き
908	123		須恵器 甕	21.0	−	−	横なで・刻目	横なで	良好	灰 N5/	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
909	123		須恵器 甕	21.4	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
910	123		須恵器 横瓶	11.7	−	−	横なで	横なで	やや良	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
911	124		土師器 坏	9.8	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	指なで	やや不良	浅黄橙10YR8/3	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径4/8	
912	124		土師器 坏	12.9	−	−	横なで・指なで後ヘラ磨き	横なで・指なで後ヘラ磨き	やや良	橙 5 YR6/8	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
913	124		土師器 坏	16.0	−	−	横なで・ヘラ磨き	ヘラ磨き・指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
914	124		土師器 坏	16.3	−	−	ヘラ磨き・手持ちヘラ削り・摩滅	摩滅	普通	橙2.5YR7/8	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
915	124		土師器 坏	17.0	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	横なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/8	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
916	124		土師器 坏	17.4	−	−	ヘラ磨き	ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
917	124		土師器 坏	16.0	−	−	指なで・板なで	指なで後ヘラ磨き	普通	橙 5 YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
918	124		土師器 坏	17.1	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.5〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
919	124		土師器 坏	17.0	−	−	横なで・手持ちヘラ削り	指なで後ヘラ磨き	普通	橙7.5YR7/6	0.5〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
920	124		土師器 坏	18.9	−	−	横なで・ヘラ磨き	横なで・指なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
921	124		土師器 坏	17.3	−	−	ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR6/8	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
922	124		土師器 坏	18.8	−	−	横なで・ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	やや良	橙5YR7/8	0.5〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
923	124		土師器 坏	15.8	−	−	指なで・手持ちヘラ削り・摩滅	ヘラ磨き・摩滅	やや不良	橙5YR7/6	0.1〜7㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	1/8	
924	124		土師器 坏	16.1	−	−	手持ちヘラ削り	指なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
925	124		土師器 坏	17.3	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/6	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
926	124		土師器 坏	17.7	−	−	横なで・手持ちヘラ削り後ヘラ磨き	横なで・ヘラ磨き	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	1/8	
927	124		土師器 坏	−	−	−	横なで・指頭痕後指なで	横なで・ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/6	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
928	124	97	土師器 坏	−	−	−	板なで後指なで	ヘラ磨き	普通	橙5YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径3/8	ヘラ記号
929	124	97	土師器 坏	−	−	−	ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	橙2.5YR6/8	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径7/8	
930	124		土師器 高坏	10.0	−	−	指なで	指なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
931	124		土師器 高坏	−	−	−	ハケ目・指なで・穿孔	横なで・指なで	普通	橙5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
932	124	98	土師器 高坏	−	−	12.7	ハケ目・横なで・ヘラ磨き	ハケ目・指なで・板なで後ヘラ磨き	普通	橙5YR7/8	0.2〜5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径5/8	
933	125		土師質 甕	12.4	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ヘラ削り後指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
934	125		土師質 甕	12.9	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・指頭痕	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
935	125		土師質 甕	22.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
936	125		土師質 甕	21.6	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・指頭痕後板なで	普通	橙5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
937	125		土師質 甕	19.5	−	−	指頭痕後横なで	ハケ目	普通	橙5YR7/1	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
938	125		土師質 甕	26.9	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ハケ目・ヘラ削り後板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
939	125		土師質 甕	18.5	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・板なで	普通	橙5YR7/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
940	125		土師質 甕	19.9	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ハケ目・指なで	普通	橙5YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
941	125		土師質 甕	20.0	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ハケ目後指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
942	125		土師質 甕	22.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
943	125	98	土師質 甕	18.0	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・ヘラ削り	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
944	125		土師質 甕	20.6	−	−	指頭痕後横なで・ハケ目	ハケ目・板なで	普通	橙5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
945	125		土師質 甕	28.1	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目	普通	橙5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
946	125		土師質 甕	21.6	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目・板なで後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
947	125		土師質 甕	25.7	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目・板なで	普通	橙5YR6/6	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
948	125		土師質 甕	28.7	−	−	横なで後ハケ目	横なで・ハケ目	普通	橙5YR7/6	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
949	125		土師質 甕	20.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・板なで後指なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
950	125		土師質 甕 把手	−	−	−	ハケ目・指なで	板なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
951	125	98	土師質 甕 把手	−	−	−	ハケ目・指なで	板なで	普通	橙2.5YR6/8	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
952	125		土師質 甕 把手	−	−	−	指頭痕・ハケ目	指頭痕・板なで	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
953	126		土師質 鍋	38.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・指なで	普通	橙5YR7/6	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
954	126		土師質 鍋	38.2	−	−	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目	普通	橙5YR7/8	0.2〜1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
955	126		土師質 鍋	37.0	−	−	横なで・指頭痕・ハケ目	ハケ目後指なで・指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
956	126		土師質 壺	12.8	−	−	横なで・指頭痕後板なで	横なで・板なで・ヘラ削り	普通	橙5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
957	126		土師質 甕	7.6	−	−	横なで・指なで	横なで・指なで	普通	橙5YR7/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
958	126		土師質 蛸壺	−	−	−	指頭痕・指なで	指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	2/8	
959	126		土師質 蛸壺	−	−	−	指なで	指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
960	126	98	土師質 蛸壺	5.5	−	−	指なで	板なで後指なで	普通	橙5YR7/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	7/8	
961	126		製塩土器	−	−	−	指頭痕・指なで	指頭痕・板なで	普通	にぶい橙2.5YR6/4	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
962	126	98	土師質 竈	−	−	−	ヘラ削り・ハケ目後指なで	ヘラ削り・ハケ目後指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
963	126		土師質 竈	−	−	−	ハケ目・指頭痕・指なで	指頭痕後ハケ目	普通	にぶい橙10YR7/3	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
964	126		土師質 竈	−	−	−	ハケ目・指なで	板なで・ヘラ削り	普通	橙5YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
965	126		土師質 竈	−	−	−	ハケ目後指なで	ハケ目後指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
966	126		土師質 竈	−	−	−	指なで後ハケ目・指頭痕・指なで	指頭痕・板なで・ヘラ削り	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	筒部長(cm)	筒部径(cm)	厚さ(cm)	凸面	凹面	胎土	色調	焼成
967	126		丸瓦	9.0	−	−	1.8	なで	布目	0.3〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	灰N4/	良好

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
968	126	99	丸玉	1.2	1.2	0.9	3.32	ガラス	
969	127	99	石鏃	2.7	1.7	0.4	1.35	サヌカイト	先端部・基部の一部欠損 両面に摩滅あり 凹基式
970	127	99	石鏃	3.2	2.3	0.4	2.63	サヌカイト	風化 先端部・基部の一部欠損 凹基式
971	127	99	石鏃	4.8	1.3	0.5	3.75	サヌカイト	先端部・基部の欠損
972	127	99	石槍	2.9	1.7	0.7	3.20	サヌカイト	基部欠損 片面に摩滅あり 右側辺にツブレあり
973	127	99	石庖丁	4.8	3.7	1.0	17.71	サヌカイト	一部欠損 長側辺（背）にツブレあり 短側辺の一方に抉りあり両面に摩滅あり
974	127	99	スクレイパー	7.5	5.4	1.5	66.95	サヌカイト	一部欠損
975	127	99	砥石	7.1	5.9	4.3	213.42	砂岩	一部欠損 両面に摩滅あり
976	127		砥石	15.3	5.8	8.0	737.43	砂岩	一部欠損 片面に摩滅あり
977	127	99	投弾	4.9	4.7	4.5	179.20	閃緑岩	立方体状

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
978	128		須恵器 坏身	10.2	−	−	横なで	横なで	良好	暗青灰5B4/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
979	128		土師質 甕	13.8	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・指頭痕・ヘラ削り	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
980	128		土師質 鍋	30.4	−	−	横なで・ハケ目後指なで	ハケ目後指なで・ヘラ削り後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
981	128		土師質 鍋	35.2	−	−	横なで・ハケ目後指なで	ハケ目後・指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
982	128		土師質 蛸壺	−	−	−	指頭痕	指頭痕	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	5/8	
983	128		製塩土器	10.2	−	−	板なで後指なで	指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
984	128		製塩土器	−	−	−	指なで後タタキ目	指頭痕後板なで	普通	橙2.5YR6/8	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
985	129		土師器 坏	10.3	−	−	横なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
986	129		土師質 土鍋	−	−	−	横なで後ハケ目	横なで後ハケ目	普通	灰白10YR8/2	0.2〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
987	129		土師質 土鍋	43.4	−	−	指なで	横なで	普通	橙5YR7/8	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
988	130		土師器 小皿	5.3	1.0	4.3	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
989	130		土師器 小皿	5.6	0.9	4.7	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	にぶい橙5YR7/4	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径4/8	
990	130		土師器 小皿	6.6	0.8	5.4	指なで・ヘラ切り	指なで	普通	灰白7.5YR8/1	0.1〜0.3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
991	130		土師器 小皿	6.6	1.3	5.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白10YR8/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
992	130		土師器 小皿	8.1	1.2	6.9	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで・指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.1〜0.3㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
993	130		土師器 坏	9.3	−	6.6	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.2〜0.5㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
994	130		土師器 坏	−	−	6.8	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白10YR8/1	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径1/8	
995	130		土師器 坏	−	−	6.1	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	
996	130	100	土師器 坏	9.8	2.3	7.6	横なで・ヘラ切り	横なで・摩滅	普通	灰白10YR8/1	0.2〜0.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	4/8	
997	130		土師器 坏	11.7	−	9.0	指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
998	130		土師器 坏	12.2	−	8.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙2.5YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
999	130		土師器 坏	12.9	2.9	8.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	灰白10YR8/2	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	2/8	
1000	130		白磁 坏	8.3	−	−	横なで・施釉	横なで・施釉	良好	胎土：灰白7.5Y8/1 釉:灰オリーブ7.5Y6/2	緻密	口径1/8	口禿
1001	130		須恵器 椀	13.8	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで・板なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	十瓶山窯系
1002	130		須恵器 椀	−	−	5.8	指なで・ヘラ切り後指なで	ハケ目	普通	灰白 N8/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	十瓶山窯系
1003	130		瓦器 椀	−	−	4.8	指なで	指なで後ヘラ磨き	普通	灰白2.5Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	和泉型
1004	130	100	土師質 土鍋	38.4	−	−	横なで・指頭痕後指なで・ハケ目	横なで・板なで	普通	橙5 YR7/6	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
1005	130	100	土師質 土鍋	−	−	−	横なで	指なで	良好	橙5 YR7/6	0.2〜1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1006	130	100	土師質 土釜	28.2	−	−	横なで・指なで・指頭痕	横なで・板なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1007	130	100	土師質 土釜	25.7	−	−	指なで・指頭痕・ハケ目・格子目タタキ	ハケ目・指頭痕	普通	にぶい褐7.5YR6/3	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
1008	130	100	土師質 土釜	26.1	−	−	横なで・指頭痕・格子目タタキ	指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
1009	130		土師質 土釜 脚	−	−	−	指なで	−	やや不良	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	7/8	
1010	130	100	土師質 甕	30.4	−	−	横なで・板なで後ハケ目後格子目タタキ	横なで・剝落	やや良	にぶい橙5 YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	楠井産
1011	130	100	土師質 擂鉢	38.0	−	−	横なで・指なで	指なで後条溝	良好	にぶい橙5 YR6/4	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	楠井産
1012	130		土師質 擂鉢	−	−	12.0	指なで・板なで	指なで・剝落	やや不良	灰5 Y6/1	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	楠井産
1013	130		土師質 擂鉢	−	−	16.7	指なで・指頭痕	摩滅・条溝	普通	灰白 N7/	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	楠井産
1014	130	100	土師質 こね鉢	18.6	6.8	10.1	指なで・摩滅	指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.2〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	片口
1015	130		瓦質 こね鉢	−	−	−	指なで・指頭痕	指なで	普通	灰 N4/ 灰白 N8/	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	十瓶山窯系
1016	130		須恵器 こね鉢	−	−	−	横なで	横なで	良好	青灰5 PB6/1 釉：灰 N5/	0.3〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	東播系
1017	130		須恵器 こね鉢	−	−	−	指頭痕・指なで	指なで	やや不良	灰白5 Y8/1	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	東播系

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
1018	130		石錘	6.8	5.3	3.6	159.14	砂岩	一部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1019	131		土師器 小皿	7.1	0.9	6.0	指なで・ヘラ切り後指なで	指なで	普通	灰白10YR8/2	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	1/8	
1020	131		土師器 坏	10.0	1.8	6.0	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	淡橙5 YR8/4	0.3〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
1021	131		土師器 坏	15.4	3.4	9.8	横なで・ヘラ切り	横なで	普通	灰白10YR8/2	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1022	131		土師器 椀	−	−	5.4	横なで・ヘラ切り後指なで	指なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	吉備系
1023	131		黒色土器 椀	−	−	7.0	摩滅・ヘラ磨き	摩滅・ヘラ磨き	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	A類
1024	131		瓦器 椀	−	−	7.0	摩滅	摩滅	やや不良	灰 N4/ 灰白5 Y8/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	和泉型
1025	131	101	土師質 土釜	20.3	−	−	ハケ目後指なで・ハケ目	ハケ目後指なで・指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1026	131	101	土師質 土釜	21.2	−	−	指頭痕後指なで・ハケ目・横なで	指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1027	131		土師質 土釜	19.6	−	−	横なで・指頭痕・指なで	横なで・指頭痕・指なで	普通	赤橙10R6/6	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1028	131		土師質 土釜 脚	−	−	−	指なで・指頭痕	指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	脚6/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1029	131	101	土師質 土鍋	46.0	－	－	指なで	ハケ目・指なで	やや良	にぶい褐7.5YR6/3	0.2～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1030	131	101	土師質 土鍋	46.8	－	－	横なで・指なで・指頭痕	横なで・指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.1～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1031	131		土師質 土鍋	－	－	－	横なで（煤付着）	横なで・ハケ目・指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1032	131		土師質 土鍋	－	－	－	摩滅・指頭痕	摩滅	普通	灰白2.5Y8/1	0.3～1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1033	131		土師質 土鍋	－	－	－	横なで・指なで・ハケ目	ハケ目・摩滅	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.3～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1034	131		土師質（瓦質） 甕	－	－	－	格子目タタキ	摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.3～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	亀山焼
1035	131	101	瓦質 擂鉢	－	－	13.9	指なで	条溝	普通	灰 N5/ 灰白 N8/	0.3～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	楠井産
1036	131	101	土師質 甕	39.0	－	－	横なで・格子目タタキ	横なで・板なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.2～6㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	楠井産
1037	131		須恵器 こね鉢	－	－	－	横なで	指なで	やや不良	灰 N6/	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	東播系
1038	131		須恵器 こね鉢	－	－	－	摩滅	摩滅	普通	灰白5Y8/1	0.2～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	東播系

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
1039	131		砥石	4.6	4.0	2.0	34.89	流紋岩	一部欠損 全面に摩滅あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1040	133		土師器 坏	11.7	－	－	指なで	指なで	普通	灰白 N8/	精良	破片	
1041	133		土師器 坏（柱状高台）	－	－	4.6	指なで・ヘラ切り	指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.2～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1042	133		土師質 土鍋	43.0	－	－	横なで・ハケ目	横なで・ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1043	133		土師器 小皿	7.2	1.2	4.6	指なで・ヘラ切り	指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.2～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	4/8	
1044	133	101	土師器 小皿	7.4	1.2	6.3	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	橙5YR7/6	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	8/8	
1045	133		土師器 小皿	7.5	1.6	5.2	横なで・ヘラ切り	横なで	やや良	にぶい橙10YR7/4	0.1～0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	3/8	
1046	133		土師器 坏	12.3	－	－	指なで	指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.2～1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
1047	133		土師器 坏	13.7	－	－	指なで	指なで	普通	灰白7.5YR8/1	0.3～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1048	133		土師器 坏	－	－	8.2	指なで・ヘラ切り	指なで	普通	灰白10YR8/2	0.3～1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
1049	133		土師器 坏	12.0	3.6	7.2	横なで・ヘラ切り後指なで	横なで	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.1～1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	
1050	133		土師器 椀	－	－	6.0	指なで	摩滅・ヘラ磨き？	普通	浅黄橙7.5YR8/4	0.1～2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径2/8	吉備系
1051	133		須恵器 椀	－	－	4.1	指なで・回転ヘラ切り	指なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.3～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径6/8	十瓶山窯系
1052	133		土師質 土釜	－	－	－	指なで	ハケ目	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.2～1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	搬入品か
1053	133		土師質 土鍋	29.3	－	－	摩滅・指頭痕	摩滅	普通	にぶい橙10YR7/3	0.2～2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1054	133		瓦質 甕	－	－	－	格子目タタキ	指なで	やや不良	灰 N4/ 灰白 N7/	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	亀山焼
1055	135	102	弥生 壺	－	－	4.1	櫛描き沈線・波状文・列点文・ヘラ磨き・穿孔	摩滅・不明	普通	灰黄2.5Y7/2	0.3～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	7/8	
1056	135	102	弥生 壺	－	－	－	指なで・貼り付け押捺凸帯・刻目	剝離	普通	橙5YR6/6	0.2～3㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
1057	135	102	弥生 壺	－	－	－	指なで・貼り付け凸帯・刻目	剝離	普通	にぶい赤褐5YR5/4	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・金雲母含む	破片	
1058	135	102	弥生 壺	17.2	－	－	ヘラ磨き・貼り付け押捺凸帯・刻目	ヘラ磨き・指頭痕後ヘラ磨き	普通	橙5YR6/6	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	口径3/8	
1059	135	102	弥生 壺	－	－	8.0	横ヘラ磨き後縦ヘラ磨き・指なで	ハケ目後指なで	普通	浅黄橙10YR8/3	0.2～3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	
1060	135		弥生 甕	16.2	－	－	摩滅	摩滅	普通	橙5YR6/6	0.3～3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1061	135		弥生 甕	15.7	－	－	剝離	剝離	やや不良	橙2.5YR6/6	0.5～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
1062	135		弥生 甕	18.0	－	－	横なで・ハケ目後指なで	横なで・ハケ目後指なで	やや良	にぶい黄橙10YR7/3	0.2～2㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1063	135		弥生 甕	22.4	－	－	横なで・ハケ目	剝離	普通	橙5YR6/6	0.3～4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1064	135		弥生 甕	16.6	－	－	横なで・ハケ目	横なで・指頭痕後板なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.2～2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径6/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1065	135		弥生 甕	17.8	−	−	横なで	横なで	普通	橙7.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1066	135		弥生 甕	20.1	−	−	摩滅・横なで・摩滅	摩滅・横なで・指なで	不良	橙5YR6/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1067	135		弥生 甕	15.4	−	−	横なで・刻目・摩滅	横なで・板なで	普通	明赤褐2.5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
1068	135	102	弥生 高坏	19.8	−	−	横なで・摩滅	ハケ目	普通	黒2.5YR1.7/1	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
1069	135	102	弥生 高坏	−	−	−	刻目・摩滅・指なで？	摩滅・ハケ目	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1070	135	102	弥生 高坏	−	−	17.2	指なで・摩滅	指なで・ハケ目	やや良	にぶい黄橙10YR6/4	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
1071	135		弥生 高坏	−	−	20.0	剝離	ヘラ磨き	普通	にぶい黄橙10YR7/2	0.1〜1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	底径1/8	
1072	135		弥生 底部	−	−	6.0	ヘラ磨き	指なで	やや良	橙2.5YR6/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
1073	135		弥生 底部	−	−	5.7	摩滅・ヘラ磨き	摩滅・指なで	普通	明赤褐2.5YR5/8	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
1074	135		弥生 底部	−	−	5.7	板なで・横なで・指なで	ヘラ削り・摩滅	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
1075	135		弥生 底部	−	−	5.6	指なで・摩滅	摩滅	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	底径2/8	
1076	135		弥生 底部	−	−	6.4	摩滅・ヘラ磨き	指なで	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.3〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
1077	135	102	弥生 底部	−	−	8.2	ヘラ磨き・指なで	指頭痕・指なで	普通	浅黄橙7.5YR8/6	0.3〜7㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	
1078	135	102	弥生 底部	−	−	10.2	ヘラ磨き	指なで	普通	橙2.5YR6/8	0.5〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径6/8	
1079	135		弥生 底部	−	−	10.2	ヘラ磨き	指なで後ヘラ磨き	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
1080	135		弥生 底部	−	−	8.8	指なで・ヘラ磨き	指なで	普通	にぶい赤褐5YR5/3	0.3〜6㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径1/8	
1081	135		弥生 底部	−	−	10.7	ヘラ磨き	摩滅・指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径5/8	
1082	135		弥生 底部	−	−	8.2	指頭痕後指なで	指頭痕後指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径6/8	
1083	135		弥生 底部	−	−	7.2	指なで	ハケ目	普通	橙5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径2/8	
1084	135		弥生 底部	−	−	16.6	ヘラ磨き・剝落	剝離	普通	にぶい黄2.5Y6/3	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・金雲母含む	底径2/8	
1085	135		弥生 底部	−	−	8.3	摩滅・指なで	指なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径2/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
1086	136	103	石庖丁	12.5	5.3	1.2	101.21	サヌカイト	両長側辺にツブレあり 短側辺に抉りあり 片面に摩滅あり
1087	136		石庖丁	4.9	4.9	1.0	26.96	サヌカイト	一部欠損 長側辺（背）にツブレあり 短側辺の一方に抉りあり 両面に摩滅あり
1088	136		スクレイパー	7.6	7.5	1.1	61.38	サヌカイト	上端部にツブレあり 両面に摩滅あり
1089	136		楔形石器	8.1	3.7	2.3	68.20	サヌカイト	加撃による敲打痕あり
1090	136		石錘	10.1	7.0	2.2	252.14	砂岩	一部欠損
1091	136	103	横長剝片	3.1	7.7	0.7	16.24	サヌカイト	一部欠損

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1092	137	103	把手	−	−	−	指なで	−	普通	にぶい黄橙10YR7/2	0.1〜2㎜の砂粒を少量含む（精良）	破片	剝離面に指頭痕状の指なで
1093	139		須恵器 坏蓋	13.8	−	−	灰かぶり	回転なで後指なで	良好	灰N6/ 釉：灰白5Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
1094	139		須恵器 坏蓋	12.7	−	−	横なで後指なで・ヘラ削り	横なで	良好	灰白N7/	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
1095	139		須恵器 坏身	11.8	−	−	横なで	横なで	良好	青灰5PB6/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1096	139		須恵器 坏身	11.3	−	−	横なで	横なで	やや不良	灰白5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1097	139		須恵器 椀	−	−	−	横なで後カキ目	横なで	良好	灰白N7/	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1098	139		須恵器 高坏	−	−	−	横なで・横なで後指なで	横なで・指なで	普通	灰N6/	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	3/8	
1099	139	104	須恵器 高坏	12.4	11.1	10.2	横なで	横なで	普通	灰白7.5Y7/1	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	3/8	
1100	139	104	須恵器 高坏	10.8	6.1	7.6	横なで・回転ヘラ削り	横なで	普通	灰N6/	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	4/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1101	139		須恵器 高坏	−	−	9.6	横なで	横なで	やや不良	灰白2.5Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	底径8/8	
1102	139		須恵器 高坏	−	−	8.4	横なで	横なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	底径1/8	
1103	139		須恵器 甕	−	−	−	横なで・ヘラ削り・ヘラ削り後指なで	横なで・指なで	良好	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1104	139	104	須恵器 甕	−	−	−	横なで・ヘラ削り・ヘラ切り後指なで	横なで	良好	にぶい橙7.5YR7/4	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	7/8	
1105	139	104	土師器 坏	9.8	4.7	−	摩滅・指なで	摩滅・指なで	普通	橙5YR7/6	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	7/8	ヘラ記号
1106	139	104	土師器 坏	15.3	6.3	−	指なで・ヘラ削り	ヘラ磨き	やや良	橙5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	7/8	ヘラ記号
1107	139	104	土師器 脚付壺	8.7	−	10.6	指なで・ハケ目後ヘラ磨き・ハケ目・板なで・横なで	指なで・ハケ後ヘラ磨き・ハケ目・指頭痕後指なで・ヘラ削り・板なで	やや良	橙5YR7/8	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	4/8	
1108	139		土師器 短頸壺	9.8	−	−	摩滅・ハケ目・丹塗り	指なで・ヘラ削り後指なで	普通	橙5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
1109	139	104	土師質 甕	13.0	10.1		横なで・指頭痕・ハケ目	ハケ目・指頭痕後ヘラ削り	普通	橙2.5YR6/6	0.2〜6㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	7/8	
1110	139		土師質 甕	15.0	−	−	摩滅	なで・ヘラ削り後指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1111	139		土師質 甕	19.2	−	−	ハケ目後横なで・ハケ目	ハケ目後横なで・ハケ目後ヘラ削り・削り後指なで	良好	浅黄橙7.5YR8/4	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
1112	139		土師質 甕 把手	−	−	−	指頭痕・ハケ目	板なで・指頭痕	普通	浅黄橙10YR8/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
1113	139		土師質 甕 把手	−	−	−	指なで	指なで	普通	灰白10YR8/2	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1114	139		土師質 甑	−	−	8.2	横なで・ヘラ削り後指なで	横なで・板なで	普通	灰白10YR8/2	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径5/8	
1115	140		弥生 壺	11.5	−	−	摩滅	摩滅	普通	浅黄橙7.5YR8/3	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径2/8	
1116	140	105	弥生 壺	−	−	−	摩滅・櫛描沈線・波状文	摩滅・指なで	普通	にぶい黄橙10YR6/3	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1117	140		弥生 甕	18.9	−	−	横なで・板なで	横なで・指なで	やや良	にぶい黄橙10YR6/3	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1118	140		弥生 甕	17.1	−	−	剝離	剝離・摩滅・ハケ目後指なで	普通	橙2.5YR6/8	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1119	140		弥生 高坏	−	−	−	指なで	指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1120	140		弥生 蓋	−	−	−	摩滅・ヘラ磨き	指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1121	140		弥生 蓋	14.0	−	−	指頭痕・指なで	指頭痕後板なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1122	140	105	弥生 蓋	−	−	−	摩滅・ヘラ磨き・指なで・穴2個2方	指なで	普通	灰黄褐10YR5/2	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1123	140	105	弥生 ジョッキ型土器	−	−	9.0	指なで・穿孔2個	指なで	普通	橙2.5YR6/6	0.5〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1124	140		弥生 底部	−	−	6.1	剝離	剝離	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径4/8	
1125	140		弥生 底部	−	−	7.8	ヘラ磨き・摩滅	摩滅	やや不良	橙2.5YR6/8	0.5〜6㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	
1126	140		弥生 底部	−	−	9.9	ヘラ磨き・指頭痕後指なで	剝離	やや良	橙5YR6/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径5/8	
1127	140		弥生 甑	−	−	7.6	ヘラ磨き・指なで	指頭痕後ヘラ磨き	普通	浅黄2.5Y7/3	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1128	140		弥生 底部	−	−	10.6	ヘラ磨き・指なで	摩滅	やや良	にぶい褐7.5YR5/3	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1129	140		弥生 底部	−	−	17.9	摩滅・ハケ目後指なで	指なで	普通	橙5YR6/6	0.5〜7㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
1130	140	105	石鏃	7.8	5.7	0.7	31.94	サヌカイト	風化 平基式

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1131	141		須恵器 坏蓋	13.8	4.5	−	横なで・ヘラ切り	横なで・仕上げなで	やや不良	灰白2.5Y7/1	0.1〜7㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	2/8	
1132	141	106	須恵器 坏蓋	12.6	3.5	−	横なで・回転ヘラ削り	横なで後指なで	普通	灰 N6/	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	7/8	
1133	141		須恵器 坏蓋	11.3	−	−	回転ヘラ削り・横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1134	141		須恵器 蓋	15.7	−	−	横なで	横なで後仕上げなで	普通	灰白5Y8/1	0.2〜1.5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1135	141		須恵器 坏身	11.3	−	−	ヘラ削り・指なで	指なで	やや不良	灰白5Y7/1	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1136	141		須恵器 坏身	12.0	−	−	横なで	横なで	やや良	灰白5Y7/1	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1137	141		須恵器 坏身	11.6	−	−	横なで	横なで	良好	灰白 5 Y7/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1138	141		須恵器 坏身	10.0	−	−	横なで	横なで	良好	灰白2.5Y7/1	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1139	141		須恵器 高台付坏	−	−	12.6	指なで・ヘラ切り後指なで	指なで	不良	灰白2.5Y7/1	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1140	141		須恵器 高坏	10.9	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径3/8	
1141	141		須恵器 高坏	12.8	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで	やや不良	黄灰2.5Y7/2	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1142	141		須恵器 高坏	12.7	−	−	横なで	横なで	普通	灰白 5 Y7/1	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径3/8	
1143	141	106	須恵器 高坏	12.8	−	−	横なで・ヘラ削り	横なで	普通	灰白2.5Y8/1	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径8/8	
1144	141		須恵器 高坏	−	−	8.0	横なで	横なで	良好	灰 N6/	0.1〜0.5㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	底径1/8	
1145	141		須恵器 高坏	−	−	10.9	横なで	横なで	やや不良	黄灰2.5Y6/2	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径1/8	
1146	141		須恵器 甕	20.3	−	−	横なで	横なで	良好	灰 N5/	0.5〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
1147	141		須恵器 甕	24.8	−	−	横なで・自然釉	横なで	良好	灰 N5/	0.5〜2㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1148	141		須恵器 甕	22.2	−	−	横なで	横なで・剝落	普通	灰白 5 Y7/1	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1149	141	106	須恵器 鉢	19.4	−	−	ハケ目	回転なで・ハケ目	普通	灰 N4/	0.1〜1.5㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	瓦質焼成
1150	141		土師器 坏	17.4	−	−	剝離	剝離・ヘラ磨き？	普通	黄橙7.5YR7/8	0.3〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1151	141		土師器 皿	22.7	−	−	摩滅	指なで	普通	明赤褐 5 YR5/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1152	141		土師質 甕	13.2	−	−	指頭痕・ハケ目	ハケ目	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.2〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
1153	141		土師質 甕	14.8	−	−	横なで	横なで・指なで	普通	橙 5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1154	141		土師質 甕	23.1	−	−	摩滅	摩滅・剝離	普通	橙7.5YR7/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
1155	141		土師質 甕	24.8	−	−	横なで・ハケ目	摩滅・ハケ目？・ハケ目後指なで	やや良	にぶい橙7.5YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1156	141		土師質 甕	30.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・板なで	良好	にぶい黄橙10YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1157	141		土師質 甕	28.2	−	−	指なで	指なで	普通	橙 5 YR7/8	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
1158	141	106	土師質 竈	−	−	−	指頭痕・指なで・ハケ目	指なで後指頭痕・指なで後横なで	普通	橙2.5YR6/8	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	破片	
1159	141	106	鞴 羽口	−	−	−	−	−	普通	にぶい赤褐2.5YR5/4	0.1〜6㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
1160	142		弥生 壺	12.7	−	−	指なで・ハケ目	指なで・板なで	普通	にぶい黄褐10YR5/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1161	142		弥生 壺	−	−	−	刻目凸帯・横なで	摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1162	142		弥生 壺	19.2	−	−	横なで・指なで	横なで	良好	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜5㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
1163	142	106	弥生 壺	30.3	−	−	横なで・半截竹管文	横なで	普通	明赤褐 5 YR5/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
1164	142		弥生 甕	13.2	−	−	横なで	横なで・ヘラ削り・指頭痕	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.5〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1165	142		弥生 甕	12.8	−	−	横なで・ハケ目後指なで	指なで・ハケ目後指なで	良好	橙7.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1166	142		弥生 甕	16.0	−	−	摩滅	摩滅・ヘラ削り後指なで	普通	橙7.5YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1167	142		弥生 甕	15.9	−	−	タタキ目・摩滅	指なで・ヘラ削り・指頭痕	普通	明赤褐 5 YR5/6	0.5〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1168	142		弥生 甕	12.9	−	−	横なで	横なで・指頭痕	普通	明赤褐 5 YR5/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1169	142		弥生 甕	12.5	−	−	横なで・凹線	横なで	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.3〜1㎜の砂粒を多量に含む 石英・角閃石含む	口径1/8	下川津 B 類
1170	142		弥生 甕	−	−	−	横なで・摩滅	摩滅・指なで後板なで	普通	にぶい黄褐10YR5/4	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母・角閃石含む	破片	下川津 B 類
1171	142		弥生 甕	15.2	−	−	横なで・ハケ目・摩滅	横なで・摩滅	普通	にぶい黄橙10YR6/4	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母・角閃石含む	口径1/8	下川津 B 類
1172	142		弥生 甕	15.1	−	−	指なで・タタキ目・板なで	指頭痕・摩滅	普通	橙 5 YR6/6	0.1〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1173	142		弥生 甕	13.6	−	−	横なで・指頭痕・ハケ目	横なで・指なで	やや良	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜1.5㎜の砂粒を少量含む 石英含む	口径1/8	
1174	142		弥生 甕	15.1	−	−	横なで・摩滅	板なで？・摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1175	142		弥生 甕	20.4	−	−	横なで・ハケ目	横なで・板なで	良好	にぶい黄褐10YR5/3	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1176	142		弥生 甕	13.4	−	−	指なで・ハケ目	ハケ目・ヘラ削り	良好	灰褐7.5YR4/2	0.5〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1177	142		弥生 甕	11.3	−	−	摩滅・ハケ目?	摩滅・指なで	普通	橙5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径3/8・底径8/8	
1178	142		弥生 甕	11.8	−	−	ハケ目・タタキ目後指なで・指頭痕後指なで・指なで	ハケ目・板なで・指なで	普通	橙5 YR6/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1179	142		弥生 甕	10.5	−	−	横なで	横なで・ハケ目	普通	明赤褐5 YR5/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1180	142		弥生 甕	12.1	−	−	摩滅・ハケ目	摩滅・ハケ目・ヘラ削り後指なで	普通	明赤褐5 YR5/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1181	142		弥生 底部	−	−	2.6	タタキ目・指なで	板なで・摩滅	普通	明赤褐5 YR5/6	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	底径8/8	
1182	142		弥生 底部	−	−	3.0	タタキ目後指なで・ハケ目	ヘラ削り	普通	橙5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	
1183	142		弥生 底部	−	−	3.2	タタキ目後指なで	指なで	普通	にぶい黄橙10YR6/4	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1184	142		弥生 底部	−	−	3.6	タタキ目後指なで	板なで後指頭痕	普通	暗灰黄2.5Y5/2	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	底径2/8	
1185	142		弥生 鉢	−	−	3.3	ハケ目・タタキ目	ヘラ削り	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1186	142		弥生 底部	−	−	2.7	摩滅・タタキ目後指なで	ヘラ削り	普通	明褐7.5YR5/6	0.1〜4㎜の砂粒を含む 石英含む	底径3/8	
1187	142		弥生 底部	−	−	3.7	摩滅・タタキ目後ハケ目	ヘラ削り後指なで	普通	灰黄2.5Y6/2	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1188	142		弥生 底部	−	−	2.6	タタキ目後指なで・指なで	ヘラ削り	普通	明赤褐5 YR4/8	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1189	142		弥生 底部	−	−	2.9	板なで・指なで	板なで	普通	にぶい黄2.5YR6/3	0.1〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・角閃石含む	底径8/8	
1190	142		弥生 底部	−	−	4.9	板なで・指なで	板なで	普通	にぶい橙7.5YR7/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1191	142		弥生 底部	−	−	4.6	タタキ目後ハケ目	ヘラ削り	普通	灰黄褐105YR5/2	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	
1192	142		弥生 底部	−	−	3.6	ハケ目	ヘラ削り・摩滅	普通	明赤褐2.5YR5/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径6/8	
1193	142		弥生 底部	−	−	3.5	ハケ目・指なで	ヘラ削り	普通	灰黄褐10YR6/2	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径8/8	
1194	142		弥生 底部	−	−	6.8	ハケ目・摩滅・指なで	ヘラ削り	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
1195	142		弥生 底部	−	−	3.2	ハケ目・指なで	ヘラ削り	普通	灰黄褐10YR5/2	0.3〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1196	142	106	弥生 底部	−	−	4.1	ハケ目	指なで後ヘラ削り	良好	橙7.5YR6/6	0.2〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1197	142		弥生 底部	−	−	3.5	ハケ目	剝離・指なで	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
1198	142		弥生 底部	−	−	4.0	ハケ目	ハケ目後指なで	良好	明赤褐5 YR5/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1199	142		弥生 底部	−	−	3.7	摩滅・ハケ目	ハケ目	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1200	142		弥生 底部	−	−	5.1	摩滅・ハケ目	摩滅・指なで	普通	赤褐2.5YR4/8	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
1201	142		弥生 底部	−	−	10.0	指なで	指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/3	0.2〜8㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
1202	142		弥生 底部	−	−	8.9	剝離	板なで?	普通	橙5 YR6/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	底径2/8	
1203	142		弥生 底部	−	−	6.6	ハケ目・摩滅	指なで・指頭痕	普通	浅黄橙10YR8/4	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径4/8	
1204	142		弥生 底部	−	−	5.5	ハケ目後指なで	板なで	やや良	にぶい黄褐10YR5/3	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1205	142		弥生 底部	−	−	6.4	ヘラ削り・ヘラ磨き・指なで	指頭痕	普通	橙2.5YR6/6	0.3〜5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径6/8	
1206	143		弥生 鉢	−	−	−	ヘラ削り	指なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	
1207	143		弥生 鉢	−	−	−	タタキ目・摩滅・指なで	ハケ目	普通	橙7.5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1208	143		弥生 鉢	19.4	−	−	摩滅	摩滅	普通	橙5 YR6/6	0.3〜5㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	口径1/8	
1209	143		弥生 鉢	23.6	−	−	指頭痕後ハケ目	摩滅・ハケ目	普通	浅黄橙10YR8/3	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・角閃石含む	破片	
1210	143		弥生 高坏	−	−	−	ヘラ磨き・板なで	ヘラ磨き・ヘラ削り	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.1〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1211	143		弥生 高坏	−	−	−	板なで・指なで・穿孔1方	指なで・板なで	普通	橙7.5YR7/1	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1212	143		弥生 高坏	−	−	15.7	ハケ目・穿孔1方	指なで	普通	橙5 YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径2/8	
1213	143		製塩土器	−	−	3.9	指頭痕・指なで	指なで	普通	にぶい橙7.5YR7/3	0.5〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径4/8	
1214	143	107	分銅形土製品	−	−	−	摩滅	剝離	やや不良	灰黄褐10YR6/2	0.1〜0.5㎜の砂粒を含む 石英含む	3/8	
1215	143	107	土師質 勾玉	現存長 4.0	幅 1.4	−	指なで	−	普通	明赤褐5 YR5/6	0.1〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	8/8	
1216	143	107	弥生 甕	−	−	−	摩滅・ヘラ描沈線文	摩滅	普通	橙7.5YR6/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1217	143	107	弥生 体部	−	−	−	指なで後ヘラ描沈線文	指頭痕後指なで	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1218	143	107	弥生 体部	−	−	−	指なで後ヘラ描沈線文	摩滅	普通	橙7.5YR7/6	0.2〜0.5㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	破片	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
1219	143		石鏃	2.6	1.5	0.4	1.38	サヌカイト	風化 平基式
1220	143		石鏃	4.0	1.9	0.4	2.93	サヌカイト	風化 一部欠損 先端部欠損 平基式
1221	143		石槍	6.2	2.9	0.8	20.33	サヌカイト	先端部欠損 両長側辺にツブレあり 片面に摩滅あり
1222	143		石庖丁	7.3	5.0	1.2	54.76	サヌカイト	一部欠損 短側辺の一方に抉りあり 両長側辺にツブレあり 両面に摩滅あり
1223	143		スクレイパー	9.1	4.6	1.0	54.75	サヌカイト	一部欠損
1224	143		スクレイパー	8.1	6.3	1.4	75.85	サヌカイト	風化 長側辺（背）にツブレあり 両面に摩滅あり
1225	143	107	磨製石斧	5.1	6.0	2.8	146.46	安山岩（脈岩）	一部欠損 刃部に敲打痕あり 敲き石に転用
1226	144		楔形石器	5.5	4.0	1.7	49.01	サヌカイト	加・打撃による敲打痕あり
1227	144		楔形石器	5.4	5.6	1.7	72.63	サヌカイト	一部欠損 打撃による敲打痕あり 両側辺に敲打痕あり
1228	144		楔形石器	10.4	4.2	2.2	107.34	サヌカイト	打撃による敲打痕あり
1229	144		楔形石器	3.9	10.9	2.7	3.90	サヌカイト	加・打撃による敲打痕あり
1230	144		楔形石器	6.5	8.4	2.0	184.25	サヌカイト	加・打撃による敲打痕あり 左側辺に敲打痕あり 両面に摩滅あり
1231	144		砥石	9.1	6.6	2.0	130.00	流紋岩	一部欠損 二面に摩滅あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1232	145		弥生 壺	16.0	−	−	横なで・板なで後横なで	横なで・指なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	口径2/8	
1233	145		弥生 壺	−	−	−	剝離・刻目	剝離	普通	明赤褐5YR5/6	0.5〜4㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	破片	
1234	145		弥生 壺	16.4	−	−	摩滅・二重口縁	摩滅	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
1235	145		弥生 壺	−	−	−	横なで・ハケ目・二重口縁	横なで・ヘラ削り後ハケ目	良好	橙5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
1236	145		弥生 壺	21.3	−	−	剝離・ハケ目	剝離	普通	橙5YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1237	145		弥生 壺	26.1	−	−	横なで・摩滅・櫛描波状文	横なで・摩滅	普通	明赤褐5YR5/6	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1238	145		弥生 甕	18.7	−	−	横なで・板なで・穿孔1方	横なで・指なで	やや良	明赤褐5YR5/6	0.1〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径1/8	
1239	145		弥生 甕	11.7	−	−	摩滅	摩滅・指なで	普通	橙5YR6/6	0.5〜1㎜の砂粒を少量含む 石英含む	破片	
1240	145		弥生 甕	14.8	−	−	摩滅	摩滅・指なで	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母・角閃石含む	口径1/8	下川津B類
1241	145		弥生 甕	12.8	−	−	指なで	摩滅	普通	橙5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1242	145		弥生 甕	16.9	−	−	横なで・摩滅・ハケ目	剝離・ヘラ削り後指なで	普通	橙5YR6/6	0.3〜5㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	口径1/8	
1243	145		弥生 甕	15.7	−	−	摩滅・指なで	剝離・ヘラ削り	やや良	明赤褐5YR5/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1244	145		弥生 甕	13.4	−	−	横なで・タタキ目後指なで	横なで・板なで・ヘラ削り	普通	橙7.5YR6/6	0.2〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石・金雲母含む	口径1/8	
1245	145		弥生 甕	14.6	−	−	摩滅・タタキ目後指なで？	指なで	普通	浅黄2.5YR7/4	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1246	145		弥生 甕	14.0	−	−	指なで・ハケ目	指なで・ハケ目・板なで	良好	明赤褐5YR5/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1247	145		弥生 甕	11.6	−	−	横なで・ハケ目・指なで	指なで・ハケ目・板なで	普通	にぶい黄橙10YR7/4	0.3〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1248	145		弥生 甕	14.5	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目・ヘラ削り	良好	橙7.5YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1249	145		弥生 甕	11.5	−	−	指なで・板なで	板なで・摩滅	普通	橙5YR6/6	0.3〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1250	145		弥生 甕	10.9	−	−	タタキ目後指なで・指なで	剝離・ヘラ削り後指なで	普通	明赤褐5YR5/6	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径2/8	
1251	145		弥生 甕	18.3	−	−	タタキ目後指なで・板なで後指なで	ハケ目・板なで後指なで	普通	橙5YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	破片	
1252	145		弥生 甕	13.2	−	−	横なで・タタキ目・ハケ目	指なで・ヘラ削り	普通	橙7.5YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1253	145		弥生 甕	14.3	−	−	横なで・摩滅・ハケ目後指なで	摩滅・ハケ目・指なで	良好	明赤褐5YR5/6	0.3〜2㎜の砂粒を少量含む 石英・長石含む	口径2/8	
1254	145		弥生 底部	−	−	4.2	ハケ目・摩滅	ヘラ削り・摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径2/8	
1255	145		弥生 底部	−	−	3.6	摩滅・ハケ目	ヘラ削り	普通	橙5YR6/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径3/8	
1256	145		弥生 底部	−	−	2.8	ハケ目・指なで	ヘラ削り	普通	橙7.5YR6/6	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径8/8	
1257	145		弥生 底部	−	−	4.3	摩滅・タタキ目後ハケ目	ヘラ削り	普通	にぶい赤褐5YR5/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	底径4/8	
1258	145		弥生 底部	−	−	2.9	ハケ目・指なで	板なで・指頭痕	普通	明赤褐5YR5/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径2/8	
1259	145		弥生 底部	−	−	5.8	指なで・摩滅	ヘラ削り	普通	にぶい黄2.5YR6/3	0.1〜4㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径6/8	
1260	145		弥生 底部	−	−	3.8	ハケ目・摩滅・指なで	ハケ目・摩滅	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・金雲母含む	底径4/8	
1261	145		弥生 底部	−	−	4.8	ハケ目・摩滅	指なで	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石・角閃石含む	底径4/8	
1262	145		弥生 底部	−	−	3.0	摩滅	板なで	普通	にぶい黄褐10YR	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・金雲母含む	底径4/8	
1263	145		弥生 底部	−	−	4.3	摩滅	摩滅	普通	橙2.5YR6/6	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	底径4/8	
1264	145		弥生 底部	−	−	5.4	指頭痕後？・板なで・摩滅	指なで・摩滅	良好	灰黄褐10YR4/2	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・金雲母含む	底径2/8	
1265	145		弥生 底部	−	−	7.0	摩滅	剝離	普通	橙7.5YR6/6	0.5〜5㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径2/8	
1266	145		弥生 底部	−	−	6.0	ヘラ磨き	指なで	普通	にぶい褐7.5YR5/4	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径3/8	
1267	145		弥生 底部	−	−	9.1	摩滅・板なで？	摩滅・指なで	普通	浅黄橙10YR8/4	0.3〜3㎜の砂粒を少量含む 石英含む	底径3/8	
1268	145		弥生 底部	−	−	5.1	指なで	指なで	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	底径8/8	
1269	145		弥生 底部	−	−	6.6	横なで・ヘラ磨き	指頭痕	良好	にぶい褐7.5YR5/4	0.3〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径3/8	
1270	146		弥生 鉢	−	−	−	横なで・指なで	板なで	普通	にぶい黄橙10YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1271	146		弥生 鉢	18.4	−	−	指頭痕・指なで・摩滅	指なで・摩滅	普通	にぶい黄橙10YR6/4	0.3〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1272	146		弥生 鉢	14.5	−	−	剝離	剝離	普通	明赤褐5YR5/6	0.5〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	破片	
1273	146		弥生 鉢（甕）	26.2	−	−	横なで・ハケ目	ハケ目後指なで・ヘラ磨き	良好	にぶい黄橙10YR6/4	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	
1274	146		弥生 鉢	34.6	−	−	摩滅・指なで？	摩滅・ヘラ削り？	普通	橙7.5YR6/6	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	破片	
1275	146		弥生 鉢	35.0	−	−	指なで・指頭痕	指なで・板なで？	普通	にぶい橙7.5YR6/4	0.2〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	口径1/8	
1276	146		弥生 高坏	−	−	−	摩滅	摩滅・ヘラ磨き・板なで	普通	明褐7.5YR5/6	0.1〜2㎜の砂粒を含む 石英・金雲母・角閃石含む	破片	
1277	146	107	弥生 ジョッキ型土器	−	−	11.8	指なで・ヘラ磨き	板なで・指なで	普通	にぶい褐7.5YR5/3	0.3〜2㎜の砂粒を含む 石英・長石・金雲母含む	底径1/8	
1278	146		弥生 ジョッキ型土器	−	−	15.1	ヘラ磨き	ヘラ磨き	普通	灰褐7.5YR4/2	0.3〜2㎜の砂粒を多量に含む 石英含む	底径1/8	
1279	146		製塩土器	−	−	4.7	指頭痕・指なで・タタキ目一部残る	指なで	普通	赤橙10R6/6	0.5〜2㎜の砂粒を含む 石英含む	底径7/8	
1280	146		製塩土器	−	−	3.8	指頭痕・指なで・摩滅	指頭痕	普通	にぶい赤橙10YR6/3	0.1〜3㎜の砂粒を多量に含む 石英・長石含む	底径8/8	

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	現存長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	材質	整形・調整の特徴
1281	146	107	石槍	5.6	2.8	1.0	20.43	サヌカイト	風化 基部欠損
1282	146	107	石庖丁	8.3	5.1	1.4	74.67	サヌカイト	風化 両長側辺にツブレあり 短側辺にツブレあり 両面に摩滅あり
1283	146	107	石鏃	5.7	4.9	1.0	25.90	サヌカイト	一部欠損 両面に摩滅あり 長側辺にツブレあり
1284	146		楔形石器	4.7	5.6	1.7	65.26	サヌカイト	風化 両側辺に敲打痕あり 片面に摩滅あり
1285	146	107	楔形石器	6.7	7.1	1.2	82.82	サヌカイト	風化 加・打撃による敲打痕あり

遺物番号	挿図番号	図版番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	外面	内面	焼成	色調	胎土	遺存度	備考
1286	147		弥生 壺	12.5	−	−	横なで後刻目・指頭痕後横なで・ハケ目	剝落	普通	明赤褐5YR5/6	0.2〜3㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1287	147		弥生 壺	12.6	−	−	横なで・板なで・丹塗り	横なで・板なで	普通	赤褐5YR4/8 橙7.5YR6/6	0.2〜1㎜の砂粒を含む 石英含む	口径1/8	
1288	147	108	弥生 壺	−	−	−	櫛描沈線文・波状文	指なで	普通	明赤褐5YR5/6	0.1〜3㎜の砂粒を含む 石英・長石含む	破片	